人間と道徳

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間と道徳
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0001001 A0001005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間，生命，主体的に生き生きとたくましく生きる，道徳心
授業のねらい・概要	DVDの視聴や様々な社会的・道徳的資料を通して，「人間としての生き方・あり方」について考える授業である。また，これまでの自分の生き方・あり方を振り返り，将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲が高まることを期待する。
学生の達成目標	1. 大学生活への意欲を高め,自分の社会的な目標に向かって,自分の考えを持つことができる。 2. 相手の考え方に耳を傾け,自分の考えを深めことができる。 3. 新聞や社会事象に関心を持ち,グループで話し合い,さらなる飛躍・向上を目指す。
授業内容	第1回　オリエンテーション 「現在の自分とこれからの自分の生き方」について作文を書き,グループで聴き合い活動をする。（目標１） 第2回　道徳の教材を活用し,人間の生き方について,グループで聴き合い活動をする。(目標２)

	第3回	DVDを視聴し,人間の生き方について,グループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第4回	DVDを視聴し,人間の生き方について,グループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第5回	道徳の教材を活用し,人間の生き方について,グループで聴き合い活動をする。(目標3)
	第6回	「自分の幸せ」について考え、グループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第7回	価値観の違いと聴き合い活動について考えを深める。 ジョハリの窓について理解する。
	第8回	「自分の長所と短所」を見つめ,グループで聴き合い活動しながらお互いのよさの認め合いをする。(目標２)
	第9回	「自信」について考え、自信を持つためにはどんな要素が必要であるか聴き合い活動をする。(目標２)
	第10回	社会事象に関する新聞記事を読み,意見文を書き,グループで聴き合い活動をする。(目標3)
	第11回	道徳性に関する資料を読み,グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標3)
	第12回	規範意識について,グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標3)
	第13回	道徳性に関する資料を読み,グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標3)
	第14回	大学生活や将来に向けた「自分の生き方やあり方」について方向づける。(小論文)(目標１)
	第15回	友達の意見を聴き合い,次年度への自己の課題を方向づける。(目標１)
予習・復習の内容	予習	社会事象に関する新聞記事を読み,自分なりの考えや意見を持つこと。関心を持った記事はストックすること。「江戸しぐさ」について調べる。
	復習	他者と価値観と共有し合った後、もう一度本時のテーマについて考え、整理する。
	展開	テーマについて １自問自答する。 ２小グループで聴き合い活動をする。 ３全体シェアリング。 ４自分自身で考える。
成績評価	評価の基準	さまざまな社会事象や道徳資料を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。また、グループ内でお互いに聴き合い活動ができる。さらに、自分の考えを明確にし、小論文にまとめることができる。
	評価の方法	レポート（ 60%）　意見文（ 30%）　授業参加態度（ 10%） レポート及び小論文，振り返りカード，授業参加状況により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜資料やプリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業に出席することが大事である。 グループ協議では，自分の考えを持ち，お互いの意見を認め合い，社会的な視野を広げていくことを期待する。

哲学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS102
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	哲学
科目責任者	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0002001 A0002005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	本当の自分，愛，他者
授業のねらい・概要	ひとつのテーマをめぐる過去の哲学者の考え方を学ぶことを通して，自由に思考する哲学の営みに触れる。また，それとともに，自分と異なる考えを持つ他者への寛容さを身につける。
学生の達成目標	1. 「本当の自分」についての理解を深める。 2. 自分とは違う考えに対する関心を広げる。 3. 一つの問題について,いろいろな視点から考えるトレーニングをする。
授業内容	第1回 ガイダンス-哲学とはどのような学問か(目標1) 第2回 「本当の自分」について(目標1) 第3回 西洋哲学-西洋哲学の歴史の概説(目標1) 第4回 西洋古代の哲学(1)-ソクラテス(目標2,3) 第5回 西洋古代の哲学(2)-プラトン(目標2,3) 第6回 西洋古代の哲学(3)-アリストテレス(目標2,3) 第7回 西洋近代の哲学(1)-デカルト(目標2,3) 第8回 西洋近代の哲学(2)-カント(目標2,3) 第9回 西洋近代の哲学(3)-ヘーゲル(目標2,3) 第10回 西洋現代の哲学(1)-キルケゴール(目標2,3) 第11回 西洋現代の哲学(2)-マルクス(目標2,3) 第12回 日本の哲学(1)-日本における哲学の歴史の概説(目標1) 第13回 日本の哲学(2)-西田幾多郎(目標2,3) 第14回 日本の哲学(3)-田辺元(目標2,3) 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	哲学の学習においては議論の流れを頭にいれておくことが大切となるため，授業の前には，前回学習した哲学者の主張について，前回配布されたプリント等で確認しておく。
	復習	授業でとりあげた哲学者の説明について，賛成できる点，できない点を自分なりに考えてみる。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお評価しないので注意のこと。） 評価の方法 ：授業への参加度50%，期末試験50%
	評価の方法	授業への参加度50%，期末試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は主に哲学者の学説の解説を中心に進める。ただし，哲学的問題をより身近なものとして考えてもらうために，受講者諸君には授業中の発言や小問題の記述などの作業を行ってもらう。履修に際して特別な知識は必要ないが，哲学に対する関心がないと退屈な内容であると思われるので，授業に対する主体的な参加を期待する。	

倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS103
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	倫理学
科目責任者	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0003001 A0003005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	善と悪，善いことの基準とは？，現代社会と倫理
授業のねらい・概要	私たちの行動を基礎づけている倫理について学んだり，現在起こっている倫理的問題の原因を考えることを通して，日々何気なく行っている善い／悪いという倫理的判断の「正しさ」を改めて考える。
学生の達成目標	1. 善いことを判断するためのさまざまな基準について学ぶ。 2. 自分がどのような倫理的基準に従っているかを考える。 3. 現代社会における倫理的問題に対する理解を深める。
授業内容	第1回　ガイダンス-倫理学とはどのような学問か(目標1) 第2回　「善いこと」と「悪いこと」について考える。(目標1) 第3回　現代倫理の基本理論(1)-社会契約論(目標1) 第4回　現代倫理の基本理論(2)-功利主義(目標1) 第5回　現代倫理の基本理論(3)-義務論(目標1)

	第6回	現代倫理の問題-環境倫理(環境問題の現状)(目標2,3)
	第7回	現代倫理の問題-環境倫理(環境問題の見方)(目標2,3)
	第8回	現代倫理の問題-環境倫理(環境倫理の3つの立場)(目標2,3)
	第9回	現代倫理の問題-ジェンダー論(男性と女性の役割の変化)(目標2,3)
	第10回	現代倫理の問題-ジェンダー論(ジェンダー問題の現状)(目標2,3)
	第11回	現代倫理の問題-ジェンダー論(現代におけるジェンダー論の課題)(目標2,3)
	第12回	現代倫理の問題-生命倫理(生命をめぐる諸問題)(目標2,3)
	第13回	現代倫理の問題-生命倫理(生命倫理の2つの立場)(目標2,3)
	第14回	現代倫理の問題-生命倫理(生命倫理の解決法)(目標2,3)
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	授業のまとまりごとに学習内容のポイントを説明しておくので，授業に出る前に，当日の授業内容のポイントをプリント等で確認しておく。
	復習	その日にテーマとなった倫理学的問題について，新聞やニュース，インターネットなどでさらに情報を集め，自分の考えを深める。
	展開	受講後も、たえず倫理的な問題を関心を持つこと。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお，私語等の素行不良が見られた場合は，評価しないので注意のこと。）
	評価の方法	発言等の授業への参加度50%，期末試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	履修に際して特別な知識は必要ないが，倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために，授業中の発言や小問題の記述などを行ってもらうので，主体的に授業に参加することを期待する。	

心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0004001 A0004005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間理解，心の特質と限界，客観的見方
授業のねらい・概要	１．心理学の各領域を幅広く紹介し，心の働きが理解できるようにする。 ２．人間の特質や限界を理解することを通じて，よりよい生き方ができるようにする。 ３．人間の心理を理解するための考え方や方法を理解し，自己や他者を客観的に見られるようにする。
学生の達成目標	1.　心理学を身近なものであると感じられる。 2.　心の様々な働きを理解する。 3.　意識的にはコントロールが困難な行動を理解する。
授業内容	第1回　心理学とは,心理学の歴史と領域。心理学の歴史や領域を学びながら,心理学・心理学研究について概観する。(目標1) 第2回　進化から見た人間。比較行動学や進化心理学に基づいて,系統発生的に見た人間の心理を理解する。(目標1) 第3回　心の生理的基礎,中枢神経系。心の土台となる生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)について知る。(目

		標1,2)
	第4回	感覚と知覚。感覚刺激の受容の仕組みや知覚がどのように形成されるのかを理解する。(目標1,2,3)
	第5回	姿勢と運動。姿勢と運動が成立する仕組みを知り,心とどのように関連しているかを理解する。(目標1,2,3)
	第6回	意識・感情。意識や感情のメカニズムを理解し,行動や認知との関連を解明する。(目標1,2,3)
	第7回	イメージの世界。イメージがどのように認知や心的状態に影響するかについて学ぶ。(目標1,2,3)
	第8回	学習。学習行動の種類やメカニズムを理解することで,望ましい学習の仕方について考える。(目標1,2,3)
	第9回	記憶。記憶の生理学的基礎や種類を理解し,日常生活に現れる記憶の不思議に迫る。(目標1,2,3)
	第10回	認知・思考。まわりの世界に対する認知がどのように形成されるか理解し,思考との関連を考える。(目標1,2,3)
	第11回	発達,発達理論。人間の発達に対する考え方を見ながら,乳幼児期から老年期までの発達を概観する。(目標1,2,3)
	第12回	社会(社会的認知,人間関係,集団力動)。社会や人間関係に対する認知のあり方や行動の傾向について学ぶ。(目標1,2,3)
	第13回	個人差と性格,性格理論。個人差がどのように形成されるのか理解し,様々な性格理論を概観し,自分の性格を客観的に見ることができるようにする。(目標1,2,3)
	第14回	自己制御(失敗,嗜癖)。いかに人間が自分の行動を制御するのかについて理解し,自己制御がうまくいかない場合の対処について考える。(目標1,2,3)
	第15回	適応と病理。日常生活に見られる適応の仕方を理解するとともに,適応障害や精神病理についての理解を深める。(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	一般的な心理学の本を読む。
	復習	重要な語句の意味を確認する。
	展開	日ごろの心の働きを意識し、自分の知りたいテーマの本を読み、さらに理解を深めていく。
成績評価	評価の基準	心理学に関して基礎的な知識が獲得されていること。心理学の知見に基づいて，身近な心理的問題が考えられること。
	評価の方法	授業への参加態度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特定のテキストは指定しない。資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	重要であると指摘した事項の復習を行うこと。 日頃，心理学に関する本を読むこと。

教育学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS105
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育学
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0005001 A0005005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間の成長・発達，学校教育，家庭教育，地域・社会教育
授業のねらい・概要	「ヒトは教育によって人になる」といわれるが，人間の成長・発達に必要不可欠なものとして教育をとらえた上で，学校教育のみに限定することなく，様々な視点から「教育」について学ぶ。 受講者は，これまで，児童・生徒・学生としての立場から「教育」を捉えてきたが，本授業をとおして，多面的に「教育」を見る目を養うとともに，「教育」への理解と関心を深めることをねらいとする。
学生の達成目標	1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理について理解する。 2. 教育を社会事象としてとらえることにより、家庭・学校・地域社会の役割・機能に関する基礎知識を習得できるようになる。 3. 日本の教育の現況と教育課題についての理解を深めるとともに,データや資料に基づいて,自らの考えをまとめることができるようになる。
授業内容	第1回　講義およびミニ課題等に関するガイダンス

	第2回	教育を考える上での基礎データを読む。(目標3)
	第3回	人間の成長・発達と教育:なぜ人間には教育が必要なのか。(目標1)
	第4回	教育の場としての「家庭」:(1)家庭教育の意義とは何か。(目標2)
	第5回	教育の場としての「家庭」:(2)子どもの社会化に果す家庭教育の役割は何か。(目標2)
	第6回	教育の場としての「学校」:(1)幼稚園の役割と機能は何か。(目標2)
	第7回	教育の場としての「学校」:(2)小・中・高等学校・特別支援学校・大学等の役割と機能は何か(目標2)
	第8回	教育の場としての「地域・社会」:(1)地域の教育力は低下しているか。(目標2)
	第9回	教育の場としての「地域・社会」:(2)学校教育と地域や社会の教育力の効果的な連携とはどのようなものか。(目標2)
	第10回	教育とジェンダー:学校教育と「隠れたカリキュラム」,役割取得と社会化とは何か。(目標2)
	第11回	保育とジェンダー:保育・子育てにおけるジェンダーバイアスとは何か。(目標２)
	第12回	社会の変化と教育政策の動向:法令の改正と学習指導要領の改訂のあゆみを振り返る。(目標3)
	第13回	現代日本の教育課題:(1)子どもを取り巻く環境及び教育の病理(不登校,いじめ,逸脱)とは何か。(目標3)
	第14回	現代日本の教育課題:(2)新しい学力観,「生きる力」に根ざした「確かな学力」の形成, PISA調査,学力向上,学校教育と著作権を学ぶ。(目標3)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	教育の諸課題をデータを用いながら整理するとともに、理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた教育に関わる基礎的内容が，正しく理解できていることを基準とする。
	評価の方法	授業への参加度＋ミニ課題（ 30%）＋定期試験（ 70%点）の成績等を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。毎回，資料を配布し，これをもとに授業をする。	
推薦図書等	書籍名	『教育学用語辞典』、2010年、
	著者名	岩内亮一他

出版社	学文社
価格	2625円
ISBN・ISSN	ISBN：978-4762020759

参考URL	文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/
備考	

文学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS106
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	文学
科目責任者	河村　真奈
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0006001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本文学　海外文学
授業のねらい・概要	日本・海外の代表的な作家・作品を学び,実際に読むことで,読書の楽しさと読書力を身につける。授業では、指定された代表作品を読み、感想や意見をまとめた上で、授業内で発表、もしくは感想文を書き、文章能力の向上も目指す。
学生の達成目標	1. 講義で取り上げる日本・海外の代表的な文学史・作家・作品についての基礎的知識を習得する。 2. 指定された作品を読み,十分に内容を理解できるようになること。 3. 指定された作品・作家に関して自分の意見をまとめられるようになること。
授業内容	第1回　講義のガイダンス（目標１） 第2回　イギリス文学①：文学史概観（目標１） 第3回　イギリス文学②：代表作品・作家について（目標２・３） 第4回　イギリス文学③：代表作品・作家について（目標２・３） 第5回　アメリカ文学①：文学史概観（目標１）

	第6回	アメリカ文学②：代表作品・作家について（目標２・３）
	第7回	アメリカ文学③：代表作品・作家について（目標２・３）
	第8回	フランス文学①：文学史概観（目標１）
	第9回	フランス文学②：代表作品・作家について（目標２・３）
	第10回	フランス文学③：代表作品・作家について（目標２・３）
	第11回	日本文学①：文学史概観（目標１）
	第12回	日本文学②：代表作品・作家について（目標２・３）
	第13回	日本文学③：代表作品・作家について（目標２・３）
	第14回	その他、主要な作品・作家について（目標２・３）
	第15回	授業全体の総括・レポートについてのガイダンス（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	指定された作品についてなるべく目を通し、作家についても調べておくこと。
	復習	講義の内容及び、自分の意見・感想・疑問点などをまとめること。
	展開	
成績評価	評価の基準	文学史の基礎知識を理解していること。 指定された作品を読み、自分の意見をまとめられていること。
	評価の方法	平常点（50%）（作品に対する簡単な感想文・コメントを授業中に課す），期末レポート（50%）を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

音楽学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GLA107
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	音楽学
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0007001 A0007005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	感性，創造力，音楽，コミュニケーション
授業のねらい・概要	豊かな感覚と情操を持った人間性を育む上で，音楽がいかに重要な役割を果たすと考えられていたかを西洋音楽史を通して考察する。 また，明治期の洋楽移入の状況や明治以来の唱歌について検討する。 音楽を媒介にして人間がよりよく生きられるように、また体と心の健やかさを保てるように、音楽の果たす役割の可能性を追及する。
学生の達成目標	1. 多くのジャンルの音楽に対して興味が広がる 2. 他の学生の発表曲に対して関心を示し,発表に対する独自の見解が持てるようになる 3. 音楽を通したコミュニケーション能力が身につく
授業内容	第1回　導入:異なるジャンルの何曲かの作品を聴き,各々の曲から受けた印象,各々の曲が与える効果についての討論(目標1,3) 第2回　神神の時代の音楽の役割(目標3) 第3回　音楽療法の起源(目標3)

	第4回	古代・中世の音楽の役割(目標3)
	第5回	キリスト教と音楽(目標1,3)
	第6回	ルネッサンス時代と音楽(目標1)
	第7回	バロック時代と音楽(目標1)
	第8回	オスペダーレ(養育院)での音楽教育(目標1,3)
	第9回	古典派の時代(目標1)
	第10回	ロマン派の時代(目標1)
	第11回	近世と音楽(目標1,3)
	第12回	明治期の洋楽移入の状況と明治以降の唱歌について(目標1,3)
	第13回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
	第14回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
	第15回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
予習・復習の内容	予習	神々の時代から現代までの音楽に関して、音楽史にそって話を進めていくので、世界史の大きな流れが頭に入っていると楽しく受講できる。
	復習	講義の中で関心が持てた曲、事柄、人物に関して、再度調べ直して興味の幅を広げる。
	展開	学生が発表する「自分の大切な曲」、授業で鑑賞する楽曲に関心を持ち、多くのジャンルの音楽に興味を広げて欲しい.
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに各自が発表を行い，自らの考えを持って選択した曲について的確に説明できる事を合格基準とする。
	評価の方法	発表内容 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	教会カンタータの成立と展開ーバロック音楽の諸相
	著者名	川端眞由美共著
	出版社	アカデミア・ミュージック
	価格	5000円
	ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ４－８７０１７－０６３－９
	書籍名	ベルカント唱法ー技法と発展の歴史
	著者名	Ｒ．チェレッティ著　川端眞由美訳
	出版社	シンフォニア
	価格	3500円

	ISBN・ISSN
参考URL	
備考	様々のジャンルの音楽に沢山触れて，音楽に関心を持ってほしい。 学生各自にとって最もリラックスできる音楽について全員の前で発表し，鑑賞・討論をするので，問題意識をもった受講を望む。

歴史学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS108
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	歴史学
科目責任者	田村　孝
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0008001 A0008005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	歴史，現代史
授業のねらい・概要	歴史を何のために学ぶのか，現代社会を理解するためにも歴史を学ぶ必要があることを理解する。
学生の達成目標	1.　歴史的な事実が我々の日常生活に大きなかかわりを持っていることを知る。 2.　国際的な諸問題に関心を持つ。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　歴史学と現代との関わりについて(目標1) 第3回　第二次世界大戦後とそれ以前の価値観の変化(目標1) 第4回　国民国家史の限界(目標2) 第5回　核時代の歴史学(目標1) 第6回　核兵器の開発とその種類(目標1)

	第7回	アメリカの核戦略体制と太平洋戦域(目標2)
	第8回	東アジアの核戦略体制(目標2)
	第9回	アジアの視点から(目標2)
	第10回	女性の視点から(目標1)
	第11回	支配と従属の視点から(目標2)
	第12回	文化と歴史(目標2)
	第13回	現代歴史学が解決しなければならないこと(目標1,2)
	第14回	文章作成「現代の私たちと歴史学」
	第15回	質問・文章訂正と添削・講評
予習・復習の内容	予習	配布するプリント類や参考図書を事前に読んでおくこと。
	復習	当日の授業内容を簡潔にまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容をどれぐらい理解しているのか，自分の文章でそれを表現できるのかを評価の基準とする。
	評価の方法	授業への出席と学期末の試験の結果で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業内容は学生の反応を見て適宜変更することがある。教室での私語，携帯電話メールの使用を禁止する。	

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	法学
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0009001 A0009005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	秩序，強制，正義
授業のねらい・概要	法の理念，目的を理解させ，法の分類，運用，失効等について詳説するとともに基本法である憲法，民事法，刑事法について概説する。
学生の達成目標	1. 法と社会のかかわりと法の特性について知る。 2. 憲法の意義とその特徴を知る。 3. 身分や財産に係るルールを知る。 4. 犯罪の構成要件等の基礎知識を理解する
授業内容	第1回 法と社会(目標1) 第2回 法の特徴・法の目的(目標1) 第3回 権利と義務(目標1) 第4回 法と裁判(目標1) 第5回 法の効力(目標1)

	第6回	日本国憲法の構成・三権分立(目標2)
	第7回	日本国憲法の基本原理(目標2)
	第8回	刑法の法益・刑罰の内容(目標4)
	第9回	罪刑法定主義(目標4)
	第10回	婚姻・離婚(目標3)
	第11回	親子・扶養・相続(目標3)
	第12回	財産法の基本原則(目標3)
	第13回	権利の主体と客体(目標3)
	第14回	行政法(目標1,2)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	「法令用語の常識」（日本評論社）,「法学の基礎」（有斐閣）などの参考書を読んで常に法律に関心をもつこと。
	復習	講義の際に,とくに重点項目として挙げた内容については,「新現代法学入門」「はじめての法学」（法律文化社）などを参考図書として読むことが理解の一助となる。
	展開	
成績評価	評価の基準	法の特質，目的を知り，講義で力点をおいた事柄について，理解できていることを評価基準とする。
	評価の方法	平常点（小テスト）30%，期末筆記試験70%
教科書	書籍名	現代法学入門
	著者名	伊藤正巳，加藤一郎編
	出版社	有斐閣
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-641-11256-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS102
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0010001,A0010002 A0010005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国家，国民，教育
授業のねらい・概要	日本国の基本法である日本国憲法の理念を理解させるとともに，憲法の仕組みと内容を体系的に学ばせる。
学生の達成目標	1.　日本国憲法成立の背景を知る。 2.　日本国憲法の構成,内容を知る。 3.　日本国憲法の内容に係る問題点に関心をもつ。
授業内容	第1回　憲法の概念(目標1,3) 第2回　憲法の分類と特質(目標1,2) 第3回　日本国憲法の構成(目標2) 第4回　日本国憲法の基本原理(1)基本原理の理念と意味(目標2,3) 第5回　日本国憲法の基本原理(2)国民主権の背景と内容(目標2,3) 第6回　日本国憲法の基本原理(3)平和主義の背景と内容(目標2,3)

	第7回	日本国憲法の基本原理(4)基本的人権の尊重の背景と内容(目標2,3)
	第8回	国会と立法(目標2)
	第9回	内閣と行政(目標2)
	第10回	裁判所と司法(目標2)
	第11回	財政の基本原則(目標2)
	第12回	地方自治体(目標2)
	第13回	憲法改正(目標3)
	第14回	主な憲法裁判(目標3)
	第15回	まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	参考図書として「法律用語辞典」や「新法律学辞典」（有斐閣）などを読んで法律用語の意味を理解するよう努めること。
	復習	憲法のうち，とくに重点項目とされる「三原則」については講義の内容の要旨をまとめておくとともに，これに係る事件に関する判例（「どうなっている日本国憲法」（法律文化社），「判例憲法」（有斐閣））の図書を読むことによって理解が深まる。
	展開	
成績評価	評価の基準	憲法の意義や基本的な内容についての理解力があることを評価基準とする。
	評価の方法	平常点（小テスト）30%，期末筆記試験70%
教科書	書籍名	憲法要論
	著者名	
	出版社	敬文堂
	価格	2,500円
	ISBN・ISSN	4-7670-0110-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	参考資料：レジュメ（第１回講義日に配布する）	

政治学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS103
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	政治学
科目責任者	齊藤　貴弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0011001 A0011005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	民主政　共同体　宗教と政治
授業のねらい・概要	民主政の起源である古代ギリシアの社会と比較しながら，今日の民主政（民主主義）社会の意義と問題を確認し考える。
学生の達成目標	1. 政治制度が単なるシステムではなく,歴史・文化的要素と結びついたものであることを理解する。 2. 古代ギリシアにおける民主政の起源と発展の実態の概略を理解する。 3. 今日の(民主政)社会の抱える諸問題を概観し,問題意識を持つ。
授業内容	第1回　イントロダクション-民主政と現代,その諸問題(目標1) 第2回　古代ギリシアの政治と社会の概観(目標2) 第3回　各論「自由」(目標2,3) 第4回　各論「戦争」(目標2,3) 第5回　各論「国家と民族」(目標2,3)

	第6回	各論「女性・ジェンダー」(目標2,3)
	第7回	各論「教育」(目標2,3)
	第8回	各論「帝国とグローバリズム」(目標2,3)
	第9回	各論「プロパガンダとイデオロギー・宗教」(目標2,3)
	第10回	各論「税と手当,公共奉仕」(目標2,3)
	第11回	各論「裁判,陪審制」(目標2,3)
	第12回	各論「死刑」(目標2,3)
	第13回	まとめ(目標1,2,3)
	第14回	文章作成-講義内容の理解と問題意識の文章表現(目標1,2,3)
	第15回	講評・おさらい(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎日の生活の中で，新聞やテレビなどから積極的に時事問題に関心を持つことを心がけ，単なる情報収集でなく，疑問など考えるようにする。
	復習	講義の内容をよく理解しておくこと。各回ごとの内容を簡単に文章でまとめるようにし，かつ，講義を踏まえての感想や疑問点を書き留めておくとよい。（こうした問題意識を踏まえて，予習に臨むようにする。）
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容が理解できているか，そして，それを踏まえ現代社会の一員として問題意識をもって自らの言葉（文章）で表現することができるか，以上を評価の基準とする。
	評価の方法	授業への参加度30%，レポート（文章作成）70%。以上の総合評価で行う。但し，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。また，極度に授業参加度の低い者は評価対象外とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※「授業の内容」の各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書を行う。適時，資料プリントを配付予定。	

経済学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS104
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	経済学
科目責任者	小柏　喜久夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0012001 A0012005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	価格，市場，リスク，情報，インセンティブ
授業のねらい・概要	企業および産業の現場で起こる事象を経済学のロジックにしたがって分析し理解する。
学生の達成目標	1. 経済学の基礎概念を理解し,経済学の考え方を習得する。 2. ビジネスの世界で現実に起きている諸問題を,経済学の手法を使って考察する力を養う。
授業内容	第1回　ガイダンス:経済学とは(目標1) 第2回　経済学の考え方(目標1) 第3回　ビジネス・エコノミクスの世界(目標1) 第4回　価格戦略(目標1,2) 第5回　価格から見えるビジネスの構造(目標2) 第6回　市場メカニズム(目標1)

	第7回	エイジェンシー理論(目標1,2)
	第8回	「ゲーム」としてのビジネス(目標1,2)
	第9回	競争戦略(目標2)
	第10回	技術革新(目標2)
	第11回	新事業の創造(目標2)
	第12回	事業再構築(目標2)
	第13回	M&A(目標2)
	第14回	国境を越えるビジネス活動(目標2)
	第15回	変わり続けるビジネス環境(目標1)
予習・復習の内容	予習	現実の経済問題に関心をもち，ニュース等でわからない点について質問の準備をすること。 授業の内容に示される課題，キーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 リアクション・ペーパーに示されたコメントについて確認し，理解を深めること。
	展開	
成績評価	評価の基準	経済学の基礎概念を理解していること，経済学の考え方を習得していること，現実の諸問題を経済学の手法をもって解読できること，を合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験60%と平常点（レポート・小テスト）40%による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS105
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会学
科目責任者	石川　千穂
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0013001 A0013005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	格差，情報化，若者，個人，メディア
授業のねらい・概要	現代社会を社会学がどのようにまなざしているのかを学ぶことで，社会学的視点を身につける。
学生の達成目標	1. 現代社会に対して展開される様々な社会学の言説に触れる。 2. 社会学的思考の特異性を認識する。 3. 以上を通して社会,そして社会学を知ることの意義を認識する。
授業内容	第1回 講義ガイダンス,社会学的思考についての概要Ⅰ(目標2) 第2回 社会学的思考についての概要Ⅱ:個と社会(目標2) 第3回 格差社会論をめぐってⅠ:「格差社会」とは①(目標1) 第4回 格差社会論をめぐってⅡ: 「下流社会」と若者(目標1) 第5回 格差社会論をめぐってⅢ: 日本社会の階層史(目標1,2) 第6回 格差社会論をめぐってⅣ: 格差社会論の正体(目標2,3)

	第7回	情報化社会論をめぐってⅠ:「情報化社会」とは(目標1)
	第8回	情報化社会論をめぐってⅡ:マクルーハンのメディア論(目標1)
	第9回	情報化社会論をめぐってⅢ:技術と社会(目標2)
	第10回	情報化社会論をめぐってⅣ:近代産業社会と情報化社会(目標2,3)
	第11回	「若者」をめぐってⅠ:問題化される「若者」(目標1)
	第12回	「若者」をめぐってⅡ:若者論の系譜(目標1)
	第13回	「若者」をめぐってⅢ:現代社会と「若者」(目標3)
	第14回	ディスカッション or 映像視聴
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	講義テーマを毎回事前に確認しておくこと。講義テーマについて，自分の知っていること・関心・疑問を言葉にしておくこと。
	復習	毎回の授業内容をノートを見ながら確認し，疑問点や不明な点を言葉にしておくこと。授業内で提示する問いに対して，自分の言葉で答えられるようにしておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	１．授業で説明した社会学的思考を理解しているか。 ２．社会学という学問の特異性と魅力あるいは問題点を自分なりに見出し論じられるか。
	評価の方法	期末レポート70%，授業への参加度30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ISBN：4-480-06227-0	

物理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSN102
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	物理学
科目責任者	貫井　正納
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0014001 A0014005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身の回りの現象，波、力，電気，磁石，熱，実験，観察，記録，推論，問題解決
授業のねらい・概要	身の回りで起こる物理的な現象を取り上げ，それらの現象には一定のきまりがあることに気づく。そしてそれらの現象に対し、子ども達の素直な疑問に応えられる柔軟な考え方を身につける。 観察や実験を多く行い実証的に考える習慣を育成する。 また現在の高度の科学技術についてその利便性とともに弊害について考える。
学生の達成目標	1. 中学校理科の物理分野における自然の事物,現象についての基礎的な知識の確実に習得をする。 2. 子ども達が自然のすばらしさや巧妙さに気づくように指導できる幅広い知識の獲得。 3. 簡単な道具や材料を使い便利な道具や使用している道具の改良ができる技能を習得する。 4. 科学の発達の歴史を振り返り,これからの科学,科学技術と社会生活のあり方を考える。 5. 問題解決の方法の習得,論理的な思考能力の育成を図る。

授業内容	第1回	なぜ物理学を学ばなければならないのか。（目標1,2,3,4,5）
	第2回	自然科学における観察、実験の必要性や重要性について考える。（目標1,2,3,4,5）
	第3回	物体の測定と有効数字及び実験レポートの書き方。(目標1,2,5)
	第4回	波の働き1:波の現象は情報伝達の重要な機能である。（目標1,2,3,4,5）
	第5回	波の働き２:波にはどのような働きがあるか（目標1,2,3,4,5）
	第6回	波の働き３：波としての光の働き(目標1,2,3,4.5)
	第7回	波の働き４:音を作ろう(目標1,2,3,4,5)
	第8回	力の話(目標1,2,3,4,5)
	第9回	重い物を持ち上げる;てことてんびん モーメント(目標1,2,3,4,5)
	第10回	エネルギーとは何か:熱のふるまい(目標1,2,3,4,5)エネルギーは保存される(目標1,2,3,4,5)
	第11回	電流の本質:流れる電気と静電気(目標1,2,3,4,5)
	第12回	電流の流れ方と抵抗(目標1,2,3,4,5)
	第13回	磁石の不思議(目標1,2,3,4,5)
	第14回	電気と磁石の秘密(目標1,2,3,4,5)
	第15回	日常の物理現象に気をつけよう(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	中学校の教科書を開き物理学に関する内容を今一度よく読んで、その内容を理解しておく。 物理学に関わる用語について新聞、テレビ、ネットなどから積極的に収集しておく。 物理学の発展に寄与した科学者の業績や科学史についてしらべてみる。 寺田寅彦の全集が図書館にある。必読の書である。 科学と技術および社会に与える影響について広く考えるようにする。
	復習	授業内容について､日常生活での利用の実態を考える。 物理学は非常に論理的に物事の解決が可能である。実際に試行してみる事を勧める。 物理学の表現は数式を使うことが多い。数式を使うことは暗記物ではない。必ず理屈がついている。ただ当てはめて計算するだけでなく、その理由をよく考えてするように。
	展開	簡単な実験を行い､なぜそのような現象が見られるのかを説明および学生との討議を基に授業を展開する。 簡単な器具や自作の道具を使い実験を行い、証拠に基づいた判断をするように指導する。 簡単な観察や実験でも自然の仕組みを解明することが可能であることに気づき、実験の楽しさを実感する。
成績評価	評価の基準	１．授業で説明した自然科学の基礎的な内容を日常生活の中で利用できる。 ２．物理学が自然科学のの中で基礎的な内容構成をしていることに興味を持っている。

	３．観察、実験が自然を探究していく大きな役割を持っていることを実践で示すことができる。 ４．観察、実験の安全指導を理解し適切な行動がとれる。 評価の方法　　実験レポート，期末試験 70%，授業への参加度 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 自作のプリントを配布する。参考書はその都度紹介する。 学習指導要領解説　理科編　平成 20年発行
推薦図書等	
参考URL	
備考	・科学の発達の歴史を振り返り，これからの社会のあり方を考える。 ・観察，実験は随時行う。実験用のノート，プリント用のファイルを用意する。

自然科学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	自然科学入門
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 角　友起
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0039001 A0039005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生物学，化学，物理学
授業のねらい・概要	一般教養科目として自然科学の概念をを身につける。 本学の学生は将来人に接する職に従事するため，豊かな人間性や倫理性に加え，人間やそれを取り巻く環境を科学的に理解・分析する能力が必要となってくる。 これらの能力を身につけるため，本講義では，高校の物理・化学・生物の基礎的知識を確認したのち，それらの知識が人間やそれを取り巻く環境を理解する上でどのように役立つかを学ぶ。
学生の達成目標	1.　人体や環境を理解するための生物学的概念を説明できる。 2.　人体や環境を理解するための化学的概念を説明できる。 3.　人体や環境を理解するための物理学的概念を説明できる。
授業内容	第1回　「自然科学序論」-自然科学を学ぶ目的および学問としての自然科学を理解する 「単位と数」-自然科学を理解する上での単位の使われ方を理解す

る(目標1,2,3)

担当教員:

第2回　「生命の基本単位」-生命の基本単位である細胞の構造を理解する(目標1)

担当教員:

第3回　「3大栄養素」-生命を維持する栄養素,特に糖質,タンパク質,脂質の構造・性質を理解する(目標1)

担当教員:

第4回　「代謝とエネルギー」-生命を維持するエネルギー源を理解する。-(目標1)

担当教員:

第5回　「遺伝」-親から子へ伝えられる形質について理解する(目標1)

担当教員:

第6回　「物質の構成」-物質を構成する原子や分子について理解する(目標2)

担当教員:

第7回　「溶液」-人体を構成する細胞内液や外液が化学的溶液であることを理解する(目標2)

担当教員:

第8回　「pH」-pHの概念と人体における pH調節の重要性について理解する(目標1,2)

担当教員:

第9回　「圧力」-人体の受けている圧力や人体が作る圧力を理解する(目標1,3)

担当教員:

第10回　「気体の溶解」-細胞が生きて行くために必要な酸素がどのように溶けているのかを理解する(目標1,2,3)

担当教員:

第11回　「速度・加速度」-直線運動の基本的概念を理解する(目標3)

担当教員:

第12回　「力と運動(1)」-運動方程式,つりあい,回転運動についてを理解する-(目標3)

担当教員:

第13回　「力と運動(2)」-仕事,エネルギーについて理解する。(目標3)

担当教員:

第14回　「波動」-聴覚や視覚の源となる光や音の物理的性質を理解する(目標3)

		担当教員:
	第15回	「電気」-電気の基本的概念を理解する(目標3)
		担当教員:

予習・復習の内容	予習	高校レベルの内容なので、高校の教科書・参考書を読んでおくこと。
	復習	授業では例題等が出題されるので、同様な問題が解けるようしておくこと。
	展開	専門科目を理解する上で必要な知識であることを意識する。

成績評価	評価の基準	講義内容に関する生物，化学，物理の基本的概念を理解できていること。
	評価の方法	定期試験 50%，小テスト 30%，授業への参加度 20%とし，総合評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント等の資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS103
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	化学
科目責任者	山﨑　忠義
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0015001 A0015005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	化学の基本概念，化学の基礎的な原理・法則，物質の性質と反応性
授業のねらい・概要	専門分野の学習で必要と思われる化学の基本概念や原理・法則，物質の性質・反応性などについて，実験を通して理解できるよう配慮し，身近な現象や物質と関連付けながら学習する。
学生の達成目標	1. 化学の基本概念を理解する。 2. 化学の基礎的な原理・法則を理解する。 3. 物質の性質や反応性を化学実験を通して理解し,専門科目の学習への基礎を身につける。
授業内容	第1回　導入,原子・分子・イオン(原子構造,電子配置,周期表,化学結合等)(目標1) 第2回　物質量と化学反応式(原子量,分子量,物質量等)(目標1) 第3回　物質量と化学反応式(化学変化と量的関係等)(目標2,3) 第4回　溶液の性質(溶解度,濃度,希薄溶液の性質等)(目標1,2)

	第5回	酸・塩基・塩(電離,[H+]とpH,中和反応と塩等)(目標1,2)
	第6回	酸・塩基・塩(中和の量的関係,中和滴定とpHの変化等)(目標2,3)
	第7回	酸化・還元反応(酸化と還元,酸化剤と還元剤等)(目標1, 2)
	第8回	酸化・還元反応(酸化剤・還元剤の強さ,金属のイオン化傾向と反応性等)(目標3)
	第9回	電池(各種電池の原理と仕組み等)(目標2,3)
	第10回	電気分解(水溶液の電気分解と量的関係等)(目標2, 3)
	第11回	有機化合物の特徴と分類(構造と分類,炭化水素等)(目標1, 2)
	第12回	酸素を含む脂肪族化合物等(アルコール,アルデヒド,カルボン酸とエステル)(目標3)
	第13回	油脂と石鹸,芳香族炭化水素等(目標3)
	第14回	酸素や窒素を含む芳香族化合物等(目標3)
	第15回	糖類,タンパク質等とまとめ(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	講義用プリント・教科書を読み，その内容を理解するよう努める。演習問題も自力で解いてみる。問題意識を持って，講義に臨む。
	復習	講義で理解できなかった所を調べたりし，学習した内容を確実に身に付けるよう、何度も読み直し，関連する問題を解く、実験レポートを作成する等）
	展開	新聞等で化学に関する記事に関心を持ち、その化学的現象や物質の性質、反応性等を専門書等で調べ、理解を一層深める。
成績評価	評価の基準	講義内容が理解できていること。受講態度や出席状況，課題や実験レポートの提出等。
	評価の方法	平常点（受講態度，課題や実験レポート等）20%，小テスト20%，期末の筆記試験60%の成績を総合する。この比率は若干変更することもあり得る。
教科書	書籍名	高等学校　新編　化学Ⅰ
	著者名	
	出版社	啓林館
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-402-027186
推薦図書等		

参考URL	
備考	中学・高校の教科書の化学の内容を読んでおく。講義・実験用プリント等を綴じるA4版ファイルを用意するとよい。

生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNA104
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	生物学
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0016001 A0016005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	細胞，タンパク質，ATP，DNA，多様性，進化，科学的リテラシー
授業のねらい・概要	１．現代生物学の基礎となる細胞の構造等の内容から始り，先端の生物学との関連に気づかせる。 ２．生物の多様性の中から法則を導き，法則に基づきながら多様性を見いださせる。 ３．実験・観察を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。 ４．命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て，生命を尊重する精神を養う。
学生の達成目標	1.　生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。 2.　生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について,多様な側面から考えることが出来る。 3.　日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解する。 4.　生物の学習は単なる用語の暗記ではなく,生命現象を総合的に理解するものであることを理解できる。
授業内容	第1回　生物の起源(目標1,2,3,4)

	第2回	生物の系統と系統樹(目標1,2,3,4)
	第3回	生体物質と細胞(目標1,2,3,4)
	第4回	生命現象を支えるタンパク質(目標1,2,3,4)
	第5回	代謝とエネルギー(目標1,2,3,4)
	第6回	遺伝情報の発現(目標1,2,3,4)
	第7回	遺伝子の発現調節(目標1,2,3,4)
	第8回	生物の生殖と配偶子の形成(目標1,2,3,4)
	第9回	動物の発生(目標1,2,3,4)
	第10回	動物発生のしくみ(目標1,2,3,4)
	第11回	脳はどこまでわかったか(目標1,2,3,4)
	第12回	食と健康(目標1,2,3,4)
	第13回	感染と免疫(目標1,2,3,4)
	第14回	生命倫理(目標1,2,3,4)
	第15回	多様な生物との共生(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	予定している部分について教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。
	復習	ノートを見返しながら，学習内容を確認する。また，課題やレポートが課される場合もある。どちらの場合もなるべく授業実施日中に行い，学習内容の定着を図る。
	展開	生き物や生命現象についての基本的な知識を習得すると共に、日常生活との関連について気づくことができる。
成績評価	評価の基準	現代社会でより良く生きて行くためには，日常生活の様々な場面で生命科学に関する知識や情報を正しく理解し判断する「科学的リテラシー」が必要とされる。そこで，①生命科学の基礎的知識，②人間を中心とした側面からの理解，③社会との関わりからの理解が十分であるかを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（70%），平常点（10%），レポート等（20%）の総合評価とする。
教科書	書籍名	東京大学生命科学教科書編集委員会編　文系のための生命科学
	著者名	
	出版社	羊土社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		

参考URL	
備考	生物学に基礎について，日常生活との関係から理解し，それに基づいて判断できるような資質を獲得してもらいたいと思います。また，関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり，自分なりの生命観を持てるようになってもらいたいと思います。

統計学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS105
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	統計学
科目責任者	白石　靖
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0017001 A0017005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	データの処理，確率分布，統計的推測
授業のねらい・概要	記述統計・確率論・推測統計の基礎を理解させる。医療や教育現場の事象考察に際し，実験や観察，調査によって得られたデータを統計的に処理する手法と確率論的に解読する態度を身につける。
学生の達成目標	1. 標本抽出の手法を理解する。 2. 標本の整理手法を知る。 3. データ(標本)から種々の統計量の算出方法を理解する。 4. 代表的な確率分布を理解する。 5. 推定・検定の原理を知り,具体的手法を理解する。
授業内容	第1回　1変量のデータ1・・・・・・・ 度数分布表(目標1,2) 第2回　1変量のデータ2・・・・・・・ ヒストグラム(目標1,2) 第3回　1変量のデータ3・・・・・・・ 平均(目標1,3)

	第4回	1変量のデータ4・・・・・・・ 分散・標準偏差(目標1,3)
	第5回	2変量のデータ・・・・・・・・ 散布図・相関係数(目標1,3)
	第6回	演習(その-1,データの整理)(目標2,3)
	第7回	確率分布1・・・・・・・・・ 確率変数・確率密度関数(目標1,4)
	第8回	確率分布2・・・・・・・・・ 正規分布(目標1,4)
	第9回	確率分布3・・・・・・・・・ 2項分布(目標1,4)
	第10回	統計的推定1・・・・・・・・ 母平均の区間推定(目標1,4,5)
	第11回	統計的推定2・・・・・・・・ 母比率の区間推定(目標1,4,5)
	第12回	統計的検定1・・・・・・・・ 検定の3つの手順 (目標1,4,5)
	第13回	統計的検定2・・・・・・・・ 母平均・母比率の検定(目標1,4,5)
	第14回	演習(その-2,推定・検定)(目標4,5)
	第15回	まとめ・・・・・・・・・・ 近代統計学とは,その研究方法の概略(目標1,4,5)
予習・復習の内容	予習	日常の報道や書籍で接する数値や内容につき，統計的側面からの解釈に関心を持つこと。 授業の内容に示しているキーワードにつき，教科書での予習と，関連する高校数学の内容につき，確認すること。
	復習	毎時の授業要旨を各自ノートで整理すること。課題レポートの処理・提出で，既習内容を再確認すること。
	展開	新聞・テレビ等の報道で，統計的な数値処理や表現内容につき，統計的に正しく解釈する知識を深める。
成績評価	評価の基準	データを統計的に処理する手法とその原理を理解すること。
	評価の方法	平常点30%，レポート20%，期末試験50%を目安として，総合的に評価する。
教科書	書籍名	入門はじめての統計解析
	著者名	石村貞夫著
	出版社	東京図書
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-489-00746-0
推薦図書等		
参考URL		
備考	対数，順列・組合せ，確率，定積分等の各領域に関わる高校数学の基礎理解が望まれる。	

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0018001 A0018005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己理解，他者理解，よい人間関係，性格と感情
授業のねらい・概要	１．よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。 ２．人間関係の重要さについて理解し，人間関係を大切にできるような心構えをつくる。 ３．様々な組織における人間関係を理解し，各組織の活動にかなった人間関係を築けるようにする。 ４．人間関係のトラブルについて学び，解決能力を養成する。
学生の達成目標	1. 様々な人間関係のあり方について理解する。 2. 自分自身の人間関係の持ち方について理解する。 3. 様々な組織における人間関係の特徴を理解する。 4. 自分と他者を生かす人間関係の築き方について理解する。 5. 人間関係で予想されるトラブルを理解し,解決法を身につける。
授業内容	第1回　自己を理解する。自己概念とは。自己のとらえ方を学び,自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。(目標1,2)

	第2回	性格と自己理解。性格の違いによって,自己の理解がどう変化するかを見る。(目標2)
	第3回	自尊心と自己防衛。健全な自己形成や人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割を理解する。(目標2,4)
	第4回	自己開示の心理。自己開示の意味を考え,心の健康にとってよりよい自己開示の仕方を考える。(目標2,4)
	第5回	対人認知,印象と理性的判断,対人認知の歪み。人の行動の理解の仕方を学び,対人認知の歪みの危険性について理解する。(目標2,4)
	第6回	対人感情 好き嫌いの心理。人に対する好き嫌いの感情がどのように形成されるのかについて学び,妥当な評価とは何かについて理解する。(目標1,2,4)
	第7回	対人行動,異性とのつきあい。異性との関係において起こる特徴的な心理や行動を理解し,健全な関係について考える。(目標1,2,4,5)
	第8回	学校における人間関係。生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴について理解し,学校における望ましい人間関係について考える。(目標3,4)
	第9回	家族における人間関係。家族や地域社会における人間関係の特徴について理解し,よりよい家族や地域のあり方について考える。(目標3,4)
	第10回	職場における人間関係。会社などの職場での人間関係の特徴について理解する。(目標3,4)
	第11回	共感と社会的結合。人間関係における共感や思いやりの重要性について学ぶ。(目標1,4,5)
	第12回	援助行動。援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理について理解し,よりよい援助のあり方について考える。(目標1,2,3,4,5)
	第13回	感情のコントロールと人間関係 対人関係のトラブル。人間関係でのトラブルが起きる要因について理解し,トラブルの克服の仕方について考える。(目標2,4,5)
	第14回	人間関係を円滑にする方法。悪化した人間関係を分析し,人間関係を円滑にする要因について考える。説得の技術を学ぶ。(目標4,5)
	第15回	難しい人とのつきあい方。性格の偏りや人格障害について理解し,非社会的行動や反社会的行動への対処方法を考える。(目標2,5)
予習・復習の内容	予習	社会心理学の本を読む。自分の人間関係を思い浮かべて、学びたい点を明らかにする。
	復習	学んだ内容を日ごろに生かせるように考える。
	展開	学んだことと実際の自分の人間関係を比較しながら、さらに学びたいことについて本を探して読み、理解を深める。
成績評価	評価の基準	人間関係に関する考え方を獲得していること。 様々な人間関係を理解し，トラブルを解決するための見通しを持てること。
	評価の方法	授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特定のテキストは指定しない。資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は復習すること。

国際関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS107
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	国際関係論
科目責任者	齊藤　貴弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0019001 A0019005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	グローバリゼーション、グローバリズム、食、身体、環境
授業のねらい・概要	私たちが毎日、口にする様々な食べ物を通して、世界との関わり、グローバルな国際社会・経済のあり方、問題、これからを考える。
学生の達成目標	1. グローバリゼーションへの歴史的背景と現在の国際社会・経済の構造の基本を理解する。 2. 私たちの日常の身近な食品に潜む様々な問題から自分の生活と身体との関わりの深さを再認識する。 3. 食品や資源が様々な形でグローバル経済に巻き込まれ環境破壊など多様な問題をもつことを理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション―食と文明、グローバル世界と私たちの食卓（目標1,2） 第2回　前近代から近代国家へ（目標1） 第3回　EU（ヨーロッパ連合）とグローバリゼーション（目標1） 第4回　TPPをめぐる諸問題（目標1,2,3）

	第5回	各論：ファストフード（目標2,3）
	第6回	各論：肉（目標2,3）
	第7回	各論：農作物（目標2,3）
	第8回	各論：コーヒー・チョコレート・フェアトレード（目標2,3）
	第9回	各論：漁業・捕鯨（目標2,3）
	第10回	各論：水（目標2,3）
	第11回	各論：フードビジネスと消費者（目標2,3）
	第12回	各論：ゴミ―飢餓と肥満（目標2,3）
	第13回	まとめ（目標1,2,3）
	第14回	文章作成―講義内容の理解と問題意識の文章表現（目標1,2,3）
	第15回	講評・おさらい（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	毎日、何かを食べる時、飲むとき、それが、どうやってできているのか？どこから来てているのか？どうして、この値段なのか？材料・成分に何が含まれているのか？考えていく習慣を身につける。TPP交渉など、食品輸出入にも関わる時事問題に関して、意識的に情報収集をしておく。
	復習	一朝一夕で答えや正解の出る問題ではないから、各回で得た知識と提示された問題の基本的要点を忘れないようにして、「考えるための食糧」food for thoughtとしていくように心掛ける。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容が理解できているか、そして、それを踏まえ現代社会の一員として問題意識をもって自らの言葉（文章）で理解と考えを表現することができるか、以上を評価の基準とする。
	評価の方法	授業への参加度３０％、レポート７０％。以上の総合評価で行う。但し、この比率は最終的に若干変更する可能性がある。また、授業参加度の低い者は評価対象外とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 各回の構成など授業の内容については、進行状況に応じて適宜変更することがある。 講義形式で板書を行う。適時、資料プリントを配付予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。	

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	野澤　和弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児者とのコミュニケーション　発達障害　権利擁護　虐待　行動障害　アート 童話　社会保障
授業のねらい・概要	現実の社会をリアルに知る、実践的な障害理解と支援スキルを身に着ける、学ぶこと の楽しさを知る
学生の達成目標	1.　発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにか を知る。 2.　どうやって言葉にならない彼らの思いを受け止められるかを知る。 3.　虐待の実態を知り,なぜ虐待が起きるのかを知る。 4.　アートなどに見る障害児者の魅力も知る。 5.　障害児の家族の思い,社会の構造を知る。
授業内容	第1回　ドラマや映画に登場する障害者(目標1) 第2回　福祉と社会の変遷と障害者虐待～現実から学ぶ（目標３） 第3回　障害のある子や人の思いをどうやって受け止められるのか(目標2)

	第4回	発達障害とコミュニケーション（目標１）
	第5回	なぜ人は虐待するのか～虐待の構造(目標3)
	第6回	行動障害とは何か～原因と対処法（目標３）
	第7回	社会と障害者～働くこと、芸術活動など（目標１）
	第8回	アール・ブリュット～世界で注目される日本の障害者アート（目標４）
	第9回	障害者のための新聞「ステージ」(目標1)
	第10回	わかりやすさとは何か（目標１）
	第11回	童話を作ってみる（目標４）
	第12回	障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標5)
	第13回	障害者差別をなくすための千葉県条例～差別の本質(目標5)
	第14回	マスメディア論(目標5)
	第15回	総括(目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	障害のある子や人のコミュニケーション特性，虐待の構造，権利擁護の基本知識と姿勢が理解できているかどうか。
	評価の方法	試験３0%，レポート４0%，授業への参加度30%，など.
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	条例のある街
	著者名	
	出版社	ぶどう社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	なぜ人は虐待するのか
	著者名	
	出版社	Ｓプランニング
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	授業中の私語（おしゃべり）など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は取らないで。

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	佐藤　将朗
担当教員	井口　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	バーバルコミュニケーション，　ノンバーバルコミュニケーション, 対人関係, 対人支援, 心の支援
授業のねらい・概要	本講義ではコミュニケーションの概念・理論を学習することから始め、様々な対人場面での望ましいコミュニケーションについて理解を深めていきます。全授業時数の前半はコミュニケーション論についての総論を学び、後半は各論を学ぶものとします。これにより受講生が将来的には医療の場で効果的，かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるような学びとなることを目指します。
学生の達成目標	1. コミュニケーション論の概念，理論を理解する。 2. コミュニケーションの概念・理論をもとに実践方法を理解する。 3. 演習を通して，コミュニケーションの概念，理論をフィードバックできる。 4. 対人関係を通して，自己のコミュニケーションについて考えることができる。 5. 様々な対人支援場面に応じたコミュニケーションについて考えることができる。

授業内容	第1回	「ガイダンス」―ALSの方の自費製作映画―（目標１）
	第2回	「コミュニケーションを学ぶ意義」―コミュニケーションの概念・理論, ヘルスケアにおける効果的なコミュニケーション ―（目標１，２）
	第3回	「言語的コミュニケーション」―言語コミュニケーションの目的, 言語コミュニケーションに関係する要因― （目標１，２，３）
	第4回	「非言語的コミュニケーション」―非言語コミュニケーションの目的, 非言語コミュニケーションに関係する要因―（目標１，２，３）
	第5回	「言語的情報を与えることの演習」―グループワーク, 話す内容の吟味, 話し方の技法―
	第6回	「相手の気持ちに立って話をする力」―受容・共感, 傾聴の技術, 信頼関係の形成―（目標１，２，３，４）
	第7回	「中間のまとめ」―コミュニケーション論の総論の確認―（目標１，２，３，４）
	第8回	「家庭におけるコミュニケーション」―家族内の地位・役割, 家族間のコミュニケーション, ２１世紀型の家族―（目標４，５）
	第9回	「学校におけるコミュニケーション」― 児童・生徒・学生と教員とのコミュニケーション, 仲間とのコミュニケーション, 学校と家庭とのコミュニケーション―（目標４，５）
	第10回	「企業・会社におけるコミュニケーション」―日本社会と職場環境の変遷, 職場における役割・階層別のコミュニケーション, 報告・連絡・相談のやりかた―
	第11回	「医療と福祉におけるコミュニケーション（１）」―医療・福祉従事者と患者様・利用者様とのコミュニケーション―（目標４，５）
	第12回	「医療と福祉におけるコミュニケーション（２）」―医療・福祉従事者間のコミュニケーション―（目標４，５）
	第13回	「コミュニケーションと心の支援（１）」―病態水準論とコミュニケーション―（目標４，５）
	第14回	「コミュニケーションと心の支援（２）」―防衛機制, 転移・逆転移, 自己覚知・内省―（目標４，５）
	第15回	まとめ―コミュニケーション論の各論の確認―（目標１，２，３，４，５）
予習・復習の内容	予習	日常生活において，自らのコミュニケーションに関するエピソードなど考えておく。
	復習	授業での概要と，日常での体験を統合できるようにする。
	展開	コミュニケーションに関連する心理，発達など，周辺知識も活用すること。
成績評価	評価の基準	１. コミュニケーションに関して，基礎的な内容が理解できる。 ２. 授業内で実施する演習に関して，主体的に考察できること。

	評価の方法	平常点（小レポート）30%，中間のまとめ20%, 最終のまとめ40%, 授業への参加意欲・態度10%とする。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	新版入門コミュニケーション論
著者名	宮原哲
出版社	松柏社
価格	2300＋税
ISBN・ISSN	９７８－４－７７５４－０１１５－６

書籍名	コミュニケーション論序説
著者名	大橋理恵他
出版社	放送大学教育振興会
価格	
ISBN・ISSN	９７８－４－５９５－３０７１０－２

参考URL

備考

環境科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS102
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	環境科学
科目責任者	村上　正孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0021001 A0021005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	公害，地球環境問題，環境保健，環境教育
授業のねらい・概要	地球環境の悪化は人類の生存の可能性に警鐘を鳴らしている。このような将来予測の根拠は環境科学研究の知見である。先進国は悲惨な公害問題を経験・克服してきた。しかし地球規模の環境変化への対応は人類の生き方の根本的な見直しを求めている。そこで過去から現在にいたる，代表的な環境問題と解決のための対策の経過を地域レベルと地球レベルに分けて学び，われわれの生存と健康・生活に欠かせない環境資源を持続可能に利用するために，どうしたらよいか，受講生，皆で考えてもらう。
学生の達成目標	1.　環境問題は地域レベル(公害)と地球レベルで分けて整理する。 2.　環境汚染のリスクの対象は,健康,生態系,Wellbeing(自然資源,インフラ,人間活動など)に分類する。 3.　環境問題の調査・研究方法を理解する。 4.　環境問題への対策を学ぶ。 5.　環境教育の方法を習得する。
授業内容	第1回　　1環境科学の定義(目標1,2,3,4,5)

	第2回	地域レベルの環境問題(公害):例として,大気汚染-産業型公害(千葉川鉄公害)(目標2,3)
	第3回	水・土壌汚染-産業型公害(水俣病,イタイイタイ病)(目標2,3)
	第4回	大気汚染:生活型公害(自動車排気ガス,石綿,ナノ粒子)(目標2,3)
	第5回	騒音公害:飛行場,高速道路など(精神・心理的影響)(目標2,3)
	第6回	わが国における公害対策の歴史(目標4)
	第7回	地球規模の環境問題(目標1,2,3)
	第8回	温暖化ガスによる地球温暖化とその影響(目標2,3)
	第9回	地球環境問題に対する国際的取組み(目標4)
	第10回	廃棄物問題と循環型社会,スピーチ・討議方法の指導(目標1,2,3,4)
	第11回	3分間スピーチ:各受講生による環境問題にかかわるテーマについての発表(目標5)
	第12回	グループ討議(6-6式討議法):環境にかかわるテーマについて討議し発表する(目標5)
	第13回	スピーチと討議の結果をふまえて講師がコメントする(目標5)
	第14回	環境教育(目標5)
	第15回	総括(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	2012年度の授業概要をまとめた講義録を第1回目に配布するので，各回毎に予め読み，下調べしておくこと。
	復習	各回の授業終了後，その授業内容に対する意見，疑問点，批判などをまとめノートしておくこと。
	展開	10回目以降，3分間スピーチおよびグループ討議を実施する。復習のとき作成したノートにもとづき，各自，スピーチ原稿を作成する。またグループ討議のテーマはグループのメンバーが決め，実り多き討論となるよう積極的な参加が期待される。
成績評価	評価の基準	１）環境問題についての，基本的知識と対策を整理することができる。 ２）さらに自ら，環境保全のための基本的行動ができることを合格基準とする。
	評価の方法	レポート50%，授業への参加度50%
教科書	書籍名	シンプル衛生公衆衛生学
	著者名	鈴木庄亮，久道茂監修
	出版社	南江堂
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	978－4－524－25358－6

推薦図書等	書籍名	地球白書 2010-11
	著者名	クリストファー・フレイヴィン編著
	出版社	ワールドウオッチジャパン
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	ジュニア地球白書 2008-09
	著者名	
	出版社	ワールドウオッチジャパン
	価格	
	ISBN・ISSN	1882-9864
	書籍名	くらしの科学としての人間環境学
	著者名	鈴木路子編
	出版社	福村出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	環境省ホームページ（STOP　THE温暖化，日本の物質フロー，循環型社会への挑戦など）
備考	第10回以降，各受講者はスピーチを行う。さらに５人ずつグループをつくり，司会者と書記を選んで環境にかかわるテーマを決め討議し発表する。議論により環境問題への理解を深め，今後の取り組みに役立てて欲しい。参加型の授業である。文章表現演習を履修することが望ましい。

情報科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS103
開講年度	2013年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	情報科学
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0022001 A0022005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	情報科学．情報社会の歴史．人間と計算機の情報処理．情報の伝達と理解．情報の活用
授業のねらい・概要	情報科学はコンピューターを含め，言語学，心理学，社会学，物理学，数学，政治学，経済学，法律学など多くの学問が関連しあう総合的・学際的学問です。本講義では情報とは何かを理解することから始め，私たちの生活の中の情報科学にまつわる具体例を取り上げて学習していきます。これにより自身の専門の土台，また教養として情報を捉えることができ，活用できるようになることを目指します。
学生の達成目標	1. 情報科学の基本的知識を習得する。 2. 人間の心理に与える情報の影響について具体的に理解する。 3. 教育のための効果的な情報の活用について理解し,実践できるようになる。 4. 医療のための効果的な情報の活用について理解し,実践できるようになる。 5. 情報化社会を主体的に生きていくために必要な姿勢を身につける。

授業内容	第1回	「情報科学の基礎知識」-情報の種類と特性,情報科学の歴史-(目標1,5)
	第2回	「情報社会の発達」-情報伝達の発達,情報産業の発達-(目標1,5)
	第3回	「コンピューターの発達」-発明から最新事情まで-(目標1,5)
	第4回	「情報の内容と信頼性1」-観察事実と推論,観察報告にみられる歪み-(目標2,5)
	第5回	「情報の内容と信頼性2」-情報の信頼性のチェック,マスコミの内容分析-(目標2,5)
	第6回	「情報の読みやすさ」-レジビリティーとリーダビリティー-(目標2)
	第7回	「情報と人間の行動・心理1」-情報と知的好奇心,宣伝広告,投票行動-(目標2,5)
	第8回	「情報と人間の行動・心理2」-情報と人間関係,あいさつことば,日常会話-(目標2,5)
	第9回	「人間の情報処理」-情報の貯蔵システム,符号化と検索-(目標1,2)
	第10回	「コンピューターの情報処理と情報の通信」-プログラミング言語,最新の通信技術 (目標1,3,4)
	第11回	「情報の伝達」-情報伝達と集団の規模,デマ,マスコミの特性-(目標2,5)
	第12回	「情報の理解」-情報理解の型とその意義,誤解の生じる原因-(目標1,2,5)
	第13回	「情報源とその活用」-各種情報メディアの活用の実際-(目標3,4)
	第14回	「情報の収集・評価・整理」-情報収集の関心と選択,情報の評価・批判,情報の整理法(目標3,4,5)
	第15回	「まとめ」-レポート作成と今後の課題について-(目標3,4,5)

予習・復習の内容	予習	日常活用している情報機器の持つ特性やその有用性、また情報の信頼性・妥当性の視点を頭に入れておく。
	復習	授業で学んだ内容を整理できるようにしておく。
	展開	授業で学んだ内容を自身の日常生活や大学生活において積極的に活用していく。

成績評価	評価の基準	授業を通じて身につけた情報科学の基礎的知見を反映した課題の内容が優れていることを合格の基準とする。
	評価の方法	通常授業時の課題提出状況および内容（ 40%），まとめとして提出するレポートの内容（ 50%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書

書籍名	情報科学入門
著者名	佐藤泰正
出版社	学芸図書株式会社

	価格	
	ISBN・ISSN	9784761603366

推薦図書等	書籍名	情報の基礎・基本と情報活用の実践力
	著者名	内木哲也・野村泰明
	出版社	共立出版
	価格	
	ISBN・ISSN	9784320122413
	書籍名	コ・メディカルのための情報リテラシー
	著者名	佐藤健一・川上準子
	出版社	共立出版
	価格	
	ISBN・ISSN	9784320120600

参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR101
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	実技
開講時期	後期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A0023002
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ニュースポーツ，コミュニケーション・ワーク，レクリエーション・ワーク，インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーション種目やニュースポーツを通し，現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を認識し，活用できる能力を身につけてほしい。そのために，積極的な態度で授業に臨み，活動することを心がけること。レクリエーション・インストラクター資格取得のための実技科目である。
学生の達成目標	1. レクリエーション活動の意義を理解する。 2. さまざまな活動を通して,活動すること自体の喜びを実際に体験・理解する。 3. 他者への支援(指導)が出来るようにする。 4. 安全な活動と,そのための危険を回避する能力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション,アイスブレーキング①(目標1,2,4) 第2回　アイスブレーキング②(目標1,2,3,4) 第3回　チャレンジ・ザ・ゲーム(目標1,2,4)

	第4回	子どもの遊び(伝承遊びを含む)(目標1,2,4)
	第5回	ウォーク・ラリー①(目標1,2,4)
	第6回	ニュースポーツ(インディアカ)(目標1,2,4)
	第7回	ニュースポーツ(キンボール)(目標1,2,4)
	第8回	ホスピタリティ・トレーニング①(目標1,2,4)
	第9回	ホスピタリティ・トレーニング②(目標1,2,3,4)
	第10回	ニュースポーツ(ペタンク)(目標1,2,4)
	第11回	ニュースポーツ(スピードミントン)(目標1,2,4)
	第12回	ウォーク・ラリー②(目標1,2,3,4)
	第13回	ニュースポーツ(フライングディスク)(目標1,2,4)
	第14回	支援実習(振り返りを含む)①(目標1,2,3,4)
	第15回	支援実習(振り返りを含む)②(目標1,2,3,4)
	第16回	支援実習(振り返りを含む)③(目標1,2,3,4)
	第17回	支援実習(振り返りを含む)④(目標1,2,3,4)
	第18回	支援実習(振り返りを含む)⑤(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	ニュースポーツやレクリエーションゲームの具体的な種目を調べて，どの様な特徴があるか学習しておく。
	復習	実際に体験した種目をノートに取り，ルールやコツ，特徴を具体的に記入すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	試験（50～60%），提出物（20～30%），出席及び参加態度（10～20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	レクリエーション活動を行うので服装は大学指定の体操服（ジャージ上下）とする。体育館用とグランド用にそれぞれ運動靴を用意する。その他装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。	

スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR101
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）
科目責任者	植草　完
授業形態	実技
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A0023001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ニュースポーツ，コミュニケーション・ワーク，レクリエーション・ワーク，インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーション種目やニュースポーツを通し，現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を認識し，活用できる能力を身につけてほしい。そのために，積極的な態度で授業に臨み，活動することを心がけること。レクリエーション・インストラクター資格取得のための実技科目である。
学生の達成目標	1. レクリエーション活動の意義を理解する。 2. さまざまな活動を通して,活動すること自体の喜びを実際に体験・理解する。 3. 他者への支援(指導)が出来るようにする。 4. 安全な活動と,そのための危険を回避する能力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション,アイスブレーキング①(目標1,2,4) 第2回　アイスブレーキング②(目標1,2,3,4) 第3回　チャレンジ・ザ・ゲーム(目標1,2,4)

	第4回	子どもの遊び(伝承遊びを含む)(目標1,2,4)
	第5回	ウォーク・ラリー①(目標1,2,4)
	第6回	ニュースポーツ(インディアカ)(目標1,2,4)
	第7回	ニュースポーツ(キンボール)(目標1,2,4)
	第8回	ホスピタリティ・トレーニング①(目標1,2,4)
	第9回	ホスピタリティ・トレーニング②(目標1,2,3,4)
	第10回	ニュースポーツ(ペタンク)(目標1,2,4)
	第11回	ニュースポーツ(スピードミントン)(目標1,2,4)
	第12回	ウォーク・ラリー②(目標1,2,3,4)
	第13回	ニュースポーツ(フライングディスク)(目標1,2,4)
	第14回	支援実習(振り返りを含む)①(目標1,2,3,4)
	第15回	支援実習(振り返りを含む)②(目標1,2,3,4)
	第16回	支援実習(振り返りを含む)③(目標1,2,3,4)
	第17回	支援実習(振り返りを含む)④(目標1,2,3,4)
	第18回	支援実習(振り返りを含む)⑤(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	ニュースポーツやレクリエーションゲームの具体的な種目を調べて，どの様な特徴があるか学習しておく。
	復習	実際に体験した種目をノートに取り，ルールやコツ，特徴を具体的に記入すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	試験（50～60%），提出物（20～30%），出席及び参加態度（10～20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	レクリエーション活動を行うので服装は大学指定の体操服（ジャージ上下）とする。体育館用とグランド用にそれぞれ運動靴を用意する。その他装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。	

スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR102
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0024001 A0024005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	レクリエーション支援,現代社会とレクリエーション,レクリエーション事業,インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方,そのための指導理論,組織論,事業論などの学習を通じ,支援者（指導者）としての実践能力を高める。学生の経験に照らして考えられるよう進め,自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。
学生の達成目標	1. レクリエーション活動の意義を理解する。 2. レクリエーション支援のための指導理論を理解する。 3. 支援のためのコミュニケーション能力を高める。 4. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を養う。 5. レクリエーション支援が十分に効果を上げるために組織論,事業論を理解し,活用できるようにする。

授業内容	第1回	オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①(目標1)
	第2回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②,これからのレクリエーション運動(目標1)
	第3回	レクリエーション支援の考え方(目標2,3)
	第4回	レクリエーション・インストラクターの役割(目標2,3)
	第5回	ライフスタイルとレクリエーション①(乳幼児期から青年期)(目標2,4)
	第6回	ライフスタイルとレクリエーション② (青年期から高齢期)(目標2,4)
	第7回	高齢社会の課題とレクリエーション(目標2,4)
	第8回	少子化の課題とレクリエーション(目標2,4)
	第9回	地域とレクリエーション(目標2,4)
	第10回	レクリエーション事業とは(目標2,5)
	第11回	事業の展開方法(目標2,5)
	第12回	事業計画Ⅰ(PDCAサイクルに基づく計画立案)(目標2,5)
	第13回	事業計画Ⅱ(計画立案と広報活動)(目標2,5)
	第14回	レクリエーション活動の安全管理(目標2,5)
	第15回	まとめ(目標1,2,4)
予習・復習の内容	予習	小学校や特別支援学校，幼稚園，保育園などで，なぜレクリエーションが重要となるのかを事前に調べておくこと。
	復習	授業で話された内容を十分に復習し，内容理解に努めること。 授業で配布された資料をしっかり保存し，それを参考に復習すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	試験（50～60%），提出物・参加状況（40～50%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	スポーツ・レクリエーションⅠを受講していること。	

体育（テニス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR106
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（テニス）
科目責任者	田村　尚雄
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0040001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ，基本技術，コミュニケーション
授業のねらい・概要	生涯スポーツであり世界で親しまれているテニスと，日本で生まれたソフトテニスを実践し，その特性やルール・戦術を理解し，基本技術を修得する。また，仲間と協調し運動の楽しさや喜びを味わうとともに，継続的に運動ができる資質や態度を育てる。
学生の達成目標	1. 安全に留意しながら実践力を養い,健康を保持増進する運動量を確保する。 2. 準備から片づけまでを含む授業に自ら積極的に参加し,ルールやマナーを遵守し実践する。 3. グループ内で仲間とコミュニケーションをとり,公正,協力,責任などの役割を果たし,教え合うことで基本技術修得と向上,およびゲームができるようにする。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　Ⅰ.テニス　ストローク,ボレー(目標1,2,3) 第3回　サービス,スマッシュ(目標1,2,3) 第4回　総合練習と簡易ゲーム(目標1,2,3) 第5回　シングルスゲーム(目標1,2,3) 第6回　ダブルスゲーム(目標1,2,3) 第7回　団体戦(目標1,2,3,4) 第8回　Ⅱ.ソフトテニス　ストローク,ボレー(目標1,2,3) 第9回　サービス,スマッシュ(目標1,2,3) 第10回　総合練習と簡易ゲーム(目標1,2,3) 第11回　ダブルスゲーム(目標1,2,3) 第12回　団体戦(目標1,2,3) 第13回　グループ別実習(目標1,2,3) 第14回　グループ別実習(目標1,2,3) 第15回　まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　ゲーム方法やルールについては，自分で事前に調べて理解しておくこと。

	復習	自分の自由時間でテニスを実践し，技術修得と感覚を養うことがのぞましい。
	展開	
成績評価	評価の基準	実技を含めた授業への積極的参加態度を含め，達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	評価の方法 ：授業参加態度・意欲（70%），実技（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，体操服，Tシャツ，スポーツシューズ（スパイクなし）を着用して参加すること。その他装飾品や爪などは運動に支障がないようにすること。自己所有のラケットの使用可。 安全確保のため，履修数は４０名程度であることが望ましい。授業状況により，内容変更の可能性もある。第１回目は雨天時でもテニスコートに集合すること。	

体育（弓道）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR107
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（弓道）
科目責任者	秋山　和意
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0041001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本の伝統文化としての弓道
授業のねらい・概要	弓道を体験して，人としての道を理解し，人間性を高める。
学生の達成目標	1. 弓道の正しい理解をする。 2. 弓道を正しく体現する。 3. 弓道の「道」をどのように考えるか。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,3) (弓道の正しい見方,弓道の学習法,弓道の理念,危険防止対策,道場の約束事など) 第2回　弓道の歴史と現代弓道の精神的背景(目標1,2) 使用する道具とその扱い方(弦,弾,胸当て(女子のみ),矢の番え方など) 第3回　射法の学習(1)・・・弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2) 第4回　射法の学習(2)・・・弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2) 第5回　射法の学習(3)・・・弓道八節(弓を使っての素引き)(目標1,2) 第6回　射法の学習(4)・・・弓の扱い方,弾の使い方,矢の扱い方(目標1,2) 第7回　的前行射(5)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習) 第8回　的前行射(6)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習) 第9回　的前行射(7)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習) 第10回　射法の実際・・・正規の位置(28メートルから)の行射(目標1,2) 第11回　射法の実際・・・正規の位置(2メートルから)の行射(目標1,2) 第12回　基本体の学習と行射・・・正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2) 第13回　基本体の学習と行射・・・正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2) 第14回　基本体の学習と行射・・・坐射で一手行射(目標1,2,3)

	第15回	総仕上げの学習・・・坐射で一手行射(体配,射形,射の運行)(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	配布プリントを読み，課題について考える。
	復習	課題をまとめて，次回までに提出する。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への積極的な参加態度，実技の到達度，授業前の準備・整理状況を評価する。
	評価の方法	レポート，出席状況，学科・実技を評価評定により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	名人伝
	著者名	中島敦
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	※弓道場のほか，状況によっては予備教室を使用することがある。 ◎ジャージ，Tシャツ（ボタンのないもの），白靴下（白足袋） ◎指輪，ピアス不可。 ◎弓道未経験者でも可。	

体育（ダンス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR108
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（ダンス）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0042001 A0042005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ダンス　リズミカル　表現　動きつくり
授業のねらい・概要	自らリズミカルでバランスのとれた身のこなしや運動をコントロールできる身体技能を身につける。また，踊る楽しさを共感し，創造性豊かな表現力を身につけていく。さらに，ダンスの簡単な作品を構成できるようになる。
学生の達成目標	1. リズム感を養い,身体で表現する楽しさを味わうこと。 2. 他者と共に身体で表現し合うことの楽しさを分かちあえること。 3. 他者の動きや表現の違いに気づき,さらに自分の表現を磨いていくこと。 4. 簡単な作品を構成できるようになること。
授業内容	第1回　オリエンテーション・アイスブレーキング(目標1,2) 第2回　体ほぐし(目標1,2) 第3回　動きとリズム遊び(目標1,2) 第4回　動きからダンスへ(目標1,2) 第5回　ダンスの基礎① 姿勢,歩き方,走り方など(目標1,2) 第6回　ダンスの基礎② 基本のステップとその応用(目標1,2) 第7回　動きのコントラスト(目標1,2,3) 第8回　動きつくり(目標1,2,3) 第9回　即興表現(目標1,2,3) 第10回　課題作品の発表,同時に評価の観点について理解を深める。(目標3,4) 第11回　グループによる「ダンスの発表会」企画と練習①動きの原型について(目標2,3,4) 第12回　グループによる「ダンスの発表会」企画と練習②ダンスの構成について(目標2,3,4) 第13回　グループによる「ダンスの発表会」企画と練習③修正(目標1,2,3,4) 第14回　「ダンス発表会」相互評価,評価の観点について理解を深める。(目標1,2,3,4) 第15回　まとめ(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	授業内容のキーワードについては，事前に調べておくこと。 自らのリズム感を養い，柔軟性などを高め身体のコントロールができるようにしてくること。
	復習	毎回の授業の要旨を図解し，まとめてくること。 苦手な動きなどは，練習を重ねてくること。
	展開	課題作品については，各グループで話し合い，創作してくること。
成績評価	評価の基準	達成目標を評価する。
	評価の方法	発表60%，提出物20%，受講態度20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	からだ一気づき学びの人間学ー
	著者名	高橋和子著
	出版社	晃葉書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	動きやすい服装・上履き，運動時に支障とならないよう髪型・アクセサリーの装着・爪など。	

体育（水泳）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR109
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（水泳）
科目責任者	下永田　修二
担当教員	植草　完
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0043001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	水泳指導，水中安全，水の特性
授業のねらい・概要	水の特性，水中安全，水泳の基本的な泳法に関する内容について概説し，水泳や水中安全に関する指導のあり方について理解する。
学生の達成目標	1.　水泳競技の基本的な4泳法について,基礎的な知識技能を身につける。 2.　水中安全に関しての基礎的な知識技能を身につける。 3.　水泳の指導法について基礎的な知識を身につける。 4.　水の特性を活かした水中での運動について知識技能を身につける。
授業内容	第1回　実技内容,水辺での安全に関するガイダンス 第2回　水の特性についての理解(浮力,水圧,抵抗) 第3回　浮力を活かした水中で運動 第4回　基礎的な泳法の習得(クロール) 第5回　基礎的な泳法の習得(平泳ぎ) 第6回　基礎的な泳法の習得(背泳ぎ) 第7回　基礎的な泳法の習得(バタフライ) 第8回　各種泳法の指導法1(フィンを用いた水泳指導) 第9回　各種泳法の指導法2(スタート・ターンの指導) 第10回　水中での安全(着衣泳) 第11回　水中での安全(救助法) 第12回　リズム水泳 第13回　水中での様々な遊び(潜る・浮く運動) 第14回　水中での様々な遊び(ボールを使った運動) 第15回　水中運動および各種泳法に関する総まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	水および水泳・水中運動に関する基礎的な内容を理解し，技能を身につけていること。水中安全に関する内容を業の内容をもとに水泳指導に関する自らの考えをもち，説明ができること。
	評価の方法	平常点，提出レポート，期末の実技試験で評価する。平常点３０％，レポート２０％，期末実技試験５０％の成この比率は，最終的に若干変更可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	教師教育教材「体育−水泳−」
	著者名	
	出版社	放送教育開発センター
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	これ一冊でわかる着衣泳実技トレーニング
	著者名	荒木昭好
	出版社	山海堂,
	価格	1600円
	ISBN・ISSN	4-381-X c0075 P1648E
参考URL		
備考	プールにおける実技であり，水着，キャップ，ゴーグル等が必要である。	

英語 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027001,A0027002,A0027003 A0027007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の基礎学力向上，異文化理解，教養，総合的な英語の運用能力養成
授業のねらい・概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」活動を有機的に組み合わせ，総合的な英語の運用能力を養成する。
学生の達成目標	1. 基本的な英語を聞いて理解できる。 2. 聞いた英語を書きとることができる。 3. 基本的な英語を読んで理解できる。 4. 理解した英語に対し自分の意見を述べることができる。 5. 自分の意見を英語で表現できる。
授業内容	第1回　Money! Money! Money!(目標1～5が総合的に含まれる:以降も同様) 第2回　Let’s Eat! 第3回　Serving the Community

	第4回	Talking about Japan
	第5回	Human Cloning: Do We Need It ?
	第6回	Your Culture or Mine ?
	第7回	City Food from Field to Table
	第8回	The Making of a Nobel Prize-winner
	第9回	Walking for Health: Yours and the Earth’s
	第10回	Changing Lives
	第11回	How Fast Can We Travel ?
	第12回	Medical care for the Whole Person
	第13回	Looking for a Job ?
	第14回	Follow your Dreams
	第15回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習	指定された問題について、実際に自分で考えた答えを書く。
	復習	正解しなった問題について、もう一度、辞典等を活用して理解をはかる。
	展開	テーマに関連した事項について、自分なりの意見を書いて発表する。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名	『English Fast Lane : 異文化理解のための総合英語』2007.
	著者名	金森強他
	出版社	成美堂
	価格	1 ,900円（税別）
	ISBN・ISSN	978 -4-7919-1037-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	発達教育学部及び保健医療学部は指定されたクラスで実施する。 レベルによって，多少内容は変わります。	

英語 Ⅰ（発達Ｂ2, B3）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ（発達Ｂ2, B3）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027004,A0027005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング、ライティング、リスニング、文法
授業のねらい・概要	中学・高校で学んだ英語の文法のおさらいをしつつ、パズルなどを用いて楽しみながら基礎的な語彙を覚える。また、簡単な英文を読みこなす力を養い、NHKの「リトル・チャロ」等を用いて、日常的な英会話力を育成していくことを目的とする。
学生の達成目標	1. 中・高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2. 基礎的な英文を理解する力を養う。 3. 基礎的な英語を聞き取る力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について。 第2回　Hello, I’m Pete. （目標1,2,3） 第3回　London（目標1,2,3） 第4回　Dave（目標1,2,3） 第5回　Arrival（目標1,2,3） 第6回　First Impressions（目標1,2,3）

	第7回	A New Employee（目標1,2,3）
	第8回	1回～7回までの復習
	第9回	The computer is down（目標1,2,3）
	第10回	A weekend at home（目標1,2,3）
	第11回	A mistake in the Office（目標1,2,3）
	第12回	Peter run into an Old Friend（目標1,2,3）
	第13回	Party Time（目標1,2,3）
	第14回	Haven’t we met somewhere before? （目標1,2,3）
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをする
	復習	毎回の授業で学んだ基礎的な英単語と文法をきちんと覚える
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して文や会話を考える
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30%，小テスト 10%，期末試験 60%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	Pete and Kate
	著者名	Terry O'Brien　他
	出版社	南雲堂
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず，英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。 各クラスとも登録順で23名までとする。	

英語 Ⅰ（A4）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ（A4）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング，リスニング，ライティング，スピーキング
授業のねらい・概要	学生が興味を持って学習できるような BBCドキュメンタリーの映像教材を用いて，中・高等学校で学んだ英語の知識をもとに，英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」力を総合的に高めていくことを目標とする。
学生の達成目標	1. 中学校や高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2. 基礎的な英文を理解する力を養う。 3. 基礎的な英語を聞き取る力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Water（1（目標3） 第3回　Water（2）（目標1,2） 第4回　Manatees (マナティ)（1）（目標3） 第5回　Manatees (マナティ)（2）（目標1,2） 第6回　Food（1）（目標3）

	第7回	Food（2）（目標1,2）
	第8回	1回～7回までの復習
	第9回	Amber (琥珀)（1）（目標3）
	第10回	Amber (琥珀)（2）（目標1,2）
	第11回	Medicine（1）（目標3）
	第12回	Medicine（2）（目標1,2）
	第13回	All Spun Out (平衡感覚)（1）（目標3）
	第14回	All Spun Out (平衡感覚)（2）（目標1,2）
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをする
	復習	毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	BBCドキュメンタリーに挑戦
	著者名	森田彰　他
	出版社	成美堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語 Ⅰ（発達A3）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ（発達A3）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング、リスニング、文法・語彙、欧米の文化
授業のねらい・概要	中学・高校で学んだ文法力や語彙力を強化しつつ、英語を読み書きする力を伸長させる。また、NHKの「リトル・チャロ」を副教材として用い、日常英会話を「聞き取り」「話す」力を養う。
学生の達成目標	1. 基礎的な英文を理解する力を養う。 2. 基礎的な英語を聞き取り、話す力を養う。 3. 中学、高校で学んだ英語の語彙や文法力を伸長させる。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Loco Moco (Hawaii, U.S.A.)（目標1,2,3） 第3回　Marvelous Mexican Burritos (Mexico) （目標1,2,3） 第4回　Tea Time in Peru (Peru) （目標1,2,3） 第5回　Greek Food: The Extra Ingredient of Life (Greece) （目標1,2,3）

	第6回	A Traditional Romanian Dish Sarmale (Romania) （目標1,2,3）
	第7回	Goulash (Slovakia) （目標1,2,3）
	第8回	ここまでの復習
	第9回	"Guest in Home. God in the Home" (Poland) （目標1,2,3）
	第10回	From Mystery, with Love (Russia) （目標1,2,3）
	第11回	Northern Lights (Estonia) （目標1,2,3）
	第12回	Fish and Chips A Great British Tradition (U.K.) （目標1,2,3）
	第13回	The World Chinese of Cuisine (China) （目標1,2,3）
	第14回	Indonesia's Favorite Food Fresh Green Chile (Indonesia) （目標1,2,3）
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをする
	復習	毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物）30%，小テスト10%，期末試験60%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	The Wonderful World of Food
	著者名	渡辺節子
	出版社	Asahi Press
	価格	1890円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず，英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。 各クラスとも登録順で23名までとする。	

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	北條　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027009,A0027010 A0027011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション，聞くこと，話すこと，国際理解，話す表現力
授業のねらい・概要	色々な英語を聴き，身近なことを話すコミュニケーション練習を重ね，英語を使って簡単なコミュニケーションができるようになる。英語圏文化を知り，国際感覚を養うことができるようになる。
学生の達成目標	1. 英語を進んで聞き話そうとする態度を向上させ,積極的にコミュニケーションしようと努める。 2. 英語を聞く・話す力を鍛え,基礎的実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことができる。 3. 英語圏文化を知り,自国文化を紹介でき,国際理解を踏まえた声かけができるようになる。
授業内容	第1回　授業の進め方,取り組み方 (U.1)自己紹介/Personal Information (目標1,2,3) 第2回　(U.2,3)家族趣味ペット/Animals/「つながる音に慣れる」 (目標1,2,3)

	第3回	(U.4)大学生活/School lives/「消える音に慣れる」/表現発表①(目標1,2,3)
	第4回	(U.5)食べ物/Breakfast, Snacks&Tea/「コミュニケーションのコツ」(目標1,2,3)
	第5回	(U.7)道案内/Community/「変化する音に慣れる」(目標1,2,3)
	第6回	(U.8,9)日本文化紹介/Events&Festivals/「非言語コミュニケーション」(目標1,2,3)
	第7回	(U.11)航空券をNetでGet/Mail box/「カタカナ語の音に慣れる」(目標1,2,3)
	第8回	(U.22)体調不良/Symptoms/「ポーズpauseの取り方」(目標1,2,3)
	第9回	(U.12)E-mailを送る/Numbers/「数字の聞き取り」/表現発表②(目標1,2,3)
	第10回	(U.13,14)機内で,空港で/Universal design/「日本語にない音」(目標1,2,3)
	第11回	(U.15,16)ホテル,レストランで/Barrier-free/「まぎらわしい音」(目標1,2,3)
	第12回	(U.17)ショッピング/Supermarkets「頻度で表す」(目標1,2,3)
	第13回	(U.10,20)観光案内,旅行案内/English Castles/「つづりと発音」(目標1,2,3)
	第14回	(U.21)トラブルシューティング,電話で/Signs/「理由を話す」(目標1,2,3)
	第15回	表現発表③ 総まとめ
予習・復習の内容	予習	①指定されるUnitの練習問題を，CDを聞きながらノートに解答してくる。(練習問題) ②不明な英語は辞書で確認してくる。(単語調べ)
	復習	③「Reading Section」の英文について，CDを聞きながら音読練習を重ねる。(音読) ④「Read Aloud」基本文を，言ったり読んだり書いたりできるように練習する。(基本文)
	展開	友人と簡単な英会話を試みる。英和辞典・イラスト英和辞典を用いながら，表現練習する。
成績評価	評価の基準	○授業に積極的・意欲的な取り組み態度が見られる。 ○「表現発表」の機会に，決められた観点に注意しながら，発表できている。 ○予習復習を必ずおこない，知識や運用能力を確実にしている。
	評価の方法	○授業中の学習活動への意欲的・積極的な態度　20% ○「表現発表」　30%○期末試験や小テスト　50% 以上の成績を総合して評価する。
教科書		
	書籍名	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ

著者名	
出版社	南雲堂
価格	1,995円
ISBN・ISSN	978-4-523-17624-4

推薦図書等	
参考URL	
備考	○授業は(1)Communication Practice（歌，映像，会話など）　(2)English Practice（聞き取り，音読，基本文など）を進め，参加型学習体制をとる。 ○授業を効果的に受けるため，また各人の英語力を向上させるために，指定される課題や表現発表，復習や予習に進んで取り組むこと。 ○教科書と付属CDを活用できる環境（CDプレイヤーなど）を整えること。

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028001 A0028005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語特有の音声変化やリズムの習得，英語の分析的読解力の養成，英語の論理的表現力の養成
授業のねらい・概要	英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し，英語の分析的読解力と論理的表現力を要請する。
学生の達成目標	1. 英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」に関し,総合的な基礎学力を発展的に向上させる。 2. 英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し,実際に聞いたり話したりする際に活用できる。 3. 身近な話題についての英文記事を分析的に読解し,自分の意見を論理的に英語で表現できる。
授業内容	第1回　音の連結 My Heart Will Go On(目標1～3が総合的に含まれる:以降も同様) 第2回　音の脱落 ① Open Arms 第3回　音の同化 Don’t Look Back In Anger

	第4回	音の脱落 ② A Whole New World
	第5回	Let’s read ディズニー映画について
	第6回	音の脱落 ③ Livin’ La Vida Loca
	第7回	短縮形の音 Kiss of Life
	第8回	音声変化の複合 I Don’t Want To Miss A Thing
	第9回	音の脱落 ④ Everytime I Close My Eyes
	第10回	注意すべき母音 Life
	第11回	音の弱化 The Stranger
	第12回	短縮形の音 ② All I Want For Christmas Is You
	第13回	音の連結 ② Hey Now
	第14回	Let’s read 女性の求めるものの時代的変化について
	第15回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習	指定した部分の問題を自分で実際に解いてみたり、発音の練習をしたりしてみる。
	復習	自分のできなかった箇所を、辞典等を活用して再度理解をはかったり、英語の表現を英語らしく言えるようにする。
	展開	テーマに関連した特定の事項について、自分の意見を文字英語と音声英語で表現できるようにする。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名	『ポップスで学ぶ総合英語　改訂新版』 2011.
	著者名	角山輝彦
	出版社	成美堂
	価格	2 ,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978 -4-7919-3086-9
推薦図書等		
参考URL		
備考	発達教育学部は登録順で 23名までとする。 保健医療学部は指定されたクラスで実施する。	

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング、リスニング、保育の英語
授業のねらい・概要	英語Ⅱでは，英語Ⅰで培った英語力をもとに，リーディング、リスニングの力を伸長させ、また、保育の現場で用いられる英語表現を学ぶ。
学生の達成目標	1. 主として英語の「聞く」「読む」を中心に総合的な英語基礎学力を向上させる。 2. 保育の英語を学ぶ。 3. 欧米文化に親しむ
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　The Meaning of Easter 1（目標１） 第3回　The Meaning of Easter 2, 保育の英語（目標１,2） 第4回　Fresh from the Garden 1（目標１） 第5回　Fresh from the Garden 2, 保育の英語（目標１,2） 第6回　Time for Tea 1（目標１）

	第7回	Time for Tea 2, 保育の英語（目標１,2）
	第8回	ここまでの復習
	第9回	Trick or Treat 1（目標１）
	第10回	Trick or Treat 2, 保育の英語（目標１,2）
	第11回	Giving thanks 1（目標１）
	第12回	Giving thanks 2, 保育の英語（目標１,2）
	第13回	From your valentine1（目標１）
	第14回	From your valentine2, 保育の英語（目標１,2）
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをする
	復習	毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・レポート） 30%，小テスト 10%，期末試験 60%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストについては，初回の授業時に指示する。 保育についての副教材は適宜準備する。	
	書籍名	Food for thought
	著者名	Shinobu Sunaga 他
	出版社	南雲堂
	価格	1700円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4523-17651-0
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療英語、リハビリテーション
授業のねらい・概要	英語Ⅱでは，理学療法士を目ざす学生用に作成された英語教材を用いて，さまざまな医療英語の語彙や表現を学びながら、英語の「読む」「聞く」「話す」力を伸ばしていき、将来、医療の現場で実際に役立つ英語力を身につけることを目標とする。
学生の達成目標	1. 医療やリハビリテーションに関連する内容の英文を読むことを通して長文の概要を読み取る力を養う 2. リハビリテーションの現場で行われる基礎的な英会話表現を身につける 3. リハビリテーション関連のさまざまな英語の用語や知識を身につける
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Osteoporosis（骨粗鬆症）(1); 語彙，リーディング（目標１） 第3回　Osteoporosis（骨粗鬆症）(2); 会話，リスニング（目標２，３） 第4回　Cardiovascular Disease（循環器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）

	第5回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）（2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第6回	Diabetes（糖尿病）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第7回	Diabetes（糖尿病）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第8回	第１回～第７回までの復習
	第9回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第10回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）（2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第11回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）（1); 語彙，リーディング（目標１）
	第12回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第13回	Chapter 12 Case Study（事例研究）（1); 語彙，リーディング（目標１）
	第14回	Chapter12 Case Study（事例研究）（2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	授業の下調べをしておく
	復習	学んだ専門用語をまとめる。基礎的な英語表現を確認する。
	展開	理学療法や医療関係の教科書を見て、本授業で学んだことを確認する。
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	The Art of Healing
	著者名	荒金房子他
	出版社	南雲堂
	価格	1700円　プラス税
	ISBN・ISSN	978 -4-523-17707-4
推薦図書等		
参考URL	なし	
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況や受講生の希望により変更の可能性もある。	

英会話

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC103
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英会話
科目責任者	マーク　レモン
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0044001 A0044005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英会話・英語・外国語
授業のねらい・概要	日常英会話に付き外国語でコミュニケーションができると言うことに自信を持つようになる。
学生の達成目標	1. 英語で言いたいことを積極的に表現する。 2. 話し相手についての知りたいことを積極的に英語で質問する。 3. 英語でミスをする恐れでちゃんとコミュニケーションを取らずに遠慮することをなくす。
授業内容	第1回 Introductions: Students introduce themselves in English(目標1,2,3) 第2回 Talking about Japanese holidays and events. (目標1,2,3) 第3回 Asking and giving personal information. (目標1,2,3) 第4回 Discussing likes and dislikes. (目標1,2,3)

	第5回	Practicing the differences between countables and uncountables. (目標1,2,3)
	第6回	Using adverbs of frequency and asking about habits. (目標1,2,3)
	第7回	Talking about ability and degrees of proficiency. (目標1,2,3)
	第8回	Review and oral presentation. (目標1,3)
	第9回	Asking about family, relatives and sports. (目標1,2,3)
	第10回	Asking about family, relatives and sports, continued. (目標1,2,3)
	第11回	Describing and defining things. (目標1,2,3)
	第12回	Talking about experiences and telling a story. (目標1,2,3)
	第13回	Movie review: An animated film is used to review story-telling. (目標1,2,3)
	第14回	Discussing jobs and functions. (目標1,2,3)
	第15回	Review and preparation for final presentations. (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	前回の授業の問題に答えを書く。
	復習	新しく習った単語や会話を暗記にする。
	展開	A: Do you have a part-time job? B: Yes. I work at (a department store) in (Chiba).
成績評価	評価の基準	日常会話に関して，授業に取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。英語で言っていることが話し相手に通じることを合格準とする。
	評価の方法	平常点60%，中間発表20%，期末発表20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC104
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語表現
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の読解力，英語で論じる技能，専門科目の学習に役立つ英語力
授業のねらい・概要	読解力を一段と強固なものにし，英語で論じることが出来る技能を身につける。
学生の達成目標	1. 英語の読解力を一段と強固なものにする。 2. 英語で臨機応変に論じる技能を身につける。 3. 専門科目の学習に役立つ英語力を養成する。 4. 英語で読んだものの内容をまとめて発表できる。 5. 英語での議論を通じて問題のありかを明らかにできる。
授業内容	第1回　Have I Found Right ?(目標1～5が総合的に含まれる:以降も同様) 第2回　How Good Is Your Memory ? 第3回　The History of Time-Keeping 第4回　Endangered Species 第5回　Travel Manners

第6回	What Does a Million dollars boy ?
第7回	Earth’s Mysterious Places
第8回	Is an Only Child a lonely boy ?
第9回	Homeschooling-a Better Way to Learn ?
第10回	The Segway-a New Look at Travel
第11回	What Constitutes Art ?
第12回	Avoiding Cultural Taboos
第13回	Robotic Surgeons
第14回	The Challenging of Space Travel
第15回	まとめ
	(授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習	指定された部分を速読し、問題に答える。次に、理解できなかた部分を、辞典等を活用して補い、解答に修正を加える。
	復習	授業での解説を参考にして、再度、辞典等を活用しながら、指定された部分の理解を深める。また、英語を流暢に読めて言えるようにする。
	展開	授業で扱ったテーマに関連して、自分なりの考えを英語でまとめ発表する。さらに、その内容についての質疑応答が、英語でできるようにする。

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。

教科書	書籍名	『Advanced Skills for Reading』2007.
	著者名	N.J. Anderson，川又正之
	出版社	成美堂
	価格	1 ,785円（税込）
	ISBN・ISSN	9784791910342

推薦図書等

参考URL

備考

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語表現
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療英語，リーディング，ライティング
授業のねらい・概要	医療分野の英文の読解を通して，医療分野で用いられる基礎的な英語表現や語彙に慣れ，専門書を読みこなしたり，簡単な英文をかける英語力を養っていくことを目標とする。
学生の達成目標	1. 辞書を片手に専門分野の英文の内容を大筋において理解できるだけの読解力を身につける 2. 医療関連の基礎的な語彙に慣れ親しむ 3. 英語教材を通して1年に学んだ生理学等のおさらいをする
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Controlling the body(1) Brain, Nervous system 第3回　Controlling the body(2) Nervous Cell 第4回　Controlling the body(3) Chemical Messengers 第5回　Skeleton(1) Inside a bone

	第6回	Skeleton(2) Skull
	第7回	Muscle(1) Muscle structure
	第8回	Muscle(2) Types of Muscle
	第9回	1回～7回までの復習
	第10回	Sensing the World(1) Eye
	第11回	Sensing the World(2) Taste
	第12回	Sensing the World(3) Balance
	第13回	Cells and New Life(1) Cell
	第14回	Cells and New Life(2) Cell devision
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	毎回の授業で読む部分の下調べをしておく。
	復習	授業で扱った英語表現や専門分野の語彙についておさらいをする。
	展開	授業で扱った部分について生理学等の教科書を見て、確認をする。
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業計画がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書については，最初の授業時に指示する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	本講義は，保健医療学部の学生を対象とする。 授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。	

中国語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC105
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	中国語入門
科目責任者	陸　芸
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0046001（前期）,A0046002（後期）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	拼音，簡体字，表現力
授業のねらい・概要	１年次生のための入門からの中国語の授業科目である。中国語を初歩から学び基本的な発音をマスターした上，基本語彙と基本文型を習い，朗読を通してリズムを身につける。
学生の達成目標	1. 効率よく基本発音をしっかり覚えましょう。 2. 根気よく基本文型を反復練習しましょう。 3. 楽しく習ったものを活用できるように頑張りましょう。
授業内容	第1回 オリエンテーション(授業予定・学習方法・目標・評価について),発音練習(目標1) 第2回 第1課 校門で/挨拶のことば/人称代名詞(目標1,2,3) 第3回 第2課 廊下で/人の呼び方/動詞述語文(目標1,2,3) 第4回 第3課 キャンパスで/指示代名詞/形容詞述語文(目標1,2,3) 第5回 第4課 携帯を見ながら/所有を表わす(有)/反復疑問文(目標1,2,3)

	第6回	第5課 学生食堂で/二重目的文/方位詞(目標1,2,3)
	第7回	第6課 王先生の研究室で/動詞の重ね型/語気助詞(目標1,2,3)
	第8回	中間復習(目標1,2,3)
	第9回	第7課 コンビニで/時を表わすことば/助数詞(目標1,2,3)
	第10回	第8課 バスで/連動文/前置詞(目標1,2,3)
	第11回	第9課 放課後に/主述述語文/助動詞(目標1,2,3)
	第12回	第10課 卓球の中継を見ながら/経験を表わすことば/様態補語(目標1,2,3)
	第13回	第11課 ディズニーランドで待ち合わせ/選択疑問詞/方向補語(目標1,2,3)
	第14回	第12課 カフェテラスで/比較を表わすことば/時間・時刻・動作の回数(目標1,2,3)
	第15回	学生による発表と討論及び総まとめの講義(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎回事前に予習内容と方法を指示する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	中国語入門段階からの発音，基本語彙，基本文型の読みと書きをマスターした上，初歩的な会話ができることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，授業内での発表，宿題，出席率等を総合的に評価する。平常点30%，授業内での発表30%，宿題30%，授業への参加度10%を総合する。（ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。）
教科書	書籍名	はじめまして！中国語　2012年4月30日第12刷
	著者名	喜多山幸子・鄭幸枝　著
	出版社	白水社出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

フランス語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC106
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	フランス語入門
科目責任者	小川　亮彦
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0047001 A0047005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	フランス語，ヨーロッパ文化，異文化理解
授業のねらい・概要	フランス語に初めて接する者を対象として，フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である，という要素を中心に，半年間でフランス語文法の基礎をできる限り把握することを目標とします。
学生の達成目標	1. フランス語の発音体系と書記法を理解する。 2. フランス語の基本的な表現を聞き取ることができる。 3. フランス語で挨拶や自己紹介ができ,日常生活の基本的な状況を表現できる。 4. フランス語の平易な文章を辞書を用いて読解できる。 5. フランス文化の一端を知り,日本文化を相対的に考える視点を獲得する。
授業内容	第1回　挨拶と数詞…フランス語の書記法則と発音体系(目標1,2,3,5) 第2回　第１回の授業の続き（目標１，２，３，５） 第3回　街角で…名詞と冠詞(目標1,2,3)

第4回	学食で…重要な不規則動詞①(目標2,3,4)
第5回	大学にて…重要な不規則動詞②,否定文(目標2,3,4)
第6回	レストランで…規則動詞,疑問文(目標2,3,4)
第7回	友だちの噂話…形容詞,命令形(目標2,3,4,5)
第8回	教科書中のフランス文化紹介記事について解説(目標4,5)
第9回	パリの空港で…様々な比較の文章(目標3,4)
第10回	オルセー美術館で…動詞と前置詞,疑問副詞(目標2,3,4)
第11回	カフェバーで…疑問代名詞,様々な疑問文と応答文(目標1,2,3,4)
第12回	ケンのアパートで…時刻の表現,天候の表現(目標2,3,4)
第13回	浅草で待ちあわせ…目的格人称代名詞,特殊な動詞(目標3,4,5)
第14回	経験したこと…過去を表現する基本形(目標2,3,4)
第15回	復習とまとめ（目標１，２，３，４，５）

予習・復習の内容	予習	教科書をひと通り読んでおくこと。詳細な下調べは必要ありません。 フランス文化，ヨーロッパ文化に関する報道やTV番組に接する機会を多くすること。
	復習	毎回の授業内容をまとめておくこと。 教科書の巻末に，添削用の各課復習問題があります。これを提出し，添削を受けること。 教科書付録のCDをくり返し聴くこと。
	展開	

成績評価	評価の基準	平易な文章を，①「聞き取れる」こと，②「発話できる」こと，及び，基本的な文章を，③「読解できる」こと，を綜合して判定します。
	評価の方法	学期末試験（筆記と聞き取り）を70%，平素の授業における学習達成度（小テスト，練習問題の解答，発話，その他）を30%として採点します。

教科書	書籍名	Ken et Julie（ケンとジュリー）
	著者名	太原孝英　他　著
	出版社	駿河台出版社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-411-00826-8 C1085

推薦図書等

参考URL

備考	英語学習の経験を前提として授業を進めます。英語の得手，不得手は心配ありません。 授業では毎回，教科書と付属CD教材を用いて初級文法の解説を行ない，同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら，辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後，必要と思われる部分に関して，再度解説を施します。講義内容をノートにとることよりも，自分でフランス語の文を読み，自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。ABCの読み方から始まって，辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので，安心して受講して下さい。 ただし，毎回の授業はすべて新出事項ばかりです。授業に欠席するのは勿体ないことなのだ，ということを忘れないでください。

ドイツ語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC107
開講年度	2013年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	ドイツ語入門
科目責任者	カレンベルク　ベレーナ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0048001 A0048005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ドイツ語の基礎　異文化理解
授業のねらい・概要	まずドイツ語に親しむことを目的とする。英語とは異なるアルファベットの発音や文章構造を学ぶ。 教科書に付属のCDとDVDを活用しリスニング能力を養うとともに，異文化にたいする理解を深め，簡単な会話ができる能力の養成を目指す。基本的にペアを組んで会話練習をする。
学生の達成目標	1.　基本的な発音ができる。 2.　聞いたアルファベットと数字を書きとることができる。 3.　簡単な文を理解することができる。 4.　簡単な質問を聞き取り,その質問に答えることができる。
授業内容	第1回　アルファベットの発音(目標1) 第2回　数字の読み方・書き方(目標1) 第3回　四季・月名・曜日名,あいさつ,さまざまな疑問詞(目標2) 第4回　地名の読み方・聞き取り・書き取り(目標2) 第5回　第1課 Kennstdu Lena? 動詞の不定詞の活用(目標3,4) 第6回　動詞 sein(目標2) 第7回　第2課 Hast du einen Kugelschreiber? 動詞 haben(目標3,4)

	第8回	動詞と名詞の格との関係(目標2)
	第9回	前置詞と名詞の格(目標3,4)
	第10回	第3課 Hast du die Bälle? 名詞の複数形,数字の復習(目標1,2,3,4)
	第11回	第4課 Ich bringe dir die Pommes. いろいろな不規則変化動詞(目標3,4)
	第12回	人称代名詞の格と動詞の関係(目標3,4)
	第13回	第6課 Dein Handy ist nicht kaputt. 動詞と否定(第5課はとばす)(目標3)
	第14回	名詞と否定(目標2,3)
	第15回	復習とまとめ(目標1,2,3.4)

予習・復習の内容	予習	授業で指示されたところ（教科書）を読んでおく。
	復習	授業中に配られたプリントを復習する。
	展開	

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度をみて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験(70%），授業中の活動(20%），課題の提出(10%）を対象として総合的に評価する。ただし，５回以上欠席した者には期末試験を受けさせない。30分以上の遅刻３回で欠席回とみなす。

教科書	書籍名	“Hallo,Benni!”ぼくらの未来ー映像と会話で学ぶ初級ドイツ語ー　2012年
	著者名	荻野蔵平他
	出版社	朝日出版社
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－25353－4　C1084

推薦図書等	書籍名	ドイツ語文法へのプロローグ　2007年
	著者名	岡本順治
	出版社	郁文堂
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	9784261011975

参考URL

備考

コンピュータ演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS101
開講年度	2013年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	コンピュータ演習 Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0035001,A0035002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ソフトウェア，文書作成，プレゼンテーション
授業のねらい・概要	コンピュータの本体・周辺機器の基本動作，代表的な各種アプリケーションの大まかな仕組みを理解し，適切な利用法を身につける。 また，これらの知識をふまえ，プレゼンテーション技法，文章構成法の演習を行う。 具体的には，報告書等の文書作成および資料の準備・プレゼンテーション技術を，演習を通して体得する。
学生の達成目標	1. コンピュータの本体の構成および動作について,基礎的な知識を学習する。 2. 主要なオペレーティングシステムについて,その概要と操作法を習得する。 3. 主要なアプリケーションソフトウェアについて,基本的な使用法を学び,文書作成やプレゼンテーション等の実践的スキルを身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション コンピュータに慣れよう(目標1) 第2回　演習準備(1) キーボード入力(目標1) 第3回　演習準備(2) データの作成と保存(目標1)

第4回	文書作成ソフトウェア(1) ソフトウェアの概要(目標3)
第5回	文書作成ソフトウェア(2) ソフトウェアの操作方法(目標3)
第6回	コンピュータの仕組み(1) ファイルとフォルダの概要(目標2)
第7回	文書作成演習(1) 文書ファイルの作成(目標3)
第8回	文書作成演習(2) 総括と解説(目標3)
第9回	コンピュータの仕組み(2) ソフトウェア, OSとアプリケーションソフトウェアについて(目標2)
第10回	プレゼンテーションソフトウェア 準備 プレゼンテーションの目的と方法(目標3)
第11回	プレゼンテーションソフトウェア(1) プレゼンテーションの概要(目標3)
第12回	プレゼンテーションソフトウェア(2) ソフトウェア操作方法(目標3)
第13回	プレゼンテーションソフトウェア演習(1) プレゼンテーションファイルの作成(目標3)
第14回	プレゼンテーションソフトウェア演習(2) 各自発表と総評(目標3)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	学内パソコンにログインする方法を確認しておいてください（大学から付与されたパスワードが必要です）。
	復習	基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）に慣れるために、パソコン操作の作業を毎回復習してください。
	展開	さらなる学習のために、ウェブサイトや文献を紹介します。やってみたい操作や使ってみたいソフトウエアがあれば、ぜひ調べてみてください。学内で使用できるソフトウエアかどうかを知りたい人は、質問してください。

成績評価	評価の基準	この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。

教科書	書籍名	すぐわかるポケット！ ビジネス必携Office 2010ハンドブック Excel・Word・PowerPoint完全攻略
	著者名	アスキードットPC編集部
	出版社	アスキー・メディアワークス
	価格	872
	ISBN・ISSN	4048862243

推薦図書等	
参考URL	
備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。

文章表現演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS103
開講年度	2013年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	文章表現演習
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0037001 A0037005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	文章表現・相手意識・実用的文章
授業のねらい・概要	実用的な文章表現の技術を習得する。
学生の達成目標	1.　筋道の通った文や文章を記述できるようにする。 2.　読み手を意識し,状況に応じた適切な文章を書けるようにする。 3.　意欲を持って文章表現について必要とされる知識を習得する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　履歴書等の書き方（目標２） 第3回　自己アピール文の書き方（目標２） 第4回　小論文の書き方Ⅰ　小論文の構成（目標１） 第5回　依頼文や礼状の書き方（目標２） 第6回　小論文の書き方Ⅱ　出題者の意図のつかみ方（目標１）

	第7回	小論文の書き方Ⅲ　課題に正対した書き方（目標１）
	第8回	報告書等の書き方（目標２）
	第9回	保護者及び子どもへの手紙の書き方（目標２）
	第10回	自己紹介文の書き方（目標２）
	第11回	連絡帳や子どもの作品に対してのコメントの入れ方（目標２）
	第12回	児童用新聞作成の基本（目標２）
	第13回	手紙の返事の書き方　公的・保護者・子ども等（目標２）
	第14回	実用的文章表現について（目標３）
	第15回	ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	各回で示される課題について，自分なりに記述してみること。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。
	展開	文章表現に関しての自分の考えをレポートにまとめる。
成績評価	評価の基準	実用的な文章表現に関しての基本的な形式や表現技法について理解できていること。相手にとってわかりやすい文章のあり方について考えを持てることを合格基準とする。
	評価の方法	作品製作50%，ポートフォリオ50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「手紙・はがきの書き方」に関して書かれている本ならば指定しないので，各自準備すること。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子辞書を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。実際の場面で役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。	

速読法演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS104
開講年度	2013年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	速読法演習
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0038001 A0038005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	速読法，読書に関する心理学的知見，読速度の向上，内容理解の充実，主体的・批判的な読み
授業のねらい・概要	私たちの日常生活や学習は，新聞，各種書籍，放送， ITメディア等の中で記載・表現されているおびただしい数の文字情報に支えられています。このような情報化社会を主体的に生きていくために，速読法演習では，読書行為に関する心理学的知見を学び，文字情報の内容を速く正確に理解できる読書技術の習得を目指します。
学生の達成目標	1. 速読法を身につける。 2. 読書に関する心理学的知見を理解する。 3. 主体的・批判的な読書習慣を身につける。 4. 自身の日常生活や学習時に,速読術を使いこなせるようになる。 5. 自身の読速度の維持・向上のため,日々の読書量を増やす習慣を身につける。
授業内容	第1回　「速読の基礎知識」-現代社会における速読の有効性-(目標1,3,4) 第2回　「プリテスト」-現在の自分の読速度は?-(目標1,2)

第3回	「速読に関する心理学的知見の整理」-人間の情報処理過程について-(目標1,2)
第4回	「速読速解を妨げている読みの癖」-指差し読み,音読,逐字・逐語読み, etc.-(目標1,2)
第5回	「眼球運動トレーニング」-眼球運動と内容理解の関連性-(目標1,2)
第6回	「内容理解のためのキーワードトレーニング1」-短文トレーニング-(目標1,2)
第7回	「内容理解のためのキーワードトレーニング2」-長文トレーニング-(目標1,2)
第8回	「知識を活用した読み1」-概念駆動型読みとデータ駆動型読みの関連性-(目標1,2,4)
第9回	「知識を活用した読み2」-プレリーディングとスキャニング-(目標1,2,4)
第10回	「読書材料の種類によるトレーニング1」-文学的文章の速読-(目標1,3,4)
第11回	「読書材料の種類によるトレーニング2」-科学的文章の速読-(目標1,3,4)
第12回	「読書材料の種類によるトレーニング3」-新聞,雑誌, CRT画面上の速読-(目標1,3,4)
第13回	「速読法から速読術へ」-情報化時代の読みにおける評価・批判力-(目標1,3,4,5)
第14回	「ポストテスト」-自分の読速度はどれだけ高まったか?-(目標3,4,5)
第15回	「まとめ」-レポート作成と今後の課題について-(目標2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	人間の読書行為に関する心理学的見解について調べておく。
	復習	授業で学んだ速読技術を活用して本を読むようにする。
	展開	自分の専門のために多くの書物を読み、引用文献や参考文献として活用できるようにする。また日常生活や趣味においても速読技術を用いられるようになる。

成績評価	評価の基準	授業を通じてどれだけ読速度が高まったかを自己評価・内省できることを合格の基準とする。
	評価の方法	速読プリテストとポストテストの結果をふまえた中間時と最終時に提出する２つのレポートの内容（ 60%）, 通常授業時の課題提出状況および内容（ 30%）, 授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書

書籍名	１日 30分７日間でマスターする実践速読速解トレーニング
著者名	佐藤将朗
出版社	おうふう

価格	
ISBN・ISSN	9784273035563

推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

体育 Ⅰ（実技）前期

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR104
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育 Ⅰ（実技）前期
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0025001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ、体力、健康、基礎運動技能、コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	運動やスポーツを実施し、生涯スポーツに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。
学生の達成目標	1. スポーツ活動に積極的に参加する態度を修得し、健康を保持増進するための身体活動量を確保する。 2. 準備・片づけ、ゲームの審判、ルールやマナーの学習・順守など、生涯スポーツに必要な円滑な運営について実践し修得する。 3. 生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。 4. チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。
授業内容	第1回　　オリエンテーション(目標2,4)

第2回	キャッチボール;ティーボール(1)(目標1,2,3,4)
第3回	打撃の基本;ティーボール(2)(目標1,2,3,4)
第4回	ティーボール(3)(目標1,2,3,4)
第5回	ゴロ,フライの捕球・守備の基本;簡易的なゲーム(1)(目標1,2,3,4)
第6回	総合的な守備練習;簡易的なゲーム(2)(目標1,2,3,4)
第7回	ルールと戦術の理解;簡易的なゲーム(3)(目標1,2,3,4)
第8回	リーグ戦の企画と実践(目標1,2,3,4)
第9回	チーム練習およびリーグ戦(目標1,2,3,4)
第10回	チーム練習およびリーグ戦(目標1,2,3,4)
第11回	チーム練習およびリーグ戦(目標1,2,3,4)
第12回	チーム練習およびリーグ戦(目標1,2,3,4)
第13回	体力テスト(1)(目標1)
第14回	体力テスト(2)(目標1)
第15回	総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	ソフトボールの基本的なルールを予習して、授業に臨むこと。
	復習	授業で学んだソフトボールの基本的な技能については、自主的に練習・ゲームなどをして身に付けること。 実際のソフトボールのゲームを見て、ソフトボールの技能・戦術について学習すること。
	展開	ソフトボールの簡易的なゲームから、ソフトボールへと展開していく。

成績評価	評価の基準	リーグ戦の成績およびレポートを中心に実技等への積極的な参加を重要視する。体力テストの結果に関しては、評価に含めない。
	評価の方法	実技への参加・受講態度・積極性 70%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%、運動技能 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	http://www.softball.or.jp/index.html
備考	ジャージ、 Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため、１時限あたりの履修者数が 48名以内であることが望ましい。したがって、履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。 第１回目は体育館に集合すること。更衣は不要であるが屋内用運動靴を持参すること。 体力テストは、外部施設で実施する。

詳細は、第１回目のオリエンテーションで説明する。
雨天の時には、体育館内でバレーボール、バスケットボール、卓球、障害者スポーツなどを行うので、屋内用運動靴も常に準備しておくこと。

体育 Ⅰ（実技）後期

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR105
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育 Ⅰ（実技）後期
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0025002
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ、体力、健康、基礎運動技能、コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	運動やスポーツを実施し、生涯スポーツに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。
学生の達成目標	1. スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保する。 2. 準備・片づけ、ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。 3. 生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。 4. チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。
授業内容	第1回　　オリエンテーション(目標2,4)

	第2回	基本技術(1);ドライブ、クリア(目標1,2,3,4)
	第3回	基本技術(2);ドロップ、カット、スマッシュ、ロビング(目標1,2,3,4)
	第4回	基本技術(3);スマッシュ、ロビング、ヘアピン(目標1,2,3,4)
	第5回	基本技術(4);プッシュ、サーブ(目標1,2,3,4)
	第6回	応用技術(1);オールロング、オールショート
	第7回	応用技術(2);ダブルスの攻撃と守備
	第8回	総合練習と簡易的ゲーム(目標1,2,3,4)
	第9回	ルールと戦術の理解、ダブルスゲーム(目標1,2,3,4)
	第10回	ミックスダブルス(目標1,2,3,4)
	第11回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第12回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第13回	体力テスト(1)(目標1)
	第14回	体力テスト(2)(目標1)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	バドミントンの基本的なルール・審判法を予習して、授業に臨むこと。
	復習	授業で学んだバドミントンの基本的な技能については、自主的に練習・ゲームなどをして身に付けること。 実際のバドミントンのゲームを見て、バドミントンの技能・戦術について学習すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	実技等への積極的な参加を重要視する。体力テストの結果に関しては，評価に含めない。
	評価の方法	実技への参加・受講態度・積極性 70%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%、運動技能 20%
教科書		
推薦図書等		
参考URL	http://www.badminton.or.jp/	
備考	ジャージ、Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため、１時限あたりの履修者数が 36名以内であることが望ましい。したがって、履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。 第１回目は、体育館に集合すること。更衣は不要であるが、屋内用運動靴を持参すること。	

体力テストは、外部施設で実施する。
詳細は，第１回目のオリエンテーションで説明する。

体育 Ⅱ（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR103
開講年度	2013年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育 Ⅱ（講義）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0026001 A0026005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体力、スポーツ健康科学、生涯スポーツ
授業のねらい・概要	運動やスポーツは、余暇活動のひとつとして人生を充実させることとともに、体力を向上させることや生活習慣病の危険性を抑えることなどの効果をもたらし、発育発達や健康の保持増進に大きく関与していることがよく知られている。 本授業では、受講生の生涯スポーツ実践のために、また将来教育、福祉ないし医療現場に立つことも踏まえて、運動やスポーツの効果について科学的知見に基づいて解説する。
学生の達成目標	1.　運動による身体への生理的影響を理解する。 2.　体力を向上させるためのトレーニングの方法を理解する。 3.　運動技能の仕組みを理解する。 4.　健康を維持ないし増進させるために適した身体活動の内容を理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション,運動の発生の仕組み(目標1,3) 第2回　障害者とスポーツ(目標1,4) 第3回　運動中のエネルギー代謝(目標1,2,4)

	第4回	運動と栄養(目標1,2,4)
	第5回	体力トレーニング(目標1,2,4)
	第6回	スポーツバイオメカニクス(目標1,2,3)
	第7回	スポーツ医学(目標1,4)
	第8回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	前回の授業内容を復習することを予習とする。 予習の内容がある場合は授業内で指示する。
	復習	前回の授業内容を復習し、小テストに備えること。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を期末試験にて評価する。また、授業に対する取り組み方、提出物も評価に含め、総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験 80%、授業に対する意欲・受講態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL	http://www.jsad.or.jp/ http://www1.ocn.ne.jp/~suporeku/	
備考		

言語発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	言語発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語発達，理論，過程，言語発達障害
授業のねらい・概要	１．乳幼児のことばの獲得と発達の過程を段階ごとに理解できるようにする。 ２．ことばの発達に関わる促進要因，阻害要因を理解できるようにする。 ３．ことばの発達のつまずきや言語障害の原因や支援の仕方について理解できるようにする。
学生の達成目標	1.　言語発達に関する様々な考え方を理解する。 2.　乳幼児におけることばの発達を理解する。 3.　言語発達と思考,人間関係との関係を理解する。 4.　言語発達の促進要因や阻害要因を理解し,活用できる。 5.　言語発達の様々な障害を理解し,対処法を身につける。
授業内容	第1回　コミュニケーションと言語。生活における言語の位置づけ,言語の構造について概観する。(目標1) 第2回　社会的知的発達における言語の役割。社会的知的発達を概観しながら,行動調整における言語の役割について理解する。(目標1,3)

第3回	言語を成立させる要因。言語発達を支える生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)や社会的要因(育児方法,文化的要因など)を考える。(目標1,3,4)
第4回	言語の進化。ヒトの祖先からの進化を見ながら,言語の起源について考え,乳児期初期の発声構造の特徴を明らかにする。(目標1,2)
第5回	発声行動と人とのやりとり。人とのやりとりの中でいかに泣き声や喃語といった発声行動が発達しことばにつながっていくかを理解する。(目標2,3)
第6回	乳児期におけることばの理解。乳児期における人との関わりを見ながら,いかに乳児がことばの理解を深めていくかを理解する。(目標2,3)
第7回	ことばの出現。1歳児における言葉の現れ方,人との会話の仕方について理解し,養育者の役割について考える。(目標2,3)
第8回	会話の発展と文構造の発達。幼児期における会話の発展を理解し,複雑な文が言えるようになる過程を理解する。ことばの発達における認知の働きについても把握する。(目標2,3)
第9回	文法の形成と理解。話しことばの文法がどのように形成されるか理解し,文法形成と人間関係との関連について考察する。(目標2,3)
第10回	論理的思考と言語。言語発達と論理的思考との関連を考察し,その意味を考える。(目標3)
第11回	絵本の読み聞かせと言語発達。幼児期における絵本の読み聞かせの意味を考察し,お話を聞くことから,いかに書きことばに対する興味と理解が現れてくるかを学ぶ。(目標2,3,4)
第12回	書きことばの発達。児童期にどのように書きことばが発達するかを解明し,抽象的な思考がどのように現れるかについて理解する。(目標3)
第13回	成人の言語障害。成人に見られる言語障害の種類や原因,問題点を明らかにし,ことばの理解や表現における異常の形態に対する理解を深める。(目標4,5)
第14回	小児の言語障害。発達途上における言語障害の現れ方について見ながら,どのようなメカニズムで言語障害が現れるのかを理解する。(目標4,5)
第15回	言語障害を負う子への働きかけ。言語障害を負う子への働きかけの道筋を理解し,保育園や幼稚園,学校での支援のあり方について考える。(目標5)

予習・復習の内容	予習	幼児の言語発達に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味を確認する。
	展開	子どもと接しながら、言葉の発達を理解し、どのように働き掛けたらよいか考える。

成績評価	評価の基準	言語発達に関する考え方やメカニズムを理解していること。 言語障害の把握の仕方がわかり，対処の道筋について理解していること。
	評価の方法	授業への参加度と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。

	質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは使用しないで，資料配布を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は，しっかりと復習すること。

造形能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT102
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	造形能力発達論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1002001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児の造形能力の発達，造形に必要な能力の獲得，造形表現の発達段階による違い
授業のねらい・概要	乳幼児期の発達段階ごとの造形表現の違いに関して，実例を通して具体的に理解を深める。 様々な造形活動や表現を行うための能力の獲得について発達段階に即して理解し，保育現場等での支援や指導に活かせるように知識を深める。
学生の達成目標	1. 乳幼児の造形能力の発達過程を理解する。 2. 子どもの発達段階ごとの造形能力の特徴と表現のとらえ方,その指導や支援について学ぶ。 3. 身体能力やことばと造形表現との関係や障害等によって造形活動を阻むものについても理解を深め,その原因と支援のあり方について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点等について)・乳児期における発達(目標1) 第2回　幼児期の成長と表現類型(1)手の動きの発達・視力の発達 ①(目標1)

	第3回	幼児期の成長と表現類型(2)視力 ②・実技 ①健康診断の意味・幼児番組のとらえ(目標1)
	第4回	幼児期の成長と表現類型(3)描画の芽生え ①(目標1)
	第5回	発達理論 ①・ DVD視聴 ②(乳児の発達)・課題レポート ①(目標1)
	第6回	幼児期の成長と表現類型(4)聴力の発達・ことばの獲得と描画表現の発達との関係(目標1,2,3)
	第7回	幼児期の成長と表現類型(5)情動と運動機能の発達との関係・実技 ②きり紙(目標1,3)
	第8回	描画からみる発達段階 ①(目標1,2)
	第9回	描画からみる発達段階 ②(目標1,2)
	第10回	描画からみる発達段階 ③(目標1,3)
	第11回	発達診断に現れる造形能力の違い・課題レポート ②(目標1,2)
	第12回	造形表現の内容と指導について・保育現場での実践; DVD視聴(年小)・実技 ③折り紙(目標1,2)
	第13回	保育現場での実践; DVD視聴(年中)・実技 ④折り紙(目標1,2)
	第14回	保育現場での実践; DVD視聴(年長)・課題レポート ③(目標1,2)
	第15回	まとめ～人の発達と造形活動の関わり(目標1)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める 発表準備をする
	復習	テキスト配布資料を読み直す 発表のまとめをする
	展開	興味ある内容について各自で調べる
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形能力の発達に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに乳幼児教育のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。repy
	評価の方法	平常得点，毎回のふり返りを含めた提出レポートで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりをふくめた簡単なレポート 30%，課題レポート 40%） 70%，発表や授業の取り組み等平常得点 30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	「子どもが生み出す絵と造形」
	著者名	子ども美術文化研究会
	出版社	エイデル研究所
	価格	2476円
	ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ：9784871685030

推薦図書等	
参考URL	
備考	全員の前で発表をする課題がある。 それに基づくレポートの提出課題もある。 簡単な実技も行う際に，指示に応じて折り紙や新聞紙，はさみ等を用意することがある。事前に連絡する。 受講人数によって，教室の変更や実技などのシラバス内容の変更もあり得る。 保育の表現技術 Ｉを履修する者は併せて履修することが望ましい。

音楽能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT103
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	音楽能力発達論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1003001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	こども，発達，音楽
授業のねらい・概要	新生児は養育者の話し声を旋律として認知し，歌唱の萌芽は生後３カ月ごろよりみられる喃語にあるといわれるように，人間の発達と音楽は不可分の関係にある。 各発達段階の子どもの音楽能力の発達を保育所保育指針等をふまえながら理解し，人間の発達における音楽の役割について考察する。
学生の達成目標	1. 音楽的能力の観点から子どもの発達を大まかに理解する。 2. 音楽遊びの収集・分析を通して人間の発達における音楽の役割について考える。 3. 子どもの音楽的能力の伸長のためにどのような援助ができるかを考える。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　「音楽」「音楽能力」「子どもの生活と音楽」について 第3回　胎児の聴力と学習能力(目標1) 第4回　子どもの発達と音楽活動(1) 新生児期(目標1)

第5回	子どもの発達と音楽活動(2) 乳児期(目標1)
第6回	子どもの発達と音楽活動(3) 幼児期の身体的発達(目標1)
第7回	子どもの発達と音楽活動(4) 幼児期の精神的発達(目標1)
第8回	子どもの発達と音楽活動(5) 児童期(目標1)
第9回	子どもの生活にみられる様々な音楽遊びの収集(目標2)
第10回	収集した音楽遊びの活動形態・音階などによる分類(目標2)
第11回	各発達過程に適した音楽活動例の考察(1)乳児期(目標2)
第12回	各発達過程に適した音楽活動例の考察(2)児童期(目標2)
第13回	特別な支援を必要とする子どもと音楽学習(目標3)
第14回	生涯学習としての音楽学習(目標3)
第15回	まとめ レポート提出

予習・復習の内容	予習	・幼児向け番組等で歌われている曲に関心を持つ。 ・自分自身がどのような音楽遊びをしていたか想起する。
	復習	・（ボランティア先、親戚の子ども、電車の中など）身近な幼児を観察し、学習内容を確認する。 ・幼児向け番組の内容を、学習内容と結び付けて考察する。
	展開	・機会をとらえて実際に子どもと音楽遊びを楽しむ。 ・子どもの発達のために、音楽を生かしてどのような支援が可能なのか考える。

成績評価	評価の基準	子どもの音楽能力の発達を大まかに理解し，音楽遊び等の活動を音楽的能力発達の視点から分析できる。
	評価の方法	音楽遊びのミニレポート（ 20%），まとめのレポート（ 50%），授業に対する取り組み（毎時間提出するプリント等による）（ 30%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	『保育所保育指針解説』
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	200円
	ISBN・ISSN	ISBN:4577812426

推薦図書等	書籍名	『子どもと音楽』
	著者名	梅本尭夫
	出版社	東京大学出版会
	価格	2500円

ISBN・ISSN	ISBN:4130131117

参考URL	
備考	大学生として図書館を使いこなせるようになるために，毎時間何らかの課題を出します。 授業外での学習時間をしっかり確保して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

身体・運動能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT104
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	身体・運動能力発達論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1004001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育・発達、生体機能、運動技能、体力
授業のねらい・概要	身体運動を理解するために必要な基礎となる人体の形態や生理機能について、発育発達による変化を踏まえて理解することを第１の目的とする。 その上で成長に伴う身体運動および体力の発達について、具体的な題材をもとに学習することを第２の目的とする。
学生の達成目標	1. ヒトの形態の発達の特徴とその背景を理解すること。 2. ヒトの生体機能の発達の特徴とその背景を理解すること。 3. ヒトの運動能力の発達の特徴とその背景を理解すること。 4. 形態,生体機能および運動技能それぞれの変化が、互いにどのように関連しているか理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション、発育発達の概観(目標1,2,4) 第2回　出生前の発育発達(目標1) 第3回　体格の発育発達(目標1) 第4回　体型・体組成の発育発達(目標1)

	第5回	筋・骨の発育発達(目標1,2)
	第6回	呼吸・循環器系の発達(目標1,2)
	第7回	第二次性徴とホルモン(目標1,2,4)
	第8回	乳幼児期の運動発達(目標2,3,4)
	第9回	体力・運動能力の発達(目標2,3,4)
	第10回	体力・運動能力の発達とその生理的メカニズム(目標2,3,4)
	第11回	基礎運動技能の発達(目標3,4)
	第12回	神経機能の発達(目標1,2)
	第13回	神経機能の発達とその生理的メカニズム(目標2,3,4)
	第14回	子どもの健康と危険因子(目標2,3,4)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	前回の授業内容を復習することを予習とする。 予習の内容がある場合は授業内で指示する。
	復習	前回の授業内容を復習することを予習とする。 前回の授業内容を復習し、小テストに備えること。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を期末試験にて評価する。また、授業に対する取り組み方も評価に含めて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験 80%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

児童文学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT201
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童文学演習
科目責任者	河村　真奈
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1005001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童文学
授業のねらい・概要	この授業では、日本及び英米の児童文学史を概観し、代表作をジャンル別に読み進めながら、子どもは文学とどういう関係を築いていけるのか、また、おとなはそこにどう関わることができるのかを考えていく。 授業を通じて、様々な作品を読むことで、「児童文学」へ漠然と抱いていたイメージを客観視することができれば、自分自身の「子ども」（現実の子どもや、作品の中の子どもなど）へのイメージを理解することにもつながるだろう。
学生の達成目標	1. 児童文学についての知識(児童文学の歴史・子どもと文学の関係・おとなと児童文学の関係などに関する知識)を身につける。 2. 実際に児童文学作品を読み,児童文学が子どもたちに社会をどのように伝えようとしてきたのかを考える。 3. 子どもと文学との関わりに対して,おとな(自分)はどのように関わっていくべきか,自ら考えを深めていくことができる。
授業内容	第1回　講義のガイダンス（目標１） 第2回　児童文学史概観・英米①（目標１

第3回	児童文学史概観・英米②（目標１）
第4回	児童文学史概観・日本①（目標１）
第5回	児童文学史概観・日本②（目標１）
第6回	ファンタジー①：英米・古典作品（19世紀～20世紀初頭）（目標２・３）
第7回	ファンタジー②：英米・近代作品（20世紀半ば以降）（目標２・３）
第8回	ファンタジー③：日本・古典作品（1950年代まで）（目標２・３）
第9回	ファンタジー④：日本・近代作品（1960年代以降）（目標２・３）
第10回	ファンタジー⑤：英米、日本の映像化されている作品の特徴、影響について（目標２・３）
第11回	リアリズム①：英米・古典作品（19世紀～20世紀初頭）（目標２・３）
第12回	リアリズム②：英米・近代作品（20世紀半ば以降）（目標２・３）
第13回	リアリズム③：日本・古典作品（1950年代まで）（目標２・３）
第14回	リアリズム④：日本・近代作品（1960年代以降）（目標２・３）
第15回	リアリズム⑤：英米、日本の歴史、戦争をテーマにした作品について　授業全体の総括、提出レポートのガイダンス（目標２・３）

予習・復習の内容	予習	推薦図書、授業内で指定された児童文学作品は読んでおくこと。
	復習	授業内で紹介された作品や参考文献を読み、児童文学への知識、理解を深めること。
	展開	古典・近代の代表的な児童文学作品をふまえた上で、最新の児童文学作品についても知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	児童文学史の概要を理解していること。 作品を読んだ上で、自分の意見をまとめられていること。 感想文、期末レポートの提出状況。
	評価の方法	平常点（50%）（作品に対する簡単な感想文・小レポートを授業中に課す），期末レポート（50%）を総合して評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	「世界少年少女文学　リアリズム編』2009年12月
	著者名	定松正編
	出版社	自由国民社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-426-10832-8

書籍名	「世界少年少女文学　ファンタジー編」2010年1月
著者名	定松正編
出版社	自由国民社
価格	
ISBN・ISSN	978-4-426-10831-1

書籍名	『少年少女の名作案内　日本の文学　リアリズム編』2010年2月
著者名	佐藤宗子・藤田のぼる編
出版社	自由国民社
価格	
ISBN・ISSN	978-4-426-10833-5

書籍名	「少年少女の名作案内　日本の文学　ファンタジー編」2010年3月
著者名	佐藤宗子・藤田のぼる編
出版社	自由国民社
価格	
ISBN・ISSN	978-4-426-10834-2

参考URL	
備考	第6回以降から、事前に指定された作品を読み、小レポートを作成し、授業内で発表、もしくは講義の後に感想文を書く形式となる。 授業内で必要な参考文献等、プリントで随時配布する。

幼児・児童音楽演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT202
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	幼児・児童音楽演習
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1006001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童の歌，ピアノ伴奏法，コードネーム，弾き歌い
授業のねらい・概要	音楽に関する基本的な知識や技能の活用法を学ぶ。 現場で必要な幼児・児童の歌のレパートリーを増やし，それらを正しい発声法で弾き歌いができるように努める。 同時にそのピアノ伴奏法及びギターでの伴奏についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 譜読・ピアノ奏法・発声法の基礎知識が身につく。 2. 幼児・児童の歌のレパートリーが増え,伴奏を付けて,楽しく歌える。 3. 指導案に基づく模擬授業ができる。 4. ギターの伴奏で弾き歌いができる。
授業内容	第1回　楽譜を読む為の基礎知識の復習及び,弾き歌いの為の基礎技能の復習(目標1) 第2回　幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標2) 第3回　幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標2) 第4回　リズム遊び,幼児・児童の歌(目標2)

第5回	子供の歌の伴奏法(目標2)
第6回	ギターを弾く為の基礎技能(目標4)
第7回	ギターを弾く為の基礎技能(目標4)
第8回	幼児・児童の歌の旋律に独自の伴奏を付ける(目標2)
第9回	幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標4)
第10回	幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標4)
第11回	指導計画と指導案について及び指導案の作成(目標3)
第12回	各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3)
第13回	各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3)
第14回	各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3)
第15回	授業の総括,提出レポートに関するガイダンス

予習・復習の内容	予習	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）で学んだ楽典、演奏の基礎知識等を振り返っておく事。幼児・児童の歌の弾き歌いのレパートリーを増やせるように努力する。
	復習	旋律に対してどのように和音を配置できるか。またその伴奏法を各自学び直して、歌唱声部が引き立つ奏法を探る。
	展開	教育現場ではギターの伴奏による歌の指導も増えてきている。主要三和音とその分散和音を使用して、ギターによる弾き歌いのレパートリを増やすように努力する。

成績評価	評価の基準	授業の基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに各自が授業を組み立てて，的確に指導ができる事を合格基準とする。
	評価の方法	指導案に基づく発表 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1 ,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「心を育む子どもの歌」
著者名	南　曜子・今村方子・今川恭子共著
出版社	教育芸術社
価格	1 ,800円

ISBN・ISSN　4-87788-323-1

推薦図書等	
参考URL	
備考	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』を履修していることが望ましい。

絵本・児童画演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT203
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	絵本・児童画演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A1007001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	絵本，お絵かき，教材研究，子ども，絵本作り
授業のねらい・概要	子ども絵に関する基本的な知識を身につけ，保育や授業を展開するために必要な知識や技能を学ぶ。 子どもにとって良い絵本とは何かを知り，絵本を読む楽しみや喜びを体験し，読み聞かせのための絵本の取り扱い方について学ぶ。 実際にお話しを作り，お絵かきを体験的に学び絵本作りを行う。
学生の達成目標	1. 絵本や子ども絵に興味関心を持ち、子ども絵や絵本の基本的知識を習得する。 2. 子どもにとって良い絵本とは何かを知る。絵本を読む楽しみや喜びを体験し,保育・授業の中で取り扱う絵本について理解を深める。保育,授業に生かすための絵を描く基本的な教材等の知識,技能を習得する。 3. 保育・授業に活かすことができる絵本作りを行う。子どもの絵本作りの支援が出来る。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定、子どもの遊びとおもちゃと遊具（目標１） 第2回　絵本を楽しむ「絵本紹介カード作り」（目標１）

第3回	子どもの絵を読み取る（目標１）
第4回	はじめてのお絵かき：色を楽しむ　絵の具遊び　染め紙　「ランチョンマット」「財布」（目標２）
第5回	子どもの発達とお絵描き表現の特徴（目標１）
第6回	いろいろな素材とのかかわり：お絵かきの技法（フロッタージュ(こすりだし）、コラージュ、デカルコマニー）「あじさい」「葉っぱのスタンプ 」（目標２）
第7回	子ども絵の特徴・障害のある子の絵（目標１）
第8回	手作り絵本：製本について（目標３）
第9回	絵本作り１：お話作り　（目標３）
第10回	絵本作り２：お話作り　（目標３）
第11回	絵本作り３：表紙作り　（目標３）
第12回	絵本作り４：表紙作り　（目標３）
第13回	保育現場の保育教材　子どもと出会う（目標２）
第14回	保育現場の保育教材　子どもと遊ぶ（目標２）
第15回	絵本作り５（目標３）
第16回	絵本作り６（目標３）
第17回	絵本作り７（目標３）
第18回	絵本作り８（目標３）
第19回	絵本作り９（目標３）
第20回	絵本作り10（目標３）
第21回	絵本作り11（目標３）
第22回	絵本作り12（目標３）
第23回	絵本作り13（目標３）
第24回	絵本作り14（目標３）
第25回	絵本作り15（目標３）
第26回	絵本作り16　監視へ（目標３）
第27回	手作り絵本　発表会
第28回	手作り絵本　発表会２
第29回	絵本を保育に活かす:子どもに絵本作り指導の実際(目標3)　まとめ
第30回	絵本を保育に活かす:子どもに絵本作り指導の実際(目標3)

予習・復習の内容	予習	絵本・児童画に関する資料、本、研究論文を読む。
	復習	各回ごとの授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。
	展開	授業で学習したことを基に、絵本・児童画に関する教材研究を行い、保育・教育の現場で活用する。

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	発表（ 30%），レポート（ 30%），作品（ 30%），授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び
	著者名	植草一世
	出版社	大揚社
	価格	2500
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	・絵本製作材料費等が必要（千円位）となる。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。	

玩具・遊具演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT204
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	玩具・遊具演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A1008001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	玩具，遊具，教材研究，子ども，保育者
授業のねらい・概要	子どものための玩具・遊具を学ぶ。 教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。 保育や教育現場で活用する玩具や遊具を通しての楽しみや喜びを体験し，保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。
学生の達成目標	1. 玩具・遊具とは何かを知る。 2. 教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。教育・保育の中で取り扱う遊具の教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。 3. 保育や教育現場で活用する玩具や遊具を通しての楽しみや喜びを体験し，保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定、子どもの遊びとおもちゃと遊具（目標１） 第2回　紙のおもちゃ、作って遊ぼう 折り紙「トトロ」「名札」（目標２）

第3回	おもちゃ学入門　グッドトイについて（目標１）
第4回	玩具と遊具について 、（目標１） スライムつくり（目標２）
第5回	子どもの発達とおもちゃ　あかちゃんとおもちゃ （目標１）
第6回	おもちゃの安全性（目標１）
第7回	共有玩具　（目標１）
第8回	相談支援センターのおもちゃの役割（目標１）
第9回	子どもと遊ぶ（援助と補助）（目標３）
第10回	おもちゃと子ども（目標３）
第11回	郷土玩具について（目標１）
第12回	わらの玩具「亀作り体験」）（目標２）
第13回	子どもと遊ぶⅡ（援助と補助）（目標３）
第14回	パペット作り（目標２）
第15回	幼稚園、保育園の玩具・遊具の実際（目標２）
第16回	ペープサート「へんしんトンネル」（目標２）
第17回	幼稚園、保育園の玩具・遊具について（目標２）
第18回	手作りおもちゃについて（目標２）
第19回	パペット作りとごっこ遊び（目標３）
第20回	パペット作りとごっこ遊びⅡ（目標３）
第21回	パペット　おもちゃ　作って遊ぶ（目標３）
第22回	パペット　おもちゃ　作って遊ぶⅡ（目標３）
第23回	劇発表（目標３）
第24回	劇発表（目標３）
第25回	劇発表　　評価　（目標３）
第26回	グッド・トイ発表会（目標３）
第27回	グッド・トイ発表会Ⅱ（目標３）
第28回	グッド・トイ発表会Ⅲ（目標３）
第29回	グッド・トイ発表会Ⅳ（目標３）
第30回	まとめ　評価

予習・復習の内容	予習	玩具・遊具に関する資料、本、研究論文を読む。
	復習	授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。
	展開	授業で学習したことを基に、玩具・遊具・教材を開発、製作し、保育・教育の現場で活用する。

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	発表（ 30%），レポート（ 30%），作品提出（ 30%），授業への参加度（ 10%）

教科書	書籍名	保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び
	著者名	植草一世
	出版社	大揚社
	価格	2500
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	・教科書以外に材料費を事前集金する（ 500円位）。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT201
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1012101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育の制度，保育の歴史，保育の課題，統合保育
授業のねらい・概要	保育についての基本的な学びをすると共に，幼児教育の視点も加えた幅広い理解を持てるようにする。 また保育の基本や現状・課題等について学び，幼児の育ちを支援する保育の原則を理解できるようにする。 さらに障害のある子も共に育つ保育の在り方を，保育全体の在り方の問題として考えられるようにする。
学生の達成目標	1. 保育の歴史,また先人の思想と実践を学び,保育の意義を理解する。 2. 幼稚園と保育所について,相違点と共通点を学び,保育について広い視野を持てるようにする。 3. 保育の現状と課題について認識する。 4. 障害のある子も共に育つ保育の基本姿勢を学ぶ。
授業内容	第1回　保育とは何か(人間・子ども・育ち)(目標1) 第2回　保育・幼児教育の歴史 ① 社会と子ども(目標1) 第3回　保育・幼児教育の歴史 ② 人・思想・実践(目標1)

第4回	現代社会と幼児の生活(目標2)
第5回	幼稚園と保育園(根拠・法制度・目的)(目標2)
第6回	保育の目的と在り方(目標2,3)
第7回	幼児期の子どもの育ち(自己認識・関係性の変化)(目標2,3)
第8回	保育者の立場と役割(目標2,3)
第9回	保育の現状と課題 ①(保育をめぐる多様なニーズ)(目標3)
第10回	保育の現状と課題 ②(社会の視点から)(目標3)
第11回	統合保育 ① 共に生きる社会作り(目標4)
第12回	統合保育 ② どの子にも必要なもの(目標4)
第13回	統合保育 ③ すべての人の課題として-障害受容-(目標4)
第14回	統合保育 ④ みんなの育ちとしての関係作り(目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	次時の授業内容に即して、教科書、資料に目を通し、用語、法令等に関する予備知識を持てるようにする。
	復習	授業で配布された資料及び記録したノートを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	新聞等に取り上げられる子ども、保育の問題に関心を払い、資料として収集する。 実際の保育機関にボランティアで赴き、体験を通して学ぶ。

成績評価	評価の基準	保育の基本を学びとることができたか。 子どもの育ちを支援する保育の在り方について，幅広い視野でとらえ，考えることができたか。
	評価の方法	期末試験 70%　授業中のレポート 20%　授業への参加姿勢 10%

教科書

書籍名	文部科学省「幼稚園教育要領」
著者名	
出版社	フレーベル館
価格	100円
ISBN・ISSN	978 -4-577-81240-2

書籍名	厚生労働省「保育所保育指針」
著者名	
出版社	フレーベル館
価格	120円
ISBN・ISSN	978 -4-577-81241-9

	書籍名	「最新保育資料集」
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,000円
	ISBN・ISSN	978 -4-623-05335-3
推薦図書等	書籍名	「最新保育用語辞典」
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,300円
	ISBN・ISSN	978 -4-623-05407-7

参考URL

備考

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT202
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1011101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て家庭、子どもの権利、保育の役割
授業のねらい・概要	子どもと子育て家庭をめぐる現状と課題について、児童福祉視点から理解する。また、保育者として担うべき役割について、子どもの権利の視点から学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもと子育て家庭に関する現状と福祉的支援について理解する。 2. 権利主体としての子ども理解を前提として、児童福祉の法律や政策を歴史的変遷と併せて知り、 3. 国内外の状況をふまえ、子ども支援全体における児童福祉および保育士の役割について考える。
授業内容	第1回　オリエンテーション、子どもと子育て家庭の現状①育児不安、育児ストレス（目標1） 第2回　子ども・子育て家庭の現状 ②貧困（目標1） 第3回　子ども・子育て家庭の現状③児童虐待（目標1） 第4回　子ども・子育て家庭の現状 ④学齢以降の子どもの現状など（目標1）

	第5回	権利主体としての子ども理解（目標２）
	第6回	子どもの権利条約（目標2）
	第7回	児童福祉の歴史①近代国家成立以前と以降（目標２）
	第8回	児童福祉の歴史 ②ニーズ対応型から権利基盤型アプローチへ（目標２）
	第9回	児童福祉に関する法律（目標２）
	第10回	児童福祉の費用（目標２）
	第11回	児童福祉に関する相談機関・施設とその担い手（目標3）
	第12回	子どもと子育て支援の連携、ネットワーク（目標3）
	第13回	海外の児童福祉（目標3）
	第14回	児童福祉の役割と保育（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	子どもと子育て家庭についての現状を、新聞記事などから把握する。
	復習	返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。
	展開	再考したテーマについて、文献や授業内容を参考に継続して考察し、自分の考えを言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新保育士養成講座編纂委員会編『新保育士養成講座第３巻 児童家庭福祉』
	著者名	全国社会福祉協議会
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	１,900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978 -4-7935-1028-1
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT101
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1009101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，権利擁護
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。 社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。 利用者保護の仕組みの理解と今後の社会福祉の課題について理解する。
学生の達成目標	1.　社会福祉の意義を歴史的変遷との関わりで理解する（目標1） 2.　対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等について理解する(目標2) 3.　社会福祉の動向と課題について理解する(目標3)
授業内容	第1回　社会福祉をめぐる状況(目標1) 第2回　社会福祉の理念と概念(目標1) 第3回　社会福祉の歴史(目標1) 第4回　社会福祉と社会保障の関係　(目標2) 第5回　社会保障と関連制度（目標2）

	第6回	社会福祉の仕組み（制度と法体系）（目標2）
	第7回	社会福祉の仕組み（行財政と実施機関、施設）（目標2）
	第8回	低所得者の福祉（目標2，3）
	第9回	子どもと家庭の福祉1（現代の家族と「子ども家庭福祉」（目標2，3）
	第10回	子どもと家庭の福祉2（子どもの人権と福祉）（目標2，3）
	第11回	障害者福祉（目標2，3）
	第12回	高齢者福祉（目標2，3）
	第13回	その他の社会福祉（地域福祉含む）（目標2，3）
	第14回	社会福祉専門職と非専門的社会福祉従事者（目標2，3）
	第15回	社会福祉援助の方法（目標2，3）
予習・復習の内容	予習	該当する内容をテキスト等で確認する
	復習	授業内容や配布資料等を用いて、確実に理解する
	展開	疑問点等について、文献等を利用し、さらに理解を深める
成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できることを合格とする。
	評価の方法	平常点（期間中に課すレポート）　20%，期末筆記試験　80%
教科書	書籍名	保育者のための社会福祉
	著者名	小林育子
	出版社	萌文書林
	価格	1 ,890円
	ISBN・ISSN	4 -89347-084-1

推薦図書等

参考URL

備考

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT203
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1010101（水曜日5時限）,A1010102（金曜日5時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	援助過程，援助関係，コミュニケーション，福祉倫理
授業のねらい・概要	保育の場面で必要とされる相談援助について具体的に学ぶ。
学生の達成目標	1. 相談援助の意義・目的を理解する。 2. 相談援助の方法を理解し,基本的な相談援助技術を身につける。 3. 相談援助を行う者の有する価値・倫理・倫理綱領を学ぶ。
授業内容	第1回　授業の進め方・評価方法 相談援助とは(目標1) 第2回　相談援助場面(構成要素・展開過程・倫理)(目標1) 第3回　相談援助の技法1援助関係(目標2) 第4回　相談援助の技法2コミュニケーション(目標2) 第5回　相談援助の技法3傾聴(目標2) 第6回　相談援助の技法4記録(目標2) 第7回　相談援助の技法5面接(目標2)

	第8回	相談援助の技法6アセスメント(目標2)
	第9回	相談援助の技法7評価(目標2)
	第10回	相談援助の事例1(目標1,2,3)
	第11回	相談援助の事例2(目標1,2,3)
	第12回	相談援助の事例3(目標1,2,3)
	第13回	相談援助の事例4(目標1,2,3)
	第14回	関連機関との連携(目標1,2,3)
	第15回	チームアプローチ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	①教科書の指定箇所を読んで，ワークシートを仕上げる。
	復習	①授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べ，まとめておく。
	展開	
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業の参加度10%で評価する。
教科書	書籍名	ワークシート式「相談援助」
	著者名	
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	考え・実践する保育相談支援
	著者名	杉本敏夫監修
	出版社	保育出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成します。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。	

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT204
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1014101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，児童福祉施設，家庭的養護，子どもの最善の利益
授業のねらい・概要	社会的養護の意義とその制度・実施体系を学ぶ。特に，児童福祉施設の入所児の現状を理解し，施設における児童養護の基本的考え方を学ぶ。さらに，子どもを取り巻く現代の社会状況を考えるとき，社会的養護を学ぶことは，子どもの権利擁護や保育所の役割，家庭支援在り方について理解を深めることにつながることを学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護をめぐる現状(特に虐待問題)を知り,保育所,学校,施設の新たな役割を認識する。 2. 社会的養護の意義とその制度・実施体系を学び,基礎的な知識を身につける。 3. 児童福祉施設の現状と課題を理解し,これからの児童養護のあり方について自ら考えることができる。
授業内容	第1回　社会的養護とは・・・社会的養護の対象と体系(目標1) 第2回　児童虐待問題(1)児童虐待の現状と現代の子育て(目標1) 第3回　児童虐待問題(2)虐待を受けた子どもたちの様相と児童福祉施設及び学校の役割(目標1)

	第4回	社会的養護の歴史(1)古代から明治期まで(目標1,2)
	第5回	社会的養護の歴史(2)明治期から現代まで(目標1,2)
	第6回	児童相談所の役割(目標2)
	第7回	養育環境に問題がある児童の施設養護(1)(乳児院)(目標3)
	第8回	養育環境に問題がある児童の施設養護(2)(児童養護施設 母子生活支援施設)(目標3)
	第9回	情緒・行動面に問題がある児童の施設養護(児童自立支援施設 情緒障害児短期治療施設)(目標3)
	第10回	障害のある児童の施設養護(1)(福祉型障害児入所施設)(目標3)
	第11回	障害のある児童の施設養護(2)(医療型障害児入所施設)(目標3)
	第12回	家庭的養護 (里親,ファミリーホーム,自立援助ホーム)(目標3)
	第13回	家庭養育を支援する施設(児童発達支援センター,児童家庭支援センター)(目標3)
	第14回	児童福祉施設の運営管理(目標4)
	第15回	社会的養護における今後の課題とこれからの保育士に求められるもの(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	虐待等の子どもに係る社会的問題に日頃から関心を持ち，新聞・テレビ等の報道を理解しておくこと。 授業内容に関連した項目について，事前に推薦図書を読んでおくこと。
	復習	毎回の授業のプリントを見直し，理解しておくこと。 毎回の授業に関連する推薦図書の内容を読み直すこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	期末試験70%，授業中のレポート30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリントを配布する。	
推薦図書等	書籍名	検討中
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		

備考

子どもの保健ＩＡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT301
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＡ
科目責任者	齋藤　博子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1015101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児保健，発育，発達，健康，こどもの病気
授業のねらい・概要	小児は新生児から思春期まで劇的な身体的・精神的な変化を遂げる。この間の発達過程と疾病，小児の健やかな成育を援助するための社会的制度の概要について学び，理解する。
学生の達成目標	1. 小児保健の意義と目的を理解する。 2. 小児の発育・発達過程について基本的な知識を身につける。 3. 小児に特有な事故,疾病についての知識を得て,基本的対応ができる。
授業内容	第1回　小児保健総論(目標1) 第2回　身体発育・胎生期(目標2) 第3回　生理機能(目標2) 第4回　運動機能・精神発達(目標2) 第5回　栄養(目標1,2) 第6回　生活・環境・保育(目標1,2)

	第7回	新生児・乳幼児期(目標2,3)
	第8回	思春期(目標2,3)
	第9回	健康と病気(目標3)
	第10回	事故・応急処置(目標3)
	第11回	予防接種・感染症(目標1,3)
	第12回	こどもの病気①心,腎,消化器(目標3)
	第13回	こどもの病気②アレルギー,内分泌・代謝(目標3)
	第14回	こどもの病気③血液腫瘍,神経(目標3)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に，次回の授業内容について教科書を読み，知識を深めておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の内容の理解，およびそれに基づき自分の考えを文章として表現できるかを評価基準とする。
	評価の方法	授業への参加・コメントシートへの記入（30%）と学期末の試験の成績（70%）による。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	看護師として小児・保護者に関わっている視点から，小児の発育・発達，疾病について概説する。	

子どもの保健ＩＢ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT302
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＢ
科目責任者	齋藤　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1016101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児，発達障害，特別支援教育，医療的ケア
授業のねらい・概要	小児保健通論Ｉで学んだ小児の正常な成長発達過程をもとに，障害とは何か，小児における障害の種類と特徴，その対処と援助法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 小児の障害について知識を習得する。 2. 障害の内容とその対処法について理解する。 3. 同じ障害があってもひとりひとりにあった対応を自ら考え,実践できることを目標とする。
授業内容	第1回　障害とは,視覚障害,聴覚障害(目標1) 第2回　遺伝性疾患(目標1,2) 第3回　知的障害,運動障害(目標1,2) 第4回　発達障害(ADHD,LD,高機能広汎性発達障害)①発達障害の理解(目標1,2) 第5回　発達障害(ADHD,LD,高機能広汎性発達障害)②発達障害への対応(目標1,2,3)

	第6回	てんかん①てんかんの理解(目標1,2,3)
	第7回	てんかん②てんかんへの対応,発作介助(目標1,2,3)
	第8回	小児虐待(目標2,3)
	第9回	医療費助成・福祉制度(目標1)
	第10回	特別支援教育(目標1,2,3)
	第11回	医療的ケア(目標1,2,3)
	第12回	重症心身障害児に特有な症状と対応(目標1,2)
	第13回	小児のリハビリテーション(目標1,2)
	第14回	保健室登校(目標2,3)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に，次回の授業内容について参考図書を読んだり，関連する報道について関心をもち，考えを深めておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の内容の理解，およびそれに基づき自分の考えを文章として表現できるかを評価基準とする。
	評価の方法	授業への参加・コメントシートへの記入（30%）と学期末の試験の成績（70%）による。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	看護師の立場から，障害児の実態，こどもと保護者の抱える困難さとそれに対する支援について概説する。	

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT303
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1017101（前期）,A1017102（後期）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児の発育と発達，小児の疾患，救急処置，感染症予防
授業のねらい・概要	保育園・幼稚園における小児の健康を守り，発育を援助する知識と技術を学ぶ。
学生の達成目標	1. 健常な小児の発育とその判定基準を理解し,健康診断の意義を知る。 2. 小児の疾患の早期発見と保育施設での援助の実際を知る。 3. 感染症の対応と予防について学ぶ。 4. 応急手当が適切に行える。さらに,医療機関との連携ができる。 5. 家庭と連携し,小児の健康の維持増進を計画できる。
授業内容	第1回　小児の身体的特徴,乳児の抱き方,寝かせ方,衣服の着脱 第2回　身体発育の測定と評価およびその後の管理,肥満とやせ 第3回　環境管理(室温,湿度,季節の管理) 第4回　子供の栄養と食事(哺乳,離乳,食に関する諸問題) 第5回　睡眠と生活リズムの援助,おむつ交換,トイレットトレーニング

	第6回	身体の清潔(歯磨き,爪切り,耳掃除,沐浴)
	第7回	健康観察(体温測定),発熱時の対応と看護
	第8回	車いす
	第9回	感染の予防(消毒法)
	第10回	感染の予防(感染症発症後の対応と感染拡大の予防)
	第11回	事故の防止と安全対策と応急処置
	第12回	事故の防止と安全対策と応急処置
	第13回	アレルギー疾患の日常管理(アトピー性皮膚炎,気管支喘息,食物アレルギー)
	第14回	慢性疾患をもつ子供の援助(川崎病,小児がん,腎臓疾患など)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	講義内容を読み，普段の生活で疑問に思うことや問題点を整理しておくこと。また，新聞やテレビのニュースなどで子どもの健康に関する情報を得ておくこと。
	復習	教科書を読み，ノートをまとめること。演習問題を解いておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	講義したことが理解でき，実習などの場面で応用できること。
	評価の方法	考査（60点以上を合格とする。ただし，授業態度が悪い場合は減点する場合がある。）
教科書	書籍名	最新保育保健の基礎知識
	著者名	監修　巷野悟朗　編集　日本保育園保健協議会
	出版社	日本小児医事出版
	価格	2,800円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療
	著者名	大塚親哉　監修　金子堅一郎　編集
	出版社	南山堂
	価格	10,500円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	子供の病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦・柳澤正義　監修

出版社	講談社
価格	4,000円＋税
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT304
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	台蔵　昌子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1018101（前期）,A1018102（後期）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	胎児・小児期の心身の発育と発達，栄養摂取法，健全な食生活
授業のねらい・概要	小児栄養の特徴および重要性を学び，現代の食生活環境の問題点を掘り起こし対策を考え，健全育成に繋げる。 小児期，学童期，思春期までの発育課程における栄養素の生理的意義および健全な食生活を営むため理解と実践の方法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 小児の発達過程と必要栄養重要性を理解する。 2. 食品の成分(栄養素)と身体の構成成分との繋がりに関しての基礎知識を理解する。 3. 対象別栄養と食事摂取基準の考え方を理解する。 4. 病児・障害のある小児や児童福祉施設における食生活の特徴と留意点を理解する。 5. 自分自身および現代日本における食生活の現状を見つめ,環境問題をも含め健康な身体の重要性を考察する。
授業内容	第1回　小児の健康な生活と食生活の意義(目標1) 第2回　小児の発育・発達と食生活(目標1)

	第3回	栄養・食品・調理と安全性に関する基本的知識(目標2)
	第4回	妊娠期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
	第5回	授乳期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
	第6回	乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 1)乳汁栄養(母乳栄養と人工栄養)(目標1,3)
	第7回	乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 2)離乳の意義とその実践法(目標1,3)
	第8回	幼児期の食生活の特徴とその実践法と食育(食事摂取基準と配分,生活リズム)(目標1,3)
	第9回	幼児期の間食・弁当の意義とその実践法と食育(目標3)
	第10回	幼児期の偏食・むら食い・食欲不振等栄養上の問題点と健康への対応と食育(目標3)
	第11回	学童期・思春期の心身の特徴と食生活の在り方と食育(目標3)
	第12回	小児期の疾病と特徴と食生活・食事療法(目標4)
	第13回	障害のある小児(主として摂食・嚥下機能障害児)の食生活と食事介助法(目標4)
	第14回	児童福祉施設(保育所・養護施設),幼稚園における食生活の特徴と食育,支援(目標4)
	第15回	総括(目標5)
予習・復習の内容	予習	授業の最後に次週に行う内容の下調べをする課題を伝達し，次週にそれに基づいた発表を行う。
	復習	発表の成果・感想に関してレポートを書く。授業後に内容をまとめ提出する。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容の理解と発表等に関しての総合評価
	評価の方法	平常点（発表態度を含む）30点，レポート点20点，期末筆記試験50点
教科書	書籍名	子どもの食と栄養演習
	著者名	小川・坂本・曽根・豊原・中嶋著
	出版社	建帛社
	価格	￥2,730（税込み）
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3282-8
推薦図書等		
参考URL		

備考	・乳児保育演習（２年次）が身についていることが望ましい。 ・自分自身の食生活に関心を持つこと。 ・実験着（エプロン，三角巾）を使用することがある。使用の場合は前々週に連絡する。

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT305
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1020101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	全ての子育て家庭、子どもと家族、支援の方法
授業のねらい・概要	子どもをめぐる今日的課題と家族の変容とを関連付けて理解し、子育て家庭を支援する基本的な方法を知る。また、子どもの最善の利益を実現するために家族支援することが、保育の対象であることを認識し、地域における全ての子育て家庭を支援する保育実践者としての意義と意欲を形成する。
学生の達成目標	1. 子どもをめぐる今日的課題と家族の変容とを関連付けて理解する。 2. 子どもだけでなく、家族を支援することが保育の対象であることを認識し、家族支援の基本的な方法を知る。 3. 子どもの最善の利益を実現するために、地域における全ての子育て家庭を支援する意欲を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション、自分と家族を考える（目標1） 第2回　家族の定義と家族の変容（目標1） 第3回　家族の今日的課題①子どもの抱える課題（目標1） 第4回　家族の今日的課題②親の抱える課題（目標1）

	第5回	家族の今日的課題③家族と社会との関係性における課題（目標1）
	第6回	子育て課題と家族の課題との関係性（目標2）
	第7回	家族におこる問題と支援の検討①虐待、障がいなど（目標2）
	第8回	家族におこる問題と支援の検討②DV、疾病など（目標2）
	第9回	家族の固有性と支援の検討①若年親（目標2）
	第10回	家族の固有性と支援の検討②高齢親（目標2）
	第11回	地域における子育て家庭の実態（目標3）
	第12回	在宅親子への支援の検討（目標3）
	第13回	予防的支援、継続的支援（目標3）
	第14回	子育て支援とマネージメント（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	子どもが呈する問題を家族の課題から読み解き、レポートできるようにしておく。
	復習	返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。
	展開	子どもの最善の利益の実現のために家族を支援する筋道をたて、言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT102
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（身体表現）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1023101（火曜日2時限）,A1023102（火曜日3時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	自分の身体及び身体表現を知ることは，子どもの身体表現を理解することに繋がる。また，子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには，自らがその楽しさや面白みを体感している必要がある。従って，本授業では，身体を使ったあそびや表現を通して，丁寧に自分の身体感覚に耳を傾け，他者と関わり合いながら表現することの楽しさを味わい，自分や他者の身体表現を知ることをねらいとする。
学生の達成目標	1. 身体を動かすことの楽しさを味わうこと。 2. 自分自身や他者との関わりの中で身体を表現することの楽しさを味わうこと。 3. 自分や他者の身体や表現について様々な気づきを持つこと。 4. 身体を動かす際,また身体表現の際,自分が何を感じているかを考えられること。 5. 授業内だけでなく,日常生活の中での学生自身と子どもの身体表現を考えることができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　リズムあそびを通したコミュニケーション(目標1,2) 第3回　身体を通したコミュニケーション(目標1,2) 第4回　自分の身体と他者の身体を知る(目標3) 第5回　五感をみつめる(1)自分の身体感覚をみつめる(目標3,4) 第6回　五感をみつめる(2)他者との関わりの中で身体感覚をみつめる(目標3,4) 第7回　日常生活での身体表現(目標5) 第8回　単純な動きからの表現(走るーとまるー見る)(目標1) 第9回　単純な言葉からの表現(オノマトペ)(目標3,4) 第10回　子どもの頃に体験したいろいろなあそび(目標2,5) 第11回　アルゴリズム体操(目標1,4) 第12回　模倣からの即興表現を楽しむ(目標2,5) 第13回　リズムダンス(目標1,2) 第14回　発表のための創作(目標2,3,4) 第15回　学生による発表とまとめ(目標1,3,5)

予習・復習の内容	予習	以下の参考図書など，身体表現に関連した図書を読んだり，身体表現に日常から関心を持ち理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。
	評価の方法	レポート40%，受講態度・提出物等の提出状況60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	保育と幼児期の運動あそび』
	著者名	岩崎洋子
	出版社	萌文書林
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	978-4-89347-130-7
参考URL		
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。	

保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT103
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（身体表現）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1023201（火曜日2時限）,A1023202（火曜日3時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	様々なテーマに基づき，物を使った表現やあそびを通して，多様な身体の動きを経験し，仲間と共に動きを創りだしていく楽しさを味わう。また，子どもの身体が伝えていることを受け止めるということについて考えながら，学生自らの表現や子どもの表現の可能性と面白さに気づく力を養うことをねらいとする。
学生の達成目標	1. 他者との関わる中で身体表現の楽しさを味わうこと。 2. 多様な身体の動きを経験することで得られる気づきについて考えられること。 3. 自分の身体が何を伝えているか,どのように他者の表現を受けとめているかを自覚できること。 4. 様々な身体の動きを創ることができること。 5. 自分や他者の動きや表現の面白さに気づき,そこから工夫することができること。

授業内容	第1回	前期の振りかえり,身体が伝えていること
	第2回	模倣からの表現(ミラー他)(目標1,2)
	第3回	身体の部分を意識する(1)身体部位の意識,色々な部分で文字を書く他(目標1,2)
	第4回	身体の部分を意識する(2)人間彫刻他(目標1,2)
	第5回	音楽やリズムで変わる身体(リトミック運動)(目標2,3)
	第6回	身の回りの物の形と身体表現(目標1,2)
	第7回	イメージと表現(1)言葉をヒントに(動詞,形容詞を使って)(目標2,3)
	第8回	イメージと表現(2)カードをヒントに(へんなへんな国の行進他)(目標1,2,3)
	第9回	身の周りの物を使った表現(1)新聞紙(目標1,2,3)
	第10回	身の周りの物を使った表現(2)わりばし(目標1,2,3)
	第11回	模倣からの即興表現を楽しむ(目標2,3)
	第12回	創作(1)(目標4,5)
	第13回	創作(2)(目標4,5)
	第14回	発表(目標3,5)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	以下の参考図書など，身体表現に関連した図書を読んだり，身体表現に日常から関心を持ち理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。
	評価の方法	レポート40%，受講態度・提出物等の提出状況60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	あ・た・ら・し・い表現遊び―動いてみよう！考えてみよう！
	著者名	小谷隆真
	出版社	すずき出版
	価格	1,838円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。	

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021101（月曜日3時限）,A1021102（月曜日4時限）,A1021103（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.　自力で読譜ができる 2.　保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.　ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする 4.　楽しく子供の歌を弾き歌いできる
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育における音楽 第2回　楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1) 第3回　教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3) 第4回　旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3)

	第5回	～ №39(目標1,3)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,3)
	第7回	～ №47(目標1,3)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,3)
	第9回	～ №56(目標1,3)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2,4)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2,4)
	第13回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2,4)
	第14回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2,4)
	第15回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2,4) 期末試験
予習・復習の内容	予習	3回目以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して、1週間定期的に時間をかけて練習する。 弾き歌いに関しても同様である。
	復習	授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。 仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，達成曲 30%

教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1 ,200円
	ISBN・ISSN	4 -8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,400円
	ISBN・ISSN	4 -11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021104（月曜日3時限）,A1021105（月曜日4時限）,A1021106（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ演奏，弾き歌い
授業のねらい・概要	保育において，子どもが身の回りの様々な音や音楽に親しみ，発達に即した音楽表現活動を楽しむために必要な基礎的な知識や技術を，主にピアノ演奏と歌唱を中心に習得する。
学生の達成目標	1. 身の回りの様々な音や音楽に親しみ,子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 2. 自分で楽譜を読み,子どもの歌を易しい伴奏で楽しく弾き歌いすることができる。 3. 子どもの歌のレパートリーを増やし,子どもの発達に即した活用法を考えようとする。
授業内容	第1回　オリエンテーション 身の回りの様々な音や音楽と保育における音楽表現活動(目標1) 第2回　楽譜を読むための基礎知識 ピアノを弾くための基礎知識(目標2) 第3回　4分音符による練習曲 ① 歌うための基礎知識(目標2)

	第4回	4分音符による練習曲 ② 旋律を弾きながら歌う ①(目標2)
	第5回	8分音符による練習曲 旋律を弾きながら歌う ②(目標2)
	第6回	ヘ音記号の練習 旋律を弾きながら歌う ③(目標2)
	第7回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標2)
	第8回	8分の3拍子,8分の6拍子による練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ①(目標2)
	第9回	主要3和音に慣れる 易しい伴奏による弾き歌い ②(目標2)
	第10回	ハ長調の音階とその練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ③(目標2)
	第11回	イ短調の音階とその練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ④(目標2)
	第12回	子どもの発達に即した教材の活用法(目標2,3)
	第13回	音楽表現を含む遊びの展開(目標1,2,3)
	第14回	保育現場を想定したピアノ曲・弾き歌いの発表(目標1,2,3)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	・楽譜の読み方を復習しておく。 ・子どもの歌、幼児向け番組の音楽等に関心を持つ。 ・知っている曲をピアノで弾いてみる。 ・授業の課題曲を練習する。
	復習	・授業で示された課題点を解決できるよう練習に取り組む。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。
	展開	・実習・就職を視野に入れ、継続的・自発的に練習に取り組む。
成績評価	評価の基準	各人の現在の演奏技能に合わせて設定した毎週の課題を弾きこなすことができたか。 保育現場を想定した場で練習成果を発表できたか。
	評価の方法	ピアノの弾き歌いの発表（ 70%）課題の合格状況（ 30%）

教科書	書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
	著者名	坂東貴余子・本間正治
	出版社	ドレミ楽譜出版
	価格	1,260円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4810863662
	書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
	著者名	東　保
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,730円
	ISBN・ISSN	ISBN:4116200506

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。 初心者でも指導に従って練習すれば現場に出て困らないだけの演奏技術を習得することができます。 毎日 30分は練習して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021107（月曜日3時限）,A1021108（月曜日4時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ピアノと歌
授業のねらい・概要	保育における音楽活動実践に必要な演奏技術の基礎を習得。
学生の達成目標	1. ピアノ:教科書No.56までを終了すること。 2. 歌:「生活の歌」,易しい「季節の歌」を習得。 3. 弾き歌い:各自のレヴェルに応じた曲を1～5曲仕上げる。 4. 人前での演奏を体験する。
授業内容	第1回　オリエンテーションと各自レヴェル把握のため 全員が「おとなのためのバイエル」No.20(バイエル原本No.31)を試奏(目標1,4) (準備,練習しておくこと) 次回からの課題を個人別に提示 第2回　「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始

第3回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第4回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第5回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第6回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第7回	「子供の歌」歌唱練習(目標2,4)
第8回	「おとな大人のためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第9回	「おとな大人のためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第10回	「おとな大人のためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第11回	「おとな大人のためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) 弾き歌い:ピアノ終了者より随時開始
第12回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) ただし全員が弾き歌い課題曲に取り組む
第13回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) ただし全員が弾き歌い課題曲に取り組む
第14回	「おとなのためのバイエル」他,各人のレヴェルに応じた課題曲(目標1,3) ただし全員が弾き歌い課題曲に取り組む
第15回	ピアノと弾き歌いの発表会（目標１，３，４）

予習・復習の内容	予習	次回までの課題曲を必ず弾きこなしてくる。
	復習	合格した曲を忘れぬよう，適宜，弾いたり歌ったりする。
	展開	

成績評価	評価の基準	課題（各自のレヴェルによる基準）到達・ピアノ試験・弾き歌い試験。
	評価の方法	実技試験60%，課題の達成度30%，授業の参加度10%

教科書	書籍名	おとなのためのバイエル教本
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた１
	著者名	東 保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
推薦図書等	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原　雅之他
	出版社	教育芸術者
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-87788-443-7
参考URL		
備考	事前にピアノ教室等に通い，ピアノの基礎テクニックを予め身につけておく必要がある。	

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021109（月曜日3時限）,A1021110（月曜日4時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱技能，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽表現に関する知識や技術を習得するために，ピアノ演奏の基礎技術を身につけながら，楽典や音楽理論の基礎知識，さらに保育現場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 各自の進度によって決められたピアノ課題曲を弾けるようにする(教科書56番終了を目標とする)。 2. 春の歌,夏の歌,生活の歌から数曲弾き歌いができるようにする。 3. 楽典や音楽理論の基礎的な知識を身につける。
授業内容	第1回　保育における音楽とは。授業ガイダンス,初心者・既習者のグレード分け(目標1) 第2回　楽譜を読むための基礎知識・ピアノ演奏のための基礎知識(目標1,3) 受講学生の進度に応じて教科書『おとなのためのバイエル教本』の課題を決定

	第3回	『おとなのためのバイエル教本』手のかたち,姿勢に気をつける(目標1)
	第4回	『おとなのためのバイエル教本』旋律と伴奏のバランスを考える(目標1)
	第5回	『おとなのためのバイエル教本』楽典の基礎知識①(速度・強弱記号)(目標1,3)
	第6回	『おとなのためのバイエル教本』楽典の基礎知識②(発想記号)(目標1,3)
	第7回	『おとなのためのバイエル教本』主要三和音の理解(目標1,3)
	第8回	『おとなのためのバイエル教本』指づかいについて 歌唱のための基礎知識(目標1,2)
	第9回	『おとなのためのバイエル教本』指の運動について 課題曲の提示,歌唱と伴奏法(目標1,2)
	第10回	『おとなのためのバイエル教本』読譜力をつける 課題曲の歌唱について(目標1,2)
	第11回	教科書『おとなのためのバイエル教本』表情豊かな演奏を目指す 歌唱課題曲の発表(目標1,2)
	第12回	『おとなのためのバイエル教本』コードネームの理論 生活の歌(目標1,2)
	第13回	『おとなのためのバイエル教本』コードネームの実践 春・夏の歌(目標1,2)
	第14回	『おとなのためのバイエル教本』試験の課題曲について 保育現場を想定した弾き歌い(目標1,2)
	第15回	目標の確認とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎回の授業で各自の進度に応じた課題曲を数曲を指示します。必ず課題を練習してから授業に出席するようにしてください。
	復習	授業直後の復習は演奏技能を身につける早道です。指摘された箇所をその日のうちに確認して下さい。楽典やコードネーム等，音楽の知識に関しては，様々な楽曲の事例にあたりながら知識を定着させるようにしましょう。
	展開	
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。歌唱課題曲の発表ができたか。教科書の目標曲まで到達したか。楽典や音楽理論の基礎知識を理解できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表50%，達成曲30%，平常点20%

教科書

書籍名	おとなのためのバイエル教本
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円

	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
推薦図書等	書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた１
	著者名	東 保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
参考URL		
備考	履修人数の上限を設定する。上限を超えた場合，保育士資格取得予定者を優先とする。 初心者でも毎日短時間で構わないので継続して練習すれば，ピアノは弾けるようになります。努力できる学生の受講を希望します。各自課題を練習してから授業に臨むこと。鍵盤楽器を持たない学生は，学内の練習ピアノを活用してください。	

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021201（月曜日4時限）,A1021202（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	1. 現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす 2. 現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす 3. 楽しく子供の歌の弾き歌いができる 4. 現場を想定した音楽活動ができる
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現) 第2回　教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2,3) 第3回　子供の歌の弾き歌い(目標2,3) 第4回　子供の歌の弾き歌い(目標2,3)

第5回	#1つの調性の曲に慣れる。 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第6回	『やさしい伴奏によるこどものうた』(目標2,3)
第7回	#2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』(目標2,3)
第9回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第10回	『やさしい伴奏によるこどもの』(目標2,3)
第11回	♭2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第12回	『やさしい伴奏によるこどもの』(目標2,3)
第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2,3)
第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標3,4)
第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標3,4) 期末試験

予習・復習の内容	予習	指定された課題を自力で読譜ができ、弾けるようにして授業に臨む。次の週には同様に歌のパートをよく練習しておく。次の段階として、暗譜で弾き歌いができるようにして、自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	授業中に指摘された誤りや注意は、その日の内に直しておく事。翌日になると忘れてしまい、次の授業の際に全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場においては音楽表現は重要な活動となるため、課題以外に積極的に多くの弾き歌いの曲に取り組むように努力する事。

成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，達成曲 30%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1 ,200円
ISBN・ISSN	

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた」
著者名	東　保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,400円
ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021203（月曜日4時限）,A1021204（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ演奏，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）での学習を基礎として，音楽表現活動に関する知識や技術を高め，保育現場を想定した実践的な伴奏法，歌唱法を学ぶ。 必要な基礎的な知識や技術を，主にピアノ演奏と歌唱を中心に習得する。
学生の達成目標	1. 子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気付き,子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 2. 子どもの歌を音楽性豊かに弾き歌いしようとする。 3. 子どもの歌等のレパートリーを広げ,子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考えることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動 音楽表現活動と他の表現活動の関わり(目標1) 第2回　3連符と 16分音符による練習曲 4月の教材と弾き歌い(目標2) 第3回　ト長調の音階とその練習曲 5月の教材と弾き歌い(目標2) 第4回　ホ短調の音階とその練習曲 6月の教材と弾き歌い(目標2)

第5回	ヘ長調の音階とその練習曲 7月の教材と弾き歌い(目標2)
第6回	二短調の音階とその練習曲 9月の教材と弾き歌い(目標2)
第7回	二長調の音階とその練習曲 10月の教材と弾き歌い(目標2)
第8回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ① 11月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第9回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ② 12月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第10回	易しい移調奏 1月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第11回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ① 2月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第12回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ② 3月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第13回	わらべ歌の活用法と遊びの展開(目標3)
第14回	保育現場を想定したピアノ曲・弾き歌いの発表(目標1,2,3)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	・保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）での課題を復習する。 ・子どもの歌の弾き歌いを練習する。 ・授業時に示された課題曲に取り組む。
	復習	・授業時に示された課題点を解決するよう練習に取り組む。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。 ・合格した課題曲を友人や家族などに披露し、人前で演奏することに慣れる。
	展開	・実習・就職を視野に入れて、子どもの曲のレパートリーを広げ、継続的・自発的に練習に取り組む。

成績評価	評価の基準	各人の現在の演奏技能に合わせて設定した毎週の課題を弾きこなすことができたか。 保育現場を想定した場で練習成果を発表できたか。
	評価の方法	ピアノ及び弾き歌いの発表（ 70%）課題の合格状況（ 30%）

教科書

書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
著者名	坂東貴余子・本間正治
出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,260円
ISBN・ISSN	ISBN： 4810863662

書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
著者名	東　保
出版社	全音楽譜出版社

価格	2,730円
ISBN・ISSN	ISBN:4116200506

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。 初心者は「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修した後に受講することが望ましい。 自分で読譜ができ，「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」履修者と同等程度のピアノ演奏技能があるという前提で授業を行います。 指導に従って毎日 30分は練習して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021205
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	弾き歌い
授業のねらい・概要	保育における音楽活動の中心となる弾き歌いのレパートリーを増やす。
学生の達成目標	1. ピアノ:教科書No.70までを終了すること。 2. 歌:季節の歌,行事の歌,愛唱歌を習得。 3. 弾き歌い:前期習得と合わせて12曲を終了すること。(暗譜) 4. 人前での演奏テクニック,心構えを学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーションと試奏(ピアノ:No.57,58,59のうち1曲選択,弾き語り:自由曲3曲)(目標1,4) 第2回　子供の歌(一斉授業) ピアノ弾き語り(個別)(目標1,2,3) 第3回　子供の歌(一斉授業) ピアノ弾き語り(個別)(目標1,2,3) 第4回　子供の歌(一斉授業) ピアノ弾き語り(個別)(目標1,2,3)

第5回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第6回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第7回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第8回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第9回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第10回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第11回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第12回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第13回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第14回	弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1,3,4) ピ ア ノ：各自のレヴェルに合った課題曲
第15回	ピアノと弾き歌いの発表会（目標４）

予習・復習の内容

予習	次回までの課題曲を，必ず弾きこなしてくる。
復習	合格した曲を忘れぬよう，適宜，弾いたり歌ったりする。
展開	

成績評価

評価の基準	課題到達，ピアノ試験，弾き歌い試験。
評価の方法	実技試験60%，課題の達成度30%，授業の参加度10%

教科書

書籍名	おとなのためのバイエル教本
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円

ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた１
著者名	東 保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,400円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等

書籍名	幼児のための音楽教育
著者名	神原　雅之他
出版社	教育芸術者
価格	2,200円
ISBN・ISSN	978-4-87788-443-7

書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
著者名	黒田静江
出版社	音楽教育研究協会
価格	2,200円
ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2　C3073

参考URL

備考　課題が多いので毎日１～数時間ピアノと歌を練習する必要がある。

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021206（月曜日1時限）,A1021207（月曜日4時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱技能，伴奏法
授業のねらい・概要	「保育の表現技術Ⅱ」の内容をさらに深めながら，保育現場で必要な知識および技能を身につける。保育者としての役割を考え，教材等の活用についても理解を深める。
学生の達成目標	1. 各自の進度によって決められたピアノ課題曲の演奏(教科書70番終了を目標とする)。 2. 4月～3月の教材から暗譜で弾き歌いできるようにする(10曲を目標とする)。 3. 楽典や音楽理論の基礎的な知識を理解し,活用できるようにする。
授業内容	第1回　授業ガイダンス。コードネームの基礎知識。学習進度に応じた課題の確認(目標1,3) 第2回　教科書『おとなのためのバイエル教本』長調と短調①シャープ系 『やさしい伴奏によるこどものうた1』①進度に応じた課題曲の選曲 コードネームの理論と実践(目標1,2,3) 第3回　『おとなのためのバイエル教本』長調と短調②フラット系 『やさしい伴奏によるこどものうた1』②発声について

	コードネーム演奏について(目標1,2,3)
第4回	『おとなのためのバイエル教本』移調の課題 『やさしい伴奏によるこどものうた1』③音程について(目標1,2,3)
第5回	保育の現場を想定した中間発表に着手 『やさしい伴奏によるこどものうた1』④ア・カペラ唱(目標2)
第6回	中間発表の構想をまとめる 『やさしい伴奏によるこどものうた1』⑤歌唱と伴奏のバランスを考える(目標2)
第7回	中間発表の準備 『やさしい伴奏によるこどものうた1』⑥保育の現場を想定した演奏について(目標2)
第8回	中間発表 『やさしい伴奏によるこどものうた1』⑦日本語と音楽の関係について(目標2)
第9回	子どもの発達を考えた歌①(年少児向けの歌)(目標2)
第10回	子どもの発達を考えた歌②(年長児向けの歌)(目標2)
第11回	季節の歌①(春・夏)(目標2)
第12回	季節の歌②(秋・冬)(目標2)
第13回	行事の歌(目標2)
第14回	試験の課題曲の準備(目標1,2)
第15回	目標の確認とまとめ(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	初回の授業で学生の進度に応じた学習計画を作成します。それに従って課題曲を練習してきて下さい。中間発表は，保育の現場を想定した弾き歌いを行います。準備をして発表に臨むようにして下さい。
	復習	実習や保育の現場で活用できる曲は，レパートリーとしていつでも弾けるようにしておきましょう。
	展開	

成績評価	評価の基準	中間発表と実技試験において目標を達成できたか。保育の現場で必要な弾き歌いのレパートリーを増やすことができたか。音楽の基礎知識を理解できたか。
	評価の方法	中間発表30%，実技試験30%，達成曲20%，平常点20%

教科書

書籍名	おとなのためのバイエル教本
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

	書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた１
	著者名	東 保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
推薦図書等	書籍名	早引き音楽記号・用語辞典
	著者名	齋藤純一郎監修
	出版社	ナツメ社
	価格	1,300円
	ISBN・ISSN	978-4-8163-5268-3
参考URL		
備考	「保育の表現技術Ｉ」の単位取得者のみ履修可能。将来保育の現場で働くことを希望する意欲ある学生の受講を望みます。選択者の顔ぶれと進度によって多少内容が変更する場合もありますが，実習や保育の現場で必要な「弾き歌い」を子どもの感性を育む方法を考えながら実践していきます。適宜プリント等を配布します。	

保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）A

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT106
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）A
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1022101 EIT104
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，保育の教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．保育などの教育現場での子どもの造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近な自然のものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する基本的な知識や技能を身につける。 ３．制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し，保育場面等での遊びや造形活動に関する支援や指導の方法を学び，そのための実践力を培う。
学生の達成目標	1. 保育の教育現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2. 現場での活用を踏まえた上で,関心・興味・発達段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。 3. 制作をする中で,具体的な支援や指導の手立てを考え,現場での実践力を養うとともに具体的な遊びや児童の文化活動に結びつけられる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点・保育と造形について)・実技「鉛筆の基本的な技法」(目標1)

	第2回	色鉛筆の表現の基本を学ぶ・実技「色鉛筆の混色表現」など(目標1)・技法メモ ①(目標1,3)
	第3回	パステル等の基本的な技法を学ぶ・実技「クレヨン・パステル表現の応用」・技法メモ ②(目標1,3)
	第4回	水彩絵の具の基礎 ①・実技「透明と不透明」「三原色による混色」技法メモ ③(目標1,3)
	第5回	水彩絵の具の基礎 ②・実技「にじみ」「ふきながし」「デカルコマニー」「フロッタージュ」等技法メモ ④(目標1,3)
	第6回	水彩絵の具の基礎 ③・実技「スパッタリング」・「スタンピング」等・技法メモ ⑤(目標1,3)
	第7回	イラストレーションの基礎 ①形・実技「人物・動物」・技法メモ ⑦(目標1,3)
	第8回	イラストレーションの基礎 ②構図・実技「はり絵」説明(目標1)
	第9回	イラストレーションの基礎 ③配色・実技「はり絵」構想(目標1)
	第10回	イラストレーションの基礎 ④表現の工夫・実技「はり絵」 ①(目標1,2)
	第11回	実技「はり絵」 ②(目標1,2)
	第12回	実技「はり絵」 ③(目標1,2)
	第13回	実技「はり絵」 ④(目標1,2)
	第14回	実技「はり絵」 ⑤・スケッチブック確認(目標1,2)
	第15回	まとめ・「はり絵」発表・鑑賞・スケッチブック確認(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	制作の準備をする 計画通りいかなかった場合、制作を進める
	復習	制作を進める レポートをまとめる
	展開	自分で発展題材を考え制作する
成績評価	評価の基準	保育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。 授業内容をもとに保育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは特にない。参考資料としてプリントを配布する。	

推薦図書等	
参考URL	
備考	・演習のため 40名程度の人数とし，希望者多数の場合は必修の保育士資格希望者を優先する。 ・制作を通して造形教育の基礎・基本を確認し育成するため，課題数は多い。造形能力発達論も併せて履修することが望ましい。 ・２クラスあるがどちらのクラスも授業内容は同一である。 ・中学校以来，美術から遠ざかっていた人でも安心して取り組めるようにカリキュラムを考えている。 ・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。１階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。 ・作品と技法プリントをスケッチブックに貼りつけ，プリントは Ａ４ファイルに整理して最終的に提出する。 ・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT107
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1022201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，様々な教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．教育現場での子どもの造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近な自然のものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する知識や技能を身につけ応用力を養う。 ３．制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し，各教育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を学び，そのための実践力を培う。
学生の達成目標	1. 保育現場や学校現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2. 様々な教育現場での活用を踏まえた上で,関心・興味・発達段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。 3. 制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し,各教育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を学び,そのための実践力を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点・こどもの造形活動について) 第2回　紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」①(目標1,2)

	第3回	紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」②
	第4回	紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」③課題レポート ①(目標1,2)
	第5回	童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作①(目標1,2,3)
	第6回	童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作②(目標1,2,3)
	第7回	童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作③(目標1,2,3)
	第8回	童画イラストレーションの制作・実技④「私が子どもだった頃」制作(目標1,2,3)
	第9回	童画イラストレーションの制作・実技⑤「私が子どもだった頃」制作・鑑賞・課題レポート ②(目標1,2,3)
	第10回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する①(目標1,2,3)
	第11回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する②(目標1,2,3)
	第12回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する③(目標1,2,3)
	第13回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する④(目標1,2,3)
	第14回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する⑤(目標1,2,3)
	第15回	まとめ～発表会・鑑賞・課題レポート ③,ふりかえり(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	制作の準備をする
	復習	制作を進める レポートをまとめる
	展開	
成績評価	評価の基準	保育などの様々な教育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。 授業内容をもとに教育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の簡単なふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

	テキストは特にない。 参考資料としてプリントなどを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・演習のため 40名程度の人数とし，保育表現技術（造形表現）Ⅰより内容が少し多様となり小学校高学年の子どもも視野に入れた題材も扱う。専攻に特に指定はなく，個々の制作には丁寧に対応する。 ・造形能力発達論も併せて履修することが望ましい。 ・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。１階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。 ・作品と技法プリントをスケッチブックに貼り付け，プリントは Ａ４ファイルに整理して最終的に提出する。 ・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

保育の表現技術Ⅰ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT108
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（言語表現）
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1023401（木曜日4時限）,A1023402（木曜日5時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語表現・幼児の言語指導技術・幼児への対応
授業のねらい・概要	保育者としての言語表現技術を実技を通して身につける。
学生の達成目標	1.　保育者としての言語表現技術の理解と習得。 2.　幼児の表現能力の実態に基づく適切な表現指導の技術を習得する。 3.　学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　幼稚園・保育園での言葉遊びⅠ　行事や活動内容に沿った遊び（目標１） 第3回　幼稚園・保育園での言葉遊びⅡ　各年代に沿った言葉遊び（目標１） 第4回　幼稚園・保育園での言葉遊びⅢ　自演及び相互批評（目標１，２） 第5回　エプロンシアター・パネルシアター等Ⅰ　教材の種類と作成法及び演じ方（目標１）

	第6回	エプロンシアター・パネルシアター等Ⅱ　自演及び相互批評（目標２）
	第7回	紙芝居・人形劇Ⅰ　教材の種類と演じ方（目標１）
	第8回	紙芝居・人形劇Ⅱ　自演及び相互批評（目標１，２）
	第9回	読み聞かせ（アニマシオン）Ⅰ　理論と実践方法（目標１）
	第10回	読み聞かせ（アニマシオン）Ⅱ　自演及び相互評価（目標１，２）
	第11回	子どもを育てる言葉（目標３）
	第12回	子どもの話の受け止め方（目標１，２，３）
	第13回	幼児期における文字表現（目標１）
	第14回	幼稚園教育要領と保育指針概要（目標１）
	第15回	ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	「授業の内容」に書かれている文言でわからない言葉について調べておくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。レポート提出期間中２回程度あり。
	展開	実際に演じ体験したことを，理論と結び付けてレポートにまとめる。
成績評価	評価の基準	幼児期における表現技術の基礎が体験的に理解できていること。体験したことをもとに，幼児教育のあり方について，自らの考えを持ち説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験30%，作品30%，ポートフォリオ40%
教科書	書籍名	子どもへの言葉かけハンドブック
	著者名	
	出版社	ナツメ社
	価格	
	ISBN・ISSN	:978-4-8163-4855-6
	書籍名	今すぐできる　０～５歳児の言葉遊び　BEST40
	著者名	
	出版社	黎明書房
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-654-00199-6
推薦図書等		

参考URL	http://hoikusi.biz/contents/hoikujouhou/apron_theatre.html
備考	電子辞書を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。

保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT109
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1023501
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育教材，児童文化財，子ども，保育，言語表現
授業のねらい・概要	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識及び必要な技術を身に付け，実際に活用できるようにする。 入門的言語表現教材の開発の理論と実技を身に付け実際に活用できるようにする。
学生の達成目標	1.　幼児期言語の特徴を理解し,子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2.　保育における言語の表現活動に関する知識や技術を習得し活用する。 3.　表現活動に係わる教材(絵本,紙芝居,人形劇,ストーリーテリング等)等の活用及び作成をおこない表現遊びに活用する。
授業内容	第1回　本科目の目標、授業の概要、受講上の心得　日程確認 ○自己紹介ゲーム・表現遊び（目標１） 第2回　子どもの日常と表現「３歳の遊び　なに表現しているの」◇絵カード作り（目標１） 第3回　紙芝居の扱い方　表現あそび「すてきなてぶくろ」（目標２） 第4回　絵本の扱い方　表現遊び「雪わたり」（目標２）

	第5回	描いたもの、作ったもので遊んでみよう　お面作り「大きなかぶ」（目標２）
	第6回	おはなし遊び　①役を決める　②演じてみる （目標３）
	第7回	ペープサート「へんしんトンネル」作ってみよう、遊んでみよう（目標２）
	第8回	パネルシアターⅠ「お弁当箱」作ってみよう、遊んでみよう（目標２）
	第9回	表現遊びの実際Ⅰ　グループ作り　テーマ決め（目標３）
	第10回	表現とは　ロール・プレイング体験（目標２）
	第11回	保育教材の演じ方　遊び方（幼稚園の先生による）（目標３）
	第12回	表現あそびの実際Ⅱ　教材研究（目標３）
	第13回	保育教材の演じ方　遊び方　（幼稚園の先生による）（目標３）
	第14回	表現あそび発表 遊んでみよう（目標３）
	第15回	表現あそび発表 遊んでみよう　発表 相互批評 まとめ(目標3)
予習・復習の内容	予習	児童書・絵本・紙芝居を読む。
	復習	各く回ごとの授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。
	展開	授業で学習したことを基に、保育の教材研究を行い、保育現場で活用を試みる。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	レポート（ 30%），発表（ 30%），作品（ 30%），授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	保育内容の研究　総計活動と遊び
	著者名	植草一世
	出版社	大揚社
	価格	2500
	ISBN・ISSN	
	□上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考	・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。	

教職原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET201
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教職原論
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1024001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育職員免許法，教職の意義等に関する科目，教職の意義，教員の役割，職務内容
授業のねらい・概要	この授業は，教育職員免許法による「教職の意義等に関する科目」である。 教職の意義を考え，教員の役割，職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む）を正しく知ることにより，教職に対する意識を高め，教職を目指すものが，自らの適性を判断し，進路選択に資する機会とすることを目的とする。
学生の達成目標	1. 教職の意義,教員の役割,職務内容等について正確に理解する。 2. 教員養成の歴史と理想的な教師像とはどのようなものかを具体的に理解する。 3. 現代日本における学校教育の中で教師にかせられた課題とは何かを正しく知る。 4. 職業の選択肢としての教職への姿勢と意欲を明確なものにできるようになる。
授業内容	第1回　導入講義:授業の進め方と,これまで出会った教師を振り返ることから始める。 第2回　教職の意義:教職とは何か(目標1)

	第3回	教職科目履修の動機と目指す教師像:教職観と教師像(目標2)
	第4回	教員養成の歴史と現状:戦前と戦後の教員養成(目標2)
	第5回	教員免許制度の改革:教員免許更新制の導入とその後(目標2)
	第6回	教員の任用と服務:(1)教員の身分と任用(目標1)
	第7回	教員の任用と服務:(2)教員の服務と身分保障,教員のメンタルヘルス(目標1)
	第8回	教員の役割と仕事:仕事の特質と具体的内容(目標1)
	第9回	職場としての学校(幼稚園含む):(1)教員の勤務の実態(目標3)
	第10回	職場としての学校(幼稚園含む):(2)保護者・地域・子どもとの関係(目標3)
	第11回	教員の資質の向上:ライフステージに応じた研修の制度と内容(目標3)
	第12回	学校・家庭・地域社会との連携:「開かれた学校づくり」学校教育の現場からの報告(目標3)
	第13回	教員としての適性の理解:教員免許状と進路選択(目標4)
	第14回	教職への道: 2014年度公立学校教員採用選考試験の概要(目標4)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	・教職について日常から関心を持ち、関連する新聞報道に目をとおしたり、切り抜き保存したり、図書を読んだりしておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	・第1回授業にて配布されるR．S．に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示された課題を期限までに提出すること。
	展開	・教育課題や教職に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	教職の意義や職務内容などの基礎的な内容が理解できていることを合格基準とするが，課題や授業に臨む態度なども併せて総合的に評価する。
	評価の方法	授業姿勢＋課題発表（ 30%）＋定期試験（ 70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	『教職概論』第３次改訂版
	著者名	佐藤晴雄
	出版社	学陽書房
	価格	２,400円
	ISBN・ISSN	978 -4-313-61137-5

参考URL	文部科学省ＨＰhttp://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	本講義は教職科目であるので，将来自分が教壇に立つという自覚を常にもって受講することが望まれる。

初等教育教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET202
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	初等教育教師論
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1025001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の教育課題，職能の向上，教師としての資質力量形成
授業のねらい・概要	国際化，情報化，少子化等々，社会の急激な変化の時代にあって，学校や教職員が創意工夫を重ねて子どもたちに対応することが求めれている。 そこで，児童の発達段階や児童理解，児童とのふれあい，生徒指導，学級・学校づくり，地域や保護者との連携など，その主な背景や対応策，改善策等を中心に考える。 また，教師の仕事や法令，教育課題について，具体的に調べることから，今後の教師としての自分自身の生き方やあり方をさらに明確にする。
学生の達成目標	1.　教育を支える教師の仕事や役割について明らかにする。 2.　教職に向けた具体的な自己の目標・課題を具体的に持つ。 3.　これからの教育に必要な情報や教師自身の資質について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(私がこれまでに出会った教師について) 第2回　目指す教師の姿（目標２） 第3回　学校教育の意義(目標1) 第4回　学校教育の現状と課題(目標1)

第5回	教員の身分と服務義務(目標１)
第6回	教員の職務の具体的な内容(目標１)
第7回	様々な問題行動と対応の在り方(いじめ・不登校・学級崩壊・校内暴力)(目標１・２)
第8回	人権教育の推進と課題(目標１・２)
第9回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。 (目標２)
第10回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。 (目標２)
第11回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。 (目標２)
第12回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。 (目標２)
第13回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。 (目標２)
第14回	今後,教員に求められる資質能力(目標３)
第15回	レポート作成、まとめ、評価(目標３)

予習・復習の内容	予習	次回授業で行う範囲の「教職の意義と教員の職務」を読む。 教職に関する書籍から情報収集をする。
	復習	学習したことや聴き合い活動をして習得したことをもう一度整理し、まとめる。 教育課題について
	展開	テーマについて １自問自答する。 ２小グループで聴き合い活動をする。 ３全体シェアリング。 ４自分自身で考える。

成績評価	評価の基準	教員の役割が理解できたか。 将来に向けた自己の目標を明確に持つことができたか。
	評価の方法	レポート・ワークシート（ 60%），発表（ 20%），授業中の態度（ 20%）を総合して評価する。 但し，この比率は，最終的には若干変更する場合がある。

教科書	書籍名	教職の意義と教員の職務
	著者名	篠田信司
	出版社	三省堂
	価格	２,200円＋税
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	毎日の教育関係の新聞記事をよく読み，自分なりの考えや意見を持つこと。 小学校の免許を取得する学生の履習が望まれる。

保育者論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT205
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育者論
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1026101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育、保育者の倫理、保育の専門性
授業のねらい・概要	保育についての基礎的な知識と保育への総合的な理解を有し、保育者としての倫理観に裏付けられた保育の専門性について考察する。 また、保育者としてふさわしい子ども観を培い、知識を適切な実践に結び付ける実践者としての意欲を培う。
学生の達成目標	1. 保育という営みを理解する 2. 保育者としての倫理と専門性を理解し、保育者としてのあり方を考察する。 3. 保育者としてふさわしい子ども観を培い、実践者として実現したい保育を考える
授業内容	第1回　オリエンテーション、自分が描く保育者像（目標1） 第2回　保育の歴史①子どもと保育、保育者の歴史（目標1） 第3回　保育の歴史②教育、福祉と保育の関連性（目標1） 第4回　保育の歴史③諸外国の保育と保育者（目標1）

	第5回	保育者の資格と職務、社会的認知、制度政策（目標1）
	第6回	保育者としての倫理（目標2）
	第7回	保育者としての社会的役割（目標2）
	第8回	保育者としての成長（目標2）
	第9回	保育者の市民性①保育の専門性と市民性（目標2）
	第10回	保育者の市民性②保育者としての市民性（目標2）
	第11回	施設保育と家庭的保育（目標3）
	第12回	子どもの視点と親の視点（目標3）
	第13回	子どもと保育者との関係性（目標3）
	第14回	保育者としての子ども観（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	保育についての広い視野を持って文献や事例、記事等を読み、保育者としてのあり方を考えてくる。
	復習	返却されたリアクションペーパーを再読し、授業の内容を踏まえてテーマについて再考する。
	展開	保育者としての子ども観を膨らませ、言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%，期末試験（筆記）50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT101
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1027001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，教育理念，教育の意義と目的，教育の歴史，生涯学習の理念
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の科目区分では，「教育の基礎理論」の中の「教育理念に関する科目」に該当する。 本授業は，「人間とは何か」，「教育とは何か」という原理的な視点から，教育についての基本的な考え方等について理解を深めることをねらいとしている。
学生の達成目標	1. 教育の意義,教育の目的,教育と児童福祉との関連性を正しく理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び,教育の基礎的理念と理論についての理解ができるようになる。 3. 日本と諸外国の教育の制度および教育実践の多様な取り組みについての知識を獲得する。 4. 生涯学習社会における教育の現状と教育の課題について理解する。
授業内容	第1回　講義概要の説明:「教育原理」学習の目的と授業計画〈教育とは何か〉(目標1) 第2回　教育の意義と目的:「教育」の意味と教育の目的〈人間とは何か,ヒトから人へ〉(目標1)

	第3回	教育への権利と「子どもの権利条約」:制度上の規定〈「日本国憲法」「教育基本法」法的拘束力を持つ「子どもの権利条約」〉(目標1)
	第4回	教育役割と子どもの社会化:人間形成と学校・家庭・地域社会との関連性〈人格形成の基盤,学校教育・家庭教育・社会教育〉(目標1)
	第5回	教育の思想と歴史的変遷(1):諸外国の教育思想史〈コメニウス,ロック,ルソー,ペスタロッチ〉(目標2)
	第6回	教育の思想と歴史的変遷(2):諸外国の教育思想史〈フレーベル,デューイ,モンテッソーリなど〉(目標2)
	第7回	教育の思想と歴史的変遷(3):日本の教育思想史〈貝原益軒,森有礼,福澤諭吉,倉橋惣三など〉(目標2)
	第8回	教育の思想と歴史的変遷(4):児童観と教育観の変遷〈子ども期の発見,児童中心主義など〉(目標2)
	第9回	教育の制度:学校制度の成立と発展,教育法規・教育行政〈学校教育体系〉(目標2)
	第10回	教育内容と教育課程:教育内容の構成,教育課程と計画〈顕在的・潜在的カリキュラム〉(目標3)
	第11回	教育の実践:教育方法,教育評価,教育実践の多様な取り組み(目標3)
	第12回	生涯学習社会における教育:生涯学習の概念と発展,生涯学習と学校教育のあり方〈生涯学習社会への移行と社会教育,リカレント教育〉(目標4)
	第13回	現代社会と教育課題(1):教育の病理〈問題行動,不登校,いじめ,虐待〉(目標4)
	第14回	現代社会と教育課題(2):教師・保育者の役割〈生きる力,確かな学力,アカウンタビリティー〉(目標4)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	・教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持ち，次回の授業テーマとの関連や理解を深めること。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示された課題を期限までに提出すること。
	展開	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、関心のある課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。
	評価の方法	ミニ課題と学習姿勢（ 30%）＋定期試験（ 70%）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。毎回、レジュメ資料を配布し、これに基づき授業をする。	
推薦図書等	書籍名	『やさしい教育原理』新版補訂版,

著者名	田島一他
出版社	有斐閣アルマ
価格	１,900円,
ISBN・ISSN	ISBN978-4-641-12426-4

参考URL	文部科学省ＨＰ　http://www.mext.go.jp/
備考	

教育史・教育思潮概説

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET203
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育史・教育思潮概説
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1028001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，西洋の教育の歴史，日本の教育の歴史，教育の思想家
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の科目区分では，「教育の基礎理論」に該当する。 日本と西洋の教育の歴史的展開とそれを支える教育の思想について理解を深めることを目的とする。具体的には，１）日本と諸外国の教育の歴史（幼稚園の成立を含む），２）代表的な思想家の教育思想や教育の実践をとおして，教育対象としての子ども観や教育観の変遷の基本的なとらえ方を概説する。
学生の達成目標	1. 日本の教育の歴史の流れを把握することができる。 2. 諸外国の教育の歴史とルソーやデューイ等の代表的な教育の思想についての知識を身につけることがでる。 3. 教育の思想や教育の実践をとおして,子ども観や教育観の変遷をたどることができる。 4. 自分の国の教育の諸課題を,広い視野のもと,歴史的なパースペクティブ(見通し)において再確認する能力を獲得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション:教育の歴史及び思想の学習の意義

	第2回	近世(江戸時代)の教育:庶民教育の普及(放送大学教育振興会 video『江戸の暮らし～宿場と寺子屋～』より9分間)(目標1)
	第3回	近代(明治期)の教育:「学制」の内容と意義,教育の整備と拡充(NHK video『明治』より11分間)(目標1)
	第4回	大正・昭和前期の教育:大正デモクラシー期の教育運動,女子教育の普及と展開(目標1)
	第5回	戦後の教育:教育制度改革,教育の荒廃,ゆとり教育,教育基本法の改正(目標1)
	第6回	教育の歴史と思想:(1)ソクラテスの教育論と宗教改革の教育史的意義(目標2)
	第7回	教育の歴史と思想:(2)コメニウスの教授学思想 /ルソーの教育思想の主要な特質(目標2)
	第8回	教育の歴史と思想:(3)ペスタロッチの教育実践と思想(目標2)
	第9回	教育の歴史と思想:(4)フレーベルとモンテッソーリの教育思想の比較(目標2)
	第10回	教育の歴史と思想:(5)ヘルベルト学派の教育思想(目標2)
	第11回	教育の歴史と思想:(6)デューイ(その1)『学校と社会』に見る実験学校と実践(目標2)
	第12回	教育の歴史と思想:(7)デューイ(その2)教育思想とその影響(目標2)
	第13回	西洋の子ども観と教育観の変遷(目標3)
	第14回	日本の子ども観と教育観の変遷(目標4)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。 提示される代表的な教育の思想家25人の中から関心を持つ人物(複数）の思想や業績を調べ、発表と課題作成に望むこと。
	復習	発表者の発表資料のファイリングをすることを通して、毎回の授業の要旨等のまとめをすることに役立てること。
	展開	日本と西洋の教育の歴史に関する最新の研究論文や動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。
	評価の方法	課題発表と授業への参加度（ 30点）＋レポート（ 70点）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。ほぼ毎回，資料を配布し，これをもとに授業をする。	
推薦図書等	書籍名	『教育人名小事典』

著者名	安彦忠彦編
出版社	明治図書
価格	1,960円
ISBN・ISSN	ISBN 4-18-616006-6

参考URL	文部科学省ＨＰ http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	「教育原理」を履修済であることが望ましい。

発達心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	発達心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1029001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	１．受精・誕生から，大人へ成長し，中年から老年を経て，死に至る過程を理解できるようにする。 ２．各々の発達段階の特徴と他の段階との関連について理解できるようにする。 ３．子どもとどのように関わると，発達をよりよく促せるかについて理解できるようにする。 ４．発達の途上で現れる困難さを理解して，対処法を学ぶ。
学生の達成目標	1.　人間の一生の発達の筋道を理解する。 2.　発達に関する考え方や見方を理解する。 3.　よりよい発達を促す働きかけについて理解する。 4.　発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための基礎知識を得る。
授業内容	第1回　発達心理学の方法と考え方。発達心理学とは何か,何のために学ぶのかを理解し,発達の概略を把握する。(目標2) 第2回　乳幼児期の重要性。臨界期といった発達の基礎概念と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性を理解する。(目標2,3)

第3回	胎児期:身体の基礎づくり。胎児期の身体や意識の発達を理解し,妊娠中に考慮すべき点について理解する。(目標1,2,3,4)
第4回	新生児期:覚醒水準の調整。新生児期は,泣きを慰める過程を通じて睡眠と覚醒の調節能力を築き,覚醒の質を高める時期であることを理解する。(目標1,3)
第5回	乳児期前半:人の意識の始まり。乳児期前半では,注意のコントロール能力が獲得され,人への意識が高まることを理解する。(目標1,3)
第6回	乳児期後半:愛着の形成。乳児期後半では,期待がかなって安心感が深まり,親しい人との愛着関係が深まる。この愛着関係が,精神的発達にとって重要であることを理解する。(目標1,3)
第7回	幼児期前半:自己の形成。幼児期前半に達成感を感じるようになって自己概念を形成するとともに,他児との関わりが始まり,社会性の基礎が築かれることを理解する。(目標1,3)
第8回	幼児期後半:社会性の発展。幼児期後半では,他児との関わりが深まり,役割意識やルール意識,協力意識が育つことを理解する。(目標1,3)
第9回	児童期前半:仲間関係の形成。児童期前半では,図式的な考えに基づく道徳性が発達し,より親密な仲間関係が築かれていくことを理解する。(目標1,3)
第10回	児童期後半:リアリズムの発生。児童期後半では,現実をよく見るようになり,図式的な考えからの脱却が見られ,親子関係や友人関係の見直しが起こることを理解する。(目標1,3)
第11回	思春期:心の動揺。思春期では,第二次性徴が始まり,人間関係や自己のあり方に対して多感になり,精神が不安定になりやすいことを理解する。(目標1,3)
第12回	青年期:自己同一性を求めて。青年期では,大人から独立し自己概念を築く過程を学ぶ。(目標1,3)
第13回	成人期:心の危機。家族を養ったり,社会を支えるといった責任のある地位につく一方,今までの生き方への反省が現れやすいことを理解する。(目標1,4)
第14回	老年期:人生の受容。老年期は,諸能力の衰えに直面しながら,自分の人生を振り返り,自分の人生を受け入れる時期である。その受け入れ方は多様であることを理解する。(目標1,4)
第15回	乳幼児期における発達援助のあり方。発達障害について知り,対処法を理解する。(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	発達心理学に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味を確認する。
	展開	子どもと接したときに、子どもの発達の様子を把握し、課題を見つけられる。

成績評価	評価の基準	発達に関する基本的な概念，発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。 発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがある程度わかること。
	評価の方法	授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。

質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書	書籍名	スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症
	著者名	安藤則夫
	出版社	学苑社
	価格	2 ,200＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

教育心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET301
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育心理学
科目責任者	小川　翔大
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1030001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育，心理学，幼児・児童・生徒，教師
授業のねらい・概要	適切な教育実践を行うためには，幼児・児童・生徒の発達に応じた知的機能や対人的な特性を理解することが必要である。また，集団としての学級，学習の評価，教師の成長等，教育の場における心理学的機能は多様な側面にわたる。これらの教育心理学の諸側面を説明し，適切な教育実践へとつながる基礎を築く。
学生の達成目標	1. 教育心理学の基本的な知識を身につける。 2. 基本的な知識を基に,学校教育における教師の実践を心理学的な視点から理解することができる。
授業内容	第1回　教育心理学とは:学びと適応を支える(目標1) 第2回　学びの理論(1):成熟論,行動主義,構成主義(目標1) 第3回　学びの理論(2):認知心理学,社会文化論,状況論(目標1) 第4回　学びの場とその移行(目標1) 第5回　学びの意欲(目標1,2) 第6回　学びの仕組み(目標1)

	第7回	学びの諸相(目標1,2)
	第8回	学びの開発と体系化(目標1,2)
	第9回	主体的な学びの授業(目標1,2)
	第10回	個に応じた学びの援助(目標1,2)
	第11回	適応の理解と支援(1):自立と社会性の学び1虐待,仲間関係,向社会的行動(目標1,2)
	第12回	適応の理解と支援(2):自立と社会性の学び2自我の確立とキャリア,学級集団(目標1,2)
	第13回	適応の理解と支援(3):子どもを支える(目標1,2)
	第14回	学びと適応の評価(目標1,2)
	第15回	教師の成長(目標1,2)

予習・復習の内容	予習	心理学の基礎的な知識について，関連する図書や資料を読み，理解しておくことが望ましい。 授業で扱うテーマについて，事前に教科書を読み，疑問点を明確にしておく。
	復習	感想レポートに，授業で学習した内容は自分が保育者・教師をしていく上でどのように役立つと考えるかなどをまとめておく。 指示されたレポート課題を期日までに提出する。
	展開	教育心理学に関連する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	教育心理学に関して，基本的な内容が理解できていること。学校教育における教師の実践を心理学的な観点から理解，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート，期末筆記試験を総合して評価する。 平常点（毎回の授業で小レポートを課す）（30%），中間レポート（20%），期末筆記試験(50%）

教科書	書籍名	『よくわかる教育心理学』やわらかアカデミズム・わかるシリーズ
	著者名	中澤潤
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,500円
	ISBN・ISSN	978-4-623-05104-5

推薦図書等

参考URL

備考

保育の心理学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学 Ⅰ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1030101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	１．保育実践に役立つ心理学の考え方や知識を習得する。 ２．子どもの心身の発達，特に初期経験の大切さを心理学の知見に基づいて理解する。 ３．子どもの発達における親や保育者，子ども集団の役割・影響力を理解する。 ４．発達の途上で現れる困難さを理解して，対処法を学ぶ。
学生の達成目標	1.　乳幼児期を土台として,人間の一生の発達の筋道を理解する。 2.　発達に関する考え方や見方を理解して,保育の場に活用できる。 3.　発達を促す働きかけを理解して,親や子どもへの働きかけができる。 4.　発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための基礎知識を得る。
授業内容	第1回　発達の基本的見方。子どもが社会の中でどのように発達するか概略的に把握する。(目標1) 第2回　子どもの発達と保育実践の評価。子どもの発達と保育実践の関連性を学び,成長を促す保育のあり方を学ぶ。(目標1,2)

第3回	乳幼児期と基本的信頼:乳幼児期における信頼関係の重要性を理解する。(目標1,2)
第4回	情緒調節の発達:人間関係を通じて達成される覚醒水準の調整の発達を学ぶ。(目標1,2)
第5回	重要な初期経験:乳幼児期の経験がいかにその後の人生に影響するかを学び,どのような経験が望ましいかを学ぶ。(目標1,2,3)
第6回	自我の発達と他者理解:人との関わりの中でいかに自我が形成されるかを理解し,自我形成が他者理解とどのように関わり合うかを興味の発達を関連させながら学ぶ。(目標1,2,3)
第7回	身体と運動の発達:胎児期から幼児期にかけての身体と運動の発達を,運動の様々な要因を分析的に考察することで理解する。(目標1,2,3)
第8回	知覚と認知の発達:乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し,幼児の思考の限界と特徴を学ぶ。(目標1,2,3)
第9回	言語と社会性の発達:乳幼児期の親子関係の中でいかに言語が発達するかを理解し,さらに友達関係の中で社会性がどのように発達していくかを学ぶ。(目標1,2,3)
第10回	乳幼児期の興味と遊び:子どもは遊びを通じて発達することを理解し,遊びの土台となる興味の発達や,遊びとともに発達する仲間関係について学ぶ。(目標1,2,3)
第11回	学童期から青年期へ:学童期の学校生活や友達関係,思春期の第二次性徴,内面性の発達,青年期の自我同一性,異性との親交の深まりを学ぶ。(目標1,3)
第12回	成人期から高齢期へ:成人期の社会的責任を果たしつつも,自分の人生を振り返る心理や,高齢者の能力の衰えを受け入れつつ人生のまとめを行う心理を学ぶ。(目標1,3)
第13回	対人関係に困難を感じる子どもへの発達援助:対人関係がうまくいかない原因を発達的見地から学び,働きかけの考え方や実際の働きかけ方法を学ぶ。(目標2,3,4)
第14回	情緒調節に困難を抱える子どもの発達援助:情緒調節と情緒発達との関連を理解し,落ち着きのない子や喜びの乏しい子,ぼんやりした子らへの働きかけを学ぶ。(目標2,3,4)
第15回	認知や思考に困難を抱える子どもの発達援助:認知や思考が発達するための要因を理解し,言葉や思考の発達を促すための方法を学ぶ。(目標2,3,4)

予習・復習の内容	予習	保育と子どもの成長に関する本を読む。
	復習	重要な語句や考え方を確認する。
	展開	子どもの成長に自分がどのように取り組んだらよいか分かり、働きかけができる。

成績評価	評価の基準	発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。 発達に対する大人の役割を理解すること。 発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがわかること。
	評価の方法	授業への出席状況と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。

	質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 安藤則夫「スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症」学苑社， 2007， 2 ,200＋税。 ISBN： 978 -4-7614-0701-8 さらに資料配布によって，授業を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1030201（金曜日1時限）,A1030202（金曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，子どもの気持ち，集団の質，発達課題
授業のねらい・概要	１．保育実践に役立つ心理学の考え方や知識を身に付ける。 ２．保育と子どもの心理との関連性を理解する。 ３．子どもの発達課題を理解する。 ４．保育における自分の役割を理解し、遂行できる。
学生の達成目標	1.　保育の場で起こる様々な問題を理解する。 2.　発達を促す働きかけを考え、親や子どもへの働きかけができる。 3.　子どもの発達にとって何が大切かを察知するセンスを持つ。
授業内容	第1回　発達の把握の意味と方法：日頃の保育の中での発達の把握の仕方やその活用を考える。（目標３） 第2回　個人差を見る・考える：子どもの個人差への基本的考え方、対処の仕方を考える。（目標１，２，３） 第3回　子どもと保育者の感じ方：子どもと保育者の感じ方の違いを理解し、両者を活かす手立てを考える。（目標１，３）

第4回	環境と心の動き・興味を伸ばす：環境の心への影響を知り、環境の活用を考える。（目標２，３）
第5回	豊かなイメージと行動の見通し：子どものイメージ力の豊かさの重要性を知り、見通しを持った行動の形成を考える。（目標２，３）
第6回	言葉の力・考える力：日常の会話の中でいかに感じ方や考える力が伸びていくかを知り、よりよい言葉かけ・会話の進め方を考える。（目標１，２，３）
第7回	集団と自己制御：集団の中で子どもが成長することを学び、集団の質を高めながら、いかに個々の子どもの力を発揮させていくかを考える。（目標１，２）
第8回	意欲と元気：子どものやる気や元気さがどのように育まれるかを理解しながら、自発的な活動を組織できるための援助の仕方を考える。（目標１，２）
第9回	自分の良さに気づく：子どもの自己概念の育ちを理解しながら、自己や他者を肯定的にとらえられるようにする働きかけを考える。（目標２，３）
第10回	やさしい心・思いやり：子どもが遊びを通じてどのように思いやりの心を育むかを理解し，やさしい心を育てるための働きかけを考える。（目標２，３）
第11回	たくましく生きる力・問題解決能力：困難に負けず，困難を解決する力がどのように育つかを理解し、そのような力への援助の仕方を考える。（目標１，２，３）
第12回	就学への支援：就学をひかえた子どもたちには何が大切かを理解し、学校へ向けての支援の仕方を考える。（目標１，２）
第13回	傷ついた心を慰める：子どもの心の傷の見方や対処の仕方について理解し、働きかけの仕方を考える。（目標１，３）
第14回	発達支援・子どもに育てる力を：発達のための情緒調節の重要性を学びながら、自閉的な子や落ち着きのない子、理解力の乏しい子への働きかけを考える。（目標２，３）
第15回	保護者への対応と協力：保護者の子どもや保育所・幼稚園に対する心情を理解して、子どもの育ちのためにどのように保護者と理解し合い、協力し合うやり方について考える。（目標１，２，３）

予習・復習の内容	予習	保育実践に関する本を読む。 与えられた課題を調べる。
	復習	子どもの気持ちの見方について、振り返る。自分が考えたことと学んだことの相違点について考える。
	展開	子どもの問題が深くとらえられるようにいろいろな可能性について考える。

成績評価	評価の基準	子どもの個性や置かれた状況を理解し、どのような働きかけが大切かを考えられること。そのために、他の職員や保護者との協力体制を築く力を持つこと。
	評価の方法	授業への出席状況と課題の発表、質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 課題の発表40%、質問への回答30%、期末試験30%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	自分の身に起こったらというように、自分ならどうするかを考えられるように。

学校教育制度概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET302
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	学校教育制度概論
科目責任者	明石　要一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1031001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校・学級の成立と効用
授業のねらい・概要	日本の学校はどんな特徴を持っているか，を明らかにする。近代の学校が成立する前の寺子屋はどんな働きをしたか，明治５年の学制，昭和24年からの学校制度の歴史を概観し，日本の学校が持つ特性を具体的に論じる。
学生の達成目標	1. 日本がなぜ近代社会を築けたか,学校教育の影響を理解する。 2. 日本の学校が持つ特徴を理解する。 3. 日本の学級の持つ特徴を理解する。
授業内容	第1回　江戸時代の学校寺子屋とは何か(目標1,2,3) 第2回　明治五年の学制とは何か(目標1,2) 第3回　明治19年の師範学校令は学校にどんな影響を果たしたか(目標1,2) 第4回　師範学校の学校生活(目標1,3) 第5回　戦後の教育改革の特徴(目標1,2,3) 第6回　教員養成の開放性とは何か(目標1,3)

	第7回	コア・カリキュラムとは何か(目標1,2)
	第8回	系統学習とは何か(目標1,2)
	第9回	落ちこぼれ「七・五・三」はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第10回	不登校はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第11回	校内暴力はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第12回	学校の制度疲労とは何か(目標1,2,3)
	第13回	学社連携・融合とは何か(目標1,2,3)
	第14回	学校支援地域本部とは何か(目標1,2,3)
	第15回	これからの学校はどうすればよいか(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	事前に学習課題を提示する。予習する目標をはっきりさせる。
	復習	授業の後に質問コーナーを設け文書で書かせる。質問することで学習内容を再確認できる。次の授業の時、質問に対する回答をする。
	展開	
成績評価	評価の基準	６割以上の理解で合格とする。
	評価の方法	レポート（30%）と試験（70%）の成績を総合する。
教科書	書籍名	子どもの規範意識を育てる
	著者名	明石要一著
	出版社	明治図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新地域社会学校論
	著者名	明石要一編著
	出版社	ぎょうせい
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

特別支援教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST101
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育総論
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1032101（前期）,A1032102（後期）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，制度，歴史，理念，動向
授業のねらい・概要	障害のある子ども，特別な支援を必要とする子どもの保育，教育の基本に関する対応姿勢，制度，歴史，理念，動向など，今日的に理解しておくべきことを学ぶ。
学生の達成目標	1. 特別支援教育への経緯,制度と現状を理解できる。 2. 特別支援教育に関する動向を理解できる。 3. 特別支援教育に関する理念を理解できる。 4. 特別支援教育で大切にすべきことを,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　特別支援教育とはどのようなことか? ～身近な障害から考える(目標1) 第2回　特別支援教育とはどのようなことか? ～障害と教育を考える(目標2) 第3回　特別支援教育とはどのようなことか? ～経緯のあらまし(目標1,2) 第4回　特別支援教育とはどのようなことか? ～制度のあらまし(目標1,2)

	第5回	特別支援教育とはどのようなことか? ～特別支援教育の仕組み(目標1,2)
	第6回	特別支援教育とはどのようなことか? ～概況を知る(目標3)
	第7回	特別支援教育とはどのようなことか? ～動向を知る(目標3)
	第8回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～特別支援学校(目標2,3,4,5)
	第9回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～小・中学校(目標2,3,4,5)
	第10回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～今後の仕組み(目標2,3,4,5)
	第11回	特別支援教育の現状 まとめ(目標2,3,4,5)
	第12回	特別支援教育の理念 ～特別なニーズへの対応(目標4)
	第13回	特別支援教育の理念 ～子ども主体とできる状況づくり(目標4)
	第14回	特別支援教育の理念 ～個のニーズと支援計画(目標4)
	第15回	特別支援教育をどう受けとめるか? 総括と考察(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	授業で紹介する参考図書、次回の予定内容をふまえて、予習を行うようにして下さい。
	復習	断片的にもなる知識を全体として組み立てて下さい。新たな用語、障害の状況を確認して生きた知識にすること。関連した復習課題を出すことがあります。
	展開	障害のある子どもへのボランティア体験、学校等の見学体験を生かして、授業内容を生きたものにするようにして下さい。進路希望先での障害のある子ども等のことを自分で調べるようにするとよいでしょう。
成績評価	評価の基準	特別支援教育に関する基礎的な事柄を理解し，自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験　60%　レポート　20%　授業への参加度　20%（小テスト等を含む）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST102
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育方法史
科目責任者	名古屋　恒彦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1108001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害,教育課程,教育方法
授業のねらい・概要	戦後の我が国知的障害教育方法史から，今日の知的障害教育における教育目標，教育内容，教育方法の独自性とその根拠を理解する。その上で，特別支援教育に普遍的に求められる理念と方法を理解する。
学生の達成目標	1. 我が国知的障害教育の方法の変遷を理解できる。 2. 知的障害教育の目標を理解できる。 3. 知的障害教育の内容を理解できる。 4. 知的障害教育の方法を理解できる。
授業内容	第1回　知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」(目標2) 第2回　生活を大切にする教育の始まり(目標1,2) 第3回　本物の生活づくりの徹底(目標1,2,3,4) 第4回　生活を大切にする教育の変容と後退(目標1,2,3,4)

	第5回	生活主義教育批判・反省の総括的論点(目標2,3,4)
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育(目標1)
	第7回	障害の重度化・重複化と生活主義教育(目標1)
	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興(目標1,2,3,4)
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり(目標1,2,3,4)
	第10回	学校生活の集団化と個別化(目標1,4)
	第11回	生活中心教育の総括的主張点(目標2,3,4)
	第12回	生活中心教育の4つの型(目標2,3,4)
	第13回	子ども主体方の生活中心教育と他の型の比較検討(目標2,3,4)
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3,4)
	第15回	まとめと討論(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	教科書に即して進行するので，事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	実施した内容について，必要に応じてノート等を参照しながら，教科書を再読し，理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び，歴史的背景との関連への理解を深める。
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷，教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験70%，授業での発言等30%
教科書	書籍名	テーマのある学校生活　子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2500円（税別）
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前にできるだけ，指定した教科書を読んでおいてほしい。 現在の特別支援教育の課題を意識しながら，歴史を学んでほしい。	

子どもの発達と障害

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST103
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	子どもの発達と障害
科目責任者	多田　昌代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1034001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児，発達，障害，診断，支援
授業のねらい・概要	乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，発達上起こり得るつまづき（障害）について基礎的知識を得ることを目的とする。 さらに，障害を早期に発見・支援するための発達診断やその具体的方法について概観することを目標とする。
学生の達成目標	1.　乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を理解する。 2.　発達の諸領域ごとに，起こりうるつまづきについて理解する。 3.　つまづきに伴う諸問題について理解する。
授業内容	第1回　発達のしくみと様相-(目標1) 第2回　子どもの健康-(目標1) 第3回　子どもの認知のメカニズム-(目標1) 第4回　親子関係と人格形成-(目標1) 第5回　ことばとコミュニケーションの発達-(目標1)

	第6回	豊かな内的世界(情緒の発達)-(目標1)
	第7回	子どもの欲求とストレス-(目標1)
	第8回	がまんのメカニズム-(目標1)
	第9回	遊びの発達と友だち関係-(目標1)
	第10回	他人を愛する行動(向社会的行動の発達)-(目標1)
	第11回	発達障害とは-(目標2)
	第12回	発達の診断Ⅰ-(目標3)
	第13回	発達の診断Ⅱ-(目標3)
	第14回	発達障害に対する支援Ⅱ-(目標3)
	第15回	発達障害に対する支援Ⅱ-(目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回，次週の授業内容に関する資料を配布します。それに予め目を通しておくこと。
	復習	授業時に配布した資料を熟読のこと。
	展開	毎回，授業内容に関連した小レポートを課します。それを次週に提出のこと。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の発達や障害について基礎的な内容が理解できていること。 興味を持ったテーマについてレポートにまとめられること。
	評価の方法	授業への取り組み状況(30%)，学期中の小レポート(30%)，学期末のレポート(40%)から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布した資料を熟読のこと。	

子どもの発達と障害

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST103
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	子どもの発達と障害
科目責任者	河合　高鋭
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1034002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児，発達，障害，診断，支援
授業のねらい・概要	乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，子どもの障害について基礎的知識を得ることを目的とする。さらに，早期に発見・支援するための発達診断やその具体的方法について概観することを目標とする。
学生の達成目標	1. 乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を理解する。 2. 障害について基礎的知識を得るとともに,障害に伴う諸問題について理解する。 3. 興味を持ったテーマについて自ら深め,それを説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　子どもの身体の発達(目標1) 第3回　認知発達の基礎(目標1) 第4回　対人関係の基礎(目標1) 第5回　ことばとコミュニケーションの発達(目標1)

	第6回	友だちとの関わりと遊びの発達(目標1)
	第7回	社会性の発達(目標1)
	第8回	認知発達の障害とは(目標2)
	第9回	発達を診断するとは(目標2)
	第10回	さまざまな障害(目標2)
	第11回	障害に伴う諸問題(目標2)
	第12回	障害に伴う支援(目標2)
	第13回	障害の早期発見と療育(目標2)
	第14回	子どもを取り巻くさまざまな問題(目標2)
	第15回	総括(目標3)
予習・復習の内容	予習	シラバスにある授業のキーワードをよく理解するように努めること。 予習：授業中に配布する資料をよく読んで講義に臨むこと。
	復習	授業後は，配布された資料を整理して，内容理解に努めること。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の内容の理解，およびそれに基づき自分の考えを文章として表現できるかを評価基準とする。
	評価の方法	授業への参加・コメントシートへの記入（30%）と学期末の試験の成績（70%）による。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。また，授業後は授業時に配布したプリントを熟読のこと。	

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST201
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	多田　昌代
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1035001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，発達，障害，アセスメント，支援
授業のねらい・概要	知的障害の心理・生理・病理についての基礎知識を得ることを目的とする。 知的障害の定義や分類，そのアセスメント方法についての基礎的理解を得ることを目的とする。また，知的障害への発達支援という視点からも理解を深める。 さらに，知的障害に関連する諸障害の心理・生理・病理についても学ぶ(発達・成長期ごとに分ける場合もある)。
学生の達成目標	1. 知的障害に関連する生理・病理について知る。 2. 知的障害の定義と分類，アセスメント方法について知る。 3. 知的障害における心理機能と発達支援について知る。 4. 知的障害に関連する諸障害の心理・生理・病理について知る。
授業内容	第1回　大脳辺縁系の働き-(目標1) 担当教員:

第2回	高次脳機能-(目標1)
	担当教員:
第3回	知的障害の病理-(目標1)
	担当教員:
第4回	自閉症の病理-(目標4)
	担当教員:
第5回	その他の発達障害の病理-(目標4)
	担当教員:
第6回	知的障害の定義と分類，支援ニーズ-(目標2)
	担当教員:
第7回	知的障害における心理機能と発達支援(知覚や学習)-(目標3)
	担当教員:
第8回	知的障害における心理機能と発達支援(言語)-（目標3）
	担当教員:
第9回	知的障害における心理機能と発達支援(行動上の問題)-(目標3)
	担当教員:
第10回	知的障害における心理機能と発達支援(注意や記憶)-(目標3)
	担当教員:
第11回	知的障害における心理機能と発達支援(問題解決)-(目標3)
	担当教員:
第12回	知的障害における心理機能と発達支援(動機づけ)-(目標3)
	担当教員:
第13回	幼児期における支援-(目標4)
	担当教員:
第14回	学童期における支援-(目標4)
	担当教員:
第15回	青年・成人期における支援-(目標4)
	担当教員:

予習・復習の内容	予習	毎回，次週の授業内容に関連した資料を配付します。それに予め目を通しておくこと。
	復習	授業時に配布した資料を熟読すること。

	展開	授業内容に関連した小レポートを課します。それを次週に提出すること。
成績評価	評価の基準	知的障害の心理・生理・病理の基礎と発達支援について理解していること。 関連する諸障害の心理等と発達支援について理解していること。
	評価の方法	授業への取り組み状況（ 20%）とレポート・定期試験の成績（ 80%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST202
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	渡邉　章
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1036001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理に関する基本的事項と肢体不自由の子どもへの対応や配慮点について理解する。
学生の達成目標	1. 肢体不自由の子どもの日常生活における困難と配慮点について理解する。 2. 肢体不自由の子どもの支援に関する国内動向・国際動向について理解する。 3. 肢体不自由の子どもの生理・病理について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 担当教員: 第2回　肢体不自由の概念とライフサイクル（目標1） 担当教員:

第3回	国際動向と ICF（目標2）
	担当教員:
第4回	移動介助における配慮点（目標1）
	担当教員:
第5回	車いす介助における配慮点（目標1）
	担当教員:
第6回	遊びの意義と配慮点(1)　屋外活動（目標1）
	担当教員:
第7回	遊びの意義と配慮点(2)　屋内活動（目標1）
	担当教員:
第8回	バリアフリーとユニバーサルデザイン（目標2）
	担当教員:
第9回	身体障害者補助犬（目標2）
	担当教員:
第10回	アシスティブテクノロジーの活用（目標2）
	担当教員:
第11回	ヒトゲノムとその役割（目標3）
	担当教員:
第12回	中枢神経系の発生と神経細胞の働き（目標3）
	担当教員:
第13回	脳性麻痺の病理（目標3）
	担当教員:
第14回	脳性麻痺の併存症と医療的ケア（目標3）
	担当教員:
第15回	筋ジストロフィの病理（目標3）
	担当教員:

予習・復習の内容	予習	テキストの指定された範囲を学習し，ポイントや質問事項をまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。

成績評価	評価の基準	１）肢体不自由の子どもの心理・生理・病理について，授業で取り上げた基本的事項を理解できていること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもへの対応や配慮点について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論が含まれる。

教科書	書籍名	ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援
	著者名	田中農夫男・木村進編著
	出版社	福村出版
	価格	2 ,800円
	ISBN・ISSN	978 -4-571-12103-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	講義のほかに，各テーマの理解を深めるために，発表や討論の時間を設ける。

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST203
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	昆　俊雄
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1037001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児慢性疾患，心身症，行動制限，不安，ストレス
授業のねらい・概要	病気の子どもの心理特性及び「病弱」の心理・生理・病理について学び，病弱な子どもへの指導・支援にかかわる基礎的理解を深める。
学生の達成目標	1. 病気のもたらす子どもの不安やストレス,恐怖心等の心理状態等からその心理特性の基礎を学ぶ。 2. 病弱教育対象の子どもの病気や病類等の生理・病理の基礎を学ぶ。
授業内容	第1回　細胞生物学の基礎,細胞分裂と分化(目標2) 担当教員: 第2回　各組織の解剖と生理(目標2) 担当教員: 第3回　小児慢性疾患の病理(目標2)

		担当教員:
	第4回	自律神経系と内分泌(目標2)
		担当教員:
	第5回	不登校の病理(目標2)
		担当教員:
	第6回	病弱の教育上の定義(目標1)
		担当教員:
	第7回	病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向(目標1)
		担当教員:
	第8回	病弱による心理規制(目標1)
		担当教員:
	第9回	疾病進行への不安・恐怖(目標1,2)
		担当教員:
	第10回	行動制限によるストレス(目標1,2)
		担当教員:
	第11回	不登校の子どもの心理(目標1,2)
		担当教員:
	第12回	親子関係に及ぼす影響(目標1)
		担当教員:
	第13回	慢性疾患のある子の臨床事例(1)(ぜん息児童生徒)(目標1,2)
		担当教員:
	第14回	慢性疾患のある子の臨床事例(2)(糖尿病児童生徒)(目標1,2)
		担当教員:
	第15回	慢性疾患のある子の臨床事例(3)(腎疾患児童生徒)(白血病その他含)(目標1,2)
		担当教員:
予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目や病種，キーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	病気の子どもの心理特性や，生理，病理等の基礎的理解度による。

	評価の方法	試験（40%），レポート（30%），授業への参加度（30%）等により総合的に評価

教科書	書籍名	特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理
	著者名	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	987-４-623-06153-2

推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART 1
	著者名	全国病弱養護学校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-921124-05-1C3037
	書籍名	「病弱教育Q&A」PARTⅤ　病弱教育の視点からの医学事典
	著者名	西間三馨・横田雅史監修　全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-921124-20-5　C3037

参考URL	
備考	病弱教育の教育内容や基礎的事項を踏まえておいた方が理解しやすいので，必須の参考図書等を一読しておくと良い。なお，「病弱教育Ⅰ」の履修を併用するとさらに理解が深まると思われる。

キャリア演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS101
開講年度	2013年度
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習 Ⅰ
科目責任者	木下　勝世
担当教員	渡邉　章 長谷川　修治 宮下　裕一 多田　昌代 村上　悦子 早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1130001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	職業人の基本的資質，プロの条件，礼儀・作法・マナー，基礎学力
授業のねらい・概要	社会人，職業人としての基礎的，基本的な心構え，知識，作法，技術等を身に付ける。 自分の人生を充実して送るために，学生生活を自覚的，目的的に設計するように導く。
学生の達成目標	1. 社会人として必要な基礎学力を身に付ける。 2. 社会人として必要なコミュニケーション力を身に付ける。 3. 職業人として必要な礼儀,作法を身に付ける。 4. 職業人として必要な積極的,意欲的な生活態度を身に付ける。 5. 学生として望ましい充実した生活習慣を形成する。

授業内容	第1回	座席指定 本授業の目標と内容のガイダンス (目標3) 学生生活に必要な情報とマナーを知る。（目標5）
	第2回	出身校に手紙を書く。（目標1）
	第3回	読書について学ぶ。（目標1）
	第4回	キャリアとは何かを学ぶ（目標1.4） キャリア支援室の働き、ボランティア活動について
	第5回	個人面談の資料を作成する。（目標5）
	第6回	個別面談1 学生生活の基盤確認,助言 (目標5)
	第7回	個別面談1 学生生活の基盤確認,助言 (目標5)
	第8回	現場体験講座（キャリア支援委員会企画）（目標4）
	第9回	情報活用の力を身につける。（目標1） 学びのコンパスの入力を学ぶ。（目標5）
	第10回	レポートの書き方を学ぶ。（目標1）
	第11回	個別面談2 修学状況確認,助言 (目標5)
	第12回	個別面談2 修学状況確認,助言 (目標5)
	第13回	学生生活の充実講座4 部活動,学園祭への取り組みかた (目標5)
	第14回	基礎学力講座3 語彙力 敬語法 自己主張法 (目標1)
	第15回	人間力講座3 ストレスを溜めない生き方 (目標5)
	第16回	職業意識形成講座4 教育における法規の概論 (目標3)
	第17回	個別面談3 進路選択相談,助言 (目標4)
	第18回	個別面談3 進路選択相談,助言 (目標4)
	第19回	職業意識形成講座5 社会人としてのマナー,言葉遣い,手紙の作法 (目標3)
	第20回	職業意識形成講座6 職業人に必要な資質(保育士,小学校・幼稚園教員等) (目標4)
	第21回	人間力講座4 学ぶとは,生きるとは,職業とは,人間とは (目標5)
	第22回	基礎学力講座3 いろいろの提出文書の作法,技術,実際 (目標1)
	第23回	職業意識形成講座7 進路選定上の先輩の経験談の聴取 (目標4)
	第24回	職業意識形成講座8 自分の適性と職業選択 クレペリン検査 (目標4)
	第25回	基礎学力講座5 常識法律学入門 (目標1)
	第26回	個別面談4 特に面談を必要とする学生向けの個別面談 (目標5)
	第27回	学生生活の充実講座5 先輩学生による学生生活充実策のアドバイス (目標5)
	第28回	職業意識形成講座９　進路について（小学校・特別支援学校）(目標４)
	第29回	職業意識形成講座10 進路について（幼稚園、保育所）（目標４）

	第30回	2年生に向けて（目標５）
予習・復習の内容	予習	次時のテーマについてあらかじめ資料を集める等の準備をする。
	復習	取り扱われた内容を整理し、重要な点を確認する。
	展開	１年生として意欲的に学生生活を送るとともに、４年間の大学生活の基礎を培う。
成績評価	評価の基準	出席状況　提出物の状況　最終受講論文等によって評定する。
	評価の方法	出席状況 50%　提出物提出状況 20%　論文評価 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	使用しない	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリア演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS201
開講年度	2013年度
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習 Ⅱ
科目責任者	佐藤　文子
担当教員	小林　敢治郎 高野　良子 太田　俊己 小川　晶 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1131001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
授業のねらい・概要	社会人としての基本的な知識や態度を身につけ，子どもの教育や保育に関する職業について理解と関心を高め，自己の志望する職業に必要な知識や技能についての理解を深める。また、自己理解につとめ、適切な自己決定に結び付ける力を養う。
学生の達成目標	1. 社会人として必要な知識や態度を身につけ、実践できる。 2. 自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し，自己の能力を高める。大学生活をキャリアデザインし、その実現に向けて努力する。 3. ボランティア活動に参加する。 4. 種々の検査や面接を通して自己理解する

授業内容

第1回	オリエンテーション、 学年担当者紹介、ねらい、年間スケジュール、履修について（目標１）
第2回	学びのコンパスについて(目標２) 「学びのコンパス」による今後の計画及び目標(目標２)
第3回	ボランティア活動について（目標３） 　キャリア支援室からの話
第4回	個人面談１-①(目標３)
第5回	個人面談Ｉ－②（目標３）
第6回	社会人基礎講座１　（目標２） キャリアデザインを描く 1年生を振り返り、2年生からの大学生活を見直す。分)」(目標２)
第7回	社会人基礎演習２ 「自己を知る」（目標２） 自分の長所・短所・スキルを考える(目標４)
第8回	ボランティア活動で学んだこと（目標４） 　先輩の話を聞く
第9回	小・特　参観実習事前指導１（目標２） 幼・保　将来の夢・理想の自分を考える
第10回	小・特　参観実習事前指導２（目標２） 幼・保　選択したい職業に必要とされている力（目標１）
第11回	社会人基礎講座３　先輩社会人に聞く 　職場体験談を聞く
第12回	小・特　先生になるために必要な力とは 幼・保　保育士として私が大切にしたいこと
第13回	社会人基礎講座　マナー講座
第14回	小・特　小学校参観実習事後指導 幼・保　保育実習事前指導
第15回	前期テストの留意事項 夏休みの過ごし方 幼・保　保育実習事前指導・幼稚園探しなどを含む）
第16回	「後期キャリア演習」の意義。 後期スケジュールの解説。(目標1) 学園祭への取り組み、夏休みの体験発表
第17回	個別面接２－①「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標４)
第18回	個別面接２－②「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標４)
第19回	小・特　教員採用試験を終えて（目標２） 　　4年生の話を聞く 幼・保　幼稚園実習１　事前指導（電話の掛け方）
第20回	卒業論文中間発表を聞く
第21回	時事問題に取り組む（新聞の利用）

	第22回	小・特　試験を受けよう 幼・保　試験を受けよう
	第23回	小・幼　自己ＰＲ分を書く 幼・保　試験を受けよう
	第24回	職業基礎演習2 「3年次専門ゼミ」に向けた研究室選択(目標2,3)
	第25回	個人面接3-①
	第26回	個人面接3-②
	第27回	社会人基礎演習 　手紙の書き方・話法・挨拶・敬語とことば遣い
	第28回	二十歳の抱負を語る
	第29回	３年史に向けて 「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め。(目標3) ゼミ発表
	第30回	卒業研究発表会への参加
予習・復習の内容	予習	・職業選択に関係ある情報を常日頃から気に留め、読んだり集めたりしておくこと。
	復習	・授業終了後に感じたこと、学んだこと指導されたことなどを必ずまとめ、記録し保存しておくこと。 ・授業を通じて気づいた自分の課題について修正すべきところは修正したり学んだりすること。
	展開	・自分の意見をもち、積極的に参加すること。 ・他の人の考えから常に学ぶ姿勢で取り組むこと。 ・話を聞くときは記録しながら聞くこと
成績評価	評価の基準	主体的に参加し、キャリア決定していこうとする意欲がレポートや態度にあること。
	評価の方法	課題発表やレポート（ ３0%），課題に対する取り組み（ ７0%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 進路ガイダンス 2013	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず出席すること。	

環境と社会性発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	環境と社会性発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1038001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	環境と生得的な資質，相互作用，社会性の発達
授業のねらい・概要	１．社会性の発達に影響する環境や生得的な資質とは何かを理解する。 ２．社会性の発達に，育児の仕方と生得的な資質（気質・能力）の相互関係について理解する。 ３．社会性の発達を促進する個人的なやりとり・集団的なやりとりを理解する。
学生の達成目標	1. 環境と生得的な資質との相互作用によって社会性が発達することを理解する。 2. 社会性の発達のために望ましい環境,人との相互作用とは何かを理解する。 3. 家族内の親しい人との関係や友達関係と社会性の発達の関連を理解する。 4. 人間関係によって育まれる情緒調節の重要性を理解する。
授業内容	第1回　社会性の発達に影響する環境要因。環境と生得的な資質との相互作用に関する基本的な概念や考え方,研究法について学ぶ(目標1,2,3)

第2回	乳幼児の安心感。人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境について学ぶ。(目標2,3,4)
第3回	母子関係の意味。母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係を学ぶ。(目標3,4)
第4回	家族の変化と育児。社会と家族の変化を理解し,社会性発達に対する意味を考える。(目標2,3)
第5回	親子関係の相互性。親子がお互いに影響し合っている点と,相互作用の過程を学ぶ。(目標1,2,3)
第6回	人間関係と情緒調節。人間関係の中での情緒制御能力の育ちを理解する。(目標1,2,4)
第7回	共感と情報交換。幼児がいかに他者と共感し合いながら,情報交換を楽しみ,周りの世界に対するイメージを築いていくかを理解する。(目標2,3,4)
第8回	役割意識とルールの尊重。大人や友達との関わりを通じて,幼児がいかにみんなの中で役割意識を持てるようになり,ルールを尊重するようになるのかについて理解する。(目標2,4)
第9回	向社会的行動の発達と人間関係。人に対する思いやりが,人との関わりの中でどのように発達していくのかについて理解する。(目標2,4)
第10回	価値観と道徳性の発達。他児との関わりや集団生活の過程で,いかに他者理解が進むのか,道徳性が発達していくのかについて理解する。(目標2,4)
第11回	児童期思春期の社会性発達。乳幼児期の社会性発達と児童期思春期の発達との関連を理解し,長期的展望に立って子どもの発達を理解する。(目標2,4)
第12回	子育ての困難さと子育て支援。子育ての困難さや虐待の起こる要因を理解し,心の傷を負った子どもの成長や家族への子育て支援について考える。(目標1,2,4)
第13回	非行や反社会的行動と子育て。育児困難な子の発達や逸脱行動を理解し,社会性発達を促す関わり方について学ぶ。(目標2,3,4)
第14回	発達障害と社会性発達。自閉症や ADHDなどに見られる社会性の障害を理解し,社会性発達を促す働きかけについて学ぶ。(目標1,2,3,4)
第15回	社会的文化的環境と社会性発達。社会的文化的環境の違いによって社会性発達がどのように影響されるかを理解し,日本文化の中の育児法を考える。(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	社会性の発達に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味や考え方を確認する。
	展開	子どもと接したときに、子どもの成長を長い目で見て、どのように環境を設定していったらよいかが分かる。

成績評価	評価の基準	子どもの社会性発達における環境の大切さを理解する。 特に人間関係の重要性を認識し，望ましい環境・人間関係が分かる。

	評価の方法	授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は使用しない。資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	重要な事項は復習すること。	

幼児・児童の病気と医療

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT206
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の病気と医療
科目責任者	大濱　洋一
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1039001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童，病気，医療
授業のねらい・概要	幼児・児童の病気についての知識を習得し，正しい対応ができるようにする。
学生の達成目標	1. 幼児・児童の病気について理解する。 2. 幼児・児童が病気に罹患したとき正しく対応できる。 3. 幼児・児童の病気の予防および早期発見ができる。
授業内容	第1回　総論(目標1,2,3) 第2回　主な症状とその対策(目標1,2,3) 第3回　主な症状とその対策(目標1,2,3) 第4回　新生児・未熟児,染色体異常・奇形(目標1,2,3) 第5回　先天代謝異常,栄養の過不足,代謝疾患(目標1,2,3) 第6回　内分泌疾患,免疫・アレルギー疾患(目標1,2,3) 第7回　リウマチ・膠原病,感染症(目標1,2,3)

	第8回	感染症(目標1,2,3)
	第9回	消化器疾患(目標1,2,3)
	第10回	呼吸器疾患,循環器疾患(目標1,2,3)
	第11回	血液・造血器疾患,悪性腫瘍(目標1,2,3)
	第12回	腎・泌尿器・生殖器疾患(目標1,2,3)
	第13回	中枢神経疾患,筋・骨の疾患(目標1,2,3)
	第14回	心身症・精神疾患,事故・虐待(目標1,2,3)
	第15回	皮膚疾患,眼科・耳鼻咽喉科・歯科疾患(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	幼児・児童の病気について日常から関心を持ち，関連する図書や報道について理解しておくこと。
	復習	幼児・児童の病気を理解し，正しく対応できるかを確認すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	幼児・児童の病気および対応に関して，授業で取り上げた内容が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	期末の筆記試験　100%
教科書	書籍名	テキスト　子どもの病気
	著者名	監修：早川 浩・小林 昭夫
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	2,500円
	ISBN・ISSN	978-4-88924-2 C3047
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児・児童の障害と支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の障害と支援
科目責任者	多田　昌代
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1040001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童，障害，アセスメント，支援
授業のねらい・概要	アセスメントの基本理念や方法について理解することを目的とする。また，「コミュニケーション」や「行動上の問題」など，諸領域に対する支援について概説し，さらに，ある障害特性に特化した支援のあり方についても解説することを目標とする。併せて，障害のある子どもを支援する上で大切だと考えられることに触れる。
学生の達成目標	1. アセスメントの基本理念や方法について理解する。 2. 発達の諸領域，また，ある障害特性に対しての支援について，その原則を理解する。 3. 障害のある子どもを支援する上で大切な基本姿勢を理解する。
授業内容	第1回　アセスメントⅠ(諸検査)-(目標1) 第2回　アセスメントⅡ(関係者への聞き取り)-(目標1) 第3回　アセスメント（行動観察）-(目標1) 第4回　コミュニケーションに対する支援(DTTと機会利用型指導法)-(目標2)

	第5回	コミュニケーションに対する支援（AAC）-(目標2)
	第6回	行動上の問題に対する支援(FAとFCT)-(目標2)
	第7回	学習活動に対する支援-(目標2)
	第8回	対人関係に対する支援（ソーシャル・スキル・トレーニング）-(目標2)
	第9回	親子関係に対する支援(ペアレント・トレーニング，PCIT)-(目標2)
	第10回	就労に対する支援-(目標2)
	第11回	その他の支援技法-(目標3)
	第12回	障害の早期発見と療育，障害受容-(目標3)
	第13回	学習障害の理解と支援-(目標2)
	第14回	注意欠陥多動性障害の理解と支援-(目標2)
	第15回	自閉症スペクトラム障害の理解と支援-(目標2)
予習・復習の内容	予習	毎回，次週の授業内容に関連した資料を配布します。それに予め目を通しておくこと。
	復習	授業時に配布した資料を熟読すること。
	展開	授業内容に関連した小レポートを課します。それを次週提出すること。
成績評価	評価の基準	幼児・児童に接し，支援していく上での観点が定まること。 全般的な支援のあり方について，また，ある障害特性に特化した支援のあり方について理解できていること。 併せて，支援するに当たっての基本姿勢について自分なりの意見を述べられること。
	評価の方法	授業への取り組み状況(30%)，学期中の小レポート(30%)，学期末のレポート（40%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布したプリントを熟読のこと。	

事故・災害と救命救急法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT208
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	事故・災害と救命救急法
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1041001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児救急看護，子どもの事故と集団災害，小児救急救命処置
授業のねらい・概要	小児救急医療・看護を学び，小児救急場面に対応できる素地をつくる。
学生の達成目標	1. 小児救急医療・看護の概要が理解できる。 2. 子どもに多い事故や集団災害について理解できる。 3. トリアージの目的と救急救命処置について理解できる。 4. 救急場面における子ども・家族の反応を理解できる。 5. 小児救急場面における自分の役割を述べることができる。
授業内容	第1回　現代の子ども・家族と救急医療・看護(目標1,2) 第2回　救急医療を受ける子ども・家族の接近法(目標4,5) 第3回　小児救急における病態とプライマリーケア①(目標1,3,4)症状(発熱・下痢下血・嘔吐・吐血) 第4回　小児救急における病態とプライマリーケア②(目標1,3,4)症状(呼吸困難・痙攣・発疹・痛み) 第5回　救急と災害看護(目標1,2) 第6回　小児救急における病態とクリテカルケア(目標1,3,4)小児の一次・二次救命技術 第7回　子どもの事故の種類とその特徴(目標2) 第8回　事故に伴う起こりやすい病態と看護 事故予防指導(目標1,2,5) 第9回　事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標3)(小児救急救命認定看護師による講義) 第10回　事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標3)(シミュレーション等を通して実施) 第11回　子どもの虐待 初期治療および対応の原則(目標1,4,5) 第12回　子どもに特徴的な集団災害(目標2) 保健所,幼稚園,学校等における災害の特徴 第13回　子どもの集団行動およびパニックの理解(目標4) 第14回　子どもと家族へのケア(目標4,5) 第15回　総括

予習・復習の内容	予習	事故・災害について，日常から関心を持ち，関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておく。配布された資料はよく読み，整理すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業でとりあげた基礎的な内容が理解でき，自らの役割をのべることができること。
	評価の方法	試験60%，レポート20%，授業の参加度20%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	小児救急看護の概要を理解し，その知識を各自の職域に活用してほしい。	

幼稚園の管理と学級運営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT209
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼稚園の管理と学級運営
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1042001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校教育法，私立学校法，幼稚園管理，学級運営
授業のねらい・概要	幼稚園が教育機関として適正に運営されるのに必要な園及び学級の管理運営について学ぶことを目的とする。 内容としては，関係法令に定められた事項，私立学校として整備すべき事項，幼稚園管理及び学級運営業務の内容とその実際，そして障害のある子を受け入れるについての管理運営のあり方について理解する。
学生の達成目標	1. 幼稚園を運営管理することに係る法的な体系を理解する。 2. 私立幼稚園の幼稚園管理運営について,その内容と実際を理解する。 3. 幼稚園における学級運営にあたって必要な事項を理解する。 4. 障害のある子を受け入れるのに必要な管理等の体制を理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の概要と進め方) Ⅰ 法令等に基づく幼稚園の管理運営(目標1) 第2回　(1)学校教育法等を中心に① 日本の学校教育体系と幼稚園の位置付け等（目標1） 第3回　② 幼稚園の設置の基準等（目標1）

	第4回	(2)私立学校法等を中心に① 法人の意味,法人の組織等（目標1.2）
	第5回	② 法人管理運営の基本と,整備すべき規程 Ⅱ私立幼稚園管理運営の内容と実務(目標2)
	第6回	(1)学(園)則その他の表簿とその内容（目標2）
	第7回	(2)保健・安全・防災の方法（目標2.3）
	第8回	(3)人事・労務管理,教職員待遇等について（目標2）
	第9回	(4)財務・会計管理の方法（目標2）
	第10回	(5)教職員の資質向上 Ⅲ学級担任としての管理運営(目標3)
	第11回	(1)必要な書類とその整備,記録（目標3）
	第12回	(2)保護者との協同,地域との連携 Ⅳ障害のある子の受け入れ(目標4)
	第13回	(1)特別支援教育体制の整備とチームワーク
	第14回	(2)個々の指導(個別の指導計画)と連携（目標4）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	本授業においては予習することは難しいが、次時のテーマについて関心をもち、法令等を調べて授業に臨むことが望ましい。
	復習	配布された資料及び授業中のノートを整理し、ポイントとなる内容を確認する。
	展開	幼稚園管理に係る問題に関心をもち、新聞等に目を通して考える。幼稚園のボランティア等を行い、学級運営の実際を体験を通して学ぶ。
成績評価	評価の基準	幼稚園の管理運営について，関心を深め，多角的に理解できたかどうかを評価の基準とする。
	評価の方法	期間中の小レポート（ 10%），Ⅰ～ Ⅳの章ごとのレポート（ 30%），期末試験の結果（ 60%）によって評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 自作資料による。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	幼稚園の多くは私立幼稚園ですから，この授業では学校法人立の幼稚園を主にして，その管理運営を学びます。	

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT207
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1013101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育課程，指導計画と評価，保育内容，保育方法
授業のねらい・概要	保育所保育指針の改訂によって，保育現場においては保育課程の編成が必須のこととなった。 またそこでは各現場の状況を踏まえて独自に創意工夫することが求められている。 保育を展開して行く上では，計画し，実施し，省察し，評価し，改善を図るというサイクルが機能することが不可欠である。 これらを踏まえて，本授業においては保育の計画と評価，保育計画と指導計画についての基本的な理解と，保育の方法や内容について具体例を通しての理解を深めることを意図する。
学生の達成目標	1.　保育の計画と評価にかかわる,基本的な事項を理解する。 2.　保育の計画と評価について,基本的な視点を理解する。 3.　保育課程の編成,指導計画の作成について理解する。 4.　保育の計画と実践,省察と改善の実際について理解する。
授業内容	第1回　保育の制度と戦後の歩み（目標1.2） 第2回　保育所保育指針 その歴史・趣旨・構成（目標1.2.3.4.）

第3回	保育における環境の意味と諸要素（目標2.3）
第4回	保育の計画と保育課程・指導計画（目標3）
第5回	保育の指導案(その意義・目的・形式)（目標4）
第6回	保育の指導案(指導案の働きと書き方)（目標4）
第7回	保育の指導案(指導案の作成と検討)（目標4）
第8回	保育における評価と記録（目標2）
第9回	保育の方法としての遊び（目標3.4）
第10回	保育の方法としての生活（目標3.4）
第11回	遊びを核にした保育指導の進め方（目標3.4）
第12回	行事を核にした保育指導の進め方（目標3.4）
第13回	保育者の在り方(現場保育者の体験を聞く ①)（目標1.2.3.4.）
第14回	保育者の在り方(現場保育者の体験を聞く ②)（目標1.2.3.4.）
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	次時の内容に関する教科書の記述を読み、あらかじめ内容を理解しておく。 定められた提出物を作成する。
	復習	配布された資料や記録したノートをまとめ、整理し、ポイントとなる内容を確認する。
	展開	保育機関でのボランティアを行い、実際の体験を通して学びを深める。 保育の実際場面を想定し、指導案を自分で書いてみる。

成績評価	評価の基準	保育の計画と評価について基本的な事柄を理解することができたか。 保育指導の計画と実際について関心をもち，その内容内容を理解することができたか。
	評価の方法	期末試験 70%　期間中の課題への取り組み状況 20%　授業への参加度 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 保育原理（その構造と内容の理解）民秋　言編　萌文書林　2 ,100 ISBN： 4 -89347-191-6

推薦図書等	書籍名	これで安心！保育指導案の書き方
	著者名	開　仁志
	出版社	北大路書房
	価格	1800円
	ISBN・ISSN	978-4-7628-2621-1

参考URL

備考

保育内容総論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT208
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容総論 Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1043101（火曜日1時限）,A1043102（火曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	幼稚園や保育所での「保育内容」について，保育所保育指針および幼稚園教育要領で示されている基本的な視点について概説する。 また，事例を取り上げることで，受講生が保育内容について具体的なイメージを持ち，その展開等について自分なりに考える機会とする。
学生の達成目標	1.　保育内容に対する自分なりのイメージを持つ 2.　遊びや生活を通して学ぶということについて、自分なりに考える 3.　５領域の捉え方、考え方について知る
授業内容	第1回　オリエンテーション:幼稚園・保育所のイメージ(目標1) 第2回　遊びを通しての経験(目標2) 第3回　「領域」とは(目標3) 第4回　保育所・幼稚園の一日(1)(目標1・2・3) 第5回　保育所・幼稚園の一日(2)(目標1・2・3)

	第6回	保育所・幼稚園の一日(3)(目標1・2・3)
	第7回	遊びや生活を通して学ぶということ(1)(目標2)
	第8回	遊びや生活を通して学ぶということ(2)(目標2)
	第9回	保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方(目標2・3)
	第10回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(健康)(目標3)
	第11回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(人間関係)(目標3)
	第12回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(環境)(目標3)
	第13回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(言葉)(目標3)
	第14回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(表現)(目標3)
	第15回	総括・まとめ
予習・復習の内容	予習	毎回のテーマに該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	返却されたレポートを再読し、テキスト等と併せて再考するとともに、授業内容について整理する。
	展開	実際の保育に触れ、保育内容に対するイメージを膨らませ、具体化する。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容），期末試験を総合的に評価する
教科書	書籍名	最新保育講座４　保育内容総論
	著者名	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-623-05851-8
推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル社
	価格	100円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	保育所保育指針
	著者名	厚生労働省

出版社	フレーベル社
価格	120円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育内容総論 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT209
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容総論 Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1043201（火曜日1時限）,A1043202（火曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	保育内容を考える視点について，子どもの発達への理解や遊び等を通して理解を深める。
学生の達成目標	1. 発達過程による子どもの姿や保育展開の違いならびに連続性に気づく 2. 保育展開における子どものとらえ方や環境構成,保育士の関わりについて自分なりの考えを持ち言語化する 3. 子育て支援の現状および保育内容を深める遊び等への理解を深める
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　保育内容の実際(1)(目標1・2) 第3回　保育内容の実際(2)(目標1・2) 第4回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(0歳児)(目標1・2) 第5回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(1歳児)(目標1・2) 第6回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(2歳児)(目標1・2)

	第7回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(3歳児)(目標1・2)
	第8回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(4歳児)(目標1・2)
	第9回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(5歳児)(目標1・2)
	第10回	子育て支援と保育内容(1)(目標3)
	第11回	子育て支援と保育内容(2)(目標3)
	第12回	保育内容を深める遊びや文化財(1)(目標3)
	第13回	保育内容を深める遊びや文化財(2)(目標3)
	第14回	保育内容を深める遊びや文化財(3)(目標3)
	第15回	総括・まとめ
予習・復習の内容	予習	毎回のテーマに該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	返却されたレポートを再読し、テキスト等と併せて再考するとともに、授業内容について整理する。
	展開	実際の保育に触れ、保育内容に対するイメージを膨らませ、具体化する。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容），期末試験を総合的に評価する
教科書	書籍名	最新保育講座４　保育内容総論
	著者名	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-623-05851-8
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル社
	価格	190円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅰ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT210
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1044101（月曜日3時限）,A1044102（月曜日4時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
授業のねらい・概要	健康に関する総合的な知識を理解しつつ，保育内容「健康」の指導法，幼稚園ならびに保育園における健康領域の取り扱い方，また日常生活における健康の保持・増進について学ぶことを目的とする。
学生の達成目標	1. 成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2. 幼稚園教育要領における「健康」の内容を理解すること。 3. 保育所保育指針における「健康」の内容を理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～3) 第2回　健康の定義(目標1) 第3回　健康の定義(目標1) 第4回　身体の発育発達の特徴(1)(目標1) 第5回　身体の発育発達の特徴(2)(目標1)

	第6回	身体の発育発達の特徴(3)(目標1)
	第7回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(1)(目標2)
	第8回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(2)(目標2)
	第9回	基本的生活習慣の援助(1)(目標1～3)
	第10回	基本的生活習慣の援助(2)(目標1～3)
	第11回	運動と栄養(1)(目標1)
	第12回	運動と栄養(2)(目標1)
	第13回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(1)(目標3)
	第14回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(2)(目標3)
	第15回	総括(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の健康に関連する部分をよく読んで，覚えること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。 また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験 50%，レポート課題 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等	書籍名	文部科学省．幼稚園教育要領解説，東京．2008.
	著者名	
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4577812457
	書籍名	厚生労働省．保育所保育指針解説書，東京．2008.
	著者名	
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4577812426

参考URL

備考

保育内容演習Ⅱ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT211
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1044201（月曜日3時限）,A1044202（月曜日4時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
授業のねらい・概要	保育内容「健康」に示されている内容についてデータに基づいて理解を深め，子どもの健康づくりに必要な知識や技能を習得することを目的とする。データの収集法および分析と評価方法についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2. 生体に関する各種データの収集方法,データ処理方法の基礎を理解できること。 3. データの分析・評価方法の基礎を理解できること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～3) 第2回　運動・遊びと体力(1)(目標1) 第3回　運動・遊びと体力(2)(目標2,3) 第4回　運動・遊びと体力(3)(目標2,3) 第5回　こころの健康・からだの健康(1)(目標1)

	第6回	こころの健康・からだの健康(2)(目標1)
	第7回	自律神経の働きと体温(2)(目標1)
	第8回	自律神経の働きと体温(3)(目標2,3)
	第9回	自律神経の働きと体温(4)(目標2,3)
	第10回	免疫機能(1)(目標1)
	第11回	免疫機能(2)(目標1)
	第12回	随意運動と反射(1)(目標1)
	第13回	随意運動と反射(2)(目標1)
	第14回	随意運動と反射(3)(目標2,3)
	第15回	総括(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 実験実習の際には，得られたデータをまとめたり集計したりすることもある。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験30%，レポート課題40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅰ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT212
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（人間関係）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1045101（火曜日1時限）,A1045102（木曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション，幼児の人間関係の発達，体験的理解
授業のねらい・概要	乳幼児の人間関係の発達について体験的に理解する。
学生の達成目標	1. コミュニケーションの重要性を理解する。 2. 幼児の人とのかかわりの特徴を学ぶ。 3. 関係性援助の手法を体験的に学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　人間関係論を概括する。(目標1) 第3回　乳幼児期の人間関係を概括する。(目標2) 第4回　領域「人間関係」を学習する。(目標2) 第5回　子どもの関係性援助の技法1・コミュニケーション(目標1,2,3) 第6回　子どもの関係性援助の技法2・カードを用いて(目標1,2,3) 第7回　子どもの関係性援助の技法3・絵本を用いて(目標1,2,3)

	第8回	子どもの関係性援助の技法4・サイコロを用いて(目標1,2,3)
	第9回	子どもの関係性援助の技法5・フープを用いて(目標1,2,3)
	第10回	子どもの関係性援助の技法6・なわとびを用いて(目標1,2,3)
	第11回	子どもの関係性援助の技法7・ボールを用いて(目標1,2,3)
	第12回	子どもの関係性援助の技法8・バトンを用いて(目標1,2,3)
	第13回	子どもの関係性援助の技法9・ハンカチを用いて(目標1,2,3)
	第14回	子どもの関係性援助の技法10・粘土を用いて(目標1,2,3)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	乳幼児の人間関係について関連する図書を読み理解しておくこと。
	復習	授業内容を記録しておく。授業で課題を出すので提出を期限内にすること。
	展開	
成績評価	評価の基準	乳幼児期の人間関係について理解したか。体験的理解を理論的理解へ融合できたか。
	評価の方法	授業への参加態度80%，課題レポートの提出20%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの関係性援助の技法の授業は体操服着用。 技法の授業は，教室が変更になるので掲示板等で連絡する。	

保育内容演習Ⅱ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT213
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（人間関係）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1045201（木曜日1時限）,A1045202（木曜日3時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児の人間関係の発達・事例検討・グループディスカッション
授業のねらい・概要	乳幼児の人間関係について多様な援助方法を身につける。
学生の達成目標	1.　コミュニケーションの重要性を理解する。 2.　幼児の人とのかかわりの特徴を学ぶ。 3.　多様な援助方法を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標1） 第2回　0歳1歳2歳の世界（目標2） 第3回　3歳児の世界（目標2） 第4回　4歳児の世界（目標2） 第5回　5歳児の世界・協働体験（目標2） 第6回　5歳児の世界・育ち合う姿（目標2） 第7回　幼児のいざこざ1・遊具をめぐって（目標2）

	第8回	幼児のいざこざ2・友だちをめぐって（目標2）
	第9回	連絡帳の書き方1・園から伝える連絡帳（目標2・3）
	第10回	連絡帳の書き方2・保護者に答える連絡帳（目標2・3）
	第11回	保護者支援1・怪我をめぐって（目標2・3）
	第12回	保護者支援2・友だち関係をめぐって（目標2・3）
	第13回	保護者支援3・保護者面談（目標2・3）
	第14回	保護者支援4・保護者会（目標2・3）
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	乳幼児の人間関係についての関連図書を読み，内容を理解しておくこと。
	復習	授業内容の要旨をまとめ，さらに学習を進めておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	乳幼児期の人間関係について理解したか。 保育における多様な援助方法について理解したか。
	評価の方法	授業への参加態度80%，課題レポートの提出20%
教科書	書籍名	保育実践に学ぶ保育内容「人間関係」
	著者名	咲間まり子・栗原ひとみ他
	出版社	（株）みらい
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	保育内容演習Ⅰ（人間関係）を履修していること。	

保育内容演習Ⅰ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT307
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（環境）
科目責任者	神野　茂美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1046102
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり　自然，物，人との触れ合い　生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 幼児期における環境の役割を知る。 2. 幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3. 幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。 4. 身近な植物,動物,小動物等について基本的な理解をする。 5. 領域「環境」の保育内容を実践する様々な留意点について学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション,講師自己紹介(目標1) 第2回　保育の基本とは DVD視聴(目標1) 第3回　保育内容,領域とは(目標1) 第4回　領域「環境」とは,身近な野草の観察(目標4)

	第5回	植物とどのようにかかわるか① プランター野菜の種まき,苗植え実習(目標4)
	第6回	子どもの発達の見方,捉え方 DVD視聴(目標1)
	第7回	生活の中での「環境とかかわる力」の発達,カイコの飼育実習(目標4)
	第8回	遊びの中での「環境とかかわる力」の発達(目標1)
	第9回	関係や保育環境のあり方と「環境とかかわる力の発達」(目標1)
	第10回	植物とどうかかわるか② 木の葉を使った粘土作品作り実習(目標2)
	第11回	植物とどうかかわるか③ 幼稚園の食育についてスライド視聴(目標2)
	第12回	動物とどうかかわるか①(目標4)
	第13回	飼育動物とどうかかわるか② ウサギとカメの飼育,かかわりについて実習(目標4)
	第14回	小動物とどうかかわるか カタツムリの飼育について(目標4)
	第15回	まとめ　動物とどうかかわるか③ 千葉市動物公園見学(目標4)
予習・復習の内容	予習	テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。
	復習	次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の理解度を試験，レポートで評価。
	評価の方法	試験70%，小テスト10%，実習の取り組み20%
教科書	書籍名	最新保育講座　保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義だけでなく，DVD視聴，さまざまの実習を取り入れます。	

保育内容演習Ⅰ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT307
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（環境）
科目責任者	岩館　正雄
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1046101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 幼児期における環境の役割を知る。 2. 幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3. 幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。 4. 身近な植物,動物,小動物等について基本的な理解をする。 5. 領域「環境」の保育内容を実践する様々な留意点について学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション,講師自己紹介(目標1) 第2回　保育の基本とは (目標1) 第3回　保育の内容,領域とは(目標1) 第4回　領域「環境」とは,身近な野草の観察(目標4)

	第5回	植物とどのようにかかわるか① プランター野菜の種まき,苗植え実習(目標4)
	第6回	子どもの発達の見方,捉え方 DVD視聴(目標1)
	第7回	生活の中での「環境とかかわる力」の発達,カイコの飼育実習(目標4)
	第8回	遊びの中での「環境とかかわる力」の発達(目標1)
	第9回	関係や保育環境のあり方と「環境とかかわる力の発達」(目標1)
	第10回	植物とどうかかわるか② 粘土作品作り実習(目標2)
	第11回	植物とどうかかわるか② 粘土作品作り実習(目標2)
	第12回	動物とどうかかわるか①(目標4)
	第13回	飼育動物とどうかかわるか② ウサギとカメの飼育,かかわりについて実習(目標4)
	第14回	小動物とどうかかわるか カタツムリの飼育について(目標4)
	第15回	まとめ　動物とどうかかわるか③ 千葉市動物公園見学(目標4)
予習・復習の内容	予習	テキストを読む。
	復習	ノートの見直し。
	展開	
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験100%
教科書	書籍名	最新保育講座保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅱ （環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT308
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ （環境）
科目責任者	岩館　正雄
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1046201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり。
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 幼児期における環境の役割を知る。 2. 幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3. 幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。 4. 身近な植物,動物,小動物等について基本的な理解をする。 5. 領域「環境」の保育内容を実践する様々な留意点について学ぶ。
授業内容	第1回　生物多様性とは(目標4) 第2回　環境教育(目標3) 第3回　身近な自然とどうかかわっているか(目標3) 第4回　関係のなかで「環境とかかわる力の発達」(目標3) 第5回　身近な物とどうかかわるか(目標2)

	第6回	文字や記号とどうかかわるか(目標2)
	第7回	数量や形とどうかかわるか(目標2)
	第8回	園内外の行事や人とどうかかわるか(目標2)
	第9回	環境構成,保育者の役割と領域「環境」(目標2)
	第10回	好奇心,探究心,思考力を育てるとは(目標2)
	第11回	物や命を大切にするには(目標2)
	第12回	生活に関係の深い情報や施設に関心を持つには(目標2)
	第13回	領域「環境」と実践上の留意点①(目標5)
	第14回	領域「環境」と実践上の留意点②(目標5)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	テキストを読む。
	復習	ノートの見直し。
	展開	
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験100%
教科書	書籍名	最新保育講座保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅱ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT308
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（環境）
科目責任者	神野　茂美
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1046202
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり　自然，物，人との触れ合い　生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 幼児期における環境の役割を知る。 2. 幼児が様々な環境にかかわり，それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3. 幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。 4. 身近な植物，動物，小動物等について基本的な理解をする。 5. 領域「環境」の保育内容を実践する様々な留意点について学ぶ。
授業内容	第1回　生物の多様性とは（目標４） 第2回　環境教育，ビオトープについて　スライド視聴（目標３） 第3回　身近な自然とどうかかわっているか　プランター球根植え，苗植え実習（目標３） 第4回　関係のなかで「環境とかかわる力の発達」（目標３）

	第5回	身近な物とどうかかわるか 草木染め（マリーゴールド）実習（目標２）
	第6回	文字や記号とどうかかわるか（目標２）
	第7回	数量や形とどうかかわるか　積み木教材実習（目標２）
	第8回	園内外の行事や人とどうかかわっているか　園行事（発表会）DVD視聴（目標２）
	第9回	環境構成，保育者の役割と領域「環境」（目標２）
	第10回	好奇心，探究心，思考力を育てるとは（目標２）
	第11回	物や命を大切にするには（目標２）
	第12回	生活に関係の深い情報や施設に関心をもつには　千葉県立中央博物館DVD視聴（目標２）
	第13回	領域「環境」と実践上の留意点①（目標５）
	第14回	領域「環境」と実践上の留意点②（目標５）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。
	復習	次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の理解度を試験，レポートで評価。
	評価の方法	試験70%，小テスト10%，実習の取り組み20%
教科書	書籍名	最新保育講座　保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義だけでなく，DVD視聴，さまざまの実習を取り入れます。	

保育内容演習Ⅰ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT309
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1047101（火曜日3時限）,A1047102（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助
授業のねらい・概要	言葉の発達を理解し，子ども理解を深める。言葉から子どもの育ちを援助する。
学生の達成目標	1.　言葉の発達を理解する。 2.　言葉から子どもの内面を理解する。 3.　保育現場における言葉の援助方法を学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　保育の基本と理念(目標1,3) 第3回　環境を通しての保育(目標1,3) 第4回　遊びを通しての保育(目標1,3) 第5回　ことばの前のことば(目標1,2) 第6回　言葉の発達の道筋(0歳)(目標1,2) 第7回　言葉の発達の道筋(1歳)(目標1,2)

	第8回	言葉の発達の道筋(2歳)(目標1,2)
	第9回	言葉の発達の道筋(3歳)(目標1,2)
	第10回	言葉の発達の道筋(4歳)(目標1,2)
	第11回	言葉の発達の道筋(5歳)(目標1,2)
	第12回	素話実践・テーマ探求(目標3)
	第13回	素話実践・展開の技法(目標3)
	第14回	素話実践・発表(目標3)
	第15回	総括(目標3)
予習・復習の内容	予習	乳幼児のことばに関連する図書を読み，関心を喚起しておく。
	復習	授業内容に関して，記録をとり，理解を深めておく。
	展開	
成績評価	評価の基準	乳幼児の言葉の発達を理解したか。 実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。
	評価の方法	授業への参加態度30%（コメントカードの提出） 課題の提出 20%。試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅱ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT310
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1047201（火曜日3時限）,A1047202（水曜日1時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助
授業のねらい・概要	言葉から子どもの育ちを援助する多様な方法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 言葉の発達を理解する。 2. 言葉から子どもの内面を理解する。 3. 保育現場における言葉の援助方法を学ぶ。 4. 保育現場における言葉援助技法を学ぶ。 5. 言葉と関連領域の重層性について学ぶ。
授業内容	第1回　絵と言葉の関係性(目標2,4) 第2回　身振りと言葉の関係性(目標2,4) 第3回　書き言葉の前に(目標2,4) 第4回　言葉援助技法1・絵に描くことば(目標2,4) 第5回　言葉援助技法2・空中のことば(目標2,4)

	第6回	言葉援助技法3・からだのことば(目標2,4)
	第7回	言葉援助技法4・文字になる前に(目標2,4)
	第8回	言葉援助技法5・子どものねがいとことば(目標2,4)
	第9回	子どもの読むことへの興味(目標2,5)
	第10回	子どもの書くことへの興味(目標2,5)
	第11回	保育援助としての言葉(目標2,5)
	第12回	言葉から子どもの内面をさぐる(目標2,5)
	第13回	言葉から子ども理解を深める(目標2,5)
	第14回	言葉から自己の保育観をみつめる(目標3,5)
	第15回	総括(目標5)
予習・復習の内容	予習	乳幼児のことばに関連する図書を読み，関心を喚起しておく。
	復習	授業内容に関して，理解を深めて実践への応用を考察する。
	展開	
成績評価	評価の基準	乳幼児の言葉の発達を理解したか。 実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。
	評価の方法	授業への参加態度30%（コメントカードの提出） 課題の提出20%，試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習Ⅰ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT311
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（表現）
科目責任者	田島　美帆
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1048101（火曜日1時限）,A1048102（火曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音と動き，創造，ワークショップ，協同
授業のねらい・概要	本授業では，領域「表現」について，ワークショップ型（参加体験型）の学習方法を使って，実際に動きながら学んでいく。学生自身が楽器や素材等を用いる表現活動，創作活動を通して，表現の多様性に気づくことで，保育者として子どもの表現を柔軟に受け止める援助，指導について考えていく。
学生の達成目標	1. 領域「表現」の考え方を踏まえた上で,日常の保育や行事で展開する「表現」について理解する 2. 学生自身が表現活動を体験することで,自らの表現力を広げる 3. ワークショップ型(参加体験型)の協同的な学習を通して,他者やモノとの関わりを通して多様な表現が生まれることを理解する
授業内容	第1回　本授業の目標,概要などについてのガイダンス及び領域「表現」についての説明(目標1) 第2回　保育における音と動きを使った遊び(目標1,2,3) 第3回　楽器あそび(1)楽器を用いる音と動きの表現活動(目標1,2,3) 第4回　楽器あそび(2)楽器を用いる音と動きの表現活動(目標1,2,3)

	第5回	楽器あそび(3)楽器を用いる音と動きの表現活動(目標1,2,3)
	第6回	ピアノを使った表現活動(1)クラスター(塊弾き)や内部奏法を用いる表現活動(目標1,2,3)
	第7回	ピアノを使った表現活動(2)クラスター(塊弾き)や内部奏法を用いる表現活動(目標1,2,3)
	第8回	ピアノを使った表現活動(3)クラスター(塊弾き)や内部奏法を用いる表現活動(目標1,2,3)
	第9回	素材を使った遊び(1)身のまわりの自然の素材を使った表現活動(目標1,2,3)
	第10回	素材を使った遊び(2)身のまわりの自然の素材を使った表現活動(目標1,2,3)
	第11回	素材を使った遊び(3)身のまわりの人工の素材を使った表現活動(目標1,2,3)
	第12回	絵本を使った表現活動(1)絵本をベースにした音と動きの表現活動(目標1,2,3)
	第13回	絵本を使った表現活動(2)絵本をベースにした音と動きの表現活動(目標1,2,3)
	第14回	絵本を使った表現活動(3)絵本をベースにした音と動きの表現活動(目標1,2,3)
	第15回	まとめ 本授業を振りかえり,領域「表現」について考える(目標1)
予習・復習の内容	予習	日頃から領域「表現」について関心を持ち，関連情報や書籍，雑誌に目を通しておくこと。事前に指示する課題については個人，或いはグループで調べ，発表できるようにしておくこと。
	復習	毎回，授業終了時に「感想レポート」の記入を課す。また，毎回の授業の内容については，各自まとめておくこと。課題が指示された場合，期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	領域「表現」について基本的な考え方を理解していること。個人で或いは仲間と一緒に，表現活動を体験することで，自らの表現の可能性に気づき，積極的に参加できること。
	評価の方法	感想レポート（40%），グループワーク（30%），授業への参加態度（30%）の成績を統合する。但し，この比率は，最終的には若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	ピアノとあそぼう　それぞれの表現を見つける音楽教育
	著者名	
	出版社	音楽之友社
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	4-276-31328-7 C1073

書籍名	子どものためのたのしい音遊び　伝え合い，表現する力を育む
著者名	
出版社	音楽之友社
価格	2,000円
ISBN・ISSN	978-4-276-32141-0 C1073

参考URL	
備考	授業では，動いたり，床に座ったりすることがあるので，動きやすく，汚れても構わない服装で来てください。授業への積極的な参加と関わりをお願いします。

保育内容演習Ⅱ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT312
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（表現）
科目責任者	田島　美帆
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1048201（火曜日1時限）,A1048202（火曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	グループワーク，模擬実習，ふりかえり
授業のねらい・概要	本授業では，領域「表現」を理解し，日常の保育の中で展開する「表現」の具体的な指導について学ぶ。前期，『保育内容演習Ⅰ』での様々な表現活動の経験をもとに，身体表現，楽器遊び，素材遊び，絵本などをテーマとする表現活動の指導を「模擬実習」という形で体験することで，子どもの表現を柔軟に受け止め援助できる指導力の育成を目指す。
学生の達成目標	1. 領域「表現」の考え方を踏まえた上で,日常の保育や行事で展開する「表現」を指導することについて理解する。 2. 授業内で「模擬実習」という形式で,表現活動の指導を体験することで表現活動を展開する上で,子どもに対してどのような配慮が必要なのかを学ぶ。 3. 表現活動の立案→実施→ふりかえりを体験することで,現場で使える指導力について理解する。
授業内容	第1回　本授業の目標,概要などについてのガイダンス及び領域「表現」の指導についての説明(目標1)

	第2回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について(1)(目標1)
	第3回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について(2)(目標1)
	第4回	表現活動の模擬実習(1)主に身体を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第5回	表現活動の模擬実習(2)主に身体を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第6回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について(3)(目標1)
	第7回	表現活動の模擬実習(3)主に楽器を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第8回	表現活動の模擬実習(4)主に楽器を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第9回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について(4)(目標1)
	第10回	表現活動の模擬実習(5)主に素材を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第11回	表現活動の模擬実習(6)主に素材を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第12回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について(目標1)
	第13回	表現活動の模擬実習(7)主に絵本を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第14回	表現活動の模擬実習(8)主に絵本を用いた表現活動の模擬実習をグループごとに行う(目標1,2,3)
	第15回	まとめ 本授業を振りかえり,領域「表現」の指導について考える(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	日頃から領域「表現」について関心を持ち，関連情報や書籍，雑誌に目を通しておくこと。模擬実習を行うにあたっては，グループごとに指導案を綿密に立て，準備をしてのぞむこと。
	復習	毎回，授業終了時に「感想レポート」の記入を課す。また，毎回の授業の内容については，各自まとめておくこと。課題が指示された場合，期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	領域「表現」について基本的な考え方を理解していること。仲間と一緒に，表現活動の「模擬実習」を体験することで，表現を指導することにある程度のイメージを持てること。
	評価の方法	感想レポート（25%），グループワーク（50%），授業への参加態度（25%）の成績を統合する。但し，この比率は，最終的には若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	子どものためのたのしい音遊び　伝え合い，表現する力を育む
	著者名	
	出版社	音楽之友社
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-276-32141-0 C1073

参考URL	
備考	授業では，動いたり，床に座ったりすることがあるので，動きやすく，汚れても構わない服装で来てください。授業への積極的な参加と関わりをお願いします。

精神保健演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT401
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	精神保健演習
科目責任者	浅野　誠
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1049001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心と身体　脳の発達　精神の病　精神の病の予防　地域と精神医療
授業のねらい・概要	人がなぜ精神を病むのか。どのような精神の病があるか。予防に必要なことは何か。 病んだ人への援助法。などについて知る。
学生の達成目標	1.　身体と心の関係について理解する。 2.　脳の構造と機能について理解する。 3.　精神の疾病について理解する。 4.　精神の保健について理解する。 5.　精神を病んだ人への援助法について知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　身体と心 脳と心の関係(目標2) 第3回　脳の解剖学 ニュウロンについて(目標2) 第4回　身体の発達と心の発達(目標1) 第5回　精神症状1(目標3)

	第6回	精神症状2(目標3)
	第7回	精神疾患各論 神経症関連(目標3)
	第8回	精神疾患各論 心身症関連(目標3)
	第9回	精神疾患 精神病総論(目標3)
	第10回	精神疾患各論 統合失調症1(目標3)
	第11回	精神疾患各論 統合失調症2(目標3)
	第12回	精神疾患各論 感情病1(目標3)
	第13回	精神疾患各論 感情病2(目標3)
	第14回	精神疾患各論 器質性精神病(目標3)
	第15回	精神疾患各論 症状性精神病(目標3)
	第16回	精神作用性物質による精神病 覚せい剤(目標3)
	第17回	精神作用性物質による精神病 アルコール(目標3)
	第18回	認知症1(目標3)
	第19回	認知症2(目標3)
	第20回	児童青年期の精神障害1(目標3)
	第21回	児童青年期の精神障害2(目標3)
	第22回	摂食障害(目標3)
	第23回	精神の病の予防について(目標4)
	第24回	精神の病の治療法(目標4)
	第25回	精神を病んだ人への援助法1(目標5)
	第26回	精神を病んだ人への援助法2(目標5)
	第27回	精神病と法律(目標5)
	第28回	精神の病と文化 社会(目標4,5)
	第29回	精神の病と歴史(目標4,5)
	第30回	まとめ(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	各テーマにそって，あらかじめプリントを渡し，予習しておいてもらう。
	復習	授業中に解説し，理解を深め，帰宅後，再読してもらう。
	展開	
成績評価	評価の基準	上記達成目標に到達し，精神保健の基本事項をよく理解していること。
	評価の方法	試験の成績60%，授業への参加度30%，課題の発表により10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	精神科臨床ベストアドヴァイス
	著者名	浅野　誠　編集
	出版社	診断と治療社
	価格	5,200円
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1717-4

参考URL	
備考	授業毎にプリントを渡す。

乳児保育　A

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT214
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	乳児保育　A
科目責任者	村松　憲子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1050101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児の発達と特性，保育（養護と教育）の実践，保育所の歴史的変遷と役割
授業のねらい・概要	乳児保育（3歳未満児）に必要な知識・技能・態度を養う。子どもを取り巻く子育て環境の変化や保育ニーズの現状を理解し，人格形成の基礎を培う乳幼児期の子どもの生活のあり方・援助の方法について専門的知識と実践技能の習得を図る。
学生の達成目標	1. 乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について理解する。 2. 3歳未満児の子どもの心身の発達に関して基礎的知識を身につける。 3. 3歳未満児保育の計画・内容及び具体的な援助の方法について理解する。 4. 保育士の専門性について認識し，保護者や地域との連携の必要性を知る。
授業内容	第1回　乳児保育の意義（目標１） 第2回　乳児理解と保育の基本（目標１） 第3回　乳児保育のあゆみ（目標１） 第4回　乳児保育の現状と課題（乳児院・保育園・家庭その他（目標１）

第5回	乳児の発達とその特質（目標２）
第6回	3歳未満児の発達と特徴　0歳前期（目標２）
第7回	3歳未満児の発達と特徴　0歳後期（目標２）
第8回	3歳未満児の発達と特徴　15ヶ月未満（目標２）
第9回	3歳未満児の発達と特徴　24ヶ月未満（目標２）
第10回	3歳未満児の発達と特徴　3歳未満（目標２）
第11回	3歳未満児の発達と特徴　愛着関係と自我の育ち（目標２）
第12回	乳児期の生活と環境（目標２）
第13回	乳児期の生活と環境（食事Ⅰ　授乳・離乳）（目標２，３）
第14回	乳児期の生活と環境（食事Ⅱ　離乳食と食育）（目標２，３）
第15回	乳児期の生活と環境（睡眠と生活リズム）（目標２，３）
第16回	乳児期の生活と環境（排泄　オムツ交換・トイレットトレーニング）（目標２，３）
第17回	乳児期の生活と環境（健康・安全）（目標２，３）
第18回	乳児期の遊びの発達的意味とかかわり（目標２，３）
第19回	乳児期の遊びと環境（空間構成と玩具）（目標２，３）
第20回	乳児期の遊びと環境（絵本・パネルシアター等）（目標２，３）
第21回	乳児期の遊びと環境（手遊び・ふれあい遊び）（目標２，３）
第22回	3歳未満児の遊びと環境（手作り玩具）（目標２，３）
第23回	気になる子どもの言動の理解と対応Ⅰ（実践例から）（目標３）
第24回	気になる子どもの言動の理解と対応Ⅱ（目標３）
第25回	保育課程と指導計画の展開（目標３）
第26回	3歳未満児保育の記録と評価（目標３）
第27回	家庭の変遷と子育て支援（目標４）
第28回	保育者理解及び地域との連携（目標４）
第29回	3歳未満児の生活を支える保育者の役割（目標４）
第30回	乳児保育の理念と課題

予習・復習の内容	予習	保育雑誌・育児雑誌を読み，関連する報道等に関心を持って視聴すること。 教科書の下読みをし，わからないところは保育用語辞典等で調べ，理解しておくこと。
	復習	授業の内容に関連事項も加え，ノートに整理しておくこと。
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。授業内容を基に乳幼児の生活全般に関しての援助技術が身についていること。
	評価の方法	試験（70%），提出物（20%），授業への参加状況（10%）

教科書	書籍名	演習・乳児保育の基本
	著者名	阿部和子著
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	最新保育資料集2013
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	指導内容は状況により順番が前後することもある。

乳児保育　B

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT214
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	乳児保育　B
科目責任者	村松　憲子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1050102
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児の発達と特性，保育（養護と教育）の実践，保育所の歴史的変遷と役割
授業のねらい・概要	乳児保育（3歳未満児）に必要な知識・技能・態度を養う。子どもを取り巻く子育て環境の変化や保育ニーズの現状を理解し，人格形成の基礎を培う乳幼児期の子どもの生活のあり方・援助の方法について専門的知識と実践技能の習得を図る。
学生の達成目標	1. 乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について理解する。 2. 3歳未満児の子どもの心身の発達に関して基礎的知識を身につける。 3. 3歳未満児保育の計画・内容及び具体的な援助の方法について理解する。 4. 保育士の専門性について認識し,保護者や地域との連携の必要性を知る。
授業内容	第1回　乳児保育の意義(目標1) 第2回　乳児理解と保育の基本(目標1) 第3回　乳児保育のあゆみ(目標1) 第4回　乳児保育の現状と課題(乳児院・保育園・家庭その他(目標1)

第5回	乳児の発達とその特質(目標2)
第6回	3歳未満児の発達と特徴 0歳前期(目標2)
第7回	3歳未満児の発達と特徴 0歳後期(目標2)
第8回	3歳未満児の発達と特徴 15ヶ月未満(目標2)
第9回	3歳未満児の発達と特徴 24ヶ月未満(目標2)
第10回	3歳未満児の発達と特徴 3歳未満(目標2)
第11回	3歳未満児の発達と特徴 愛着関係と自我の育ち(目標2)
第12回	乳児期の生活と環境(目標2)
第13回	乳児期の生活と環境(食事Ⅰ 授乳・離乳)(目標2,3)
第14回	乳児期の生活と環境(食事Ⅱ 離乳食と食育)(目標2,3)
第15回	乳児期の生活と環境(睡眠と生活リズム)(目標2,3)
第16回	乳児期の生活と環境(排泄 オムツ交換・トイレットトレーニング)(目標2,3)
第17回	乳児期の生活と環境(健康・安全)(目標2,3)
第18回	乳児期の遊びの発達的意味とかかわり(目標2,3)
第19回	乳児期の遊びと環境(空間構成と玩具)(目標2,3)
第20回	乳児期の遊びと環境(絵本・パネルシアター等)(目標2,3)
第21回	乳児期の遊びと環境(手遊び・ふれあい遊び)(目標2,3)
第22回	3歳未満児の遊びと環境(手作り玩具)(目標2,3)
第23回	気になる子どもの言動の理解と対応Ⅰ(実践例から)(目標3)
第24回	気になる子どもの言動の理解と対応Ⅱ(目標3)
第25回	保育課程と指導計画の展開(目標3)
第26回	3歳未満児保育の記録と評価(目標3)
第27回	家庭の変遷と子育て支援(目標4)
第28回	保育者理解及び地域との連携(目標4)
第29回	3歳未満児の生活を支える保育者の役割(目標4)
第30回	乳児保育の理念と課題

予習・復習の内容	予習	保育雑誌・育児雑誌を読み，関連する報道等に関心を持って視聴すること。 教科書の下読みをし，わからないところは保育用語辞典等で調べ，理解しておくこと。
	復習	授業の内容に関連事項も加え，ノートに整理しておくこと。
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。授業内容を基に乳幼児の生活全般に関しての援助技術が身についていること。
	評価の方法	試験（70%），提出物（20%），授業への参加状況（10%）

教科書	書籍名	演習・乳児保育の基本
	著者名	阿部和子著
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	最新保育資料集2013
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	指導内容は，状況により順番が前後することもある。

障害児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT313
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	障害児保育
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1051101（月曜日4時限）,A1051102（火曜日3時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児保育，統合保育，個に応じたかかわり
授業のねらい・概要	一般の保育と障害児保育との連続性に気付き，一人ひとりの発達上の課題に対して，特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害に対する理解を深める。 また，障害のある子どもを取り巻く理念や保育の現状、ならびに今後の課題について理解する。 また，障害のある子を含めた保育展開上の配慮点，環境設定上の工夫などについても，演習を通して体験的に理解する。
学生の達成目標	1. 障害児保育を支える理念や取り巻く現状について理解する 2. 障害のある子や保護者が「困っていること」について理解する 3. 障害のある子を含めた遊びの展開について考える
授業内容	第1回　ガイダンス・障害児保育とは (目標1) 第2回　障害の概念・障害のある子への保育の現状および変遷（目標１） 第3回　子どもの「困っていること」への理解１（視覚の障害）　（目標２） 第4回　子どもの「困っていること」への理解２（聴覚の障害）（目標２）

第5回	子どもの「困っていること」への理解３（ことばの障害）（目標２）
第6回	教材研究（支援機器の紹介・視覚的手がかりの作成）（目標２）
第7回	子どもの「困っていること」への理解４（身体と運動の障害／知能の障害）（目標２）
第8回	子どもの「困っていること」への理解５（発達障害：概説）（目標２）
第9回	子どもの「困っていること」への理解６（発達障害：感覚統合１）（目標２）
第10回	子どもの「困っていること」への理解７（発達障害：感覚統合２）（目標２）
第11回	見方を変えて味方になる１（事例検討）（目標２）
第12回	見方を変えて味方になる２（事例検討）（目標２）
第13回	見方を変えて味方になる３（事例検討）（目標２）
第14回	見方を変えて味方になる４（事例検討）（目標２）
第15回	前期まとめ
第16回	後期ガイダンス・グループ分け
第17回	療育での育ち（目標１）
第18回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）１（目標３）
第19回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）２（目標３）
第20回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）３（目標３）
第21回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）４（目標３）
第22回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）５（目標３）
第23回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）６（目標３）
第24回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）７（目標３）
第25回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）８（目標３）
第26回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）９（目標３）
第27回	障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）１０（目標３）
第28回	障害のある子・気になる子の保護者への対応について考える１（障害受容について）（目標２）
第29回	障害のある子・気になる子の保護者への対応について考える２（保護者のストレッサーについて）（目標２）
第30回	まとめ・総括

予習・復習の内容	予習	障害のある子に関連する本や新聞記事等に目を通し、障害のある子を取り巻く現状や抱える困難について、考えてくる。
	復習	配布資料、授業内容を整理し、重要な事項をまとめる。
	展開	ボランティア等を通して、障害のある子や大人に接する機会を持ち、体験を通して学ぶ。

成績評価	評価の基準	上記「学籍の達成目標」に到達し，障害児保育に関する基本的な知識および考え方が各自に備わること
	評価の方法	平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，最終レポート 20%，期末筆記試験 50%の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	本計画は，学生の理解状況・教育効果により，前後する可能性がある。	

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT314
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1052101（火曜日1時限）,A1052102（火曜日2時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，心の発達課題，基本的信頼，コモンセンスペアレンティング
授業のねらい・概要	現代の子どもを巡る社会的養護の現状を理解し，児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について基本的な事柄を理解するとともに，広く現代の子どもたちの健全な発達を支援するための具体的な援助の方法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護の実態（現代の社会状況・児童福祉施設入所児の暮らし）を知る。 2. 事例検討や援助技術の実習等を通して，子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3. これからのこどもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 自分のストレングスを知る 第2回　心の発達課題と現代の子どもたち(目標1) 第3回　虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機(目標1) 第4回　心の発達の支援(目標1)

第5回	児童相談所の一時保護所の子どもたちへの援助～大切なこと(1)分離の説明と共通認識(目標1,3)
第6回	乳児院の子どもたちの暮らしとその支援～大切なこ(2)発達支援(目標1,3)
第7回	児童養護施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこと(3)問題行動の理解(目標1,3)
第8回	母子生活支援施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこと(4)被虐待児への対応(目標1,3)
第9回	児童自立支援施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこと(5)暴れる子への対応(目標1,3)
第10回	情緒障害児施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこ(6)発達障害児の理解と対応(目標1,3)
第11回	福祉型障害児入所施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこと(7)知的障害児の理解と対応(目標1,3)
第12回	医療型障害児入所施設の子どもの暮らしとその支援～大切なこと(8)療育手帳の理解(目標1,3)
第13回	里親家庭の暮らしと里親支援～大切なこと(9)家庭(的)養育の意義と課題(目標1,3)
第14回	児童発達支援センターへ通う親子への支援～大切なこと(10)相談の受け方(目標1,3)
第15回	前期のまとめ:児童福祉施設における児童の社会的養護とその意義(目標1,3)
第16回	施設入所時の留意点と基本的な日常生活の支援(目標1,2)
第17回	子どもの自立への支援 リービングケアとアフターケア(目標1,2)
第18回	アセスメントと自立支援計画(目標1,2)
第19回	実習で出会った気になる子ども(自立支援計画の作成とグループ討議)(目標2)
第20回	実習で出会った気になる子ども(グループ討議による事例検討)(目標2)
第21回	実習で出会った気になる子ども(グループ討議及び発表)(目標2)
第22回	コモンセンス・ペアレンティング(1)怒鳴らない子育て ①わかりやすいコミュニケーション(実習)(目標2)
第23回	コモンセンス・ペアレンティング(2)②良い結果悪い結果 ③効果的なほめ方(実習)(目標2)
第24回	コモンセンス・ペアレンティング(3)④予防的教育法(実習)(目標2)
第25回	コモンセンス・ペアレンティング(4)⑤問題行動を正す教育法(実習)(目標2)
第26回	コモンセンス・ペアレンティング(5)⑥自分自身をコントロールする教育法(実習)(目標2)
第27回	家庭支援と家族再統合(目標1,2)
第28回	学校や地域社会との関係(目標1,3)
第29回	保育士の倫理と専門性(目標3)

	第30回	社会的養護内容のまとめ～これからの施設と保育士の役割と求められるもの(目標3)
予習・復習の内容	予習	社会的養護の問題に日常的に関心を持ち，関連する報道を理解しておくこと。 事前に指示されたテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。
	復習	毎回の授業のプリントを整理し，自分なりに説明できるようにすること。 ロールプレイの課題について，すべて自分自身でやってみること。
	展開	
成績評価	評価の基準	社会的養護の現状と要保護児童の支援について理解し，自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験50%，授業中のレポート30%，授業への参加度20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリントを配布する。	
推薦図書等	書籍名	検討中
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT215
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1010201（火曜日3時限）,A1010202（火曜日５時限）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの最善の利益，保護者の養育力，共感，倫理，コミュニケーション
授業のねらい・概要	保育士の「保護者に対する保育に関する指導」（児童福祉法第18条の４）について具体的に学ぶことを目的としている。
学生の達成目標	1. 保育相談支援の理念と目的を知る。保育士として,保育に関する専門知識・技術を背景としながら保護者の相談援助を行うことを理解する。 2. 保護者が支援を求めている子育ての問題や課題があることを理解する。 3. 保育相談支援を行う際の基本的な態度事項を身につける。 4. 保育相談支援は保護者の気持ちを受けとめつつ,安定した親子関係や養育力の向上を目指して行うことを演習を通して理解する。 5. 保育所が地域における保育の専門機関として,社会的責任を果たすための具体的な方法を知る。
授業内容	第1回　授業の進め方,評価方法 保育相談支援の理念と目的(目標1) 第2回　保育相談支援の意義と原則(目標1) 第3回　保育所における保育の機能と役割(目標2,5)

	第4回	地域の資源の活用と関係機関などとの連携(目標5)
	第5回	保育相談支援の方法と技術(目標3,4)
	第6回	保育相談支援の枠組み(目標3,4)
	第7回	信頼関係を基本としたかかわり(目標3,4)
	第8回	保育相談支援の実際1(目標3,4)
	第9回	保育相談支援の実際2(目標3,4)
	第10回	保育相談支援の実際3(目標3,4)
	第11回	児童福祉施設における保育相談支援1(目標1,2,3,4,5)
	第12回	児童福祉施設における保育相談支援2(目標1,2,3,4,5)
	第13回	児童福祉施設における保育相談支援3(目標1,2,3,4,5)
	第14回	児童福祉施設における保育相談支援4(目標1,2,3,4,5)
	第15回	児童福祉施設における保育相談支援5(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	①教科書の指定箇所を読み，ワークシートを仕上げる。 ②学内の子育て支援や地域の子育て支援等に参加し，参加している親子を知る。又，支援機関を知っておく。
	復習	①授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べまとめておく。 ②保育現場の観察，参加等した時に，体験したことをレポートする。その際に，気付いたこと，疑問に感じたこと等を文献で調べる。
	展開	１１１
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業の参加度10%で評価する。
教科書	書籍名	ワークシート式「保育相談支援」
	著者名	
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	考え・実践する保育相談支援
	著者名	杉本敏夫監修
	出版社	保育出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成します。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。

保育施設参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP101
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育施設参観実習
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	木下　勝世 植草　一世 髙木　夏奈子 宮下　裕一 小川　晶 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1053101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	観察・参加実習，保育所，施設，幼稚園
授業のねらい・概要	幼児教育・児童福祉従事者に求められる豊かな人間性を身につける基盤として，保育施設（幼稚園，保育所，療育機関等）における保育の概要を把握する。
学生の達成目標	1.　保育施設(幼稚園,保育所,療育機関等)の概要を知る。 2.　見学に対する自分なりの目的を立てる。 3.　見学に際するマナー等の基礎的事項を知る。 4.　自分なりに立てた目的に基づき,見学を行う。 5.　自分なりの気づきや課題を,言葉で表現する。

授業内容	オリエンテーション・保育施設の概要について(目標1)	
予習・復習の内容	予習	参観先の保育・療育機関について、インターネット等で情報を得ておく。 保育機関・療育機関についての法令等を確認しておく。
	復習	参観結果を所定の書式によって記録し提出する。
	展開	保育機関・療育機関の現状について調査する。
成績評価	評価の基準	自分なりに，参観に対する目標を意欲的に定め，それを遂行しようとする姿が見られること。 また，参観したことでの気づき等について，相手に伝わるように言葉で説明できること。
	評価の方法	事前指導への参加態度（ 20%），参観先での態度（ 60%），まとめ（ 20%）の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。必要に応じて，プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学外施設への見学のため，原則として欠席は認めない（事前・事後も含めて）。	

保育実習 Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP301
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習 Ⅰ（保育所）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1054001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所における実習，観察実習，参加実習
授業のねらい・概要	・保育所における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な人間性を養うと共に，専門的な知識や技能を身につける。 ・保育所の生活へ参加し，乳幼児への理解を深めるとともに，保育所の機能とそこでの保育士の職務について理解する。
学生の達成目標	1. 保育の場を経験し、責任のある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して、保育所の役割と機能、保育内容・保育環境、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえて実習に取り組み、子どもの保育を総合的に学ぶとともに今後の学習課題を明確にする。

授業内容	1　実習施設内の事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導	
予習・復習の内容	予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ 翌日の実習クラスにいる子どもの発達過程について指針等で確認する
	復習	その日の保育を振り返り、ねらいに沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録等、実習先から指導された事項について、赤字などで修正を行う。
	展開	保育の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める
成績評価	評価の基準	実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP302
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1055101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，観察実習，参加実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な人間性を養うと共に，専門的な知識や技能を身につける。 ・障害関係施設の生活へ参加し，その様子を体験的に理解する。
学生の達成目標	1.　障害関係施設等の生活に参加する。 2.　障害関係施設等での子どもたちや利用者の姿について観察し,発達等に関する理解を深める。 3.　保育士の姿を観察し,子どもや利用者への働きかけや関わり方について理解を深め、気づきや課題を記録し、日々の省察を行う
授業内容	第1回　1　実習施設内の事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む）

3　実習施設内での事後指導

予習・復習の内容	予習	翌日の実習の目標を明確に持つ 翌日の実習クラス（場所）の取り組みについて、教科書等を用いて確認する
	復習	その日の実習を振り返り、目標に沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録等、実習先から指導された事項について、赤字などで修正を行う。
	展開	施設の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準	実習先の評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	実習園による評価に、学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合は、学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習 Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP401
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習 Ⅱ（保育所）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1056101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・保育所における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。 ・家庭と地域の生活実態にふれて，現代の子どもや家庭の抱えているニーズや子育て支援を行う立場としての保育所や保育士の役割について，体験的に理解する。
学生の達成目標	1.　観察や子どもとのかかわりの視点を明確にすることを通して、保育所の役割と機能、保育内容・保育環境、子どもへの理解を深める。 2.　既習の教科の内容および保育実習Ｉでの経験を踏まえて実習に取り組み、子どもの保育を総合的に学ぶとともに今後の学習課題を明確にする。 3.　保育の計画、実践等について実際に取り組み、理解を深める。

	4. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解すると同時に、保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にする。
授業内容	1 実習施設内の事前指導 2 実習（実習中の巡回指導を含む） 3 実習施設内での事後指導
予習・復習の内容	予習：翌日の実習へのねらいを明確に持つ 翌日の実習クラスにいる子どもの発達過程について指針等で確認する 責任実習においては、当該クラスの様子をよく観察した上で、必要な準備を行い、実習担当者とよく相談する。 復習：その日の保育を振り返り、ねらいに沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録や指導案等、実習先から指導された事項について、赤字などで修正を行う。 展開：保育の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準：実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法：実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP402
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1057101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。 ・障害関係施設等の生活へ参加し，子どもや利用者への理解を深めるとともに，障害関係施設等の機能とそこでの保育士の職務について理解する。

学生の達成目標	1. 障害関係施設等における生活全般に参加し,保育技術を身につける。 2. 子どもや利用者の個人差について理解し,対応方法を身につける。 3. 必要に応じて,指導計画を立案し,実際に実践し、気づきや課題を記録し,日々の省察を行う。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解すると同時に、保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にする。
授業内容	第1回　1　実習施設内の事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容	予習　翌日の実習の目標を明確に持つ 翌日の実習クラス（場所）の取り組み内容について、教科書等を用いて確認する。 復習　その日の実習を振り返り、目標に沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録等、実習先から始動された事項について、赤字などで修正を行う。 展開　施設の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実習指導Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP303
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1058101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所、実習、子ども、保育士
授業のねらい・概要	保育実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。 保育実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1. 実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2. 保育の場に入るにあたって、責任のある立場で子どもと接する者としてのあり方を学び、考える。 3. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

授業内容	第1回	ガイダンス 実習の意義と目的（目標１）
	第2回	児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について（目標２）
	第3回	子どもの発達過程について（目標２）
	第4回	実習における自己課題の設定（目標１）
	第5回	子どもへの支援的対応について（目標２）
	第6回	実習にあたっての諸手続（目標１）
	第7回	実習にあたっての諸手続（目標１）
	第8回	子どもの生活と実習のポイント（目標２）
	第9回	子どもの生活と実習のポイント（目標２）
	第10回	子どもの生活と実習のポイント（目標２）
	第11回	子どもの生活と実習のポイント（目標２）
	第12回	記録簿の意義と記入の仕方（目標１）
	第13回	記録簿の意義と記入の仕方（目標１）
	第14回	実習における態度等（直前指導）（目標２）
	第15回	自己目標に対する自己評価（目標３）
予習・復習の内容	予習	保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）

教科書

書籍名	保育実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	保育実習
著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

書籍名	保育所保育指針
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	120円
ISBN・ISSN	

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	190円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP304
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1058201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	施設、実習、保育士
授業のねらい・概要	施設実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。 施設実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1.　実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2.　生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考える。 3.　実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	第1回　ガイダンス（目標1) 第2回　保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと自己評価①（目標1）

第3回	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと自己評価②　（目標1）
第4回	実習の内容と課題の明確化　（目標2）
第5回	施設実習の意義・目的、必要書類準備・確認事項　（目標2）
第6回	児童家庭福祉の現状と児童福祉施設の概要　（目標2）
第7回	施設と施設利用者（児）の理解①　（目標2）
第8回	施設と施設利用者（児）の理解②　（目標2）
第9回	児童福祉施設職員による講話　（目標2）
第10回	実習における計画・実践　（目標2）
第11回	実習における観察、記録、評価　（目標2）
第12回	実習に際しての留意事項　（目標2）
第13回	実習の振り返りと自己評価①　（目標3）
第14回	実習の振り返りと自己評価②　（目標3）
第15回	評価をもとにした自己理解と課題の明確化　（目標3）

予習・復習の内容	予習	保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価	評価の基準	保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）

教科書	書籍名	保育実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	保育実習
	著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編

出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

参考URL

備考

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP403
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1058301
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所、実習、子ども、保育士
授業のねらい・概要	保育実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。 保育実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1. 実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2. 保育の場に入るにあたって、責任のある立場で子どもと接する者としてのあり方を学び、考える。 3. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

授業内容	第1回	ガイダンス 実習の意義と目的（目標１）
	第2回	保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察）
	第3回	保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察）
	第4回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：概説）
	第5回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習）
	第6回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習）
	第7回	記録の書き方（復習）
	第8回	保育実践力の育成
	第9回	実習における自己目標の明確化
	第10回	実習にあたっての諸手続
	第11回	実習にあたっての諸手続
	第12回	実習にあたっての態度等（直前指導）
	第13回	実習の総括（実習報告会）
	第14回	実習の総括（実習報告会）
	第15回	自己評価および課題の明確化

予習・復習の内容	予習	保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 課された課題を指定された期日までに確実に行う。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価	評価の基準	保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）

教科書

書籍名	保育実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	保育実習
著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

書籍名	保育所保育指針
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	120円
ISBN・ISSN	

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	190円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP404
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1058401
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	施設、実習、保育士
授業のねらい・概要	施設実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。 施設実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1.　実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2.　生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考える。 3.　実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	第1回　保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと課題の明確化　（目標1） 第2回　保育実習Ⅲの意義と目的　（目標2）

第3回	実習施設についての理解　（目標2）
第4回	児童福祉施設職員による講話①　（目標2）
第5回	児童福祉施設職員による講話②　（目標2）
第6回	児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理　（目標2）
第7回	施設における支援の実際①　（目標2）
第8回	施設における支援の実際②　（目標2）
第9回	実習における自己目標の明確化　（目標2）
第10回	実習にあたっての諸手続き①　（目標2）
第11回	実習にあたっての諸手続き②　（目標2）
第12回	実習にあたっての態度等（直前指導）　（目標2）
第13回	実習の総括（実習報告会）①　（目標3）
第14回	実習の総括（実習報告会）②　（目標3）
第15回	自己評価及び課題の明確化　（目標3）

予習・復習の内容

予習	保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 課された課題を指定された期日までに確実に行う。
展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価

評価の基準	保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）

教科書

書籍名	保育実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	保育実習

著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

推薦図書等

参考URL

備考

初等国語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP102
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等国語教育通論
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1061001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国語科教育，学習指導要領，教科書，授業法
授業のねらい・概要	初等国語科教育実践のための基礎的知識を理解する。
学生の達成目標	1. 国語教育の歴史と変遷を知り,現在の国語教育の流れを知る。 2. 小学校学習指導要領と教科書の概要について理解する。 3. 学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　小学校国語科授業の歴史　国語教育と国語科教育（目標1） 第3回　PISA型読解力と評価（目標1） 第4回　「言語活動の充実」と実践（目標1） 第5回　小学校学習指導要領解説　国語編概要（低学年）（目標2） 第6回　小学校学習指導要領解説　国語編概要（中学年）（目標2） 第7回　小学校学習指導要領解説　国語編概要（高学年）（目標2）

	第8回	小学校学習指導要領国語編と教科書（目標2）
	第9回	教科書教材の単元構成と年間指導計画（目標2）
	第10回	国語科教科書の概要Ⅰ（1～3年生）（目標2）
	第11回	国語科教科書の概要Ⅱ（4～6年生）（目標2）
	第12回	国語学習の中における特別支援教育（目標1,3）
	第13回	国語学習における思考力・判断力・表現力の向上（目標3）
	第14回	学ぶ意欲の向上を促す国語教室の在り方（目標3）
	第15回	ポートフォリオによるまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説国語編をよく読み，項目別にインデックスを付けておくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。 レポート提出期間中２回程度あり。
	展開	現在現場で求められている国語についての基礎的知識を深めていく。
成績評価	評価の基準	初等国語教育に関して授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。授業内容をもとに国語教育のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験40%，ポートフォリオ（レポートを含む）60%
教科書	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子辞書を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。	

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET103
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1062001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，国語，書写，指導
授業のねらい・概要	小学校国語科書写について，各学年における指導内容とその体系を把握し，書写能力を高めるとともに，書写指導に関する理解を確立する。
学生の達成目標	1. 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 2. 硬筆及び毛筆を使用して文字を正しく整えて書く能力や書式に則って書く能力を身につける。 3. 小学校における書写の指導法及び評価法について理解し,教育現場において実践できる能力を養う。
授業内容	第1回　小学校で学習する文字と書写指導の内容(目標1) 書写の用具と用材及びその準備と扱い方(目標2) 第2回　平仮名と片仮名の書き方-小学校第1学年-硬筆　課題1・2(目標2) 姿勢と筆記具の持ち方(目標2) 第3回　第1学年配当漢字の書き方-点画の名前,始筆,送筆,収筆,筆勢- 硬筆課題3(目標2)

	第4回	第2学年配当漢字の書き方 硬筆 課題4(目標2)
	第5回	点画の書き方-接し方,方向-(第1・2学年の教材)(目標2) 毛筆の用具用材,板書練習及び毛筆 課題5(目標2)
	第6回	点画の書き方-左右の払い- 板書練習及び毛筆 課題6(目標2)
	第7回	点画の書き方-点,跳ね- 板書練習及び毛筆 課題7(目標2)
	第8回	点画の書き方-曲がり,そり- 板書練習及び毛筆 課題8(目標2)
	第9回	日常の書式と文字の配置- 板書練習及び毛筆 課題9(目標2)
	第10回	字形の整え方- 上下の組立、左右の組立-板書練習及び毛筆 課題10(3・4・5学年)(目標2)
	第11回	手書きの習慣を生かして書く 板書練習及び硬筆 課題11(5・6学年)(目標2)
	第12回	文字の配列と文字の大きさと中心・外形 板書練習及び毛筆 課題12(目標2)
	第13回	文字の配列と縦書きと横書き- 板書練習及び硬筆 課題13(目標2)
	第14回	文字の配列と筆順- 板書練習及び硬筆 課題14(目標2,3)
	第15回	書写の指導計画と評価及び指導法の工夫と教材開発(目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回の授業において、次回のテーマと主な内容について予告し、準備すべき内容を指示する。 小学生の書く文字について、実情を把握するように心がけること。
	復習	毎回の授業において、配付資料の内容を確認し、保管すること。また、個別に指摘された事項について、知識や技能を身につけるようにすること。
	展開	小学生の文字の書く能力とその発達について関心を持ち、実情を把握する機会を持つように努めること。
成績評価	評価の基準	書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解，及び基礎的な書写技能が養われていること。
	評価の方法	内容の理解と定着度（ 50%） 書写の技能（ 30%） 取り組み態度の評価（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領の国語科書写関連部分及び毎回のテーマに関する教材・資料を配付する。	

推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説・国語編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	ISBN-10:4491023719

参考URL	
備考	実技の際に使用する用具・用材（筆，墨，紙）は，授業時における指示に従って，各自で準備する。

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1062002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，国語，書写，指導
授業のねらい・概要	小学校国語科書写について，各学年における指導内容とその体系を把握し，書写能力を高めるとともに，書写指導に関する理解を確立する。
学生の達成目標	1. 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 2. 硬筆及び毛筆を使用して文字を正しく整えて書く能力や書式に則って書く能力を身につける。 3. 小学校における書写の指導法及び評価法について理解し,教育現場において実践できる能力を養う。
授業内容	
予習・復習の内容	予習　毎回の授業において,次回のテーマと主な内容について予告し,準備すべき内容を指示する。 復習　毎回の授業において,配付資料の内容を確認し,保管すること。また,個別に指摘された事項について,知識や技能を身につけるようにすること。

	展開	小学生の文字の書く能力とその発達について関心を持ち,実情を把握する機会を持つように努めること。
成績評価	評価の基準	書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解，及び基礎的な書写技能が養われていること。
	評価の方法	内容の理解と定着度（ 50%） 書写の技能（ 30%） 取り組み態度の評価（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領の国語科書写関連部分及び毎回のテーマに関する教材・資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	実技の際に使用する用具・用材（筆，墨，紙）は，授業時における指示に従って，各自で準備する。	

初等社会科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET104
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等社会科教育通論
科目責任者	斉藤　靖之
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1063001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会科誕生の背景，戦後の指導要領の改訂，今後の社会科教育
授業のねらい・概要	小学校社会科教育誕生の歴史とその背景を理解させると共に，社会科教育の本質を，戦後の指導要領改訂の主旨と改善点から分析し，これからの社会科教育の在り方について考えさせる。
学生の達成目標	1. 戦前の修身・地歴・公民等と戦後社会科教育誕生の歴史等が分かる。 2. 戦後の小学校社会科指導要領の改訂の主旨が理解できる。 3. 社会科教育で使われる用語の理解ができる。 4. 社会科学習への関心と小学校社会科教育の在り方等について理解できる。
授業内容	第1回　小学校教育課程における社会科教育の位置づけ(目標1) 第2回　社会科の誕生の背景と内容について(修身・地理・歴史・公民)(目標1) 第3回　社会科の誕生の背景と内容についてⅠ(昭和22年試案)(目標2,3) 第4回　社会科の誕生の背景と内容についてⅡ(昭和26年試案)(目標2,3)

	第5回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅠ(昭和33年・43年)(目標2,3)
	第6回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅡ(昭和52年・平成元年)(目標2,3)
	第7回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅢ(平成10年・20年)(目標2,3)
	第8回	社会科学習と系統的学習の関連について(目標3)
	第9回	社会科学習と問題解決的学習の関連について(目標3)
	第10回	社会科教育における社会科用語について(目標3,4)
	第11回	社会科学習と生活科と総合的な学習の時間の関連について(目標3,4)
	第12回	「生きる力」と社会科学習について(目標3,4)
	第13回	新指導要領の骨子と小学校社会科の関連について(目標3,4)
	第14回	社会科教育の課題とこれからの社会科学習の在り方について(目標3,4)
	第15回	小学校社会科教育のまとめ(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説社会編を，学年毎に何度も読んでおくこと。 社会科の教科書の内容に，関心をもつこと。（本校の図書室にある） 社会事象（テレビや新聞等）の出来事に関心をもち，社会科学習に必要なことは，スクラップやメモにして，保存しておくこと。（情報収集） シラバスをもとに，次回の講話について調べておくこと。
	復習	毎回の講話を要旨でまとめたり，感想文にしたりしてまとめておくこと。 講話中に指示された課題（レポート等）について，期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	戦前と戦後の教育の違いを認識すると共に，社会科教育誕生の背景と戦後の社会科学習内容の変遷について理解できていることを基準とする。
	評価の方法	レポート70%，課題提出20%，授業中の発表内容と態度10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領解説社会編を各自用意。	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説総則編
	著者名	
	出版社	
	価格	

ISBN・ISSN

書籍名　戦後教育五十年（丸善ライブラリー）

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

書籍名　社会科教育事典（ぎょうせい）

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

書籍名　小学校社会 3·4年 全18巻より抜粋 住みよいくらしをつくる DVD 8-228-0383

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

書籍名　小学校社会 5年 全18巻より抜粋 わたしたちの生活と食料生産 DVD 8-228-0387

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

書籍名　小学生の地図シリーズより 第2巻 地図の見方・使い方 DVD 8-228-0032

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考　戦後の学習指導要領改訂の主旨について，関心・意欲を持って授業に望んでほしい。

初等算数教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET105
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等算数教育通論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1064001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育の目標，算数教育の内容，数と計算・量と測定・図形
授業のねらい・概要	算数教育の目標や数，量 ,図形等の教材内容の本質を捉えられるようにする。また，算数教育の史的変遷を概説するとともに，算数教材の背後にある数学的内容との関連にも触れ，筋道立てられた算数の深さ，よさを知ることができるようにする。
学生の達成目標	1. 算数教育の目標を捉え,算数教育の史的変遷がわかる。 2. 数や計算,量と測定,図形内容の原理,仕組み等がわかる。 3. 数量関係の内容,仕組みがわかる。
授業内容	第1回　講義のガイダンス 算数の働き,有用性 (目標1) 第2回　算数科の目標と算数の内容の概観 (目標1) 第3回　算数教育の変遷(戦前の歩み) (目標1) 第4回　算数教育の変遷(戦後の歩み) (目標1) 第5回　数についての概観(概念と表記) (目標2) 第6回　数えることと数の表し方 (目標2)

	第7回	数の仕組みとP進法（目標２）
	第8回	数の仕組みと P進法の適用 (目標2)
	第9回	たし算とひき算の基本的な考え方 (目標2)
	第10回	かけ算とわり算の基本的な考え方 (目標2)
	第11回	量と測定の概念と測定の原理 (目標2)
	第12回	図形の概念と図形の構成 (目標2)
	第13回	関数と図形の考えとその有用性 (目標3)
	第14回	式・統計の概念とその有用性 (目標3)
	第15回	算数教育の現状と課題,及び講義のまとめ (目標3)
予習・復習の内容	予習	基礎的な数学の知識・計算技能を身につけておく。 次回の予告をするので、キイワードや「問題」について調べておく。
	復習	その時間に扱った問題について復讐し、マスターできるようにしておく。 関連する発展的な内容についても調べる。
	展開	算数・数学の教材の本質は何かを常にとらえるようにこ心がけ、事実に基づいて物事を考えられるようにしていく。
成績評価	評価の基準	算数の目標および史的変遷の要展について理解していること。 数と計算，量 ,図形などについての基本的な原理について知りこれを適用できること。 進んで問題に取り組み話し合いにも参加していること等を合格基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書はない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

初等理科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET106
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等理科教育通論
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1065001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身の回りの自然, 科学・技術，生活, 自然科学概念
授業のねらい・概要	将来，初等理科を教授することを想定して，理科とはどのような教科なのか。科学とは何なのかについて触れる。その上で，人間の生活が理科や科学とどのように関わっているのかを知る。身の回りの事象・現象が理科・科学に満ちていることを知り，これらの重要性と認識すると共に，理科好き・科学好きの学生の育成を目指す。
学生の達成目標	1.　小学校理科で学習する事象についての基礎的な知識を習得する。 2.　身の回りの事物・現象に対して,理科的・科学的に説明することができる。 3.　児童に自然の素晴らしさや巧妙さを気付かせることのできる幅広い知識を獲得する。
授業内容	第1回　光の性質とその利用(目標1,2,3) 第2回　光と生物 光の受容方法(目標1,2,3) 第3回　光と生物2 光が行動に与える影響(目標1,2,3) 第4回　音と生物(目標1,2,3)

	第5回	熱の性質とその利用(目標1,2,3)
	第6回	重さの科学(目標1,2,3)
	第7回	物質の3態(目標1,2,3)
	第8回	食品の科学(目標1,2,3)
	第9回	衣料の科学(目標1,2,3)
	第10回	素材の科学(目標1,2,3)
	第11回	人の体のつくり(目標1,2,3)
	第12回	生物の分類(目標1,2,3)
	第13回	生物の変遷と進化(目標1,2,3)
	第14回	身近な天体と地球(目標1,2,3)
	第15回	地震の科学(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	前時にプリントを配布するので，よく読み概要を理解しておく。
	復習	授業のノートを見直して，学習内容の定着に努めること。
	展開	小学校課程で学習する理科の内容の概要について理解を深める。
成績評価	評価の基準	基本的な学習内容を理解しているか。また，理解しようと努めているか。この他，小学校理科教員におけるサイエンスリテラシーの１つとして，日常生活との関連において理解しているかを評価の観点に加える。
	評価の方法	試験70%，レポート等20%，授業への参加度10%を総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 毎回プリントを用意する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	私たちの日常は理科に満ちていることを知ってもらいたいと思います。そして，その不思議さや，理科を勉強することの楽しさに気付いてもらいたいと思います。	

初等生活科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET107
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等生活科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1066001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活科の教科論，生活科の内容論，生活科の基礎的・基本的な知識・技術，生活科の課題研究
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な生活科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの生活科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。 すなわち，生活科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。
学生の達成目標	1.　生活科教育の教科論を理解する。 2.　生活科の基本的な内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。 3.　生活科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。 4.　生活科に関わる課題を追究し,成果を的確に説明・表現できる。
授業内容	第1回　講義内容のガイダンス 第2回　生活科の教科論-生活科という教科はなぜ必要か(目標1) 第3回　現代の社会の生活課題と生活科の役割(目標1,2)

第4回	諸外国における生活科に関する授業(目標1,2)
第5回	生活科の目標及び内容構成(目標2)
第6回	子どもと人とのかかわり(目標2,3)
第7回	子どもと自然とのかかわり(目標2,3)
第8回	子どもと家庭・地域・社会生活とのかかわり(目標2,3)
第9回	郷土の食文化に触れてみよう(実習)(目標2,3)
第10回	子どもの遊びと学びについて(目標2,3)
第11回	子ども自身について(目標2,3)
第12回	生活科の教材開発(目標2,3)
第13回	課題研究の成果発表 ①(目標4)
第14回	課題研究の成果発表 ②(目標4)
第15回	生活科総論(目標1～4)

予習・復習の内容	予習	・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて、事前に調べておくこと。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関連する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	生活科教育に関する基本的・基礎的な内容が理解でき，必要な知識・技術を習得すること。 また，生活課題を追究し，成果を的確に説明・表現できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 20%），試験（ 35%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』
推薦図書等	
参考URL	
備考	

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1067001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，和声
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	1. 読譜力がつく 2. 音楽の基礎知識が身につく(楽典) 3. 聴く力(聴音)がつく 4. 正しい音程で歌えるようになる
授業内容	第1回　教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(1)(目標1,2) 第2回　教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(2)(目標1,2) 第3回　音部記号,拍子記号,音符,休符等を学ぶ(目標2) 第4回　発想記号,調性について(目標2)

第5回	和声について(1)(目標2)
第6回	和声について(2)(目標2)
第7回	楽典の復習(目標2)
第8回	教科書『小学校の音楽』を用いて歌い方を学ぶ (目標4)
第9回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(1)(目標1,2,4)
第10回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(2)(目標1,2,4)
第11回	ソルフェージュ(1)(目標4)
第12回	ソルフェージュ(2)(目標4)
第13回	聴音(1)(目標3)
第14回	聴音(2)(目標3)
第15回	授業の総括

予習・復習の内容	予習	シラバスを常にチェックして、事前に授業で行う部分の読譜をして演奏できるように準備をしておく。その際、楽譜に記載されている様々の記号についても調べるように心掛ける事。
	復習	楽譜を正しく演奏するためには、リズムや音程だけではなく発想記号等に関する注意も必要となる。従って学んだ記号をその都度自らのものとして蓄積していく事が大切である。
	展開	小学校の音楽科を指導するためには、たとえ低学年であろうとも、小学校の音楽の授業で使用する程度の読譜力では足りない。従って子供が楽しんで歌えるような曲を探して、自力で演奏できるように挑戦して欲しい。

成績評価	評価の基準	基本的な音楽用語を理解できたか。 易しい旋律をリズム・音程正しく歌う事ができたか。 リズム・音程を正しく楽譜に聴き取る事ができたか。
	評価の方法	楽典 30%，ソルフェージュ 30%，聴音 30%，勉学意欲 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社， 1,200円　ISBN：4-8108-0161-6 「小学校の音楽」１，２，３，４，５，６　教育芸術社
推薦図書等	
参考URL	
備考	

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1067002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，易しいコード伴奏
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。 また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	1.　小学校の音楽の授業で使用する程度の楽譜が読める。 2.　音楽の基礎的な用語を理解し,適切に使用することができる。 3.　易しい旋律を聴き取り,楽譜で表すことができる。 4.　コード進行に留意して易しいコード伴奏を付けることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　音部記号,拍子記号,音符,休符を学ぶ(目標1,2) 第3回　発想記号,固定ド唱法と移動ド唱法について(目標2) 第4回　リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ① 連続した音程・4分音符等(目標1,3)

	第5回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ② 連続した音程・付点音符等(目標1,3)
	第6回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ③ 跳躍した音程・シンコペーション等(目標1,3)
	第7回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ④ 跳躍した音程・3連符等(目標1,3)
	第8回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ⑤ ソルフェージュの小テスト(目標1,3)
	第9回	音程と音階について ① 長音階(目標2)
	第10回	音程と音階について ② 短音階(目標2)
	第11回	調性と移調について(目標2)
	第12回	コードネームについて ①3和音(目標2)
	第13回	コードネームについて ②7の和音(目標2)
	第14回	コード進行に留意した易しいコード伴奏(目標4)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	・小学校で学習した楽譜の読み方を復習しておく。
	復習	・毎時間の学習内容を確実に身につける。
	展開	・知らない曲でも楽譜を見て自力で演奏できるように楽譜に親しむ。
成績評価	評価の基準	易しい旋律をリズム・音程を正しく歌うことができたか。 リズム・音程を正しく聴き取り楽譜に表すことができたか。 音楽の基礎的な用語を理解し適切に使用できたか。
	評価の方法	ソルフェージュ（ 25%）聴音（ 25%）楽典（ 40%）授業への参加度（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６
	著者名	小原光一　他
	出版社	教育芸術社
	価格	官報による
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	音楽学習の基礎となる楽譜の勉強をし直します。 なるべく１年次での履修を希望します。 音楽に限らず，知識・技能を身につけるためには反復練習が必須です。	

繰り返し練習すれば誰でも必ず楽譜は読めます。
授業の復習を必ず行って下さい。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

初等図画工作教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET109
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	初等図画工作教育通論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1068001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育の歴史，発達段階と表現，小学校における図画工作科の授業，子どもの表現の実際
授業のねらい・概要	発達段階による表現の違いや造形教育の歴史を学び，小学校の図画工作科に関しての基礎的理解を深め，子どもの造形活動が支えられるように，題材や作品を通して，授業実践のために必要とされる理論的な知識の獲得を目指す。
学生の達成目標	1. 小学校における図画工作科の教育について,全般にわたり理解する。 2. 図画工作科の成立過程,目標と構造,内容構成,学習形態などを学び,図画工作科の特質を把握する。 3. 図画工作の教育課程・教材・授業分析・授業構想に関する確かな視点の獲得を目指す。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点等)・図画工作科の目指すもの・学校教育以前の造形(目標1) 第2回　「図画工作」の変遷①・5人の先生の教育観の違い・リードの考え方・全員発表開始(目標3)

	第3回	「図画工作」の変遷②・アイスナー・寺子屋と学校・明治の造形教育①(目標1,2)
	第4回	「図画工作」の変遷③・明治の造形教育②・保育園や幼稚園現場では・自由画運動(目標1,2)
	第5回	「図画工作」の変遷④・戦時の造形教育・発達段階による造形表現の違い①(目標1,2)
	第6回	「図画工作」の変遷⑤・戦後の教育①チゼック・発達段階による造形表現の違い②(目標1,2)
	第7回	「図画工作」の変遷⑥・戦後の教育②発達段階による造形表現の違い③(目標1,2)
	第8回	発達段階による造形表現の違い④・「図画工作」の授業①小学校1年～3年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第9回	「図画工作」の授業②小学校3年～6年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第10回	造形遊びについて(目標1,3)
	第11回	鑑賞について・評価のとらえ方・授業の実際;DVD視聴①(目標1,3)
	第12回	教材について・授業の実際;DVD視聴②・レポート提出①(目標3)
	第13回	題材観について・授業の実際;DVD視聴③・レポート提出②(目標3)
	第14回	指導案の基本について・授業の実際;DVD視聴④・レポート提出③(目標3)
	第15回	まとめ・指導案の書き方について・図画工作の今後の課題と展望・レポート提出④(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める。 発表の準備をする
	復習	配付資料を読み直す 発表のまとめをする
	展開	テキストを元に指導案を作成する
成績評価	評価の基準	小学校の図画工作科の知識に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに学校現場における図画工作科授業のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めた小レポート20%，課題レポート50%）70%，発表，授業の取り組み等の平常得点30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	小学校図画工作科の指導
	著者名	新井哲夫・天形健・山口喜雄 編著
	出版社	健帛社
	価格	2415円
	ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-7679-2096-2

推薦図書等	書籍名	子どもの心に語りかける表現教育
	著者名	鈴木幹雄・長谷川哲哉編，森高光広・他著
	出版社	あいり出版
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4901903586

参考URL

備考

初等家庭科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET110
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等家庭科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1069001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家庭科の教科論，家庭科の内容論，家庭科の基礎的・基本的な知識・技術
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な家庭科教育及び小学校家庭科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの家庭科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。すなわち，家庭科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。
学生の達成目標	1.　家庭科教育の教科論を理解する。 2.　小学校家庭科の基本的な内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。 3.　小学校家庭科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。 4.　小学校家庭科の評価法を理解する。
授業内容	第1回　講義内容のガイダンス 第2回　家庭科の教科論-家庭科という教科はなぜ必要か(目標1) 第3回　家庭科の性格論-家庭科は他の教科とどのようなことがちがうのか(目標1)

	第4回	家庭科教育の歴史(目標1)
	第5回	社会の変化と家庭科の役割(目標1,2)
	第6回	諸外国における家庭科教育-欧米諸国(目標1,2)
	第7回	諸外国における家庭科教育-アジア諸国(目標1,2)
	第8回	小学校家庭科の目標及び内容構成(目標2)
	第9回	小学校家庭科の食生活分野について ①調理実習(目標2,3)
	第10回	小学校家庭科の食生活分野について ②調理実習(目標2,3)
	第11回	小学校家庭科の衣生活分野について ①被服実習(目標2,3)
	第12回	小学校家庭科の衣生活分野について ②被服実習(目標2,3)
	第13回	小学校家庭科の住生活・消費者教育分野について(目標2,3)
	第14回	小学校家庭科の評価法(目標4)
	第15回	小学校家庭科総論(目標1～4)
予習・復習の内容	予習	・講義内容に関連する書物や資料を読み、理解しておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関連する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	家庭科教育に関する基本的な内容が理解できること。 また，小学校家庭科を指導する上で必要な知識・技術が習得されることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 15%），試験（ 40%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	家庭科教育法
	著者名	佐藤文子・川上雅子
	出版社	高陵社書店
	価格	2000
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET111
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	七澤　朱音
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1070001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体育科教育，学習指導要領，授業，指導案
授業のねらい・概要	小学校体育における総合的原理および指導方法論を概説し，体育科教育に関する基礎・基本を理解・習得することを目的とする。小学校における体育の目的，学習環境，学習過程の考え方や学習計画，学習評価の方法についても解説する。
学生の達成目標	1. 小学校における体育の位置づけ,目的,在り方を理解すること。 2. 小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解すること。 3. 小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解すること。 4. 単元計画及び指導案の作成ができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　体育科の教科論(目標1,2,3) 第3回　体育科の目標論(目標1,2,3) 第4回　体育科の学習内容論/体つくり運動(目標1,2,3) 第5回　体育科の領域構成と6年間の流れ/器械運動(目標1,2,3)

	第6回	体育科の指導計画/陸上運動(目標2,3,4)
	第7回	体育科の学習方法・学習形態論/水泳(目標2,3)
	第8回	体育科の教材論/ゲーム(目標2,3)
	第9回	体育科の教具論/ボール運動(目標2,3)
	第10回	体育科の授業評価/表現運動(目標2,3)
	第11回	学習指導案作り(模擬授業準備)(目標2,3,4)
	第12回	模擬授業①(目標2,3,4)
	第13回	模擬授業②(目標2,3,4)
	第14回	模擬授業①②の振り返り(目標2,3,4)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	予め学習指導要領を読んだり，新聞や図書を読むことによって，毎時間予告される次週の授業で取り上げる内容についての思考をまとめておく。
	復習	ノートや学習指導要領などの資料を見直し，授業で取り上げた内容についての理解を深め，知識の定着を図る。
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験およびレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験40%，レポート課題40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%

教科書	書籍名	文部科学省「小学校学習指導要領解説　体育編」
	著者名	
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	4491023751

推薦図書等

参考URL

備考

初等英語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET112
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等英語教育通論
科目責任者	勝山　ひとみ
担当教員	マーク　レモン
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1071001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童英語，英語教育，子供英語指導法，英語活動
授業のねらい・概要	小学校における英語教育の在り方を考察し，児童に対する英語の指導法を習得する。同時に指導に必要な英語力を高める。初等英語教育の理論と実践の両面を学ぶ。小学校における英語教育の意味を考え，カリキュラム，レッスンプランの作成の仕方を学び，教材研究を行い，実際に模擬授業を行う。
学生の達成目標	1. 児童英語の基本的指導力の習得 2. 児童英語のためのレッスンプランの作成の基礎習得 3. 児童英語指導に必要な基本英語表現の習得
授業内容	第1回　外国語活動の目標と内容,英語活動の例(自己紹介等)(目標3) 第2回　児童英語教育の現状とこれから,言語習得時の脳の働き,Classroom English 1(目標1,3) 第3回　児童の語学習得能力,聞く力とコミュニケーション能力,Classroom management 1(目標1,3)

	第4回	世界の英語教育(マレーシア・中国・韓国・台湾・シンガポール),カリキュラム研究(目標2)
	第5回	世界の英語教育(アメリカ・フィリピン・インドネシア・タイ・インド),Classroom management 2,課題1提出(目標1,3)
	第6回	モデル授業考察,Classroom English 2(目標1,3)
	第7回	モデル授業考察,Classroom English 3,実践学習計画(目標1,2,3)
	第8回	モデル授業考察,Classroom English 4 (目標1,3)
	第9回	教材研究1(本,ワークブック等),Classroom management 3,課題2提出(目標1,3)
	第10回	教材研究2(カード,音声教材等),Classroom management 4(目標1,3)
	第11回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第12回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第13回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第14回	Classroom management 5, レッスンプラン提出,課題3提出(目標1,3)
	第15回	Classroom management 6,まとめ,テスト(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	Classroom Management How toのP.26まで意味が理解できるように予習をしてくる。Classroom English Expressionを読んでくる。模擬指導のレッスンプランを考える。
	復習	Classroom Management How toの音読をし，理解を深める。Classroom English Expressionの練習をし,自分で使用できるようにする。模擬指導のレッスンプランを再考し，より良いレッスンプランを作成する。
	展開	
成績評価	評価の基準	児童英語指導の基礎的な内容が理解できていること。英語を指導する上で必要なカリキュラム開発，レッスンプラン作成，教材選択及び作成の基礎知識を習得していること。指導に必要な英語力の向上に努めていること。基本的なレッスンを行えること。
	評価の方法	授業への参加度20%，課題とレッスンプラン40%，レッスンプレゼンテーション20%，テスト20%
教科書		

推薦図書等	書籍名	Bonnie P. Murray, The New Teacher’s Complete Sourcebook, Scholastic
	著者名	
	出版社	
	価格	U.S. $19.95
	ISBN・ISSN	0-439-30301-X

参考URL

備考	第６回～８回は勝山，Lemonのteam teaching, 連絡先 sakura(@)azaleaenglish.com, (@) は@の置き換えて送信。英語力を高める努力を日頃から実践していることが望ましい。

教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET205
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育課程論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1072001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学習指導要領，教育課程の歩み，教育課程の編成
授業のねらい・概要	教育課程の意味，果たす役割をとらえ，学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに，新しい教育課程の方向に関心を持って対処できるようにする。 また，教育課程の史的変遷を概括し今日教育現場の実情を捉えることができるようにする。
学生の達成目標	1. 教育課程の意味や史的変遷が分かる。 2. 学習指導要領の目的,内容が分かる。 3. 特色ある教育課程について関心を持ちその特色を調べようとする。 4. 教育課程の編成の手続きを調べ,教育課程の果たす役割を知ることができる。
授業内容	第1回　教育課程の意味と学習指導要領の果たす役割。講義のガイダンス(目標1 目標2) 第2回　今日的学力問題と教育課程の課題(目標1) 第3回　近代日本の教育課程の歩み(戦前)(目標1)

第4回	戦後の教育課程の歩み(経験主義から系統主義へ)(目標1)
第5回	教育の現代化と人間性重視への転換(目標1)
第6回	新学力観と生きる力(目標1)
第7回	教育課程の根底にある二つの思想(目標1)
第8回	新学習指導要領について(目標2)
第9回	教科学習と総合的学習について(目標2)
第10回	新学習指導要領の重点項目と配慮事項(目標2)
第11回	学校における教育課程編成の手続きと内容(目標4)
第12回	特色ある学校の教育課程(目標3)
第13回	諸外国の教育課程の様子(目標3)
第14回	教育課程の評価と改善(目標4)
第15回	教育課程のまとめと今後の課題(目標4)

予習・復習の内容	予習	教育に関する諸問題について、とりわけ教育課程に関する事柄に日常から関心を持ち、情報を入手し、整理しておく。 次回のテーマのキイワードについて、教科書をもとに下調べをしておく。 母校の教育課程調べ等の課題はは予め調べておく
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと 歴史上の人物等採用試験に出る事柄について整理しておく
	展開	教育課程の変遷を踏まえて、教育課程の今日的課題について理解を深める

成績評価	評価の基準	教育課程の意味と果たす役割を理解できているか，新学習指導要領のねらい，重点事項を理解し説明できるか，現在の学校の教育課程に関心を示し調べようとしているかを評価基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）

教科書	書籍名	新しい時代の教育課程
	著者名	田中耕治他
	出版社	有斐閣アルマ
	価格	1 ,900円
	ISBN・ISSN	4 -641-12246-6

推薦図書等

参考URL

備考

国語科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET206
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	国語科指導法
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1073001（月曜日1時限）,A1073002（月曜日2時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	授業方法論，指導法，言語活動の充実，学ぶ意欲
授業のねらい・概要	国語科教育の授業展開上の具体的な理論について理解し，実践的技法を身につける。
学生の達成目標	1. 初等国語教育の目標や意義を正しく理解し,指導に必要な知識と技術を身につける。 2. 国語科の教科書教材について,その分野や,内容の大体を理解する。 3. 学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　小学校学習指導要領解説 国語編の概要 学習指導案作成の基本(目標1) 第3回　単元を貫く言語活動 言語活動の充実について(目標1) 第4回　発問・質問・説明・指示の違いと対話を生み出す指導技術(目標1)

	第5回	物語文の読解指導Ⅰ(1～3年生)(目標2)
	第6回	物語文の読解指導Ⅱ(4～6年生)(目標2)
	第7回	説明的文章の読解指導Ⅰ(1～3年生)(目標2)
	第8回	説明的文章の読解指導Ⅱ(4～6年生)(目標2)
	第9回	作文の指導(目標2)
	第10回	話すこと・聞くことの指導(目標2)
	第11回	詩・短歌・俳句の指導(目標2)
	第12回	古典の指導(目標2)
	第13回	語彙指導,板書・ノート指導(目標2)
	第14回	学習指導案の作成と検討(目標2,3)
	第15回	ポートフォリオによるまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説国語編をよく読み，項目別にインデックスを付けておくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。 レポート提出期間中２回程度有り。
	展開	国語科指導法についての基礎的技法の概略をつかみ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	国語科の授業について，具体的な指導法を理解できること。国語科の指導案を書けるようになること。国語科の指導法について，自分の考えをまとめられていることを合格基準とする。
	評価の方法	指導案の作成40%，ポートフォリオ（レポート含む）60%
教科書		
推薦図書等	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7
参考URL		
備考	辞書を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。	

社会科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET207
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	社会科指導法
科目責任者	斉藤　靖之
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1074001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校社会科教育目標，小学校社会科指導案の書き方，小学校社会科授業
授業のねらい・概要	小学校社会科学習指導案の書き方と教材研究の実践・在り方を通して，社会科学習への関心・意欲を持たせる。また，具体的な素材を取り上げて学習指導案づくりの実践に取り組めるようにしたい。
学生の達成目標	1. 小学校社会科教育の目標や内容が理解できる。 2. 小学校社会科教育教材研究について関心と意欲を持つことができる。 3. 小学校社会科教育学習指導案の書き方について理解できる。 4. 小学校社会科学習指導案が書けるようになる。
授業内容	第1回　小学校社会科教育のねらい(問題解決的能力の育成)について(目標1) 第2回　小学校学習指導要領と小学校社会科教育の目標について(目標1) 第3回　各学年の社会科の目標と内容について(3・4学年)(目標1,2) 第4回　各学年の社会科の目標と内容について(5・6学年)(目標1,2)

	第5回	小学校社会科学習指導案の構成(例-問題解決的学習)について(目標1,2)
	第6回	小学校社会科学習の教材研究について(内容・活動・学習過程等と評価規準)(目標2)
	第7回	小学校社会科学習指導案について(目標・内容・実態調査等の検討)(目標2,3)
	第8回	小学校社会科学習指導案について(学習方法と評価等の検討)(目標2,3)
	第9回	各自又はグループで学習指導案構想について(教材・単元・学年等の設定)(目標2,3)
	第10回	各自又はグループで素材や資料の収集(単元項目確認・目標の設定等)(目標1,2)
	第11回	各自で学習指導案づくり(実態調査項目検討・指導計画設定等)(目標3,4)
	第12回	グループ内で学習指導案の報告と補説(班で各自の指導案の発表会)(目標2,3,4)
	第13回	各自の小学校社会科学習指導案の修正(修正した指導案の提出)(目標3,4)
	第14回	小学校社会科学習指導案の書き方について(指導案作りの苦労と解説等)(目標3)
	第15回	小学校社会科学習指導についてまとめる(社会科学習のねらい)(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説社会編を読み，その内容に関心をもつこと。 予習：新聞・テレビ等で社会事象の情報に，積極的に関心をもち，必要と思った内容は，切り抜いたり，メモを取ったりするようにしたい。（情報収集） 予習：日頃から教科書に関心をもつこと。（本校の図書室にある） 予習：シラバスをもとに，次の講話の内容を調べておくこと。 復習：毎回の授業の要旨をまとめたり，感想を書いたりしておくこと。
	復習	指定されたレポートの課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	社会的養護の現状と要保護児童の支援について理解し，自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験50%，授業中のレポート30%，授業への参加度20%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	現行の小学校の社会科教科書の内容及び地図帳を，講義前に目を通しておくと，講義もスムースになる。	

（本学の大学図書館に備えてある）

社会科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET207
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	社会科指導法
科目責任者	田村　孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1074002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校社会科授業，小学校社会科授業指導案，小学校社会科模擬授業
授業のねらい・概要	小学校社会科の授業指導案の書き方と教材研究を通して模擬授業を試みる。
学生の達成目標	1. 小学校社会科のカリキュラム構造を理解する。 2. 小学校社会科の授業指導案を書くことができる。 3. 指導案に基づいて教材研究,教材開発ができる。 4. 模擬授業をする。
授業内容	第1回　オリエンテーション(グループ分け) 第2回　小学校社会科の成り立ち(目標1) 第3回　小学校社会科教育の目標ー学習指導要領からー(目標1) 第4回　学年別社会科の目標と内容について(3・4学年)(目標1) 第5回　学年別社会科の目標と内容について(5学年)(目標1) 第6回　学年別社会科の目標と内容について(6学年)(目標1)

	第7回	小学校社会科学習指導案についてーその1ー(目標2)
	第8回	小学校社会科学習指導案についてーその2ー(目標2)
	第9回	社会科指導案をつくってみようー学年と単元,全体構成ー(目標2)
	第10回	指導案にもとづいて教材研究をしてみよう(目標3)
	第11回	グループ別模擬授業ーその1ー(目標3,4)
	第12回	グループ別模擬授業ーその2-(目標3,4)
	第13回	グループ別模擬授業ーその3-(目標3,4)
	第14回	グループ別模擬授業ーその4-(目標3,4)
	第15回	講評とまとめ
予習・復習の内容	予習	配布するプリント類をよく読んでおくこと。
	復習	当日受けた授業内容をまとめておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	小学校社会科授業を実施するにあたっての意欲，関心並びに指導案作りに藻意欲を示したかどうかを基準とする。
	評価の方法	指導案（30%）と授業実践態度（30%）学期末のレポート（40%）とする。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

算数科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET208
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	算数科指導法
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1075001（木曜日1時限）,A1075002（金曜日4時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数科の特質，各領域の指導方法，教材研究，授業の進め方
授業のねらい・概要	算数科の特質や内容の特色から見た指導法の特色に触れ，教材研究の仕方及び算数の授業の構成の仕方を理解できるようにする。 また，数学的な考え方の重要性を捉え，考え方を子どもから引き出すような指導が大切でることを根底において指導技術も身に着けられるようにする。
学生の達成目標	1. 算数科(指導法)の特色がわかる。 2. 数と計算,量と測定等の内容に応じた指導方法が身に付く。 3. 算数科教材研究の進め方が分かる。 4. 学習段階に沿った実際の授業の進め方が分かる。
授業内容	第1回　講義のガイダンスと算数科の授業の目的。 第2回　算数科指導の特質(1) 問題解決過程を大切にする(目標1) 第3回　算数科指導の特質(2) 系統を大切にする(目標1) 第4回　算数科指導の特質(3) 考え方を大切にする(目標1)

	第5回	算数科指導の特質(4) 答えが出てから算数が始まる(目標1)
	第6回	整数の意味とその指導の実際(目標2)
	第7回	分数・小数の意味と指導の実際(目標2)
	第8回	加法・減法の計算の意味と計算の仕方の指導(目標2)
	第9回	乗法・除法の計算の意味と計算の仕方の指導(目標2)
	第10回	量と測定の意味とその指導の実際(目標2)
	第11回	図形の意味と指導の実際(目標2)
	第12回	関数・統計・式表示の意味と指導の実際(目標2)
	第13回	算数教材研究の進め方・指導案立案までの手続き(目標3)
	第14回	算数の授業の構成の仕方・指導案の立案(目標4)
	第15回	算数の授業の進め方と評価の仕方(目標4)
予習・復習の内容	予習	次回の内容について小課題を提示するので、学習指導要領の解説書等を読み下調べをしておく。
	復習	その時間の指導内容・指導方法について復讐し、自分なりの考えをまとめておく。 指導案のレポート等を課すので期限までに提出する。
	展開	最近の算数の内容・指導法に関する情報を収集し、実践するための知識・技能を身に着けておく。
成績評価	評価の基準	算数科の指導法の特質をとらえているか，数，計算，図形などの教材の本質をとらえてその指導の在り方を説明できるか，算数の授業の進め方を身につけられたかを評価基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	小学校学習指導要領解説　算数編
	著者名	
	出版社	東洋館出版
	価格	250円
	ISBN・ISSN	978 -491-02373-1
推薦図書等		
参考URL	必要な資料等を授業中に配布する	
備考		

理科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET209
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科指導法
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1076001（金曜日2時限）,A1076002（金曜日4時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実験・観察，科学的リテラシー，理科好き
授業のねらい・概要	小学校理科の指導に必要な知識・技能を確認し，科学的なものの見方や考え方を促すための指導法についての理解を深める。また，理科授業を自分で構想し，分析するための知識と視点などの素養を育成することを目指す。
学生の達成目標	1. 実験観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的実験・観察技術を習得する。 2. 子供が主体的・能動的に参加するための理科授業実践上の工夫を行うことができる。 3. 理科授業を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を獲得する。 4. 学習環境に応じて教材・教具を使い分け・改良するための知識を習得する。
授業内容	第1回　小学生に理科を学ばせる意義・目標概念:科学教育を行う意義と科学的リテラシーについて考える。(目標1,3)

第2回	小学校理科の概要:4年間の理科の学習内容の流れを俯瞰し,児童の発達段階と認識能力を鑑みながら,学習到達目標を確認する。(目標1,3)
第3回	安全な実験観察の方法:実験観察における危険予知と安全性の確保について,具体例を示しながらその原理を理解する。(目標1,2,3,4)
第4回	物理領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第5回	物理領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第6回	物理領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第7回	化学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第8回	化学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第9回	化学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第10回	生物領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第11回	生物領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第12回	生物領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第13回	地学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第14回	地学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)
第15回	地学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法を体験すると共に,教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着ける。(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	前時に配布する「小学校理科の教科書」のコピーを事前に読み，教授内容を理解しておく。
	復習	実際に児童に対し実験観察を含んだ授業を実施することを想定して，その際の実施マニュアルを作成するつもりでレポートにまとめる。

	展開	実験観察の基本的な技術や指導法、及び教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着けることで、現場に出たときに実験観察行う際の精神的なハードルを下げる。
成績評価	評価の基準	実験に関するレポートは，以下の観点から評価する。①実験に意義が理解できているか。②教材や実験方法に対する理解が十分であるか。③実験を指示する際の注意点が適切に示されているか。④予想される異なる結果に対する考察のバリエーションが豊かであるか。
	評価の方法	第４回から第15回までの実験に関するレポートの内容及び提出状況90%，授業への参加度10%を総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 毎回プリントを用意する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子供たちは実験・観察が好きです。身体を動かしながら学習を進めることで，学習内容の定着や深い理解に効果的であるだけでなく，教員にとっては子供の人間性や特性の理解に役立ちます。しかし，教員自身に経験が少ないと，自信が持てないため，実感。観察の実施に二の足を踏んでしまいます。そこで，様々な実験・観察を教員としての視点から経験し，イメージつくりをしてもらいたいと思います。	

生活科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET210
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	生活科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1077001（火曜日2時限）,A1077002（火曜日4時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活に関する課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	生活科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，生活科教育がめざすものや現代の生活の課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を提案し，検討する。
学生の達成目標	1.　生活科教育が目指すものを確認し整理することができる。 2.　現代の生活に関する課題を主体的に追究することができる。 3.　生活科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 4.　1～3をふまえて,授業を設計し提案することができる。
授業内容	第1回　授業内容についてのオリエンテーション 第2回　現代の生活認識と課題の概要(目標1) 第3回　新しい教育課程における生活科教育の目標・内容(目標1) 第4回　「自分や人や社会との関わり」に関する内容(目標1,2) 第5回　「自分と自然とのかかわり」に関する内容(目標1,2)

	第6回	「自分自身」に関する内容(目標1,2)
	第7回	人間関係及び公共マナーのスキル(目標3)
	第8回	資源・環境に関わるリサイクル・リメイクのスキル(目標3)
	第9回	地域の伝統的食文化の実習(目標2,3)
	第10回	生活科授業の設計(目標4)
	第11回	マイクロティーチング ①(目標4)
	第12回	マイクロティーチング ②(目標4)
	第13回	マイクロティーチング ③(目標4)
	第14回	マイクロティーチング ④(目標4)
	第15回	まとめ(目標1～4)
予習・復習の内容	予習	・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。 ・事前に出された課題について調べ、当日発表できるようにしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関する先端的研究や発展的資料を読み、 知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	生活科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。小レポート（ 20%），実習作品（ 15%），研究成果発表（ 20%），学期末試験（ 35%），平常点（ 10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

音楽科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET211
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	音楽科指導法
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1078001（月曜日5時限）,A1078002（金曜日4時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，音楽科，指導法
授業のねらい・概要	小学校教育における音楽科の意義を理解し，児童の前で自信をもって音楽表現できるよう演奏技能を高め，児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるよう援助するための授業を構成する力を育てる。
学生の達成目標	1. 学習指導要領に示される音楽科の目標・内容を学ぶ。 2. 授業を構成するための教材に対する理解を深める。 3. 児童の前で自信をもって音楽表現できる。 4. 自分なりの構想をもち学習指導案を作成できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　学習指導要領に示される音楽科の目標と指導内容について(目標1) 第3回　歌唱指導(1) 読譜,階名唱,発声等について(目標2) 第4回　歌唱指導(2) 低・中学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ①(目標2)

第5回	歌唱指導(3) 高学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ②(目標2)
第6回	歌唱共通教材による模擬指導(目標3)
第7回	器楽指導(1) 打楽器の奏法,リズム遊びとその指導法(目標2)
第8回	器楽指導(2) 鍵盤楽器の奏法とその指導法(目標2)
第9回	器楽指導(3) リコーダーの奏法とその指導法(目標2)
第10回	器楽アンサンブルの発表(目標3)
第11回	音楽づくりの教材研究とその指導法(目標2)
第12回	鑑賞教材の研究とその指導法(目標2)
第13回	年間指導計画,学習指導案,評価について(目標1,4)
第14回	学習指導案の作成(目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	・自分が受けた音楽の授業を振り返る。 ・指示に従って発表等の準備を行い、課題に取り組む。
	復習	・学習内容を振り返り、自分なりの考察を加え、まとめをする。
	展開	・音楽科の授業に関わる雑誌・書籍等に親しみ学習成果を深める。

成績評価	評価の基準	児童の前で自信をもって音楽表現できるか。 自分なりの授業の構想をもち，学習指導案を作成できるか。
	評価の方法	歌唱模擬指導（ 30%）器楽アンサンブル発表（ 20%）作成した学習指導案（ 40%）授業への取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	『教員養成課程　小学校音楽科教育法』
著者名	有本真紀・阪井恵・山下薫子編著
出版社	教育芸術社
価格	1 ,680円
ISBN・ISSN	ISBN： 4877884918

書籍名	『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６
著者名	小原光一　他
出版社	教育芸術社
価格	官報による
ISBN・ISSN	

書籍名	『歌はともだち』（歌集）
著者名	教芸音楽研究グループ

出版社	教育芸術社
価格	380円
ISBN・ISSN	

書籍名	『子どものためのリコーダー曲集　笛星人』
著者名	北村俊彦
出版社	トヤマ（アウロス）出版
価格	368円
ISBN・ISSN	ISBN： 4887801042

推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校等で使用したリコーダーを用意して下さい。 持っていない人は，次のものを楽器店等で購入して下さい。 ヤマハ YRS-28BⅢ（１,260円）または YRS-38BⅢ（１,680円） 課題は早めに提示しますので，余裕をもって準備し，期限を守って提出して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

図画工作科指導法・後期

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET212
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	図画工作科指導法・後期
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1079002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校図画工作科，教科指導法，教材研究，授業実践力
授業のねらい・概要	小学校の図画工作科の目標，内容及び指導の方法について理解を深め，学校現場で授業を行うための実践力を身につける。 教材や指導法の研究も踏まえて，演習や模擬授業，発表を通して具体的に学ぶ。 授業に関する準備，導入，展開，評価についての基本を学ぶとともに，指導技術の向上を図り，教師としての資質を培う。
学生の達成目標	1. 小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材の研究や題材開発,学習展開のあり方,材料・用具の扱い方などを具体的に理解するとともに,学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学ぶ。 2. 図画工作科に関する専門的な知識の修得を図り,児童一人ひとりの個性を活かした造形活動の指導が出来るように,授業者としての基礎的指導力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業に関する留意事項,準備等。小学校学習指導要領について)(目標1) 第2回　小グループ・発表計画の確定・体験!図画工作 ①造形遊び(目標1)

	第3回	学習指導案・授業の組み立て方について・体験!図画工作 ②グループ課題制作(目標1)
	第4回	模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)・体験!図画工作 ③鑑賞・木工(目標1)
	第5回	模擬授業 ①安全指導の実際について・体験!図画工作 ④木工・絵画(目標1)
	第6回	体験!図画工作 ⑤木工・模擬授業 ①～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)
	第7回	模擬授業 ②～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)
	第8回	模擬授業 ③～学習指導の方法と教師の役割の実際・全員発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成 ①(目標1)
	第9回	演習 ①粘土遊び～導入の大切さを学ぶ・模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)・レポート作成 ②(目標1)
	第10回	模擬授業 ④～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)絵画①
	第11回	模擬授業 ⑤～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)絵画②
	第12回	模擬授業 ⑥～学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成③(目標2)
	第13回	演習 ②デザイン技法～教材研究の視点を学ぶ・模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)(目標1)
	第14回	演習 ②に基づいた全員発表 ①・相互評価・課題レポート作成 ④(目標2)
	第15回	演習 ②に基づいた全員発表 ②・相互評価・まとめ～図画工作科における今日的課題について(目標2)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める 模擬授業の準備をする 実技課題の制作を進める
	復習	配布資料を読み直す テキストを読む 模擬授業のまとめをする
	展開	様々な題材の指導案を実際に書く
成績評価	評価の基準	小学校図画工作の指導法に関して，授業で取り上げた基礎・基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに小学校の図画工作科について自らの考えを持ち，それを授業で具体的に実践できる基礎が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや模擬授業などの発表等で総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計 30%，課題レポート 30%） 60%，演習や発表，作品などをもとに授業の取り組みを踏まえた平常得点 40%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	子どもの心に語りかける表現教育
	著者名	鈴木幹雄・長谷川哲哉編，森高光広・他著
	出版社	あいり出版
	価格	2,310
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4901903586

推薦図書等

参考URL

備考

・履修人数は，演習の内容上 35名前後を原則とする。
・前期，後期の授業は同一内容を予定。（演習課題等の一部変更はある）
・小学校教員免許希望者を優先とする。 35名前後を定員とし，実技を交えた演習・講義とする。
初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。
また，３年生は後期に受講することが望ましい。
・受講人数や受講生の状況によって，演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。
・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表を予定。

家庭科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET213
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	家庭科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1080001（火曜日2時限）,A1080002（金曜日3時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の生活課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	家庭科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，家庭科教育がめざすものや現代の生活課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程にそった家庭科の授業を提案し，検討する。
学生の達成目標	1.　家庭科教育が目指すものを確認し整理することができる。 2.　現代の生活課題を主体的に追究することができる。 3.　家庭科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 4.　1～3をふまえて,授業を設計し提案することができる。
授業内容	第1回　授業内容についてのオリエンテーション 第2回　現代の生活課題の概要(目標1) 第3回　新しい教育課程における家庭科教育の目標・内容(目標1) 第4回　家族・家庭に関する内容の検討(目標1,2) 第5回　食生活に関する内容の検討(目標1,2)

	第6回	衣生活・住生活に関する内容の検討(目標1,2)
	第7回	身近な消費・環境に関する内容の検討(目標1,2)
	第8回	食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ①(目標3)
	第9回	食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ②(目標3)
	第10回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ①(目標3)
	第11回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ②(目標3)
	第12回	マイクロティーチング ①(目標4)
	第13回	マイクロティーチング ②(目標4)
	第14回	マイクロティーチング ③(目標4)
	第15回	まとめ(目標1～4)

予習・復習の内容	予習	・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこ　と。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。 ・事前に出された課題について調べたり企画したりして、当日発表できるようにしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこ　と。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解　決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	家庭科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた家庭科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。 小レポート（ 20%），実習作品（ 15%），研究成果発表（ 25%），学期末テスト（ 30%），平常点（ 10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	家庭科教育法
	著者名	佐藤文子・川上雅子
	出版社	高陵社書店
	価格	2000
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

体育科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET214
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	体育科指導法
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1081001（金曜日1時限）,A1081002（金曜日2時限）,A1081003（水曜日1時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能、指導法、運動遊び、体力、健康、表現
授業のねらい・概要	小学校体育の内容および指導方法の修得、基礎運動技能の体得を目的とする。教育現場において、自ら授業を立案し運営できる能力を養う。 身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 各領域の内容と実践方法を修得すること。 2. 体育指導に必要とされる基礎運動技能を体得すること。 3. 学校現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。 4. 運動実践と子どもの体力および健康の変化との関係性を理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション・体力テスト(目標1,2,3,4) 第2回　体つくり運動の展開と指導法(1);体ほぐしの運動(目標1,2,3,4) 第3回　体つくり運動の展開と指導法(2);体力を高める運動(目標1,2,3,4)

	第4回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(1);走・跳の運動遊び(目標1,2,3,4)
	第5回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(2);短距離走・リレー(目標1,2,3,4)
	第6回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(3);走り高跳び・走り幅跳び(目標1,2,3,4)
	第7回	ボールゲームの展開と指導法(1);ゴール型ゲーム(目標1,2,3,4)
	第8回	ボールゲームの展開と指導法(2);ネット型ゲーム(目標1,2,3,4)
	第9回	ボールゲームの展開と指導法(3);ベースボール型ゲーム(目標1,2,3,4)
	第10回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(1);リズム遊び・リズムダンス(目標1,2,3,4)
	第11回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(2);創作ダンス・フォークダンス(目標1,2,3,4)
	第12回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(1);マット運動(目標1,2,3,4)
	第13回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(2);鉄棒運動(目標1,2,3,4)
	第14回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(3);跳び箱運動(目標1,2,3,4)
	第15回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(4);総合実技(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	授業で扱う各運動領域の目標と内容について、学習指導要領を読んで理解すること。
	復習	授業内容（行った内容および指導法）および課題について、授業ノートを作成し、毎回まとめること。
	展開	各運動領域の内容について、実技と理論を織り交ぜながら授業を進める。
成績評価	評価の基準	体育科の授業展開および指導法の基礎・基本を理解し、自ら立案した体育科授業について安全かつ効果的に実践できる能力を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	実技試験 20%、授業ノートの内容 30%、発表課題の準備と内容 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　体育編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	124円
	ISBN・ISSN	ISBN：4491023751

推薦図書等	
参考URL	
備考	授業内容については天候などで順番の変更はある。 ジャージ、Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であること、また教員免許取得関係の科目という観点から着用を禁止する。 円滑な授業運営をするため、１時限あたりの履修者数を 30名以内に制限することがある。 第1回目に体力・なわとびテストを行うので、なわとびを持参し、運動のできる服装に更衣して体育館に集合すること。 体育科指導法Cは前年度以前に体育科指導法AもしくはBを履修し、評価が履修中となった者のみを対象とする。

道徳教育指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	道徳教育指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1082001（前期）,A1082002（後期）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　道徳の時間　学習指導案　指導方法　模擬授業
授業のねらい・概要	道徳教育を行うに必要な基本理念と方法・指導技術について学び，道徳教育を補充・深化・統合する道徳の時間の在り方について理解を深める。 その上で，実際に行われている具体的な授業実践例を紹介し検討し，授業づくりについての具体的な指導方法について学ぶ。 また，指導案作成や模擬授業を通して実践力を養う。
学生の達成目標	1.　道徳教育と道徳の時間の役割が理解できる。 2.　各自が道徳資料を選び,簡単な指導案が作成できる。 3.　模擬授業行ったり、観たりしてすることで、課題を見つけることができる。
授業内容	第1回　道徳教育の歴史的な変遷と学校教育目標の具現化,今日的な課題を明らかにする。 道徳教育と道徳の時間の役割について理解する。(目標1) 第2回　道徳の時間のねらい・内容項目・学習過程についての基本的な理解を深める。(目標１)

第3回	さまざまな資料を通して資料分析を行い,資料の選び方を考察する。（目標１）
第4回	DVDや指導案により具体的な授業例を紹介し,資料についての理解を深める。（目標１）
第5回	DVDや指導案により具体的な授業例を紹介し,道徳時間の様々な指導方法について理解を深める。（目標１）
第6回	指導案の書き方について（目標２）
第7回	指導過程に沿って、道徳指導案を書く。(目標２)
第8回	各自作成した指導案を持ち寄り、グループで模擬授業をする内容を決定する。役割分担を決める。
第9回	模擬授業の準備やリハーサルをする。
第10回	模擬授業をする。よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
第11回	模擬授業をする。よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
第12回	模擬授業をする。よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
第13回	模擬授業をする。よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
第14回	模擬授業をする。よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
第15回	模擬授業等を通して、指導上の配慮事項について話し合う。（目標１・２・３）

予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説「道徳編」を読むこと。 積極的に道徳副読本に目を通すこと。
	復習	授業で習得したことと小学校学習指導要領解説　「道徳編」を照らし合わせ、ノートにまとめる。 模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し、次回の授業に生かす。
	展開	・さまざまな授業の展開例を理解する。 ・基本的な指導案の書き方を理解し、作成する。 ・作成した指導案を元にグループで協力し合って、模擬授業をする。 ・子どもが主体的に活動する「道徳の時間」について話し合う。

成績評価	評価の基準	道徳の時間の役割が分かり，適切な資料のもと指導案を作成することができる。 模擬授業への関心・意欲と効果的に実践しようとする態度を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト・資料選択・指導案作成（ 70%）授業中の態度・振り返り（ 20%）グループ協議への参加態度（ 10%）

教科書

書籍名	小学校学習指導要領解説　「道徳編」

	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	道徳教育で大切なこと
	著者名	赤堀博行
	出版社	東洋館出版社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	課題の提出期限を守ること。 教育実習前に履習しておくことが望ましい。	

特別活動指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET303
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	特別活動指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1083001（木曜日1時限）,A1083002（木曜日3時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別活動，指導方法（学級活動），学級経営との関連（人間関係づくり）
授業のねらい・概要	特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）の各分野において，主に学級活動の授業の指導法のあり方についてプログラムを構成している。 体験的な活動をメインにしながら，学級経営・生徒指導との関連が深い学級の人間関係づくりへのアプローチを行う。
学生の達成目標	1. 特別活動の目標や内容を理解し,豊かな人間関係づくりを行う学級経営との関連や教師の役割が分かる。 2. 適応指導や人間関係づくりの学級活動の指導案を作成する。 3. 人間関係づくりの学級活動の指導案を元に模擬授業を行い、体験的な活動を味わう。
授業内容	第1回　学習指導要領の解説と特別活動の意義について(目標1) 第2回　特別活動の内容について(目標1) 第3回　学級活動と学級経営との関連について(いじめ問題への対応)(目標1) 第4回　人間関係づくりの学級活動指導案を作成について（目標２）

第5回	指導計画の作成にあたっての配慮事項 特別活動と道徳との関連（目標１）
第6回	児童期における発達課題について(目標1)
第7回	子どもの発達段階に応じた指導のあり方(目標1)
第8回	発達段階に即した指導のめやす（学級活動と道徳との関連） グループごとに指導案検討（目標２）
第9回	児童会活動について 模擬授業打ち合わせ
第10回	人間関係づくり模擬授業①（目標３）
第11回	人間関係づくり模擬授業②（目標３）
第12回	人間関係づくり模擬授業③（目標３）
第13回	人間関係づくり模擬授業④（目標３）
第14回	学級活動（係活動）や学校行事（卒業式）と教師の役割について（目標１）
第15回	特別活動の配慮と評価について（目標１）

予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説　「特別活動編」を読むこと。 人間関係づくりに関わる書籍を読むこと。
	復習	授業で習得したことと小学校学習指導要領解説　「特別活動編」を照らし合わせ、ノートにまとめる。 望ましい集団づくりのために教師はどのような支援をすればよいのかまとめる。 模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し、次回の授業に生かす。
	展開	・特別活動の目標や内容を理解する。 ・基本的な指導案の書き方を理解し、作成する。 ・作成した指導案を元にグループで協力し合って、模擬授業をする。 ・子どもが主体的に活動する「特別活動」について話し合う。

成績評価	評価の基準	学校教育全体に関わる特別活動のねらいや教師の役割が理解できたか。
	評価の方法	期末テスト（ 60%）　ワークシート（ 20%）　授業中の態度（ 20%）

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説「特別活動編」
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	128円＋税
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	グループ協議では積極的に参加することで，課題意識を高めることができる。 提出物は，期限を厳守。

教育方法・技術論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET216
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育方法・技術論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1084001（木曜日1時限）,A1084002（金曜日1時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育方法，よい授業，授業設計，指導技術，模擬授業
授業のねらい・概要	教育方法の意義を知るとともに，その基礎にある授業について，よい授業とはどんな授業であるかを知り，授業を展開する方法や技術を習得し，実践に役立てるようにする。 史的経過を踏まえつつ，一斉学習と個別学習等今日的課題となっている学習方式について模擬体験を通して理解する。
学生の達成目標	1.　教育方法の基本原理が分かる。 2.　教材研究の仕方が分かる。 3.　よい授業の構成の仕方が分かり,指導技術を身に付けることができる。 4.　情報メディア等の活用の仕方がわかる。
授業内容	第1回　教育方法と授業について ……講義のガイダンス(目標1) 第2回　教育方法の史的変遷その１ 諸外国・・・(目標1) 第3回　教育方法の史的変遷 その２　日本・・・(目標1) 第4回　授業と教育方法の基本原理 ……系統学習と問題解決学習(目標1)

	第5回	授業とは何か ……よい授業とは,授業の構成要素(目標2)
	第6回	授業と学習形態 ……(目標2)
	第7回	授業の設計と教材研究・・・・(目標2)
	第8回	学習指導案と授業・・・(目標２)
	第9回	学習指導案と授業の構築(目標3)
	第10回	授業の構築と授業の観察(目標3)
	第11回	優れた教育実践に学ぶ 島小学校(目標3)
	第12回	授業と環境 情報教育と教育機器(目標4)
	第13回	授業と環境 情報教育メデイアの活用(実践学校)(目標4)
	第14回	教授組織と学習組織（目標１）
	第15回	授業と評価の方法 ……評価の活かし方(形成的評価と総合的評価)(目標3)
予習・復習の内容	予習	教育現場で授業等がどのように行われているの情報に関心をもち、今日的テーマについて理解できるようにしておくこと。 小課題を事前に与えるので調べておくこと。
	復習	教育方法にかかわるキイワードの言葉をまとめておく。 指導案の模写等の課題を期限までに提出すること
	展開	現場の授業を参観したりボランティアで授業のお手伝いをしたりして、指導方法・技術についての見聞を広めておく。
成績評価	評価の基準	教育方法の基本的な事項が理解ができていること，授業の仕組みを捉え，授業の構成の仕方及び指導技術の方法を把握できていることを合格基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要な書類を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

理科実験技術

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET217
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科実験技術
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1084101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実験・観察，カリキュラム，学習指導案
授業のねらい・概要	小学校理科指導に必要な知識・技術の習得し，科学的なものの見方や考え方を促すための指導法についての理解を深める。理科の授業を自分で構想し，分析するための知識と視点等の素養を育成することを目指す。具体的には，実際の授業で実践されている様々な実験・観察を通して，教育の目標・内容・指導法について学習し，教員となった時に児童に対し適切かつ魅力ある授業を展開できるようになることを目指す。
学生の達成目標	1. 実験・観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的な実験・観察技術の習得。 2. 実験・観察を実践する上での指導者として必要な基礎的素養の修得。 3. 児童が主体的・能動的に参加するための理科授業計画の構築。
授業内容	第1回　理科教育の価値・目的及び評価の観点について学習する。(目標1,2,3) 第2回　小学校理科のカリキュラム構成について学習し,本質的に何を教え認識させるのかを確認する。(目標1,2,3) 第3回　学習指導案の書き方を解説する。また,授業展開のあり方について,実践例に基づきながら如何に教えていくことが可能なのかを学習す

る。(目標1,2,3)

第4回	3年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第5回	3年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第6回	4年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第7回	4年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第8回	5年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第9回	5年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第10回	6年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第11回	6年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法を体験する。教材に対する理解や安全管理に対する配慮を身につける。(目標1,2,3)
第12回	学生の指導案に従った模擬授業を,学生自身が互いに分析的に評価する。その際に,理科の授業における課題や,児童のつまずきの法則性と意義を明らかにする。(目標1,2,3)
第13回	学生の指導案に従った模擬授業を,学生自身が互いに分析的に評価する。その際に,理科の授業における課題や,児童のつまずきの法則性と意義を明らかにする。(目標1,2,3)
第14回	学生の指導案に従った模擬授業を,学生自身が互いに分析的に評価する。その際に,理科の授業における課題や,児童のつまずきの法則性と意義を明らかにする。(目標1,2,3)
第15回	学生の指導案に従った模擬授業を,学生自身が互いに分析的に評価する。その際に,理科の授業における課題や,児童のつまずきの法則性と意義を明らかにする。(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習	第11回までに模擬授業用の学習指導案を立案し，提出する。
復習	第４回から第11回までに実施した実験・観察に関するレポートを次回までに作成し，提出する。
展開	小学校理科に関して基本的な実験観察を多く体験することで、実験観察に対してのセンスを身につける。また、実験観察を含んだ学習指導案を作成できるようになる。

成績評価

評価の基準	学習指導案は，①実験・観察が学習内容にてきしているか。②教材や指導方法が適切であるか。③実験・観察に児童の理解を助けるための創意工夫が見られるか。④安全への配慮がなされ

		ているか。⑤予想される実験の失敗に対する対応の準備がなされているか。を評価の基準とする。
	評価の方法	実験・観察のレポート40%，学習指導案50%，授業への参加度10%を総合的に判断する。

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	学習内容及び，実感・観察方法についての深く理解した上で，学習指導の細案を作成してもらいます。自信を持って教えられる範囲を１つでも作ることで，理科の他の範囲であっても，実験・観察の授業を実施しようとする際の垣根が低くなると思います。

児童生徒指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET219
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	児童生徒指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1085001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生徒指導の機能，積極的な生徒指導，生きる力， NIE
授業のねらい・概要	生徒指導は学習指導とともに学校教育の基本的な機能である。近年，価値観や児童生徒が多様化し，生徒指導は複雑化，かつ困難の度を増してきている。 生徒指導の理論を理解するとともに，教育現場の具体的事例を学びながら生徒指導の基礎を身につけ，生徒指導が実践できる資質，能力を培う。 そして積極的な生徒指導を行うことで，児童生徒の生きる力を支援できるようにする。
学生の達成目標	1. 生徒指導の意義と原理について学ぶ。 2. 生徒指導は,教育課程のあらゆる面で機能することから教科,特別活動,道徳などとの関連,学級集団のダイナミックス,学校体制つくりについて理解する。 3. 児童期の心理的特徴について理解する。また,いじめや不登校,非行などの教育課題に対しての対応と指導法について,具体的事例から学ぶ。 4. 生徒指導を推進するための学校と家庭・地域社会・関係機関との連携について理解する。 5. 教育,子ども等に関するタイムリーな新聞記事から,人間形成に重要な判断力,実践力を身につける。

授業内容	第1回	生徒指導の意義と原理(目標1)
	第2回	生徒指導と教育課程に基づく指導との関係(目標2) 教育課程外活動と生徒指導（目標２）
	第3回	児童生徒の心理と児童生徒理解(目標3)
	第4回	子どもの問題行動(1) 早期発見(反社会的行動)と効果的な指導(目標3)
	第5回	子どもの問題行動(2) 早期発見(非社会的行動)と効果的な指導(目標3)
	第6回	小学校における生徒指導の実際（目標3）
	第7回	小学校における生徒指導の実際(目標3)
	第8回	生徒指導と学級経営(1)： 学級集団の特徴と機能(目標2)
	第9回	生徒指導と学級経営(2) ：教師と児童のコミュニケーション(目標2)
	第10回	生徒指導の実践 課題解決学習「いじめ」(目標3)
	第11回	生徒指導の実践 課題解決学習「学級崩壊」と「体罰」(目標3)
	第12回	生徒指導の実践 課題解決学習「インターネット」「携帯にかかわる課題」(目標3)
	第13回	学校における指導体制(目標4)
	第14回	小学校現場における生徒指導の実際（目標4)
	第15回	生徒指導における学校と家庭・地域社会・関係機関との連携(目標4)
予習・復習の内容	予習	・教育、子どもに関するタイムリーな新聞記事、読書などから、人間形成に重要な判断力、思考力を養っておくこと。（目標５） ・授業の内容を示すキーワードや、示された課題について調べ学習をし、意見発表できるようにしておくこと ・児童にかかわるボランティアなどに参加し、体験的子ども理解を深めること
	復習	・学習した内容の教科書の範囲をよく読んでおく。 ・学習内容をわかりやすくまとめ、疑問点が出てきたら授業で質問できるようにする。 ・与えられた課題のレポートを作成する。
	展開	・教育課題についての自分の意見を積極的に述べ、意見交換をすること。 ・模擬授業など意欲的に参加する。 ・授業を聞きながら要点の記録をする。
成績評価	評価の基準	生徒指導の理論を理解し，具体的事例に対しての指導法や，対処法を考えることができることを合格基準とする。
	評価の方法	授業態度 20%，課題レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。

教科書	書籍名	生徒指導提要　文部科学省　 290円
	著者名	文部科学省
	出版社	
	価格	２９０円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-87730-274-0

推薦図書等	書籍名	法規＋教育で考える　生徒指導
	著者名	嶋崎政男
	出版社	ぎょうせい
	価格	1905円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-324-08907-1
	書籍名	生きる力をはぐくむ生徒指導
	著者名	宮下一博・河野荘子編著
	出版社	北樹出版
	価格	
	ISBN・ISSN	ISBN:4-89384-991-3

参考URL	文部科学省ホームページ　http://www.mext.go.jp
備考	教育や子どもに関する新聞記事を読み，レポートすることを求める。 小学校の先生をめざす者の履修を望む。 また，小学校実習前の受講がのぞましい。

小学校の学級経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET220
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校の学級経営
科目責任者	桑田　良子
担当教員	加藤　悦子 村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1140001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心理教育、集団の力動関係、集団指導、配慮を当する児童と学級経営
授業のねらい・概要	児童が安心して学校生活を送るためには学級が児童の心の居場所になることが非常に大切になる。学級担任は担当する学級の責任者として適切な経営をすることが求められている。そこで本授業においては、学級経営上基本となる知識や指導法について理解を深めることを目的とする。
学生の達成目標	1. 「学級経営」の目的や意義について理解する。 2. 学級集団を向上させるための指導法（心理教育）や問題問題解決法を身につける。 3. 子どもたちが安心して学校生活を送れるような環境つくりについて学ぶ（静的、動的） 4. 学級経営上起こりやすい問題の理解と対処法について学ぶ。特に「いじめ」などの問題、学級の組織化に伴う児童の力動関係などについて理解する。 5. 配慮を要する児童と学級経営について実践的に学ぶ。

授業内容	第1回	「学級経営」の目的と意義（目標１） 担当教員:
	第2回	学級目標の作り方とそのねらい（目標１） 担当教員:
	第3回	学級組織の作り方について（目標２） 担当教員:
	第4回	学級のきまりについて（目標２） 担当教員:
	第5回	学級集団を理解する検査法（Q-Uテスト）（目標３）
	第6回	教育相談と心理教育の必要性（目標２）
	第7回	構成的グループエンカウンターと実践１（目標2)
	第8回	構成的グループエンカウンターと実践２（目標２）
	第9回	グループワーク（目標2)
	第10回	学級経営上起こりやすい問題の理解と対処法（目標４） 担当教員:
	第11回	配慮を要する児童と学級経営Ⅰ（目標５） 学級の中の配慮を要する児童について気づく 担当教員:
	第12回	配慮を要する児童と学級経営Ⅱ（目標５） 配慮を要する児童を含めた学級経営・支援を組み立てる
	第13回	キャリア教育について
	第14回	学級通信と学級経営
	第15回	自分の目指す学級経営 自分のめざす学級経営についての考えを発表する 担当教員:
予習・復習の内容	予習	・学習内容を予告するので、調べ学習をしてくること ・学級経営についての書物を読むこと
	復習	・学習した内容を自分の学級経営方針としてまとめておくこと
	展開	・授業中は積極的に取り組み発表すること。 ・いつも、自分が担任だったらどうするかを考えて授業に臨むこと。
成績評価	評価の基準	学級経営についてその意義と目標を理解し、自分なりの経営方針をもつことができること

評価の方法	平常点、３0%	レポート30点　テスト40点の成績を総合する。

教科書

	書籍名	そのクラス、うまい教師はこう動かす
	著者名	中嶋郁雄
	出版社	学陽書房
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-313-65223-1
推薦図書等		
	書籍名	学級生活問題の議題化
	著者名	宇田川敬一編
	出版社	明治図書
	価格	１７００円
	ISBN・ISSN	ISBN:4-18-840204-0

参考URL

備考

児童教育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET221
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	児童教育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1086001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，児童理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題
授業のねらい・概要	児童一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教師として，本人および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 グループを構成しロールプレイを行うなど，体験学習を多く取り入れる。併せて関係機関との連携のありかたについての理解を深める。
学生の達成目標	1. 教育相談の意義や諸理論について理解する。 2. カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法について学ぶ。 3. 児童理解の方法について知る。 4. 今日的な問題行動(不登校・発達障害など)とその対応について理解する。 5. 関係機関や,保護者との連携について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 教育相談の意義・必要性・効果（目標１）

第2回	カウンセリングマインドと相談(目標２)
第3回	教育相談の基本的な態度と技法 (1) ：言語的技法(目標2)
第4回	教育相談の基本的な態度と技法 (2)： 非言語的技法(目標2)
第5回	対話上の諸問題への対処法（目標２）
第6回	相談の諸理論と留意点(目標1)
第7回	構成的グループエンカウンターの理論と体験（目標２）
第8回	児童理解の方法(1)：発達検査から(目標3)
第9回	児童理解の方法(2)：絵画から(目標3)
第10回	保護者との面接のありかた(目標5)
第11回	事例検討とコンサルテーション（目標４）
第12回	非社会的行動の理解と相談(緘黙・不登校など)(目標4)
第13回	反社会的行動の理解と相談(いじめ・万引きなど)(目標4)
第14回	発達障害の理解と対応(LD・AD/HDなど)(目標4)
第15回	校内体制のありかたと専門機関との連携(目標5)

予習・復習の内容	予習	・心理や教育相談に関係のある書物（含む事例）を読む。 ・人の行動の背後にある気持ちを折々に考え、感性を磨　く。 ・授業に出てくるキーワードや専門用語について事前に　調べる。
	復習	・授業内容をまとめる。 ・授業で学習した技法を日常生活の中で実践する。 ・興味を持った内容については、より深め追及する。
	展開	・授業中に感じた気持ちを大事にし、積極的に自己開示する。 ・ロールプレイなど真摯にとりくむ。 ・友達の言動に関心をよせ、よく聴き、よく観察する。

成績評価	評価の基準	教育相談に関する基礎的知識と，技術・態度が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	授業への参加度　20%，レポート　30%，テスト　50%で総合的に評価する。

教科書

書籍名	ピアヘルパーハンドブック
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	
価格	1 ,500円
ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-8100-1343-6
書籍名	子どもの発達理解とカウンセリング
著者名	金子智栄子編

出版社	樹村房
価格	1800
ISBN・ISSN	ISBN:978-4-88367-121-2

推薦図書等	
参考URL	・エンカウンターで学級が変わる　小学校編１　2233円　ISBN4-8100-6271-6　監修　國分康孝　図書文化 ・エンカウンターで学級が変わる　小学校編　2　2500円　ISBN4-8100-6281-9　監修　國分康孝　図書文化
備考	ピアヘルパー資格の取得希望者は必ず受講すること

キャリア教育指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET221
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	キャリア教育指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1087001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生き方，自己理解，価値観，職業観，キャリア教育
授業のねらい・概要	人としての在り方，生き方を育むことを目的とする。 自らが社会人・職業人として，自立した社会の形成者となり，自分らしく生きるために必要な意欲・態度を身につける。同時にキャリア教育の情報収集，優れた実践を通して，児童に身につけさせたいキャリア能力や支援する方法について体験的に学ぶ。
学生の達成目標	1. キャリア教育が言われだした社会的背景を理解し、これからの子どもたちに必要な「生きる力」は何か、どのように育てていくかについて理解し、実践する力をはぐくむ。 2. 課題学習の中で多様な価値観を学び,自分の職業観,生き方を醸成する。進路や職業を選択していく上で必要な意欲・態度・能力を学ぶ。 3. 種々の検査を用いて,自らの興味,能力,アイデンティティなど自己理解の方法論を体験的に学ぶ。 4. 小学校で行われているキャリア教育についての優れた過去の実践例を学習し,発表する。相互学習から生き方への多様な迫り方を学び,経験が生き方を学ぶ上でどのような影響を与えたかをレポートする。
授業内容	第1回　　キャリアとは（目標１）

	第2回	ニート・フリーターとその社会的背景（目標１）
	第3回	社会で必要とされる力とは（目標１）
	第4回	キャリア教育のねらいと実践の場（目標1)
	第5回	キャリアの基礎的理論と情報ツールの活用
	第6回	自分を知る(1) 自分の適性を知る(目標2)
	第7回	自分を知る(2) 価値の明確化(目標2)
	第8回	自分のキャリアデザインを描く(目標2)
	第9回	偉人伝や尊敬する人物の生き様についてまとめ発表する（目標２）
	第10回	自分を変えた出来事についてまとめ発表する(目標2)
	第11回	小学校におけるキャリア教育の実践(1) ねらいと内容：教育課程の中での実践
	第12回	小学校におけるキャリア教育の実践(2) 教育課程外での実践
	第13回	小学校におけるキャリア教育の実践 (3) 指導案の作成と発表
	第14回	小学校におけるキャリア教育の実践 (4) 指導案の作成と発表
	第15回	キャリア教育の体制作りと年間計画及び評価の必要性
予習・復習の内容	予習	・日ごろから、新聞、ニュースなどから社会の情勢についての情報を得ておくこと。 ・与えられた課題について事前に資料を探し、意見を述べられるように準備すること
	復習	・毎回の授業の内容をまとめておくこと。 ・興味を持った内容について、更に調べること。
	展開	・自分から積極的に発言し、自己開示ができるようにすること。 ・グループでの話し合い活動に意欲的に参加し、他の人から学ぶ姿勢を持つ。
成績評価	評価の基準	職業と自分の生き方を関連させて考えることができること，キャリアについて自分なりの見通しを持つことができることを合格基準にする。
	評価の方法	試験 40%，レポート 30%，授業への参加態度 20%，発表 10%などで総合評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	新聞をよく読んで，社会の動向に敏感であること。	

保育内容演習 Ⅰ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT201
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1088101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子どもの歌，音楽遊び，指導法
授業のねらい・概要	生涯を通じ最も音感が鋭敏な幼児期の音楽教育の重要性を認識しながら，子どもが生活の中で音楽を楽しむことや，様々な機会をとらえて自己を表現する喜びを味わうことができるように援助するための基礎的方法を学ぶ。 歌唱・器楽・リズム遊び等の各発達段階・月別の題材の実習，手づくり楽器の製作，簡単な合奏等を行う。
学生の達成目標	1. 幼児期における音楽体験の重要性を理解する。 2. 子どもの歌のレパートリーを広げる。 3. 生活の中で子どもが音楽活動を楽しめるよう援助する手だてを身につける。 4. 子どもの前で自信をもって音楽表現できる。
授業内容	第1回　子どもの生活と音楽について 4月の教材曲と指導の方法(目標1,2) 第2回　発声の基礎 5月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第3回　6月の教材曲と指導の方法(目標2,3)

第4回	7月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第5回	9月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第6回	10月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第7回	11月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第8回	12月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第9回	1月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第10回	2月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第11回	3月の教材曲と指導の方法(目標2,3)※
第12回	から
第13回	までは,各回で担当を決め,弾き歌いによる模擬指導を行う。(目標4)
第14回	手づくり楽器の製作(目標3)
第15回	手づくり楽器を用いたアンサンブル(目標4)

予習・復習の内容	予習	・こどもの歌、幼児向け番組で歌われる曲などに関心を持つ。 ・発表に向けて準備・練習に取り組む。
	復習	・授業で扱った曲に親しみ、楽しく演奏する。
	展開	・実習・就職に向けてこどもの歌のレパートリーを広げる。 ・保育現場を想定し、さまざまな曲の活用法を考える。

成績評価	評価の基準	生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。
	評価の方法	弾き歌いの模擬指導（ 40%）手づくり楽器の製作（ 20%）器楽合奏の発表（ 20%）授業に対する取り組み（ 20%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』
	著者名	東　保
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,730円
	ISBN・ISSN	ISBN： 41162005

推薦図書等

参考URL

備考

弾き歌いによる模擬指導を行うため ,1年次で「保育の表現技術 Ｉ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
幼稚園・保育所等の現場を想定して授業を行います。
子どもの歌をたくさん覚えて，自分自身も楽しみながら人前で音楽表現できるように

なりましょう。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習 Ⅱ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT202
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1088201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子どもの歌，音楽遊び，指導法
授業のねらい・概要	保育内容演習 Ⅰ（音楽）での学習を発展させ，グループ発表・模擬指導等の演習を通して，子どもが音楽を楽しみ，表現できるよう援助するための指導法をより実践的に学ぶ。 既習曲を活用してリズム伴奏の編曲，簡単な音楽劇，手遊び・歌遊び等の実習と模擬指導を行う。
学生の達成目標	1. 手遊び・歌遊びのレパートリーを広げ,子どもと楽しもうとする意欲をもつ。 2. 生活の中で子どもが充実した音楽活動を楽しむために援助する手だてを身につける。 3. 子どもの前で自信をもって音楽表現できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ①(目標2) 第3回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ②(目標2) 第4回　既習曲に合わせたリズム伴奏のグループ発表(目標3)

	第5回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ①(目標2)
	第6回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ②(目標2)
	第7回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ③(目標2)
	第8回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 中間発表
	第9回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ④(目標2)
	第10回	音楽劇の発表(目標3)
	第11回	リズム遊び・手遊び・歌遊び等の実習と指導の方法(目標1,2)
	第12回	子どもの発達段階を考慮した指導の工夫(目標2)
	第13回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ①(目標1,2,3)
	第14回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ②(目標1,2,3)
	第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	・発表のための準備に取り組む。
	復習	・授業で扱った曲に親しみ、楽しんで演奏する。
	展開	・こどもの歌、手遊び等のレパートリーを広げる。 ・保育現場を想定し、レパートリー曲をどう活用するかを考え、仲間と情報を共有する。

成績評価	評価の基準	生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。
	評価の方法	音楽劇の発表（ 30%）リズム伴奏の発表（ 30%）歌遊び等の模擬指導（ 30%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』
	著者名	東　保
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,730円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4116200506

推薦図書等

参考URL

備考

１年次で「保育の表現技術 Ｉ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
グループ活動が多くなります。職場では１人で仕事をするのではありません。
他のメンバーと協力して作業する経験は現場で役立つはずです。
授業外での準備も必要になります。遅刻・欠席のないよう留意し，積極的に取り組ん

で下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習 Ⅰ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT203
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1089101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現・活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育や学校の教育現場で子どもの造形活動に関われるように，主として立体表現による制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する方法で展開する。 テーマに応じた材料，用具等の使用については，適宜個別的に支援する。制作後は発表会・鑑賞を実施し，制作した喜びを味わうとともに，作品をもとに子どもとの関わり方を考え他から学ぶ機会とする。
学生の達成目標	1. 教育現場での造形表現活動(立体表現)についての支援のあり方について具体的な制作を通して学ぶ。 2. 子どもたちに適切な支援をするために,造形教育に関わる基本と展開についての理解を深める。 3. 造形表現で扱う様々な材料に親しみ,正しい用具の使い方・安全指導について習得するとともに,子どもたちの造形表現の広がりを支えられるように,具体的な支援の手立てを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点など)・パペットアイデアスケッチ(目標1,2)

	第2回	ウレタンシートによるパペットの制作①(目標1,2,3)
	第3回	ウレタンシートによるパペットの制作i②(目標1,2,3)
	第4回	ウレタンシートによるパペットの制作③(目標1,2,3)
	第5回	ウレタンシートによるパペットの制作④(目標1,2,3)
	第6回	ウレタンシートによるパペットの制作⑤(目標1,2,3)
	第7回	ウレタンシートによるパペットの制作⑥目標1,2,3)
	第8回	粘土(陶土)を使った立体表現①(目標1,2,3)
	第9回	粘土(陶土)を使った立体表現②(目標1,2,3)
	第10回	粘土(陶土)を使った立体表現③(目標1,2,3)
	第11回	粘土(陶土)を使った立体表現④(目標1,2,3)
	第12回	粘土(陶土)を使った立体表現⑤(目標1,2,3)
	第13回	粘土(陶土)を使った立体表現⑥(目標1,2,3)
	第14回	人形劇の留意点についてゲストティーチャーによる演習・課題レポート ①② (目標2,3)
	第15回	発表会・課題レポート ③,まとめ・課題レポート ④(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	制作の準備をする
	復習	制作を進める レポートをまとめる
	展開	
成績評価	評価の基準	保育所や幼稚園，小学校などの教育現場における造形活動に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。授業内容をもとに子どもの造形活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形活動を支援できる技能を的確に持つことを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは特にない。 参考資料としてプリントなどを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・立体表現の実技中心の演習で ,小学校の図画工作科題材として適した内容も含める。	

・実技演習なので定員 35名程度で実施する予定。
・作品制作だけではなくレポートも重視する。
・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット，紙袋を用意すること。
・準備や後片付けも含めて計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。
・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。
・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。
・人形の操作や人形を使った子どもとの関わりについてゲストティーチャーによる演習を予定している。

保育内容演習 Ⅱ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT204
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1089201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現・活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育や学校の教育現場で子どもの造形活動に関われるように，主として平面表現による制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する方法で展開する。 テーマに応じた材料，用具等の使用については，適宜個別的に支援する。 制作後は発表会・鑑賞を実施し，制作した喜びを味わうとともに，作品をもとに子どもとの関わり方を考え他から学ぶ機会とする。
学生の達成目標	1. 教育現場での造形表現活動(平面表現)についての支援のあり方について具体的な制作を通して学ぶ。 2. 子どもたちに適切な支援をするために,造形教育に関わる基本と展開についての理解を深める。 3. 造形表現で扱う様々な材料に親しみ,正しい用具の使い方・安全指導について習得するとともに,子どもたちの造形表現の広がりを支えられるように,具体的な支援の手立てを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点,造形表現の基本と展開)(目標1,2)基本技法を学ぶ ①

	第2回	基本技法を学ぶ ②,スタンピング・ステンシルの活用(目標2,3) (目標2,3)
	第3回	基本技法を学ぶ ③,構成の活用(目標2,3)・課題レポート① (目標2,3)
	第4回	お話・物語の絵～絵画表現 ①…読書感想画制作 (目標1,2,3)
	第5回	お話・物語の絵～絵画表現② …読書感想画制作(目標1,2,3)
	第6回	お話・物語の絵～絵画表現③ …読書感想画制作(目標1,2,3)
	第7回	お話・物語の絵～絵画表現④ …読書感想画制作(目標1,2,3)
	第8回	お話・物語の絵～絵画表現⑤ …読書感想画制作(目標1,2,3)
	第9回	お話・物語の絵～絵画表現⑥ …読書感想画制作(目標1,2,3)
	第10回	お話・物語の絵～絵画表現 …読書感想画制作・発表会・課題レポート ②(目標1,2,3)
	第11回	選択課題①～条件に沿った素材を活かしたおもちゃ作り (目標1,2,3)
	第12回	選択課題②～ (目標1,2,3)
	第13回	選択課題③～ (目標1,2,3)
	第14回	選択課題～課題レポート ③ (目標1,2,3)
	第15回	まとめ～発表会・課題レポート ④(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	課題制作を進める
	復習	課題レポートをまとめる
	展開	自分の計画に沿って画材、材料を集め、吟味、選択、活用してよりよい制作ができるようにする。
成績評価	評価の基準	保育所や幼稚園，小学校などの教育現場における造形活動に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。授業内容をもとに子どもの造形活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形活動を支援できる技能を的確に持つことを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは特にない。参考資料としてプリントなどを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	・平面表現の実技中心の演習で，小学校の図画工作科題材として適した内容も含める。 ・実技演習なので定員 35名程度で実施する予定。 ・作品制作だけではなくレポートも重視する。 ・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット，紙袋を用意すること。 ・準備や後片付けも含めて計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。 ・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。 ・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。

保育内容演習 Ⅰ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT205
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1090101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，表現
授業のねらい・概要	保育内容「表現」の中の身体活動表現，及び「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性を理解すること。 2. 運動及び運動遊びの具体的な内容を修得し，発展的にアレンジする能力を身につけること。 3. 学校あるいは保育所等の現場で，自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～3) 第2回　幼児における運動の意義(目標1) 第3回　運動の分類(目標1) 第4回　リズム運動(1)(目標2)

	第5回	リズム運動(2)(目標2)
	第6回	リズム運動(3)(目標2)
	第7回	リズム運動(4)(目標3)
	第8回	リズム運動(5)(目標3)
	第9回	リズム運動(6)(目標3)
	第10回	器械運動遊び(1)(目標2)
	第11回	器械運動遊び(2)(目標2)
	第12回	器械運動遊び(3)(目標3)
	第13回	器械運動遊び(4)(目標3)
	第14回	道具を使わない遊び(1)(目標3)
	第15回	道具を使わない遊び(2)(目標3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 運動課題ができるように練習をすること。 グループ発表の際には，グループごとに発表内容を立案，練習すること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を，提出物にて評価する。 授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。 授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。
	評価の方法	提出物の内容 30%，発表課題の準備と内容 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１～３回目は講義室にて実施する。 集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。	

保育内容演習Ⅱ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT206
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1090201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，伝承遊び
授業のねらい・概要	保育内容「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。教育・保育現場において，自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 運動及び運動遊びの技術を修得すること。 2. 運動及び運動遊びの指導内容・指導技術を修得し,発展的にアレンジする能力を身につけること。 3. 学校あるいは保育所等の現場で,自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～3) 第2回　ボール遊び(1)(目標1) 第3回　ボール遊び(2)(目標1) 第4回　ボール遊び(3)(目標1～3) 第5回　ボール遊び(4)(目標1～3)

	第6回	ボール遊び(5)(目標1～3)
	第7回	道具を使った伝承遊び(1)(目標1)
	第8回	道具を使った伝承遊び(2)(目標1)
	第9回	道具を使った伝承遊び(3)(目標1,2)
	第10回	道具を使った伝承遊び(4)(目標1,2)
	第11回	活動の立案と運営(1)(目標2,3)
	第12回	活動の立案と運営(2)(目標2,3)
	第13回	活動の立案と運営(3)(目標2,3)
	第14回	活動の立案と運営(4)(目標2,3)
	第15回	活動の立案と運営(5)(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 運動課題ができるように練習をすること。 グループ発表の際には，グループごとに発表内容を立案，練習すること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を，提出物にて評価する。授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。
	評価の方法	提出物の内容30%，発表課題の準備と内容40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，Ｔシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。 保育内容演習Ｉ（体育）を履修していることが望ましい。	

幼児理解の理論と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT207
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	大木　みわ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1091001（水曜日3時限）,A1091002（水曜日3時限／3・4年）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育臨床，遊戯療法，子ども理解の方法
授業のねらい・概要	子ども理解の方法を学び，子どもの行動を多角的にとらえ，支援できる実践者をめざす。
学生の達成目標	1.　子ども理解の姿勢の検討。 2.　子ども理解の方法を知る。 3.　事例を通して理解と支援の実際を学ぶ。
授業内容	第1回　保育という臨床の場『子どもからのSOS』(目標1) 第2回　「わたし」とはなんだろう。(目標1) 第3回　絵本「わたしの帽子」を読む。(目標1) 第4回　カウンセリングマインドと保育臨床「遊戯療法」の基本原理(目標2) 第5回　箱庭療法に見えてくる子どもの世界(目標2) 第6回　コラージュを作成(目標2)

	第7回	描画療法。MSSMを体験する。(目標2)
	第8回	子どもの理解の様々な方法-ロールプレイング(目標2)
	第9回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第10回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第11回	関係のゆがみと回復-『いじめ』(目標3)
	第12回	関係のゆがみと回復-『登園拒否』(目標3)
	第13回	保育記録(目標3)
	第14回	保育記録(目標3)
	第15回	統合保育(目標1)
予習・復習の内容	予習	次回学習予定の分野について，複数のキーワードを示し，予習するよう求める。予習で理解したキーワードについて，授業終了時に提出。
	復習	毎回，授業のまとめ（要点）と振り返りを書いて提出する，合わせて予習したキーワードについて報告する。
	展開	
成績評価	評価の基準	出席。毎回の提出物を評価する。
	評価の方法	実習で欠けた分は，指定されたレポートで補う。〔出席60%，レポート20%，試験20%〕
教科書	書籍名	子ども理解とカウンセリングマインド
	著者名	青木，間藤，河邉著
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児保育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET221
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児保育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1092001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児保育相談，幼児理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題
授業のねらい・概要	幼児一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教諭として，幼児および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 グループを構成しロールプレイを行うなど，体験学習を多く取り入れる。併せて関係機関との連携のありかたについての理解を深める。
学生の達成目標	1. カウンセリングの意義や諸理論について理解する。 2. カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法について学ぶ。 3. 幼児理解の方法について知る。 4. 今日的な問題行動(虐待・発達障害など)とその対応について理解する。 5. 関係機関や,保護者との連携について理解する。
授業内容	第1回　幼児保育相談とは 保護者の子育て不安とその背景　(目標1) 第2回　カウンセリングマインドについて（目標２）

	第3回	幼児理解の方法1 子どもが出会う幼児期の問題　(目標3)
	第4回	幼児理解の方法2 子どもが出会う幼児期の問題　(目標3)
	第5回	子どもに関する相談のありかたと方法 Ⅰ 面接の態度・技法　(目標2)
	第6回	子どもに関する相談のあり方と方法 Ⅱ 留意点・ロールプレイによる相談体験　(目標2)
	第7回	幼児の行動から対応を考えるⅠ 幼児との関係作り　(目標2)
	第8回	幼児の行動から対応を考えるⅡ 幼児との関係作り　(目標3)
	第9回	アセスメントについて 　発達検査　(目標3)
	第10回	アセスメントについて　(目標4) 　子どもの描く絵から
	第11回	発達障害のある子をもつ保護者理解　(目標４・５)
	第12回	虐待の発見と対応　(目標4)
	第13回	幼児保育に見られるカウンセリングの実際 　登園拒否・緘黙　(目標4)
	第14回	現場における乳幼児相談の実際（目標５） 　保健センター相談員による講和
	第15回	より効果的な相談にするために(連携・体制)(目標5)
予習・復習の内容	予習	・乳幼児の心身の発達について日ごろから関心を持ち知識を得ておくこと ・事前に指示する内容について調べ、発表できるようにすること。 ・乳幼児に関する最新の図書や新聞の記事に関心をもち、そのことについての自分なりの考えを述べることができるようにすること。
	復習	・学習した内容の範囲の教科書を読んでおくこと。 ・指示されたレポートの課題を期限までに提出すること。 ・興味を持った内容についてさらに調べ、知識を深めること。
	展開	・子どもの映像を見て指導法を話し合う時など、積極的に自分の考えを述べること。 ・子どもの心性にもどって考えること。 ・「相談」の意味を問い続けて15回の授業を受けること
成績評価	評価の基準	保育相談の基礎知識と基本的技術，態度が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	受講態度 20%，レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

書籍名	幼児保育とカウンセリングマインド
著者名	氏原　寛・東山紘久
出版社	ミネルバ書房
価格	2 ,600円
ISBN・ISSN	ISBN： 4 -623-02493-8

推薦図書等

参考URL

備考

幼稚園教育実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP301
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習 Ⅰ
科目責任者	木下　勝世
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1094001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼児教育者としての将来に展望を持ち，専門職としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。 幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。
学生の達成目標	1.　幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.　これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.　教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	1　実習時期 （1）前期実習・・・６月に１週間（目標1）

（2）後期実習・・・１０月～１１月に３週間
（目標2）
前後期とも同一園で実習する。
2　実習の内容
（1）見学と観察（目標1）
（2）保育への参加と指導補助（目標1）
（3）部分実習（目標2）
（4）責任実習（目標２）
前期実習においては（1）（2）を主とする。
後期実習においては（１）～（4）をすべて行い
指導案を作成して精錬実習を行う。
3　勤務・指導
（1）実習は園長及び園長の指定する担当指導教諭の指導によって行う。（目標1.2）
（2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2）
4　報告・記録
（1）実習勤務簿に押印し、勤務状況を記録する。（目標3）
（2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。（目標3）
（3）実習評価表により、園長及び指導担当教諭の評価を受ける。（目標3）

予習・復習の内容

予習　翌日の保育について計画し、準備する。
部分実習や精錬授業の指導案を作成し、指導を受け、準備する。

復習　その日の保育を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。

展開　幼稚園教育の現状と課題について、関心をもち調べる。
自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。

成績評価

評価の基準　前期実習と後期実習をあわせて評価する。
実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。
学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。

評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。
両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布）
実習記録簿（同上）
実習関係資料（同上）

推薦図書等

参考URL

備考

大学が定める実習履修要件を満たしていること。
同時に「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。
実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。

幼稚園教育実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP401
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習 Ⅱ
科目責任者	木下　勝世
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1094101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼稚園教育の実際を理解し，教員としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。 幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。
学生の達成目標	1.　幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.　これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.　教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	1　実習期間１０月に２週間の実習を行う（目標　　1.2.3） 2　実習の内容

（１）見学と観察（目標1）
（２）保育への参加と指導補助（目標1）
（３）部分実習（目標1.2）
（４）責任実習（目標1.2）
指導案を作成して精錬実習を行う。
3　勤務・指導
（1）実習は園長及び園長の指定する指導担当教諭の指導によって行う。（目標1.2）
（2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2）
4　報告・記録
（1）実習記録簿に押印し、勤務状況を記録する。（目標3）
（2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。（目標3）
（3）実習評価表により、園長及び指導担当教諭の評価を受ける。（目標3）

予習・復習の内容

予習	翌日の保育の予定を確かめ、教材等の準備をする。 部分実習・精錬実習について、指導案を立案する。
復習	その日の保育活動を振り返り所定の日誌に記録する。
展開	幼稚園き養育の現状と課題に関心をもち、調べる。 自己を振り返り幼稚園教師としての適正、資質について吟味し、研さんする。

成績評価

評価の基準	実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。
評価の方法	実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布）
実習記録簿（同上）
実習関係資料（同上）

推薦図書等

参考URL

備考

大学が定める実習履修要件を満たしていること。

幼稚園教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP201
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習事前事後指導
科目責任者	木下　勝世
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1095001,A1095002
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園実習の意義や必要性を理解し，実習が十分な成果を納められるように準備する。 幼稚園実習終了後に，実習で体験し学んだことを整理して確認し，今後の学習につなげる。
学生の達成目標	1. 幼稚園教育の実際の場に入るにあたって,責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	第1回　実習の目的と概要 幼稚園と幼稚園教諭の職務(目標1)

	第2回	幼稚園実習の心構え(目標1)幼稚園実習の内容と準備の歩み(目標2)
	第3回	記録簿その他実習関係書類作成について(目標2)
	第4回	記録簿その他実習関係書類作成の実際(目標2)
	第5回	幼稚園の実際・幼稚園の1日(目標2)
	第6回	実習記録簿の書き方について(目標3)
	第7回	実習記録簿の書き方の実際(目標3)
	第8回	事前訪問の仕方と注意(目標2)
	第9回	参観実習の計画と内容(目標3)
	第10回	参観実習の仕方と注意(目標2)
	第11回	実習中の諸注意(目標2)-実習
	第12回	実習のまとめ(報告会)(目標4)
	第13回	実習のまとめ(礼状・記録等整理)(目標4)
	第14回	実習のまとめ(個別指導)(目標4)
		3年次(4月～7月)
	第15回	後期実習の意味と実習までの歩み
予習・復習の内容	予習	幼稚園教育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。 また疑問点などをまとめておく。 実習先幼稚園について、インターネット等で調べる。
	復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。
	展開	幼稚園教諭としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布） 実習記録簿（同左） 実習関係資料（同左）	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

小学校教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP201
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育参観実習
科目責任者	小林　敢治郎 佐藤　文子 桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1096001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校の教育活動，授業の見方，子どもの姿
授業のねらい・概要	現場において授業をはじめとする教育の諸活動がどのように行われているかを参観したり，教師より現場の話をきいたりして視野を広め，今後の大学での授業に役立てるとともに，本実習に向けて心構え等を育成する。
学生の達成目標	1.　実習に対する心構え,マナーを身に付けることができる。 2.　学校の教育諸活動のあらましが分かる。 3.　教師の授業への取り組み方,子どもの活動の様子が分かる。
授業内容	第１回　参観授業の事前指導 ……実習の心構え(目標1) 第２回　参観授業の事前指導 ……授業の見方,記録のとり方(目標1)

第３回～４回　(目標2,目標3)
学校参観 A校 と B校 ・学校長の話(学校紹介)
・教務主任の話 ……教育課程 授業展開のオリエンテーション
・授業参観
・授業の事後指導 ……授業その他についての自由討議

第５回　参観授業事後指導 ……レポート提出(目標1)

予習・復習の内容	予習	参観実習の事前指導には必ず出て、そこでの参観の仕方、学校内での行動とうについての注意事項を守るように心がけること。
	復習	早めに記録を整理し、事後指導に備える。事後指導の後には、参観での体験をもとに、大学の授業に臨むようにする。
	展開	
成績評価	評価の基準	学校の教育活動に関心をもって参加しているか，参観態度はまじめであったか，授業の様子等をつかむことができたかを合格基準とする。
	評価の方法	参観の態度（ 50%）参観記録・レポート（ 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書はない。学校案内の資料等を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小学校の免許取得希望者は進んで参加することが望ましい。	

小学校教育実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP301
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習 Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 貫井　正納 野口　芳宏
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1097001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，現場，社会，規範，自覚，適正
授業のねらい・概要	百聞は一見に如かずの諺の通り，実習によって教職の尊さ，厳しさ，楽しさを知り自分の道に目覚める学生も多い。 実習では多くのことを学ぶが，学級担任の役割，教授活動の目的と評価，学級経営の概念，カリキュラムの理解と授業実践，発達と学習指導，児童の精神衛生の保持等今日的課題について教師になる基礎を学ぶ。 児童の実態把握，学年・学級経営把握，教科領域別共同実習，精錬・総合実習の過程を経る中で，社会人として生活する「生活のリズム」を身をもって学び，時間を大切にする意識が重要な鍵となる。
学生の達成目標	1.　大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもてる。

2. 教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。

3. 教育者としての自覚を深め責任ある行動をとれるようになる。

4. 教育現場における様々な人間関係を体験し共に生きる理念の大切さを理解する。

5. 自らの教職に関する職能や適正を省みて今後の進路について明らかな見通しを持つ。

授業内容		
予習・復習の内容	予習	実習の手引きをよく読み、事前の準備をしておくこと。 実習の事前指導を思い起こし、心の備えもしておくこと。
	復習	記録簿は早めにを整理し、反省を加えておくこと。 手引きを見て事後の手続等をきちんとすること。
	展開	
成績評価	評価の基準	休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度が身に付いたか。
	評価の方法	実習記録簿　諸帳簿の提出　挨拶　報告・礼状の提出
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 実習のノート（手引き）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	実習生には緊張の連続である。 ４週間の勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。	

小学校教育実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP302
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習 Ⅱ
科目責任者	小林　敢治郎 佐藤　文子 桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1097101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，社会，規範，自覚，適正
授業のねらい・概要	実習は自らが学んだ小学校の頃を思い出し，そこに自分の教育の原点を発見することである。 実習によって教職の尊さ，厳しさ，楽しさを知り自分の道に目覚める学生が多いのはそのためである。 実習では多くのことを学ぶ。例えば，学級担任の役割，教授活動の目的と評価，学級経営の概念，カリキュラムの理解と授業実践，発達と学習指導，児童の精神衛生の保持等多義にわたる。 児童の実態把握，学年・学級経営把握，教科領域別共同実習，総合実習の過程を経る中で，社会人として生活する「生活リズム」を身につけ，実習全体を通して「時は金なり」の自覚が重要な鍵となる。
学生の達成目標	1.　大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもてる。

2. 教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。

3. 教育者としての自覚を深め責任ある行動をとれるようになる。

4. 教育現場における様々な人間関係を体験し共に生きる理念の大切さを理解する。

5. 自らの教職に関する職能や適正を省みて今後の進路について明らかな見通しを持つ。

授業内容

予習・復習の内容

予習	実習記録簿をよく読み、実習校に合わせて対処できるように準備をしておく。 事前指導の内容を復讐し、心の備えもしておく。
復習	早めに記録簿を整理し反省を加えておく。 事後指導に向けて実習にあった事柄を感想もまじえて整理しておく。
展開	

成績評価

評価の基準	休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度を身に付けたか。
評価の方法	実習記録簿　諸帳簿の提出　挨拶　報告・礼状の提出

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

実習のノート（手引き）

推薦図書等

参考URL

備考

実習生には緊張の連続である，４週間の勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。
事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。
規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。
気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。

小学校教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP202
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習事前事後指導
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1098001（前期）,A1098002（後期）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校教育活動，実習，児童，小学校教諭
授業のねらい・概要	事前指導は，小学校での実習の意義をとらえ，その心構えを持つとともに，実習に際して必要なことがらを確実に身に付けられるようにする。 事後指導は，実習で学んだものを振り返って整理し，今後の学校教育や教師の課題を認識し，その後の大学の教育を充実したものにできるようにする。
学生の達成目標	1. 小学校実習に対する心構えをもち,学校生活の概要をとらえ,実習の内容を理解できる。 2. 小学校の授業の準備の仕方等,諸々の現場の教育活動への備えができる。 3. 小学校教師としての将来の希望をもち,教育現場での実践に意欲的に取り組もうとするなることができる。態度を身につけることができる。

授業内容	第1回	ガイダンス・事前指導の意義・実習の目的等(目標1)
	第2回	小学校の教師のあり方・心構え授業と子供への対応(目標1)
	第3回	学校の教育活動について(目標1)
	第4回	教科等の実践上の指導(指導案の書き方等)国語 算数 理科(社会)音楽(目標2)
	第5回	教科等の実践上の指導(指導案の書き方等)図工 家庭(体育)道徳 生活(目標2)
	第6回	直前指導 服務等について,事前訪問の注意 記録簿の書き方(目標2)挨拶,打ち合わせ
		〈事後指導〉
	第7回	教育実習の整理,記録簿提出 …体験発表会(目標3)
	第8回	実習学校行事の参加 …教育実習のまとめと今後の学習への活かし方(目標3)
予習・復習の内容	予習	実習について日常から関心を持ち、先輩の話を聞くなどして現場の様子を知る努力をする。 実習の手引きをもとに毎回の該当箇所をよく読み下調べをしておく。
	復習	毎回の授業のまとめを実習の手引きに照らし合わせてメモしておく。 実習の事後指導の後にも、実習体験を生かして講義等に臨むこと
	展開	実習の事前指導をしっかりして準備しておくことが本実習の成果を左右する。 実習の事後指導で自己を見つめなおし、今後の進路のあり方を定め、自己改善につなげていく。
成績評価	評価の基準	小学校教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，実習を終えてその成果をまとめることができるか評価する。
	評価の方法	記録簿，レポート等の内容で評価する。 学習への取り組み方も加味する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。実習の手引き，実習記録簿を用いる。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小学校参観実習を終えていること	

介護等体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP207
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	介護等体験実習
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 加藤　悦子 宮下　裕一
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1099001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，高齢者，特別支援学校，社会福祉施設，介護，介助
授業のねらい・概要	障害者，高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために，社会福祉施設や特別支援学校における支援内容，方法について考え，実践的体験を通して，教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。 社会福祉施設や特別支援学校での介護体験がより良く行えるよう，実習の意義や必要性についての理解を深める。
学生の達成目標	1.　障害者,高齢者等に対する介護・介助及び交流等の体験を行う。 2.　社会福祉施設職員や特別支援学校教職員の一般的役割について理解する。
授業内容	事前指導：　①教員免許特例法と今後の手続き及び申込書類等の書き方について 事前指導：　②申込書類等の作成及び特別支援学校のガイダンス（目標２） 事前指導：　③「介護等体験学生プロフィール」の作成及び社会福祉施設のガイダン

ス（目標２）

事前指導後，受け入れ日程に沿って「介護等体験実習」を開始

特別支援学校（２日間） 社会福祉施設（５日間）
実習方法 ・実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける（目標２）
・実習先の指導計画に従って実習をする（目標１，２）
・障害者・高齢者等とのコミュニケーションを積極的にとる。（目標１，２）
・障害者・高齢者等との日常生活支援（介護・介助）を体験する。（目標１，２）
・体験記録を毎回作成し，提出後に指導を受ける。（目標２）

事後指導： ①学生による体験発表（目標２）
事後指導： ②学生による体験発表と総まとめの講義（目標２）

予習・復習の内容

予習 特別支援学校や社会福祉施設に関心を持ち，実習の手引きをよく読み、障害者・高齢者への基礎的な支援内容，方法について予備知識をもっていくこと。

復習 その日の活動を記録にとどめ反省を加え、次回の活動に備えること。

展開 障害者・高齢者に寄り添って考え、特別支援学校や社会福祉施設にの基礎的な支援内容，方法について理解を深める。

成績評価

評価の基準 特別支援学校や社会福祉施設における，障害者・高齢者への基礎的な支援内容，方法が理解できていることを合格基準とする。

評価の方法 事前・事後及び体験実習の出席状況・参加の姿勢を考慮し，体験実習先指導者の評価及び実習記録等で評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

小学校及び特別支援学校教育実習の手引き介護等体験ガイドブック　全国特別支援学校長編書　ジアース教育新社

推薦図書等

参考URL

備考

注意事項
小学校教諭免許状の取得には必修であるが，特別支援学校教諭免許状を取得する場合は履修は不要である。

情報機器演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET222
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	情報機器演習 Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1100001（月曜日5時限）,A1100002（火曜日4時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク， LAN，ホームページ，セキュリティ，情報管理
授業のねらい・概要	情報の概念，および，ハードウェアとソフトウェアについて，基本的な知識を学習し，コンピュータ技術の歴史，情報処理・伝達の仕組みを理解する。また， WWWにおける情報伝達手法や，インターネット上のサービスの背景にある技術的知識を学習する。 さらに，教育現場に必要とされる技術と知識について習得すると同時に，将来の教育従事者として知っておくべき情報管理スキルを身につける。
学生の達成目標	1. コンピュータやインターネットにおける情報のやりとりの概要を説明できるようになる。 2. ハードウェア・ソフトウェアの概要と適切な扱い方を学習する。 3. インターネット, WWWの仕組みを理解し,情報の発信・受信に利用できるようになる。 4. 教育現場におけるコンピュータ関連技術の適切な利用法を身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　コンピュータの歴史 情報処理技術の変遷 (目標1)

第3回	デジタルデータ デジタルの概念,データの扱い方 (目標1)
第4回	ハードウェアとソフトウェア 記憶装置, OS,アプリケーション (目標2)
第5回	ネットワーク(1) ネットワークの基本概念 (目標3)
第6回	ネットワーク(2) ネットワークを用いた情報管理 (目標3)
第7回	情報セキュリティ セキュリティ概念,情報を守るための技術
第8回	学校教育におけるネットワーク 学内 LAN,管理者概念 (目標3,4)
第9回	情報資源の管理と利用(1) 情報の価値,データベース (目標2)
第10回	情報資源の管理と利用(2) 情報の複製 (目標2)
第11回	情報資源の管理と利用(3) 個人情報保護,法的側面 (目標4)
第12回	教材利用と著作権 フェアユースの概念, e-learning
第13回	教育と ICT(1) 技術の発展,事例紹介
第14回	教育と ICT(2) 教育上のニーズと利用方法の多様性 (目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）ができるようにしておいてください。
	復習	前回までの知識を前提として授業のトピックを設定しますので、授業で登場したシステム等の名称でわからないものがあるときは、必ず調べて理解しておいてください。
	展開	さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。

成績評価	評価の基準	この授業は演習です。上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	情報倫理入門
	著者名	江口聡,喜多千草,永崎研宣,村上祐子,坪井雅史,川口嘉奈子,吉永敦征,谷川卓,土屋俊,大谷卓史,川口由起子
	出版社	アイケイコーポレーション
	価格	2730
	ISBN・ISSN	978-4874922736

参考URL	
備考	大学にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。

必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ｉを履修していることが望ましいです。
授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。

情報機器演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET223
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	情報機器演習 Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1101001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，高度情報化社会，情報共有，情報倫理
授業のねらい・概要	情報機器演習 Ｉでの学習をふまえ，高度情報化社会に自信を持って対応できるようにする。 現在利用可能な技術やサービスの演習課題を通して，コンピュータ，インターネットの社会的役割を体得する。 さらにコンピュータ・ネットワークを活用するために，ネットワーク接続技術，および，サーバへのデータのアップロード・ダウンロード手法を学習する。 これらの知識にもとづき，現在あるいは将来的に発生する情報倫理的問題に適切に対処するための方法論を身につける。
学生の達成目標	1. コンピュータに関連する情報技術の発展の概要を学び,その社会的影響を説明できるようになる。 2. ネットワーク接続の基本的な知識を身につける。 3. ネットワークを用いたデータのアップロード・ダウンロードが適切に行えるようになる。 4. 情報技術および情報倫理に関する問題に対して自分の主張を行えるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション コンピュータ,ネットワーク技術の概要(目標1)
	第2回	高度情報化社会とネットワーク ネットワーク利用の事例(目標2)
	第3回	コンピュータとインターネットの社会的役割(1) 現在利用されている技術(目標1)
	第4回	コンピュータとインターネットの社会的役割(2) 未来に実現する技術(目標1)
	第5回	コンピュータとインターネットの社会的役割(3) 身近な技術を体験する(目標3)
	第6回	無線ネットワーク 概説,活用事例の紹介(目標2)
	第7回	ネットワークにおける情報共有 プリンタ,オンラインディスク(目標2,3)
	第8回	ネットワークを用いたデータの扱い ダウンロード,アップロード(目標2,3)
	第9回	インターネットコミュニティ(1) 概要:利用目的,技術について(目標1)
	第10回	インターネットコミュニティ(2) 演習:コミュニティに参加する(目標1)
	第11回	インターネットコミュニティ(3) 問題事例の考察(目標4)
	第12回	情報倫理的問題とともに暮らす(1) 利用者として:情報源の権威と信頼性(目標4)
	第13回	情報倫理的問題とともに暮らす(2) 発信者として:ブログ,電子掲示板における問題 (目標4)
	第14回	情報倫理的問題とともに暮らす(3) 市民として:検閲,フィルタ(目標4)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）ができるようにしておいてください。
	復習	前回までの知識を前提として授業のトピックを設定しますので、授業で登場したシステム等の名称でわからないものがあるときは、必ず調べて理解しておいてください。
	展開	さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準	この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	情報倫理入門
	著者名	江口聡,喜多千草,永崎研宣,村上祐子,坪井雅史,川口嘉奈子, 吉永敦征,谷川卓,土屋俊,大谷卓史,川口由起子
	出版社	アイケイコーポレーション
	価格	2730
	ISBN・ISSN	978-4874922736

参考URL	
備考	大学にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ⅰ・ Ⅱ，および，情報機器演習 Ⅰを履修していることが望ましいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。

教職実践演習（小学校）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校）
科目責任者	村上　悦子
担当教員	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102102
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自らの課題　教師の資質向上　学校組織と学級経営　保護者対応
授業のねらい・概要	現代の教育課題は多岐に渡っている。 これまでに習得した知識や情報をもとに，将来教員になるうえで自己の課題は何のかを明らかにし，テーマを設定する。 その前提となるのは３年次の教育実習であり，学校ボランティア活動である。自分自身を客観的に洞察し、教師として自信と意欲をもって教職に就けるようにすることをねらいとする。
学生の達成目標	1.　多くの教育課題の中で,自らの課題は何かについて焦点を絞ることができる。(目標1) 2.　テーマを設定し,自ら追求し学習を深めることができる。(目標2) 3.　課題として学んだことを踏まえ、教育現場で生かすための最終報告をまとめることができる。(目標３)
授業内容	第1回　オリエンテーション（授業のねらい、事前の自己診断、ポートフォリオ作成について説明）

	第2回	各自の課題からテーマを絞り込む(目標1) ① 使命感や責任感,教育的愛情等に関する事項 ② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 児童理解や学級経営等に関する事項 ④ 教科等の指導力に関する事項 ⑤ その他 （目標１）
	第3回	教育実習やボランティア活動等の経験から「求められる教師の資質・能力」「学校組織と機能」等についてレポートを作成する。 （目標１）
	第4回	前回のレポートをもとに自己の考えを発表し討論する。（目標２）
	第5回	子どもとの出会い（学級開き）（目標２）
	第6回	「保護者との対応」「クレーム対応」（目標２）
	第7回	教師が持つべき教科授業の諸問題・模擬授業 （目標２）
	第8回	教師が持つべき教科授業の諸問題・模擬授業 （目標２）
	第9回	教師が持つべき教科授業の諸問題・模擬授業 （目標２）
	第10回	教師が持つべき道徳授業の諸問題・模擬授業 （目標２）
	第11回	授業中に問題となる児童への対応（目標２）
	第12回	指導と評価の一体化　評価法の実践（目標２）
	第13回	対人関係理解と教師の対応（目標２）
	第14回	災害時における安全マニュアル、教科における安全指導（目標２）
	第15回	最終報告・評価・まとめ(目標３)
予習・復習の内容	予習	自己の課題に関わる書籍を読む。 模擬授業の準備やリハーサルをする。 レポート作成のための情報を収集する。
	復習	ポートフォリオを活用し絶えず自己の行為について振り返りを行う。 模擬授業を行ったことで見えた課題を整理する。
	展開	ポートフォリオを作成し演習と評価に生かす。 自らの考えと他者の意見を比較検討し、より良い考えを導き出す。 模擬授業を取り入れ、実践力を養う。
成績評価	評価の基準	自らの課題を明らかにすることで，テーマを設定できたか。 自分自身の生き方と関連させて，自らの教育課題を追求することができたか。
	評価の方法	発表レポート（６0%）　授業参加態度・課題追求の姿勢（４0%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし
推薦図書等	
参考URL	
備考	学びのコンパス、教育実習ノートを毎回持参する。

教職実践演習（特別支援教育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（特別支援教育）
科目責任者	藤田　俊明
担当教員	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102105
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己評価　実践的理解　教師の職務　教師としての技量
授業のねらい・概要	これまで積み重ねてきた学習についての実績や教育実習等での体験を自己評価し、不足している課題を解決する。特別支援学校・特別支援学級で教師が担う具体的な内容について、実際の教師の職務を想定した実践的な演習を通して、教師になるための技量を身につける。
学生の達成目標	1. 特別支援教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って自己の職務を果たすことができる。 2. 教員としての自覚を持ち,障害のある子どもに寄り添い、子どもの自立と社会参加のために必要な状況を、教職員と協力して作ることができる。 3. 個々の障害の状況を理解し、本人・保護者との信頼関係を高め、課題に適切に対応できる。 4. 特別支援学校学習指導要領及び解説書に則し、指導のあり方、指導技術を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション（演習の趣旨を理解し、４年間の学習を振り返り、自己の課題を確認する）
	第2回	子ども理解（子どもの見方・授業・記録の取り方）
	第3回	子ども理解と対応（心理検査の実際と活用）
	第4回	子ども理解と対応（心理検査の実際と活用）
	第5回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した環境設定・子どもの動線の整理）
	第6回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した発達段階の異なる小集団の指導・チームティーチングのあり方、「学級経営案」とのつながり）
	第7回	授業を作る①（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り）
	第8回	授業を作る②（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り）
	第9回	授業を作る③（模擬授業を通して：評価・教師の役割）
	第10回	授業を作る④（模擬授業を通して：教育課程の理解・「個別の指導計画」とのつながり）
	第11回	校内・校外での連携（他学部・他機関との移行時連携：自立に向けての視点）
	第12回	校内・校外での連携（コーディネーター・他機関との連携：教育相談的視点）
	第13回	保護者との連携（面談・学級だより・連絡帳・「個別の指導計画」などを通して）
	第14回	子どもたちの安全と学校の危機対応（事故、人権、個人情報）
	第15回	子どもに出会う前の準備とは 望ましい教師像（自己評価と今後の課題の認識、目標申告とのつながり）
予習・復習の内容	予習	自分自身の教育実習・たまごプロジェクト等の経験を、毎回のテーマに沿って振り返りまとめる。課題については図書、HP等で調べる。
	復習	各回ごとに、自分の課題と照合して、新たに修得できた点をまとめる。
	展開	関連図書などにより、各回のテーマを掘り下げて、まとめる。
成績評価	評価の基準	自己の課題を明確にでき、課題解決に向け努力し、技量を修得できたかを評価する。
	評価の方法	発表・模擬授業・討議への参加：５０％ レポート：５０％

教科書

書籍名	＜特別支援教育＞個別の指導計画を生かした学習指導案づくり
著者名	宮崎英憲監修　是枝喜代治編著

出版社	明治図書
価格	2660円
ISBN・ISSN	

書籍名	特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させる基本スキル
著者名	甲本卓司・大恵信昭編著
出版社	明治図書
価格	2260円
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

教職実践演習（特別支援教育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（特別支援教育）
科目責任者	桑田　良子
担当教員	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102104
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己評価　実践的修得　教師の職務　教師としての技量
授業のねらい・概要	これまで積み重ねてきた学習についての実績や教育実習等での体験を自己評価し、不足している課題を解決する。特別支援学校。特別支援学級で教師が担う具体的な職務について、実際の教師の職務を想定した実践的な演習を通して、教師になるための技量を身につける。
学生の達成目標	1. 特別支援教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って自己の職務を果たすことができる。 2. 教員としての自覚を持ち、障害のある子どもに寄り添い、子どもの自立と社会参加のために必要な状況を、教職員と協力して作ることができる。 3. 個々の障害の状況を理解し、本人・保護者との信頼関係を高め、子どもの抱える課題に適切に対応できる。 4. 特別支援学校学習指導要領及び解説書に則し、特別支援教育の基本を踏まえた指導のあり方、指導技術を、実際の教師としての生活を想定しながら、身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション（演習の趣旨を理解し、４年間の学習を振り返り、自己の課題を確認する）
	第2回	ソーシャルスキル指導についてⅠ（目標４） 体の動きから理解する
	第3回	ソーシャルスキル指導についてⅡ（目標4） コミュニケーション指導
	第4回	子ども理解と対応（目標３）
	第5回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した環境設定・子どもの動線の整理など）
	第6回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した発達段階の異なる小集団の指導・ティームティーチングのあり方・「学級経営案」とのつながり）
	第7回	授業を作る①（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り）
	第8回	授業を作る②（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り）
	第9回	授業を作る③（模擬授業を通して：評価・教師の役割）
	第10回	授業を作る④（模擬授業を通して：教育課程の理解・「個別の指導計画」とのつながり）
	第11回	校内・校外の連携（他学部・他機関との移行時連携：自立に向けての視点）
	第12回	校内・校外の連携（特別支援教育コーディネーター・他機関との連携：教育相談的視点）
	第13回	保護者との連携（面談・学級だより・連絡帳・「個別の指導計画」などを通して）
	第14回	子どもたちの安全と学校の危機対応（事故、人権、個人情報）
	第15回	子どもに出会う前の準備 望ましい教師像（自己評価と今後の課題の認識、目標申告とのつながり）
予習・復習の内容	予習	教育実習・たまごプロジェクト等の経験を、毎回のテーマに沿って振り返り、まとめる。課題については、図書、ＨＰ等で調べる。
	復習	各回ごとに、自己の課題と照合して、新たに修得できた点をまとめる。
	展開	関連図書などにより、各回のテーマを掘り下げてまとめる。
成績評価	評価の基準	自己の課題を明確にでき、課題解決に向け努力し、技量を修得できたかを評価する。
	評価の方法	発表・模擬授業・討議への参加：５０％ レポート：５０％

教科書

書籍名	＜特別支援教育＞個別の指導計画を生かした学習指導案づくり
著者名	宮崎　英憲監修　是枝　喜代治編著

出版社	明治図書
価格	２６６０円
ISBN・ISSN	

書籍名	特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させるスキル
著者名	甲本　卓司・大恵　信昭　著
出版社	明治図書
価格	２２６０円
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

教職実践演習（小学校）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校）
科目責任者	高野　良子
担当教員	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102103
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	省察、問題解決学習、ロール・プレイグ技法、実践演習、自己点検
授業のねらい・概要	教員にふさわしい資質能力を身につけているかどうかを、これまでの学習実績、教育実習やボランティアなどの体験を振り返って自己点検する。その上で、各自の資質能力を伸ばすとともに、弱点を補い各自の課題を解決し、教育者としての意欲と自信を持って出発できることをねらいとする。また、現職教員の経験談を聞く機会を持つこと等を通して、より実践的な資質を強化する。
学生の達成目標	1. 教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って、自己の職責を果たすことができる。 2. 教員として自覚を持ち、適切な言動を持って、他の教職員と協力・連携して職務を遂行できる。 3. 児童の気持ちを理解し信頼関係を築き、子どもの抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる。 4. 学習指導の基本・指導技術を身につけるとともに、個々の子どもに応じて適切な指導をすることができる。 5.

6.

授業内容	第1回	オリエンテーション：これまでの学習・体験の振り返り　(目標1)　[高野]
	第2回	望ましい教師像を考える。：グループ討議と発表　(目標1．2)　[高野]
	第3回	学級の1年間と学級作りの実際を検討する。：グループ討議・ロールプレイング　(目標3)　[森高]
	第4回	学習指導案の意義と作成上の留意点を検討する。：演習　(目標4)　[森高、協力教員]
	第5回	子ども主体の授業を実践する。：提案授業、グループ討議と検討　(目標3．4)　[森高]
	第6回	模擬授業と授業研究①導入編：模擬授業、全体質疑と検討　(目標4)　[森高]
	第7回	模擬授業と授業研究②展開編：模擬授業、全体質疑と検討、レポート提出　(目標4)　[森高]
	第8回	児童・生徒の問題行動への対応を学ぶ。：グループ討議　(目標3)　[高野、協力教員]
	第9回	保護者・地域との連携を学ぶ。：グループ討議　(目標2)　[高野、協力教員]
	第10回	教育現場の著作権を学ぶ。：実践演習、グループ討議　(目標4)　[高野、協力教員]
	第11回	特別な支援を必要とする子の支援を学ぶ。： 演習、グループ討議　(目標4)　[高野、協力教員]
	第12回	学校の安全管理を学ぶ。： グループ討議　(目標2．3．4)　[森高、協力教員]
	第13回	よりよい教員となるために： 全員による質疑　(目標1)　[森高、現場学校教員]
	第14回	まとめ～自己課題解決に向けて①：個別活動、レポート作成　(目標1．2)　[高野]
	第15回	まとめ～自己課題解決に向けて②：個別活動、レポート作成　(目標1．2)　[高野]
予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題や教員の職務等に常に関心を持ち、関連図書や新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・事前に指示された課題を期限までに提出すること。
	展開	・自らの課題を点検し、それに関する最新の図書や研究成果等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習の達成目標に対する到達の度合いを評価することを基本とする。

	評価の方法	授業への参加度と授業中に提出したレポート(50%）、定期試験の結果（50%）等を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。ほぼ毎回、資料を配布し、これらをもとに授業を行う。	
推薦図書等	書籍名	『「考える教師」－省察、創造、実践する教師－』
	著者名	山崎準二他
	出版社	学文社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978－4－7620－2245－6
参考URL	文部科学省　http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm	
備考		

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園）
科目責任者	安藤　則夫
担当教員	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102107
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの状況理解、自分の影響、多面的見方、教え方
授業のねらい・概要	教員としての資質能力を実践的に検証し、足りない部分を補う。小学校や幼稚園ですぐ使える技量や心構えを持てるようにする。新たな問題にも自己発展的に対処できる問題解決能力を育む。
学生の達成目標	1. 子どもに対する自分の影響力を理解し、対処できる。 2. 子どもの理解・学習の仕方に合わせて、人や子どもに信頼されるように柔軟な対応ができる。 3. 子どもを多面的に見て、個人と集団を調和できるように活動計画が立てられる。
授業内容	第1回　今までの授業や実習を振り返り、弱点を明らかにし、どうしたらよいか意見を言い合う。（目標、1,2,3） 第2回　事例を検討し、当事者としての気持ちや子どもの感じ方を討論する。。（目標、1,3）

	第3回	事例に基づいてロールプレイを行い、働きかけによる子どもの気持ちの変化を理解する。。（目標、1,2）
	第4回	子どもの個性を調べ、個性に合わせた気持ちの作り方を討論する。。（目標、1,2）
	第5回	子どもの気持ちの作り方を意識して、ロールプレイを行い、うまく気持ちを作れるか討論する。。（目標、1,2）
	第6回	子どもがぶつかる学習や友達関係での困難さを理解し、問題が起こる原因を討論する。（目標、1,3）
	第7回	子どもが、特定の家庭環境・友達関係のもとでどういう気持ちになるが考え、必要な働きかけを討論する。（目標、2,3）
	第8回	友達相互の影響を考慮し、友達やクラスへの間接的な働きかけの仕方を身につける。（目標、2,3）
	第9回	特定の子どものつまづきを想定して、友達やクラスへの働きかけをロールプレイを通じて理解する。（目標、1,2,3）
	第10回	子どもに対する家族の影響力と様々な家庭の事情を理解し、よりよい働きかけを考える。（目標、1,2）
	第11回	ロールプレイを通じて保護者の気持ちや子どもの気持ちを支える対応を討論して考える。（目標、1,2）
	第12回	友達仲間やクラスなど、集団の特徴を学び、様々な働きかけについて討論する。（目標、1,2,3）
	第13回	友達仲間やクラスなどの雰囲気を変える働きかけをロールプレイを通じて学ぶ。教員の持ち味の生かし方を考える。（目標、1,3）
	第14回	子どものつまづきに対処するための教員間の連携の在り方を事例を通じて学ぶ。（目標、1,2,3）
	第15回	様々な問題への対処の仕方を出し合い、人のやり方を理解するとともに、自分に合った解決法を見つけ出す。（目標、1,2,3）
予習・復習の内容	予習	日ごろから、子どもの抱える問題や保育現場での働きかけに関する本を読む。
	復習	授業で学んだことを自分だったらどうなるかをイメージし、納得できるようにする。
	展開	自分のやり方や考え方を深めると同時に人のやり方や考え方の良い点についても理解できる。
成績評価	評価の基準	子どもと自分の関係をよく理解している。 子どもの気持ちや保護者の気持ちについてよく理解している。 子どもや保護者、他の教員への対処の仕方を適切に考えられる。
	評価の方法	授業中の話し合いへの参加度、レポート、ロールプレイの仕方などから総合的に判断する。 授業中の態度４０％、レポート３０％、ロールプレイ３０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		

参考URL

備考

教職実践演習（小学校）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校）
科目責任者	小林　敢治郎
担当教員	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	
授業のねらい・概要	これまでの学習の履歴について自己評価を行い、教師像をもとに自己の学習の目的を明確にさせてから、学級経営、学習指導、生徒指導の実際に即して実践的な演習を行う。また、近隣小学校学校においてボランテア活動も含めた現場体験を行い、実践力を高める
学生の達成目標	1. 教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って、自己の職責を果たすことができる 2. 児童の気もちを理解し信頼関係を築き、子どもの抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる 3. 学習指導の基本事項を身に付け、指導技術を身に付けて個々の子どもの反応に応じて指導することができる。
授業内容	第1回　イントロダクション・・これまでの学習の振り返り 演習　（小林、早川）

第2回　望ましい教師像
演習　グループ討論　（小林）

第3回　学校・学級の１年間（１日）の生活
演習　グループ討論　（小林）

第4回　学級作りの実際
グループ討論　ロールプレイニング　（早川）

第5回　教材作りの実際
演習　ロールプレイニング　（早川、協力教員）

第6回　模擬授業と授業研究・・その１
模擬授業　（小林、協力教員）

第7回　模擬授業と授業研究・・その２
模擬授業　（小林、協力教員）

第8回　特別支援を要する子供への対応
グループ討論　（早川、協力教員）

第9回　不登校等の問題への対応
グループ討論　ロールプレイニング（小林、協力教員）

第10回　保護者等の要望への対応
グループ討論　ロールプレイニング（小林、早川）

第11回　諸々の実践の振り返りと課題の確認
演習・グループ学習　（小林、早川）

第12回　自己に応じた課題のさらなる追及
体験学習・グループ学習　（小林、協力教員）

第13回　学校の安全管理　等
体験学習　（早川、協力教員）

第14回　協同が求められる校務分掌等
グループ討論　（小林、早川）

第15回　よりよい教師になるための自己課題
演習　グループ討論　（小林、早川）

予習・復習の内容

予習　・教職関わる事柄に関して、自分にはどんな課題があるかを見つけ、下調べをしておく。
・グループで活動する場合には、あらかじめ活動の進め方など事前相談し、準備をしておく

復習　・毎回の授業でわかったこと等を記録しまとめておく。
・その日の自分の活動を自己評価し、次にはどう対処するとよいかを考えておく。

展開　・学校現場に関わる教育の情報に関心を持ち、関連する報道ついて記録し、現状の課題をとらえておく。

成績評価

評価の基準　小学校の教師になるものとしてふさわしい考え方を身に付けているか
教師としての基本的な指導技術等を身に着け、教育現場に対する様々な事柄を理解できていいるかで評価する。

評価の方法	授業への参加度、授業中に提出したレポート、演習中の態度等について総合的に判断する

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET402
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園）
科目責任者	木下　勝世
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102106
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの状況理解　自己理解と省察　保育者の対応
授業のねらい・概要	保育者としての資質能力を実践的に検証し、足りない部分を補う。保育者として子どもを理解し、子どもに対応する基本的な姿勢を身につけるとともに、その力量を養う。新たな問題に直面しても、発展的に課題解決に取り組める姿勢を養う。
学生の達成目標	1. 幼児教育に対する使命感や情熱をもち、責任をもって自己の職務を果たすことができる。 2. 保育者としての自覚をもち、適切な言動をもって他の教職員と協力して職務を遂行できる。 3. 子どもの心を理解し、信頼関係を築き、子どものかかえる問題に対して適切に対応できる。 4. 保育の基本を踏まえ、遊びを中心とした充実した園生活を作るのに必要な技量を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション 本演習の趣旨と進め方を確認する。

		自己の4年間を振り返って語り、保育者としての成長について話し合う。（目標1.2）
	第2回	事例を取り上げ、子どもの気持ちや保育者としての対応を話し合う。（目標2.3）
	第3回	事例に基づいてロールプレイを行い、保育者の対応と子どもの気持ちの変化を考える。（目標1.2.3.4）
	第4回	子どもの個性について考え、子どもの個性に対応する保育者の在り方について話し合う。（目標1.2.3）
	第5回	事例に基づいてロールプレイを行い、子どもの個性理解と対応について考える。（目標1.2.3.4）
	第6回	子どもが遊びや生活の中で出会う困難さについて理解し、原因を模索し、対応の方法を考える。（目標2.3.4）
	第7回	事例に基づいてロールプレイを行い、子どもが遭遇する困難への対応の仕方を考える。（目標2.3.4）
	第8回	家庭環境や友達関係が子どもに及ぼす影響について考え、保育者としての対応を考える。（目標2.3.4）
	第9回	ロールプレイを行い、家庭環境や友達関係で生じる子どもの問題について考える。（目標2.3.4）
	第10回	保護者への対応の在り方を考え、話し合う。（目標1.2.3）
	第11回	特別な支援を必要とする子に対する対応を考え、話し合う。（目標2.3.4）
	第12回	現場保育者の体験を聞く①（目標1.2.3.4.）
	第13回	現場保育者の体験を聞く②（目標1.2.3.4）
	第14回	自己の現在を振り返り、保育者としての調書や今後の課題を考え、話し合う。（目標1.2.3.4）
	第15回	まとめ 各自の自己点検を行う。
予習・復習の内容	予習	次時のテーマについてあらかじめ資料を収集し、考えをまとめておく。
	復習	授業の内容を振り返り、自己に置き換えて考え、保育者としての資質を高めるよう努力する。
	展開	保育者としての自己の在り方を見つめ、常に自己を陶冶し、保育者としての向上に努力する。
成績評価	評価の基準	子どもと保育者の関係を適切に理解している。 子どもや保護者の心情について理解している。 子ども・保護者・保育者集団の中での自己の立場や役割を理解している。
	評価の方法	授業中の話し合いへの参加度、レポート、ロールプレイの仕方などから、総合的に評価する。 受講態度40%　レポート30%　ロールプレイ30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等

参考URL

備考

知的障害教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST204
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育 Ⅰ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1104001,（月曜日1時限）A1104002（火曜日3時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，特別支援学校，障害児保育，教育課程，指導法
授業のねらい・概要	知的障害の子どもの教育の基本を学ぶ。障害の特徴と子どものニーズ，教育課程や実践方法，個への対応について学ぶ。知的障害教育を担当する教師の基本についても考えられる授業にしていきたい。
学生の達成目標	1. 知的障害の子どもの特徴とニーズについて理解する。 2. 知的障害特別支援学校や特別支援学級の取り組みについて理解する。 3. 知的障害教育における教育課程の特徴,指導法の実際について理解する。 4. 知的障害の子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　知的障害の子どもの特徴とニーズ ～一般の定義・子どもが必要としていること (目標1) 第2回　幼児期の特徴と教育 (目標1) 第3回　特別支援学校の実践の特徴 (目標3,4) 第4回　特別支援学校の教育課程 (目標3,4)

	第5回	特別支援学校の指導法と各教科 (目標3,4)
	第6回	特別支援学校の指導法の特色 (目標3,4)
	第7回	特別支援学校の指導法の実際 日常生活の指導 (目標3,4)
	第8回	特別支援学校の指導法の実際 遊びの指導(目標3,4)
	第9回	特別支援学校の指導法の実際 生活単元学習 (目標3,4)
	第10回	特別支援学校の指導法の実際 作業学習(目標3,4)
	第11回	特別支援学校の指導法の実際 教科別の指導 (目標3,4)
	第12回	特別支援学校の指導法の実際 領域別の指導 (目標3,4)
	第13回	個別の指導計画 とその実際(目標３)
	第14回	特別支援学級の教育 (目標2,3,4)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	知的障害とはどのような障害か、自分の体験の有無も含め、調べておくこと。教科書を読んで、備えること。
	復習	教科書を再度読んで内容の確認をすること。映像を思い出し、子どもにとっての意義を知るようにすること。
	展開	教育実習で生かすこと。他の障害の授業と比べ、知的障害教育の特徴を確認すること。
成績評価	評価の基準	知的障害の子どもへの教育実践上の基本的な内容を理解し，説明できる。教育課程と指導法の基本を説明できる。教育的に支援する基本姿勢について自分の考えを入れて述べられる。
	評価の方法	期末試験　70%　中間テスト／レポート　20%　授業への参加度　10%
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識Ｑ＆Ａ
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校
	出版社	ケーアンドエイチ社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-9901197-6-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST205
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育 Ⅱ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1105001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，障害理解，社会での活動，家族支援，人権
授業のねらい・概要	知的障害の子どもを保育や教育の場で支援する際の基本の意識を培う。障害への理解，障害のある子ども理解，社会でのさまざまな活動、親や家族の心情の理解などを取り上げる。また障害理解と教育的支援の基礎を学ぶ。
学生の達成目標	1. 知的障害ということ,その子ども,家族の置かれた状況を理解する。 2. 知的障害に対応できる保育者・教師の専門性について理解する。 3. 知的障害のある子ども・人々の地域生活や人権擁護を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 知的障害と子ども・人々の暮らしや困難をどう理解するか(目標1) 第2回　障害特性と現場での様子(目標1) 第3回　個の理解の方法と実際の支援(目標1) 第4回　親・家族の障害理解と家族支援をめぐって(目標1)

	第5回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について グループ討議と発表(目標1)
	第6回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その1 各自の課題を考える(目標2)
	第7回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その2 新聞等からの検討(目標3)
	第8回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その3 雑誌・ HPからの検討(目標3)
	第9回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その4 発表(目標1,2,3)
	第10回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その1 身近な例から(目標3)
	第11回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その2 新聞等から(目標3)
	第12回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その3 雑誌・ HPから(目標3)
	第13回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その4 発表(目標1,2,3)
	第14回	知的障害とその教育的支援(目標1,3)
	第15回	知的障害とその教育的支援 まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	新聞記事やインターネットで知的障害の関連記事等を調べておく。自分の関心事項について考えておく。
	復習	授業内容、および調査や発表についてさらに調べるようにする。子どもの立場や家族の立場を思いやる。
	展開	進路希望先での子どもや家族のことを思い、授業での知識や意識を生かすようにする。互いの意見交換を深める。
成績評価	評価の基準	知的障害の子どもや取り巻く状況について理解し，知的障害の子ども・人々の地域生活と家族支援，保育・教育との関係，実際の課題について考えを深め説明できること。
	評価の方法	発表と討議への参加　50%　レポート　50%　として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし　関係資料を配付します。 討議資料は M棟などで各自調べ，探し，集めます。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST207
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1109001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由教育に関する基本的事項と肢体不自由の子どもの指導・支援における適切な対応について理解する。
学生の達成目標	1. 肢体不自由教育の歴史について理解する。 2. 肢体不自由の子どもが示す困難と対応について理解する。 3. 肢体不自由の子どもの教育課程と教材・教具について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　肢体不自由教育の歴史(1)　昭和初期から昭和 50年代　（目標1） 第3回　肢体不自由教育の歴史(2)　昭和 60年代から現在（目標1） 第4回　肢体不自由の子どもの障害の状態（目標2） 第5回　運動・動作の困難と対応（目標2） 第6回　コミュニケーションの困難と対応（目標2）

	第7回	認知の困難と対応（目標2）
	第8回	健康面の困難と対応（目標2）
	第9回	食べることの困難と対応（目標2）
	第10回	教科学習の困難と対応（目標3）
	第11回	教材・教具と補助具（目標3）
	第12回	特別支援学校の教育課程と自立活動（目標3）
	第13回	個別の教育支援計画と個別の指導計画（目標3）
	第14回	移行支援と卒業後の生活（目標2，3）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	テキストの指定された範囲について学習し，ポイントや質問事項をまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	１）肢体不自由の子どもの教育に関して，授業で取り上げた基本的事項を理解していること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもの指導及び支援について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，授業における発表や討論が含まれる。
教科書	書籍名	肢体不自由教育ハンドブック
	著者名	
	出版社	社会福祉法人全国心身障害児福祉財団
	価格	２ ,400円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義のほかに，各テーマの理解を深めるため，発表や討論の時間を設ける。	

肢体不自由教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST208
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1110001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由の子どもの教育的ニーズにいかに対応していくかを検討し，一人一人の子どもの教育的ニーズに対応するために必要となる基本的な知識及び考え方を身につける。
学生の達成目標	1. 肢体不自由の子どもの教育的ニーズとその把握の仕方について理解する。 2. 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し，説明するために必要となる知識と考え方について理解する。 3. 指導・支援における基本的な対応と教材・教具の活用について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　子どもの教育的ニーズ（目標1） 第3回　子どもの実態把握（目標1） 第4回　個別の指導計画・個別の教育支援計画の考え方（目標2）

	第5回	個別の指導計画の作成(1)　指導課題の整理（目標2）
	第6回	個別の指導計画の作成(2)　指導目標の設定（目標2）
	第7回	保護者への説明（目標2）
	第8回	入力スイッチの製作（目標3）
	第9回	コミュニケーション支援機器の活用（目標3）
	第10回	おもちゃや遊びの工夫（目標3）
	第11回	車いすの活用（目標3）
	第12回	電動車いすの活用（目標3）
	第13回	学習活動の工夫(1)　自立活動と配慮点（目標3）
	第14回	学習活動の工夫(2)　教科指導と配慮点（目標3）
	第15回	まとめ（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	テキストの指定された範囲を学習し，ポイントや質問事項についてまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	１）授業で取り上げた肢体不自由の子どもの教育的ニーズに対応するための基本的事項を理解していること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもの教育的ニーズへの対応について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論が含まれる。
教科書	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2 ,500円
	ISBN・ISSN	4 -921124-47-7
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義のほかに，各テーマの理解を深めるため，発表や討論の時間を設ける。	

病弱教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST209
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅰ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1111001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の意義，学習空白，教育と医療との連携
授業のねらい・概要	病弱教育の歴史的変遷から，病弱教育の果してきた意義，子どもの病気と心の問題，医療機関と学校との関係，社会情勢を反映した病弱教育の現代的課題等を解説するとともに，病弱教育の現状と課題等に触れながら喘息，慢性疾患，小児がん，心身症等病類に応じた教育の特徴なども学び，病弱教育の基礎的理解を深めていくものとする。
学生の達成目標	1. 病弱教育の歴史,意義等について学ぶ。 2. 病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴を学ぶ。 3. 病弱教育の基礎的理解を深める。
授業内容	第1回　病弱教育の歴史的変遷(目標1) 第2回　病弱教育の意義(目標1) 第3回　病弱教育対象の子どもの病気の種類と特性(目標2,3) 第4回　病弱教育対象の子どもの心理特性(目標2,3)

	第5回	医療機関と教育との関係と,学校と医療機関,医療と教育の連携について(目標2)
	第6回	病弱教育の現代的課題(医療機関の課題)(目標2)
	第7回	病弱教育の現代的な課題(医療の進歩・進展と新たな教育課題)(目標2)
	第8回	喘息児の教育(目標3)
	第9回	小児がんと教育(目標3)
	第10回	慢性疾患と教育(目標3)
	第11回	重症心身障害児(目標3)
	第12回	筋ジストロフィーと教育(目標3)
	第13回	心身症と教育(目標3)
	第14回	不登校と教育(目標3)
	第15回	身体虚弱教育について(目標3)
予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目やキーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	病弱教育の基礎的な事項等の理解度による。
	評価の方法	試験40%，レポート30%，授業への参加度30%等により総合的に評価
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」　PART Ⅰ
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-921124-05-１ C3037
	書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅢ（教科指導編）

著者名	全国病弱養護学校長会編著
出版社	ジアース教育新社
価格	
ISBN・ISSN	4-921124-24-8　C3037

書籍名	特別支援教育に生かす病弱児の心理・病理・心理
著者名	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著
出版社	ミネルヴァ書房
価格	
ISBN・ISSN	978-4-623-06153-2　C3037

参考URL

備考

病弱教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST210
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅱ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1112001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の教育課程，教育内容の精選，院内学級
授業のねらい・概要	特別支援学校や特別支援教室，病院内教室等における実際の病弱教育の教育内容，指導方法について解説する。又，各教科，特別活動，自立活動，病弱教育の教育課程についても学習し，病弱教育の指導法の基礎・基本を踏まえながら，国内外の先進的な取り組みを紹介するなどして，より実践的で具体的な病弱教育を修得できるようにする。
学生の達成目標	1. 病弱児の教育の場を知る。 2. 病弱教育の教育課程の特徴を学ぶ。 3. 病弱教育の指導法の基礎・基本を学ぶ。
授業内容	第1回 病弱特別支援学校,特別支援教室,病院内教室の概要(目標1) 第2回 病弱教育の「個別の教育支援計画」の実際(目標1,2) 第3回 病弱教育の教育課程1(各教科)(目標2) 第4回 病弱教育の教育課程2(総合的な学習)(目標3) 第5回 病弱教育の教育課程3(自立活動)(目標4) 第6回 病弱教育の教育課程4(特別活動,訪問教育,共同学習,交流教育等)(目標2) 第7回 病弱特別支援教室・学級,病院内教室・学級の教育課程の実際(目標2) 第8回 病弱教育における「個別の指導計画」の実際(目標2) 第9回 病弱特別支援学校における指導の実際(学校参観もしくはVTR)(目標3) 第10回 病弱特別支援学校における指導の実際(指導方法と配慮事項)(目標3) 第11回 病弱特別支援学級・教室における指導の実際(指導方法と配慮事項(目標3) 第12回 病弱教育における指導の実施(指導案の作成・演習)(目標3) 第13回 病弱教育の先進的な取り組みの紹介(目標2,3) 第14回 諸外国の病弱教育の現状(目標1,2) 第15回 病弱教育現場における教師の役割とその重要性,子どもと保護者,関係機関との連携と教師の果たすべき役割等について(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目やキーワード，それらに関しての学習指導要領上の記述事項等に加え，事前に指示するテーマについても調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	

成績評価	評価の基準	病弱教育の教育課程等指導の実際についての理解度による。
	評価の方法	試験40%やレポート30%，授業への参加度30%等により総合的に評価

教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037

推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」　PART Ⅰ
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-921124-05-1　C3037
	書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅣ　（院内学級編）
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-921124-25-6　C3037

参考URL	
備考	

知的障害教育実践法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST206
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育実践法
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1106101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害教育　できる状況づくり　授業づくり　領域・教科を合わせた指導
授業のねらい・概要	実践的な知的障害指導法を学ぶ。映像や実地の体験も活用しながら、知的障害の子どもたちとともに取り組む「分けない指導」（領域・教科を合わせた指導）の要点を理解し、教師としてのあり方を学ぶ。
学生の達成目標	1.　知的障害教育実践の実際を理解する。 2.　知的障害の子どもとともに取り組む際のできる状況づくりの実際や教材作りを学ぶ。 3.　知的障害教育に携わる教師のあり方を学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標１・２・３） 第2回　知的障害の子どもたちと教師のあり方（目標１・２・３） 第3回　知的障害の子どもたちとできる状況づくり（目標１・２・３） 第4回　分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その１（目標１・２・３） 第5回　分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その２（目標１・２・３） 第6回　分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その３（目標１・２・３） 第7回　分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その４（目標１・２・３） 第8回　実際の教材検討～その１（目標１・２・３） 第9回　実際の教材検討～その２（目標１・２・３） 第10回　実際の教材検討～その３（目標１・２・３） 第11回　実際の教材検討～その４（目標１・２・３） 第12回　知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その１（目標１・２・３） 第13回　知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その２（目標１・２・３） 第14回　知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その３（目標１・２・３） 第15回　知的障害教育実践に求められること（まとめ）（目標１・２・３）

予習・復習の内容	予習	関連図書を読み、知的障害教育について理解を深めておく。
	復習	課題について取り組み、要点を振り返ること。
	展開	教育実習や実践の場でのことを思い描き、本科目での学習を実践に活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	知的障害教育実践の特徴、よさ、教師としての姿勢を理解し、実践などに備えることができる。
	評価の方法	授業への参加度、課題の実施内容が５０％ 期末レポートが５０％
教科書	書籍名	生活中心教育の理念と方法
	著者名	小出　進　著
	出版社	K & H.
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	生活単元学習・作業学習の進め方Q & A
	著者名	千葉大学教育学部附属特別支援学校 編
	出版社	K & H.
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		知的障害のある児童生徒の特徴、またその教育の実際について日常から関心を持ち,基礎的な支援内容・方法について理解を進めておく

特別支援学校教育課程・授業論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST211
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援学校教育課程・授業論
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1150001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援学校　学習指導案　指導計画　教育課程　授業づくり
授業のねらい・概要	特別支援学校における教育実践のために必要な教育課程と授業づくりについて実践的に学ぶ。教育実習に備えて、具体的な学習指導案を作ることができるよう基礎的な知識を学び、実地に作ることを通して授業づくりの要点を理解する。
学生の達成目標	1.　特別支援学校の教育課程と授業づくりについて理解する。 2.　特別支援学校の学習指導案の実際を学び、作成できるようにする。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標１・２） 第2回　特別支援学校について学ぶ～その１（目標１・２） 第3回　特別支援学校について学ぶ～その２（目標１・２） 第4回　特別支援学校の実践と教育課程～その１（目標１・２） 第5回　特別支援学校の実践と教育課程～その２（目標１・２） 第6回　特別支援学校の実践と教育課程～その３（目標１・２） 第7回　特別支援学校の授業と学習指導案～その１（目標１・２） 第8回　特別支援学校の授業と学習指導案～その２（目標１・２） 第9回　特別支援学校の授業と学習指導案～その３（目標１・２） 第10回　学習指導案づくりとその検討～その１（目標１・２） 第11回　学習指導案づくりとその検討～その２（目標１・２） 第12回　学習指導案づくりとその検討～その３（目標１・２） 第13回　授業研究と学習指導案（目標１・２） 第14回　子ども主体の授業と授業づくり（目標１・２） 第15回　特別支援学校の教育課程と授業づくり～まとめ（目標１・２）
予習・復習の内容	予習　特別支援学校にいる児童生徒の障害や授業の様子について関心を持ち、必要に応じて調べる。

	復習	授業づくりと学習指導案の要点を振り返り、次回の授業・指導案検討に生かすようにする。
	展開	教育実習での授業づくりと学習指導案作成に生かすようにする。
成績評価	評価の基準	特別支援学校の教育課程と授業づくりの要点を説明できる。学習指導案を自分で作成できる。
	評価の方法	学習指導案の作成レポート５０％　授業時の小テスト及び小レポート５０％
教科書	書籍名	支援案の書き方・個別の支援計画
	著者名	太田俊己 監修
	出版社	Ｋ＆Ｈ.
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	実習での精錬授業を行う際に必要な学習指導案作成、およびその他実習で必要な備え等について取り上げるので、特別支援学校で教育実習を行う前に必ず受講すること。２年時の受講が必須となる。	

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST212
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	佐藤　将朗
担当教員	根本　匡文
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1113101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	視覚障害, 聴覚障害, 教育制度, 教育課程, 指導の実際, コミュニケーション, 言葉の指導
授業のねらい・概要	視覚障害と聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として，聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。
学生の達成目標	1. 視覚障害と聴覚障害の生理，病理及び心理について理解する。 2. 視覚障害教育と聴覚障害教育の歴史的変遷と現在の制度及び教育課程について理解する。 3. 視覚障害と聴覚障害の程度や知的・発達障害，重複障害の有無に応じたきめ細かい関わりについて理解する。 4. 視覚障害児(者)と聴覚障害児(者)への生活指導，教育相談，就職指導について理解する。 5. インクル―シブな時代における視覚障害児（者）と聴覚障害児(者)の関わりついて自ら考える力を養う。

授業内容	第1回	「視覚障害とは何か」―眼の構造, 視覚障害の生理・病理・心理, 視覚機能の基礎―(目標１)
	第2回	「視覚障害教育の歴史，制度，教育課程」―歴史的処遇, 視覚障害教育の創始, 現在の制度・教育課程―(目標２)
	第3回	「視覚障害教育の目標とその指導形態」―視覚障害の理解・配慮と教科教育の専門性, 視覚支援学校の教育組織―(目標１， ２)
	第4回	「全盲教育の内容と方法」―全盲指導の内容, 触覚的認知の指導, 点字・言葉の指導, 歩行指導―(目標３)
	第5回	「弱視教育の内容と方法」―弱視指導の内容, 視覚的認知の指導, 読み書き能力の指導, 残存視力の活用・管理―(目標３)
	第6回	「盲聾児（者）への教育内容と方法」―盲聾者の特性, 基本的生活技術・習慣の指導、コミュニケーションの方法とその能力向上―(目標３)
	第7回	「視覚障害児（者）への生活指導、教育相談、就職指導」―社会的リハビリテーション, 心理的安定, 職業的スキル, インクルーシブな時代における視覚障害児(者)(目標３，４， ５)
	第8回	「聴覚障害とは何か」－聴覚障害の原因と分類，聴力レベル，オージオグラム，補聴の方法、二次障害と三次障害－（目標１）
	第9回	「聴覚障害児・者の言語とコミュニケーションの方法」－手話の種類，指文字，聴覚口話法，トータルコミュニケーション，バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ－（目標１）
	第10回	「障害の早期発見・両親援助と聴覚障害者を対象とする特別支援学校幼稚部の教育」－新生児聴覚スクリーニング，乳幼児教育相談，生活言語の獲得，聴覚活用－（目標２）
	第11回	「聴覚障害者を対象とする特別支援学校小学部・中学部の教育」－わたりの指導，学習言語へのレベルアップ，教科学習，アイデンティティーの形成－（目標２）
	第12回	「聴覚障害者を対象とする特別支援学校高等部の教育と卒業後の進路・生活」－普通教科，職業専門教科，専攻科，キャリア学習，大学進学，就職指導，聴覚障害者団体の活動－（目標２， ４）
	第13回	「他の障害を併せ有する聴覚障害児童・生徒の教育」－聾知的障害児，盲聾児，聾発達障害児，言葉が果たす役割－（目標２， ３）
	第14回	「通常の小・中・高等学校における聴覚障害児童・生徒の教育と支援」－難聴学級・通級指導教室・通常の学級における支援，人的環境の調整，物的環境の整備，情報保障－（目標２， ５）
	第15回	「視覚・聴覚障害教育の国際的動向と今後の方向性」－分離教育，統合教育，インクルーシブ教育，障害者権利条約・障害者基本法と視覚・聴覚障害教育，残された課題－（目標２， ５）
予習・復習の内容	予習	障害の概念において視覚障害・聴覚障害がどのように位置づけられるかを整理しておく。
	復習	授業で学習した視覚・聴覚障害教育の内容を確認しておく。
	展開	授業で学んだ視覚・聴覚障害教育・支援内容を他の身体障害への教育・支援内容と知的・発達障害への教育・支援内容と関連付けて比較・考察できるようにする。

成績評価	評価の基準	視覚・聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒の教育と支援について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること，及び，自らの考えに基づいてそれを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末レポートによって評価する。授業への参加状況20%，期間中の数回のレポート30%，期末レポート50%の成績を総合する。ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	書籍名	視覚障害学入門
	著者名	佐藤泰正（編）
	出版社	学芸図書
	価格	
	ISBN・ISSN	9784761602857
	書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
	著者名	中野善達・根本匡文(編)
	出版社	田研出版
	価格	2500円+税
	ISBN・ISSN	9784860890186

推薦図書等	書籍名	視覚障害指導法の理論と実際
	著者名	鳥山由子（編）
	出版社	ジアース教育出版
	価格	
	ISBN・ISSN	9784921124731
	書籍名	聴覚障害教育これまでとこれから―コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に―
	著者名	脇中起余子
	出版社	北大路書房
	価格	
	ISBN・ISSN	9784762826900

参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

重複障害・言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST213
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	重複障害・言語障害教育総論
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1115101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	（田所明房） 重複障害，教育課程の取り扱い，自立活動，個別の指導計画 （長澤泰子） 言語障害，コミュニケーション，アセスメント
授業のねらい・概要	（田所明房） 重複障害児に対する教育実践に関する基礎的な事柄について理解する。望ましい支援のあり方について考える。 （長澤泰子） 言語障害について理解し，さまざまな実践の場での支援について学ぶ。
学生の達成目標	1. 重複障害について教育実践の現況と支援のあり方を理解する。 2. 重複障害の教育課程・指導法を理解する。 3. 認知・言語発達と言語障害の実際を理解する。 4. 言語障害のアセスメントとそれに基づく支援・指導方法について理解する。
授業内容	第1回　重複障害について～現場の実情とオリエンテーション（目標１・２） 第2回　重複障害の教育課程と指導法～その１（目標１・２） 第3回　重複障害の教育課程と指導法～その２（目標１・２） 第4回　重複障害の教育課程と指導法～その３（目標１・２） 第5回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～教師・保育者として（目標１・２） 第6回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～心理・生理面の理解と対応（目標１・２） 第7回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～まとめ（目標１・２） 第8回　言語障害とはー「音声機能の障害」と「言語機能の障害」(目標３・４) 第9回　ことばとコミュニケーションの遅れの理解と支援(1)(目標３・４) 第10回　ことばとコミュニケーションの遅れの理解と支援(2))(目標３・４) 第11回　吃音・構音障害の理解と支援(目標３・４) 第12回　失語症,失読・失書症の理解と支援(目標３・４) 第13回　学習障害(発達性読み書き障害等)の理解と支援 (目標３・４) 第14回　言語発達遅滞の理解と支援(目標３・４)

	第15回	言語障害のある幼児児童生徒への配慮と支援(目標３・４)
予習・復習の内容	予習	重複障害、言語障害について関心を持ち、基礎知識を得るなどしておく。
	復習	毎回の授業のノートを見直すとともに，興味のある事項やキーワードに関しては書籍等で考えを深める。
	展開	重複障害、言語障害の支援方法等，最新の調査・研究の動向に興味を持ち，自ら知識・理解を深め、実習や現場
成績評価	評価の基準	達成基準を満たすこと。提示した基礎知識の理解と各自の関心による定着の度合いを勘案する。
	評価の方法	授業への参加度30%，レポート等30%，筆記試験40%を目安に総合的に評価するが、比率については変動することがある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

LD・ADHD等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST214
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	LD・ADHD等教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1116001（金曜日2時限）,A1116002（金曜日3時限）
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害， LD，ADHD，理解と支援
授業のねらい・概要	LD・ADHD等の知的障害を伴わない発達障害について，心理・生理や教育の可能性など，基本的な理解を図ることがこの授業のねらいである。LD・ADHD等の幼児，児童の心理，生理について学ぶ。それぞれの障害の認知特性を体験的に理解した上で，効果的な教育的支援の方法をグループワークを中心に考える。
学生の達成目標	1. ＬＤ児の心理・生理について理解する。 2. ADHD児の心理・生理について理解する。 3. 発達障害に関連する不登校,いじめ,虐待などの問題について知る。 4. 発達障害児の支援方法について考え,工夫することができる。 5. 学習指導要領に則して、教育的支援について整理することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,発達障害概論 第2回　ＬＤの心理・生理LDの理解と支援のあり方(目標1) 第3回　ＬＤの理解と支援(目標１・３・４・５)

	第4回	ＬＤの理解と支援(目標１・３・４・５)
	第5回	ＬＤの理解と支援（目標１・３・４・５）
	第6回	ＬＤの理解と支援（目標１・３・４・５）
	第7回	発達障害児を支える校内支援体制(目標１・２・３・５）
	第8回	発達障害児を支える校内支援体制(目標１・２・３・５）
	第9回	ADHDの心理・生理LDの理解と支援のあり方(目標1)
	第10回	ADHDの理解と支援のあり方(目標2・３・４・５)
	第11回	ADHDの理解と支援のあり方(目標2・３・４・５)
	第12回	ADHDの理解と支援のあり方(目標2・３・４・５)
	第13回	ADHDの理解と支援のあり方(目標2・３・４・５)
	第14回	認知特性に配慮した教育課程と指導方法(目標１・２・３・5)
	第15回	まとめ(目標1・2・3・4・5)
予習・復習の内容	予習	指定された課題について、資料を収集し、レポートにまとめること。
	復習	毎回、授業で行った指導要領による生理を確認し、理解しておくこと。
	展開	当事者による署書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、発達障害の支援について理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	参加態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編　海文堂出版 文部科学省　小学校学習指導要領解説　総則編　東洋館出版社	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの行動の背景を理解しようとする姿勢・柔軟性が必要です。	

自閉症教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST215
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	自閉症教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1117001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自閉症スペクトラム障害，広汎性発達障害，アスペルガー症候群，早期発見と早期支援
授業のねらい・概要	自閉症を中心とする広汎性発達障害の幼児，児童の心理，生理について理解を深める。紙面だけでは理解されにくい自閉症について、映像からも理解したうえで、グループで話し合い、具体的な支援について学ぶ。また、学習指導要領に則して、教育的支援について整理する。
学生の達成目標	1. 自閉症を中心とする広汎性発達障害の幼児,児童の心理,生理について理解する。 2. 広汎性発達障害の認知特性に応じた教育的支援の方法について学ぶ。 3. 広汎性発達障害児への望ましい教育的支援の方法について考え,工夫することができる。 4. 学習指導要領に則して、広汎性発達障害児への教育的支援について整理することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　自閉症とは（目標１）

	第3回	自閉症の心理:認知特性 と支援①(目標1・２・３・４)
	第4回	自閉症の心理:認知特性 と支援②(目標1・２・３・４)
	第5回	認知特性 に応じた学校での支援(目標2)
	第6回	認知特性 に応じた学校での支援(目標2)
	第7回	自閉症の心理:認知特性 と支援③(目標1・２・３・４))
	第8回	自閉症の心理:認知特性 と支援④(目標1・２・３・４)～
	第9回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑤(目標1・２・３・４)
	第10回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑥(目標1・２・３・４)～
	第11回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑦(目標1・２・３・４)
	第12回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)(目標３)
	第13回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)(目標３)
	第14回	まとめ (目標1,2,3,4)
	第15回	まとめ (目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	指定された課題について、資料を収集し、レポートにまとめること。
	復習	毎回、授業で行った指導要領による整理を確認し、理解しておくこと。
	展開	当事者による著書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、自閉症の認知特性と支援について理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	参加態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編　海文堂出版	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育調査演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP201
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育調査演習
科目責任者	太田　俊己
担当教員	渡邉　章 藤田　俊明 加藤　悦子 多田　昌代
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1119001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級，通級指導教室
授業のねらい・概要	特別支援学校教諭を志望し、教育実習を行おうとする者はこの科目を履修し、実習に備えるようにすること。障害のある児者の関係する場の見学や活動参加を通して，教育や取り組みの実際にふれ，体験的に学ぶ。今後の特別支援学校の教師としてのあり方や子どもへの対応について実際的に学ぶ。
学生の達成目標	1. 特別支援学校の教育の実際、教育の場の役割について初歩の理解ができる。 2. 障害のある子どもの実際の様子を受け止め,理解と考えを深める。 3. 特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について考えを深める。
授業内容	事前ガイダンス

予習・復習の内容	予習	居住地に近い特別支援学校を調べる。特別支援学校の教育内容、年間計画を調べておく。既習の特別支援教育の授業内容を整理しておくこと。
	復習	毎回の見学や体験の内容を振り返り、必要な反省と理解を確かなものにする。
	展開	特別支援学校教育実習の事前指導および本実習に生かす。
成績評価	評価の基準	特別支援学校等の役割，教育の実際を理解し，自分の受け止めや考えを深められていること。
	評価の方法	レポート 50%，事前ガイダンスを含む授業への参加度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし　必要な資料を配付します。 レポートの様式等も示します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前ガイダンスを行います。見学・参観の留意事項等を説明します。 これに参加しないと履修を認めません。当日の参観は，教育実習に準じます。身なりや言動をわきまえての参加が求められます。見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。	

特別支援教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP101
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育参観実習
科目責任者	多田　昌代
担当教員	渡邉　章 藤田　俊明 太田　俊己 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1126001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級
授業のねらい・概要	特別支援学校教諭や特別支援学級の教諭になる上で，必要な参観を実施する。特別支援学校を主に見学を行い，特別支援教育の実際を実地に学ぶとともに，児童生徒の様子，教師の支援や対応についても参観し，特別支援教育実習への意欲や態度，知識を培う。
学生の達成目標	1. 特別支援学校教育の実際について実地の参観を通して初歩の理解ができる。 2. 障害のある子どもの実際の様子,教師の支援や対応を受け止め,実習等と関連づけて理解する。 3. 特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について考えを深める。
授業内容	事前ガイダンス

予習・復習の内容	予習	特別支援学校について自分なりに調べたり経験を振り返っておく。
	復習	参観で見聞きした事柄を自分なりに咀嚼し、資料で確認し深める。
	展開	特別支援学校に関する授業内容、障害に関する授業内容に反映させて発展を図る
成績評価	評価の基準	特別支援学校等の役割，教育の実際を理解し，自分の受け止めや考えを深めること。
	評価の方法	レポート 50%，事前ガイダンスを含む授業への参加度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。必要な資料を配付します。 レポートの様式等も示します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前ガイダンスを行います。 参観学校の概要説明や見学の際のの留意事項等を説明します。 これに参加しないと履修を認めません。 当日の参観は，教育実習に準じます。 身なりや言動をわきまえての参加が必須です。 見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。	

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP301
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	藤田　俊明
担当教員	渡邉　章 太田　俊己 加藤　悦子 多田　昌代
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1120001
教室	
単位数	3
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実習，一日・一週間の流れ，共に活動，ひとり一人の理解と支援，連携，服務
授業のねらい・概要	実習生といえども，子どもや親たちにとっては先生となる。社会人として，あるいは教職としての規範が求められる。さらに，障害への正しい理解に「やさしさ」と「いたわり」が加わる心豊かな人間性が求められる。 実習では，目の前にいる子どもたちを通して多くのことを学ぶ。子どものニーズ，個別の教育支援計画，個別の指導計画，教育課程，危機管理，医療的ケアー，等々，今日的課題と教師となる基礎を学ぶ。 毎日の実践活動を記録にとどめ，反省し，指導を受け，より良い明日の支援に向けた工夫・改善の努力を日々積み重ねることが重要である。
学生の達成目標	1. 障害への正しい理解と心豊かな人間性を養う。 2. 児童生徒への支援的対応等,教育実践上の課題解決に向けた努力をする。 3. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験をとおして専門的な知識・技能を身につける。

4.　　教育者としての意識を深め,責任ある行動がとれる。

授業内容	第1回	１　実習の内容（目標１，２，３） （１）オリエンテーション （２）共に活動し児童生徒を理解する （３）支援の補助とチームティーチング
	第2回	（４）教材研究及び略案指導 （５）精錬指導 ２　勤務 （１）勤務は実習校教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する （２）実習は学校長及び学校長の指定する指導担当教諭の指導によって行う
	第3回	３　報告・記録 （１）実習記録簿に押印し勤務状況を記録する（目標4） （２）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける（目標１，２，３） （３）実習評価表により学校長及び指導担当教諭の評価を受ける
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	障害児への理解及び基礎的な支援内容と方法等の課題が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	実習先の実習評価・出勤簿等を中心に，記録簿の内容，巡回指導訪問報告書の内容を加味して評価する。 実習評価・出勤簿（ 70%）実習記録簿・巡回指導訪問報告書（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教育実習の手引き　　特別支援教育実習記録簿　　実習関係配付資料	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・同時に「特別支援教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 ・実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。 ・実習受け入れ決定後の個人的な理由による辞退はしないようにしてください。 ・児童生徒のプライバシー保護やマナーに十分配慮してください。	

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP202
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	藤田　俊明
担当教員	渡邉　章 太田　俊己 加藤　悦子 多田　昌代
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1121001（通期）,A1121002（後期）
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，特別支援学校，指導（支援）案，チームティーチング
授業のねらい・概要	・実習の意義や心構え，実習上の必要な事項について確認する。 ・児童生徒への支援的対応，実習における自己目標の設定，実習日誌への記入について理解する。 ・児童生徒の一日の生活の流れ，興味関心をはじめ，今の取り組みはどの時期のどの位置にあるかなどを理解し，指導計画や支援案づくりの資料とする。 ・事後指導では，実習記録簿の整理と自己評価を行い，意見を交換し反省をまとめる。
学生の達成目標	1. 実習の意義と必要性をより一層深める。 2. 特別支援学校実習に対するしっかりとした心構えを持つ。 3. 特別支援学校の概要及び指導の内容を理解する。 4. 将来に見通しを持ち,教育現場で意欲的に取り組もうとする意識を持つ。

授業内容	第1回	ガイダンス,事前指導の意義,実習の目的等(目標1)
	第2回	教師のあり方・心構え,実習にあたっての留意事項,手続き(目標2)
	第3回	学校の教育活動について(目標2,3)
	第4回	特別支援学校の概要と服務(目標2,3)
	第5回	指導案の書き方及び児童生徒への支援的対応(目標3)
	第6回	実習記録簿の意義と記入の仕方,事前訪問の注意(目標2)挨拶・打合せ〈実習先でのオリエンテーション〉 2 事後指導
	第7回	実習記録簿の整理,提出(目標4)
	第8回	実習報告会(意見交換と反省・まとめ)(目標4)
予習・復習の内容	予習	実習について日常から関心を持ち、先輩の話を聞くなどして現場の様子を知る努力をする。 実習の手引きをもとに毎回の該当箇所をよく読み下調べをしておく
	復習	毎回の授業のまとめを実習の手引きに照らし合わせてメモしておく。 実習の事後指導の後にも、実習体験を生かして講義等に臨むこと
	展開	実習の事前指導をしっかりして準備しておくことが本実習の成果を左右する。 実習の事後指導で自己を見つめなおし、今後の進路のあり方を定め、自己改善につなげていく。
成績評価	評価の基準	実習における自己目標や評価，障害児への基礎的な支援内容や方法，指導案の書き方等，基本的な事柄が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	記録簿，レポート等の内容で評価する。 事前・事後学習への参加姿勢をも考慮する。 記録・レポート（ 70%），発表内容及び態度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「教育実習の手引き」「特別支援教育実習記録簿」	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・特別支援教育実習の希望者は全員が対象 ・特別支援教育実習を行う年度に必ず受講する。 なお，事前指導第１回～第３回については，小学校教育実習事前指導と合同で行う。	

保育活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR101
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1060101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2. 自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3. 自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する
授業内容	第1回　オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等) 第2回　オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等) 第3回　ボランティア活動（年間　40時間以上） 第4回　ボランティア活動（年間　40時間以上） 第5回　ボランティア活動（年間　40時間以上）

第6回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第7回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第8回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第9回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第10回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第11回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第12回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第13回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第14回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第15回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第16回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第17回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第18回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第19回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第20回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第21回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第22回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第23回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第24回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第25回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第26回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第27回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第28回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第29回	まとめ ①(活動報告会)
第30回	まとめ ②(記録の提出)

予習・復習の内容	予習	履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する
	復習	実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出
	展開	本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。 主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%，報告内容 50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は必要としない。 必要に応じて資料（「ボランティア活動に取り組もう」）を配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい）

保育活動実地演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR201
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育活動実地演習Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1060201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2. 自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3. 自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する
授業内容	第1回　オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等) 第2回　オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等) 第3回　ボランティア活動（年間　40時間以上） 第4回　ボランティア活動（年間　40時間以上） 第5回　ボランティア活動（年間　40時間以上）

第6回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第7回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第8回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第9回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第10回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第11回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第12回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第13回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第14回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第15回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第16回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第17回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第18回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第19回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第20回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第21回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第22回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第23回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第24回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第25回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第26回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第27回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第28回	ボランティア活動（年間　40時間以上）
第29回	まとめ ①(活動報告会)
第30回	まとめ ②(記録の提出)

予習・復習の内容	予習	履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する
	復習	実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出
	展開	本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。 主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%，報告内容 50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい）

教育活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER101
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1103101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，教育，児童
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティアの精神を身につけるとともに，児童・生徒にかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2. 人とのふれあいを通じて,実践的な力や社会性を身につける。 3. 子どもに対する見方,かかわりかたを深める。
授業内容	第1回 オリエンテーション ① (ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布など) 第2回 オリエンテーション ② (ボランティア先や見つけ方,記録の書き方など) 第3回 ボランティア活動に参加して体験談を聞く（目標３） 第4回 ボランティア活動（目標２） 第5回 ボランティア活動の実践と記録（目標２）

第6回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第7回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第8回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第9回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第10回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第11回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第12回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第13回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第14回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第15回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第16回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第17回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第18回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第19回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第20回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第21回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第22回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第23回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第24回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第25回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第26回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第27回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第28回	ボランティア活動の実践と記録（目標２）
第29回	ボランティア活動のまとめ① 記録から学んだことをまとめる（目標３）
第30回	ボランティア活動のまとめ②（目標３） 活動の報告会

予習・復習の内容	予習	・ボランティアにいく気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修すること。また、ボランティア先がけっていしたら必ずキャリア支援室に届けること。（事故時の保障に関係します） ・服装、言動について学んでおくこと。 ・日ごろから児童に関する書籍を読むこと。
	復習	・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙にもらうこと。子どもの行動、自分のとった行動、子どもの変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは、指導者に聞いたり調べたりして、解決をはかる。
	展開	・できる限り、同一学校で長期間ボランティアを行うことが望ましい。 ・分からないことは、勝手に判断しないで、必ず責任者の人に聞

		く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	この科目は、合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。履修登録制限、ＧＰＡの適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。
	評価の方法	実施報告書・観察記録をもとにボランティア認定委員会などを通して単位を認定する。実施報告書の提出は２月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は必要としない。必要に応じて資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	「教育活動実地演習」は小学生,中学生の教育活動などにかかわるボランティアを,ある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア,不登校の子どもの支援,学童保育,レクレーション活動,部活への支援などがある。	

教育活動実地演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER201
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育活動実地演習Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1103201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、教育、児童
授業のねらい・概要	小学校におけるボランティア活動を通して、ボランティア活動を通じて、ボランティアの精神を身につけるとともに、じどうにかかわる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.　自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2.　人とのふれ合いを通じて、実践的な力や社会性を身につける。 3.　子どもに対する見方、かかわり方を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーションⅠ ボランティア活動とは　　心構え 第2回　オリエンテーションⅡ ボランティア活動の実際　、記録の書き方など 第3回　ボランティア活動に参加して 　体験談を聞く 第4回　ボランティア活動の実践と記録

第5回	ボランティア活動の実践と記録
第6回	ボランティア活動の実践と記録
第7回	ボランティア活動の実践と記録
第8回	ボランティア活動の実践と記録
第9回	ボランティア活動の実践と記録
第10回	ボランティア活動の実践と記録
第11回	ボランティア活動の実践と記録
第12回	ボランティア活動の実践と記録
第13回	ボランティア活動の実践と記録
第14回	ボランティア活動の実践と記録
第15回	ボランティア活動の実践と記録
第16回	ボランティア活動の実践と記録
第17回	ボランティア活動の実践と記録
第18回	ボランティア活動の実践と記録
第19回	ボランティア活動の実践と記録
第20回	ボランティア活動の実践と記録
第21回	ボランティア活動の実践と記録
第22回	ボランティア活動の実践と記録
第23回	ボランティア活動の実践と記録
第24回	ボランティア活動の実践と記録
第25回	ボランティア活動の実践と記録
第26回	ボランティア活動の実践と記録
第27回	ボランティア活動の実践と記録
第28回	ボランティア活動の実践と記録
第29回	ボランティア活動の実践と記録
第30回	ボランティア活動の実践と記録

予習・復習の内容	予習	・ボランティアにいく気持ちのある学生は、年度初めに必ずりしゅうすること。また、キャリア支援室に届けること。（事故遭遇時の保障に関係する） ・子どもへの接し方、見方、記録の取り方など勉強しておくこと ・日頃から児童に関する書籍を読む
	復習	・ボランティア終了後、活動証明印を活動記録用紙にもらうこと ・ボランティア終了後、気になったことや観察したことを書き留める。 ・子どもの行動、自分のとった言動、子どもの変化などについてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして解決を図る。
	展開	・できる限り、同一学校での長期間ボランティアを行うことが望ましい。

		・わからないことは勝手に判断しないで、必ず責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	この科目は合格か不合格化のみを決める「単位認定科目」である。履修登録制限、ＧＰＡの適用除外科目である。単位として認められる条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延40時間以上の活動証明がされていること
	評価の方法	実践報告書を提出することで合格とする。提出は2月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER301
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育活動実地演習Ⅲ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	0
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、教育、児童
授業のねらい・概要	小学校におけるボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、児童にかかわる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2. 人とのふれあいを通じて、実践的な力や社会性を身につける。 3. 子どもに対する見方、かかわり方を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーションⅠ ボランティア活動を行うにあたって 第2回　オリエンテーションⅡ ボランティア活動の実際、記録のとりかた 第3回　ボランティア活動の実践と記録 第4回　ボランティア活動の実践と記録 第5回　ボランティア活動の実践と記録 第6回　ボランティア活動の実践と記録 第7回　ボランティア活動の実践と記録 第8回　ボランティア活動の実践と記録

第9回	ボランティア活動の実践と記録
第10回	ボランティア活動の実践と記録
第11回	ボランティア活動の実践と記録
第12回	ボランティア活動の実践と記録
第13回	ボランティア活動の実践と記録
第14回	ボランティア活動のまとめⅠ 記録からまなんだことをまとめる
第15回	ボランティア活動Ⅱ 活動報告会

予習・復習の内容	予習	・本年度ボランティアを希望する学生は、年度初めに必ず履修すること。ボランティア先が決定したら必ずキャリア支援室に報告すること（事故遭遇時の保障に関係します） ・子どもへの接し方、見方、記録のつけかたなどを学習する。服装や言動のありかたについても学んでおくこと。 ・日頃から、児童に関する書籍を読むこと。
	復習	・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙にもらうこと ・ボランティア中の子どもの行動、それに対して自分のとった言動、子どもの変化などを記録し、まとめておく。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして解決をはかる。
	展開	・できる限り、同一学校で長期間ボランティアを行うことが望ましい。 ・わからないことは勝手に判断しないで必ず責任者の人に聞く。 ・困ったことや悩みをかかえた時には、一人で悩まず必ず教員に相談をする。

成績評価	評価の基準	この科目は合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。履修登録制限、GPAの適用除外科目である。単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延40時間以上の活動証明がされていること
	評価の方法	実践報告書を提出することで合格とする。提出は2月末日までとする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

障害者支援活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR101
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1122101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，障害者支援
授業のねらい・概要	障害のある人にかかわる施設・学校などのボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2. 障害のある子どもや大人の,一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3. 約束ごとや個人のプライバシー等を守り,信頼関係の大切さを知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション ① ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等 第2回　オリエンテーション ② ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等 第3回　ボランティア活動に参加して、体験談を聞く 第4回　ボランティア活動の実践と記録(年間 40時間以上)

第5回	ボランティア活動の実践と記録
第6回	ボランティア活動の実践と記録
第7回	ボランティア活動の実践と記録
第8回	ボランティア活動の実践と記録
第9回	ボランティア活動の実践と記録
第10回	ボランティア活動の実践と記録
第11回	ボランティア活動の実践と記録
第12回	ボランティア活動の実践と記録
第13回	ボランティア活動の実践と記録
第14回	ボランティア活動の実践と記録
第15回	ボランティア活動の実践と記録
第16回	ボランティア活動の実践と記録
第17回	ボランティア活動の実践と記録
第18回	ボランティア活動の実践と記録
第19回	ボランティア活動の実践と記録
第20回	ボランティア活動の実践と記録
第21回	ボランティア活動の実践と記録
第22回	ボランティア活動の実践と記録
第23回	ボランティア活動の実践と記録
第24回	ボランティア活動の実践と記録
第25回	ボランティア活動の実践と記録
第26回	ボランティア活動の実践と記録
第27回	ボランティア活動の実践と記録
第28回	ボランティア活動の実践と記録
第29回	ボランティア活動のまとめ①　記録から、学んだことをまとめる
第30回	ボランティア活動のまとめ②　活動の報告会

予習・復習の内容	予習	・ボランティアに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録すること。また、キャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを勉強していく。 ・服装・言動についても学んでおくこと。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおくこと。
	復習	・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印にしていただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとった言動、障害のある人の変化などについてまとめる。

		・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして、解決をはかる。
	展開	・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	この科目は、合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。履修登録制限、ＧＡＰの適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がされていること。
	評価の方法	実施報告書を提出することで合格とする。 提出は２月２０日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害者支援活動実地演習　Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR201
開講年度	2013年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習　Ⅱ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1122201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、障害者支援
授業のねらい・概要	障害のある人にかかわる施設・学校などのボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティアに対する理解や関心を広げる。
学生の達成目標	1.　自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2.　障害のある子どもや大人の、一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3.　約束ごとや個人のプライバシー等を守り、信頼関係の大切さを知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション①ボランティア活動とは何か、記録用紙の配布等 第2回　オリエンテーション②ボランティア先の見つけ方、記録の書き方等 第3回　ボランティア活動に参加して、体験談を聞く 第4回　ボランティア活動の実践と記録（年間４０時間以上） 第5回　ボランティア活動の実践と記録

第6回	ボランティア活動の実践と記録
第7回	ボランティア活動の実践と記録
第8回	ボランティア活動の実践と記録
第9回	ボランティア活動の実践と記録
第10回	ボランティア活動の実践と記録
第11回	ボランティア活動の実践と記録
第12回	ボランティア活動の実践と記録
第13回	ボランティア活動の実践と記録
第14回	ボランティア活動の実践と記録
第15回	ボランティア活動の実践と記録
第16回	ボランティア活動の実践と記録
第17回	ボランティア活動の実践と記録
第18回	ボランティア活動の実践と記録
第19回	ボランティア活動の実践と記録
第20回	ボランティア活動の実践と記録
第21回	ボランティア活動の実践と記録
第22回	ボランティア活動の実践と記録
第23回	ボランティア活動の実践と記録
第24回	ボランティア活動の実践と記録
第25回	ボランティア活動の実践と記録
第26回	ボランティア活動の実践と記録
第27回	ボランティア活動の実践と記録
第28回	ボランティア活動の実践と記録
第29回	ボランティア活動のまとめ①　記録から学んだことをまとめる
第30回	ボランティア活動のまとめ②　活動の報告会

予習・復習の内容	予習	・ボランティアに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録をすること。また、キャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します。） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを勉強していく。 ・服装・言動についても学んでおくこと。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおくこと。
	復習	・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとって言動・障害のある人の変化などについてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして解決をはかる。

	展開	・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	この科目は合格か、不合格かのみを決める「単位認定科目」である。履修登録制限、ＧＡＰの適用除外科目である。単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がされていること。
	評価の方法	実施報告書を提出することで合格とする。 提出は２月２０日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　学級経営　課題の追求
授業のねらい・概要	道徳の時間においては，子どもたちに主体的な授業を促すためには，適切な資料の位置づけが求められる。 そこで，授業のねらいが達成できるようにするためには，どのような資料を用いたり活用を図ればよいか検討し，卒業研究へのテーマが絞れるようにする。
学生の達成目標	1.　毎日,道徳教育に関連のある新聞記事や様々な情報に関心を向ける。 2.　社会事象や道徳教材に重ねて,自分の考えを持つことができる。 3.　道徳教育に自分のなりの問題意識を持ち、研究テーマをしぼることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション　各自の紹介・ゼミの内容紹介 第2回　意見発表　道徳教育の今日的課題①(目標1) 第3回　意見発表　道徳教育の今日的課題②(目標1) 第4回　道徳資料と指導案(資料活用法と工夫）①（目標２） 第5回　道徳資料と指導案(資料活用法と工夫）②（目標２）

第6回	道徳資料と指導案(資料活用法と工夫）③（目標２）
第7回	心の変容の捉え方
第8回	心の変容の捉え方
第9回	先行研究の分析や検討をして、課題を見つける。 （目標３）
第10回	先行研究の分析や検討をして、課題を見つける。 （目標３）
第11回	先行研究の分析や検討をして、課題を見つける。 （目標３）
第12回	先行研究の分析や検討をして、課題を見つける。 （目標３）
第13回	言葉のもつ意味について（吟味）
第14回	プレゼンテーションについて①
第15回	プレゼンテーションについて②
第16回	プレゼンテーション準備
第17回	課題発表①(プレゼンテーション) 討議
第18回	課題発表②(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第19回	課題発表③(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第20回	課題発表④(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第21回	課題発表⑤(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第22回	望ましい人間関係づくりについて
第23回	望ましい人間関係づくりについて
第24回	望ましい人間関係づくりについて
第25回	レポートの作成（目標３）
第26回	レポートの作成（目標３）
第27回	研究成果の発表準備
第28回	研究成果の発表（プレゼンテーション）
第29回	研究成果の発表（プレゼンテーション）
第30回	研究のまとめと評価（次年度に向けて）（目標３）

予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説「道徳編」を読むこと。 積極的に道徳副読本に目を通すこと。 道徳教育に関する先行研究を読むこと。
	復習	ゼミで討論し合ったことを踏まえて、自分の思いや考えをまとまること。

		プレゼンテーションの意味を理解した上で、練り直しをすること。
	展開	テーマについて １自問自答する。 ２グループで討論をする。 ３自分自身で考える。 ４聴き手に伝わることを意識したプレゼンテーションをする。

成績評価	評価の基準	道徳教育の今日的課題を明らかにできたか。 道徳教育に自分のなりの問題意識を持ち、研究テーマをしぼることができたか。
	評価の方法	レポート（ 70%） 研究の経過ノート（ 20%） 意欲・態度・その他（ 10%）

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　道徳編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	１２７円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	道徳教育指導法については，２年次で履習しておくこと。 小学校の教員免許取得者が望ましい。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家庭科（生活科）教育学の構造，先行研究の分析・検討，各種研究方法の修得，研究のデザイン
授業のねらい・概要	家庭科教育学及び生活科教育学の専門分野の内容（構造）を理解し，主として先行研究の分析・検討を通して当該専門分野の現在までの研究成果と課題を明確にする。 次に，よりよい卒業研究を志向して各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに，研究を推進するための研究方法の基礎・基本を学び，各自の研究に最も適した方法を選択し実践できる力を身につける。
学生の達成目標	1. 家庭科教育,生活科教育の内容(構造)を理解する。 2. 先行研究の分析・検討を通して,この分野における現在までの研究成果と課題を理解する。 3. 各種研究方法の概要を理解する。 4. 具体的な演習を通して,必要かつ基本的な研究方法を確実に理解する。 5. 自分の研究デザインが書ける。
授業内容	第1回　オリエンテーションⅠ(授業内容,スケジュール等) 第2回　オリエンテーションⅡ(研究とは)

第3回　教科教育学(家庭科教育)の構造モデルの理解(目標1)

第4回　教科教育学(生活科教育)の構造モデルの理解(目標1)

第5回　内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2)
○主たる先行研究を分析・検討する。
○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。

第6回　内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2)
○主たる先行研究を分析・検討する。
○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。

第7回　内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2)
○主たる先行研究を分析・検討する。
○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。

第8回　内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2)
○主たる先行研究を分析・検討する。
○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。

第9回　内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2)
○主たる先行研究を分析・検討する。
○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。

第10回　各種研究方法の理解(哲学的・原理的研究方法,実験的・実証的研究方法,実践的研究方法,歴史的研究方法,比較教育的研究方法,統計的研究方法等)(目標3)

第11回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○哲学的・原理的研究方法

第12回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○実験的・実証的研究方法
・ 実験・実習を導入した授業設計と学習効果の測定

第13回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○実践的的研究方法
・家庭科(生活科)における興味・関心が高まる授業の　設計と学習効果の検討

第14回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○歴史的・社会的研究方法

第15回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○比較教育的研究方法

第16回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○フィールドワークによる調査方法
・生活調査とインタビュー手法の基本

第17回　研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4)
○統計的研究方法
・統計的方法の基礎・基本の修得
・アプリケーションソフトによる統計的手法の修得(SPSS,秀吉PRO等)(含 多変量解析)
・検定の基礎・基本
・発表用図表の表わしかた(含 パワーポイントの活用○統計的方法の基礎・基本の修得

第18回	研究テーマ設定に向けて(目標5)
第19回	論文構成の概要（目標５）
第20回	各自の研究デザインの設定(目標5)
第21回	各自の研究にそった研究方法の実践（目標1～５） （文献分析、調査、実験・実習、その他）
第22回	各自の研究にそった研究方法の実践（目標1～５） （文献分析、調査、実験・実習、その他）
第23回	各自の研究の分析・検討（目標1～５）
第24回	各自の研究の分析・検討（目標1～５）
第25回	研究の発表用まとめ（パワーポイントの活用）（目標1～５）
第26回	研究の発表用まとめ（パワーポイントの活用）（目標1～５）
第27回	各自の中間的研究発表と討議（目標1～５）
第28回	各自の中間的研究発表と討議（目標1～５）
第29回	各自の中間的研究発表と討議（目標1～５）
第30回	まとめ-ゼミナールⅡに向けて(目標1～5)

予習・復習の内容	予習	・授業内容に関する内外の研究論文や資料を読み、理解　しておく。 ・各自の興味ある内容の先行論文を分析・検討し、時に　はレジュメをきる。 ・上記を踏まえて、各自の課題を明確にしておく。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておく。 ・予め持っていた課題解決について、そのプロセスと結　果をノートに整理する。
	展開	・授業内容に関する内外の先端的（先駆的）研究や資料　を読み、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	授業を通して，家庭科教育，生活科教育に関わる内容や課題を理解し，よりよいあり方を志向して，主体的に研究を推進しようとする意欲と独自の研究テーマを持つようになること，またその適切な研究方法を身につけ，各自の研究デザインが書けることを合格基準とする。
	評価の方法	提出レポート（レジュメと毎回の小レポート），平常点（毎回の取り組みの意欲と態度）等を総合的に判断する。 レポート（レジュメと毎回の小レポート） 50%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 30%，発表用図表20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント資料等の配布
推薦図書等	

参考URL	
備考	コツコツと丹念にかつ主体的に研究に向かう気持ちを持つことが望まれる。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，音楽用語，楽曲分析，音楽書，音楽文献学
授業のねらい・概要	将来，保育や小学校の教育現場に携わるに当たり，そこで実践されている音楽活動に関する専門的視野を広げ，その中から各自がテーマを見つけて主体的に学び，研究する事の喜びを発見できるように導く。 また４年次の卒業研究を見据えて課題を絞れるような展望を開く。 音楽に関する論文では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必要となる為，楽曲分析，音楽文献学に関しても学ぶ。
学生の達成目標	1. 問題意識が高まる 2. 疑問点を積極的に調べることができる 3. 音楽に関する得意分野ができる 4. 卒業研究のテーマがしぼれる
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション 第2回　保育現場での音楽活動について (目標1,3) 第3回　幼稚園での音楽活動について (目標1,3)

第4回	小学校での音楽活動について (目標1,3)
第5回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第6回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第7回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第8回	見学・調査の発表及びそれに関する討論 (目標1,2)
第9回	収集したデータの見方・まとめ方・利用の仕方について (目標1,2)
第10回	調査報告書・レポート・論文の書き方 (目標1,2)
第11回	各自が見学・調査の報告書を作成して発表及び討論(正しく理解される文章であるか等) (目標1)
第12回	見学・調査の報告書の発表及び討論 (目標1,2)
第13回	討論の結果を踏まえて,さらに報告書の書き方の向上を目指す (目標1,2)
第14回	前期のまとめ,さらに研究を深めるために
第15回	音楽文献学 (目標1,2)
第16回	後期のオリエンテーション
第17回	楽曲分析の仕方(幼児・児童の歌から小学校の鑑賞曲)(目標1,2)
第18回	楽曲分析のデータから何をどのように読み取り,まとめる事ができるか (目標1,2)
第19回	具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(1)
第20回	具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(2)
第21回	テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第22回	テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第23回	調べた内容の分析・検討 (目標1,2,3)
第24回	問題解決に向けて更なる検討 (目標1,2,3)
第25回	レポートの作成 (目標1,2)
第26回	レポートの作成 (目標1,2)
第27回	作成したレポートの発表及び討論(内容が正しく理解される書き方であるか等)(目標1,2,3,4)
第28回	作成したレポートの発表及び討論 (目標1,2,3,4)
第29回	討論の結果を踏まえて,さらにレポートの書き方の向上を目指す (目標1,2,3,4)
第30回	後期のまとめ,ゼミナールⅡに向けて

予習・復習の内容	予習	各自が興味のある保育・教育現場の音楽活動に関して、実習時の記録簿を見直して、気付いた点や問題点等を挙げておく。

	復習	保育・教育現場の音楽活動に関する調査報告発表の討論に際して、指摘された問題点や不明な箇所を再度調べなおす。
	展開	各自の興味のある音楽分野に関して、本授業で学んだ音楽文献学を駆使して参考文献を検索し、卒業研究に向けた準備をする。
成績評価	評価の基準	問題解決に向けて積極的に取り組む事ができたか。 主体的に研究する態度が身についてきたか。
	評価の方法	提出報告書（ 30%），提出レポート（ 30%），勉学意欲（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 笠原　潔・徳丸吉彦「音楽理論の基礎」，日本放送出版協会， ２,600円 ISBN： 978 -4595307164	
推薦図書等		
参考URL		
備考	音楽を論理的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害，支援，教育相談，ソーシャルスキルトレーニング
授業のねらい・概要	乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，発達上起こり得るつまずき（障害）について基礎的知識を得ることを目的とする。 さらに，このようなつまずきを早期に発見・支援するための発達診断・発達相談の概念やその具体的方法について概観することを目標とする。
学生の達成目標	1. 文献の収集方法・利用について理解する。 2. 支援が必要な子どものさまざまな問題について理解を深める。 3. 教育相談の基本的技法や指導法について学ぶ。 4. 自分の考えをまとめ,発表することができる。 5. 自分の研究テーマを見つけて学んでいく基礎力をつける。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　ビデオ視聴から発達障害の理解と支援について知る。(目標2) 第3回　書籍から発達障害の理解と支援について知る。(目標2)

第4回	文献から発達障害の理解と支援について知る(目標1)
第5回	不登校の早期発見と早期対応について(目標2)
第6回	不登校の回復期の対応について(目標2)
第7回	観察法について(目標2)
第8回	記録の取り方(目標2)
第9回	絵画療法(目標3)
第10回	絵画療法(バウムテスト)(目標3)
第11回	絵画療法(風景構成法)(目標3)
第12回	プレイセラピイ(目標3)
第13回	事例検討会 ①(目標2・4)
第14回	事例検討会 ①(目標2・4)
第15回	前期まとめ
第16回	グループ指導について ①(目標3)
第17回	グループ指導について ②(目標3)
第18回	ソーシャルスキルトレーニング ①(目標3)
第19回	ソーシャルスキルトレーニング ②(目標3)
第20回	文献の必要性と集め方(目標1)
第21回	図書館の使い方と文献(目標1)
第22回	文献を読む ①(自分の関心のあるテーマ)(目標4・5)
第23回	文献を読む ②(目標4・5)
第24回	文献を読む ③(目標4・5)
第25回	研究テーマの決定と目標についての検討(目標5)
第26回	研究の内容・方法についての検討(目標5)
第27回	発表・討議(目標4)
第28回	研究計画の作成(目標5)
第29回	研究計画の作成と実施上の諸問題の検討(目標5)
第30回	後期のまとめ

予習・復習の内容	予習	・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 ・自分の興味を持った内容については、勉強し、質問できるように準備する。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめておくこと
	展開	・積極的に授業に臨み、知識理解を深める

成績評価	評価の基準	学生の達成目標に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。

	評価の方法	参加度　50%　発表・レポート　50%

教科書	書籍名	よくわかる卒論の書き方
	著者名	白井俊明・高橋一郎著
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,500円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-623-05111-3

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，課題の模索
授業のねらい・概要	主として，算数科教育に関わる研究方法を身に付けるとともに，算数教育内容や指導方法について，教材の捉え方，望ましい教材開発，子どもの実態把握，授業研究の在り方等を知り，算数教育に関わる今日的課題を捉え，卒業研究への足がかりをつかむことができるようにする。
学生の達成目標	1. 算数教育について視野を広めることができる。 2. 諸々の実践報告,論文等を読み,これをまとめて自分なりの考えを持つことができる。 3. 主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるために努力できる。 4. 教育現場での算数脅威奥の実践に学ぶことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の内容,進め方) (目標1) 第2回　研究方法の習得 (目標1) 第3回　算数の分野における先行研究の分析 (目標1) 第4回　研究論文等の読み方　(目標1)

第5回	雑誌,研究発表会の事例の検討　(目標1)
第6回	雑誌,研究発表会の事例の検討　(目標1)
第7回	雑誌,研究発表会の事例の検討　(目標1)
第8回	算数教育の内容基礎研究 (目標2)
第9回	算数教育の内容基礎研究 (目標2)
第10回	現代化に関わる内容研究(目標2)
第11回	数学的な考え方の内容研究（目標２）
第12回	表現力の内容研究(目標2)
第13回	科学館における算数実践活動に参加 (目標1)
第14回	前期のまとめとテーマの探索 (目標2)
第15回	前期のまとめとテーマの探索 (目標2)
第16回	指導法に関わる研究１ (目標2)
第17回	指導法に関わる研究 ２(目標2)
第18回	現場における算数の実践研究 １ ……今日的課題　(目標2)
第19回	現場における算数の実践研究 ２ ……今日的課題　(目標2)
第20回	計算等のつまずきの捉え方２　(目標2)
第21回	計算等のつまずきの捉え方２　(目標2)
第22回	算数にかかわる教材開発の仕方　(目標2)
第23回	現場における実践・研究会等に参加１ (目標4)
第24回	現場における実践・研究会等に参加 ２(目標4)
第25回	現場における実践・研究会等に参加３ (目標4)
第26回	研究の進め方１ (目標3)
第27回	研究の進め方２ (目標3)
第28回	テーマの検討１(目標3)
第29回	テーマの検討２(目標3)
第30回	本年度まとめ (目標3)

予習・復習の内容	予習	算数教育に関わる情報を、日ごろから新聞や書物等で集めて理解しておく。 自ら課題を選択し、次回にその課題について発表・説明できるように準備をしておく。
	復習	発表した課題について、意見や指摘された事項を整理しまとめておく。疑問な点は調べて補充しまとめておく。

	展開	自分の研究テーマ見つけられるよう、日ごろからを算数数学に関わる資料に目をとおしておく。現場の研究会に参加し体験を積み重ねていく子tも大切である。
成績評価	評価の基準	算数教育の一般的な内容及び指導方法，今日的課題を捉えられたかどうか。 自分なりに研究の方向を見出そうとしているか。
	評価の方法	参観記録・レポート（ 70%）学習への取り組み方（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 片桐重男「算数の学力とは何か」東洋館出版社 ISBN： 978 -4-18-544114-8	
推薦図書等		
参考URL		
備考	算数教育に関心があること	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123009
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，思考，言葉
授業のねらい・概要	資料を適切に解釈する読解力，誤読されない文章を書く表現力を伸ばし，音楽と教育に対する知識を求め，主体的に学習・研究する技能と態度を身につけさせる。卒業研究のテーマが絞れるよう援助する。
学生の達成目標	1. 毎日,新聞を読む習慣を身につける。 2. 音楽と教育に関わる事実や意見を広く知ろうとする態度をもつ。 3. 読み手を意識した文を書くことができる。 4. 音楽と教育に関わる様々なことがらについて自分なりの問題意識をもつことができる。
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ①(目標1) 第3回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ②(目標1) 第4回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ③(目標1)

第5回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ①(目標2,3)
第6回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ②(目標2,3)
第7回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ③(目標2,3)
第8回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ④(目標2,3)
第9回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑤(目標2,3)
第10回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑥(目標2,3)
第11回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑦(目標2,3)
第12回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑧(目標2,3)
第13回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑨(目標2,3)
第14回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑩(目標2,3)
第15回	前期学習のまとめ
第16回	音楽教育の教育理念に関わる論文を読む(目標2)
第17回	それに対する意見文を書く(目標3)
第18回	音楽教育の教育内容に関わる文献を読む(目標2)
第19回	それに関する意見文を書く(目標3)
第20回	音楽教育の教育方法に関わる文献を読む(目標2)
第21回	それに対する意見文を書く(目標3)
第22回	音楽教育の教育制度に関わる文献を読む(目標2)
第23回	それに対する意見文を書く(目標3)
第24回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ①哲学的研究(目標2)
第25回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ②文献研究(目標2)
第26回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ③量的研究(目標2)
第27回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ④ケーススタディ(目標2)
第28回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く ①(目標3,4)
第29回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く ②(目標3,4)
第30回	まとめ 次年度に向けて学習・研究のめあてを確認する

予習・復習の内容	予習	各時に指示された課題に取り組む。
	復習	自分の書いた文章を学習した内容を踏まえて書き直し、学習の定着を図る。
	展開	・文献探索を積極的に行う。 ・毎日、新聞を読む。 ・指示された課題図書に加え、自発的・継続的に読書に親しむ。

成績評価	評価の基準	誤字脱字のない整った文が書けたか。 意見を明確に示し説得力のある根拠を挙げられたか。

		論理の筋道が通った文を書けたか。 音楽と教育について自分なりの問題意識をもつことができたか。
	評価の方法	毎週提出された課題により評価する。 課題を期限内に提出するのは当然である。 いかに授業内容を咀嚼した文を書けたか（書こうとしたか）で評価する。

教科書	書籍名	『よくわかる卒論の書き方』
	著者名	白井利明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,625円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4623051110

推薦図書等	書籍名	『新版論理的思考』
	著者名	宇佐美寛
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	ISBN:483921539

参考URL	
備考	B5版 400字詰め原稿用紙と国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作科教育，造形表現，子どもとのかかわり
授業のねらい・概要	造形表現，教育に関する文献や資料，実技を踏まえて，各自の持つ問題意識を明確にして今後の研究のための基礎・基本についての理解を深める。 各自が持つ問題意識をもとに発表や文章で表現出来るための基礎を身につける。 演習の中で卒業研究のテーマの選定とその研究計画の作成，方向性を確立することをねらいとする。
学生の達成目標	1. 造形に関わる教育課題に関心を持つ。情報収集をしてまとめて自分の考えを持つ。 2. グループ討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて的確な文章で表現できる。 3. 必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究の基本的な方向性を確立する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点,計画作成) (目標1.2) 第2回　実技 ① クロッキー・デッサン(視点から学ぶ) (目標1.2) 第3回　実技 ② 画像・「切り取り」から学ぶ (目標1.2)

第4回	「調査」から学ぶ・自分の意見や考えの視点 (目標1.2)
第5回	「情報」の扱い方・発想の源 (目標1.2)
第6回	実技 ② 子ども時代のあなた・「学びあい」について (目標1.2)
第7回	実技 ③ 「自分マップ」 (目標1.2)
第8回	プレゼンテーション・「発表」を学ぶ (目標1.2)
第9回	「私」と「私の意見」・考えのまとめ方の具体的な方法 (目標1.2)
第10回	研究テーマを模索する・グループディスカッション (目標2.3)
第11回	研究の暫定的テーマの発表と検討 (目標2.3)
第12回	論文の構成と資料収集・文献の活用について (目標3)
第13回	文書練習 ① 「美・発見」ノートに基づく発表会 (目標1.2)
第14回	論文例を読む ①・発想訓練・実技 ④色彩 (目標1.2)
第15回	文書練習 ② 読書ノートに基づく発表会 (目標1.2)
第16回	論文例を読む ②・発想訓練・実技 ⑤形 (目標1.2)
第17回	論文例を読む ③・発想訓練・実技 ⑥触感を活かす (目標1.2)
第18回	文書練習 ③ 課題文章提出 (目標1.2)
第19回	アンケート調査の留意点を学ぶ(目標1.2)
第20回	切り口の違いを学ぶ・研究の視点を考える(目標1.2.3)
第21回	研究テーマと計画の設定(個人面談) (目標2.3)
第22回	研究テーマと計画の設定(個人面談) (目標2.3)
第23回	先輩の研究から学ぶ(目標2,3)
第24回	研究計画及び研究方法の中間発表準備 (目標1.2.3)
第25回	研究計画及び研究方法の中間発表・討議 (目標1.2.3)
第26回	研究計画及び研究方法の再検討 (目標1.3)
第27回	研究計画の作成準備・参考文献集め (目標2.3)
第28回	研究計画の作成準備・参考文献集め (目標2.3)
第29回	研究計画の作成 (目標2.3)
第30回	まとめ～研究テーマと計画の発表・総括講話 (目標1.2.3)

予習・復習の内容	予習	課題を確実に行う 「読書」ノート、「美・発見」ノートの記入 必要文献の読み込み
	復習	まとめをしっかりとする 関連文献の探索と読み込み 調査データの整理
	展開	自身の研究について、テーマを絞り調査する

成績評価	評価の基準	全体を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等の基礎を学び，卒業研究を目指

		して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや制作，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，制作・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	ソルハ
	著者名	帚木蓬生
	出版社	あかね書房
	価格	1,470円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4251092619
	書籍名	おとなの小論文教室
	著者名	山田ズーニー
	出版社	河出書房新社
	価格	588
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4309409466
参考URL		
備考	・実技や演習を踏まえて造形表現･教育に対する理解を深め，卒業研究に向けた基礎を学ぶ。 ・実習日程等によってはシラバスの多少の内容変更も考えられる。 ・自ら進んで取り組む意欲や積極性を持って研究を進める姿勢を望む。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。 卒業研究につながるテーマを調べ，検討することも行い，専門ゼミナール Ⅱとも関連するようにする。
学生の達成目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について理解を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を学ぶ。 3. 障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について学ぶ。 4. 自分の関心や研究のテーマについて具体化する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 各自の紹介・ゼミの内容紹介 第2回　各自の関心を探る・話す 第3回　障害やその実践を考える(目標1,2,3)　その１ ～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第4回　障害やその実践を考える(目標1,2,3)　その２
～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第5回　障害やその実践を考える(目標1,2,3)　その３
～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第6回　発表と討議 ～資料をもとにした発表(目標1,2,3)その１
～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第7回　発表と討議 ～資料をもとにした発表(目標1,2,3)その２～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第8回　発表と討議 ～資料をもとにした発表(目標1,2,3)その３～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第9回　体験の発表と話し合い　その１　(目標1,2,3)

第10回　体験の発表と話し合い　その２　(目標1,2,3)

第11回　体験の発表と話し合い　その３　(目標1,2,3)

第12回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標1,2,3) 1
～テーマの発表・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。

第13回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標1,2,3) 2
～テーマの発表・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。

第14回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標2,3,4) 3
～テーマの発表(2回目)・資料調べから研究内容・方法について具体化していく。

第15回　前期まとめ ～前期の成果と課題 後期への宿題の確認(目標4)

第16回　後期オリエンテーション 宿題提出

第17回　発表と討議 ～宿題をもとにした発表(目標1,2,3)

第18回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標4) 1
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第19回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標4) 2
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第20回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標4) 3
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第21回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標4)　1

第22回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標4)　2

第23回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標4)　3

第24回　試行と成果発表　（目標2・3・4）　1

第25回　試行と成果発表　（目標2・3・4）　2

第26回　試行と成果発表　（目標2・3・4）　3

第27回　成果に関する考察と協議（目標2・3・4）

第28回　卒業研究への検討（目標2・3・4）　1

	第29回	卒業研究への検討（目標2・3・4）　2
	第30回	まとめ
予習・復習の内容	予習	資料の事前読み込みや資料収集、文献検討が必要になる
	復習	資料の内容のまとめ、研究計画の修正、成果の事前考察などが必要になる
	展開	自己のテーマを掘り下げる力を増し、卒業研究や、自己探求的な活動への発展が見込める
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。 的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業への参加度 60%　発表とレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	初めの数回は検討資料を用意する。 その後は，各自が関心やテーマに基づいて関係資料や文献等を調べ，発表に用いる。 授業や保育に関する資料，映像，観察記録，実践紹介等を取り上げてかまわない。自分なりの現場体験やボランティア体験も大いに語る機会をつくりたい。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123012
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	特別な教育的ニーズのある子どもの指導・支援に関する文献の収集方法について学び，自分の関心のある領域においてどのような文献があるかを理解する。 これらを踏まえて，後期の学期末までに，受講者が各自の研究テーマを明確にする。
学生の達成目標	1.　文献の収集方法について理解する。 2.　収集した文献の内容について理解する。 3.　自分が取り組む研究テーマを明確にする。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション 第2回　文献の収集方法（目標1） 第3回　図書館の利用（目標1） 第4回　データベースの利用（目標1） 第5回　インターネットの利用（目標1） 第6回　文献複写の方法（目標1）

第7回	国内文献情報の収集（目標2）
第8回	国内文献情報の整理（目標2）
第9回	国内文献情報の分析（目標2）
第10回	国内文献情報についての発表（目標2）
第11回	海外文献情報の収集（目標2）
第12回	海外文献情報の整理（目標2）
第13回	海外文献情報の分析（目標2）
第14回	海外文献情報についての発表（目標2）
第15回	前期のまとめ（目標1，2）
第16回	後期のイントロダクション
第17回	収集した国内文献の整理（目標2）
第18回	収集した国内文献の分類（目標2）
第19回	収集した国内文献の分析（目標2）
第20回	収集した国内文献についての発表（目標2）
第21回	収集した海外文献の整理（目標2）
第22回	収集した海外文献の分類（目標2）
第23回	収集した海外文献の分析（目標2）
第24回	収集した海外文献についての発表（目標2）
第25回	研究目的の検討（目標3）
第26回	研究対象の検討（目標3）
第27回	研究方法の検討（目標3）
第28回	研究要旨の作成（目標3）
第29回	研究テーマ及び研究要旨の発表（目標3）
第30回	後期のまとめ（目標1，2，3）

予習・復習の内容	予習	指定された課題について関係資料を収集・検討し，レポートにまとめておくこと。
	復習	発表及び協議の内容を整理し，まとめておくこと。
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。

成績評価	評価の基準	1）文献の収集方法について理解していること 2）収集した文献の内容について理解していること。 3）自分が取り組む研究テーマが明確になっていること。
	評価の方法	平常点，発表，提出レポートにより評価する。 （平常点 30%，発表 30%，提出レポート 40%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123013
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援学校　知的障害　重複障害　実践研究　授業づくり
授業のねらい・概要	特別支援学校や特別支援学級での実践や授業づくり、知的障害を中心とした子どもの様子のとらえ方や教師のあり方などについて考え、深める。
学生の達成目標	1.　現場での実践について関心を深める。 2.　資料や文献、体験を検討し、考えを深める。 3.　プレゼンや協議を通して、自分なりの考えや理念を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション ゼミの内容と進め方 第2回　特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その１ 第3回　特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その２ 第4回　特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その３ 第5回　各自の関心を発表する～その１ 第6回　各自の関心を発表する～その２ 第7回　実際体験・参観の検討～その１

第8回	実際体験・参観の検討～その２
第9回	体験・参観の計画～その１　目的を絞る
第10回	体験・参観の計画～その２　記録を考える
第11回	調査や体験の実施～その１
第12回	調査や体験の実施～その２
第13回	調査や体験の発表～その１
第14回	調査や体験の発表～その２
第15回	まとめと後期に向けての検討
第16回	夏季休業中の体験・調査の発表～その１
第17回	夏季休業中の体験・調査の発表～その２
第18回	後期の課題検討～その１
第19回	後期の課題検討～その２
第20回	教材・指導法検討～その１
第21回	教材・指導法検討～その２
第22回	教材・指導法検討～その３
第23回	教材・指導法検討～その４
第24回	調査・体験結果の発表～その１
第25回	調査・体験結果の発表～その２
第26回	調査・体験結果の発表～その３
第27回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その１
第28回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その２
第29回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その３
第30回	今年度の成果と次年度に向けての計画

予習・復習の内容	予習	各自の課題を明確にして、発表準備などを行う。関連の資料やサイトを調べる。
	復習	ゼミメンバーの発表内容を考え、自分の課題やテーマと関連付けたりする。
	展開	自分なりのテーマを深め、教育実践に対するコアな部分を形成するよう努める。

成績評価	評価の基準	自己課題を深める過程を着実に行ったか、準備や体験を的確に果たしたか。
	評価の方法	参加度とレポート。発表内容を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	

参考URL	
備考	教育実習も含め、実践の場への体験参加や見学等を交えたい。このため授業スケジュールに空き曜日を設けることが望ましい。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123015
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害、支援、教育、発達障害、実践研究
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもの保育・教育に関するテーマについて、関連する資料・文献を収集し、協議し、考えを深める。また、子どもとの実際のかかわりや観察から、実践的な研究についての方法を修得する。各自の発表，ディスカッションを通して、，さまざまな情報を整理し客観的な事実をもとにして、自分の考えを組み立てていけるようにすることもねらいとし、ゼミナール Ⅱにつなげていく。
学生の達成目標	1. 発達障害を中心とした子どもにかかわるさまざまな問題について問題意識を持ち調べ、協議し、理解を深める。 2. 様々な情報を整理し,事実をもとにした客観的な考えを持ち、まとめ、発表することができる。 3. 実際の子どもとのかかわりや観察で得た経験を、研究的な視点でとらえることができる。 4. 自分のテーマを見つけて、専門的に学んでいくための方法を身につける。
授業内容	第1回　　オリエンテーション

第2回	各自の問題意識・関心についての発表する①（目標１）
第3回	各自の問題意識・関心についての発表する②（目標１）
第4回	文献収集について（インターネットでの検索について）学ぶ①（目標１）
第5回	文献収集について（図書館の利用について）学ぶ②（目標１）
第6回	文献を読む（発達障害について）①（目標１）
第7回	文献を読む（発達障害について）②（目標１）
第8回	文献を読む（発達障害について）③（目標１）
第9回	文献を読む（発達障害について）④（目標１）
第10回	中間報告（文献収集の結果報告）①（目標１、２）
第11回	中間報告（文献収集の結果報告）②（目標１、２）
第12回	中間報告（文献収集の結果報告）③（目標１、２）
第13回	中間報告（文献収集の結果報告）④（目標１、２）
第14回	中間報告（文献収集の結果報告）⑤（目標１、２）
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション
第17回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ①（目標１、２、３）
第18回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ②（目標１、２、３）
第19回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ③（目標１、２、３）））
第20回	発表の方法（報告書）について学ぶ①（目標１、２、３）
第21回	発表の方法（プレゼンテーション）について学ぶ②（目標１、２、３）
第22回	実際の子どもとのかかわりについて発表する①（目標１、２、３）
第23回	実際の子どもとのかかわりについて発表する②（目標１、２、３）
第24回	実際の子どもとのかかわりについて発表する③（目標１、２、３）
第25回	実際の子どもとのかかわりについて発表する④（目標１、２、３）
第26回	実際の子どもとのかかわりについて発表する⑤（目標１、２、３）
第27回	研究テーマについて計画作成・検討①（目標４）
第28回	研究テーマについて計画作成・検討②（目標４）
第29回	研究計画の発表・討議（目標４）
第30回	年間のまとめ

予習・復習の内容	予習	毎回のテーマについて、文献・書籍で自分の考えをまとめること。 発表する際、わかりやすく伝えることを目標に、十分に リハーサルをすること。

復習	毎回、討論した内容について新たに修得した点をまとめ、自分の考えを整理すること。
展開	討論したテーマについて、さらに、文献・書籍などで掘り下げ深めること。

成績評価

評価の基準	発達障害のある子どもにかかわる様々な問題について理解できたか、様々な情報を整理し事実をもとにした客観的な考えを持てるようになったか、わかりやすく発表することができたかを評価の基準とする。
評価の方法	参加態度（ 60%），発表とレポート（ 40%）

教科書

書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	１７００円
ISBN・ISSN	

書籍名	絵で分かる自閉症児の困り感に寄り添う保育
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	２１００円
ISBN・ISSN	

書籍名	大学生のためのレポート・論文の書き方
著者名	石井　一成
出版社	ナツメ社
価格	１１００円
ISBN・ISSN	

書籍名	文章力の基本１００題
著者名	阿部　紘久
出版社	光文社
価格	１０００円
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考	予定した回で発表を行う。 互いの研究にも関心を持ち，考えを深め合うことを大事に，ゼミナール Ⅱの研究につなげていく。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123016
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，実践研究，研究方法，遊び，統合的保育
授業のねらい・概要	幼児教育の理念・方法・実践について，今日的課題をとらえ，保育の現場に即して調査，研究，考察を行う。 実践研究の進め方について学び，それに必要な力量を高め，４年次の卒業研究に備える。
学生の達成目標	1. 自分の研究に対して明確な目的意識をもち,適切な方法によって,真摯に研究を進めることができる。 2. 子どもの姿から学び,研究の目的に即した視点でその活動をとらえることができる。 3. 保育現場から得た資料を,研究の目的と方法に即して生かして用い,的確に考察することができる。 4. 広く客観的な視野の中で,研究をまとめ発表することができる。 5. 4年次の卒業研究に向けて見通しを持つことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション ゼミの主となる内容・方法について知る。

第2回　受講の動機や関心を有する事柄について相互理解を図る。（目標1）

第3回　研究テーマを設定する (目標1)
下記のテーマを参考に,自己の関心のあるテーマを考え,研究テーマを設定する。
・幼稚園における生活中心教育の実践に関する研究
・遊びを単元化する保育方法に関する研究
・幼児の遊びの発展の要因とその過程に関する研究
・統合的保育の在り方に関する実践的研究
・障害のある子の園生活の変容に関する研究

第4回　保育現場を知る（目標1）
主として参観する A幼稚園について,保育の特色,教育課程,指導計画等の概要を学ぶ。
幼稚園の資料を読み,保育の実際を知る。（第１回）

第5回　同上（第2回）

第6回　同上（第３回）

第7回　個々の子どもと保育のあり方について知る
特別な支援を必要とする子を中心に,個々の子どもについての観点を学ぶ。
障害のある子を含む保育の進め方について学ぶ。

第8回　参観の相談（目標1.2）
参観の時間,持ち物,交通方法などの実際を確認する。
観察記録の書き方,提出方法について確認する。
観察の主たるポイントについて,各自の課題を明確にする。

第9回　幼稚園訪問 -6月下旬～7月上旬- (目標2,3)
協力を依頼し,研究の内容と方法の理解を得,保育現場への関わり方を決める。
保育現場に入り,子どもと共に活動しながら,研究に即した資料を得る。（第１回）

第10回　同上（第２回）

第11回　同上（第３回）

第12回　同上（第4回）

第13回　同上（第5回）

第14回　中間のまとめ (目標3,4)
これまで得た記録や資料の内容と,考察の経過を整理し,後半の研究の進め方を検討する。（第１回）

第15回　同上（第2回）

第16回　現場観察 -9月下旬～ 12月中旬- (目標2,3)
保育現場に入り,子どもと共に活動しながら,研究に即した資料を得る。（第１回）

第17回　同上（第2回）

第18回　同上（第3回）

第19回　同上（第4回）

第20回　同上（第5回）

第21回　同上（第6回）

	第22回	同上（第7回）
	第23回	同上（第8回）
	第24回	同上（第９回
	第25回	研究のまとめ (目標3,4,5) これまで保育現場で得た記録や資料の内容と,考察の経過を整理する。 全体を通して考察し,研究の結果得たものを整理し,発表できるようにする。（第１回）
	第26回	同上（第３回）
	第27回	研究報告発表 (目標4) 研究について発表し,第3者の批評を得る。（第１回）
	第28回	同上（第２回）
	第29回	４年次の研究について考え、話し合う。（目標5） （第１回）
	第30回	同上（第２回）
予習・復習の内容	予習	幼児教育における遊びと生活の重要性について、幼稚園教育要領等で確認し、著書や先行研究を調べる。 幼稚園保育参観においては参観の視点をあらかじめ設定する。
	復習	配布された資料等に目を通し、内容を確認するとともに、その他の資料でさらに理解を深める。 幼稚園保育参観においては、所定の記録用紙に参観記録を記入する。
	展開	幼稚園教育の現場における、教育課程の在り方について関心をもち、調査研究を行う。 幼稚園における教育としての遊びの実践について、著書や先行研究を調べる。
成績評価	評価の基準	学生の達成目標１～４の達成度について，研究レポートによって，また全期間を通しての取り組みを通して評価する。
	評価の方法	研究レポートの内容評価 70%　研究に対する取り組み評価 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123018
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども支援，子育て家庭
授業のねらい・概要	現代の子どもたちが地域や家庭の中で抱えている課題と支援の実態について学ぶ。子ども支援を展開している団体への参加を通して，必要とされる知識や技術を学ぶ。活動を通して抱えた課題についての事例発表等も行う。
学生の達成目標	1. 子どもを取り巻く現状について理解することができる。 2. 子ども支援の現場に参加し,その現状について説明することができる。 3. 国,地方自治体,民間団体による子ども支援の現状と課題について指摘することができる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について 第2回　子ども家庭福祉の考え方について (目標1) 第3回　子ども家庭福祉の理念について (目標1) 第4回　子ども家庭福祉を取り巻く状況について (目標1) 第5回　子ども支援事業業への参加にむけての事前学習1 (目標2)

第6回	子ども支援事業業への参加にむけての事前学習2 (目標2)
第7回	子ども支援事業参加報告1(履修学生による事業参加報告)と意見交換 (目標2)
第8回	子ども支援事業参加報告2(履修学生による事業参加報告)と意見交換 (目標2)
第9回	子ども支援事業参加報告3(履修学生による事業参加報告)と意見交換 (目標2)
第10回	子ども支援事業について考える1(資料や実践映像を用いて) (目標2)
第11回	子ども支援事業について考える2(資料や実践映像を用いて) (目標2)
第12回	子ども支援事業について考える3(資料や実践映像を用いて) (目標2)
第13回	子ども支援事業参加報告4（履修学生による事業参加報告）と意見交換　（目標2）
第14回	子ども支援事業参加報告5（履修学生による事業参加報告）と意見交換　（目標2）
第15回	子ども支援事業参加報告6（履修学生による事業参加報告）と意見交換　（目標2）
第16回	後期の進め方について
第17回	子ども支援事業と子どもの学習権保障1（目標1,3）
第18回	子ども支援事業と子どもの学習権保障2（目標1,3）
第19回	ひとり親家庭に対する福祉サービスについて1（目標1,3）
第20回	ひとり親家庭に対する福祉サービスについて2（目標1,3）
第21回	ひとり親家庭をめぐる理解1（ひとり親家庭をめぐる現状）（目標3）
第22回	ひとり親家庭をめぐる理解2（ひとり親家庭を対象とした支援事業）（目標3）
第23回	ひとり親家庭をめぐる理解3（子育てと自立をめぐって）（目標3）
第24回	ひとり親家庭をめぐる理解4（子育てと生活支援）（目標3）
第25回	ひとり親家庭をめぐる理解5（就労支援）（目標3）
第26回	ひとり親家庭をめぐる理解6（養育費をめぐって）（目標3）
第27回	ひとり親家庭をめぐる理解7（経済的支援）（目標3）
第28回	後期の演習を踏まえた形での子ども支援事業参加報告書の作成（目標1,2,3）
第29回	年間活動報告会　（目標1,2,3）
第30回	１年のまとめ　（目標1,2,3）

予習・復習の内容	予習	翌週のテーマに関連した課題を出すので、それについて調べてくる

	復習	授業内容のノートや意見交換で得られた発言、配布資料等を用いて、理解を確実にする
	展開	疑問等について、さらに文献等を用いて理解を深める
成績評価	評価の基準	子どもを取り巻く現状について理解できていることと，子ども支援の現場での取り組み状況を子ども支援の現状を含めて整理し報告でき，かつ現状の課題についての理解があること。
	評価の方法	授業への参加度（ 40%），発表及びレポート（ 60%）で評価を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123019
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材研究，教材開発
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，よりよいものを追究する。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が必要か追究する。 学期末には学生自身の研究テーマを見つけ，研究意欲を持つようにする。
学生の達成目標	1. 自分の興味関心を明確にし,個々のテーマを見つける。 2. 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら研究テーマをより明確にする。 3. 教材開発や授業研究等を現場で実践し、その結果をもとに研究内容を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の進め方) 第2回　学生自身の興味関心等の意見交換(目標1) 第3回　課題設定と方法等の相談(目標1) 第4回　エコグラムについて(目標1)

	第5回	エコグラムの実際(目標1)
	第6回	保育現場の教材研究について(目標2)
	第7回	保育現場の教材研究の実際(目標2)
	第8回	保育現場の教材研究の作成(目標2)
	第9回	保育現場の教材研究の考察(目標2)
	第10回	保育現場の教材研究の考察,再検討(目標2)
	第11回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
	第12回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
	第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
	第14回	各自の研究課題の発表・協議(目標1)
	第15回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標2)
	第16回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標2)
	第17回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標2)
	第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標2)
	第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データ等集計(目標３)
	第20回	調査結果から 教材開発について意見交換(目標3)
	第21回	個々の教材開発の設定(目標3)
	第22回	教材開発の準備(目標3)
	第23回	教材開発の計画(目標3)
	第24回	教材開発の製作(目標3)
	第25回	教材開発と考察(目標3)
	第26回	教材開発の完成(目標3)
	第27回	教材開発の現場での実践(目標３)
	第28回	教材開発の現場での実践と考察(目標３)
	第29回	調査結果と研究課題の修正（目標３）
	第30回	調査結果の発表と研究課題の修正（目標３）
予習・復習の内容	予習	興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。
	復習	学習したことを整理し、更に資料や文献で調べ自分なりの考察を加える。
	展開	卒業研究のテーマを決め、研究を開始する。
成績評価	評価の基準	課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容を基準とする。
	評価の方法	レポート・発表（ 70%）　研究課題への取り組み（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
推薦図書等	
参考URL	
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123020
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	統合保育，障害児保育，インクルージョン，観察法，文献調査・抄読
授業のねらい・概要	本ゼミナールでは，４年次の専門ゼミナール Ⅱ及び卒業研究につなげるため，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見を深めるとともに，自分がより深く知りたいと思えるテーマを１つ以上設定することを目的とする。また併行して，観察法等、調査を行う上で必要となる知識や技術を身につける。
学生の達成目標	1. 文献抄読を通して、自らの興味や関心のある分野への知見を深めると同時に、自身が探究してみたいテーマを１つ以上設定する 2. 観察法等、卒業研究を行うために必要となる基礎的な知識および技法を身につける 3. 相手を意識したプレゼンテーションができるよう、修得した技術や態度を向上させようとする気持ちを持つ
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　学生の興味関心のある分野に関する意見交換 第3回　文献抄読（１）課題論文１

第4回	文献抄読（２）課題論文１に関する意見交換
第5回	文献抄読（３）課題論文２
第6回	文献抄読（４）課題論文２に関する意見交換
第7回	文献検索・収集の方法について
第8回	文献抄読（５）自身の興味・関心のある論文
第9回	文献抄読（６）自身の興味・関心のある論文に関する意見交換
第10回	プレゼンテーションスキルの向上に向けて（１）修得技術の確認
第11回	プレゼンテーションスキルの向上に向けて（２）ppt演習
第12回	研究の方法について（１）観察法
第13回	研究の方法について（２）面接法
第14回	研究の方法について（３）質問紙法
第15回	前期まとめ
第16回	現場観察（１）A幼保園
第17回	現場観察（２）A幼保園
第18回	A幼保園での観察内容に関する意見交換
第19回	現場観察（３）B幼稚園
第20回	現場観察（４）B幼稚園
第21回	B幼稚園での観察内容に関する意見交換
第22回	現場観察（５）C施設
第23回	現場観察（６）C施設
第24回	C施設での観察内容に関する意見交換
第25回	文献抄読および探究したいテーマの設定（１）
第26回	文献抄読および探究したいテーマの設定（２）
第27回	報告会に向けたプレゼンテーション準備
第28回	研究テーマに関する報告・意見交換会（１）
第29回	研究テーマに関する報告・意見交換会（２）
第30回	まとめ

予習・復習の内容	予習	自分の興味関心のある分野に関して、文献を自分で探し、読む
	復習	意見交換の内容を踏まえ、自身の考えを再構築する 現場観察の記録を自身の関心ある視点から、まとめる。
	展開	現場観察では、自分からより多く質問し、より充実した観察内容となるよう努める。 意見交換では、積極的に発言し、自分の関心を広げられるようにする。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に準じる。

評価の方法	授業への参加とその内容：５０％ レポート等課題への取り組みと内容：５０％

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123021
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校における英語教育，言語習得，子どもの発達と教育
授業のねらい・概要	子どもの知的・心理的発達，および小学校教育全体のなかでの位置づけ等を考慮して総合的に考える。
学生の達成目標	1. 外国語教育の理論と背景を理解する。 2. 小学校現場で何をどう進めるかを理解する。 3. 実際の指導と教材を具体的に考える。
授業内容	第1回　外国語教育の意義 (以下目標1) 第2回　小学校英語導入の背景と現状・課題 第3回　海外の初等外国語教育 第4回　言語習得論-母語と第二言語の習得 第5回　子どもの脳の発達と早期教育 第6回　脳科学から小学校英語教育への応用 第7回　発達心理学と小学校英語教育

第8回	言語のしくみとコミュニケーション能力
第9回	国際理解教育と英語教育
第10回	求められる教員の資質
第11回	英語力の向上と鍛え方
第12回	英語教育全体における小学校英語教育の役割
第13回	小学校英語教育の目標の立て方 (以下目標2)
第14回	校内の環境作り,共通理解と校内研修
第15回	カリキュラム・年間指導計画作りのポイント
第16回	指導者と指導形態
第17回	基本的な外国語教授法
第18回	クラスルーム・イングリッシュの活用
第19回	マルチメディア教材等の活用法
第20回	1時間の指導の組み立て方
第21回	教材の使い方・選び方と開発方法
第22回	評価の意義と評価方法
第23回	指導の基本と留意ポイント (以下目標3)
第24回	あいさつ,ウォーミングアップ,復習
第25回	導入-新しい言語材料の導入とテクニック
第26回	基本-ドリル活動のバリエーション
第27回	発展-さまざまな展開活動
第28回	1時間の振り返り,自己評価表の実際
第29回	実際の単元展開例
第30回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習	該当ページを熟読し、要点をA4の用紙１枚にまとめる。
	復習	作成した要旨に修正を加え、改訂版を作成する。
	展開	独自の研究テーマに関する事項を発見し、応用する方策を考える。

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%）, 課題等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 岡　秀夫・金森　強，『小学校英語教育の進め方』，成美堂，2007．2,500円（税別） ISBN：4-7919-7141-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123022
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証研究，定量的研究，定性的研究，教育問題
授業のねらい・概要	本ゼミナール Ⅰ（教育社会学ゼミ）では，教育を社会的事象として捉え，統計資料，資（史）料，量的・質的調査データに基づき，「事実は～である」「問題は～にある」という立場からの実証的な研究を行う力を養う。 当然視されている通念を問い直し，個人の教育体験を客観視し，相対化する能力を獲得することを目指す。 前半は文献を読むことを通じて，教育社会学的なアプローチの仕方を学ぶ。後半は，実践をとおして研究の方法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2. 先行研究を批判的に読む力が身につく。 3. 文献講読と調査研究をとおして,卒業研究に生かす力を獲得する。 4. 現代の教育の諸相をわかりやすく構成し,発表することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション:専門ゼミナール学習の目的と年間授業計画 第2回　担当教員の専門領域の概略(目標1,2)

第3回	担当教員の研究の紹介(目標1,2)
第4回	文献を読む: ①教育社会学的なアプローチの仕方「学校教育」(目標1,2,3)
第5回	文献を読む: ②教育社会学的なアプローチの仕方「家庭教育」(目標1,2,3)
第6回	文献を読む: ③教育社会学的なアプローチの仕方[教育とジェンダー」(目標1,2,3)
第7回	文献を読む: ④教育社会学的なアプローチの仕方「教育の病理」(目標1,2,3)
第8回	文献を読む: ⑤教育社会学的なアプローチの仕方「高等教育」(目標1,2,3)
第9回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,4)
第10回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,4)
第11回	研究の方法: ①定量的研究「テーマの選定」(目標3)
第12回	研究の方法: ②定量的研究「調査項目の選定」(目標3)
第13回	研究の方法: ③定性的研究「面接調査」(目標3)
第14回	研究の方法: ④定性的研究「調査対象と手続き」(目標3)
第15回	論文の書き方:課題設定(目標3)
第16回	論文の書き方:引用参考文献の書き方・註のつけ方・引用の示し方(目標3)
第17回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標1,4)
第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標1,4)
第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
第21回	調査研究の実践 ③(目標3)
第22回	調査研究の実践 ④(目標3)
第23回	調査研究の実践 ⑤(目標3)
第24回	調査研究の実践 ⑥(目標3)
第25回	調査研究の実践 ⑦(目標3)
第26回	調査研究の実践 ⑧(目標3)
第27回	調査研究の実践 ⑨(目標3)
第28回	研究テーマに関する最終発表 ③(目標1,4)
第29回	研究テーマに関する最終発表 ③(目標1,4)
第30回	総括

予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。

	展開	・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	基本的には，前期と後期２回の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に使用しない。	
推薦図書等	書籍名	『教育社会学』
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	9784491027289
参考URL	文部科学省ＨＰ　http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm	
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが要求される。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123023
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，自分の関心，テーマの明確化
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動の意味を考えながら読み取り，関連する研究を参考にできるようにする。 ２．乳幼児期の情緒発達研究を批判的に読み，自分なりの意見を持ち，考えをまとめられるようにする。 ３．乳幼児期の発達に関して，文章化や討論を通じて自分の関心や問題意識を探り明確化する。 ４．自分が関心を持つ先行研究を調べ，自分の研究テーマを明確化できるようにする。
学生の達成目標	1. 乳幼児の行動に関する記述や観察,関連研究を結びつけて,行動の意味や要因を考えられる 2. 乳幼児の行動を発達的にとらえ,自分なりの考えをまとめて,発表できる。 3. 乳幼児期の発達に関して,自分の視点と他者のそれとを比較し,自分の視点を深められる。 4. 乳幼児期の発達に関する先行研究などを調べて検討し,自分の研究テーマを定める。

授業内容	第1回	乳幼児期の情緒の現れ方と性格との関連を理解する(目標1,2)
	第2回	乳幼児期の情緒発達の筋道を理解しながら,認知や人間関係との関連を学ぶ(目標1,2)
	第3回	乳幼児期の社会性の発達に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
	第4回	乳幼児期の人の心の理解に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
	第5回	乳幼児の情緒をテーマとする記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第6回	乳幼児の社会性に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第7回	乳幼児の遊びに関する記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標2,3)
	第8回	乳幼児の人の心の理解に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第9回	研究テーマの決め方や研究の方法について学ぶ(目標3,4)
	第10回	乳幼児期の発達に関する研究論文を読み合わせて,意見を述べ合う(目標1,2)
	第11回	乳幼児期の発達に関する研究論文を批判的に読み,改善すべき点について考える(目標2,3)
	第12回	学生自身が興味あるテーマについて,なぜ興味があるのかも含めて発表する(目標4)
	第13回	学生自身が情緒に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第14回	学生自身が社会性発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第15回	学生自身が個性の発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第16回	学生自身が遊びに関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第17回	社会性発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
	第18回	個性の発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
	第19回	研究論文における論理的思考について理解する(目標2,3)
	第20回	学生自身が情緒に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第21回	学生自身が社会性発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第22回	学生自身が個性の発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第23回	学生自身が遊びに関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)

	第24回	研究のための方法について理解する(目標3,4)
	第25回	研究のための方法の問題点について理解する(目標3,4)
	第26回	学生が関心を持っているテーマと目的について発表し,討論する(目標2,3,4)
	第27回	学生が関心を持っているテーマの研究の仕方を発表し,討論する(目標2,3,4)
	第28回	学生が関心を持っているテーマの予想される結果を発表し,討論する(目標2,3,4)
	第29回	社会性発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標3,4)
	第30回	個性の発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標3,4)
予習・復習の内容	予習	子どもの発達に関する本・論文を読み、自分なりの考えを持つ。
	復習	授業で出た資料を読み返し、自分のテーマとの関係を考える。
	展開	自分なりに調べたい点を明らかにしていく。
成績評価	評価の基準	子どもの行動の意味が分かる，自分の考えを文章化し発表できる，他者の考えと比較できる。
	評価の方法	レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特にない。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123024
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，論理学，情報科学，情報倫理学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	卒業研究の準備となるように，哲学・倫理学・論理学・情報科学分野の基礎的な知識と論理的思考法を獲得し，関連する諸問題についての背景知識と先行研究について情報を収集し整理する。 自身の関心のあるトピックを特定し，それについて概念分析を行えるようになることを目指す。 また，研究成果を他者にプレゼンテーションするために，概念分析の意義を理解する。本研究室で選択可能なテーマの例は，下記のとおりである。 ・哲学的，倫理学的な問題一般についての研究 ・人間の言語理解や論理的思考についての研究・情報機器と人間との関わりについての研究 ・情報教育の現状と今後の課題についての研究・依存症等の人間の合理的でない行為についての応用哲学的研究
学生の達成目標	1. 自身の関心のある領域を特定し,文献調査を行うスキルを獲得する。 2. 哲学・倫理学の中心的手法である概念分析の意義を理解できるようになる。 3. 概念分析の基礎である論理的思考のスキルを体得し,レポート等に活用できるようになる。

4. 自身で選択したトピックの背景と問題点とを論理的に説明できるようにする。

5. 情報科学に関連するトピックについて,概要を理解し,独自の主張を行えるようになる。

授業内容

第1回 イントロダクション:専門ゼミナール1の概要説明

第2回 哲学・倫理学における文献調査の意義(目標2)

第3回 文献収集(1):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)

第4回 文献収集(2):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)

第5回 文献収集(3):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)

第6回 中間報告(1):参考文献収集結果の報告

第7回 参考文献の調査(1):文献の収集と分類(目標1)

第8回 参考文献の調査(2):文献の要約(目標1)

第9回 参考文献の調査(3):概念の整理と分析(目標1)

第10回 中間報告(2-1):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)

第11回 中間報告(2-2):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)

第12回 論理的思考(1):論理的思考の一般的な考え方(目標3)

第13回 論理的思考(2):哲学・倫理学との関連(目標3)

第14回 論理的思考(3):情報科学との関連(目標3,5)

第15回 中間報告(3):レポート課題の発表

第16回 トピックの選択と選択理由の明示:概要説明

第17回 選択したテーマの理論的背景の分析(1)(目標4)

第18回 選択したテーマの理論的背景の分析(2)(目標4)

第19回 選択したテーマと関連する概念の整理(目標4)

第20回 中間報告(4):概念分析に関するプレゼンテーション発表

第21回 哲学・倫理学における思考実験:概要説明(目標2)

第22回 概念分析(1)(目標2)

第23回 概念分析(2)(目標2)

第24回 概念分析(3)(目標2)

第25回 中間報告(5):レポート課題の発表

第26回 選択したトピックと情報化社会との関連の考察(1)(目標5)

第27回 選択したトピックと情報化社会との関連の考察(2)(目標5)

第28回 選択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(1)

	第29回	選択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(2)
	第30回	まとめ
予習・復習の内容	予習	文献調査のために、多くの書籍を読む必要があります。ロジカル・シンキングについて基本的な知識を得ておいてください。
	復習	各回ごとに、文献調査に必要な手順を確認し、わからないところ、残った課題があるときは、復習しておいてください。
	展開	さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	ゼミナールへの参加度 60%，課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。 選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123025
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学、神経生理学、運動制御、実験実習、文献抄読
授業のねらい・概要	前半は運動遂行に伴う神経系を中心とした生理的変化について、その基礎を理論と演習を織り交ぜながら学習する。 後半は、実験実習および当該分野の文献調査等により身体運動の見識を深めていくと同時に、実験手法を習得することを目的とする。 ４年次の専門ゼミナール Ⅱおよび卒業研究につなげるため、本科目では基礎的・基本的な知識及び研究手法の獲得に重点を置く。
学生の達成目標	1. 講義・文献調査等を通して、自らの興味のある分野の知識を修得すること。 2. 実験方法・手順の基礎を理解し、再現性の高い実験手技を修得すること。 3. 実験データの取り扱い方(データ処理と統計分析)を修得し、研究を行う基礎的な力を修得する。 4. 実験などで得られた結果から客観的な考察ができ、4年次の卒業研究に繋げられる成果を得ること。
授業内容	第1回　　オリエンテーション(目標1,2,3,4)

第2回	機能解剖学(1);関節と運動(目標1)
第3回	機能解剖学(2);骨・筋(目標1)
第4回	機能解剖学(3);神経・脳(目標1)
第5回	運動生理学(1);神経の興奮と伝導(目標1)
第6回	運動生理学(2);運動単位と筋線維組成(目標1)
第7回	運動生理学(3);運動単位の動員と調節(目標1)
第8回	運動生理学(4);受容器と感覚情報(目標1)
第9回	運動生理学(5);脊髄反射(目標1)
第10回	運動生理学(6);神経回路の興奮と抑制(目標1)
第11回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(1)(目標1)
第12回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(2)(目標1)
第13回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標3,4)
第14回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標3,4)
第15回	実験実習;力発揮と筋電図(1)(目標2,3,4)
第16回	実験実習;力発揮と筋電図(2)(目標2,3,4)
第17回	実験実習;反射と運動(1)(目標2,3,4)
第18回	実験実習;反射と運動(2)(目標2,3,4)
第19回	実験実習;筋疲労(1)(目標2,3,4)
第20回	実験実習;筋疲労(2)(目標2,3,4)
第21回	実験実習;脳波(1)(目標2,3,4)
第22回	実験実習;脳波(2)(目標2,3,4)
第23回	文献抄読(1)(目標1,2,3,4)
第24回	文献抄読(2)(目標1,2,3,4)
第25回	文献抄読(3)(目標1,2,3,4)
第26回	文献抄読(4)(目標1,2,3,4)
第27回	文献抄読(5)(目標1,2,3,4)
第28回	文献抄読(6)(目標1,2,3,4)
第29回	文献抄読(7)(目標1,2,3,4)
第30回	総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	前半部では授業で扱う内容について、教科書を読んでくること。 文献抄読では、発表レジメを作成する。
	復習	前半部では毎回行う小テストに備えて、学習したことを復習すること。 後半部では、実験レポートを作成すること。
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度をレポート課題および小テストにて評価する。実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。また、授業に対する取り組み方も評価に含め、総合的に判断する。
	評価の方法	レポート課題 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%

教科書	書籍名	入門運動生理学
	著者名	勝田茂
	出版社	杏林書院
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	ISBN：4764410877

推薦図書等	書籍名	運動生理学20講
	著者名	勝田茂
	出版社	朝倉書店
	価格	3570円
	ISBN・ISSN	ISBN：4254690320

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123026
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て支援，親子支援，親と子どもと保育者の関係性，保育実践過程分析，質的研究
授業のねらい・概要	本ゼミナールでは、専門ゼミナール Ⅱでの課題研究に向けた基礎的な知識や手法を獲得する。 研究に必要な知識、手法等の習得と同時に、実践現場での学びやこれまでの科目学習における問題意識や関心の高い事柄に対して継続して検討し、報告して共有していく。 また、実践者として有効な経験値となるよう積み重ねていく。 なお、本ゼミナールではの児童福祉，保育の領域を扱うが，専門的な研究領域と研究手法については、上記「授業のキーワード」に代表される。
学生の達成目標	1. これまでの学習から、問題意識や関心の高い事柄を持ち、継続して検討する。 2. 研究における基礎的な知識や手法を習得する。 3. 報告書作成や報告発表における必要なスキルを習得する。 4. 上記のことをゼミ生間で共有し,実践に有効な経験値として蓄積する。
授業内容	第1回　　オリエンテーション

第2回	各自の発表1(1)問題意識,関心の高い事柄について発表 ① (目標1・4)
第3回	各自の発表1(2)問題意識,関心の高い事柄について発表 ② (目標1・4)
第4回	文献抄読(1)子どもの権利に関する文献 ① (目標2・4)
第5回	文献抄読(2)子どもの権利に関する文献 ② (目標2・4)
第6回	文献抄読(3)親子の関係性に関する文献 ① (目標2・4)
第7回	文献抄読(4)親子の関係性に関する文献 ② (目標2・4)
第8回	文献抄読(5)興味関心に合わせた文献 ① (目標2・4)
第9回	文献抄読(6)興味関心に合わせた文献 ② (目標2・4)
第10回	各自の発表2(1)テーマ設定 ① (目標1・4)
第11回	各自の発表2(2)テーマ設定 ② (目標1・4)
第12回	研究の基礎的な知識と手法(1)先行研究の方法 (目標2)
第13回	研究の基礎的な知識と手法(2)研究のデザイン (目標2)
第14回	研究の基礎的な知識と手法(3)演習 (目標2)
第15回	前期のまとめ,後期の確認
第16回	各自の発表3(1)先行研究と考察 ① (目標1・4)
第17回	各自の発表3(2)先行研究と考察 ② (目標1・4)
第18回	各自の発表3(3)先行研究と考察 ③ (目標1・4)
第19回	各自の発表3(4)先行研究と考察 ④ (目標1・4)
第20回	報告のスキル(1) pptスキル (目標3)
第21回	報告のスキル(2)プレゼンテーションスキル (目標3)
第22回	報告のスキル(3)報告書作成スキル (目標3)
第23回	各自の発表4(1)報告発表の進捗状況報告 ① (目標1・4)
第24回	各自の発表4(2)報告発表の進捗状況報告 ② (目標1・4)
第25回	各自の発表4(3)報告発表の進捗状況報告 ③ (目標1・4)
第26回	各自の発表4(4)報告発表の進捗状況報告 ④ (目標1・4)
第27回	各自の発表5(1)報告会リハーサル ① (目標1・3・4)
第28回	各自の発表5(2)報告会リハーサル ② (目標1・3・4)
第29回	各自の発表6(1)報告会 ① (目標1・3・4)
第30回	各自の発表6(2)報告会 ② (目標1・3・4) 全期のまとめ

予習・復習の内容	予習	研究したいテーマや内容に近い文献を探して読み、ゼミ生同士で報告できるように準備してくる。
	復習	ゼミ生の報告や指導も踏まえて自分の課題を整理し、再検討する。
	展開	他の領域の先行研究にもあたってみる。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%，研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123028
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国語科授業，授業論，学級づくり，指導技術，論文作成の基本
授業のねらい・概要	国語科授業の理論と方法を学び合うことによって，学級づくりの基本的な考え方を身につける。
学生の達成目標	1. 初等国語科教育の目標や意義を正しく理解し,指導に必要な知識と技術を身につける。 2. 授業に関しての知識理解を深め,授業構想を立てるための基本的な考え方を身につける。 3. 論文作成のための基礎的な考え方を理解する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　国語科授業に関しての基本的な指導法について，文献等から学ぶ。（目標1） 第3回　国語科授業に関しての基本的な指導法について，文献等から学ぶ。（目標1） 第4回　国語科授業に関しての基本的な指導法について，文献等から学ぶ。（目標1）

第5回　国語科授業に関しての基本的な指導法について，文献等から学ぶ。（目標1）

第6回　国語科授業を成立させていくための学級経営技術について学び合う。（目標2）
教室環境，ノート指導，板書，宿題の出し方，掲示物の作成，課題の出し方返し方
叱り方・ほめ方・認め方，問題行動を起こす子どもの扱い方，効果的・効率的な評価
学び合い・教え合い・認め合いを起こす授業等々について学ぶ。

第7回　国語科授業を成立させていくための学級経営技術について学び合う。（目標2）
教室環境，ノート指導，板書，宿題の出し方，掲示物の作成，課題の出し方返し方
叱り方・ほめ方・認め方，問題行動を起こす子どもの扱い方，効果的・効率的な評価
学び合い・教え合い・認め合いを起こす授業等々について学ぶ。

第8回　国語科授業を成立させていくための学級経営技術について学び合う。（目標2）
教室環境，ノート指導，板書，宿題の出し方，掲示物の作成，課題の出し方返し方
叱り方・ほめ方・認め方，問題行動を起こす子どもの扱い方，効果的・効率的な評価
学び合い・教え合い・認め合いを起こす授業等々について学ぶ。

第9回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第10回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第11回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第12回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第13回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第14回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第15回　授業シミュレーションや模擬授業を行い，授業技術について体験的に検証する。（目標1,2）

第16回　体験的に学んだ授業技術の理論的な背景を探る。（目標2）

第17回　体験的に学んだ授業技術の理論的な背景を探る。（目標2）

第18回　体験的に学んだ授業技術の理論的な背景を探る。（目標2）

第19回　体験的に学んだ授業技術の理論的な背景を探る。（目標2）

第20回　体験的に学んだ授業技術の理論的な背景を探る。（目標2）

第21回　「各自の課題」を明確にする。（目標3）

第22回　「各自の課題」を明確にする。（目標3）

第23回　「各自の課題」を明確にする。（目標3）

	第24回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第25回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第26回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第27回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第28回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第29回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。
	第30回	各自作成した小論文を検討し合う。（目標3） ポートフォリオを作成し，授業技術や指導技術についてまとめていく。

予習・復習の内容	予習	国語教育や授業論に関する文献を読んでいくこと。特に学習指導要領解説国語編は必読のこと。
	復習	授業中に作成したノート等を暫時まとめていくこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。
	展開	小学校における授業法を学び，課題を発見できるようにする。

成績評価	評価の基準	国語の授業法と理論及び児童の主体的な学びのための授業論等について体験を通して，課題の発見と解決の方法を見出すことができることを合格基準とする。
	評価の方法	ポートフォリオ（レポート含む）50%，小論文40%，プレゼンテーション10%

教科書	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7

推薦図書等

参考URL

	年に数回程度，小学校への授業研究会への参加や公開授業研究会への参加，並びに全国規模の国語教育研究会への参加を求めていく。 また，小学校への授業ボランティア等も必要に応じて行うこと。
備考	電子辞書を携行すること。模擬授業等，体験を通して学ぶことを重視する。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。ディスカッションを多用する。

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123029
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験，観察
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる教育内容や指導方法及び子供の自然概念の発達を捉える評価の方法等を知り，子供の実態に即した授業研究や授業方法の開発を試みる。特に，子供の自然認識の実態についてのアセスメントの方法論を検討する。
学生の達成目標	1. 理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 2. 実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができる。 3. 主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるための努力ができる。 4. 教育現場での理科教育の実践を学ぶことができる。
授業内容	第1回　研究方法の習得を中心に,理科の文献を材料にして以下のことを学習する。(目標1,2) ①文献検索の方法 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方

第2回	研究方法の習得を中心に,理科の文献を材料にして以下のことを学習する。(目標1,2) ①文献検索の方法 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方
第3回	研究方法の習得を中心に,理科の文献を材料にして以下のことを学習する。(目標1,2) ①文献検索の方法 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方
第4回	研究方法の習得を中心に,理科の文献を材料にして以下のことを学習する。(目標1,2) ①文献検索の方法 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方
第5回	研究方法の習得を中心に,理科の文献を材料にして以下のことを学習する。(目標1,2) ①文献検索の方法 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方
第6回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第7回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第8回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第9回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第10回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第11回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第12回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育
第13回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関

連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育

第14回　小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2)
①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育

第15回　小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を用いて以下の学習活動を行う。(目標1,2)
①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③実験・観察の開発と工夫 ④子供の自然認識と学習内容の関連 ⑤海外における理科教育と日本の理科教育

第16回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第17回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第18回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第19回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第20回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第21回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第22回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第23回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第24回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第25回　具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方法を探っていく。(目標1,2,3)
①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法

第26回　小学校理科授業の設計(目標1,2,3,4)
①授業の設計 ②授業の実践 ③実験・観察の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表

第27回　小学校理科授業の設計(目標1,2,3,4)
①授業の設計 ②授業の実践 ③実験・観察の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表

	第28回	小学校理科授業の設計(目標1,2,3,4) ①授業の設計 ②授業の実践 ③実験・観察の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表
	第29回	小学校理科授業の設計(目標1,2,3,4) ①授業の設計 ②授業の実践 ③実験・観察の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表
	第30回	小学校理科授業の設計(目標1,2,3,4) ①授業の設計 ②授業の実践 ③実験・観察の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表
予習・復習の内容	予習	次回までに課題及び問題の解決を図る。
	復習	次回までに課題及び問題の解決を図る。
	展開	実際の自然の事物・現象を用いた小学校理科の授業計画を立てることができる。
成績評価	評価の基準	理科教育の一般的な内容と，それに伴う指導方法，及び今日的な課題を捉えられたかどうか。自分なりに研究の方向を見出そうとしているか。
	評価の方法	学習ポートフォリオ，パフォーマンステスト，レポート，学習への取り組み方について総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。観察や実験及びいろいろな工作に興味・関心を持っている学生は大いに歓迎する。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123030
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，保育現場，教材研究，専門性
授業のねらい・概要	保育現場で有用な専門性を携え，実践力養う。
学生の達成目標	1. 保育実践で使える教材研究 2. 保育現場で行なわれる行事の体験的理解 3. パフォーマンスを通した専門性の育成
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　教材研究(スライム)(目標1) 第3回　教材研究(牛乳パック人形)(目標1) 第4回　教材研究(牛乳パックカエル)(目標1) 第5回　教材研究(牛乳パック遊び)(目標1) 第6回　教材研究(タオル人形)(目標1) 第7回　教材研究(ペーパー芯人形)(目標1)

第8回	教材研究(新聞紙シアター)(目標1)
第9回	教材研究(新聞紙製作)(目標1)
第10回	教材研究(スノードーム)(目標1)
第11回	教材研究(ごっこ遊びアイテム)(目標1)
第12回	教材研究(ごっこ遊びアイテム)(目標1)
第13回	教材研究(ごっこ遊びアイテム)(目標1)
第14回	教材研究(個人遊びアイテム)(目標1)
第15回	教材研究(集団遊びアイテム)(目標1)
第16回	行事(入園式)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第17回	行事(健康診断)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第18回	行事(子どもの日)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第19回	行事(保育参観)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第20回	行事(発表会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第21回	行事(運動会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第22回	行事(食育)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第23回	行事(秋の遠足)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第24回	行事(クリスマス会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第25回	行事(作品展)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第26回	行事(お正月)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第27回	行事(豆まき)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第28回	行事(おひな祭り)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第29回	行事(進級)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第30回	行事(卒園式)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)

予習・復習の内容	予習	製作に必要な教材の準備や素材の特徴を理解しておくこと。
	復習	製作過程の詳細記述を記録に残しておくこと。
	展開	

成績評価	評価の基準	学生の達成目標への達成度。
	評価の方法	授業への参加状況50%，課題提出50%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS201
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124023
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証的な研究，定量・定性的調査，教育とジェンダー，現代の教育問題
授業のねらい・概要	ゼミナール Ⅱ（教育社会学ゼミ）は，ゼミナール Ⅰの学びの上に立つ。当然視されている通念を問い直し，個人の教育体験を客観視し，相対化する能力を養う。 併せて，さまざまなデータや調査を通して教育社会学的分析の方法や文献の読み方を習得し，卒業研究の作成に資することを目的とする。
学生の達成目標	1. 教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2. 先行研究を批判的に読む力が身につく。 3. 学びの集大成として,卒業論文へつなげることができる。 4. 最終回の卒業研究発表の場で,自らの卒業論文をわかりやすく構成し,プレゼンする力を獲得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション:専門ゼミナール Ⅱの目的と年間授業計画(目標1)

第2回	担当教員の研究 ①「教育とジェンダー」「教育分野の男女共同参画」(目標1,2)
第3回	担当教員の研究 ②「少子社会における子育て環境」「教師のキャリア形成」(目標1,2)
第4回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方A(目標1,2)
第5回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方B(目標1,2)
第6回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方C(目標1,2)
第7回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方D(目標1,2)
第8回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方E(目標1,2)
第9回	研究テーマに関する発表 ①(目標3)
第10回	研究テーマに関する発表 ①(目標3)
第11回	研究の方法:定性的研究(面接調査)(目標3)
第12回	研究の方法:定性的研究(参与観察)(目標3)
第13回	研究の方法:文献・統計資料 ①(目標3)
第14回	研究の方法:文献・統計資料 ②(目標3)
第15回	論文の書き方:課題設定等(目標3)
第16回	論文の書き方:引用参考文献の書き方・註のつけ方・引用の示し方(目標3)
第17回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
第21回	調査研究の分析 ①(目標3)
第22回	調査研究の分析 ②(目標3)
第23回	調査研究の分析 ③(目標3)
第24回	調査研究の分析 ④(目標3)
第25回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ①(目標3)
第26回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ②(目標3)
第27回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ③(目標3)
第28回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ④(目標3)
第29回	研究テーマ(卒業研究)に関する報告書の作成 ②(目標4)
第30回	総括(目標4)

予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	基本的には，前期と後期の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に使用しない。毎回、資料を配布する。	
推薦図書等	書籍名	『教育社会学』2011年、
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784491027289
参考URL		
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，卒業研究
授業のねらい・概要	卒業研究と関連させながら，数量形にかかわる課題を明らかにし，検討を加えつつ課題を追求する。 自らの計画に従い，研究を実践していく方法を会得し，まとめができるようにする。 また，思考力・表現力等の今日的算数教育のあり方についても究明できるようにする。
学生の達成目標	1. 卒業研究にむけて,研究の課題(テーマ)を明らかにできる。 2. 研究の方法を会得することができる。 3. 主体的に実践に取り組み検討を加えつつ研究を進め,実践結果をまとめる力を身に付けることができる。 4. 算数教育の今日的課題をつかみ,研究実践に活かすことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(研究の進め方) (目標1) 第2回　研究課題についての究明 (目標1) 現状における算数教育の問題点の究明１ 第3回　現状における算数教育の問題点の究明２(目標1)

第4回　新教育課程における算数科の新たな方向１(思考力と表現力等)(目標1)

第5回　新教育課程における算数科の新たな方向２(思考力と表現力等)(目標1)

第6回　算数教育にかかわる先行研究の課題の分析と計画の立案　１(目標1)

第7回　算数教育にかかわる先行研究の課題の分析と計画の立案　２(目標1)

第8回　研究の内容,研究方法,実践の仕方の習得１ (目標2)

第9回　研究の内容,研究方法,実践の仕方の習得 ２(目標2)

第10回　研究の進め方 …研究課題に応じた研究方法についての検討(質問紙法,面接法, …)１(目標2)

第11回　研究の進め方 …研究課題に応じた研究方法についての検討(質問紙法,面接法, …)２(目標2)

第12回　調査問題等の作り方,数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み１(目標2)

第13回　調査問題等の作り方,数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み２(目標2)

第14回　前期のまとめと今後の課題１ (目標2)

第15回　前期のまとめと今後の課題２ (目標2)

第16回　研究の実践について (目標3)

第17回　算数科における実践研究の事例の分析１(目標3)

第18回　算数科における実践研究の事例の分析２(目標3)

第19回　課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討１(目標3)

第20回　課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討２(目標3)

第21回　算数教育にかかわる現場の実践・研究会等に参加し視野を広める１(目標4)

第22回　算数教育にかかわる現場の実践・研究会等に参加し視野を広める２(目標4)

第23回　実践等の評価と研究のまとめ方について (目標3)

第24回　実践に基づく考察のしかた,結果の示し方,図 ,表の扱い方等について事例の研究１ (目標3)

第25回　実践に基づく考察のしかた,結果の示し方,図 ,表の扱い方等について事例の研究２ (目標3)

第26回　研究報告 ・準備１ (目標3)

第27回　研究報告 ・準備 ２(目標3)

第28回　研究の報告の仕方 １(目標3)

	第29回	研究の報告の仕方２（目標3)
	第30回	研究の総括 (目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回課題を明確に持ち、下調べをして研究内容を明確に説明できるようにしておく
	復習	指摘された内容を吟味し、修正を加え、新たな方策を見出していくこと
	展開	主体的に取り組み、資料を整理し、筋道立てて課題を追及していけるようにする。。
成績評価	評価の基準	研究課題を捕らえ，自分なりに研究実践を行い，まとめをすることができるか。
	評価の方法	実践の進め方・レポート（ 40%）実践の結果（ 40%）学習への取り組み方（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業に合わせて必要な書物，雑誌等の研究事例を示しこれを用いていく。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究のデザイン，研究方法，卒業論文の書き方の基礎・基本，論文のまとめと発表
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰにおける家庭科教育学及び生活科教育学の専門分野の内容（構造）の理解と，先行研究の分析・検討をふまえて，現代の生活課題を抽出し整理する。 これらの知見をもとに，よりよい卒業研究を志向して，各自の研究テーマを再確認し，研究を推進するためのそれぞれの基本的な研究方法を実際の演習を通して確実にする。 また，卒業論文を書くための論文の構成，書き方等の基礎・基本を学び，各自の研究のデザイン及び実践のプロセスを明確にし，プロセスにそって課題を解決しながら実践していく。 さらに，研究結果を，中間，最終とまとめ，ゼミナール Ⅱの授業において発表し，分析・検討する。
学生の達成目標	1. 家庭科教育学,生活科教育学の課題を整理し,自己の研究テーマを再確認する。 2. それぞれのテーマにそった研究方法について,具体的な演習を通して確実に身に付ける。 (主として統計的研究方法,実験的・実証的研究方法,哲学的・原理的研究方法等) 3. 卒業論文の構成,書き方等の基礎・基本を学ぶ。 4. 先行の卒業論文を読み込み,具体的な論文の書き方を学ぶ。

5. 各自の卒業論文のテーマにそって,研究のデザインを設計する。

6. 研究推進の具体的なプロセスを明確にし,課題解決しながら実行していく。

7. 論文の中間的まとめ,全体のまとめを行い,発表し,よりよいものにしていく。

授業内容

第1回 オリエンテーション(授業内容,スケジュール等)

第2回 教科教育学(家庭科教育,生活科教育)の課題を整理する。(目標1)

第3回 自己の研究テーマ・研究方法の再確認をする。(目標1,2)

第4回 ～

第5回 各種研究方法の演習(ゼミナール Ⅰの学習をふまえて具体的演習)(目標2)
○統計的研究方法 ○実験的・実証的研究方法
○哲学的・原理的研究方法 ○その他の研究方法(事例研究等)

第6回 ～

第7回 卒業論文の基本的な書き方を学ぶ。(目標3)

第8回 ～

第9回 先行の卒業論文を読み,具体的な論文の書き方を学ぶ。(目標4)

第10回 各自の研究のデザインを設計し具体的な実践プロセスを計画する。(目標5)

第11回 ～

第12回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第13回 課題と解決(目標6)

第14回 ～

第15回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第16回 課題と解決(目標6)

第17回 研究の中間的まとめ(目標7)

第18回 ～

第19回 中間発表の準備(含 パワーポイントの演習)(目標7)

第20回 ～

第21回 ゼミナールにおける中間発表会及び分析・検討(目標7)

第22回 ～

第23回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第24回 課題と解決(目標6)

第25回 ～

第26回 卒業論文発表会に向けて(目標7)

第27回 ～

第28回 ゼミナール Ⅱにおける卒業論文発表会及び分析・検討(目標7)

	第29回	まとめ(目標1～7)
	第30回	～
予習・復習の内容	予習	・自己の研究テーマに関連した内外の研究論文、専門誌等を読み理解しておくこと。 ・自己の研究に即した課題を明確にしておくこと。 ・先行研究等を読み、論文の書き方を理解しておくこと。
	復習	・毎回の授業で留意しておくべきことをノートに整理すること。 ・予め持っていた課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・次回までに論文を進め、そこにおける課題を整理しておくこと。
	展開	・機会を捉えて自己の研究テーマに関連した学会や研究会等に参加し、研究を拡大・深化させる。
成績評価	評価の基準	授業を通して，家庭科教育，生活科教育に関わる内容や課題を明確にし，よりよいあり方を志向して，各自の研究のデザインにそって主体的に研究を推進する意欲と適切なプロセスを踏んで，卒業論文を完成できる能力があることを合格基準とする。
	評価の方法	提出レポート（レジュメと毎回の小レポート），研究をまとめ発表する力，平常点（毎回の取り組みの意欲と態度）等を総合的に判断する。 レポート（レジュメと毎回の小レポート） 50%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 25%，発表用図表25%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント資料等の配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考	主体的に研究に取り組む態度と研究をまとめる能力が望まれる。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，事例研究，発達障害，不登校
授業のねらい・概要	支援の必要な幼児・児童の早期発見，早期支援のできる教育者になるべく，文献や事例を通して学びを深める。 また，卒業論文の構成・書き方について理解し，卒業研究に沿った問題の提起・解決と体験的学びを深める。
学生の達成目標	1. 自分の研究テーマに沿った文献等の検索をし,情報を収集することができる。 2. 収集した研究資料について分析する。 3. 支援の必要な子どもにかかわるアセスメント力や対応について学びを深める。 4. 研究テーマを追求するために必要な研究方法やまとめ方について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究目的の検討(目標4) 第3回　文献調査(1) 情報収集(目標1)

第4回	文献調査(2) 情報収集(目標1)
第5回	研究のデザイン作成(1)(目標4)
第6回	研究のデザイン作成(2)(目標4)
第7回	研究資料の分析(1) 先行研究の確認 (目標4)
第8回	研究資料の分析(2)(目標2)
第9回	研究資料の分析(3)(目標2)
第10回	研究方法の確認と作成(質問紙・面接等)(目標4)
第11回	アセスメント法(1)(目標3)
第12回	アセスメント法(2)(目標3)
第13回	ABC分析(1)(目標3)
第14回	ABC分析(2)(目標3)
第15回	前期まとめと今後の課題
第16回	研究内容の再確認(目標4)
第17回	研究上の課題検討(1)(目標4)
第18回	研究上の課題検討(2)(目標4)
第19回	研究上の課題検討(3)(目標4)
第20回	研究上の課題検討(4)(目標4)
第21回	研究のまとめ(1) 目的の検討(目標4)
第22回	研究のまとめ(2) 方法の検討(目標4)
第23回	研究のまとめ(3) 結果の検討(統計的処理)(目標4)
第24回	研究のまとめ(4) 結果の検討(目標4)
第25回	研究のまとめ(5) 考察の検討(目標4)
第26回	研究のまとめ(6) 考察の検討(目標4)
第27回	研究のまとめ(7) 見直しと修正(目標4)
第28回	研究のまとめ(8) 研究方法の検討(目標4)
第29回	研究報告
第30回	後期の研究のまとめ

予習・復習の内容	予習	・コンピュータ操作技術を高める。 ・研究テーマに沿った論文を探し、読む。 ・自分の卒業研究デザインを描くことができる。 ・自分の学びたい内容を明確にして授業に臨む。
	復習	・毎時の内容をまとめる。 ・わからないことを明確にし、次の授業につなげる。
	展開	・わからないことを調べる、まとめるということを意識して行う。 ・考えを具体的にしていくためにはどうしたらよいかを考える。

成績評価	評価の基準	・教育研究の方法論と技術・態度を身につける。 ・研究を主体的に進め、適切なプロセスを踏んで卒業論文が完成できる能力を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	「発表」「態度」 40%，レポート： 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じて用意する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124026
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　道徳の時間の役割　人とのかかわり　伝える力
授業のねらい・概要	主として，道徳教育，道徳の時間における指導法の改善，人とのかかわりにおいて，課題や問題の捉え方を明らかにする。 個々の研究の特質を尊重しつつ，児童の発達や学習の実態把握の方法，授業研究の方法，文献研究について学び，卒業研究の基礎となるようにする。 人間教育に重要な意味を持つ道徳性の発達，生きる力の育成について現場教員の取り組みを直接に学ぶ機会も取り入れる。
学生の達成目標	1.　教育現場における道徳教育の研究について視野を広げることができる。 2.　研究テーマを追及する手順や方法が分かり,自らの研究テーマを設定し、研究課題を追求することができる。 3.　研究をまとめ,聴き手に伝わる効果的な発表をすることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（今後の見通しについて） 第2回　プレゼンテーションについて（目標３） 第3回　学校教育における道徳教育の現状と課題・研究紀要の熟読(目標１) 第4回　研究課題及び研究の進め方について(目標２)

第5回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
第6回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
第7回	研究課題についての協議(目標２)
第8回	研究課題についての協議(目標２)
第9回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第10回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第11回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第12回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第13回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第14回	研究レポートの作成（目標３）
第15回	研究レポートの作成　中間発表の準備（目標３）
第16回	研究レポートの作成　　中間発表の準備（目標３）
第17回	研究レポートの作成　　中間発表会（目標３）
第18回	研究レポートの作成（目標３）
第19回	研究レポートの作成（目標３）
第20回	研究レポートの作成（目標３）研究の進捗状況について(目標２)
第21回	研究レポートの作成（目標３）研究の進捗状況について(目標２)
第22回	研究レポートのまとめ（目標３）
第23回	研究レポートのまとめ（目標３）
第24回	研究レポートのまとめ（目標３）
第25回	研究成果の発表準備(研究のプレゼンテーション作成)（目標３）
第26回	研究成果の発表準備(研究のプレゼンテーション作成）（目標３）
第27回	研究成果の発表準備(研究のプレゼンテーション作成）（目標３）
第28回	研究成果の発表準備(研究のプレゼンテーションリハーサル、練り直し)（目標３）
第29回	研究成果の発表準備(研究のプレゼンテーションリハーサル)（目標３）
第30回	研究成果の発表準備・発表(研究のプレゼンテーション)研究のまとめと評価（目標３）

予習・復習の内容

予習	研究に関する書籍や研究論文を読み、情報収集をする。 教育現場における道徳,特別活動の研究について視野を広げる。 （観察、分析）
復習	研究に関わる言葉の吟味をする。 討論し合ったことをもとに、レポートやプレゼンテーションを練り直す。
展開	研究テーマや仮説について吟味する。 互いの研究について討論し合い、自分では気付かなかった見方や観点を取り入れて、研究を深める。

		効果的なプレゼンテーションについてディスカッションし、聴き手に伝わるプレゼンテーションについて考え、取り入れる。
成績評価	評価の基準	道徳教育の今日的課題をもとに，自己の研究テーマを設定，まとめを継続してやり通すことができたか。 また，発表に向けて分かりやすくまとめ、効果的なプレゼンテーションができたか。
	評価の方法	研究報告書（ 60%） 発表原稿・プレゼンテーション（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽曲分析，音楽用語，音楽文献学
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰで習得した知識や技術を一層深めるとともに，各自の研究テーマを深めるための資料による演習，観察，分析等を通して，卒業研究のテーマに沿った問題提起とその解決法を探る。 音楽に関する研究では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必須である為，音楽文献学に関しても学ぶ。
学生の達成目標	1. 問題意識が高まる 2. 疑問点を積極的に調べることができる 3. 研究成果をまとめる力が付く 4. 作品分析法を理解できる
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション 第2回　ゼミナール Ⅰの最終レポートでの問題点及び今後の課題 (目標1・2) 第3回　今後の課題と卒業研究との関連 (目標1・2)

第4回	論文と作品制作及び作品発表について (目標1・2)
第5回	卒業研究のテーマを絞る (目標1・2)
第6回	各自のテーマに関する文献検索法 (目標1・2)
第7回	簡単な英語の文献にも触れる。外国語の文献検索法 (目標1・2)
第8回	各自のテーマに関する英語の文献講読 (目標1・2)
第9回	各自のテーマに関する英語の文献の内容発表 (目標 2・3)
第10回	楽曲分析法(幼児・児童の歌) (目標 4)
第11回	楽曲分析法(簡単なピアノ曲) (目標 4)
第12回	楽曲分析法(小学校の鑑賞曲) (目標 4)
第13回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 3・4)
第14回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 3・4)
第15回	各自の研究テーマに関する作品分析 (目標 2・4)
第16回	分析データの活用法 (目標1・3・4)
第17回	論文作成法 (目標1・3)
第18回	研究作品作製法 (目標1・3)
第19回	各自の研究課題の中間報告 (目標1・2・3)
第20回	歴史的考察法 Ⅰ (目標1・2)
第21回	歴史的考察法 Ⅱ (目標1・2)
第22回	各自の研究テーマに関する歴史的考察 (目標1・2)
第23回	各自の研究テーマに関する歴史的考察の発表 (目標1・2・3)
第24回	各自の研究課題の成果発表及びディスカッション (目標1・3)
第25回	各自の研究課題の作成と推敲 (目標1・2・3)
第26回	各自の研究課題の完成に向けて (目標1・2・3)
第27回	各自の論文発表 (目標1・2・3)
第28回	各自の作品発表 (目標1・2・3)
第29回	論文及び作品の完成に向けて (目標1・2・3)
第30回	ゼミナール Ⅱのまとめ

予習・復習の内容	予習	各自が興味のある保育・教育現場の音楽活動で使用される楽曲を１曲選択して、独自の楽曲分析を試みる。
	復習	授業で行った楽曲分析法に沿って、再度自ら復習をして確認しておく。その際、歌詞と音楽の関係については特に留意する事。
	展開	音楽に関する研究のためには、作品分析法や音楽文献学等の知識が必要不可欠である。従って、本授業で学んだ事を卒業研究に大いに生かして欲しい。

成績評価	評価の基準	自ら選択した課題に対して積極的に取り組み，主体的に研究してまとめる事ができたか。

	評価の方法　　提出課題（ 50%），発表内容（ 30%），勉学意欲（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要な資料等はその都度，授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	音楽を理論的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。 卒業研究と関連させ研究的に深め学部研究の締めくくりを行う。
学生の達成目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について研究を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深める。 4. 卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。
授業内容	第1回　研究テーマを確認する。その１ 第2回　研究テーマを確認する。その２ 第3回　研究テーマについての検討。

第4回	研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)。　その１
第5回	研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)。　その２
第6回	小まとめ
第7回	研究テーマ,表題,研究目的,研究方法について確認する(目標1,2,3)。
第8回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その１(目標2,3)。
第9回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その２(目標2,3)。
第10回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その３(目標2,3)。
第11回	小まとめ
第12回	各自のテーマを掘り下げる　その１
第13回	各自のテーマを掘り下げる　その２
第14回	テーマ設定上の課題、方法上の課題を確認する
第15回	前期のまとめと後期への宿題の確認
第16回	後期オリエンテーション 前期に検討した宿題提出
第17回	テーマおよび課題の検討　その１
第18回	テーマおよび課題の検討　その２
第19回	先行研究について発表と討議　その１
第20回	先行研究について発表と討議　その１
第21回	研究成果を検討し,残された課題についても確認しまとめを行う(目標4)。
第22回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)。　その１
第23回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)。 その１
第24回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)。 その２
第25回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)。 その３
第26回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)。その２
第27回	成果の確認と課題検討　その１
第28回	成果の確認と課題検討　その２
第29回	総合的な検討　その１
第30回	総合的な検討　その２

予習・復習の内容	予習	早めに自身の課題を確認し、テーマ等の設定を行う。
	復習	試行や調査の結果を整理する。
	展開	先行研究の成果に位置づけを試みる。
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業への参加度 60%，発表とレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 各自の検索・調査資料および研究結果，先行研究を用いる。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害　実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を主とする教育実践の今日的課題を取り上げ、各自の問題意識も踏まえて、調査や文献検討などにより探究する。
学生の達成目標	1.　知的障害を主とした実践に関する探究をする。 2.　進路とも関連させてよりよい支援についても深める。 3.　研究の方法や探究の意義について理解を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション　ゼミの内容と進め方 第2回　文献調査（１）テーマに沿って収集①　（目標１） 第3回　文献調査（２）テーマに沿って収集②　（目標１） 第4回　文献調査（３）研究計画の確認①　（目標１） 第5回　文献調査（４）研究計画の確認②　（目標１） 第6回　文献調査発表　（目標３） 第7回　実地調査（１）テーマの確認①　（目標１，３）

第8回	実地調査（２）テーマの確認②	（目標１，３）
第9回	実地調査（３）課題の検討①	（目標１，３）
第10回	実地調査（４）課題の検討②	（目標１，３）
第11回	実地調査（５）研究計画の作成①	（目標１，３）
第12回	実地調査（６）研究計画の作成②	（目標１，３）
第13回	実地調査発表	（目標３）
第14回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理①（目標２）	
第15回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理②（目標２）	
第16回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理③（目標２）	
第17回	実践研究発表	（目標３）
第18回	実地調査（１）	（目標２，３）
第19回	実地調査（２）	（目標２，３）
第20回	実地調査（３）	（目標２，３）
第21回	実地調査（４）	（目標２，３）
第22回	実地調査のまとめ（１）	（目標４）
第23回	実地調査のまとめ（２）	（目標４）
第24回	実地調査の分析（１）	（目標４）
第25回	実地調査の分析（２）	（目標４）
第26回	レポート作成（１）；課題・目的	（目標３，４）
第27回	レポート作成（２）；方法・対象	（目標３，４）
第28回	レポート作成（３）；実践・経過	（目標３，４）
第29回	レポート作成（４）；考察	（目標３，４）
第30回	まとめ	（目標３）

予習・復習の内容	予習	各回の授業の内容に示している事柄ついて、自らのテーマに沿って取り組めるように事前に調べておく
	復習	取り組んだ内容や今後の方向など、指摘された事柄、意見をもとに考えをまとめ次回の授業につなげる。
	展開	文献や実践をもとに自分の考えや意見をきちんと伝えるとともに、疑問や意見から、テーマに関する内容をさらに掘り下げる。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標に準じる」
	評価の方法	発表とレポート課題　６０%，参加度 ４０%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124012
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	各自の研究テーマを追究するための研究方法について理解を深め，必要な研究資料を収集・分析し，後期の学期末までに研究成果をまとめる。
学生の達成目標	1. 研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解する。 2. 必要な研究資料を収集・分析する。 3. 自分が取り組んだ研究の成果をまとめる。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション 第2回　研究目的の検討(1)　何をどこまで明らかにしようとするか（目標1） 第3回　研究目的の検討(2)　仮説の検討（目標1） 第4回　研究方法の検討(1)　研究対象の検討（目標1） 第5回　研究方法の検討(2)　データの収集方法（目標1） 第6回　研究方法の検討(3)　データの分析方法（目標1）

第7回	研究方法の検討(4)　結果の表示方法（目標1）
第8回	研究方法の検討(5)　研究方法のまとめ（目標1）
第9回	研究資料の収集(1)　収集手順の検討（目標2）
第10回	研究資料の収集(2)　国内文献資料の収集状況（目標2）
第11回	研究資料の収集(3)　海外文献資料の収集状況（目標2）
第12回	研究資料の収集(4)　データの収集計画（目標2）
第13回	研究資料の収集(5)　データの収集手順（目標2）
第14回	研究資料の収集(6)　進捗状況の発表（目標2）
第15回	前期のまとめ（目標1，2）
第16回	後期のイントロダクション
第17回	収集した研究資料の分析(1)　データ確認（目標2）
第18回	収集した研究資料の分析(2)　データ分類（目標2）
第19回	収集した研究資料の分析(3)　データ集計（目標2）
第20回	収集した研究資料の分析(4)　グラフ作成（目標2）
第21回	収集した研究資料の分析(5)　統計分析（目標2）
第22回	収集した研究資料の分析(6)　分析結果のまとめ（目標2）
第23回	研究のまとめ(1)　「目的」の検討（目標3）
第24回	研究のまとめ(2)　「方法」の検討（目標3）
第25回	研究のまとめ(3)　「結果」の検討（目標3）
第26回	研究のまとめ(4)　「考察」の検討（目標3）
第27回	研究のまとめ(5)　「参考文献・引用文献」の検討（目標3）
第28回	研究のまとめ(6)　発表方法の検討（目標3）
第29回	研究のまとめ(7)　発表資料の検討（目標3）
第30回	後期のまとめ（目標1，2，3）

予習・復習の内容	予習	指定された課題について資料を収集・検討し，レポートにまとめておくこと。
	復習	発表及び協議の内容を整理し，まとめておくこと。
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。

成績評価	評価の基準	１）研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解していること。 ２）必要な研究資料を収集・分析していること。 ３）取り組んだ研究の成果を適切にまとめていること。
	評価の方法	平常点，発表，提出レポートにより評価する。 （平常点 30%，発表 30%，提出レポート 40%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124013
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども，教育，認知心理学，発達障害，自立支援
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもの保育・教育に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。卒業研究と関連させ，研究的に深め学部研究の締めくくりを行う。
学生の達成目標	1. 発達障害を中心とした子どもにかかわる実践や対応について研究を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 発達障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深める。 4. 卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究テーマの確認 第3回　研究目的・研究方法,研究計画について検討①(目標1,2,3)。 第4回　研究目的・研究方法,研究計画について検討②(目標1,2,3)

第5回	研究目的・研究方法,研究計画について検討③(目標1,2,3)
第6回	研究目的・研究方法,研究計画について検討④(目標1,2,3)
第7回	先行研究の収集・発表・討議①(目標1,2,3)
第8回	先行研究の収集・発表・討議②(目標1,2,3)
第9回	先行研究の収集・発表・討議③(目標1,2,3)
第10回	先行研究の収集・発表・討議④(目標1,2,3)
第11回	先行研究の収集・発表・討議⑤(目標1,2,3)
第12回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する①(目標1,2,3)
第13回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する②(目標1,2,3)
第14回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する③(目標1,2,3)
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション
第17回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する④(目標1,2,3)
第18回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑤(目標1,2,3)
第19回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑥(目標1,2,3)
第20回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する①(目標1,2,3)
第21回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する②(目標1,2,3)
第22回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する③(②目標1,2,3)
第23回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する④(②目標1,2,3)
第24回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う①(目標１,2,3)
第25回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う②(目標１,2,3)
第26回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う③(目標１,2,3)
第27回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う①(目標4)
第28回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う②(目標4)。
第29回	研究成果の発表
第30回	年間のまとめ

予習・復習の内容	予習	自分の研究テーマに関する文献・書籍を読み、まとめる。 実際のこどもとのかかわりにおいて、テーマとの関連について考えをまとめる。
	復習	討論の中で得た視点についてまとめ、新たに資料を収集し、掘り下げ、深める。

	展開	互いの研究について、それぞれのテーマとの関連について調べ、討議することで、研究を深める。
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業への参加度 60%，発表とレポート 40%
教科書	書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
	著者名	佐藤　暁
	出版社	学研
	価格	１７００円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	大学生のためのレポート・論文の書き方
	著者名	石井　一成
	出版社	ナツメ社
	価格	１１００円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	文書力の基本１００題
	著者名	阿部　紘久
	出版社	光文社
	価格	１０００円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	予定した回までに調査し，検討結果をまとめ発表等をする。 他の人の発表にも関心を持ち，積極的に討議し，自分の研究をふり返り，深めることを大切にする。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124015
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子ども，研究，考察
授業のねらい・概要	このゼミナールは３年次のゼミナール Ｉの発展として，卒業研究につなげていくことを意図して行うものである。 学習者は３年次に取り組んだ課題の中から，さらに深めて取り組むべき課題を設定し，知見を踏まえ，先行研究を調査し，研究の課題を明確にする。 研究を進めるために，相互に発表し，検討し合い，授業担当者の助言を得る。
学生の達成目標	1. 自分の研究に対して明確な目的意識をもち,適切な方法によって,真摯に研究を進めることができる。 2. 保育現場から得た資料を,研究の目的と方法に即して生かして用い,的確に考察することができる。 3. 自己の研究の状況をよく把握して,自ら研究を進めることができる。 4. 他者の研究についても良く理解して積極的に検討に参加することができる。
授業内容	第1回　ゼミ Ｉを振り返る。 (目標1) 関心のある事柄を絞り込む。 (目標1)

第2回　1卒業研究の進め方を学ぶ。（目標1）
　教科書の読み合わせ（第１回）

第3回　同上（第２回）

第4回　同上（第３回）

第5回　同上（第４回）

第6回　同上（第５回）

第7回　同上（第６回）

第8回　2 テーマに係る広い知識を得る。
文献資料からテーマに係る知見を学ぶ。 (目標1,2)

第9回　3 研究内容と方法を明確にする。（目標2.3）
　ゼミ内で話し合う。（目標4）

第10回　4テーマに関する先行研究を調査して資料を得る。 (目標1,2)（第１回）

第11回　同上（第２回）

第12回　同上（第３回）

第13回　5具体的な研究活動の進め方を定め,準備する。
　またゼミ内で話し合う。 (目標2，3，4)（第１回）

第14回　同上（第２回）

第15回　同上（第３回）

第16回　6 検討を加えながら,研究を進める
その都度研究の進捗状況を整理して報告する
他者や担当教員の助言を聴き,次の作業の方針を定める (目標2,3)
これを繰り返し,研究活動を継続する (目標2,3)

第17回　同上（第２回

第18回

第19回　7考察の結果をまとめる (目標3)（第１回）

第20回　同上（第２回）

第21回　同上（第３回）

第22回　同上（第４回）

第23回　8 研究の成果を考察する
仮説に照らして研究の結果を考察する 。(目標3)
またその内容を報告し合い話し合う。（第１回）

第24回　同上（第２回）

第25回　同上（第３回）

第26回　同上（第４回）

第27回　10 研究の結果を発表・報告する
ゼミナール内部で研究発表会を行い、検討会を行う。 (目標4)
（第１回）

	第28回	同上（第２回）
	第29回	11学外の研究協力者に対して報告と謝礼を行う(目標4)
	第30回	12自己の今後の研究的取り組みについて考える。（目標1.3）
予習・復習の内容	予習	自己の研究について、その経過と内容をゼミ内で発表出来るように準備する。
	復習	ゼミ内での話し合いを振り返り、得た助言等に基づいて改善を図る。
	展開	研究の仕方を身につけ、将来の現場における実践研究に取り組む意欲と力を養う。
成績評価	評価の基準	研究に対して主体的に意欲を持って取り組み，助言を受け入れ，適切に研究を進めることができたか。 研究のまとめや考察を適正に行うことができたか。 研究の成果を的確かつ十分に発表することができたか。
	評価の方法	研究結果とその発表（ 100%）
教科書	書籍名	よくわかる卒論の書き方
	著者名	白井利明　高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	２，５００円
	ISBN・ISSN	978-4-623-05111-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124017
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材開発，研究
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，各自の研究テーマを深める。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が演習や観察，分析活動を行う。
学生の達成目標	1. 資料,データーを収集し,研究課題を明確にし,研究に沿った教材研究や授業研究を行う。 2. 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら研究テーマをより深める。 3. 教材開発や授業研究を実践し,その結果をもとに研究内容を深め卒業研究にする。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の進め方) 第2回　課題設定と方法等の相談（目標１） 第3回　課題設定と方法等の決定（目標１） 第4回　論文の書き方（目標１）

第5回	研究テーマや課題設定と方法等の相談(目標1)
第6回	先行研究 関係資料の収集(目標1)
第7回	先行研究 関係資料の収集 文献研究(目標1)
第8回	研究内容の教材開発について(目標2)
第9回	保育現場の教材開発の実際(目標2)
第10回	保育現場の教材開発の作成(目標2)
第11回	保育現場の教材開発の考察(目標2)
第12回	保育現場の教材開発の考察,再検討(目標2)
第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
第14回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
第15回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
第16回	各自の研究課題の発表・協議(目標1)
第17回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3)
第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3)
第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3)
第20回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3)
第21回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データー等集計,分析(目標3)
第22回	調査の中間報告(目標３)
第23回	相互評価 修正(目標３)
第24回	論文にまとめる（目標３）
第25回	論文にまとめる（目標３）
第26回	論文にまとめる（目標３）
第27回	論文にまとめる（目標３）
第28回	研究のまとめ（目標３）
第29回	最終修正等（目標３）
第30回	発表　まとめ（目標３）

予習・復習の内容	予習	興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。
	復習	学習したことを整理し、更に資料や文献で調べ自分なりの考察を加える。
	展開	文献や幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら卒業論文を完成させる。

成績評価	評価の基準	課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容を基準とする。
	評価の方法	論文　発表（ 70%）研究課題への取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察 ・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124018
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，研究
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰでの学習を基礎として，音楽と教育に関わる知識や理解を一層深めるとともに，文献を探索し読み込む力，自分なりに問題を考察しそれをわかりやすく他者に伝える力を伸ばすことにより，各自が研究テーマを深め，卒業研究に益するよう援助する。
学生の達成目標	1. 自分の研究テーマを深め,自分なりに問題を考察しようとする意欲をもつ。 2. 考察の結果をわかりやすく他者に伝えようとする意欲・態度をもつ。 3. 考察の結果を論文としての体裁を整えまとめることができる。
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ①(目標1) 第3回　各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ②(目標1) 第4回　各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ①(目標1) 第5回　各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ②(目標1)

第6回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ③(目標1)
第7回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ④(目標1)
第8回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ⑤(目標1)
第9回	卒論テーマ計画書の作成(目標3)
第10回	文献を読み込み考察し文章化する ①(目標1,2)
第11回	文献を読み込み考察し文章化する ②(目標1,2)
第12回	文献を読み込み考察し文章化する ③(目標1,2)
第13回	文献を読み込み考察し文章化する ④(目標1,2)
第14回	文献を読み込み考察し文章化する ⑤(目標1,2)
第15回	卒業研究の中間発表 ①
第16回	卒業研究の章立ての検討(目標3)
第17回	参考文献目録作成の準備(目標3)
第18回	参考文献目録の作成(目標3)
第19回	要旨のまとめ方(目標3)
第20回	卒業研究の中間発表 ②(目標3)
第21回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ①(目標2,3)
第22回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ②(目標2,3)
第23回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ①(目標2,3)
第24回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ②(目標2,3)
第25回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ①(目標2,3)
第26回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ②(目標2,3)
第27回	検討をもとにしての改善点の確認 ①(目標2,3)
第28回	検討をもとにしての改善点の確認 ②(目標2,3)
第29回	各自の要旨の検討(目標3)
第30回	総括

予習・復習の内容	予習	各時に指示された課題に取り組む。
	復習	各時に明らかになった問題点を整理し、解決するための見通しを持つ。
	展開	研究の作法を身につけ、卒業後も自分なりのテーマを持ち、問題解決に努力する姿勢を持つ。

成績評価	評価の基準	毎週自分なりに課題を設定しその達成に努力したか。自己の研究テーマについて自分なりの考察を行うことができたか。 考察を論理の筋道が通った文で表すことができたか。
	評価の方法	毎週の自己の課題に対する取り組み（ 50%）と，問題意識を明確に持って筋道の通った文章を書けたかどうか（ 50%）で

評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜プリント等を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124019
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，子ども支援，親支援
授業のねらい・概要	今日の子ども，親が置かれている現代社会の状況について，事前学習を通した施設見学を行う中で理解を試みる。 また，各自の卒業研究テーマを確認し，研究を進めるための情報収集やその分析方法などの基本的研究方法を学ぶ。 加えて各自が関心のあるテーマを設定し，それを研究としてまとめ，発表できるようにする。
学生の達成目標	1. 子どもや親をとりまく現状について理解することができる。 2. 子ども支援、親支援の多様な形態を理解することができる 3. 今日の子ども,親をめぐる支援のあり方と課題についての研究をまとめ,発表することができる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について 第2回　子どもの権利について1（現代の子ども観）（目標1） 第3回　子どもの権利について2（親権をめぐって）（目標1） 第4回　子どもの権利について3（子どもの権利条約）（目標1）

第5回	研究テーマおよび概要の報告（目標1）
第6回	各種研究方法について（目標1,2）
第7回	研究計画についての検討（目標1,2）
第8回	施設見学事前学習（子育てサークル）（目標1,2）
第9回	施設見学（目標1,2）
第10回	施設見学後の振り返り（目標1,2）
第11回	施設見学事前学習1（児童養護施設の歴史的経緯）（目標1,2）
第12回	施設見学事前学習2（児童養護施設の機能）（目標1,2）
第13回	施設見学事前学習3（児童養護施設での子どもの暮らし）（目標1,2）
第14回	施設見学（目標1,2）
第15回	施設見学振り返り（目標1,2）
第16回	各種データの収集方法1（目標1,2）
第17回	各種データの収集方法2（目標1,2）
第18回	各種データの収集方法3（目標1,2）
第19回	公的な調査結果データを用いた分析方法の理解について1（目標1,2）
第20回	公的な調査結果データを用いた分析方法の理解について2（目標1,2）
第21回	公的な調査結果データを用いた分析方法の理解について3（目標1,2）
第22回	各自の研究内容についての検討1　（目的について）（目標1,2,3）
第23回	各自の研究内容についての検討2　（研究方法について）（目標1,2,3）
第24回	各自の研究内容についての検討3　（文献の引用について）（目標1,2,3）
第25回	各自の研究内容についての検討4　（結果について）（目標1,2,3）
第26回	各自の研究内容についての検討5　（考察について）（目標1,2,3）
第27回	各自の研究内容についての検討6　（全体を通して）（目標1,2,3）
第28回	研究成果報告の準備（目標1,2,3）
第29回	研究成果報告（目標1,2,3）
第30回	まとめ（目標1,2,3）

予習・復習の内容	予習	翌週のテーマに関連した内容について事前学習を行う
	復習	授業内容や意見交換で得られた発言、配布資料等を用いて、理解を確実にする

	展開	疑問等について、さらに文献等を用いて理解を深める
成績評価	評価の基準	子ども家庭福祉にかかわる多様な実践支援形態理解できていることと，子ども支援の現場で取り組み状況を子ども支援の現状を含めて整理し報告できることを合格基準とする。
	評価の方法	ゼミへの参加度（ 40%），報告及びレポート（ 60%）で評価を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124020
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，観察法，文献調査・抄読
授業のねらい・概要	本ゼミナールは，３年次の専門ゼミナール Ｉでの学びを受けて，保育実践の観察を行い，そのデータを情報交換しながら，「観察法」の技術を研鑽するとともに，観察した保育実践について，考察を加え，自身の気づきや学びにつなげていくことに重点を置きながら展開する。 また，専門ゼミナール Ｉから引き続き，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見をさらに深めていく。
学生の達成目標	1.　実践を観察し,自分の興味関心のある視点に沿って、考察を深める 2.　自分の興味関心のある分野の先行文献を読み、知見を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究目的および方法の確認（１） 第3回　研究目的および方法の確認（２） 第4回　先行文献の収集（１） 第5回　保育実践の観察(１)

第6回	保育実践の観察(２)
第7回	観察した実践に関する考察・討議(１)
第8回	保育実践の観察(３)
第9回	保育実践の観察(４)
第10回	観察した実践に関する考察・討議(２)
第11回	研究の進捗状況の確認および意見交換（１）
第12回	研究の進捗状況の確認および意見交換（２）
第13回	先行文献の収集（２）
第14回	先行文献の収集（３）
第15回	前期まとめ
第16回	後期オリエンテーション
第17回	研究の進捗状況の確認および意見交換（３）
第18回	研究の進捗状況の確認および意見交換（４）
第19回	保育実践の観察（５）
第20回	保育実践の観察（６）
第21回	観察した実践に関する考察・討議（３）
第22回	保育実践の観察(　７)
第23回	保育実践の観察(　８)
第24回	観察した実践に関する考察・討議(４)
第25回	研究のまとめ（１）目的
第26回	研究のまとめ（２）方法
第27回	研究のまとめ（３）結果と分析
第28回	研究のまとめ（４）考察
第29回	研究のまとめ（５）研究成果に関するプレゼンテーション
第30回	まとめ

予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマを明確にし、何を明らかにしたいのか、の視点を持ちながら観察に臨む。
	復習	観察データを各自のテーマに沿って確実にまとめていく。 意見交換後、修正等が生じた場合、それを素早く行う。
	展開	データ収集にあたっては、各現場の実情に応じて柔軟に対応する

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に準じる。
	評価の方法	授業への参加状況・内容：50% 提出レポート：50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124021
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校英語，教授法，理論，実践，論文
授業のねらい・概要	日本の小学校等における英語教育を効率よく効果的に行うための方策等を考案する。
学生の達成目標	1.　外国語教育の理論と実践を理解する 2.　研究対象とすべきテーマを決定する。 3.　調査や実験を行い,分析結果を論文にする。
授業内容	第1回　日本の小学校英語教育 第2回　ことばの学び 第3回　日本の英語教育と教授法 第4回　子どものための効果的な英語教授法 第5回　シラバス 第6回　授業活動 第7回　教室運営

	第8回	言語選択
	第9回	第一言語習得における音声言語の発達
	第10回	第二言語習得における音声言語の発達
	第11回	リスニング指導
	第12回	スピーキング指導
	第13回	リスニングの活動
	第14回	スピーキングの活動
	第15回	まとめ(1)
	第16回	リタラシー能力の発達
	第17回	リタラシー活動の実践
	第18回	単語を知るとは
	第19回	語彙獲得の過程
	第20回	語彙指導
	第21回	文法獲得の過程
	第22回	文法指導
	第23回	音声中心の語彙学習活動案
	第24回	文字中心の語彙学習活動案
	第25回	文法学習活動案
	第26回	小学生を対象とした英語学習の目標
	第27回	小学生を対象とした英語能力の測定
	第28回	これからの小学校英語教育
	第29回	卒業研究の内容発表
	第30回	まとめ(2) (授業の計画・内容は,上記目標1,2,3を総合的に扱い,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習	該当ページを熟読し、要旨とともに卒論のテーマとの関連性をA4の用紙１枚にまとめる。
	復習	ゼミでの議論に基づき、新たに発見したことを上記用紙に書き加える。
	展開	卒論の完成に向けて、新たに関連文献等を入手し、議論を深めることができるようにする。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%）, 課題・論文等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 アレン玉井光江，『小学校英語の教育法－理論と実践－』，大修館書店， 2010． 2,500円（税別） ISBN： 978 -4-469-24548-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124022
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，考えの筋道，研究方法の組み立て
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動研究の問題点を明確にし，解明すべき研究課題を具体化する。 ２．学生が関心を持つテーマに関する先行研究を調べ，研究方法を定める。 ３．テーマに沿って，文献研究や観察などを行い，考えを論理的にまとめる。 ４．テーマに沿った考えを発表することで，人に理解しやすいように考えをまとめる。
学生の達成目標	1. 乳幼児の行動の意味や要因を抽出し,その関連性・因果関係を明確にするための手続きを考えられる。 2. 乳幼児の行動に対する自分なりの考えを立証する方法を実践することで洗練化する。 3. 自分の研究をその領域の他の研究と関連づけ,意義を考えられる。 4. 自分の研究を論理的にまとめ,他の人を納得させられるように発表する。
授業内容	第1回　学生の興味を持つ情緒的行動に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)

第2回	学生の興味を持つ社会性発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
第3回	学生の興味を持つ遊びの発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
第4回	学生のテーマを解明するための手続きについて先行研究を紹介し,検討する(目標1,2)
第5回	学生の研究手続きについて問題点を指摘しながら,できることを考える(目標1,2)
第6回	保育現場などを見学し,研究できそうなテーマと方法を考える(目標1,2)
第7回	実際に見学したことに基づいて,具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第8回	学生自身が予備的な研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第9回	学生自身が変更した研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第10回	研究のために必要な用具や手続きマニュアルを準備する(目標1,2)
第11回	情緒的行動に関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第12回	社会性発達・遊びに関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第13回	情緒的行動に関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しながらまとめる(目標3,4)
第14回	社会性発達・遊びに関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しまとめる(目標3,4)
第15回	各自の研究に関する中間報告を行い,討論しながら補足する点を明確にする(目標3,4)
第16回	情緒的行動に関する研究の中間報告を行い,討論しまとめ方について検討する(目標3,4)
第17回	社会性発達・遊びに関する研究の中間報告を行い討論しまとめ方について検討する(目標3,4)
第18回	情緒的行動に関連する先行研究を読みながら,考えの進め方について検討する(目標3,4)
第19回	社会性発達・遊びに関連する先行研究を読み,考えの進め方について検討する(目標3,4)
第20回	学生が情緒的行動に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第21回	学生が社会性発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第22回	学生が遊びの発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第23回	情緒的行動に関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標3,4)

	第24回	社会性発達・遊びに関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標3,4)
	第25回	情緒的行動に関する補足的な材料や資料を追加して,討論しながらまとめを行う(目標3,4)
	第26回	社会性発達・遊びに関する補足的な材料や資料を追加し,討論してまとめを行う(目標3,4)
	第27回	改めて情緒発達や情緒的行動の研究を概観し,自分の研究の位置づけをする(目標2,3,4)
	第28回	改めて社会性・遊び発達の研究を概観しながら,自分の研究の位置づけをする(目標2,3,4)
	第29回	情緒発達研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標3,4)
	第30回	社会性発達・遊び研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標3,4)
予習・復習の内容	予習	自分の興味を持つ本を読む。
	復習	自分なりの考えを整理する。
	展開	自分なりに考えを整理しながら、必要なデータを集めて、趣旨にそったまとめができる。
成績評価	評価の基準	テーマにそった研究を論理的にまとめられる，情緒発達研究の中での位置づけができる。
	評価の方法	レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124024
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，論理学，情報科学，情報倫理学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ｉの発展として，特定のトピックについて，哲学・倫理学・論理学的アプローチを用いて分析する。 また，そのトピックについての先行研究を調査・整理し，関連する文献にあらわされる主張の比較検討および論理的妥当性の評価を行う。 最終的には，選択するトピックについて，問題点と，論理的に妥当な解決策の提示を行うことを目指す。 本研究室で扱うトピックは，下記の領域から選択する。 ・哲学的，倫理学的な問題一般についての研究 ・人間の言語理解や論理的思考についての研究・情報機器と人間との関わりについての研究 ・情報教育の現状と今後の課題についての研究 ・依存症等の人間の合理的でない行為についての応用哲学的研究
学生の達成目標	1. 特定のトピックについて,問題の背景を説明し先行研究の理論的妥当性を評価できるようになる。 2. 特定のトピックについて,哲学的/倫理学的アプローチの意義を説明できるようになる。 3. 特定のトピックについての複数の主張を概念的に分析し,比較検討できるようになる。

4. 論理的に妥当な解決策を提示できるようになる。

授業内容

第1回	イントロダクション:専門ゼミナール2の概要説明
第2回	哲学・倫理学における文献調査の手法 (目標1)
第3回	参考文献の調査(1):文献の選択 (目標3)
第4回	参考文献の調査(2):文献の要約 (目標3)
第5回	参考文献の調査(3):文献で扱われる概念の整理 (目標3)
第6回	中間報告とディスカッション(1)
第7回	トピック研究(1):トピックの収集と分類 (目標1)
第8回	トピック研究(2):問題の所在を明確にする (目標1)
第9回	トピック研究(3):背景知識と関連する議論の整理 (目標1)
第10回	中間報告とディスカッション(2)
第11回	哲学的/倫理学的アプローチとは(目標2)
第12回	哲学的/倫理学的アプローチの特徴 (目標2)
第13回	哲学的/倫理学的アプローチの意義と役割 (目標2)
第14回	中間報告とディスカッション(3)
第15回	トピック特定の手法:概要説明
第16回	先行研究の調査と整理(1) (目標3)
第17回	先行研究の調査と整理(2) (目標3)
第18回	先行研究の調査と整理(3) (目標3)
第19回	先行研究における主張の比較検討(1)(目標3)
第20回	先行研究における主張の比較検討(2) (目標3)
第21回	先行研究における主張の比較検討(3) (目標3)
第22回	中間報告とディスカッション(4):対立する主張の論理的整理
第23回	哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで(1):議論の整理 (目標4)
第24回	哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで (2):反論の構築(目標4)
第25回	中間報告とディスカッション(5)
第26回	解決策の論理的整理(1) (目標4)
第27回	解決策の論理的整理(2) (目標4)
第28回	プレゼンテーション発表とディスカッション(1):意見交換
第29回	プレゼンテーション発表とディスカッション(2):解決策の比較検討
第30回	まとめ

予習・復習の内容

予習	文献調査のために、多くの書籍を読む必要があります。ロジカル・シンキングについて基本的な知識を得ておいてください。

	復習	各回ごとに、文献調査に必要な手順を確認し、わからないところ、残った課題があるときは、復習しておいてください。
	展開	さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	ゼミナールへの参加度 60%，課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。 選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124025
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学，神経生理学，運動制御，実験実習，文献抄読
授業のねらい・概要	前半は、当該分野の最新の知見の理解することより身体運動に関する見識をより深め、当該分野における研究課題を明らかにすることをねらいとして、国内外の文献研究を行う。 後半は、主体的に研究を進める力を身につけることをねらいとして、前半の文献研究で明らかにした課題を基に履修生の主体的な興味・関心も踏まえながら研究課題および仮説を設定し，その仮説を検証する実験方法を立案する。そして、実際に実験を遂行し、得られた結果について客観的に考察する。最後に研究成果に関して、効果的なプレゼンテーションを行う。
学生の達成目標	1. 文献調査等を通して自らの興味のある分野の知識および理解を深め、研究課題を明らかにすること。 2. 研究仮説を検証する研究方法を立案し、研究を遂行できること。 3. 得られた実験データを正しく処理し、得られた結果から客観的な考察ができること。 4. 卒業研究に繋げられる研究方法および成果を得ること。 5. 研究成果について,効果的なプレゼンテーションができること。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1,2,3,4,5)
	第2回	文献抄読(1)(目標1,2,3,4,5)
	第3回	文献抄読(2)(目標1,2,3,4,5)
	第4回	文献抄読(3)(目標1,2,3,4,5)
	第5回	文献抄読(4)(目標1,2,3,4,5)
	第6回	文献抄読(5)(目標1,2,3,4,5)
	第7回	文献抄読(6)(目標1,2,3,4,5)
	第8回	文献抄読(7)(目標1,2,3,4,5)
	第9回	文献抄読(8)(目標1,2,3,4,5)
	第10回	論文構成の理解・作成法(1)(目標2,3,4,5)
	第11回	論文構成の理解・作成法(2)(目標2,3,4,5)
	第12回	研究課題の決定と予備実験(1)(目標1,2,3,4)
	第13回	研究課題の決定と予備実験(2)(目標1,2,3,4)
	第14回	研究課題の決定と予備実験(3)(目標1,2,3,4)
	第15回	実験(1)(目標1,2,3,4)
	第16回	実験(2)(目標1,2,3,4)
	第17回	実験(3)(目標1,2,3,4)
	第18回	実験(4)(目標1,2,3,4)
	第19回	実験(5)(目標1,2,3,4)
	第20回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標2,3,4,5)
	第21回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標2,3,4,5)
	第22回	レポート作成(1)(目標3,4,5)
	第23回	レポート作成(2)(目標3,4,5)
	第24回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(1)(目標3,5)
	第25回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(2)(目標3,5)
	第26回	プレゼンテーション資料の作成(1)(目標3,5)
	第27回	プレゼンテーション資料の作成(2)(目標3,5)
	第28回	レポート発表会および討論(1)(目標1,2,3,4,5)
	第29回	レポート発表会および討論(2)(目標1,2,3,4,5)
	第30回	総括
予習・復習の内容	予習	文献抄読では、発表用のレジメを作成すること。 実験においては、結果をまとめ、発表の準備をすること。
	復習	実験においては、データ解析およびレポート作成をすること。
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度をレポート課題および発表にて評価する。実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。また、授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	レポート課題 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%

教科書	書籍名	運動神経生理学講義
	著者名	マーク L ラタッシュ
	出版社	大修館書店
	価格	3200円
	ISBN・ISSN	ISBN：4469264849

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124027
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業論文、研究の方法、執筆方法
授業のねらい・概要	専門ゼミナールⅠでの学びを研究として発展させ、卒業論文に仕上げる。
学生の達成目標	1. 関心のあることを研究として深め、報告して共有することでさらに焦点化していく。 2. 研究の基本的な方法と論文の執筆方法を習得し、卒業論文として書き上げる。 3. プレゼンテーションスキルを習得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション、関心テーマの確認（目標1） 第2回　各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告①焦点化1（目標1） 第3回　各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告②焦点化2（目標1） 第4回　各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告③テーマ設定1（目標1）

第5回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告④テーマ設定2（目標1）
第6回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑤研究のデザイン1（目標1）
第7回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑥研究のデザイン2（目標1）
第8回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑦研究方法1（目標1）
第9回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑧研究方法2（目標1）
第10回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑨調査計画1（目標1）
第11回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑩調査計画2（目標1）
第12回	調査と分析①調査の実施1（目標2）
第13回	調査と分析②調査の実施2（目標2）
第14回	調査と分析③調査の実施3（目標2）
第15回	調査と分析④調査の実施4（目標2）
第16回	調査と分析⑤データ化1（目標2）
第17回	調査と分析⑥データ化2（目標2）
第18回	調査と分析⑦分析1（目標2）
第19回	調査と分析⑧分析2（目標2）
第20回	調査と分析⑨構造化1（目標2）
第21回	調査と分析⑩構造化2（目標2）
第22回	調査と分析⑪考察1（目標2）
第23回	調査と分析⑫考察2（目標2）
第24回	中間報告準備（目標2）
第25回	総合考察1（目標2）
第26回	総合考察2（目標2）
第27回	報告と検討1（目標2）
第28回	報告と検討1（目標2）
第29回	報告会準備（目標3）
第30回	全期のまとめ

予習・復習の内容	予習	関心テーマに近い論文を読み、論文のイメージを作っておく。
	復習	ゼミ生同士の報告やそれに対する指導から、自分の課題を整理して研究に活かす。
	展開	関心テーマに近い領域の文献をあたり、ゼミ生同士で共有したり、討議したりする。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%、研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124028
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究の進め方，論文のまとめ方，国語科授業，授業論，指導技術
授業のねらい・概要	国語科授業の理論と方法を学ぶことによって，わかりやすい授業の基本的な考え方を身につける。
学生の達成目標	1. 国語科教育の基本的な文献を読み深め,授業実践についての基本的な知識を身につける。 2. 授業に関しての知識理解を深め,児童の学ぶ意欲を向上させていく考え方について考察する。 3. 論文作成のための基礎的な考え方と発表方法を理解する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方(目標3) 第2回　研究論文記述の見通しを持つ。研究計画を立案する。（目標1,3）国語科教育の変遷等を調べる。授業論を調べる。 第3回　研究論文記述の見通しを持つ。研究計画を立案する。（目標1,3）国語科教育の変遷等を調べる。授業論を調べる。 第4回　研究の進め方について学び，研究計画を具体化する。（目標1,2,3）

（テーマ設定の方法，実態調査の方法，仮説の立て方，調査の進め方，検証法等々）

第5回　研究の進め方について学び，研究計画を具体化する。（目標1,2,3）
（テーマ設定の方法，実態調査の方法，仮説の立て方，調査の進め方，検証法等々）

第6回　研究の進め方について学び，研究計画を具体化する。（目標1,2,3）
（テーマ設定の方法，実態調査の方法，仮説の立て方，調査の進め方，検証法等々）

第7回　計画に従って研究を進め，途中経過を報告し合い研究の方向と方法を確定していく。
国語科教育の諸課題について把握し，課題を精選する。(目標2,3)

第8回　計画に従って研究を進め，途中経過を報告し合い研究の方向と方法を確定していく。
国語科教育の諸課題について把握し，課題を精選する。(目標2,3)

第9回　計画に従って研究を進め，途中経過を報告し合い研究の方向と方法を確定していく。
国語科教育の諸課題について把握し，課題を精選する。(目標2,3)

第10回　計画に従って研究を進め，途中経過を報告し合い研究の方向と方法を確定していく。
国語科教育の諸課題について把握し，課題を精選する。(目標2,3)

第11回　国語研究会への参加や，実地調査等により深めた研究内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第12回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第13回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第14回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第15回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第16回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第17回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第18回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第19回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

第20回　内容を発表し合い検討する。
フィールドワークの技法や談話分析等について学ぶ。(目標2,3)

	第21回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第22回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第23回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第24回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第25回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第26回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第27回	まとめた論文または途中経過を発表し合い，最終的な仕上げにむかえるようにする。（目標3）
	第28回	まとめあげた論文のプレゼンテーションについて検討し合う。（目標3）
	第29回	まとめあげた論文のプレゼンテーションについて検討し合う。（目標3）
	第30回	まとめあげた論文のプレゼンテーションについて検討し合う。（目標3）
予習・復習の内容	予習	国語科教育や授業論に関する文献を読んでいくこと。特に学習指導要領解説国語編は必読のこと。
	復習	授業中に作成したノート等を暫時まとめていくこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。
	展開	授業の在り方や指導法について，論文としてまとめわかりやすく発表できるようにする。
成績評価	評価の基準	国語教育・授業・学級経営等をキーワードに自ら設定した課題に対し，真摯に研究を進めることを合格基準とする。
	評価の方法	論文80%，プレゼンテーション20%
教科書	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	
	出版社	東洋館出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7
推薦図書等		
参考URL		

	国語科教育や授業論に関する研究を通して，授業実践に向かう基本的な姿勢や方法を学んでいく。 年に数回程度，小学校での授業研究会への参加や公開授業研究会への参加，全国規模の国語教育研究会への参加を求めていく。
備考	また，小学校でのボランティアも必要に応じて行うこと。 電子辞書を携行すること。筋の通った論文を書けるよう努力すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。ディスカッションを多用する。

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124029
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験，観察
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる教育学的な内容の修得，教材論，指導論，子供の自然に対する認知等の基礎的な領域についての知識を習得する。それらを活用して，子供の実態に即した授業設計や授業評価の方法の開発を試みる。
学生の達成目標	1. 理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 2. 実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができる。 3. 主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるため,先行研究の検索ができる。 4. 教育現場での理科教育の実践を学ぶことができる。 5. 研究テーマを決定し,先行研究の収集,研究方法の決定と推進に努める。 6. 卒業論文作成と論文発表
授業内容	第1回　研究方法の習得(目標1,2,3,5,6) ①文献検索の方法 図書館の利用 Web検索 ②論文の読み方

第2回	研究方法の習得(目標1,2,3,5,6) ①文献検索の方法 図書館の利用 Web検索 ②論文の読み方
第3回	研究方法の習得(目標1,2,3,5,6) ①文献検索の方法 図書館の利用 Web検索 ②論文の読み方
第4回	研究方法の習得(目標1,2,3,5,6) ①文献検索の方法 図書館の利用 Web検索 ②論文の読み方
第5回	研究方法の習得(目標1,2,3,5,6) ①文献検索の方法 図書館の利用 Web検索 ②論文の読み方
第6回	研究テーマの絞り込み 小学校学習内容より実験・観察項目の選択(目標1,2,3,4,5,6) ①学習指導要領と自然概念の構成 ②研究テーマ内容の構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第7回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第8回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第9回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第10回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第11回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第12回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第13回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第14回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第15回	構造分析 ③研究テーマに沿って既成の実験観察器具による実験・観察の試行 ④試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤中間発表
第16回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
第17回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
第18回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼

	第19回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第20回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第21回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第22回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第23回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第24回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第25回	実験・観察器具の開発と試行(目標3,4,5,6) ①器具の製作と改良 ②協力小学校での試行の依頼
	第26回	小学校理科での実践(目標3,4,6) ①授業の設計 ②授業における実践 ③試用した実験・観察器具の評価 ④論文のまとめ ⑤まとめと発表
	第27回	小学校理科での実践(目標3,4,6) ①授業の設計 ②授業における実践 ③試用した実験・観察器具の評価 ④論文のまとめ ⑤まとめと発表
	第28回	小学校理科での実践(目標3,4,6) ①授業の設計 ②授業における実践 ③試用した実験・観察器具の評価 ④論文のまとめ ⑤まとめと発表
	第29回	小学校理科での実践(目標3,4,6) ①授業の設計 ②授業における実践 ③試用した実験・観察器具の評価 ④論文のまとめ ⑤まとめと発表
	第30回	小学校理科での実践(目標3,4,6) ①授業の設計 ②授業における実践 ③試用した実験・観察器具の評価 ④論文のまとめ ⑤まとめと発表
予習・復習の内容	予習	次回までに課題及び問題の解決を図る。
	復習	次回までに課題及び問題の解決を図る。
	展開	実験観察を主体とした小学校理科分野の授業展開について、意図が明確な計画を立て実践することができる。
成績評価	評価の基準	理科教育の基礎的な知識の獲得。研究テーマの確定と研究の過程で自己の能力を発揮したか。新しい教材・教具を開発できたか。自分なりに研究の方向を見いだそうと努力したか。
	評価の方法	学習ポートフォリオ，研究論文，協力小学校での試行の様子，研究への取組み状況を総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であること。特に小学校で行われる実験は経験していることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。授業を実際に観察したり，子供の行動を観察することもある。

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124030
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，事例研究，支援技法
授業のねらい・概要	生き難さをかかえた子どもへの支援を学び，事例研究をまとめる。
学生の達成目標	1. 生き難さをかかえた子ども理解の方法を知る。 2. 生き難さをかかえた子どもの遊び支援の方法を知る。 3. 保護者支援の方法を学ぶ。
授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1) 第3回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1) 第4回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1) 第5回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1) 第6回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1) 第7回 子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1)

第8回	子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1)
第9回	子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1)
第10回	子ども理解の方法1 教育カウンセリング技法(目標1)
第11回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第12回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第13回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第14回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第15回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第16回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第17回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第18回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第19回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第20回	子ども理解の方法2 集団遊びを通しての理解(目標2)
第21回	保護者支援(目標3)
第22回	保護者支援(目標3)
第23回	保護者支援(目標3)
第24回	保護者支援(目標3)
第25回	保護者支援(目標3)
第26回	保護者支援(目標3)
第27回	保護者支援(目標3)
第28回	保護者支援(目標3)
第29回	保護者支援(目標3)
第30回	保護者支援(目標3)

予習・復習の内容	予習	３年次教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	復習	授業概要を記録しておくこと。
	展開	

成績評価	評価の基準	学生の達成目標への達成度。
	評価の方法	授業への参加状況50%，課題提出50%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

発達　キャリア演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS302
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	発達　キャリア演習Ⅲ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	安藤　則夫 加藤　悦子 髙木　夏奈子 川口　由起子 広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1132001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	就職試験対策、就職状況、社会人力、情報活用力
授業のねらい・概要	キャリア選択を明確にして、1，2年生で培った知識や態度を基礎に、より実践的な力を身につけ、確かなものにする。そして、キャリア達成のために努力することやスキル能力を高める。
学生の達成目標	1. 社会人としての知識を身につける 2. キャリアに関しての情報を集め、情報を選択できる 3. 自ら選択した職業（専攻分野）についての知識や技能を一層確かなものにする。 4. それぞれの目標が達成できるように試験対策をする。また、実践的能力を高める。

授業内容	第1回	年間計画・履修登録・学内マナー 就職関係説明（目標２）
	第2回	情報を得る（目標２） 小・特：教員採用説明会（県教育庁）4年生と合同 幼・保：保育・幼稚園その他就職進路説明会 発達：就職進路説明会
	第3回	小、特：実践演習①ワンポイントレッスンと板書の仕方（目標３） 幼・保：履歴書の書き方（自己ＰＲ）（目標３） 実技試験の動向 発達：話し方とワンポイントレッスン（目標３）
	第4回	小・特：授業実践演習②授業の見方（目標３） 幼・保：模擬試験問題と解説「教育原理」（目標２） 発達：進路の研究①（目標２）
	第5回	小・特：授業実践③子どもへの働きかけ方（集団への対応）（目標3) 幼・保：幼保の就職について、子ども対応への基礎 実習中の課題（目標３） 発達：進路の研究②（目標１）
	第6回	ＤＶ（ハラスメント・人権）について（目標１）
	第7回	時事問題と新聞の読み方（目標１）
	第8回	小：試験対策①「国語」（目標４） 特：試験対策①「教育制度」（目標４） 幼・保：作文の書き方　（目標２） 発達：試験対策（目標４）
	第9回	卒業論文中間発表を聞く（目標３）
	第10回	業者作文模試（目標４）
	第11回	小：試験対策②「社会」（目標４） 特：試験対策②「障害の理解」「心理」（目標４） 幼・保：一般教養試験問題演習（目標４） 発達：一般教養試験問題演習（目標４）
	第12回	先輩の話を聞く（就職活動体験談）（目標１）
	第13回	小：試験対策③「算数」（目標４） 特：試験対策③「教育課程」学習指導要領（目標４） 幼・保：4年生の就職状況を踏まえて（目標２） 発達：履歴書の書き方、面接対策①（目標４）
	第14回	小：試験対策④「理科」（目標４） 特：試験対策④「病理と保健」「自立活動」（目標４） 幼・保：模擬試験問題と解説「保育実習理論」 発達：履歴書の書き方、面接対策②（目標４）
	第15回	小・特：小論文・自己アピール　4年生に向けて（目標４） 幼・保：業者作文模試返却と解説（目標４） 発達：業者作文模擬返却と解説（目標４） 各種アンケートによる振り返りを行う。

予習・復習の内容	予習	・職業選択に関係する情報を常日ごろから気にとめ、読んだり集めたりする。 ・質問したいことをまとめる。
	復習	・授業中に感じたこと、学んだこと、疑問点などをまとめ整理する。 ・よく理解できなかった内容については質問したり、調べたりして解決する。
	展開	・積極的に参加する。 ・話を聞くときは要点を記録する。 ・疑問点を明確にする。
成績評価	評価の基準	・主体的に参加し、キャリア決定に向けて真剣に取り組む姿勢があること。 ・レポートの提出と提出期限の厳守
	評価の方法	・課題発表やレポート（30%） ・課題に対する取り組み（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリア演習 Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS402
開講年度	2013年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	キャリア演習 Ⅳ
科目責任者	森高　光広
担当教員	藤田　俊明 川端　眞由美 植草　一世 遠藤　隆志 栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1133001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，教育職，保育職，自立
授業のねらい・概要	自己の志望する職業に必要な知識や技能を確かなものにし，社会人としての知識や態度を実践できるようにする。
学生の達成目標	1.　自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものにする。 2.　社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　イントロダクション　年間計画と学習の進め方 第2回　採用試験関係説明（目標１）

	第3回	専攻別キャリア支援講座１　自己アピールポイントの確認と明確化（目標１）
	第4回	専攻別キャリア支援講座２　話すことの技術（目標１）
	第5回	専攻別キャリア支援講座３　書くことの技術（目標１）
	第6回	専攻別キャリア支援講座４　個別面談の技術（目標１）
	第7回	専攻別キャリア支援講座５　集団討論の技術（目標１）
	第8回	専攻別キャリア支援講座６　集団活動の技術（目標１）
	第9回	卒業研究中間発表会１（目標１）
	第10回	卒業研究中間発表会２（目標１）
	第11回	専攻別キャリア支援講座７　子どもを取り巻く課題（目標２）
	第12回	専攻別キャリア支援講座８　家庭との連携と対応（目標２）
	第13回	専攻別キャリア支援講座９　地域との連携と対応（目標２）
	第14回	専攻別キャリア支援講座10　関係機関との連携と対応（目標２）
	第15回	学習のまとめと振り返り（目標１，２）
予習・復習の内容	予習	指定された課題について，資料を調べ，まとめる。
	復習	指定された課題について，自分の考えをまとめる。
	展開	関心をもった事項について，種々の資料を調べ，まとめる。
成績評価	評価の基準	１）自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものになっている。 ２）社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができるようになっている。
	評価の方法	課題発表（50%）やレポート（50%）の内容により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必要な能力を養うための科目であるが，学年や専攻毎の連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容が含まれるので，必ず履修すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2013年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	浦野　俊則 渡邉　章 小林　敢治郎 佐藤　文子 木下　勝世 桑田　良子 藤田　俊明 安藤　則夫 川端　眞由美 高野　良子 太田　俊己 長谷川　修治 植草　一世 森高　光広 加藤　悦子 髙木　夏奈子 宮下　裕一 多田　昌代 川口　由起子 村上　悦子 小川　晶 遠藤　隆志 広瀬　由紀 戸丸　俊文 栗原　ひとみ 早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1125001(浦野　俊則),A1125004(小林　敢治郎),A1125005(佐藤　文子),A1125006(桑田　良子),A1125007(村上　悦子),A1125008(川端　眞由美),A1125009(森高　光広),A1125010(太田　俊己),AA1125011(藤田　俊明),A1125012(渡邉　章),A1125013(加藤　悦子),A1125014(多田　昌代),A1125015(木下　勝世),A1125017(植草　一世),A1125018(髙木　夏奈子),A1125019(宮下　裕一),A1125020(広瀬　由紀),A1125021(長谷川　修治),A1125022(安藤　則夫),A1125023(高野　良子),A1125024(川口　由起子),A1125025(遠藤　隆志),A1125026(小川　晶),A1125028(戸丸　俊文),A1125029(早川　雅晴),A1125030(栗原　ひとみ)

教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（主旨）卒業研究は，学生が自らの専攻分野に関して，関心のあることがらをテーマとして，それを専門的に研究し，その成果を論文等の形に仕上げることである。卒業研究は，自発的にかつ十分な時間をかけて研究を深め，在学中における最大の研究成果となることが期待されている。 （卒業要件）卒業研究の成果を提出（発表）し，審査に合格することが，卒業の必須要件である。 （指導教員）卒業研究は，自らの研究テーマに近い分野を専門とする教員に指導を受けて進めることが必要である。原則として，専門ゼミナール担当教員の指導を受けること。 （研究の推進）研究は，指導教員とよく相談し，研究の方法や内容，研究の進行状況などが相互によくわかるように進めること。指導を受ける時間は，指導教員と相談の上で決めること。
学生の達成目標	1. 自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持つこと。
授業内容	第1回
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み態度，研究における分析力・統合力，研究の成果等 評価の方法　上記の態度や力及び成果を総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	

備考	参考図書，参考文献，関連資料等は，自発的に探すとともに，指導教員の指導を受けること。 指定された提出日時までに提出すること。

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	文化，コミュニケーション，子ども，あそび
授業のねらい・概要	現代の社会とその歴史が，今日の子どもたちの文化を形成している。 将来教師・保育者となる者たちには，この文化を継承するとともに，子どもと協同して新しい文化の創造者となることが期待されている。 このことに必要な資質を養うために，見聞を広め，自ら工夫して創り，遊ぶ経験をする。 このために，受講学生の希望，意向を聴取し，各受講生の得意とする分野を生かし，また挑戦してみたいと考える事柄に取り組んで，共同的に学習を進めるようにする。 さらに保育現場に赴く新人保育者として自己を見つめ，研さんして前進する心情を養う。
学生の達成目標	1. 様々な分野の意見に耳を傾け,自己の考えを形成する力を身につける。 2. 子どもの世界と保育を取り巻く諸問題を考え、それに向き合う力を身につける。 3. 子どもの世界に共に遊び,あそびを創りだす力を身につける。 4. 自己を見つめ,長所短所を自覚して,現場人としての出発に備える。
授業内容	第1回　　オリエンテーション

第2回　様々な人の意見を聞いて話し合う。(目標1)
<内容> 新聞の投書欄を読み,各自が新たに興味を持った事柄を紹介し,賛同する意見,反対の立場の意見等について報告し話し合う。（第１回）

第3回　同上（第２回）

第4回　同上（第３回）

第5回　同上（第４回）

第6回　同上（第５回）

第7回　同上（第６回）

第8回　同上（第７回）

第9回　同上（第８回）

第10回　子どもや保育をめぐる現状からテーマを設定して話し合う。(目標2)
<内容> 現代社会が抱える子どもや保育の諸問題の中から,関心のある事柄を選び,個人あるいはグループで調べ,発表して話し合う。（第１回）

第11回　同上（第２回）

第12回　同上（第3回）

第13回　同上（第４回）

第14回　同上（第５回）

第15回　同上（第６回）

第16回　同上（第７回）

第17回　同上（第８回）

第18回　あそびを考え遊ぶ。(目標3)
<内容>各自又はグループで子どもの遊びをひとつ選んで指導者となり、受講生は子ども役で遊ぶ。（ 紙・粘土等の材料で室内で遊ぶ、フープ,ナワ,土・砂で戸外で遊ぶ等。）（第１回）

第19回　同上（第２回）

第20回　同上（第３回）

第21回　同上（第４回）

第22回　同上（第５回）

第23回　同上（第６回）

第24回　同上（第７回）

第25回　同上（第８回）

第26回　同上（第９回）

第27回　同上（第１０回）

第28回　卒業を目前にして話し合う。(目標4)
<内容> これからの職業生活について抱負を述べるとともに,自己の長所や短所について分析し,保育者としての成長の基盤を作る。個々の考えを発表するとともに友人としての進言・助言を交換する。（第１回）

	第29回	同上（第２回）
	第30回	同上（第３回）
予習・復習の内容	予習	新聞の投書欄に目を通し、関心を持った事柄を選択し、意見をまとめる。 子どもや保育をめぐる諸問題の中から一つを選び、資料を収集して発表の準備をする。 子どもの遊びの中から一つを選び、指導の計画を立て、遊具や遊び場の準備をする。
	復習	発表や意見交換を振り返り、所感をまとめる。
	展開	今日の子ども・保育の諸問題に関心をもち調べる。 保育職としての自己を見つめ、資質の向上に努める。
成績評価	評価の基準	自己の考えをまとめ発表すること，他者の意見を傾聴し取り入れること，仲間と協同して活動することなど，達成目標への取り組みの様子を中心にして評価する。
	評価の方法	積極的な思考と発表（ 25%）取り組みの姿勢（ 25%）共同活動への参加（ 25%）受講態度（ 25%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	活動に必要な材料や物品について，各自で用意してもらうことがあります。	

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践力　　体験学習　　地域
授業のねらい・概要	保育者として必要とされる①使命感や責任感、教育的愛情　②社会性と対人関係能力　③幼児理解やクラス経営　④保育内容や指導力を身につけることをねらいとする。また自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能を補い定着が図られるよう、他者とのかかわりの中で、今までの学びを総括することをねらいとする。
学生の達成目標	1. 子どもと実際に出会い、かかわることを通して行為の背景を読み取り、具体的な援助へ繋げることができる省察的実践家としての素地を培う。 2. ロールプレイ、グループ討議、事例研究、現地調査、模擬授業などを通して、自己課題を的確に捉え、課題に向き合っていく姿勢を養う。 3. 人間性の育成に鑑み、体験学習を重視し、自分が感じたことわかったことから問いを立て、保育への思考活動を深める習慣を身につける。 4. 保育をめぐる今日的課題について自身に引きつけて問題意識をもち、子どもの健やかな成長のために、自身が出来ることを考える。 5. 子どもは地域で育つという視点から地域に目を向け、グローバルな視点で保育現場を捉える力を養成する。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	省察的実践家とは（目標１）
	第3回	自己課題を捉える試み（目標２）
	第4回	ロールプレイで自己課題を捉える試み（目標２）
	第5回	グループ討議で今日的課題を考える（目標２）
	第6回	模擬授業で自己課題を捉える試み（目標２）
	第7回	現地調査で今日的課題を考える（目標３・４）
	第8回	チャイルドウオッチから今日的課題を考える（目標３・４）
	第9回	チャイルドウオッチ事例検討会（目標１）
	第10回	保育に活かせる地域資源（目標３・５）
	第11回	保育に活かせる地域資源調査１（目標３・５）
	第12回	保育に活かせる地域資源調査２（目標３・５）
	第13回	保育に活かせる地域資源調査３（目標３・５）
	第14回	地域資源報告会（目標３・５）
	第15回	中間総括（目標１・３）
	第16回	文化の担い手としての保育者について演習１（目標１）
	第17回	文化の担い手としての保育者について演習２（目標１）
	第18回	文化の担い手としての保育者について演習３（目標１）
	第19回	文化の創造者としての保育者について演習１（目標１・３）
	第20回	文化の創造者としての保育者について演習２（目標１･３）
	第21回	文化の創造者としての保育者について演習３（目標１・３）
	第22回	保育における表現活動の実践１（目標１・３）
	第23回	保育における表現活動の実践２（目標１・３）
	第24回	保育における表現活動の実践３（目標１・３）
	第25回	地域交流における実践を考える１（目標４・５）
	第26回	地域交流における実践を考える２（目標４・５）
	第27回	地域交流における実践を考える３（目標４・５）
	第28回	保育実践力を高める試み１（目標１・３・５）
	第29回	保育実践力を高める試み２（目標１・３・５）
	第30回	保育専門職としての総括（目標１・３・５）

予習・復習の内容	予習	関連する書籍･資料を事前に読んでおくこと。
	復習	体験の意味を考察し、文章化し、まとめておく。
	展開	

成績評価	評価の基準	上記、学生の達成目標に準ずる。
	評価の方法	参加の内容50%、ﾚﾎﾟｰﾄ提出50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059003
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間尊重、人権尊重、人材育成
授業のねらい・概要	人間尊重・人権尊重の精神はもとより，地球環境，異文化理解など人類に共通するテーマや少子・高齢化と福祉，家庭の在り方など我が国の社会体制に関わるテーマについて，保育者を目指す者の理解を深めその視野を広げる。 また，これから諸課題に係わる内容に関し適切に指導できる人材の育成となることをねらいとする。今，求められている資質能力の形成を促進するという視点から，テーマ設定や演習内容が特定分野に集中しないように，できる限り今日的な種々の課題を取り上げる。
学生の達成目標	1. 大学での学びを総合的にとらえ,基本となるもの学び,課題等を設定し学ぶことが出来る。 2. 本科目のテーマに沿った内容の課題に取り組む。研修,実地見学を行うことをして、自分自身のテーマについて,観察,調査したことをまとめ,グループでディスカッションをして理解を深めさらに視野を広げる。 3. 表現活動を行い自己認識を深める。 自分を知り,得意とする分野を自覚し,伸ばすことができる。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要。受講上の心得。授業形式と実技演習予定

第2回	幼稚園教育要領について保育所保育指針について(目標1)
第3回	保育にかかわる課題の中からテーマを選び新聞の切り抜きや雑誌のコピーを収集する。（目標1）
第4回	保育にかかわる課題の中からテーマを選び新聞の切り抜きや雑誌のコピーを分析，検討を行う。（目標１）
第5回	子どもの人権 人権への配慮,個人情報の取り扱い(目標1)
第6回	保育士，教師に求められる倫理や行動規範。(目標1)
第7回	虐待等の問題と対応。専門機関の知識。(目標1)
第8回	少子・高齢化と福祉。子育て支援。家庭の在り方と保育施設，幼稚園の在り方。(目標1)
第9回	玩具の工房の見学(目標2)
第10回	玩具の工房の見学(目標2)
第11回	美術鑑賞:まなざしの共有から絵の対話,もし目が見えなかったら(目標2,3)
第12回	美術鑑賞:まなざしの共有から絵の対話,もし目が見えなかったら(目標2,3)
第13回	子どもから高齢者までの絵本の研究と実践(目標２，3)
第14回	子どもから高齢者までの絵本の研究と実践(目標２，3)
第15回	自分史の発表。（目標2,3）
第16回	自分史を作る。紙芝居・絵本にする。（目標2,3）
第17回	自分史を紙芝居・絵本にする。（目標2,3）
第18回	自分史を紙芝居・絵本にする。（目標2,3）
第19回	自分史を紙芝居・絵本にする。（目標2,3）
第20回	自分史の発表。(目標2,3)
第21回	人形劇又は演劇鑑賞（目標2）
第22回	人権に関わる物語や昔話の考察（目標2）
第23回	物語や昔話の意味を探る。(目標2，3)
第24回	物語や昔話を幼児用の劇にするためにグループ活動。(目標2,3)
第25回	テーマに沿った表現活動(目標2,3)
第26回	テーマに沿った表現活動(目標2,3)
第27回	テーマに沿った表現活動(目標2,3)
第28回	テーマに沿った表現活動　発表(目標3)
第29回	各自のレポート発表(目標３)
第30回	まとめ(目標３)

予習・復習の内容	予習	関連する新聞・本等から、資料を集める。
	復習	授業のレポートを資料を参考に調べ、まとめる。

	展開	社会活動の動きに関心を持と自己実現に向けての活動を行う。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	レポート（ 30%），発表（ 30%），作品（ 30%），授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，児童家庭福祉施設サービス，在宅児童サービス
授業のねらい・概要	子どもたちの育ちや子育て家庭を取り巻く状況、児童家庭福祉における実践の理解を，文献・資料・映像等も用いつつ，社会，経済，文化的背景の元で生み出されてきている様々な現象に関する検討を行う。これらの導入としての問題提起も行いつつ，グループ学習活動を通したディスカッション等を行っていく中で問題意識の醸成，課題解決に向けての手法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもを取り巻く環境についての理解を深める 2. 子どもの権利保障および子ども支援の体系について理解する 3. 子ども支援のあり方と課題についての理解を深める
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　子どもを取り巻く現状(目標1) 第3回　子育てを取り巻く現状(目標1) 第4回　子どもの育ち,子育てのニーズ(目標2) 第5回　児童家庭福祉とは何か(目標2)

第6回	子どもの権利保障(目標2)
第7回	子どもの権利保障に関する取り組み(自治体,民間含む) (目標2)
第8回	子どもと親権(目標2)
第9回	児童家庭福祉にかかわる権利擁護と苦情解決(目標2)
第10回	児童家庭福祉の機関 ①(行政機関と関連機関)(目標2)
第11回	児童家庭福祉の機関 ②(児童(家庭)福祉施設)(目標2)
第12回	児童家庭福祉の専門職 ①(行政機関と専門職) (目標2)
第13回	児童家庭福祉の専門職 ②(児童(家庭)福祉施設の専門職)(目標2)
第14回	児童家庭福祉専門職と倫理(目標2)
第15回	前期のまとめ(目標1,2,3)
第16回	児童(家庭)福祉施設の実際 ①(保育所と認可外保育サービス)(目標2)
第17回	児童(家庭)福祉施設の実際 ②(乳児院,児童養護施設)(目標2)
第18回	児童(家庭)福祉施設の実際 ③(児童自立支援施設)(目標2)
第19回	児童(家庭)福祉施設の実際 ④(情緒障害児短期治療施設)(目標2)
第20回	児童(家庭)福祉施設の実際 ⑤(母子生活支援施設,その他の施設等)(目標2)
第21回	児童(家庭)福祉施設をめぐる現状と課題(目標2)
第22回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ①(在宅福祉サービスの分野)(目標2)
第23回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ②(在宅子育て家庭に対する保育サービス)(目標2)
第24回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ③(ひとり親家庭に対する福祉サービス)(目標2)
第25回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ④(引きこもり,不登校児童への福祉サービス)(目標2)
第26回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ⑤(虐待を受けた子どもへのサービス)(目標2)
第27回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ⑥(放課後児童健全育成事業)(目標2)
第28回	在宅児童を対象としたサービスをめぐる現状と課題(目標2)
第29回	子ども支援の在り方について(目標3)
第30回	全体のまとめ(目標3)

予習・復習の内容	予習	翌週のテーマに関連した課題を出すので、それについて調べてくる
	復習	授業の内容と配布資料等を用いて、理解を確実にする
	展開	疑問等について、さらに文献等を用いて理解を深める

成績評価	評価の基準	子どもとその家庭を取り巻く状況及び，子どもに対しての施設，在宅サービスの機能，役割についての理解ができていること。 また今後の児童家庭福祉のあり方について，子ども支援の立場から一定の問題整理ができ，かつ解決の方向性を示すことができることを合格基準とする。
	評価の方法	発表（ 30%）　レポート（ 70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，学びの振り返り，自己研鑽
授業のねらい・概要	修得科目および実習等における自らの学びを振り返る中で，保育者としての専門性について科目横断的に掘り下げて考える機会とする。 また、履修者それぞれの希望、意向を取り入れつつ、必要となる保育実践力の向上を目指す。
学生の達成目標	1. 自分の今までの学びを振り返り,獲得した知識・技能を確認し、感じた疑問や戸惑い等を掘り下げて考察する。 2. 自分にとってより必要となる保育実践力について総合的に考え、それを向上していく意欲を持ち、具体化する。 3. 自身の長所・短所を自覚し、自分なりに課題を設定して研鑽に励みつつ、社会に出るための準備を進める。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　これまでの学修の振り返り(個人作業 ①)(目標1) 第3回　これまでの学修の振り返り(個人作業 ②)(目標1) 第4回　これまでの学修の振り返り(グループ討議 ①)(目標1)

第5回	これまでの学修の振り返り(グループ討議 ②)(目標1)
第6回	保育実践力の向上に向けて（課題の設定①）
第7回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行①－１）
第8回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行①－２）
第9回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行①－３）
第10回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行①－４）
第11回	保育実践力の向上に向けて（課題の設定②）
第12回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行②－１）
第13回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行②－２）
第14回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行②－３）
第15回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行②－４）
第16回	保育現場の参観①
第17回	保育現場の参観②
第18回	参観内容の振り返り（個人作業）
第19回	参観内容の振り返り（意見交換）
第20回	参観内容の振り返り（まとめ）
第21回	保育実践力の向上に向けて（課題の設定③）
第22回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行③－１）
第23回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行③－２）
第24回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行③－３）
第25回	保育実践力の向上に向けて（課題の遂行③－４）
第26回	保育者としての課題の検討①（個人作業）
第27回	保育者としての課題の検討②（発表）
第28回	保育者としての課題の検討③（発表）
第29回	保育者としての課題の検討④（まとめ）
第30回	総括

予習・復習の内容	予習	今までの授業および実習での学びを振り返り、言語化できるようにしておくこと。
	復習	授業内での検討事項や出てきた意見等について再考し、今後の課題を見つける。
	展開	実践の場に多く自ら出向き、様々な保育があること、その中で自分がどのような保育を行いたいかを考える。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に準じる
	評価の方法	レポート（授業ごとに作成する小レポートも含む） 60%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 40%の成績を総合する。

	ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性がある
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て家庭、家族的課題、保育実践力、学びの確認、横断的な学び
授業のねらい・概要	保育者が担うべき役割を、子育て家庭における今日的課題と家族的課題から明らかにし、保育者として必要な専門性をこれまでの自らの学びから再確認し、さらに、横断的に統合させて学びを深めたり補ったりすることで保育実践力の基盤を形成し、また、形成されたことを確認する。
学生の達成目標	1. 子育て家庭における今日的課題と家族的課題を明らかにする。 2. これまでの学びの中から,今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察する。 3. 専門的な保育実践にむけて,家族的課題ごとの支援を具体的に検討する。 4. 自らに必要な知識技能を知り,習得に向けて課題設定し,支援者間で共有しながら,課題解決に臨む意欲を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　子育て家庭における今日的課題と家族的課題の整理(1)整理 (目標1)

	第3回	子育て家庭における今日的課題と家族的課題の整理(2)演習課題設定 (目標1)
	第4回	演習課題1(1)課題分析 (目標1)
	第5回	演習課題1(2)支援の検討 (目標3)
	第6回	演習課題1(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
	第7回	演習課題1(4)報告発表と討議 ① (目標4)
	第8回	演習課題1(5)報告発表と討議 ② (目標4)
	第9回	演習課題1(6)総括 (目標2・4)
	第10回	演習課題2(1)課題分析 (目標1)
	第11回	演習課題2(2)支援の検討 (目標3)
	第12回	演習課題2(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
	第13回	演習課題2(4)報告発表と討議 ① (目標4)
	第14回	演習課題2(5)報告発表と討議 ② (目標4)
	第15回	演習課題2(6)総括 (目標2・4)前期のまとめ、後期の確認
	第16回	演習課題3(1)課題分析 (目標1)
	第17回	演習課題3(2)支援の検討 (目標3)
	第18回	演習課題3(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
	第19回	演習課題3(4)報告発表と討議 ① (目標4)
	第20回	演習課題3(5)報告発表と討議 ② (目標4)
	第21回	演習課題3(6)総括 (目標2・4)
	第22回	演習課題4(1)課題分析 (目標1)
	第23回	演習課題4(2)支援の検討 (目標3)
	第24回	演習課題4(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
	第25回	演習課題4(4)報告発表と討議 ① (目標4)
	第26回	演習課題4(5)報告発表と討議 ② (目標4)
	第27回	演習課題4(6)総括 (目標2・4)
	第28回	演習課題全体の振り返り (目標2・4)
	第29回	資質能力の確認 (目標2・4)
	第30回	全期のまとめ
予習・復習の内容	予習	演習課題を読み解き、課題の整理を行う。
	復習	演習課題についての他の学生の検討内容を再考する。
	展開	演習課題についての参考文献を読み、視野を広げる。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%、報告内容 50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

精神保健通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT401
開講年度	2013年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	精神保健通論
科目責任者	浅野　誠
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1019001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心と身体，脳の発達，精神の病，精神の病の予防，地域と精神医療
授業のねらい・概要	人がなぜ精神を病むのか。どのような精神の病があるか。予防に必要なことは何か。 病んだ人への援助法。などについて知る。
学生の達成目標	1.　身体と心の関係について理解する。 2.　脳の構造と機能について理解する。 3.　精神の疾病について理解する。 4.　精神の保健について理解する。 5.　精神を病んだ人への援助法について知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション 総論(目標1) 第2回　身体と心 脳と心の関係について(目標2) 第3回　精神の疾病各論 神経症関連(目標3) 第4回　精神の疾病各論 心身症関連(目標3) 第5回　精神の疾病各論 統合失調症①(目標3)

	第6回	精神の疾病各論 統合失調症②(目標3)
	第7回	精神の疾病各論 感情病①(目標3)
	第8回	精神の疾病各論 感情病②(目標3)
	第9回	精神の疾病各論 脳器質性精神病(目標3)
	第10回	精神の疾病各論 認知症(目標3)
	第11回	精神の疾病各論 児童青年期の精神障害者①(目標3)
	第12回	精神の疾病各論 児童青年期の精神障害者②(目標3)
	第13回	精神の疾病各論 精神の病の予防について(目標4)
	第14回	精神の疾病各論 精神を病んだ人への援助法(目標5)
	第15回	精神の病と社会 まとめ(目標5)
予習・復習の内容	予習	各テーマにそって，あらかじめプリントを渡し，予習しておいてもらう。
	復習	授業中に解説し，理解を深め，帰宅後，再読してもらう。
	展開	
成績評価	評価の基準	上記達成目標に到達し，精神保健の基本事項をよく理解していること。
	評価の方法	試験の成績60%，授業への参加度30%，課題の発表により10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	精神科臨床ベストアドヴァイス
	著者名	浅野　誠　編集
	出版社	診断と治療社
	価格	5,200円
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1717-4
参考URL		
備考	授業毎にプリントを渡す。	

幼稚園教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育参観実習
科目責任者	木下　勝世
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園,実習,子ども,幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園の保育を参観し,幼児と直接触れ合い,幼稚園教諭の働きを実際に接し,保育者として基本を学ぶ。参観実習を体験することによって,幼稚園教育実習に意欲的に取り組もうとする。
学生の達成目標	1.　幼稚園教育の実際の場を参観し,園生活を体験する。 2.　幼児教育者として必要な資質や技能について学び,幼稚園教育実習に意欲的に取り組もうとする。
授業内容	１．事前指導（目標２） （１）学内指導 ①実習園及び保育の概要について ②参観実収のための心構えについて （２）幼稚園での指導 実習生として保育参観のありかたについて ２．参観実習（目標１） （１）見学と観察 （２）保育の参加と指導補助 園長及び園長の指定する教諭の指導による ３．報告・記録（目標２）

参観実習記録を作成し,学内担当教員の指導・助言を受け, 幼稚園教育実習に備える。

予習・復習の内容	予習	参観実習の事前指導には必ず出て、そこでの参観の仕方、学校内での行動とうについての注意事項を守るように心がけること。
	復習	早めに記録を整理し、事後指導に備える。事後指導の後には、参観での体験をもとに、大学の授業に臨むようにする。
	展開	
成績評価	評価の基準	幼稚園教育参観実習記録の内容に,授業への参加態度を加味して評価する。
	評価の方法	幼稚園教育参観実習記録（７０%）,参観実習事前指導における参加態度（３０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	この参観実習は幼稚園実習Ｉの履修に際して,実習園を事前訪問するに当たって,その園を参観する形で行うものです。ですから,実習をより実りあるものとするために,幼稚園教育実習Ｉを履修する者は,履修することが望ましい。	

解剖学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学
科目責任者	齋藤　基一郎
担当教員	角　友起
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体解剖学，神経解剖学
授業のねらい・概要	ヒトの働きと構造を総合的・体系的に理解させるために，人間を含めた生物体の構造を細胞レベル，組織，器官さらには系統レベルで論述する。 殊にヒトの生存とその尊厳の意味，生命現象を理解するための考え方，基本学術用語についての理解を深めさせ，ヒトの身体の仕組みと，これがどのようにして働いているかを論述出来るようにする。
学生の達成目標	1. 専門分野の知識と臨床に役立つ技術を身につける為の基礎となる必要な身体の正常構造とそれに関連した学術用語を習得する。 2. 系統解剖学と局所解剖学によって人体の精緻な構造を立体的に学び、医療や医学に役立つ人体の地図を知る。 3. ヒトの尊厳を自覚し、医療道徳と倫理上の感性を高める。
授業内容	第1回　人体構造学総論,細胞の構造と組織,細胞膜と微細構造,核と核膜の構造,細胞内小器官の微細構造,細胞→組織→器官→系統。(目標1,2)

担当教員:

第2回　循環器系の構造,血管系 1)大循環と小循環 2)心臓の構造と刺激伝導系 3)リンパ性器官。(目標1,2)

担当教員:

第3回　呼吸器系の構造 1)鼻,咽頭,喉頭,気管,肺の構造。(目標1,2)

担当教員:

第4回　消化器系の構造 1)口,歯,口腔腺,食道,胃,小腸,大腸,肝臓,胆のう,膵臓の構造。(目標1,2)

担当教員:

第5回　泌尿器系の構造 腎臓,尿管,膀胱,尿道の構造。(目標1,2)

担当教員:

第6回　生殖器系の構造 1)男性生殖器 2)女性生殖器。(目標1,2)

担当教員:

第7回　前半総括
各組織・器官・臓器の発生,形態形成。(目標1,2)

担当教員:

第8回　感覚器の構造 1)体性感覚器 2)味覚器 3)嗅覚器 4)視覚器 5)聴覚器と平衡感覚器。(目標1,2)

担当教員:

第9回　神経系の構造,神経細胞,神経膠細胞,シナプス (目標1,2)

担当教員:

第10回　中枢神経系の構造(大脳,間脳,中脳,橋,小脳,延髄,脊髄)。(目標1,2,3)

担当教員:

第11回　末梢神経系の構造(12対の脳神経, 31対の脊髄神経の走行と働き)。(目標1,2)

担当教員:

第12回　自律神経系の構造(交感神経系と副交感神経系)。(目標1,2,3)

担当教員:

第13回　骨の構造,各部の骨の名称と形態,関節の名称,分類,機能(1)

担当教員:

第14回　骨の構造,各部の骨の名称と形態,関節の名称,分類,機能(2)
骨格筋の構造と形態,各骨格筋の名称と機能(1)

担当教員:

第15回　骨格筋の構造と形態,各骨格筋の名称と機能(2)

担当教員:

予習・復習の内容	予習	生物学の基礎知識の不十分な学生は前もってそれを十分満たすように自己学習して欲しい。解剖学の図譜を良く見て人体の構造と構造に対する学術用語に慣れる為にも 予習は大切です。
	復習	人体解剖学と人体解剖学実習が求めている解剖学的知識とその学術用語は膨大であり、多枝かつ広範囲に渡っております。限られた授業で短期間にはすべてを理解し、覚える事は不可能です。長期間に渡る絶え間ない自己学習と復習が要求されております。
	展開	系統解剖学の教科書に従って授業は展開される。 板書をするので、色鉛筆が必要です。

成績評価	評価の基準	上記の系統解剖学を的確に理解し，有機的に統合出来る力を評価基準とする。
	評価の方法	出席状況，筆記試験，授業時の人体構造試問等で総合的評価を行う。

教科書	書籍名	医療のための人体解剖学
	著者名	齋藤基一郎
	出版社	廣川書店
	価格	5,040円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4567518000
	書籍名	目でみる人体解剖
	著者名	齋藤基一郎，王昌立
	出版社	廣川書店
	価格	5,460円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4567517805
	書籍名	医療のための脳・神経解剖学の基礎　増補改訂新装番
	著者名	齋藤基一郎，王昌立，後藤保正
	出版社	元就出版社
	価格	3,500円
	ISBN・ISSN	ISBN：978 -4-86106-174-5

推薦図書等	書籍名	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　 解剖学
	著者名	野村　嶬
	出版社	医学書院

価格	6300
ISBN・ISSN	978-4-260-00876-1

書籍名	グレイ解剖学
著者名	塩田 浩平
出版社	医学書院
価格	10500
ISBN・ISSN	978-4860347734

参考URL

備考

解剖学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM202
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学実習
科目責任者	角　友起
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2002001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体表解剖、筋、骨、関節、触察
授業のねらい・概要	理学療法学の重要かつ基盤の知識である運動器系の構造について理解する。また体表から骨や筋を触察することで、運動器の実際の形状、ランドマークの位置を理解し、人体構造の三次元的なイメージを定着させる。
学生の達成目標	1. 骨および骨部位の名称と位置、筋の名称と起始停止、関節および靭帯の位置と名称が分かる。 2. 体表から筋、骨に触れ、名称や位置関係を説明できる。 3. 各骨格筋の神経支配を説明できる。
授業内容	第1回　上肢と肩甲帯の骨格（１）　－肩甲骨、鎖骨、上腕、肩関節－ 第2回　上肢と肩甲帯の骨格（２）　－肘関節、前腕、手関節、手、指－ 第3回　1、2回の内容についてレビュー 第4回　肩甲帯、上肢の筋（１） 第5回　肩甲帯、上肢の筋（２）

	第6回	4、5回の内容についてレビュー
	第7回	体幹と頭部の骨格　－頭部、脊椎、肋骨－
	第8回	背部、腹部、頸部の筋
	第9回	7、8回の内容についてレビュー
	第10回	下肢帯と下肢の骨格（１）　－骨盤、大腿－
	第11回	下肢帯と下肢の骨格（２）　－膝関節、下腿、足関節、足部、足趾－
	第12回	10、11回の内容についてレビュー
	第13回	下肢帯、下肢の筋（１）
	第14回	下肢帯、下肢の筋（２）
	第15回	13、１４回の内容についてレビュー
予習・復習の内容	予習	次回授業の内容について、指定教科書および推薦図書を用いて徹底的に予習する。
	復習	指定教科書および参考図書を用いて徹底的に復習し、理解が不十分な項目をリストアップする。それらの項目はレビューの中で再学習・確認し、確実に定着させる。
	展開	学習した運動器と実際の身体運動との関係について、発展的学習を行う。
成績評価	評価の基準	各回の授業に真剣に臨んでいること、予習・復習をしている様子が伺えること、その上で上記目標を概ね達成していることを基準とする。
	評価の方法	１）授業への4/5以上の出席を単位認定の必要条件とする。 ２）各回の小テスト（３０％）、授業への参加度（20%）、期末試験（５０％）を総合して評価する。
教科書	書籍名	グレイ解剖学
	著者名	塩田浩平（訳）
	出版社	エルゼビアジャパン
	価格	10000
	ISBN・ISSN	978-4-86034-847-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	本科目では体表触知を行うため、履修者はスポーツ用水着（女子はセパレートタイプ）を着用し、その上にTシャツと短パンを来て参加すること。 教科書により徹底した予習を行い、十分な予備知識を得ていることを前提に授業を進める。	

各回の初めに、その回に予定されている授業内容（全範囲）に関するミニテストを行う。

生理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM203
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	角　友起
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2003001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能，恒常性，調節機構
授業のねらい・概要	生理学はからだの中の機能がどのように発現し，維持され，調節されているかを明らかにする学問です。 将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，必要不可欠な知識といえます。 正常なからだの中の機能を分類し，体系づけ，また相互の関連性を理解することを目標とする。
学生の達成目標	1.　生体の恒常性維持の調節機構を説明できる。 2.　各器官の働きを説明できる。 3.　各器官機能の調節機構について説明できる。 4.　各器官の相互作用について説明できる。 5.　種を維持するための機能を説明できる。
授業内容	第1回　「生理学の概要」 -細胞と内部環境,生体の恒常性-(目標1,4) 「細胞膜の生理」　-受動輸送,能動輸送，チャネル，ポンプ-

	第2回	「血液 Ⅰ」 -血液の役割,血液の組成,赤血球の生成と崩壊-(目標2) 「血液 Ⅱ」 -白血球,血液凝固,血液型-(目標2)
	第3回	「生体防御」 -免疫機能,リンパ球,抗原抗体反応-(目標2)
	第4回	「骨格筋」 -筋収縮の機序,筋収縮のエネルギー-(目標2)
	第5回	「心臓 Ⅰ」 -心臓の機能,特殊心筋,心臓の電気現象,心電図-(目標2,3) 「心臓 Ⅱ」 -心臓のポンプ作用,心音-(目標2)
	第6回	「循環 Ⅰ」 -動脈系,毛細血管,物質交換,浮腫-(目標2) 「循環 Ⅱ」 -静脈系,特殊循環系-(目標2)
	第7回	「循環 Ⅲ」 -心臓・血管の調節機構-(目標3) 「自律神経」 -交感神経,副交感神経,自律反射中枢-(目標1,2)
	第8回	「まとめ」 「呼吸 Ⅰ」 -呼吸器の機能的構造,呼吸運動,換気量,肺気量とその区分-(目標2)
	第9回	「呼吸 Ⅱ」 -ガス交換,血液によるガスの運搬,換気量の調節機構-(目標2,3) 「消化・吸収 Ⅰ」 -消化・吸収の概要,口腔での消化,胃・小腸での消化-(目標2)
	第10回	「消化・吸収 Ⅱ」 -消化の調節,栄養素の吸収,大腸,排便反射-(目標2,3)
	第11回	「腎機能」 -機能的構築,糸球体濾過,再吸収と分泌-(目標2) 「体液 Ⅰ」 -浸透圧の調節,血漿量,血漿 Na量の調節-(目標1,3,4)
	第12回	「体液 Ⅱ」 -体液 H+濃度の調節, pH,アシドーシスとアルカローシス (目標1,3,4)
	第13回	「内分泌 Ⅰ」 -内分泌器官,ホルモンの一般的性質,視床下部,下垂体-(目標1,2)
	第14回	「内分泌 Ⅱ」 -甲状腺,副甲状腺,副腎,性ホルモン-(目標1,5)
	第15回	「代謝」 -エネルギー代謝,基礎代謝-(目標1,2) 「体温の恒常性」 -産熱と放熱,体温の調節,発熱,発汗-(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	教科書を読み、専門用語・キーワードの意味を調べる。
	復習	各回とも復習テストを行うので、ノートの内容を理解しておくこと。
	展開	ヒトの体の働きに興味・疑問を持ち、それを解明する力を身に付ける。
成績評価	評価の基準	国家試験レベルの問題で 60%以上の正答率を取ることを基準とする。
	評価の方法	２回の筆記試験を 80%，復習テスト（毎回授業開始時５分程度）を 20%とし，総合評価する。

教科書	書籍名	標準理学療法学・作業療法学，専門基礎分野，生理学 第３版
	著者名	石澤光郎，冨永淳
	出版社	医学書院
	価格	４ ,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 9784260003575

推薦図書等

参考URL

備考

生理学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学実習
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 角　友起
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2004001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能の計測，生体電気現象の記録，生理学実験法, 生命現象の観察
授業のねらい・概要	生理学実習では，講義で学んだ「ヒトの体の正常機能」を実体験によって深めることが目標となります。さらに，将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，人体や生体を用いた研究の科学的な考え方，研究方法を学びます。また，医療機器や生理実験用機器の作動原理や取り扱い方を習得します。
学生の達成目標	1.　生体機能を計測しその意義を説明できる。 2.　科学的なレポートを作成し,その内容を発表することができる。 3.　医療機器や生理実験・医学実験機器の作動原理が理解できる。 4.　生体の電気現象を説明できる。 5.　恒常性の維持について説明できる。

授業内容	第1回	「実習ガイダンス」-生理学実験法,レポートの作成要領 実習機器の作動原理と使用法- (目標2,3) 「血圧」-血圧測定の原理,コロトコフ音-(目標1,3,5)
	第2回	「神経の興奮伝導」-カエルの坐骨神経標本,電気刺激,活動電位,伝導速度,不応期,強さ・時間曲線-(目標1,2,3,4)
	第3回	「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3,4) 「最大酸素摂取量」-運動強度，心拍数（目標1，２，５）
	第4回	「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3,4) 「最大酸素摂取量」-運動強度，心拍数（目標1，２，５）
	第5回	「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3,4) 「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,4)
	第6回	「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3,4) 「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,4)
	第7回	「まとめ」(目標2)
	第8回	「実習結果発表と討論」(目標2)
	第9回	「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3,4) 「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3,5)
	第10回	「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3,4) 「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3,5)
	第11回	「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 -(目標1,2,3) 「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3,5)
	第12回	「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 (目標1,2,3) 「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3,5)
	第13回	「まとめ」(目標2)
	第14回	「実習結果発表と討論」(目標2)
	第15回	「DNAの抽出と観察」-生命体の連続性,細胞,分画-(目標５)

予習・復習の内容	予習	あらかじめ実習書を配布するので、実習内容を理解しておくこと。課題に関しては事前に提出させるので調べておくこと。
	復習	実習結果に関して、レポートを期限までに提出すること。
	展開	生理学の知識が実験の上に成り立っていることを理解し、生理現象に対して常に疑問をもち、疑問点を解明する姿勢を身に着ける。

成績評価	評価の基準	出席時間４／５以上が単位認定の条件であり，実習内容が理解できていること。

	評価の方法	実習への参加度 30%，レポート 30%，発表および小テスト 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 実習書としてプリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生理学講義の単位を取得後の履修が望ましい。 生理学講義の教科書， USBメモリ等の記録媒体を持ってくること。	

人体機能構造学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM205
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人体機能構造学演習
科目責任者	角　友起
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2075001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動物機能、神経、感覚、運動、高次脳機能
授業のねらい・概要	人間が“外界からの情報を受容し適切な行動を起こす”ために必要な、脳・神経・感覚・運動の各身体機能について、それを支える身体構造の知識とともに学ぶ。
学生の達成目標	1.　正常な人の生理機能のうち、動物機能（脳・神経機能、感覚機能、運動機能）を理解する。 2.　人の動物機能を支えている身体の構造を理解する。
授業内容	第1回　人体機能構造学総論　：　人間の行動と動物機能，脳神経系・感覚系・運動系の概要 神経の機能（１）　：　脳と脊髄の概観、ニューロンの構造、静止膜電位、イオンチャネル 第2回　神経の機能（２）　：　活動電位、不応期、全か無かの法則、興奮伝導、神経伝導速度と神経線維の分類 第3回　神経の機能（３）　：　シナプス、神経伝達物質、受容体、シナプス後電位、興奮と抑制、軸索輸送、シナプス・神経回路の様式、シナプス効果の加重

第4回	視覚（１）　：　眼球の構造、網膜の細胞、錐体と杆体、視力と遠近調節
第5回	視覚（２）　：　光受容の仕組み、視覚情報の伝達と中枢伝導路、脳における視覚情報処理
第6回	聴覚と平衡感覚（１）　：　外耳・中耳・内耳、蝸牛、コルチ器、音情報の受容機構
第7回	聴覚と平衡感覚（２）　：　聴覚情報の中枢伝導路、脳における聴覚情報処理、前庭迷路における平衡感覚受容、迷路反射
第8回	味覚と嗅覚　：　味蕾、味覚神経、味覚情報の中枢伝導路、嗅覚器の構造、嗅覚受容の仕組み
第9回	体性感覚　：　皮膚感覚受容器、感覚点と2点弁別閾、デルマトーム、体性感覚伝導路、大脳での体部位再現、筋紡錘と固有感覚
第10回	運動機能（１）　：　運動単位、脊髄反射、歩行運動
第11回	運動機能（２）　：　大脳による運動制御、下行性伝導路、大脳基底核による運動制御
第12回	運動機能（３）　：　小脳による運動制御、姿勢調節
第13回	高次脳機能（１）　：　脳波、睡眠と覚醒
第14回	高次脳機能（２）　：　大脳皮質連合野の機能、ブロードマンの地図
第15回	高次脳機能（３）　：　言語と記憶

予習・復習の内容	予習	授業計画に書かれている単元、キーワードについて成書で調べる。
	復習	授業で配布したプリントおよび板書の内容について確認、復習、暗記する。
	展開	参考図書で発展的学習を行う。

成績評価	評価の基準	上記の達成目標に掲げた知識をおおむね習得していること。
	評価の方法	筆記試験により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	トートラ人体解剖生理学
	著者名	Gerard J. Tortora
	出版社	丸善出版
	価格	7245
	ISBN・ISSN	978-4621083369
	書籍名	カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版
	著者名	坂井建雄
	出版社	日本医事新報社

価格	18900
ISBN・ISSN	978-4784931798

参考URL	
備考	教科書を指定せず、毎回プリントを配布し、授業の板書をプリントに書きこむ形式をとる。参考図書は授業の内容を概ねカバーしているため、発展的な復習には参考図書を用いるとよい。

運動学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM206
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学 Ⅰ
科目責任者	田中　勇治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2005101
教室	
単位数	
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動学，運動力学，運動器の構造と機能，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	１．人間の身体運動に関する基本的な知識を学習する。 ２．主に，運動学に必要な力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動ににについて学習する。
学生の達成目標	1.　身体運動に関する基礎的な知識を修得する。 2.　運動学に必要な力学を理解する。 3.　運動器の構造と機能一般を理解する。 4.　上肢帯と上肢の運動および脊柱・体幹の運動を理解し，記憶する。
授業内容	第1回　運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称(目標1) 第2回　運動学に必要な力学の基礎(1):変位,速度・加速度,ベクトル,運動の法則・他(目標2) 第3回　運動学に必要な力学の塞礎(2):仕事,仕事率,力のモーメント,テコ・他(目標2)

	第4回	運動学に必要な骨格筋の基礎:筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長・他(目標3)
	第5回	上肢帯と上肢の構造(目標4)
	第6回	上肢帯,肩関節とその運動(1):上肢帯を構成する “関節 ”,肩甲骨の位置と運動範囲・他 (目標4)
	第7回	上肢帯,肩関節とその運動(2):上肢帯と肩関節の運動と筋(目標4)
	第8回	肘関節とその運動:肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋(目標4)
	第9回	手の関節と運動(1):手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋(目標4)
	第10回	手の関節と運動(2):手の各関節の構造,各関節の運動と筋(目標4)
	第11回	腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作(目標4)
	第12回	顔面および頭部の筋とその運動(目標4)
	第13回	体幹とその運動（１）：各部椎骨の特徴，脊柱の生理的彎曲，脊椎の連結，椎間円板（目標３，４）
	第14回	体幹とその運動（２）：胸椎と胸郭の運動と筋（目標３，４）
	第15回	体幹とその運動（３）：体幹の運動と筋，各部の椎間関節面の特徴と運動範囲（目標３，４）

予習・復習の内容	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。
	復習	授業内容を十分に理解し記憶すること。
	展開	力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動に関する基本的な知識を学習し，理学療法学の基礎とする.

成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
	評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（ 80%），小テストおよびレポート（ 20%）とする。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	基礎運動学
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	医歯薬出版
	ISBN・ISSN	78 -4-263-21153-3

推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー
	著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・平田総一郎監訳

出版社	医歯薬出版
価格	10,500円
ISBN・ISSN	978 -4-263-21287-5

参考URL	
備考	解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

運動学 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM207
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学 Ⅱ
科目責任者	田中　勇治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2005201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器の構造と機能，動作分析，姿勢反射，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	１．人間の身体運動に関する基本的な知識を学習する。 ２．主に，下肢帯と下肢の運動，姿勢，歩行および姿勢反射ににについて学習する。
学生の達成目標	1.　身体運動に関する基礎的な知識を修得する。 2.　下肢帯と下肢の構造と運動を理解し，記憶する。 3.　動作分析について基本的事項を理解し，記憶する。 4.　姿勢反射について基本的事項を理解し，記憶する。 5.　姿勢，歩行について理解し，基本事項を記憶する。
授業内容	第1回　下肢帯と自由下肢の骨，骨盤と股関節の構造（目標１，２） 第2回　股関節とその運動（１）：股関節の運動と筋（目標１，２） 第3回　股関節とその運動（２）：各動作における股関節の運動と筋，トレンデレンブルグ徴候・他（目標１，４）

	第4回	膝関節の構造：膝関節の構造，半月板，側副靭帯，十字靭帯（目標１，２）
	第5回	膝関節とその運動（１）：膝関節の運動と半月板，側副靭帯，十字靭帯の役割（目標１，２）
	第6回	膝関節とその運動（２）：膝関節の運動と筋，下腿の回旋，膝蓋骨の運動・他（目標１，２）
	第7回	足の骨と関節：足関節，足根中足関節，中足指節関節，指節間関節の構造と運動（目標１，２）
	第8回	足関節および足部の関節の運動と筋：背屈と底屈，足の内がえしと外がえし，足のアーチとその機能（目標１，２）
	第9回	動作分析の基本的な考え方（目標１，３）
	第10回	姿勢：重心，立位姿勢（目標１，３，５）
	第11回	反射と反応：反射運動の位置づけ（目標４）
	第12回	姿勢反射：大脳皮質，脳幹，脊髄における姿勢反射（目標４）
	第13回	正常歩行（１）：歩行周期，一歩，重複歩，ケイデンス，足角，歩隔，歩幅（目標３，５）
	第14回	正常歩行（２）：歩行時の重心移動，股・膝・足関節，体幹の運動（目標３，５）
	第15回	正常歩行（３）：歩行と筋活動，歩行と走行，歩行とエネルギー消費（目標３，５）

予習・復習の内容	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。
	復習	授業内容を十分に理解し記憶すること。
	展開	下肢帯と下肢の運動，姿勢，歩行および姿勢反射ににについて学習し，理学療法学の基礎とする.

成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
	評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（ 80%），小テストおよびレポート（ 20%）とする。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	基礎運動学
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	7 ,140円
	ISBN・ISSN	978 -4-263-21153-3

推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー
	著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・平田総一郎監訳
	出版社	医歯薬出版
	価格	10,500円
	ISBN・ISSN	ISBN

参考URL	
備考	解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

運動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM208
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学実習
科目責任者	田中　勇治
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2006001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	姿勢，運動，動作，分析
授業のねらい・概要	運動学で学習した身体運動に関する基本的な概念と分析・観察方法に関して実習を通して学習する。主な内容は，身体運動の表現，体表からの筋の観察，各関節運動と筋の作用，歩行分析，姿勢に関する実習を行う。
学生の達成目標	1. 正常な身体運動に関する基本的な概念と分析・観察方法に関して実習を通して理解する。 2. 測定機器を用いて動作を確認し,運動学の理解を深める。 3. 身体運動の表現,体表からの筋の観察を行い,確認して理解する。 4. 各関節運動と筋の作用を確認し理解する。 5. 動作，歩行分析，姿勢に関する実習を通して運動・動作分析の基礎を理解する。
授業内容	第1回　体表区分とランドマーク実習(目標1,3) 第2回　身体運動の表現方法と運動の確認: ①身体運動の面と軸 ②上肢,下肢,体幹の運動 (目標1,3)

	第3回	筋の観察と触診(1):頸部,体幹,肩甲帯,上腕の筋(目標1,3,4)
	第4回	筋の観察と触診(2):前腕の筋(目標1,3,4)
	第5回	筋の観察と触診(3):手の筋(目標1,3,4)
	第6回	筋の観察と触診(4):下肢の筋(目標1,3,4)
	第7回	歩行分析(1):ストップウォッチ用いた歩行の記録(目標1,2,5)
	第8回	歩行分析(2): ①ビデオによる正常歩行の記録 ②足圧分布計による正常歩行の記録 (目標1,2,5)
	第9回	歩行分析(3): ①ビデオによる歩行周期,立脚相,遊脚相および両脚支持の時間と割合の確認 ②ストップウォッチ用いた歩行の記録による速度および歩行率の確認(目標1,2,5)
	第10回	歩行分析(4):ビデオによる歩行と股関節,膝関節,足関節の運動の確認(目標1,2,5)
	第11回	姿勢(1): ①姿勢の記述法 ②姿勢変換(目標1,3,5)
	第12回	姿勢(2): ①姿勢保持のための反射・反応 ②立位姿勢と重心動揺(目標1,3,5)
予習・復習の内容	予習	授業内容に応じて，運動学Ⅰ・Ⅱで学習した内容を確認すること。
	復習	実習で確認した内容を理解し記憶すること。
	展開	運動学Ⅰ・Ⅱでの学習を実習で確認し，身体運動を実際に体験観察し，理学療法学の基礎とする.
成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，実習内容を理解していること。
	評価の方法	出席４／５以上が単位認定の条件であるが，１回の欠席につき３点減点する。実習態度が悪い場合は減点対象とする。毎回のテーマについてレポート作成または小テストを実施する。実習への取り組み姿勢および実習態度（20%），小テストおよびレポート（30%），期末テスト（50%）ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	運動学実習マニュアル
	著者名	理学療法科学学会監修
	出版社	アイペック
	価格	2 ,500円
	ISBN・ISSN	4 -900943-57-6-C3047 P2500
推薦図書等	書籍名	基礎運動学
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩著
	出版社	医歯薬出版
	価格	7,140円

ISBN・ISSN　978-4-263-21153-3

参考URL	
備考	運動学を履修していること。また，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。

臨床運動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床運動学
科目責任者	田中　勇治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2007001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	臨床　運動障害　科学的根拠　分析　治療
授業のねらい・概要	「臨床」とは，病院などで疾病や障害を持つ患者の診療にあたることをいう。運動障害を中心に治療を行っていく理学療法士にとって，臨床運動学は理学療法に科学的根拠を与えるものである。ここでは運動学で習得した正常人の身体運動を科学的に観察し，考察する方法を踏まえて，障害を持つ人の身体運動の分析を行い，問題点の理解を客観的に行うことが出来るようにする。
学生の達成目標	1.　身体運動の分析と方法を理解する。 2.　動作の中での関節運動，筋活動の意味を理解する。 3.　臨床での動作分析を理解する。 4.　臨床での反射・反応を理解する。 5.　異常歩行を理解する。
授業内容	第1回　臨床運動学の意義・目的・範囲（目標１） 第2回　身体運動の分析と方法（１）：肉眼による運動と動作の分析（目標１，２，３）

第3回	身体運動の分析と方法（２）：機器による運動と動作の分析（目標１，２，３）
第4回	関節運動と関節可動域（１）：関節の拘縮と強直（目標１，２）
第5回	関節運動と関節可動域（２）：関節の機能的肢位，ＡＤＬと関節可動域（目標１，２，３）
第6回	筋活動と筋張力（１）：筋線維のタイプ，運動単位の特徴（目標１，２）
第7回	筋活動と筋張力（２）：筋収縮と張力，筋収縮の様態と筋張力，筋疲労（目標１，２）
第8回	反射と反応（１）：反射運動の位置づけ，陽性徴侯と陰性徴候（目標１，３，４）
第9回	反射と反応（２）：痙縮と固縮，臨床における筋緊張の見かた（目標１，２，３，４）
第10回	姿勢反射総論：大脳皮質，脳幹，脊髄における姿勢反射（目標１，２，３，４）
第11回	姿勢反射の臨床（目標１，２，３，４）
第12回	異常歩行の見方（１）：骨関節疾患（目標５）
第13回	異常歩行の見方（２）：中枢神経系疾患（目標５）
第14回	動作分析の基本的な考え方（目標２，３）
第15回	まとめ（目標１～５）

予習・復習の内容	予習	授業内容に応じて，運動学Ⅰ・Ⅱの内容を確認すること。
	復習	学習内容を理解し記憶すること。
	展開	疾患や障害を持つ人の身体運動の分析を通して問題点の理解を客観的に行い，各種疾患・障害に対する理学療法学に応用する.

成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，臨床における運動学の意味を理解していること。
	評価の方法	期末試験，小テストおよびレポート作成を実施する予定。試験（80%），小テストおよびレポート （20%）とする。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	臨床運動学
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	7,560円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21134-2

推薦図書等	書籍名	基礎運動学

著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
出版社	医歯薬出版
価格	7,140円
ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3

書籍名	筋骨格系のキネシオロジー
著者名	Donald A.Neumann著／嶋田智明・平田総一郎監訳
出版社	医歯薬出版
価格	10,500円
ISBN・ISSN	978-4-263-21287-5

参考URL

備考	「運動学」を履修し，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，人体機能構造学演習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。 やや難解であるが，臨床における理学療法に欠かせない内容である。受講には十分な基礎力が必要である。

臨床心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM202
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床心理学
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2008001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎心理学の歴史，心理査定，心理面接，心理療法，異常心理の治療
授業のねらい・概要	本講義ではまず臨床心理学の土台となる基礎心理学の歴史的推移を整理することで，臨床心理学の全体像を把握します。これを基に対人支援における心理査定と様々な心理検査法を整理し，心理面接の方法を学習することで臨床心理学的支援の基本を身につけていきます。さらにいわゆる異常心理の基礎的知見を整理することで，医療現場における臨床心理学的支援についても理解できるようにします。
学生の達成目標	1. 臨床心理学の土台となる基礎心理学の歴史的推移について理解する。 2. 心理査定の基本を理解し,様々な心理検査法について整理する。 3. 心理面接の基本を理解し,臨床心理学的支援の知見を整理する。 4. 正常と異常な心理の違いについて理解し,異常な心理の治療法について整理する。 5. 医療現場における臨床心理学的支援について理解する。
授業内容	第1回　「心理学の歴史と基礎心理学」-構成主義心理学,精神分析,人間性心理学,行動主義心理学,認知心理学-(目標1)

	第2回	「心理学的研究と統計」-実験計画,統計的検定,多変量解析実験計画,テストの信頼性と妥当性-(目標1,2)
	第3回	「心理査定」-検査者の基本的態度,検査の標準化,心理査定の倫理,所見書の作成(目標1,2)
	第4回	「質問紙法」-YG性格検査,虚偽発見尺度, MMPI,エゴグラム,ビッグファイブ-(目標2)
	第5回	「投影法」-ロールシャッハテスト, P-Fスタディー, TAT,SCT,ソンディーテスト(目標2)
	第6回	「心理面接の基本」-受容,共感,自己一致,個別性,疾病性-(目標3)
	第7回	「臨床心理学的支援の基本的態度」-来談者中心療法,精神分析,中立性,転移,逆転移,ラポールの形成-(目標3,4)
	第8回	「精神分析と適応機制」-自由連想法,無意識,抑圧,自我の防衛,洞察(目標3,4,5)
	第9回	「行動療法と認知行動療法」-古典的条件付け,オペラント条件付け,不合理な信念,認知の歪み(目標3,4,5)
	第10回	「統合失調症とその治療」-陽性症状,陰性症状,薬物療法, SST,心理教育(目標4,5)
	第11回	「気分障害とその治療」-大うつ病,躁うつ病,認知療法-(目標4,5)
	第12回	「不安障害とその治療」-パニック障害,社会恐怖,強迫性障害,認知行動療法,森田療法(目標5,5)
	第13回	「パーソナリティー障害とその治療」-A群パーソナリティー障害, B群パーソナリティー障害, C群パーソナリティー障害,行動化,逆転移-(目標4,5)
	第14回	「トラウマ,内科的ケアを必要とする心の健康障害とその治療」-PTSD,乖離性障害,接触障害,心身症,身体表現性障害,内科的ケア,自助グループ-(目標4,5)
	第15回	「まとめ」-医療現場における臨床心理学的支援-(目標5)
予習・復習の内容	予習	1年次に学んだ「障害者・高齢者の心理」の内容を整理しておく。
	復習	授業で学んだ臨床心理学の内容を確認しておく。
	展開	臨床心理学の知識を自身の精神的安定のため、また他者理解や他者支援のために役立てられるようになる。
成績評価	評価の基準	臨床心理学の基礎的知見が整理できており，さまざまな特徴を持つ支援者に対してどのような臨床心理学的支援を行うことがよいかについて，明確に答えることができるようになることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業時に資料を配布します。	
推薦図書等		

参考URL

備考

人間発達学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM203
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人間発達学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2009001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達理論，発達のメカニズム，発達段階，発達障害
授業のねらい・概要	１．人間の発達を進化論的，身体的，心理的，社会的側面など様々な面から考察し，発達に寄与する様々な要素の関連性を理解できるようにする。 ２．初期の認知的情緒的機能の発達を，脳の発達に関する知見を土台にして理解する。 ３．行動や思考の形成の道筋や心理的適応のメカニズムを理解することで，心の健全な成長のために必要な条件とは何かを学ぶ。
学生の達成目標	1. 発達に関わる様々な促進要因,阻害要因を理解する。 2. 発達に関する諸理論を理解する。 3. 発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。 4. 発達の途上で現れる困難を理解し,対処法について考えられる。
授業内容	第1回　発達の理論と発達段階の見方。主な発達理論を紹介し,比較検討する。(目標2,3) 第2回　発達の進化論的見方。進化心理学の立場から,人間の成長を把握する。(目標2)

	第3回	脳の発達と行動の発達。脳の発達から行動の発達を理解し,発達の生理学的要因を理解する。(目標1)
	第4回	意識の発達。意識が様態・変化を理解し,行動発達との関連を考察する。(目標3,4)
	第5回	姿勢と運動の発達。乳幼児期の運動発達を理解し,重要な発達指標を把握する。(目標1,3)
	第6回	情緒発達と人間関係の発達。乳幼児期の情緒がどのような筋道で発達するかを理解し,人間関係の発達との関連性を学ぶ。(目標1,3,4)
	第7回	知覚・認知の発達。乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムを学ぶ。(目標3,4)
	第8回	愛着の発達。人格形成における愛着の重要性を理解し,愛着が育つための様々な要因について学ぶ。(目標1,3,4)
	第9回	言語の発達。乳幼児期における言語の発達について理解し,言語発達のメカニズムを学ぶ。(目標1,3,4)
	第10回	児童期の発達。児童期を取り巻く状況を理解しながら,認知,情緒,人間関係の発達を理解する。(目標1,3,4)
	第11回	思春期の発達。第二次性徴が現れ内面的な世界が発達する思春期の不安定さを学ぶ。(目標1,3,4)
	第12回	青年期の発達。社会に出ようとし,自己の在り方を探求する青年期の複雑さを学ぶ。(目標1,3,4)
	第13回	中年期の発達。人生の曲がり角に立つ中年期の悩みや,責任を背負う充実感を学ぶ。(目標1,3,4)
	第14回	老年期の心理。心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理を学ぶ。(目標1,3,4)
	第15回	発達障害を考える。乳幼児期を中心に,様々な発達障害とそれに対する対策を考える。(目標1,4)
予習・復習の内容	予習	発達に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味や理論の内容を確認する。
	展開	自分なりに、問題意識をもって本を読む。
成績評価	評価の基準	発達の理論や発達段階など基本的な概念を理解していること。 発達の途上で現れる障害を理解し，対処法を考えられること。
	評価の方法	授業への出席状況と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書	書籍名	スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症
	著者名	安藤則夫
	出版社	学苑社
	価格	2 ,200＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について，復習すること。

病理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM209
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病理学
科目責任者	山口　直人
担当教員	馬場 健
授業形態	講義
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A2010001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病理形態学，病態生理学，変性，炎症，免疫，腫瘍，循環障害，遺伝性疾患，再生
授業のねらい・概要	理学療法学の対象となる主要な疾病・病態について，生命医科学的根拠に基づいた評価と治療的介入を行う為に必要な病理学的知識と，その背景にある学問体系の概要を学習する。正常な生体制御・防御機構と，異常な病態との連続性，関連性を，形態および機能の観点から教授する。
学生の達成目標	1. 理学療法学と関連の深い疾病の病因,病態に関して,臓器別,制御系別に形態・機能異常を理解する。 2. 医療現場で高頻度に遭遇しうる多臓器障害や,生命予後に関連する周辺領域の病理病態への理解を深める。 3. 患者の病態を全身的制御系との関連から理解する為に,臓器横断的な理解を深め,治療的介入法との関係を理解する。
授業内容	第1回　循環器：虚血性疾患，炎症性疾患，特発性心筋症，代謝障害，動脈疾患（目標１，２） 担当教員:

第2回	呼吸器：上気道疾患，炎症，慢性閉塞性肺疾患（COPD，慢性気管支炎，肺気腫），塵肺，間質性肺炎，肺線維症，肺腫瘍，胸膜腫瘍（目標１，２）
第3回	消化器，歯，口腔，咽頭：食道炎，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，食道癌，胃癌，炎症性腸疾患，大腸癌，腹膜炎，肝炎，肝硬変，食道静脈瘤，肝臓癌，胆石，膵炎（目標１，２）
第4回	神経系と運動器：脳血管障害，神経系感染症，脱髄性疾患，変性疾患，脳外傷，脳腫瘍，骨粗しょう症，骨の炎症，骨折，腫瘍性病変，関節変疾患，炎症疾患，筋疾患（目標１，２）
第5回	泌尿・生殖器：腎炎，尿毒症，膀胱炎，尿路結石，腫瘍，前立腺肥大，卵巣疾患，子宮筋腫，子宮癌，妊娠と疾患，乳腺症，乳癌（目標１，２）
第6回	内分泌臓器，視床下部・下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎：糖尿病（目標１，３）
第7回	血液・造血器，骨髄，リンパ節：貧血，白血病，悪性リンパ腫，免疫不全症（目標１，３）
第8回	皮膚・感覚器：湿疹，蕁麻疹，ウイルス性皮膚疾患，上皮性腫瘍，中耳炎，白内障，緑内障，網膜はく離（目標１，２）
第9回	病理学の概要，病因論，退行性病変，変性，萎縮，壊死（目標１）
第10回	代謝異常，蛋白質・アミノ酸代謝異常，脂質代謝異常，糖質代謝異常（目標１）
第11回	進行性病変，再生，化生，肥大，過形成，創傷治癒，一次治癒と二次治癒（目標１）
第12回	循環障害，血液循環，リンパ循環，高血圧，充血，うっ血，浮腫，虚血，出血，血栓症塞栓症，梗塞（目標１，２）
第13回	免疫，自然免疫，獲得免疫，抗体，アレルギー，自己免疫性疾患，膠原病（目標１）
第14回	移植，炎症，感染症，病原微生物（目標１）
第15回	腫瘍，良性腫瘍，悪性腫瘍，異型性，転移，進行度（目標１，２）
第16回	放射線障害，発癌と放射線，放射線治療，老化，先天異常・奇形，遺伝因子（目標１）

予習・復習の内容	予習	教科書の図とその説明は目を通しておく。
	復習	配布プリントの内容を教科書で確認する。
	展開	

成績評価	評価の基準	病理学の総論と各論について，理学療法士として必要な基本的知識と病態を理解している事。
	評価の方法	筆記試験（多肢選択問題および論述式問題）から判断する。但し，授業の進捗状況によっては，レポートをし，評価材料とする場合もある。

教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学 第３版」2009
	著者名	奈良勲他
	出版社	医学書院
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士　国家試験問題解説 2012 共通問題
	著者名	
	出版社	メディックメディア
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	山口　直人：各論担当（合計８回）金曜日４・５時限開講を基準としますが，授業進捗状況等によっては夏休み短期集中を行うことがあります。 馬場　　健：総論担当（合計８回）

一般臨床医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM204
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	一般臨床医学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2011001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医学史，現代医療，保健医療制度，病態生理，臨床医学
授業のねらい・概要	現代医学は日進月歩であるが，疾病構造も変化し，また医療の世界も変遷しつつある。そこでは，医療者としての幅広い知識と考え方が求められる。医学・医療の流れを概観し現代医療の問題点と進む道を探り，主な症候の病態生理，臨床検査・画像診断の基礎，治療学の基礎などについて概説する。また，内科学，神経内科学，リハビリテーション医学の授業で言及できない疾患などについても概観したい。
学生の達成目標	1. 近代医学の発展と現代医学の展開,現在の医療制度などについて理解する。 2. 人体の構造と疾患のり立ちの基本を理解する。 3. 診断学・症候学の基礎的理解をえる。 4. 臨床検査・画像診断,治療学などの基礎を理解する。 5. 外科系疾患を総論的に理解する。
授業内容	第1回　医学の歴史と近代医学の発展(目標1,2) 第2回　近代医学の展開と現代医療の諸問題・展望(目標1,2)

	第3回	機能と病態１（発熱・食欲・嘔吐・浮腫などについて理解する）(目標2,3)
	第4回	機能と病態２（感染防御・ショックなどについて理解する）(目標2,3)
	第5回	機能と病態３（痛みと炎症、関節痛・頭痛・めまいなどについて理解する）(目標2,3)
	第6回	機能と病態４（水分代謝、脱水・肥満・羸痩などについて理解する(目標2,3)
	第7回	画像診断1(総論,Xp，CT，MRI，核医学検査などを理解する）(目標2,3)
	第8回	画像診断２（胸部の画像診断を理解する）(目標2,3)
	第9回	画像診断３（腹部・腎泌尿器系の画像診断）(目標2,3)
	第10回	画像診断４（頭頚部・甲状腺・血管、骨関節などの画像診断を理解する）(目標2,3)
	第11回	救命救急医療（ショックなどの病態，輸血，救急処置などについて理解する）(目標2,3)
	第12回	外科系疾患概観－１総論（外傷、感染、血行障害など一般外科について理解する）(目標5)
	第13回	外科系疾患概観－２（腫瘍、移植、脳神経外科疾患，形成外科などについて理解する）(目標5)
	第14回	外科系疾患概観－３（腎・泌尿器科・婦人科疾患について理解する）(目標5)
	第15回	外科系疾患概観－４（眼科・耳鼻科などの疾患について理解する）(目標5)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度
	評価の方法	試験による
教科書	書籍名	「PT・OTのための一般臨床医学」
	著者名	明石謙編
	出版社	医歯薬出版
	価格	
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-263-21275-2

推薦図書等

書籍名	「まんが　医学の歴史」
著者名	茨城保
出版社	医学書院
価格	
ISBN・ISSN	978-4-260-00573-9

書籍名	「医学史探訪」
著者名	二宮陸雄
出版社	医歯薬出版
価格	
ISBN・ISSN	4-263-23851-6 C0047

書籍名	「一目でわかる病態生理」
著者名	松野一彦
出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
価格	
ISBN・ISSN	4-89592-272-3

書籍名	「一目でわかる臨床検査」
著者名	新倉・松野
出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
価格	
ISBN・ISSN	4-89592-206-5

書籍名	「メディカル・ノート画像診断」
著者名	小川 敏英
出版社	西村書店
価格	
ISBN・ISSN	978-4-89013-658-1

書籍名	「くすりの作用メカニズム」
著者名	平野・廣田
出版社	医学書院
価格	
ISBN・ISSN	978-4-260-00235-6

書籍名	「手術と解剖のしくみ」

著者名	坂井
出版社	新星出版社
価格	
ISBN・ISSN	978-4-405-10671-0

参考URL

備考

内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM205
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	内科学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2012001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	内科疾患，病態，診断と治療
授業のねらい・概要	呼吸循環器疾患のみならず他の内科疾患に対する幅広い知識は，理学療法を行う上で医療者としての「共通言語」として重要である。主要な内科疾患について，その病態，疫学，症候，診断，治療について概観し，理学療法を行う上での最低限の知識の獲得を目指す。（神経内科疾患については，神経内科学において，内科系疾患以外は一般臨床医学で述べる）
学生の達成目標	1.　内科疾患の病態と症候学の理解 2.　内科疾患の診断と治療に対する一般的知識の獲得 3.　理学療法の対象となる内科疾患およびリスクとなりうる疾患の理解
授業内容	第1回　内科診断学－１（内科とは、病歴、POMR）(目標1,2,3) 第2回　内科診断学－２（主訴，一般症状と診察などについて理解する）(目標1,2,3) 第3回　内科症候学－３（呼吸・循環器症状一般症状の診かた・とらえ方）(目標1,2) 第4回　内科症候学－４（腹部症状などの診かた・とらえ方）(目標1,2,3)

第5回	臨床検査－１（臨床検査のとらえ方、末梢血液検査意味するものを理解する）(目標1,2,3)
第6回	臨床検査－２（出血凝固、生化学的検査など）(目標1,2,3)
第7回	臨床検査－３（血清、免疫学的検査）(目標1,2,3)
第8回	薬物療法－１（総論：内科と外科、クスリとは）(目標1,2,3)
第9回	薬物療法－２（抗炎症・鎮痛薬、抗菌剤・抗血栓剤など）(目標1,2,3)
第10回	薬物治療－３（高血圧・不整脈・狭心症など循環器系薬剤）(目標1,2,3)
第11回	薬物治療－４（消化器系薬剤、抗癌剤・高脂血症など代謝系の薬剤、抗テンカン剤）(目標1,2,3)
第12回	循環器疾患－１（心血管系の解剖生理，循環器症状，高血圧，心不全などについて）(目標1,2,3)
第13回	循環器疾患－２（心筋硬塞，先天性心疾患，不整脈などについて）(目標1,2,3)
第14回	呼吸器疾患-1(呼吸器の解剖生理,呼吸器症状,肺炎などの各種呼吸器感染症)(目標1,2,3)
第15回	呼吸器疾患-2(気管支喘息,閉塞性肺疾患,間質性肺炎,肺癌,気胸などについて)
第16回	前期の復習(目標1,2,3)
第17回	消化管疾患(消化管の解剖生理,口腔,食道,胃・十二指腸,腸疾患などについて)(目標1,2,3)
第18回	肝・胆道・膵疾患(肝胆道系の解剖生理,検査,肝炎,肝硬変,胆石,膵癌など)(目標1,2,3)
第19回	血液・造血器疾患(貧血,白血球減少,白血病など)(目標1,2,3)
第20回	内分泌・代謝性疾患-1(糖代謝障害,高脂血症,無機質・ビタミン欠乏など)(目標1,2,3)
第21回	内分泌・代謝性疾患-2(下垂体,甲状腺,副甲状腺,副腎機能 性機能)(目標1,2,3)
第22回	腎・泌尿器疾患-1(腎臓の解剖生理,病態生理,腎不全,腎炎など)(目標1,2,3)
第23回	腎・泌尿器疾患-2(妊娠中毒など,腎性高血圧,水と電解質異常など)(目標1,2,3)
第24回	膠原病,アレルギー疾患,免疫不全など(目標1,2,3)
第25回	感染症(細菌感染症,好酸菌,ウイルスその他各種感染症を理解する)(目標1,2,3)
第26回	中毒および環境要因による疾患(有機溶剤,農薬,薬剤,食中毒など)(目標1,2,3)
第27回	内科疾患と神経症状(各種内科疾患で見られる神経症状について)(目標1,2,3)
第28回	内科疾患と皮膚内科疾患(皮膚赤疾患の概観と内科疾患で遭遇する皮膚症状の知識をえる) (目標1,2,3)

	第29回	内科疾患と心身症その他(心身症とは?内科疾患には心身相関と関連するものが多いことを理解する)(目標1,2,3)
	第30回	まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験（ 100%）による
教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学」
	著者名	大成浄志
	出版社	医学書院
	価格	
	ISBN・ISSN	978 -4-260-26624-6
推薦図書等	書籍名	「新臨床内科学」第９版
	著者名	高久ら監修
	出版社	医学書院
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-260-00305-6
	書籍名	「解剖学アトラス」
	著者名	越智訳
	出版社	文光堂
	価格	
	ISBN・ISSN	3047-40023-7386
	書籍名	「一目でわかる病態生理」
	著者名	松野一彦
	出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
	価格	
	ISBN・ISSN	4-89592-272-3

書籍名　「一目でわかる臨牀検査」
著者名　新倉・松野一彦
出版社　メディカル・サイエンス・インターナショナル
価格
ISBN・ISSN　4-89592-206-5

書籍名　「循環器疾患ビジュアルブック」
著者名　落合監修
出版社　学研
価格
ISBN・ISSN　978-4-7809-1003-2 C3047

書籍名　「くすりの作用とメカニズム」
著者名　平野・廣多
出版社　医学書院
価格
ISBN・ISSN　978-4-260-00235-6 C3047

書籍名　「糖尿病食事療法のための食品交換表」第6版
著者名　日本糖尿病学会
出版社
価格
ISBN・ISSN

書籍名　「ＣＤによる聴診トレーニング　呼吸音編」
著者名　石原恒夫
出版社　南江堂
価格
ISBN・ISSN　978-4-524-24613-7 C3047

書籍名　「ＣＤによる聴診トレーニング　心音編」
著者名　沢山峻民
出版社　南江堂
価格
ISBN・ISSN　978-4-524-20797-8 C3047

参考URL

備考

整形外科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM206
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	整形外科学
科目責任者	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2013001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器疾患，整形外科的診断，整形外科的治療，リハビリテーション
授業のねらい・概要	運動器に関する整形外科的な疾患について，出来る限り臨床の場で役立つ知識の獲得について分かり易く解説する。
学生の達成目標	1. 整形外科的な診断および治療法について基礎的,総論的な知識を身につける。 2. 基礎的知識をもとに整形外科的な疾患の総論及び各論について学び,豊富で臨床的な知識を獲得する。 3. 外傷学(上下肢の脱臼・骨折,スポーツ障害・外傷など),リハについても十分な知識を身につける。
授業内容	第1回　基礎科学(1)骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など(目標1) 第2回　基礎科学(2)骨格筋の構造や病態生理,神経組織の構造と機能など(目標1) 第3回　診断総論(1)運動器の基本的な評価法および診断について(目標1)

第4回	診断総論(2)神経学的な評価法および整形外科的検査について(目標1)
第5回	治療総論(1)保存療法について(目標1)
第6回	治療総論(2)手術療法について(目標1)
第7回	疾患総論(1)軟部組織・骨・関節の感染症について(目標2)
第8回	疾患総論(2)関節リウマチとその類縁疾患について(目標2)
第9回	疾患総論(3)慢性関節疾患・四肢循環障害疾患,特に骨端症について(目標2)
第10回	疾患総論(4)先天性骨系統疾患・先天異常症候群について(目標2)
第11回	疾患総論(5)代謝性骨疾患,特に骨粗しょう症などについて(目標2)
第12回	疾患総論(6)骨腫瘍,軟部腫瘍について(目標2)
第13回	疾患総論(7)神経疾患・筋疾患について(目標2)
第14回	疾患各論(1)肩関節・肘関節について(目標2)
第15回	疾患各論(2)手関節および手指について(目標2)
第16回	疾患各論(3)頚椎について(目標2)
第17回	疾患各論(4)胸椎・腰椎について(目標2)
第18回	疾患各論(5)股関節について(目標2)
第19回	疾患各論(6)膝関節について(目標2)
第20回	疾患各論(7)膝関節について「老化は脚から-特に膝関節を中心に-」(目標2)
第21回	疾患各論(8)足関節と足について(目標2)
第22回	外傷総論 軟部組織損傷,骨折・脱臼の総論について(目標3)
第23回	外傷各論(1)上肢の骨折・脱臼について(目標3)
第24回	外傷各論(2)骨盤・下肢の骨折・脱臼について(目標3)
第25回	外傷各論(3)脊椎・脊髄損傷について(目標3)
第26回	外傷各論(4)末梢神経損傷について(目標3)
第27回	外傷各論(5)スポーツ障害について(目標3)
第28回	リハビリ(1)運動器疾患のリハビリテーションについて(目標3)
第29回	リハビリ(2)四肢切断および補装具について(目標3)
第30回	リハビリ(3)福祉用具の知識「セラピストに必要な福祉用具の知識について」(目標3)

予習・復習の内容	予習	本「シラバス」は「テキスト」として使用する、「教科書」の各章の順序に即して作製してあるので，授業前にテキストを読んでくることが望ましい。但し，本「教科書」は基本的には「医師系の学生」などを対象とした本なので，難解な箇所（特に，第１回～第４回のシラバスに相当）は詳細に読むのを省略しても良い。
	復習	毎回，「授業」の際，各自に配布するB4の「資料集」は，多くの図表を張り付けた「資料」なので，キーワードを含む「テキスト」の範囲については，「インターネット」資料や国家試験の「過去問

		の参考書」などで，「知識の確認」や「知識の整理」をしてもらいたい。
	展開	「シラバス」の各課題については、他学科の同じテーマの「資料」等を私が授業で渡す「参考資料集」の裏面にでも張り付けて、独学での「復習」などの際、役立てて欲しい。
成績評価	評価の基準	前，後期の期末に「筆記試験」として、毎回50題ずつの問題を出し，満点は100点として60点以上を合格とする。
	評価の方法	筆記試験の際，最高得点者の点数を満点（満点は100点）にした加算分を全員に加算（加算最大点は20点まで）して採点する。加算しても60点以下の者は不合格者として，「レポート」の課題を出し，改めて「評価」して「合否」を決定する。
教科書	書籍名	標準整形外科学　＜第11版＞
	著者名	監修：内田淳正　編集：中村利孝/松野丈夫/井樋栄二/馬場久敏
	出版社	医学書院
	価格	9,870円(本体 9,400円＋税5%)
	ISBN・ISSN	978-4-260-01070-2 C3047
推薦図書等		
参考URL		
備考	上記教科書の定価は高価であるが，「整形外科」の参考本としても，一生に一冊あれば良い本である。	

神経内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM207
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	神経内科学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2014001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	神経症候学，高次脳機能障害，神経疾患
授業のねらい・概要	神経疾患がリハビリテーションの中で占める割合は大きい。一般的に神経症状は難解だと思われているが，神経解剖学と神経生理学の概略を理解すればその複雑さは氷解する。解剖と機能の面から神経症候学を概説し，神経疾患に対して親しみ興味を持って臨床の場に向かわせたい。
学生の達成目標	1. 神経症状の背景にある解剖・生理学の理解 2. 解剖・生理学と関連した神経症状の理解 3. 神経系の画像診断の理解 4. 神経症状を呈する各種疾患の理解 5. リハビリテーションにおける神経疾患の位置づけの理解
授業内容	第1回　神経内科学序論(神経内科をとは何かをしる)(目標1,2,3,4) 第2回　意識障害(意識とは,意識障害とは?その機序を理解する)(目標1,2,3,4)

第3回	症候学-脳神経障害,嚥下障害など(脳神経障害の症候学と解剖生理の理解) (目標1,2,3,4)
第4回	症候学-運動障害1:運動麻痺(運動麻痺の症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第5回	症候学-運動障害2:運動失調(運動失調の症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第6回	症候学-運動麻痺3:錐体外路障害(パーキンソン症状などの症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第7回	症候学-不随意運動,けいれんなど(各種不随意運動について理解する) (目標1,2,3,4)
第8回	症候学-筋萎縮,歩行障害(筋萎縮の機序,症候学について理解する) (目標1,2,3,4)
第9回	症候学-感覚障害,疼痛(感覚障害のタイプ・病態,疼痛障害について理解する) (目標1,2,3,4)
第10回	症候学-めまい,失神,自律神経障害(病態,解剖生理の理解)(目標1,2,3,4)
第11回	症候学-睡眠障害,精神症状(目標1,2,3,4)
第12回	症候学-高次脳機能障害1(失語症などの病態の理解)(目標1,2,3,4)
第13回	症候学-高次脳機能障害2(失行認,その他の高次機能障害の病態の理解) (目標1,2,3,4)
第14回	神経学的補助検査－１（神経系の画像診断の概要について理解する）(目標1,2,3,4)
第15回	神経学的補助検査－２（髄液検査その他について理解する）(目標1,2,3,4)
第16回	神経学的補助検査－３（電気生理学的検査について理解する）(目標1,2,3,4)
第17回	各論:各論:脳血管障害(分類,病態,治療について理解する)(目標1,2,3,4)
第18回	各論:脳腫瘍,頭部外傷(分類と病態,治療)(目標1,2,3,4)
第19回	各論:中枢神経感染症(髄膜炎ン脳炎その他について理解する)(目標1,2,3,4)
第20回	各論:パーキンソン病とパーキンソン症候群(症候学,病態生理)(目標1,2,3,4)
第21回	各論:認知症,てんかん(病態と治療)(目標1,2,3,4)
第22回	各論:脊髄小脳変性症(分類,症候学,治療)(目標1,2,3,4)
第23回	各論:運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症その他の疾患の理解)(目標1,2,3,4)

	第24回	各論:脱髄性疾患(多発性硬化症などの病態生理)(目標1,2,3,4)
	第25回	各論:脊椎・脊髄疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第26回	各論:末梢神経疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第27回	各論:ミオパチー(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第28回	各論:自律神経疾患(分類,症候,治療などについて理解)(目標1,2,3,4)
	第29回	各論:先天異常・代謝性疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第30回	各論:中毒性神経疾患その他(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験による
教科書	書籍名	「リハビリテーションのための神経内科学」
	著者名	安藤一也・杉村公也
	出版社	医歯薬出版
	価格	
	ISBN・ISSN	978 -4-263-21150-2
推薦図書等	書籍名	「臨床神経内科学」
	著者名	平山恵造
	出版社	南山堂
	価格	
	ISBN・ISSN	4-525-24765-7
	書籍名	「ベッドサイドの神経の診かた」
	著者名	田崎ら

出版社　南山堂

価格

ISBN・ISSN　978-4-525-24717-1

書籍名　「メディカルスタッフのための神経内科学」

著者名　河村満

出版社　医歯薬出版

価格

ISBN・ISSN　978-4-263-21411-4 C3047

書籍名　「解剖学アトラス」

著者名　越智訳

出版社　文光堂

価格

ISBN・ISSN　3047-40023-7386

書籍名　「脳神経疾患ビジュアルブック」

著者名　落合監修

出版社　学研

価格

ISBN・ISSN　978-4-7809-1009-4 C3047

書籍名　「脳・神経・脊髄イラストレイテッド」月刊ナーシング４増刊号

著者名　松谷・藤巻編

出版社　学研

価格

ISBN・ISSN

書籍名　「神経症候学」改定第２版　Ⅰ

著者名　平山恵造

出版社　文光堂

価格

ISBN・ISSN

書籍名　「神経症候学」改定第２版　Ⅱ

著者名　平山恵造

出版社　文光堂

価格	
ISBN・ISSN	978-4-8306-1533-7

書籍名	「わかる！脳　画像診断の要点」
著者名	百島訳
出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
価格	
ISBN・ISSN	978-4-89592-588-4 C3047

書籍名	「高次脳機能学」第２版
著者名	石合純夫
出版社	医歯薬出版
価格	
ISBN・ISSN	978-4-263-21396-4 C3047

参考URL

備考

精神医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM208
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	精神医学
科目責任者	荒木　均
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2015001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	精神保健，精神医学，精神科リハビリテーション，地域精神保健福祉
授業のねらい・概要	この授業では，日本の精神保健福祉に関する社会制度や法規を説明する。またライフサイクルの視点からの精神保健について概説する。また精神障害については，各疾患の病態や治療を，身体，心理，社会の視点から説明する。さらにリハビリテーションの現場でよくみられる精神問題とその対応についても解説する。
学生の達成目標	1. 日本における精神保健福祉の歴史と現状を学習する。 2. 精神保健福祉の社会制度や法規について理解する。 3. ライフサイクルにおける精神保健について理解する。 4. 精神疾患の病態,治療とリハビリテーションについて理解する。 5. リハビリテーションにおける精神問題とその対応について理解する。
授業内容	第1回　こころの病気の原因は脳にあるのか（目標１） 第2回　精神医学の歴史と治療法の変遷（目標１） 第3回　気分障害と不安障害その１（目標４）

	第4回	気分障害と不安障害その２（目標４）
	第5回	さまざまなこころの病気その１（統合失調症他）（目標４）
	第6回	さまざまなこころの病気その２（依存症、摂食障害、発達障害他)（目標４）
	第7回	さまざまなこころの病気その３（外傷後ストレス障害、でんかん他）（目標４）
	第8回	効果的な薬が開発されている（目標４）
	第9回	精神療法で症状を改善する（目標４）
	第10回	ライフサイクルと精神保健[目標３）
	第11回	社会復帰と自立のために　その１（法律と制度）（目標２）
	第12回	社会復帰と自立のために　その２（行政と関係機関）（目標２）
	第13回	リハビリテーションにおける精神問題その１（認知症、高次脳機能障害他）（目標５）
	第14回	リハビリテーションにおける精神問題その２（脳卒中後うつ病，疼痛性障害，障害受容の概念（目標５）
	第15回	世界の精神保健とまとめ（目標１～５）

予習・復習の内容	予習	精神障害に関する記事や書籍、映画等に関心をもつ
	復習	授業終了後、理解度を深めるためにミニテストを行う
	展開	

成績評価	評価の基準	授業の内容に即した精神保健・精神医学の基本的な知識の理解を有すること。
	評価の方法	試験（択一式および記述式）80%，授業への参加度20%とし，総合的に評価する。

教科書	書籍名	これならわかる精神医学
	著者名	上島国利
	出版社	ナツメ社
	価格	1,890
	ISBN・ISSN	978-4816350849

推薦図書等	書籍名	我が国の精神保健福祉(平成23年度版)
	著者名	
	出版社	太陽美術出版部
	価格	2,500
	ISBN・ISSN	978-4906276837

参考URL	http://www.e-rapport.jp/index.html
備考	担当教員からのメッセージ 　この授業では，これから医療職を目指す者として精神障害はもとより心の健康に至るまで広い視点を持てるようになってほしいと思っています。わからないことは積極的に質問してください。

小児科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM209
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	小児科学
科目責任者	大濱　洋一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2016001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児，成長発達，疾病
授業のねらい・概要	正常小児の成長発達と小児の疾病における特性を概説し，理学療法として小児の運動障害にも専門的に対応できる能力を習得する。
学生の達成目標	1.　正常小児の成長発達を理解する。 2.　未熟児新生児の病態を理解する。 3.　小児疾患の特性および病態を理解する。 4.　重症心身障害児の特性と療育について理解する。
授業内容	第1回　小児科学概論(目標1,2,3) 第2回　小児科学概論(目標1,2,3) 第3回　診断と治療の概要(目標3,4) 第4回　新生児・未熟児疾患(目標2) 第5回　新生児・未熟児疾患(目標2) 第6回　先天異常と遺伝病(目標3)

	第7回	神経・筋・骨系疾患(目標3)
	第8回	神経・筋・骨系疾患(目標3)
	第9回	循環器疾患,呼吸器疾患(目標3)
	第10回	感染症(目標3)
	第11回	消化器疾患,内分泌・代謝疾患(目標3)
	第12回	血液疾患,免疫・アレルギー疾患,膠原病(目標3)
	第13回	腎・泌尿器系,生殖器疾患,腫瘍性疾患,心身症・神経症など(目標3)
	第14回	重症心身障害児(目標4)
	第15回	眼科・耳鼻科的疾患(目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回の授業内容について，小児の特徴を念頭に置いて教科書を読んでおくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめて，小児の特徴を理解すること。
	展開	
成績評価	評価の基準	正常小児の成長発達と小児の疾病における特性に関して，授業で取り上げた内容が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	期末の筆記試験　100%
教科書	書籍名	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学
	著者名	編集　冨田　豊
	出版社	医学書院
	価格	4,200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

薬理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM212
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	薬理学
科目責任者	植村　展子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2017001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	薬物療法，薬物の臨床応用，薬物の副作用，薬物の作用機序
授業のねらい・概要	薬理学とは薬物が生体に及ぼす種々の反応およびその作用機序について学び，薬物療法の基盤を確かなものとすることを目標としており，薬物の効果・臨床応用・副作用等についての知識を習得する。
学生の達成目標	1. 薬物に関する法律;薬事法,麻薬および向精神薬取締法,覚せい剤取締法等による薬物の使用制限を理解すること。 2. 正常および病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を現すかを理解すること。 3. 種々の疾患に用いられる薬物の投与方法・作用機序・副作用を理解すること。
授業内容	第1回　薬理学総論:薬の定義・薬を規制している法律,薬の主作用・副作用・薬理作用 第2回　薬理学総論:受容体理論・薬物相互作用-第1・2回の講義で目標の1,2の項目を理解 第3回　自律神経と薬:交感神経作用薬・遮断薬

	第4回	自律神経と薬:副交感神経作用薬・遮断薬 筋弛緩薬:代表的筋弛緩薬の作用機序・臨床応用・副作用
	第5回	麻薬性鎮痛薬・局所麻酔薬・全身麻酔薬:痛みに対する代表的治療薬物の作用機序・副作用
	第6回	抗炎症薬:非ステロイド・副腎皮質ステロイド・抗リウマチ薬の作用機序・副作用
	第7回	中枢神経作用薬:抗精神病薬・抗うつ薬・抗躁(感情障害)薬・抗てんかん薬の代表的薬物の作用機序・副作用
	第8回	中枢神経作用薬:パーキンソン病・アルツハイマー病・不眠・不安に対する代表的治療薬の作用機序と副作用。心血管作用薬:心筋梗塞・狭心症・高血圧症等の疾患に対する代表的治療薬の作用機序と副作用-第3～8回の講義で目標の3の項目を理解

予習・復習の内容	予習	特に生理学（正常な生体の生理機能）・解剖学
	復習	毎回の講義内容をまとめること。理解すること。
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた薬物療法における薬物の作用機序・臨床応用・作用機序等が理解できて，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験100%で評価する。

教科書	書籍名	シリーズ 看護の基礎科学 7 薬とのかかわり 臨床薬理学
	著者名	中谷晴昭　大橋京一／編
	出版社	日本看護協会出版会
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	
参考URL	
備考	薬理学を充分理解するには既習の「生理学・解剖学・生化学等」の基礎的知識が必要。

リハビリテーション概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC101
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2018001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リハビリテーションの理念，障害の構造，障害評価
授業のねらい・概要	これから進もうとするリハビリテーションについて鳥瞰図的に概説し，この４年間で何をどのようにして学んで行くかについて述べたい。まず，リハビリテーションとは何かについて，その理念と歴史的背景などの付き概説し，ついで，対象となる疾患の症候と障害構造の評価，それに対する介入方法について大まかな理解を得て，後期の授業に備える。障害者に対する医療・福祉制度などのリハビリテーションをめぐる社会的背景についても目を向けさせたい。
学生の達成目標	1. 病気とは何か?健康とは何か?を理解する。 2. 障害とは何か?障害の概念と構造を理解する。 3. 障害をどう評価するのか?を理解する。 4. どのような疾患にどのように介入してゆくのかの概略を学ぶ。 5. 障害者を支える社会的背景について理解する。
授業内容	第1回　リハビリテーションとは?その理念と歴史的背景(目標1,2,3,4,5) 第2回　健康とは?病気とは?障害とは?その概念と構造(目標1,2,3,4,5)

	第3回	リハビリテーションの対象とその評価と介入方法(目標1,2,3,4,5)
	第4回	リハビリテーションを支える医療・福祉制度(目標1,2,3,4,5)
	第5回	リハビリテーションと医療安全(目標1,2,3,4,5)
	第6回	障害の病態生理と評価・治療(廃用症候群)(目標1,2,3,4,5)
	第7回	障害の病態生理と評価・治療(運動障害・歩行障害)(目標1,2,3,4,5)
	第8回	障害の病態生理と評価・治療(摂食・嚥下障害・排尿障害)(目標1,2,3,4,5)
	第9回	障害の病態生理と評価・治療(脳卒中)(目標1,2,3,4,5)
	第10回	障害の病態生理と評価・治療(神経疾患)(目標1,2,3,4,5)
	第11回	障害の病態生理と評価・治療(頭部外傷・脊髄損傷)(目標1,2,3,4,5)
	第12回	障害の病態生理と評価・治療(運動器)(目標1,2,3,4,5)
	第13回	障害の病態生理と評価・治療(内部障害・呼吸・循環障害)(生活習慣病) (目標1,2,3,4,5)
	第14回	障害の病態生理と評価・治療(高次脳機能障害・認知症)(目標1,2,3,4,5)
	第15回	障害の病態生理と評価・治療(発達障害と老年症候群)(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，本試験による）
	評価の方法	試験による
教科書	書籍名	「現代リハビリテ－ション医学」
	著者名	千野編
	出版社	金原出版
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-307-25142-6
推薦図書等	書籍名	「リハビリテ－ション医学」
	著者名	米本恭三

出版社	医歯薬出版
価格	
ISBN・ISSN	978-4-263-21284-4

書籍名	「入門リハビリテーション概論」
著者名	中村隆一
出版社	医歯薬出版
価格	
ISBN・ISSN	978-4-263-21294-3

書籍名	「医学生・コメディカルのためのリハビリテーション概論」
著者名	上好・土肥編
出版社	永井出版
価格	
ISBN・ISSN	978-4-8159-1827-9 C3047

書籍名	「学生にためのリハビリテーション医学概論」
著者名	栢森良二
出版社	医歯薬出版
価格	
ISBN・ISSN	978-4-263-21372-8 C3047

参考URL

備考

リハビリテーション医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション医学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2019001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医学的リハビリテーション，リハビリテーション診療，治療手技
授業のねらい・概要	リハ概論で俯瞰したリハビリテーションについてさらに知識を深め，並行して行われる神経内科学，内科学などの知識をもとに，実際のリハビリテーション医学の考え方を重ね合わせ，リハビリテーション全体の中で理学療法の立場を確認してゆく。
学生の達成目標	1. 障害の分類と評価について復習し,理解を深める。 2. リハビリテーション診療の実際について学ぶ。 3. 具体的な疾患における各々の障害に対してどう介入してゆくのかを学ぶ。
授業内容	第1回　リハビリテーションと障害学(目標1,2,3) 第2回　リハビリテーションとチーム医療(目標1,2,3) 第3回　リハビリテーションと医療連携(目標1,2,3) 第4回　リハビリテーション診療(目標1,2,3) 第5回　リハビリテーション治療手技のあらまし(目標1,2,3)

	第6回	廃用症候群のリハビリテーション(目標1,2,3)
	第7回	褥創・排尿障害・性機能障害などのリハビリテーション(目標1,2,3)
	第8回	高次脳機能障害のリハビリテーション(目標1,2,3)
	第9回	疾患とリハビリテーション(脳卒中急性期)(目標1,2,3)
	第10回	疾患とリハビリテーション(脳卒中回復期・維持期)(目標1,2,3)
	第11回	疾患とリハビリテーション(頭部外傷と脊髄損傷)(目標1,2,3)
	第12回	疾患とリハビリテーション(呼吸器疾患)(目標1,2,3)
	第13回	疾患とリハビリテーション(心血管疾患)(目標1,2,3)
	第14回	高次脳機能障害のリハビリテ－ション(目標1,2,3)
	第15回	リスク管理とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度
	評価の方法	試験による
教科書	書籍名	「現代リハビリテ－ション医学」
	著者名	千野編
	出版社	金原出版
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-307-25142-6
推薦図書等	書籍名	「リハビリテ－ション医学」
	著者名	米本恭三
	出版社	医歯薬出版
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-263-21284-4
	書籍名	「リハビリテ－ション総論」
	著者名	椿原彰夫
	出版社	診断と治療社

価格

ISBN・ISSN　978-4-7878-1160-8

書籍名　「エビデンスに基づく理学療法」

著者名　内山靖

出版社　医歯薬出版

価格

ISBN・ISSN　978-4-263-21318-6 C3047

書籍名　「リスク管理」

著者名　嶋田・大峯編

出版社　文光堂

価格

ISBN・ISSN　978-4-8306-4370-5

書籍名　「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」

著者名　日本リハビリテーション学会

出版社　医歯薬出版

価格

ISBN・ISSN　4-263-21854-X C3047

書籍名　「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」

著者名　亀田メディカルセンター

出版社　メディカルビュー社

価格

ISBN・ISSN　978-4-7583-0694-2 C3047

書籍名　「狭心症・心筋硬塞のリハビリテーション」

著者名　目全監修

出版社　南江堂

価格

ISBN・ISSN　978-4-524-24724-0 C3047

書籍名　「リハ実践的ニック　呼吸ケア」

著者名　塩谷・高橋編

出版社　メディカルビュー社

価格

ISBN・ISSN　978-4-7583-0685-0 C3347

書籍名　「COPD(慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン」

著者名　日本呼吸器学会

出版社　メディカルレビュー社

価格

ISBN・ISSN　978-4-7792-0431-9 C3047

書籍名　「高次脳機能障害のリハビリテーション」

著者名　本田編

出版社　医学書院

価格

ISBN・ISSN　978-4-260-00178-6 C3047

書籍名　「CI療法」

著者名　道免和久

出版社　中山書店

価格

ISBN・ISSN　978-4-521-73027-1C3047

書籍名　「生活を支える高次脳機能障害のリハビリテーション」

著者名　橋本圭司

出版社　三輪書店

価格

ISBN・ISSN　978-4-89590-307-3 C3047

書籍名　「ＩＣＦ　国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」

著者名　世界保健機構

出版社　中央法規

価格

ISBN・ISSN　4-8058-4417-5 C3036

書籍名　「脳卒中治療ガイドライン２００９」

著者名　篠原ら編

出版社　協和企画

価格

ISBN・ISSN　978-4-87794-119-2 C3047

参考URL

備考

チーム医療演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC102
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	チーム医療演習
科目責任者	佐藤　将朗
担当教員	内山　伸治 阿部　勉
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2020001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	チーム医療，専門職の役割，連携，協働，ケアマネジメント
授業のねらい・概要	障害者，高齢者に対するリハビリテーション医療を行う上での，重要な専門職のチームワークについて学ぶ。チーム医療を構成する各専門職から，その専門職の役割と協働のスキルを学ぶ。後半は，事例のグループ討議を行い，チームとしての支援目標・支援計画を検討する。事例は，医療機関（急性期，回復期）のチーム医療事例，および，訪問サービス・通所サービス，障害者施設等でのケアチーム事例を用意する。多面的な事例検討を行うことで，チームを構成する一員としての基本的姿勢を考えるとともに，他の専門職と協働できる理学療法士像を考える。
学生の達成目標	1. リハビリテーションにおけるチーム医療の重要性を理解する。 2. 望ましいチームワークに必要な,基本的知識およびスキルを習得する。 3. チーム医療を構成する各専門職の役割を理解する。 4. チームとしての支援目標,および,チームを構成する各専門職の支援(治療)目標を理解する。

5. リハビリテーションカンファレンス(ケアカンファレンス)について理解し,模擬体験する。

6. 各専門職間の連携,協働の必要性ならびに連携,協働の方法を理解する。

7. 医療,地域,福祉領域の連携の重要性を理解できる。

授業内容

第1回	チーム医療とは(目標1,2,3,4)
第2回	グループ討議
第3回	看護師の仕事とチーム医療の役割(目標1,2,3,4)
第4回	グループ討議
第5回	医療ソーシャルワーカーの仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第6回	グループ討議:心理的問題を伴う事例の支援目標(目標4,5,6)
第7回	作業療法士の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第8回	グループ討議: PT,OTの事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第9回	言語聴覚士の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第10回	グループ討議:言語障害事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第11回	医療管理の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第12回	グループ討議:リハビリテーション事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第13回	グループ討議
第14回	グループによるチーム医療演習発表会(目標1～7)
第15回	グループによるチーム医療演習発表会(目標1～7)

予習・復習の内容

予習	チーム医療に関係する各職種について調べてくること
復習	事例検討・発表について整理しておく
展開	学外実習で出会う、多くの職種、患者さまとチーム医療を展開する

成績評価

評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の積極性の程度（ 30%），各講義の事前・事後レポート６回（ 30%），グループ討議６回（ 20%），全体発表会（ 20%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

植草学園大学チーム医療事例集配布

推薦図書等

書籍名	図説ケアチーム
著者名	野中猛
出版社	中央法規

価格	2000
ISBN・ISSN	978-4-8058-2947-9

書籍名	チームケア論
著者名	鷹野和美
出版社	ぱる出版
価格	2500
ISBN・ISSN	978-4-8272-0436-0

書籍名	チーム医療論
著者名	鷹野和美
出版社	医歯薬出版
価格	2000
ISBN・ISSN	978-4-263-23392-4

参考URL	
備考	後期前半７回（２コマ）　ゲストスピーカーの都合で予定を変更する場合があります

社会福祉学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC103
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	社会福祉学
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2021001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，社会福祉専門職
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。社会福祉専門職と非専門的社会福祉従事者について理解を深める。現代における社会福祉の課題についてとりあげる。
学生の達成目標	1.　私たちの生活と社会福祉を関連づけて考えることができる。(目標1) 2.　社会福祉のしくみの特質を理解する。(目標2) 3.　社会福祉の現状と課題について理解を深める。(目標3)
授業内容	第1回　現代日本の特徴と社会福祉 (目標1) 第2回　社会福祉とはなにか (目標1) 第3回　社会福祉の歴史 (目標1,2) 第4回　社会福祉と社会保障 (目標2) 第5回　社会福祉援助の方法1（対人援助）(目標2)

	第6回	社会福祉援助の方法2 (地域支援)　（目標2）
	第7回	社会福祉の法と行財政（目標2）
	第8回	所得の保障と生活保護制度 (目標2,3)
	第9回	子ども家庭福祉1 (子ども家庭福祉の法律と実施体制) (目標2,3)
	第10回	子ども家庭福祉2 (児童虐待,ひとり親,女性への福祉的支援) (目標2,3)
	第11回	高齢者の生活と福祉(目標2,3)
	第12回	障害者の自立と福祉1（障害者福祉の理念と法体系）(目標2,3)
	第13回	障害者と自立と福祉2（障害者福祉の実際）(目標2,3)
	第14回	医療福祉（医療と社会福祉専門職）(目標2,3)
	第15回	社会福祉の今後の課題(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	該当する個所を、教科書を用いて内容を確認する。
	復習	授業の内容についてのノートや配布資料を用いて、その日の内容の理解を確実にする。
	展開	疑問点等について、他の文献等を用いてさらに理解を深める。
成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（期間中に課す小レポートを含む） 30%，最終レポート　70%
教科書	書籍名	よくわかる社会福祉
	著者名	山縣文治他編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-623-05740-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC104
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	特別支援教育概論
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2022001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害の概念，障害児教育の歴史と制度，特別な教育的ニーズ，ノーマライゼーション，教育と医療の連携
授業のねらい・概要	本講義では障害とは何かを理解することから始め，障害児（者）教育の歴史と制度，障害の種類と程度に応じた教育の基本的特性を学んでいきます。これにより特別支援教育といっても一人ひとりの障害児（者）の生活を守り，教育を施す必要性は障害の有無で変わらないことを理解し，医療学生として障害児（者）との望ましい関わりや，教育と医療の連携について考えられるようになることを目標とします。
学生の達成目標	1. 障害の概念について理解する。 2. 障害児教育の歴史的変遷と現在の制度について理解する。 3. 各障害の種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。 4. 医療学生として障害児(者)への受容的行動について理解する。 5. 医療学生として障害児(者)への教育と医療の連携について理解する。
授業内容	第1回　「障害の概念」-障害の種類と程度,障害児(者)の能力障害児(者)をとりまく環境 (目標1,4,5)

	第2回	「特別支援教育の制度」-特殊教育から特別支援教育へ,分離教育と統合教育-(目標2,5)
	第3回	「感覚障害教育」-視覚障害児(者)の特性と教育支援,聴覚障害児(者)の特性と教育支援 (目標3,4,5)
	第4回	「知的・発達障害教育1」-知的障害児(者)・重度知的障害児(者)・重複障害児(者)の特性と教育支援-(目標3,4,5)
	第5回	「知的・発達障害教育2」-低機能自閉症児(者)・高機能自閉症児(者)・学習障害・注意欠陥/多動障害児(者)の特性と教育支援-(目標3,4,5)
	第6回	「運動障害,病虚弱教育」-運動障害児(者)の特性と教育支援,病虚弱児(者)の特性と教育支援-(目標 3,4,5)
	第7回	「言語障害,情緒障害教育」-言語障害児(者)の特性と治療教育,情緒障害児(者)の特性と治療教育- (目標3,4,5)
	第8回	「まとめ」-障害児(者)の家族への支援,特別支援教育の今後の展望,教育と医療の連携(目標1,4,5)

予習・復習の内容	予習	様々な情報メディアの発信する障害児(者)に関する知識をある程度整理しておく。
	復習	授業で学んだ障害児(者)や特別支援教育の内容について確認しておく。
	展開	理学療法学の視点から特別支援教育との連携や関連性について主体的に考えられるようになる。

成績評価	評価の基準	特別支援教育について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害児（者）援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	書籍名	特別支援教育概説
	著者名	佐藤泰正（編）
	出版社	学芸図書
	価格	
	ISBN・ISSN	9784761603946

推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

障害者・高齢者の福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC105
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の福祉
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2023001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，高齢者，社会福祉，ノーマライゼーション，関連法規
授業のねらい・概要	本講義では障害者・高齢者が社会の中でより良く生きるには何が必要かという社会福祉の目的概念から始め，社会福祉の実態概念として各種関連法規の内容についても学んでいきます。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活をしていると実感できるには何が必要かを理解していきます。また障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割についても考えていきます。
学生の達成目標	1. 障害者・高齢者の福祉の歴的的変遷を知り,最近の動向について理解を深める。 2. 障害者・高齢者の地域社会での生活実態について理解を深める。 3. 社会福祉関連法規の内容を理解し,その問題点を指摘できる。 4. 障害者・高齢者が社会の中でよりよく生きるために何が必要かを福祉的な視点で述べることができる。 5. 障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割について述べることができる。
授業内容	第1回　「障害者・高齢者の福祉の歴史的変遷と最近の動向」-社会からの迫害,相互扶助,ノーマライゼーション,福祉サービスの確立-(目標

		1,4)
	第2回	「障害者・高齢者の地域社会での生活実態」-身体・個人・社会の3つの視点による障害の概念,当事者の意見-(目標1,2,4)
	第3回	「障害者・高齢者のための社会保障」-社会保険,公的扶助,社会福祉,公衆衛生および医療-(目標1,2,3,5)
	第4回	「社会保険サービス」-医療保険,年金保険,雇用保険,介護保険-(目標1,2,3,5)
	第5回	「障害者福祉の関連法規」-児童福祉法,身体障害者福祉法,知的障害者福祉法,精神保健福祉法-(目標1,2,3,5)
	第6回	「高齢者保健・医療・福祉の関連法規」-老人保健法,老人福祉法,後期高齢者医療制度 (目標1,2,3,5)
	第7回	「障害者自立支援制度の内容と問題点」-自立支援給付,地域生活支援事業,障害者の意見 (目標1,2,3,4)
	第8回	「まとめ」-障害者・高齢者の福祉の今後の課題について-(目標1,2,4,5)
予習・復習の内容	予習	「障害者・高齢者の心理」と「特別支援教育概論」で学んだ障害の概念について整理しておく。
	復習	授業で学んだ内容について確認しておく。
	展開	地域リハビリテーションの視点の中に障害者・高齢者の福祉の内容を位置づけられるようになる。
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の福祉について授業で取り上げる内容が理解できていること，障害者・高齢者福祉の向上について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業時に資料を配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害者・高齢者の心理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC106
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の心理
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2024001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害・加齢の心理的影響，発達的視点，福祉的視点，臨床心理的視点，量的検討及び質的検討
授業のねらい・概要	本講義では医療学生の立場から，障害や加齢といった現象が人間の行動や心の働きに与える影響について，その基礎的知見を整理します。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活を送れているという実感が持てるための関わりや具体的な支援について，学生自らが考えられるようになることを目標とします。
学生の達成目標	1. 障害や加齢の心理的影響について理解できるようになる。 2. 発達的視点から障害者や高齢者の心理的問題について考えられるようになる。 3. 福祉的視点から障害者や高齢者の心理的問題について考えられるようになる。 4. 医療現場で必要となる臨床心理学的視点を理解する。 5. 医療学生として量的検討と質的検討の関係性について理解を深める。
授業内容	第1回　「障害者・高齢者の心理を理解するために」-障害・加齢の概念および障害者・高齢者の心をとりまく今日の状況-(目標1,2,3)

	第2回	「視覚障害・聴覚障害者の心理」-視覚障害・聴覚障害の心理的影響とその特性(目標1,2,3,4)
	第3回	「肢体不自由者・内部障害者の心理」-肢体不自由・内部障害の心理的影響とその特性(目標1,2,3,4)
	第4回	「精神障害の心理」-心の健康障害と知的障害の関連性,支援の臨床心理学的視点ー(目標1,2,3,4)
	第5回	「高齢者の感覚・知覚,知的能力」-その特性と精神面・幸福度への影響,知能の定義,流動性知能と結晶性知能-(目標1,2)
	第6回	「高齢者の精神衛生と認知症」-その特性と精神障害との関連性,認知症高齢者の問題行動の原因,心理・社会的欲求-(目標1,2,3,4)
	第7回	「障害者・高齢者に対する心理的援助」-精神分析法,回想法,リアリティーオリエンテーション,行動療法,バリデーション-(目標1,2,3,4)
	第8回	「まとめ」-障害者・高齢者の心理の今後の課題について-(目標2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	「特別支援教育概論」で学んだ障害の概念について整理しておく。またメディアの発信する高齢者に関する知識についても整理しておく。
	復習	授業で学んだ内容を正確に整理しておく。
	展開	障害者や高齢者への心理学的支援と理学療法の関連性について理解できるようになる。
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の心理について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害者・高齢者援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	書籍名	高齢者・障害者の心理
	著者名	佐藤泰正・徳田克己（編）
	出版社	学芸図書
	価格	
	ISBN・ISSN	9784761603687
推薦図書等		
参考URL		
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。	

生命倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM213
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生命倫理学
科目責任者	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2025001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	いのちをめぐる倫理，善いことの基準とは？，医療と倫理
授業のねらい・概要	現代には人間の生命をめぐる多くの倫理的問題が生じている。本授業では，問題の原因を考えるとともに，いのちについての様々な考え方を理解することを目標とする。
学生の達成目標	1. 善いことを判断するためのさまざまな基準について学ぶ。 2. 現代社会における生命倫理の問題に対する理解を深める。 3. 医療現場で倫理的問題に直面した場合の対応方法を身につける。
授業内容	第1回 ガイダンス-生命倫理学とはどのような学問か(目標1) 第2回 生をめぐる生命倫理-出生前診断(目標2) 第3回 生をめぐる生命倫理-生殖補助医療(目標2) 第4回 生をめぐる生命倫理-生命操作(目標2) 第5回 医療をめぐる生命倫理-医療従事者と患者の関係(目標3) 第6回 死をめぐる生命倫理-脳死(目標2) 第7回 死をめぐる生命倫理-尊厳死,安楽死(目標2) 第8回 まとめ-現代の医療現場における倫理的問題への対応(目標3)
予習・復習の内容	予習 毎回，生命倫理学における基本事項を用いて説明するので，前回配布したプリント等で，その内容を確認しておく。 復習 授業でとりあげた倫理学的問題について，まわりの人たちと話し合ってみた上で，自分なりの答えを出してみる。 展開 専門技術を習得する際も、倫理という観点を意識して行うこと。
成績評価	評価の基準 授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なは，評価しないので注意のこと。） 評価の方法 評価の方法 ：発言等の授業への参加度50%，期末試験50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために，授業中の発言や小問題の記述などを課すことがあるので，主体的に授業に参加することを期待する。

作業療法学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC107
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	作業療法学概論
科目責任者	西方　浩一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2026001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	作業療法の歴史，作業，作業療法プロセス，集団，作業療法モデル論
授業のねらい・概要	理学療法士の視点で，作業療法のアウトラインを理解できることを目標に指導する。具体的には，作業療法の歴史，作業についての特徴，作業療法の実践の枠組み（プロセス），集団の特性，作業療法の理論を理解することを授業の目的とする。この目的達成のために，具体的症例などを通して作業療法の具体的イメージを喚起してもらうことから始めたい。
学生の達成目標	1. 作業療法の歴史が理解できる。 2. 具体的症例を通して,作業療法の役割が理解できる。 3. 作業療法のプロセス(評価→解釈→介入→再評価)が理解できる。 4. 理学療法の立場から,作業療法の必要性が説明できる。
授業内容	第1回　作業療法の歴史(講義)(目標1) 第2回　作業療法のルーツおよび世界の作業療法の流れについて,講義する。 第3回　作業療法の歴史(講義)(目標1)

	第4回	日本の作業療法の歴史について,講義する。
	第5回	日本の作業療法(講義)(目標1)
	第6回	日本の作業療法の現状について,講義する。
	第7回	日本の作業療法(講義)(目標1)
	第8回	作業療法が取り扱う分野について,講義する。
	第9回	作業療法の事例(演習)(目標2)
	第10回	テキストの高次脳機能障害(ゲルストマン症候群)を基に,作業療法評価と作業療法の特徴について,各グループで調べて発表する。
	第11回	作業療法の事例(演習)(目標2)
	第12回	テキストの高次脳機能障害(記憶障害)と左片麻痺を基に,作業療法評価と作業療法の特徴について,各グループで調べて発表する。
	第13回	作業療法の事例(演習)(目標2)
	第14回	テキストの頚髄損傷と慢性関節リウマチを基に,作業療法実施の時期と特徴について,各グループで調べて発表する。
	第15回	作業療法の事例(演習)(目標2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	作業療法の歴史，役割，プロセス，を理解し，その概略を理学療法の立場から説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	レポート（10%），演習態度（10%），小テスト（20%），期末テスト（60%），で評価する。ただし，この基準は授業の進行状況も考慮し，最終的には若干変更する可能性もある。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	作業療法を理解する上で，高次脳機能障害について興味をもっていただければ，一段と理解しやすくなると思う。このためには，高次脳機能障害の一般啓発書を事前に読んでおくことが望ましい。 テキストを理解するために視覚的教材としてのパワーポイントを用いながら講義する方式と，考え方をトレーニングするためにグループで演習する方式の２つを用いて授業を構成する。いずれの方式でも，自ら理解しようという姿勢が必ず要求される。演習でも体を動かすようなことはしないので，服装には条件はない。	

言語聴覚学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC108
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	言語聴覚学概論
科目責任者	宮本　恵淑
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2027001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語発達障害，聴覚障害，中途言語障害，摂食と嚥下障害
授業のねらい・概要	子供の言葉の障害，聴覚障害。大人の聴覚障害，失語症，高次脳機能障害，摂食，嚥下障害の原因と治療に関わる関連職種との連携について学習する。
学生の達成目標	1.　コミュニケーションとは何?話す,聞く,読む,書くことが出来るとは。 2.　脳神経と言語障害との関係や症状について学ぶ。 3.　先天性聴覚障害と中途聴覚障害について学ぶ。 4.　摂食や嚥下に関する基礎知識について学ぶ。 5.　高次脳機能障害(失語症,失行,失認,半側空間無視)について学ぶ。
授業内容	第1回　講義,レポート等のガイダンス,言語聴覚障害についての基礎知識を学ぶ。(目標1) 第2回　言語聴覚障害の特徴,種類,原因,評価,診断,アプローチについて学ぶ。(目標1) 第3回　聴覚に関する各器官と機能について学ぶ。(目標3)

	第4回	聴覚障害の原因,症状と評価,診断,治療。(補聴器,人工内耳)(目標3)
	第5回	構音障害ー機能性構音障害,運動性構音障害について(目標3)
	第6回	構音障害ー音声障害,器質性構音障害のそれぞれの原因と診断と訓練について(目標3)
	第7回	言語発達障害ー脳性麻痺の特徴,原因,評価,診断,アプローチについて(目標3)
	第8回	言語発達障害ー知的障害,広汎性発達障害,ADHD,口蓋列について(目標1,3)
	第9回	失語症ー失語症の原因と症状について(ビデオ使用)(目標1,2)
	第10回	失語症の評価とリハビリテーションについて。学生が失語症を体験する。(目標1)
	第11回	高次脳機能障害ー失認,失行,記憶障害,感情障害について(目標2,5)
	第12回	高次脳機能障害ー半側空間無視,注意障害について(目標2,5)
	第13回	摂食,嚥下障害ー原因,評価,アプローチ他。(目標4)
	第14回	認知症と言語障害(目標2)
	第15回	総まとめ(この授業でのポイントを再度学習する)
予習・復習の内容	予習	授業の前に，必要な項目やことばについて，レポートを提出する。
	復習	毎回の授業の内容のポイントを確認する。
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的なことばや内容が理解できていること。
	評価の方法	教科書やプリントを見ながら復習，小テスト30%，試験60%，授業への参加度10%です。
教科書	書籍名	言語聴覚士テキスト：絵でわかる　言語障害ー言葉のメカニズムから対応まで
	著者名	
	出版社	学研
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	現場で得た経験や知識をもとに授業を進めるので，わかりやすいと思います。 ノートをしっかりとること。	

救命救急医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM211
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	救命救急医学
科目責任者	武島　玲子
担当教員	大賀　優
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2028001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心肺蘇生法， AED，救急処置，集中治療，急性期リハビリテーション
授業のねらい・概要	救急医療を理解し，一次救命処置（ AED含む）ができる。救急医療におけるリハビリテーション医学の役割を理解する。
学生の達成目標	1. 救急医療が理解できる。 2. 一次救命処置ができ, AEDを使用できる。 3. ショックとは何か理解でき,救急処置が理解できる。 4. 救急医療と重症救急疾患の特性をリハビリテーション医学的観点から捉え,理解できる。 5. 救急医療の対象としての中枢神経疾患を把握し,急性期リハビリテーションの重要性が理解できる。
授業内容	第1回　救急医療の概論(到達目標1) 第2回　心肺蘇生法と AED(到達目標2)

	第3回	重症救急疾患と患者管理(集中治療,救急処置,ショックなど)(到達目標1,3)
	第4回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論1(到達目標4)
	第5回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論2(到達目標4)
	第6回	救急医療の対象としての中枢神経疾患の種類と病態(到達目標5)
	第7回	中枢神経疾患を主とした重症救急疾患における急性期リハビリテーションの実際(到達目標5)
	第8回	総括(到達目標1～5)
予習・復習の内容	予習	救命救急医療について関心を持ち、関連する図書を読んだり、関連する報道について理解しておくこと。 授業内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	救命救急医療に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	救命・救急医学に関して，授業でとりあげた基礎的な内容が理解できていること
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	医療従事者として，緊急事態を理解し，心肺蘇生法を自分一人でできるようになってほしい（武島，分担：授業計画１～３，８）。 急性期リハビリテーションの重要性を理解する一助になってほしい（大賀，分担：授業計画４～７）。	

栄養学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM214
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	栄養学
科目責任者	梅村　詩子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2029001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体，食物，栄養素，疾病の予防，ライフステージ，栄養管理
授業のねらい・概要	食物を取り込む側の「人体」や「食品」「栄養素」の知識はもとより，保健，医療，福祉の総合的な取り組みの中で，さまざまなライフステージにある人の「健康の保持・増進」と疾病予防のための「栄養のあり方」について学習する。
学生の達成目標	1. 消化吸収を中心に,人体の仕組みや代謝を理解する。 2. 食品の分類,食品に含まれる栄養素について理解する。 3. 栄養素の種類,性質,代謝,栄養学的意義などを理解する。 4. 各ライフステージの生理・代謝・栄養を知り,健康の保持増進,疾病予防に必要な栄養管理を理解する。 5. 国民の健康・栄養の現状を知り,生活習慣病や他の疾病との関連を知る。
授業内容	第1回　ガイダンス,食べ物と栄養素,人体の仕組み(人体の構成成分,消化吸収)(目標1) 第2回　食品と栄養(目標2) 第3回　栄養素の役割と多く含む食品(三大栄養素)(目標3)

	第4回	栄養素の役割と多く含む食品(ビタミン,ミネラル)(目標3)
	第5回	適切な栄養補給と栄養評価(アセスメント)(目標4)
	第6回	幼児期～思春期の栄養管理(目標4)
	第7回	成人期・高齢期の栄養管理(目標4)　(メタボリックシンドローム,生活習慣病を含む)
	第8回	国民の健康と栄養(目標5),まとめ
予習・復習の内容	予習	教科書の中の“内容”のページに，あらかじめ目を通しておくこと。どの様な“内容”か，概略を理解しておくこと。
	復習	授業の中でわからなかったり，理解できなかったキーワードは，調べてみること。あるいは，次週に質問をしてください。参考図書を読んでみることも勧めます。
	展開	
成績評価	評価の基準	基礎的な栄養・食事・食品の知識や各ライフステージの特徴が理解できていること。
	評価の方法	筆記試験と授業への参加度から総合評価
教科書	書籍名	保健・医療・福祉のための栄養学
	著者名	渡邊早苗，寺本房子，丸山千寿子，藤尾ミツ子編
	出版社	医歯薬出版KK
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-263-70459-2　C3047
推薦図書等	書籍名	PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養－栄養ケアがリハを変える
	著者名	若林秀隆著
	出版社	医歯薬出版KK
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-263-21862-4　C3047
参考URL		
備考	担当教員から：将来のPTの仕事に役立つ様に、栄養の基本をしっかり学んでください。 連　絡：つくば国際大学　u-umemura@tius-hs.jp	

病原微生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM210
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病原微生物学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2031001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病原微生物，細菌，真菌，ウイルス，感染，発症，滅菌と消毒 ,感染防御，免疫，日和見感染
授業のねらい・概要	病原微生物の総論と各論を学習し，感染，疾病の発症と生体反応，化学療法，感染予防対策、わが国における感染症法について，医療職として必要な基本的知識を身につける。また，免疫の概念，生体防御機構における免疫反応の多様性及び主要免疫やがん治療についても理解し説明する。
学生の達成目標	1. 主たる病原微生物の概念,感染・発症,さらに生体と病原微生物の相互関係を理解する。 病原微生物の総論と各論を学習し,感染,発症,治療について理解する。 2. 新興感染症や再興感染症,院内感染や日和見感染等の概念を理解し,感染に対する医療職の役割および予防対策の理論と実際を学ぶ。 3. 生体防御機構としての免疫の概念,役割とその機構を解説する。 4. 体液性免疫,細胞性免疫 ,免疫反応による感染防御や移植免疫,腫瘍免疫とがん治療について理解する。 5. 感染症にかかわるわが国の法律,行政を理解し,説明,応用できる。

授業内容	第1回	病原微生物の定義,歴史,種類と分類【細菌,ウイルス,真菌,原虫】 形態と構造【原核生物,真核生物,球菌,桿菌,芽胞,ベン毛,核 ,プラスミド】 微生物の【グラム染色,同定,命名】(目標1,2)
	第2回	微生物の増殖 微生物の生理学【培養, pH,酸素,増殖曲線】 微生物の培養と保存【好気,嫌気,微好気,二酸化炭素,発酵,培地,凍結乾燥】(目標1)
	第3回	微生物の代謝 微生物の生化学【糖・脂質代謝,代謝回路】 微生物の遺伝【病原性ゲノム】 (目標1)
	第4回	感染防御機構と宿主【宿主生体反応】(目標1,3)
	第5回	微生物の滅菌と殺菌,消毒,病原細菌【グラム陽性球・桿菌,グラム陰性球・桿菌,腸内細菌,スピロヘータ】(目標1,2)
	第6回	病原細菌【嫌気性菌,抗酸菌,芽胞菌,マイコプラズマ,クラミジア,リケッチア】(目標1)
	第7回	病原真菌【表在性真菌,深在性真菌】(小纏め)(目標1,2)
	第8回	病原ウイルス,その他の病原微生物【 RNAウイルス, DNAウイルス,原虫,寄生虫,その他プリオン等】(目標1,2)
	第9回	病原微生物と化学療法【薬剤耐性菌】(目標1,2,3)
	第10回	感染症予防対策【感染症法,結核予防法】 予防法【予防接種,ワクチン】(目標4,5)
	第11回	免疫学の概要【自然免疫(急性期蛋白,補体,インターフェロン,食細胞,),自己免疫疾患,獲得免疫,免疫寛容】(目標1,3,4)
	第12回	B細胞の分化と抗体の多様性【 B細胞受容体, IgD,IgM,IgG,IgA,IgE,TH2サイトカイン】 T細胞の認識と MHCの多様性【 MHC,T細胞受容体,抗原提示細胞, NK細胞,ヘルパー T,キラー T】(目標1,3,4)
	第13回	自己免疫疾患と免疫寛容【 Ⅰ型アレルギー, Ⅱ型アレルギー, Ⅲ型アレルギー, Ⅳ型アレルギー,トレランス,先天性免疫不全,後天性免疫不全】(目標3,4)
	第14回	日和見感染と予防【院内感染,易感染症宿主】(目標2,5)
	第15回	まとめ,総括(目標1～5)
予習・復習の内容	予習	各回ごとの用語を確認、調べておくこと
	復習	各回ごとのテキストおよびプリントで授業の内容を確認し、整理しておくこと
	展開	感染に対する正確な理解によって、医療現場における安全対策への問題解決能力を養う。
成績評価	評価の基準	病原微生物の概念と種類，感染と発症，生体との相互関係の基礎を理解しているか，医療職としての感染防御に対する問題解決方法を説明・実践することができるかを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（ 70%），レポート（ 20%），平常点（ 10%）等による。

教科書	書籍名	系統看護学講座　微生物学　疾病の成り立ちと回復の促進
	著者名	南嶋洋一、吉田真一
	出版社	医学書院
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	984-4-260-00673-6
推薦図書等	書籍名	シンプル微生物学
	著者名	東匡伸、小熊恵二
	出版社	南江堂
	価格	2800円
	ISBN・ISSN	978-4-524-22057-7
参考URL		
備考	原則として生物学を履修していること。新型インフルエンザをはじめノロウイルスや日和見感染に悩まされる今日，医療職として感染症を正しく知り，何をなすべきかを理解しましょう。 DVDなどを使って理解を助けます。オフィスアワーでなくとも声をかけてください。	

生化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM211
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生化学
科目責任者	芦野　洋美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2032001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体成分・生合成・代謝・遺伝子・生命の維持
授業のねらい・概要	生命体の物質的な面と統御された維持機構を理解し，現代医療における生化学的解析の不可欠性も認識する。
学生の達成目標	1. 身体の構成成分や細胞の構造の化学的組成・分子的レベルの成り立ちを把握 2. 生命維持と調節の精緻で膨大な反応,および複雑な制御機構の統合体としての生命を理解 3. 疾患と物質・反応の関与,臨床に活かされ治療に必須である生化学的解析の理解
授業内容	第1回　生体の構成要素・細胞の基本構造と機能(目標1) 第2回　生体成分の構造と機能1-糖・脂質(目標1) 第3回　生体成分の構造と機能2-アミノ酸・タンパク質・核酸(目標1) 第4回　生体成分の構造と機能3-ビタミン および 代謝1-酵素と代謝(目標1,2)

	第5回	代謝2-糖質の代謝(目標2)
	第6回	代謝3-脂質・アミノ酸・タンパク質の代謝(目標2)
	第7回	代謝4-代謝総括 および 酸・塩基平衡(目標2)
	第8回	核酸とタンパク質の生合成(目標2)
	第9回	遺伝の生化学(目標2,3)
	第10回	ホメオスタシスとホルモン1-ホルモンの分類,作用機序,各論(下垂体/甲状腺等)(目標2,3)
	第11回	ホメオスタシスとホルモン2-各論(副腎,性腺,プロスタノイド等)および 臓器の生化学1-循環器系・呼吸器系・消化器系(目標2,3)
	第12回	臓器の生化学2-泌尿器系・神経系・血液(目標2,3)
	第13回	がんの生化学(目標2,3)
	第14回	免疫の生化学(目標2,3)
	第15回	骨の生化学(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	各回のテーマに関係する高校までの生物，および１年次生物学の知識を見直しておくこと。 高校までの化学のレベルに関係なく理解可能なように授業を展開していくが，無理なく吸収できるよう，事前に教科書に眼を通しておくことが望ましい。 生活や臨床のどのような現場で生化学が役立っているか，日常から関心を持つこと。
	復習	毎回その日のポイントが理解できるよう，授業中に記入式のプリントを配り提出してもらうので，次週返却後，このプリントを中心に充分見直し，徹底して理解を深めること。
	展開	
成績評価	評価の基準	生体成分，代謝，生合成，遺伝子，生命維持・調節の基本を理解できたか，更に生化学の臨床医学における役割が十分に理解できたか，を評価する。
	評価の方法	期末試験とレポートおよび平常点によって評価する。比率は概ね，筆記試験40%，レポート30%，平常点30%で，これらの成績を総合する。
教科書	書籍名	コンパクト生化学　改訂第２版
	著者名	大久保岩男／賀佐伸省著
	出版社	南江堂
	価格	2,100円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-524-24061-6
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ生化学

著者名	奥恒行著
出版社	南江堂
価格	2,625円（税込）
ISBN・ISSN	978-4-524-24779-0

参考URL	
備考	生化学の学問領域は広く，日々発展し続けながら医療に貢献している。本講義ではそれらをかみ砕いて理解し易く説明し，生化学の基本的重要点を半期１５回で一通り身につけられるように進めていく。生体における様々な反応の動的な連続性と維持，調節の緻密さ，生命と種の存続の本質を理解しつつ，医療職において，身体の仕組みの生化学的認識が重要であることを，実感して欲しい。

看護学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	看護学
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2033001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ヘルスケア，コメディカル，専門職，連携
授業のねらい・概要	保健・医療・福祉の分野における看護の役割と今後の方向性について学ぶ。 利用者・家族を中心とした保健・医療・福祉職の連携を学ぶ。
学生の達成目標	1. 利用者を中心とした保健・医療・福祉の関わりを理解する。 2. 看護職と利用者の関わりから,コメディカルスタッフの役割を考える。 3. 専門職としての連携のあり方を理解する。
授業内容	第1回　看護の目的,方法,対象について(目標1) 第2回　保健・医療・福祉における看護の役割,看護と関係のある法律(目標1) 第3回　ヘルスケアの主体としての人間と看護の関わり(目標2) 第4回　健康の定義と看護職の役割(目標1) 第5回　小児・母性・成人・老人・の各看護(目標1)

	第6回	精神科看護・在宅看護・地域看護の特徴およびそれらを利用する人々を支える職種(目標2,3)
	第7回	他職種との連携,看護の果たす役割(目標3)
	第8回	まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	実習や，今までの経験のなかから，患者さんと看護職との関わりを見て，考えたこと・感じたことをまとめておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 レポート課題を提出すること。期間中に３回程度。簡単なレポート課題なので，返却後，気付いたこと，不足していることを加筆しておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	利用者を中心としてコメディカルスタッフが，どの様に連携をとっているのかを理解することが重要である。理学療法士としてどう看護職と連携をとるか，また健康の各期における看護職の役割を述べられることを基準とする。
	評価の方法	授業への参加度10%，レポート30%，試験60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

安全管理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM210
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	安全管理論
科目責任者	武島　玲子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2034001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療安全，ヒヤリ・ハット報告，安全管理
授業のねらい・概要	医療安全を理解し，医療事故に対するリスクマネジメントを学ぶ。事例の分析を通して，医療事故予防対策のあり方を考えることができるようになる。
学生の達成目標	1.　医療安全を理解できる。 2.　医療事故に対するリスクマネジメントができる。 3.　ヒヤリ・ハット報告ができる。 4.　ヒヤリ・ハット報告の事例を分析できる。 5.　医療事故予防対策を考えることができる。
授業内容	第1回　医療安全の概論-医療環境と医療事故(到達目標1) 第2回　安全管理の必要性・重要性の理解(組織のマネジメント)(到達目標1,2) 第3回　事故発生のメカニズムと防止対策(到達目標1,2) 第4回　事故分析(分析手法)(到達目標1,2,3)

	第5回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法1(到達目標4)
	第6回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法2(到達目標4)
	第7回	医療環境と事故予防,医療事故防止のための安全管理のあり方(到達目標1,2,5)
	第8回	総括(到達目標1～5)
予習・復習の内容	予習	医療における安全について関心を持ち、関連する図書を読んだり、関連する報道について理解しておくこと。 授業内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	患者安全に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	医療安全に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	試験 50%，レポート 20%，授業への参加度 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	医療安全を理解し，実践できる医療従事者になってほしい。	

放射線医科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM213
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	放射線医科学
科目責任者	阿部　慎司
担当教員	森　浩一 石森　佳幸 藤﨑　達也 五反田　留見 對間　博之
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2076001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	放射線の性質，画像診断技術，核医学検査技術，放射線治療技術，放射線安全管理
授業のねらい・概要	放射線医学の歴史と現状を概観し，放射線基礎医学，放射線医学の概要を論述し，医療専門職として必要な放射線医科学の基礎的知識を理解させる。
学生の達成目標	1. 医学に利用される放射線の基本的な特性について理解する。 2. 放射線医学の変遷の概要について理解する。 3. X線撮影技術と画像診断について理解する。 4. X線CT検査と画像診断について理解する。 5. 磁気共鳴映像法の原理について理解する。 6. 各種磁気共鳴映像法とその臨床的意義について理解する。 7. 核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義について理解する。

8. 放射線治療の原理,様々な治療法の特徴について理解する。

9. 超音波検査の原理,各種検査法の特徴について理解する。
1

10. 放射線防護,放射線管理の概要について理解する。

授業内容

第1回	放射線に関する基本的性質と放射線医学の変遷(目標1,2)
第2回	X線撮影技術と画像診断(X線装置,X線単純・造影撮影,造影剤,X線CT撮影)(目標3)
第3回	X線CT検査と画像診断(X線CT装置,X線CT検査(頭部・脳,胸部,腹部等)(目標4)
第4回	磁気共鳴映像法の原理(目標5)
第5回	各種磁気共鳴映像法とその臨床的意義(目標6)
第6回	核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義(目標7):對間
第7回	放射線治療の概要と様々な治療法(目標8)
第8回	超音波検査法の概要と放射線安全管理(目標9,10)

予習・復習の内容

予習	配布する資料や参考書により各テーマに関連する内容について予習をすること。
復習	授業で配布する資料を中心に復習をすること。
展開	

成績評価

評価の基準	達成目標への達成度（本試験による）
評価の方法	試験（100%）による。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	診療放射線技術　上・下
著者名	山下一也　他　編集
出版社	南江堂
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

理学療法学概論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論 Ⅰ
科目責任者	居村　茂幸
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2035101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法，理学療法技法，姿勢，運動，身体能力，杖，松葉杖，車いす
授業のねらい・概要	理学療法士の専門的知識・技法の習得の必要性について学び，専門知識を学ぶ基本的態度・姿勢を習得する。理学療法技法のうち最も基本的な技法について，学生同士で実演できることを目指す。理学療法概論 Ⅰ では，自分の体を使って理学療法技法の最も基本となる，姿勢・運動・移動補助具について体験する。
学生の達成目標	1. 理学療法の知識・技法の基礎を学ぶ 2. 運動と姿勢についての基礎知識を学ぶ 3. 運動と姿勢について,学生同士で実演して確認する 4. 歩行補助具(杖・松葉杖)の基礎知識を学ぶ 5. 歩行補助具(杖・松葉杖)の使い方を実演できる 6. 車椅子の基礎知識を学ぶ 7. 車椅子の基礎知識を実演できる 8. 車椅子の乗り移りについて基礎的知識を実演する 9. 車椅子の駆動・キャスターあげについて実演する

授業内容	第1回	理学療法とは: ①理学療法士に必要な知識・技術, ②理学療法技術とは, ③最も基本的な理学療法技術(目標1)
	第2回	姿勢と動作の基礎知識1: ①姿勢とは ②動作とは ③身体運動(目標1,2)
	第3回	姿勢と動作の基礎知識2:基本姿勢(臥位,座位,膝立ち,立位)(目標1,2)
	第4回	姿勢と動作の発達:姿勢反射の出現と消退 基本的姿勢(ねがえりから立位まで)(目標1,2)
	第5回	基本的姿勢(ねがえりから立位まで)(目標3)
	第6回	移動補助具・松葉杖の基礎知識(目標4)
	第7回	移動補助具・松葉杖の使い方の実演(目標5)
	第8回	移動補助具・ T字杖の基礎知識(目標4)
	第9回	移動補助具・ T字杖の使い方の実演(目標5)
	第10回	車椅子の基礎知識・使い方(目標6)
	第11回	車椅子(キャスターあげ)(目標7)
	第12回	車椅子(キャスターあげ2)(目標7)
	第13回	杖の使い方のまとめ(目標1～5)
	第14回	車椅子の使い方のまとめ(目標1～3,6～9)
	第15回	理学療法技術のまとめ(目標1～9)
予習・復習の内容	予習	教科書の中の該当箇所を一読し疑問を抽出しておく
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また、理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること
	展開	実際の福祉用具を使用しながら学生同士で体験していく
成績評価	評価の基準	業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の積極性の程度（ 10%），小試験２回（ 20%），レポート２回（ 20%），期末試験（ 50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 斉藤宏他「姿勢と動作－ADLその基礎から応用」メジカルフレンド社　３,600円 ISBN： 9784839213503	

推薦図書等	書籍名	移動補助具
	著者名	監修松澤正
	出版社	金原出版株式会社
	価格	5500
	ISBN・ISSN	978-4-307-75022-6

参考URL	
備考	運動しやすい服装で出席のこと

理学療法学概論 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP202
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論 Ⅱ
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2037101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士の業務，知識，技術，研究，倫理，姿勢，患者中心医療
授業のねらい・概要	理学療法学総論として、理学療法全体を、大掴みに理解する。臨床理学療法、および、理学療法研究、理学療法教育、理学療法対象である運動障害について、基礎となる考え方を学ぶ。
学生の達成目標	1. 理学療法の歴史、理念を学び、理学療法の職域（臨床、研究、教育）について学習する。 2. 理学療法における関係法規、諸制度について学習する。 3. 理学療法士に求められる職業倫理、職場管理について学習する。 4. 臨床理学療法（評価、目標設定、治療体系）について学習する。 5. 人間の運動・動作メカニズムや、運動障害のメカニズムについて学習する。
授業内容	第1回　理学療法の位置づけ、歴史、理念について(目標1) 第2回　理学療法の関連法規、諸制度(目標1,2)

第3回	理学療法士に求められる職業倫理、職場管理(目標1,３)
第4回	理学療法の対象(目標1,2,3)
第5回	理学療法の研究(目標1)
第6回	理学療法士の学術活動(目標１)
第7回	理学療法の教育評価(目標１)
第8回	臨床理学療法の評価(目標4)
第9回	臨床理学療法の目標設定(目標４)
第10回	臨床理学療法の治療体系(目標４)
第11回	人間の運動・動作メカニズム(目標5)
第12回	運動障害１（痛み、間接可動域制限、筋力低下）(目標５)
第13回	運動障害２（損傷のメカニズム、筋細胞の壊死と再生）(目標５)
第14回	運動障害３（運動学習）(目標5)
第15回	講義のまとめ(目標1～5)

予習・復習の内容

予習	第１回授業で、各回授業予定と教科書の該当箇所についてのオリエンテーションを行う。毎回教科書を事前に一読し疑問を抽出しておくこと。
復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また、理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること
展開	理学療法に関するビデオ、写真、資料、および、実際の福祉用具を使用体験し、学生同士で学びあう。

成績評価

評価の基準	講義内容の理解，理学療法の要点の習得をそれぞれ 60%以上を合格基準とする。
評価の方法	授業態度，レポート，試験を総合的に評価する。

教科書

書籍名	基礎理学療法学
著者名	大橋ゆかり
出版社	医歯薬出版
価格	2800
ISBN・ISSN	978-4-263-21805-1

推薦図書等

書籍名	理学療法概論
著者名	奈良　勲　編著

出版社	医歯薬出版
価格	5900
ISBN・ISSN	978-4-263-21415-2

参考URL

備考 必要な場合運動療法室等の実習室を使うことがあります

高齢者理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT314
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高齢者理学療法学
科目責任者	永原　久栄
担当教員	小林　量作
授業形態	講義
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2036001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高齢者，健康増進、介護予防、回復期，維持期
授業のねらい・概要	高齢者の身体特性を理解し，健康増進，虚弱高齢者の介護予防，疾患・障害を持つ高齢者の回復期理学療法，維持期理学療法についての知識を習得する．
学生の達成目標	1.　高齢による身体変化に対応する理学療法の基本的考え方を習得する． 2.　元気高齢者の健康増進，虚弱高齢者の介護予防に対応する理学療法の知識を習得する． 3.　病院での回復期理学療法，高齢者の在宅生活に対応した理学療法指導について理解する． 4.　在宅生活での維持期理学療法について理解する． 5.　上記1～4について，学生自身の考えを発表できる．
授業内容	９月２０日　（目標１－４） １．高齢者が抱える医学的・社会的問題の実態，身体機能の特性，精神機能の特性，理学療法士の役割 ２．健康増進，介護予防における理学療法プログラム

３．急性期・回復期・維持期理学療法の連携，回復期理学療法プログラム，退院時プログラム

９月２１日　（目標１－４）
４．維持期における理学療法プログラム，通所理学療法，訪問理学療法の留意点
５．　高齢者理学療法のリスク管理
　　呼吸・循環器系，骨関節系，転倒骨折，廃用症候群，脱水
６．事例
健康増進事例，介護予防事例，脳卒中事例，大腿骨近位部骨折事例，パーキンソン病事例

９月２７日　（目標　５）
７．学生発表・演習
８．学生発表・演習，まとめ

予習・復習の内容

予習	教科書の該当部分を良く読んでくること。
復習	授業で学んだ実践的視点を良く確認すること。 小テストを受ける。
展開	他の理学療法授業で習った内容・項目と関連を持たせられる。

成績評価

評価の基準	上記目標における到達度で行う．。
評価の方法	授業出席10%，レポート20%，試験70%の割合を基本に，総合評価する．この割合は、変更することがあります。

教科書

書籍名	高齢者の理学療法（第２版）
著者名	森本栄編集
出版社	三輪書店
価格	３ ,465円
ISBN・ISSN	978 -4-89590-167-3

推薦図書等

参考URL

備考

運動療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2049101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動療法，力学，筋の働き，治療方法
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために筋，骨格構造から運動学などの基礎を理解する。各種障害に対する運動療法の理論と実践に関して学び，運動療法の基礎～応用までの知識を身につける。
学生の達成目標	1. 運動療法の目的を理解し,運動療法を行う上でのリスク管理ができる。 2. 運動療法の原理原則を理解する。 3. 各種障害に対する運動療法の目的を理解する。 4. 各種治療方法の目的を理解する。 5. 各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,運動療法の歴史,運動学の基礎知識(目標1,2,3) 第2回　運動に関連する骨,関節,筋,神経の構造と機能について理解する(目標3) 第3回　運動と呼吸,循環,代謝機能について理解する(目標3)

	第4回	運動と学習について理解する(目標3)
	第5回	発達と運動機能,老化と運動機能について理解する(目標3)
	第6回	関節可動域制限に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第7回	筋力低下に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第8回	持久力低下に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第9回	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第10回	末梢神経性麻痺に対する,感覚障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第11回	バランス障害,協調運動障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第12回	姿勢障害,歩行障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第13回	整形疾患,痛みに対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第14回	呼吸,循環,代謝障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
	第15回	加齢による機能障害に対する運動療法について理解する(目標1-5) 総括
予習・復習の内容	予習	同時に進行している基礎医学科目の内容を踏まえるため、基礎的な運動学の知識などは復習しておくこと。
	復習	小テストも実施するが、範囲が広いため各講義の復習を実施すること。
	展開	講義中にデモンストレーションなどを実施することもある。
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，運動療法の基本事項を理解していること。 （前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 90%，小テスト 10% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	運動療法学－障害別アプローチの理論と実際
	著者名	市橋則明　編集
	出版社	文光堂
	価格	7 ,350円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4830643420

推薦図書等

参考URL

備考	運動療法は運動学，解剖学，生理学そして物理学を基本として成り立っている分野である。１年次の該当科目の復習を行い，講義に臨んで欲しい。

運動療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT202
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学実習
科目責任者	阿部　勉
担当教員	松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2038101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	力学，筋の働き，治療方法
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために自学自習を前提に発表を交えながら授業を展開していく。一つ一つをしっかりと押さえて，わからないままにしておかないよう十分に注意してほしい。
学生の達成目標	1. 運動療法の原理原則を理解する。 2. 各種障害に対する運動療法の目的を理解する。 3. 各種治療方法の目的を理解する。 4. 各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション。運動療法に必要な基礎知識とリスク管理について理解、実演できる（目標１） 第2回　関節可動域制限に対する運動療法について実演できる(目標2-4) 第3回　筋力および持久力低下に対する運動療法について実演できる(目標2-4)

	第4回	中枢神経運動麻痺に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第5回	抹消神経性運動麻痺および感覚障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第6回	バランス障害および協調性運動障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第7回	姿勢障害および歩行障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第8回	高次脳機能障害および痛みに対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第9回	発達障害および嚥下機能障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第10回	呼吸障害および循環障害、代謝機能障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第11回	加齢による機能障害に対する運動療法について実演できる(目標2-4)
	第12回	総括(目標1,2,3,4) (各種治療方法をまとめる)
予習・復習の内容	予習	1年時に学習した解剖学、生理学・運動療法学を基盤に授業を進めるため、十分に理解しておくこと。 また、教科書の中の該当箇所を一読し疑問を抽出しておく
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また、理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること
	展開	学生同士で実技を中心に行っていくため、健常者の状態を十分に把握する
成績評価	評価の基準	運動療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は1年時の”運動療法学”で使用した”運動療法学－障害別アプローチの理論と実際”を使用する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。	

エレメンタリーセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP101
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	エレメンタリーセミナー
科目責任者	小池　和子
担当教員	桑名　俊一 角　友起 永原　久栄 田中　勇治 郭　丹
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2040101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	大学における学習，期待される人間像，専門職業人，医療専門職，理学療法士，保健・医療・福祉施設
授業のねらい・概要	保健医療学部学生が，医療専門職としての社会人を目指すために，医療系学部における学習のあり方を理解する。さらに，医療関連施設見学による Early Exposureを通して医療の基本的姿勢を学ぶとともに自分の将来像を明確にする。
学生の達成目標	1. 医療専門職を目指す保健医療学部学生として期待される人間像を深く理解する。 2. 大学における学習の方法を理解し,実行する。 3. 保健医療学部学生として,保健・医療・福祉関連施設を理解する。 4. 施設見学により,医療のあり方を概観する。 5. レポートの作成方法や,発表の基礎的方法論を学び実行する。

授業内容	第1回	オリエンテーシヨン(目標1,2)
	第2回	医療専門職,理学療法士,保健・医療・福祉関連施設について学ぶ(目標1,3)
	第3回	医療専門職に求められるコミュニケーション能力,倫理,礼節など(目標1,3)
	第4回	施設見学の目的・学習内容・態度などの学習(目標1,2,3,4)
	第5回	施設見学のガイダンス(Ⅰ)事前準備(目標1,2,3,4)
	第6回	レポートの書き方,プレゼンテーションの内容と方法(目標2,3,4,5)
		(第Ⅱ部)
	第7回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第8回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第9回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第10回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第11回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第12回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第13回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第14回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第15回	施設見学報告会・反省会・総括(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	各回ごとのキーワードについて確認し、調べておくこと
	復習	授業で学習した事項について理解を深め、次授業に関連させておくこと
	展開	エレメンタリセミナーは前半を深く理解したうえで、後半のearly exposure(早期体験)に連関させるものであり、この展開を理論と実践で理解すること
成績評価	評価の基準	保健医療学部学生としての自覚度および学習への積極的態度,社会における医療関連施設の役割に対する理解度が目標に達成していること。
	評価の方法	授業への積極的参加度（ 30%）, 施設見学における姿勢（ 30%）, レポートおよび報告会における医療関連施設の理解度（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 配布資料：適宜資料配布	
推薦図書等		
参考URL		

備考	保健医療学部学生として本セミナーは初年度の重要なセミナーであり，本施設見学は最初の学外実習であるので，真剣に受講すること。

インターメディエイトセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP206
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	インターメディエイトセミナー
科目責任者	松田　雅弘
担当教員	永原　久栄 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 田上　未来
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2040201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士の資質，実習生の資質，実習，グループワーク
授業のねらい・概要	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に，病院・施設での見学実習を実施する準備（事前準備）や、見学実習で学んだリハビリテーションの位置づけや各医療スタッフの業務内容・連携，また理学療法士の具体的な業務についてまとめ（事後報告）、今後の授業に活用できるようにする。
学生の達成目標	1. 事前準備目標Ⅰ：施設見学をするための準備（実習態度、服装、見学の基本的態度等）ができる 2. 事前準備目標Ⅱ：見学先の各施設の役割と機能,リハビリテーション等を調べることができる。 3. 事前準備目標Ⅲ：見学レポート、見学記録の書き方を学ぶ。

4. 事後報告目標：見学実習の報告、レポートを通じて,臨床現場の見学で学んだことを整理できる。
　理学療法士の仕事内容を理解して、現在実施すべき学習内容を把握して、行動にうつす目標を設定できる。

授業内容	第1回	事前指導Ⅰ：実習施設紹介および諸注意
	第2回	事前指導Ⅱ：実習態度（マナー）
	第3回	事前指導Ⅲ：見学実習施設の情報の確認
	第4回	事後指導Ⅰ：見学実習報告会実施
	第5回	事後指導Ⅱ：見学実習レポート指導
	第6回	グループディスカッションⅠ：理学療法士に必要な素質について
	第7回	グループディスカッションⅡ：チーム医療のなかの理学療法士
	第8回	総括
予習・復習の内容	予習	「基礎理学療法実習の手引き」を熟読すること。
	復習	・課題レポートの作成・整理。 ・各回の課題について、各自または各グループで調べる。
	展開	見学で得た知見を今後の授業に活用する。
成績評価	評価の基準	見学実習で学習する、基本的態度やリハビリテーション，理学療法について、上記目の理解度を基準とする。
	評価の方法	事前および事後指導への参加（50%），課題レポート（30%）や見学実習報告（２0%）について，担当教員全員で判定する。この割合は、変更することがあります。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「基礎理学療法学見学実習の手引き」を配布します。 その他、必要なものはプリントにて配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・原則すべて出席すること ・提出物の遅れ、提出物の未提出には十分気をつけること	

理学療法学研究法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP204
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学研究法
科目責任者	角　友起
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 佐藤　将朗 荒金　房子 永原　久栄 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2041001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究方法論、研究倫理、研究論文
授業のねらい・概要	理学療法学をはじめ、広く保健医療科学、医学、および関連領域の研究の考え方、方法論、倫理など、研究の様々な要素について学ぶ。
学生の達成目標	1. 各領域の研究の意義と方法論を理解する。 2. 研究の倫理、ルールについて理解する。 3. 研究に必要な資料を検索、取得することが出来る。 4. 研究成果の発表方法、論文投稿のプロセスについて理解する。

5.　卒業研究の具体的なビジョンを形成する。

授業内容	第1回	科学的研究の方法論とは①　（目標1,5)
	第2回	科学的研究の方法論とは②　（目標1,5)
	第3回	研究の倫理とルール　（目標2,5)
	第4回	研究のデザイン、研究計画と研究スケジュール、論文検索の方法（目標１,3）
	第5回	研究成果の発表方法、論文投稿と査読（目標1,4）
	第6回	汎用性の高い統計解析について　（目標１,5）
	第7回	理学療法科学研究の最前線　（目標１,5）
	第8回	リハビリテーション科学研究の最前線　（目標１,5）
予習・復習の内容	予習	指定した教科書について、講義内容と対応する部分を読む。
	復習	指定した教科書について、講義内容と対応する部分を読む。
	展開	自らのアイデアで研究計画を立て、実行に必要な事項を学ぶ。
成績評価	評価の基準	上記目標を概ね達成していること。
	評価の方法	授業への積極的参加度、レポート等を総合的に評価する。
教科書	書籍名	理系のための「即効!」卒業論文術―この通りに書けば卒論ができあがる
	著者名	中田亨
	出版社	講談社
	価格	861
	ISBN・ISSN	978-4062576666
推薦図書等		
参考URL		
備考		

理学療法英文講読

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP205
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法英文講読
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2042101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療系英語の専門用語，英語表現，英語文献講読
授業のねらい・概要	理学療法学に関する英語表現の基礎を演習し，実習レポートや卒業研究に必要な文献調査及び文献読解ができるようになることを目的とする。
学生の達成目標	1. 理学療法学に関する英語の専門用語を理解し,表現する力を身につけることができる。 2. 目的とする英語文献を検索することができる。 3. 英語文献の内容を理解し,批判的,客観的に読解する力を身につけることができる。
授業内容	第1回　演習のガイダンス (目標1～3) 第2回　理学療法の英語表現（目標1, 3） 第3回　病気とリハビリテーション 1 骨折（目標1, 3） 第4回　病気とリハビリテーション 2 腰痛（目標1, 3） 第5回　病気とリハビリテーション 3 パーキンソン病（目標1, 3）

	第6回	病気とリハビリテーション 4 脳卒中（目標1, 3）
	第7回	病気とリハビリテーション 5 脊髄損傷（目標1, 3）
	第8回	前半のまとめ
	第9回	英語文献の検索　図書館　ネット検索の利用（目標2）
	第10回	英語文献の検索　専門分野の文献検索（目標2）
	第11回	英語文献を読む　学術論文　抄録の構成（目標3）
	第12回	英語文献を読む1 学術論文 論文の検索・調査 (目標2)
	第13回	英語文献を読む2 学術論文 抄録の読解 (目標3)
	第14回	英語文献を読む3 学術論文 本文の読解 (目標3)
	第15回	演習のまとめ (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをしておく。
	復習	毎回の授業で学んだ専門英語についておさらいをし、理学療法系の教科書を今一度ひも解いて調べる。
	展開	自分の興味ある分野の英語文献を探し出し、abstractだけでも読んでみる。
成績評価	評価の基準	演習を通じて，理学療法に関する英語の専門用語の意味を理解し，口頭やプレゼンテーション，身体動作などで適切に表現できること，目的に応じた英語文献を検索し，その内容を読解できることを合格基準とする。
	評価の方法	演習の実施及び提出レポートを合計して評価する。演習実施 40%，提出レポート 60%
教科書	書籍名	医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語 The Art of Healing
	著者名	荒金房子，村上仁之， Mark Lemon
	出版社	南雲堂
	価格	1785円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	教材は、上記教科書以外にさまざまな文献を使用する。 概ね高校程度の英文法を必要とする。必要な辞書などは演習を通して紹介する。授業には、必ず英語辞書を持参すること。	

理学療法評価学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP201
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学 Ⅰ
科目責任者	田上　未来
担当教員	上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2043011
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法，各評価法の意義と目的
授業のねらい・概要	理学療法を効果的に行うためには，理学療法評価が必要不可欠であるため，本講義は専門科目の中でも最重要科目の１つである. 本講義では，理学療法評価の位置づけと基本的項目について講義しそれを元に確認を行う．積極的な授業参加を心がけ，知識を習得してほしい.
学生の達成目標	1.　理学療法評価の意義を理解することができる. 2.　各評価項目の意義や目的を理解することができる. 3.　各評価項目の評価結果を理解することでできる. 4.　各評価項目を実践できる知識を習得する. 5.　さまざまな疾患に対して必要な評価項目が列挙できる.
授業内容	第1回　総論（評価の意義,目的,過程）　(目標1～3) 第2回　総論　(理学療法評価の対象）　(目標1～3)

第3回	総論　(理学療法評価の種類, 評価時期と目的, 記録）　(目標1～3)
第4回	総論　（問題点リストの整理の仕方、治療プログラム立案, 評価実施上の留意・環境・器具, 報告書）　(目標1～3)
第5回	一般的評価事項（病歴のとりかた, 現症, 各種検査・測定・観察, 総合評価）　(目標2～5)
第6回	形態測定（１）（ランドマークとその確認方法）　（目標2～5）
第7回	形態測定（２）（身長, 体重，BMI，肢長，周径）（目標2～5）
第8回	筋力検査（１）（筋力とは何か，筋力測定総論）　（目標2～5）
第9回	筋力検査（２）（機器を使用した筋力検査）(目標2～5)
第10回	徒手筋力検査法（１）（概念と総論）（目標2～5）
第11回	徒手筋力検査法（２）（上肢と下肢の検査）（目標2～5）
第12回	関節可動域測定法（関節可動域とは何か，測定の意義）　（目標2～5）
第13回	バイタルサイン（生体情報）（１）（概念と総論，脈拍，呼吸および体温））（目標2～5）
第14回	バイタルサイン（生体情報）（２）（血圧）（目標2～5）
第15回	総括 (目標1～5)

予習・復習の内容	予習	本講義を理解するためには，解剖学や生理学などの基礎的な知識が必要である. 各回授業前に教科書の該当箇所を熟読し必要に応じて知識の確認をして臨むこと.
	復習	本講義は評価方法を教授する.暗記しなければならない項目が多い. 講義終了後は, 十分に復習し知識を身につける事.
	展開	理学療法評価学の基本内容を学習し疾患や障害の評価を通して理学療法学の基礎を学習する.

成績評価	評価の基準	各評価項目を実践できるための，最低限の評価知識を習得する.
	評価の方法	定期試験（ 70%），講義参加度（ 10%），小テストやレポート（ 20%）などを総合的に評価する.

教科書

書籍名	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト　理学療法評価学Ⅰ
著者名	石川　朗
出版社	中山書店
価格	2,400
ISBN・ISSN	ISBN： 9784521736686
書籍名	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト　理学療法評価学Ⅱ

著者名	石川　朗
出版社	中山書店
価格	2,400
ISBN・ISSN	ISBN： 9784521736693

推薦図書等

参考URL

備考

理学療法評価学 Ⅱ（３年）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP302
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学 Ⅱ（３年）
科目責任者	郭　丹
担当教員	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2044001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，理学療法検査実技，理学療法評価の統合と解釈
授業のねらい・概要	理学療法評価学 Ⅰに続き，対象者の把握，治療方法の選択，治療効果の判定に必要な評価の方法，選択，得られた結果の統合と解釈について学ぶ。
学生の達成目標	1. 理学療法の各検査測定の意義と方法を理解することができる。 2. 対象者の治療や治療効果の判定に必要な評価方法を選択することができる。 3. 評価から得られた結果を統合し解釈することができる。
授業内容	第1回　ガイダンス・理学療法評価学 Ⅰの範囲の確認 (目標1,2) 第2回　知覚検査と実技 (目標1,2) 第3回　知覚検査と実技 (目標1,2) 第4回　反射検査と実技 (目標1,2) 第5回　反射検査と実技 (目標1,2)

	第6回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第7回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第8回	運動発達検査 (目標1,2)
	第9回	運動発達検査 (目標1,2)
	第10回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第11回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第12回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第13回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第14回	高次脳機能検査と実技 (目標1,2)
	第15回	まとめ（目標１,2,3）
予習・復習の内容	予習	解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと。
	復習	毎回の講義内容・実技内容を復習すること。 その内容に関連する解剖学、生理学、運動学に関して復習しておくこと。
	展開	内容理解を深めるために実技を含めて実施する。
成績評価	評価の基準	理学療法評価方法を理解・取得し，患者に対する評価の目的に応じて評価手法を選択・実施できること。それに関する知識の習得を合格基準とする。
	評価の方法	期末試験 100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 （理学療法評価学 Ｉで使用した教科書を継続して使用する）松澤正『理学療法評価学 第３版』金原出版　６,510円　ISBN： 978 -4307750257 鈴木則宏『神経診察クローズアップ』メジカルビュー社　７,350円 ISBN： 978 -4-7583-0358-3 田崎義昭ほか『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂　７,560円 ISBN： 978 -4-525-24717-1	
推薦図書等		
参考URL		
備考	理学療法評価学 Ｉ，理学療法評価学実習 Ｉが履修されていることを前提とする。 他の専門科目と内容が関連するので，専門科目全般の学習を怠らないこと。 原則、すべて出席すること	

理学療法評価学Ⅱ（２年）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP301
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ（２年）
科目責任者	郭　丹
担当教員	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2044011
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，理学療法検査実技，理学療法評価の統合と解釈
授業のねらい・概要	理学療法評価学 Ⅰに続き，対象者の把握，治療方法の選択，治療効果の判定に必要な評価の方法，選択，得られた結果の統合と解釈について学ぶ。
学生の達成目標	1. 理学療法の各検査測定の意義と方法を理解することができる。 2. 対象者の治療や治療効果の判定に必要な評価方法を選択することができる。 3. 評価から得られた結果を統合し解釈することができる。
授業内容	第1回　ガイダンス・理学療法評価学 Ⅰの範囲の確認 (目標1,2) 第2回　知覚検査と実技 (目標1,2) 第3回　知覚検査と実技 (目標1,2) 第4回　反射検査と実技 (目標1,2) 第5回　反射検査と実技 (目標1,2)

	第6回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第7回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第8回	運動発達検査 (目標1,2)
	第9回	運動発達検査 (目標1,2)
	第10回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第11回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第12回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第13回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第14回	高次脳機能検査と実技 (目標1,2)
	第15回	まとめ（目標１,2,3）
予習・復習の内容	予習	解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと。
	復習	毎回の講義内容・実技内容を復習すること。 その内容に関連する解剖学、生理学、運動学に関して復習しておくこと。
	展開	内容理解を深めるために実技を含めて実施する。
成績評価	評価の基準	理学療法評価方法を理解・取得し，患者に対する評価の目的に応じて評価手法を選択・実施できること。それに関する知識の習得を合格基準とする。
	評価の方法	期末試験 100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）

教科書

書籍名	理学療法評価学　第３版
著者名	松澤正
出版社	金原出版
価格	6 ,510円
ISBN・ISSN	978 -4307750257

書籍名	神経診察クローズアップ
著者名	鈴木則宏
出版社	メジカルビュー社
価格	7 ,350円
ISBN・ISSN	978 -4-7583-0358-3

書籍名	ベッドサイドの神経の診かた
著者名	田崎義昭ほか
出版社	南山堂

価格	7 ,560円
ISBN・ISSN	978 -4-525-24717-1

推薦図書等	
参考URL	
備考	理学療法評価学 Ⅰ，理学療法評価学実習 Ⅰが履修されていることを前提とする。 他の専門科目と内容が関連するので，専門科目全般の学習を怠らないこと。 原則、すべて出席すること

理学療法評価学実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP202
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅰ
科目責任者	郭　丹
担当教員	田上　未来 上倉　將太
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2045001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法　形態測定、関節可動域測定、新・徒手筋力検査法
授業のねらい・概要	本講義では理学療法評価のうち形態測定、関節可動域測定、徒手筋力測定の方法を正確に実施でき、かつ検査実施の際、患者様に対する医療者としての必要な配慮と注意事項などの習得を目指す
学生の達成目標	1.　正確な理学療法評価手技実施 2.　正確な骨指標の触診手技 3.　正確な筋の体表触診
授業内容	第1回　オリエンテーションと形態測定の実施 第2回　形態測定の実施と関節可動域測定の実施 第3回　関節可動域測定の実施 第4回　関節可動域測定の実施

	第5回	新・徒手筋力検査法（体幹）
	第6回	新・徒手筋力検査法（下肢）
	第7回	新・徒手筋力検査法（下肢）
	第8回	新・徒手筋力検査法（下肢）
	第9回	新・徒手筋力検査法（頭頸部）
	第10回	新・徒手筋力検査法（上肢）
	第11回	新・徒手筋力検査法（上肢）
	第12回	新・徒手筋力検査法（上肢）
予習・復習の内容	予習	解剖学、運動学　骨格、筋の内容を十分に学習すること
	復習	前回の授業内容
	展開	健常者同士で測定手技を正確に実施できる
成績評価	評価の基準	試験の成績60点以上は合格とし、単位認定する。
	評価の方法	筆記試験50% 実技試験50%
教科書	書籍名	新・徒手筋力検査法
	著者名	Helen J ,Jacqueline Montgomery
	出版社	協同医書
	価格	7875円
	ISBN・ISSN	9784763900364
推薦図書等	書籍名	骨格筋の形と触察法
	著者名	河上敬介
	出版社	大峰閣
	価格	12600円
	ISBN・ISSN	ISBN4－9980686－0－1
参考URL		
備考		

理学療法評価学実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP302
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習 Ⅱ
科目責任者	松田　雅弘
担当教員	郭　丹
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2046001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，検査の意義，統合解釈
授業のねらい・概要	理学療法の各検査・測定ができ，検査測定の意義を理解し統合解釈ができる。 各疾患に対する評価項目を列挙でき、その意義を理解したうえで検査が実施できる。
学生の達成目標	1.　身体機能・能力の評価方法を理解し,実施できる。 2.　身体機能・能力評価から得られた結果を解釈できる。 3.　評価結果の総合統合解釈ができる。
授業内容	第1回　片麻痺運動機能検査（Brunnstrom　Test　）（目標1,2,3） 第2回　片麻痺運動機能検査（Brunnstrom　Test　）（目標1,2,3） 第3回　片麻痺運動機能検査（ＳＩＡＳ）（目標1,2,3） 第4回　脳血管障害疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3） 第5回　脳血管障害疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3）

	第6回	神経難病疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3）
	第7回	協調性検査（目標1,2,3）
	第8回	痛みの評価（目標1,2,3）
	第9回	整形外科疾患の検査（目標1,2,3）
	第10回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅰ（目標1,2,3）
	第11回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅱ（目標1,2,3）
	第12回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅲ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	・基礎医学科目（解剖学、生理学、運動学）の復習 ・理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学実習Ⅰ、理学療法評価学Ⅱで習得した技術・知識をもとに授業を展開するため復習を行っておくこと。
	復習	・各実技で実施した知識・実技を空き時間を利用して練習・復習しておくこと。
	展開	・実際の患者の情報を提供して、OSCE形式で実施 ・グループを主体としてのロールプレイ ・実技を主体とするが、今まで学習した内容の総まとめであり、記憶してない内容に関しては十分な予習・復習を求める。
成績評価	評価の基準	実習の目的を理解し，実習を実施し，理学療法の評価の結果を客観的に報告できること、それに付属する知識の習得を合格基準とする。
	評価の方法	定期試験100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ・必要なプリントは配布する ・理学療法評価学 Ⅰで使用した教科書を継続して使用する 松澤正『理学療法評価学　第３版』金原出版　６,510円　ISBN： 978 -4307750257 鈴木則宏『神経診察クローズアップ』メジカルビュー社　７,350円 ISBN： 978 -4-7583-0358-3 田崎義昭ほか『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂　７,560円 ISBN： 978 -4-525-24717-1	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・理学療法評価学 Ⅱが履修されていることが前提となる。 ・すべて出席が原則である。	

動作分析学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP203
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	動作分析学
科目責任者	田中　勇治
担当教員	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2048011
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動作分析，姿勢，運動
授業のねらい・概要	人間の行動は，運動・動作・行為の３つの階層から分析することができる。運動分析に必要な基礎を学ぶとともに，臨床的に用いられる観察を中心とした運動分析，動作分析を講義・演習を通して学習する。
学生の達成目標	1. 動作を理解するために必要な基本的力学的原理を説明できる。 2. 健常者の基本的な動作中の運動について力学的に説明できる。 3. 動作の「観察」,「運動の解析」,「動作の分析」,の特徴を説明できる。 4. 動作分析を展開し,その結果を解釈する際の視点と臨床的推論過程を理解する。 5. 中枢神経疾患患者(脳卒中・脳性麻痺など)の姿勢・動作の特徴を説明できる。 6. 中枢神経疾患患者(脳卒中・脳性麻痺など)の動作分析を通して,関連評価の必要性を説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の進め方,参考書,成績評価など) 力学的基礎,正常動作の観察と分析(1)分析の進め方(目標1)
	第2回	正常動作の観察と分析(2)寝返りの観察と分析(目標2,3)
	第3回	正常動作の観察と分析(3)起き上がりの観察と分析(目標2,3)
	第4回	臨床における動作分析の進め方(目標3,4)
	第5回	動作分析の展開(目標3,4)
	第6回	動作分析の実際(中枢神経疾患1)(目標3～6)
	第7回	動作分析の実際(中枢神経疾患2)(目標3～6)
	第8回	まとめ・総括(目標1～6)
予習・復習の内容	予習	基本的な運動学については復習しておくこと。
	復習	講義を実施したあと、学生通しで動作を分析する練習を十分設けること。
	展開	実技と講義を混ぜて実施する。
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，動作分析の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 80%，レポート・発表 20% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」
	著者名	監修　奈良　勲，編集　高橋正明
	出版社	医学書院
	価格	4，935円
	ISBN・ISSN	4260266667
推薦図書等		
参考URL		
備考	・少人数制のグループ学習・発表会を行います。 ・患者の動作を実際観察し，分析する作業を行います。	

動作分析学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP203
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	動作分析学
科目責任者	宮崎　泰
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2048001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動作分析，姿勢，運動
授業のねらい・概要	人間の行動は，運動・動作・行為の３つの階層から分析することができる。運動分析に必要な基礎を学ぶとともに，臨床的に用いられる観察を中心とした運動分析，動作分析を講義・演習を通して学習する。
学生の達成目標	1. 姿勢・運動・動作の分析の意義を説明できる。 2. 健常者の基本的な動作中の運動について力学的に説明できる。 3. 動作の「観察」，「運動の解析」，「動作の分析」，の特徴を説明できる。 4. 動作分析を展開し，その結果を解釈する際の視点と臨床的推論過程を理解する。 5. 中枢神経疾患患者（脳卒中・脳性麻痺など）の姿勢・動作の特徴を説明できる。 6. 中枢神経疾患患者（脳卒中・脳性麻痺など）の動作分析を通して，関連評価の必要性を説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方，参考書，成績評価など）力学的基礎，正常動作の観察と分析の進め方（目標1，２）
	第2回	姿勢・動作の特徴を理解し、運動学の用語を使っての記述表現（目標 １，３）
	第3回	正常動作の観察と分析（起き上がり等の観察と分析）（目標 １，３）
	第4回	臨床における動作分析の進め方（目標 １，３，４）
	第5回	動作分析の展開（目標 １，３，４）
	第6回	動作分析の実際（中枢神経疾患１）（目標 １，３～６）
	第7回	動作分析の実際（中枢神経疾患２）（目標 １，３～６）
	第8回	まとめ・総括（目標１～６）
予習・復習の内容	予習	教科書の該当部分をよく理解しておくこと。
	復習	前回の配布資料を理解し、記述表現または体現できるようにすること。
	展開	
成績評価	評価の基準	上記の「学生の達成目標」に到達し，動作分析の基本事項を理解していること。(前提として規定の出席日数は必要)
	評価の方法	試験80%，レポート20% 。 定期試験は100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」
	著者名	監修　奈良　勲，編集　高橋正明
	出版社	医学書院
	価格	4,935円
	ISBN・ISSN	4260266667
推薦図書等	書籍名	理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル
	著者名	黒川幸雄，小林量作・他　編集
	出版社	文光堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	観察による運動・動作分析演習ノート
	著者名	藤澤宏幸，長崎浩　著
	出版社	医歯薬出版

	価格
	ISBN・ISSN

参考URL	
備考	・患者の動作を実際観察し，分析する作業を行います。

運動器系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT301
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動器系疾患理学療法学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2050101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	骨・関節系疾患，理学療法評価，リスク管理，理学療法アプローチ
授業のねらい・概要	骨・関節系疾患の理学療法を行う上で必要な疾患の特徴，診断，検査，測定，評価，理学療法，リスク管理について学習する。
学生の達成目標	1. 骨・関節系疾患の特徴を理解できる。 2. 診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 3. 検査,測定を疾患に合わせて選択し解釈できる。 4. 統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案ができる。
授業内容	第1回　組織再生・修復 (目標1～4) 第2回　骨折と脱臼-総論 (目標1,2) 第3回　骨折と脱臼-上肢骨折 (目標1～4) 第4回　骨折と脱臼-大腿骨頚部骨折,脊椎圧迫骨折 (目標1～4) 第5回　変形性股・膝関節症 (目標1～4) 第6回　人工股・膝関節置換術 (目標1～4)

	第7回	関節リウマチ (目標1～4)
	第8回	末梢神経損傷 (目標1～4)
	第9回	頚部疾患 (目標1～4)
	第10回	腰部疾患 (目標1～4)
	第11回	脊椎手術 (目標1～4)
	第12回	肩関節周囲炎 (目標1～4)
	第13回	肩の外傷 (目標1～4)
	第14回	膝靱帯損傷と半月板損傷 (目標1～4)
	第15回	総括 (目標1～4)
予習・復習の内容	予習	各回の教科書該当単元を熟読し臨むこと。また解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学・評価学・運動療法学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。
	復習	各疾患の特徴、病因と症状の関係、診断,手術,管理などの知識を身につける。検査,測定を症状に合わせて選択し結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明できるようにすること。
	展開	疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明してきます。
成績評価	評価の基準	骨・関節系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，小テスト・授業への参加度 20%
教科書	書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73229-9
	書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73230-5
推薦図書等		

参考URL

備考

成人中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT303
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	郭　丹
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2052001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	成人中枢神経系疾患，理学療法学，機能回復
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する脳血管疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。
学生の達成目標	1. 中枢神経系(特に,脳)の構造と機能が理解できる。 2. 中枢神経系疾患の病態像,評価法が理解,選択できる。 3. 中枢神経系疾患の各期の理学療法とADLを理解し,実施できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 中枢神経系疾患とは何か (目標1) 第2回　脳血管障害における病態とリスク管理 機能障害の成り立ち（目標1.2） 第3回　脳血管障害における病態とリスク管理 機能障害の成り立ち（目標1.2）

第4回	片麻痺運動機能検査-Brumnstromテスト 脳卒中患者の機能評価-SIASと FIM (目標1,2)
第5回	高次脳機能障害 Ⅰ-失認,失行 高次脳機能障害 Ⅱ-失語,認知能力,意識障害 (目標1,2)
第6回	脳血管障害者急性期の理学療法 早期離床および注意事項 (目標2,3)
第7回	脳血管障害者急性期の理学療法 早期離床および注意事項 (目標2,3)
第8回	脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション (目標2,3)
第9回	脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション (目標2,3)
第10回	脳血管障害者回復期の理学療法-ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第11回	脳血管障害者回復期のADL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第12回	脳血管障害の合併症および治療について 痙縮,肩関節亜脱臼,高次機能障害について
第13回	脳血管障害の合併症および治療について 肩手症候群, Pushing現象 (目標2,3)
第14回	脳血管障害者生活期(維持期)の理学療法-ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第15回	脳血管障害者生活期(維持期)の理学療法-APDL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)

予習・復習の内容	予習	解剖学、神経内科学、リハビリテーション医学
	復習	前回の授業内容
	展開	脳血管障害の理学療法の実施ができること。

成績評価	評価の基準	理学療法を実践できるための，最低限の必要な知識を習得する。
	評価の方法	定期試験100%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

チーム医療を担う医療人共通のテキスト　病気がみえる　Vol.7　脳・神経
MEDIC MEDIA　3 ,800円 ISBN : 978 -4-89632-358-0

書籍名	脳卒中理学療法の理論と技術
著者名	原　寛美　　吉尾　雅春
出版社	メジカルビュー社
価格	6500円
ISBN・ISSN	9784758311472

書籍名	チーム医療を担う医療人共通のテキスト　病気がみえる Vol.7脳・神経
著者名	原　寛美　　吉尾　雅春
出版社	MEDIC MEDIA
価格	3 ,800円
ISBN・ISSN	978 -4-89632-358-0

推薦図書等

参考URL

備考

障害体験を積極的に行うこと。
関連する基礎医学および臨床医学の知識を，講義前までに再確認しておくこと。連絡方法：メールでも対応します（メールアドレス：t-kaku@uekusa.ac.jp）

成人中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT304
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	郭　丹
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2053001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	中枢神経系，成人中枢神経系疾患，理学療法
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する難病疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。
学生の達成目標	1. 成人中枢神経系難病に対する評価が実施できる。 2. 成人中枢神経系難病の評価結果の記録ができる。 3. 成人中枢神経系難病の理学療法が実施できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3） 第2回　パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3） 第3回　脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3） 第4回　脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3） 第5回　筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）

	第6回	筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第7回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第8回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第9回	多発筋炎・皮膚筋炎の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第10回	脳血管障害者の治療手技 Ⅰ(Bobath法:姿勢緊張,刺激の与え方) 脳血管障害者の治療手技 Ⅱ(Bobath法:保持,促通)
	第11回	脳血管障害者の治療手技 Ⅰ(Bobath法:姿勢緊張,刺激の与え方) 脳血管障害者の治療手技 Ⅱ(Bobath法:保持,促通)(目標3,4)
	第12回	脳血管障害者の治療手技 Ⅲ(PNF法:上肢,下肢) 脳血管障害者の治療手技 Ⅳ(PNF法:体幹,姿勢)(目標3,4)
予習・復習の内容	予習	神経内科の関連知識、授業の講義内容
	復習	前回の授業の講義内容、神経内科学の関連知識
	展開	神経難病疾患の理学療法（評価・治療）を実施できること
成績評価	評価の基準	評価や理学療法が実施できる。
	評価の方法	筆記試験50%実技試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	理学療法テキスト　神経障害理学療法Ⅱ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2400＋税
	ISBN・ISSN	978－4－521－73232－9
推薦図書等		
参考URL		
備考	障害体験を積極的に行う上，障害に対する理解を深め，治療を適切に行う。 成人中枢神経系疾患理学療法学を履修していることが望ましい。 実技を中心に行うので，実技可能な服装にて参加すること。 連絡方法：メールでも対応します （メールアドレス：t-kaku@uekusa.ac.jp）。	

小児中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT305
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2054001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	正常運動発達，脳性麻痺，重症心身障害児（者）
授業のねらい・概要	多種にわたる小児中枢系疾患を理解した上で，新生児からの発達の過程でこれらの疾患に伴う障害がどのように阻止要因となるかを理解する。それを前提に疾患別理学療法治療について学ぶ。また，脳性麻痺に関してはその障害分類を理解し，タイプ別の治療法について理解を深める。
学生の達成目標	1. 出生後から歩行可能になるまでの運動発達について説明できる。 2. 脳性麻痺の定義,病因等を説明できる。 3. 脳性麻痺の病型別発達の特徴を説明できる。 4. 脳性麻痺の病型別に座位姿勢,立位姿勢,歩行パターンを真似できる。 5. 脳性麻痺の筋緊張,変形・拘縮等の評価ができる。 6. 脳性麻痺の適応装具(下肢装具・体幹装具・車椅子)をあげることができる 7. 脳性麻痺児の呼吸・摂食・嚥下に関する特徴を説明ができる。 8. 重症心身障害児(者)の状態像を説明できる。

9. 筋ジストロフィー,二分脊椎,ダウン症候群の理学療法についての特徴を説明できる。
1

10. NICUにおける理学療法の特徴を説明できる。

授業内容

第1回	オリエンテーション(授業の進め方,参考書,成績評価など),正常運動発達(1)(目標1)
第2回	正常運動発達(2)(目標1)
第3回	脳性麻痺総論(目標)(目標1・2)
第4回	脳性麻痺の病型別発達と理学療法(目標1～7)
第5回	脳性麻痺の評価と治療(1)痙直型四肢麻痺(目標1～7)
第6回	脳性麻痺の評価と治療(2)痙直型両麻痺(目標1～7)
第7回	脳性麻痺の評価と治療(3)アテトーゼ型,失調型,片麻痺型(目標1～7)
第8回	脳性麻痺の理学療法と適応装具,座位保持について(目標1～7)
第9回	脳性麻痺児に対する理学療法士として作業療法,言語聴覚療法との関わり(目標1～7)
第10回	重症心身障害児の理学療法:概論と運動療法(目標1～8)
第11回	重症心身障害児の理学療法:姿勢と呼吸(目標1～8)
第12回	筋ジストロフィーの理学療法(目標9)
第13回	二分脊椎・ダウン症候群・発達障害の理学療法(目標9)
第14回	NICUにおける理学療法(目標 10)
第15回	統括(目標1～ 10)

予習・復習の内容

予習	小児科学・運動学など基礎科目を復習しておくこと
復習	どの項目でも正常発達が根幹になるので、正常発達に関して復習しておくこと
展開	デモンストレーションや視覚教材を混ぜて講義を行う。

成績評価

評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
評価の方法	試験 90%，小テスト 10% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。

教科書

書籍名	こどもの理学療法（第２版）
著者名	監修　千住　秀明，編集代表　田原　弘幸
出版社	神陵文庫
価格	4 ,725円

	ISBN・ISSN	ISBN： 4915814203

	書籍名	子どもの理学療法：理学療法MOOK15
	著者名	編集　井上保、鶴見隆正
	出版社	三輪書店
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	正常発達-脳性まひ治療への応用
	著者名	著者　Jung Sun Hong翻訳　金子断行
	出版社	三輪書店
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	機能的姿勢-運動スキルの発達-誕生から1歳まで
	著者名	編集　Rona Alexander
	出版社	協同医書出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド
	著者名	編集　新田收、笹田哲、内昌之
	出版社	金原出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考　実技指導を組み込んだ授業を行います。

小児中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT306
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2055001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害理学療法，脳性麻痺，正常発達
授業のねらい・概要	正常運動発達・姿勢反射について講義と実習を通して学習する。脳性麻痺の異常運動を映像で観察し，その異常運動を捉えるための学習を行う。脳性麻痺を中心とした臥位～立位までの姿勢・運動・歩行の分析を行い，実際に真似を行い，問題点の抽出と適切な治療方法を選択する。その他，発達障害理学療法分野における脳性麻痺以外の対象疾患の概要と理学療法評価・介入について理解する。
学生の達成目標	1. 正常運動発達について理解し,姿勢などの模倣ができる。 2. 発達段階における姿勢反射について理解し,模倣できる。 3. 脳性麻痺の姿勢,動作の分析を行い,問題点の抽出ができる。 4. 脳性麻痺の問題点抽出から,適切な運動療法を選択できる。 5. 発達障害分野における理学療法の評価結果と治療の選択に関して説明できる。 6. 筋ジストロフィーにおける理学療法の評価結果と治療の選択に関して説明できる。
授業内容	第1回　正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅰ（目標1、2）

	第2回	正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅱ（目標1，2）
	第3回	脳性麻痺に関する評価からの治療選択（目標3，4）
	第4回	脳性麻痺ケーススタディⅠ　痙直型両麻痺児（目標3，4）
	第5回	脳性麻痺ケーススタディⅡ　痙直型両麻痺児（目標3，4）
	第6回	脳性麻痺ケーススタディⅢ　痙直型四肢麻痺児（目標3，4）
	第7回	脳性麻痺ケーススタディⅣ　痙直型四肢麻痺児（目標3，4）
	第8回	筋ジストロフィー（DMD，福山型など）の理学療法の評価と治療に関するグループ発表（目標5，6）
	第9回	二分脊椎の理学療法の評価と治療に関するグループ発表（目標5，6）
	第10回	ダウン症候群の理学療法の評価と治療に関するグループ発表（目標5，6）
	第11回	発達障害児（精神運動発達遅滞など）の理学療法の評価と治療に関するグループ発表（目標5，6）
	第12回	総括（目標1～6）
予習・復習の内容	予習	前期の小児中枢神経系疾患理学療法学を十分に復習しておくこと。 課題を出すので課題を丁寧に仕上げること。
	復習	正常発達の理解を深める復習をしておくこと。
	展開	実技を踏まえて実施する。 グループ学習
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学実習の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	定期試験 70%，発表・レポート 30% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	知りたかった！ PT・OTのための発達障害ガイド
	著者名	編集　新田收，笹田哲，内昌之
	出版社	金原出版
	価格	4 ,830円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	子どもの理学療法：理学療法MOOK15
	著者名	編集　井上保、鶴見隆正
	出版社	三輪書店
	価格	

ISBN・ISSN	
書籍名	正常発達-脳性まひ治療への応用
著者名	著者　Jung Sun Hong翻訳　金子断行
出版社	三輪書店
価格	
ISBN・ISSN	
書籍名	機能的姿勢-運動スキルの発達-誕生から1歳まで
著者名	編集　Rona Alexander
出版社	協同医書出版
価格	
ISBN・ISSN	
書籍名	こどもの理学療法（第2版）
著者名	監修　千住秀明，編集代表　田原弘幸
出版社	神陵文庫
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	・小児中枢神経系疾患理学療法学の内容を踏まえて行うため，復習しておくこと。 ・視覚教材等を使用する。 ・グループ学習を行う予定である。

内部障害系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT307
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学
科目責任者	阿部　勉
担当教員	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2056001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	呼吸循環器系リハビリテーション，リスク管理，運動処方
授業のねらい・概要	生活習慣病が拡大する中，理学療法士に対する需要が急速に伸びてきた分野である。検査・測定の結果を踏まえながら疾患の特性を理解し，理学療法士としての関わり方，運動療法について学ぶ。一つ一つをしっかりと押さえて，わからないままにしておかないよう十分に注意してほしい。
学生の達成目標	1. 内部障害系疾患の特性を理解する。 2. 内部障害系疾患の検査・測定方法,結果の解釈ができる。 3. 内部障害系疾患のリスク管理ができる。 4. 内部障害系疾患の運動療法を理解できる。
授業内容	第1回　呼吸理学療法総論　(目標1) 第2回　呼吸器系の解剖学・運動学　(目標1) 第3回　呼吸器系の生理学　(目標1)

第4回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患　(目標1,3)
第5回	呼吸理学療法のための評価 （1）医療面接とフィジカル・アセスメント　(目標2,3)
第6回	呼吸理学療法のための評価 （2）その他の評価法　(目標2,3)
第7回	呼吸理学療法基本手技 （1）コンディショニング　(目標3,4)
第8回	循環器系の基本構造,生理学に関して理解する。(目標1)
第9回	心機能検査や評価について理解する。(目標2)
第10回	心臓リハビリテーションのエビデンスについて理解する。(目標4)
第11回	心臓リハビリテーション-心筋梗塞,心不全(目標1,2,3)
第12回	末梢循環障害と理学療法(目標1,2,3)
第13回	糖尿病・腎機能障害に対する理学療法(目標1,2,3)
第14回	運動負荷試験の種類と検査結果の解釈(目標1,2,3)
第15回	総括(目標1,2,3,4) (内部障害系疾患理学療法の実際,疾患毎の運動療法をまとめる)

予習・復習の内容	予習	2年生までの全ての授業内容、特に解剖・生理学、内科学を基礎に授業を展開するため、十分に把握・理解した上で授業に臨むようにすること。 教科書の中の該当箇所を一読し疑問を抽出しておく
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また、理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること
	展開	実技と座学を織り交ぜながら立体的に理解および体得できるように授業をすすめる

成績評価	評価の基準	内部障害系疾患理学療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	理学療法テキスト　内部障害理学療法学　呼吸
著者名	石川朗
出版社	中山書店
価格	2.400円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73228-2

書籍名	内部障害系理学療法学

	著者名	
	出版社	メディカルビュー社
	価格	4 ,500円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-60361-2 ISSN： 978 -4-7583-1113-7

推薦図書等	書籍名	呼吸理学療法 第2版
	著者名	宮川哲夫
	出版社	三輪書店
	価格	5.040円
	ISBN・ISSN	ISBN-13: 978-4895903332

参考URL	
備考	内部障害系疾患理学療法は解剖，生理学，病理学，基礎運動学を基本として成り立っている分野である。したがって２年次までの各授業を十分に習得したものとして講義が進行していくので，しっかりと学んできてほしい。 授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。

内部障害系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT308
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学実習
科目責任者	阿部　勉
担当教員	小山内　正博
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2057001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	呼吸循環器系リハビリテーション，リスク管理，運動処方
授業のねらい・概要	前期の座学を基礎に実際の評価や手技を実技を通して習得する。
学生の達成目標	1. 内部障害系疾患の検査・測定結果を解釈できる。 2. 内部障害系疾患のリスク管理ができる。 3. 内部障害系疾患に対する各種治療手技を施行できる。 4. 内部障害系疾患の運動療法を処方できる。
授業内容	第1回　呼吸理学療法基本手技（2）排療法・排痕で用いる徒手的手技 呼吸理学療法基本手技（3）呼吸困難改善のための手技 (目標1,2,3) 第2回　呼吸理学療法基本手技（4）運動療法 酸素療法と呼吸理学療法 (目標1,2,3,4)

	第3回	人工呼吸療法と呼吸理学療法 疾患別呼吸理学療法（1）慢性呼吸不全 (目標1,2,3,4)
	第4回	疾患別呼吸理学療法（2）急性呼吸不全（外科手術前後） 吸引 (目標1,2,3)
	第5回	心臓リハビリテーション-心筋梗塞に対する運動処方(目標4)
	第6回	心臓リハビリテーション-心不全に対する運動処方(目標2,3,4)
	第7回	循環器評価を実施し,結果を解釈できる。(目標1)
	第8回	糖尿病に対する理学療法の実際(目標2,3,4)
	第9回	膀胱・直腸障害に対する理学療法の実際(目標2,3,4)
	第10回	産前・産後の理学療法の実際(目標2,3,4)
	第11回	肝機能障害と理学療法の実際(目標2,3,4)
	第12回	腎機能障害と理学療法の実際(目標2,3,4)
	第13回	総括(目標1,2,3,4) (内部障害系疾患理学療法の実際,各疾患毎の運動療法を実施できる)

予習・復習の内容	予習	前期の座学を十分に理解しておくこと。また、再度、解剖、生理学、運動学、内科学を復習すること
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また、理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること
	展開	実技や症例検討を中心に授業を展開していく

成績評価	評価の基準	内部障害系疾患理学療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す）30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	理学療法テキスト　内部障害理学療法学　呼吸
	著者名	石川朗
	出版社	中山書店
	価格	2.400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73228-2

推薦図書等	書籍名	呼吸理学療法 第2版

著者名	宮川哲夫
出版社	三輪書店
価格	5.040円
ISBN・ISSN	ISBN-13: 978-4895903332

参考URL	
備考	内部障害系疾患理学療法は解剖，生理学，病理学，基礎運動学を基本として成り立っている分野である。したがって２年次までの各授業を十分に習得したものとして講義が進行していくので，しっかりと学んできてほしい。 授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。

物理療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT203
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学
科目責任者	田上　未来
担当教員	岩本　浩二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2058001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理療法，温熱療法，寒冷療法，水治療法，電磁波療法，電気･光線療法，牽引療法，超音波療法
授業のねらい・概要	各種の物理的刺激に対する生体の反応を基本的知識として，物理療法の適応と禁忌を理解し，患者の病態に合わせた適切な物理療法手段を選択できることを目標とする．具体的には温熱・寒冷など各種物理的刺激に対する生体の反応，物理療法の効果，適応と禁忌・リスク管理・実施方法について学ぶ.
学生の達成目標	1. 物理療法の歴史的経過,定義,概念,種類,目的を説明できる. 2. 物理療法の全般に関する治療方法の原則と方法を習得し,説明できる. 3. 各種物理療法の特徴,適応・禁忌,リスク管理等を理解・習得し,説明できる. 4. 各物理的刺激に対する生体の生理学的反応を理解し,説明できる.
授業内容	第1回　物理療法の基礎(目標1) 第2回　温熱療法(1)－伝導熱：ホットパック，パラフィン浴 (目標2～4)

	第3回	温熱療法(2)-輻射熱：赤外線療法 (目標2～4)
	第4回	温熱療法(3)-エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法 (目標2～4)
	第5回	光線療法ー紫外線療法，レーザー療法 (目標2～4)
	第6回	寒冷療法 (目標2～4)
	第7回	水治療法 (目標2～4)
	第8回	超音波療法 (目標2～4)
	第9回	電気刺激療法(1)－総論 (目標2～4)
	第10回	電気刺激療法(2)－TENS, IFC, MENS (目標2～4)
	第11回	電気刺激療法(3)－筋収縮に対する物理療法 (目標2～4)
	第12回	電気刺激療法(4)－機能的電気刺激療法，筋電図バイオフィードバック (目標2～4)
	第13回	牽引療法 (目標2～4)
	第14回	マッサージ療法 (目標2～4)
	第15回	リスク管理 (目標2～4)
予習・復習の内容	予習	指定教科書ついて，講義内容と対応する部分を読む
	復習	指定教科書ついて，講義内容と対応する部分を読む
	展開	講義で学習した基礎知識をもとに，物理療法学実習において機器を適切に使用できるようになる
成績評価	評価の基準	上記目標を概ね達成していること
	評価の方法	試験，レポート，授業への積極的参加度を統合的に評価する.
教科書	書籍名	15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　物理療法学・実習
	著者名	玉木彰
	出版社	中山書店
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	標準理学療法学専門分野物理療法学
	著者名	網本和(編)
	出版社	医学書院
	価格	4,935
	ISBN・ISSN	978-4-260-01526-4

参考URL	
備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります.

物理療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT204
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学実習
科目責任者	田上　未来
担当教員	岩本　浩二
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2059001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理的刺激と生体反応，温熱療法，寒冷療法，電気療法，光線療法，牽引療法，超音波療法，水治療法
授業のねらい・概要	物理療法学で学習したことを基礎として，対象者の安全に配慮して各種物理療法機器を説明書通りに正しく操作できること，および物理刺激の生体に及ぼす影響について客観的な効果測定を実施することができることを目標とする．このために温熱療法・寒冷療法・光線療法・電気刺激療法・牽引療法など各種物理療法に関して， １．学生グループ内で治療者と患者の役を演じて実技を行う． ２．各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し，物理療法の効果を定量的に判定する．
学生の達成目標	1.　各種物理療法の治療方法の原則を習得し,説明できる. 2.　各種物理療法の適応・禁忌・リスク管理等を理解・習得し,リスクマネジメントを説明できる. 3.　各種物理療法の手技を理解し,学生同士で実施,効果を検証できる.
授業内容	第1回　オリエンテーション，温熱療法の実習(1) 伝導熱 (目標1～3)

	第2回	温熱療法の実習(2) 輻射熱 (目標1～3)
	第3回	温熱療法の実習(3) エネルギー変換熱 (目標1～3)
	第4回	寒冷療法の実習 (目標1～3)
	第5回	超音波療法の実習 (目標1～3)
	第6回	水治療法の実習 (目標1～3)
	第7回	中間試験 (目標1～2)
	第8回	電気刺激療法の実習 (目標1～3)
	第9回	電気刺激療法を用いた臨床応用(1) 筋収縮に対する物理療法 (目標1～3)
	第10回	電気刺激療法を用いた臨床応用(2) 筋電図バイオフィードバック (目標1～3)
	第11回	電気刺激療法を用いた臨床応用(3) 機能的電気刺激療法(目標1～3)
	第12回	電気刺激療法を用いた臨床応用(4) 機能的電気刺激療法 (目標1～3)
	第13回	牽引療法の実習 (目標1～3)
	第14回	マッサージ療法の実習 (目標1～3)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	前期の物理療法学を中心に解剖、生理、物理学を確認しておくこと
	復習	実習内容を学生同士で実施できるように復習する
	展開	臨床実習においてスムーズに施行できるようにする
成績評価	評価の基準	上記目標を概ね達成していること
	評価の方法	試験，レポート，授業への積極的参加度を統合的に評価する.

教科書	書籍名	15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　物理療法学・実習
	著者名	玉木彰
	出版社	中山書店
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	標準理学療法学専門分野物理療法学
	著者名	網本和(編)
	出版社	医学書院
	価格	4,935
	ISBN・ISSN	9784260015264

参考URL	
備考	実習を行いますので，必要に応じて Tシャツや短パン，ジャージなど身体を露出できるような服装で出席して下さい．この授業では，物理療法を積極的に臨床応用および研究している外部講師の特別授業を予定しています．なお，この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります．

日常生活活動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT309
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2060001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ADLの概念， ADLの内容， ADLの評価，基本姿勢，基本動作，生活関連動作， QOL
授業のねらい・概要	日常生活活動（ activities of daily living：ADL）の概念，内容，評価，基本的技術，適応について学ぶ。障害を持つ人の ADLについて評価し，適切な ADL支援を提案できることを目的とする。
学生の達成目標	1. ADLの概念,内容を説明できる。 2. ADLの評価項目を説明できる。 3. 代表的な ADL評価ができる。 4. 生活関連動作・活動を説明できる。 5. QOLの概念について説明できる。 6. QOL評価,生活機能評価, ICFについて説明できる。 7. 代表的疾患についてＡＤＬ指導ができる。
授業内容	第1回　ADLの概念,内容 (目標1) 第2回　ADLの評価の方法 (目標1,2)

第3回	ADLの評価2(バーセル指数) (目標1,2.3)
第4回	ADLの評価3(FIM①) (目標1,2.3)
第5回	ADLの評価4(FIM②) (目標1,2.3)
第6回	ADLの評価５(Katz,ほか) (目標1,2.3)
第7回	QOL評価,生活機能評価, ICF (目標6)
第8回	脳卒中片マヒのADL指導１（起居移動動作）(目標1－７)
第9回	脳卒中片マヒのADL指導2（移乗・移動）(目標1－７)
第10回	脳卒中片マヒのADL指導３（食事・更衣・排泄）(目標1,7)
第11回	生活関連動作 (目標1,4,7)
第12回	脊髄損傷のADL指導１（起居移動動作）(目標1－７)
第13回	脊髄損傷のADL指導２（移乗、移動）(目標1－７)
第14回	脊髄損傷のADL指導３（食事・更衣・排泄）(目標1－７)
第15回	ADLのまとめ (目標1～7)

予習・復習の内容	予習	該当する教科書のページを良く読んでくること
	復習	代表的事例のＡＤＬ指導案を作成する
	展開	概念、評価、代表的疾患のＡＤＬ支援へと進める

成績評価	評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の程度（ 20%），ショートテスト（ 20%），期末筆記試験（ 60%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	日常生活活動学・生活環境学
著者名	鶴見隆正・高島研吾編集
出版社	医学書院
価格	5400
ISBN・ISSN	978-4-260-01603-2

書籍名	脊髄損傷理学療法マニュアル
著者名	岩崎洋編集
出版社	文光堂
価格	6500
ISBN・ISSN	978-4-8306-4332-3

書籍名	脳卒中のリハビリテーション

著者名	近藤克則他
出版社	医歯薬出版
価格	5200
ISBN・ISSN	4-263-21527-3

推薦図書等	
参考URL	
備考	第１，２，３，14，15回は３限１コマ、第４～13回までは、３、４限２コマの授業になります。物理療法実習が4回、間に入ります。 第12，13回（12月20日予定）は金曜日になります。 第９回～第 14回は， ADL動作の練習のために動きやすい服装をしてくること（ジャージの上下）。

日常生活活動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT310
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学実習
科目責任者	永原　久栄
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2061001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	片麻痺の ADL，対麻痺の ADL，四肢麻痺の ADL，RAの ADL，脳性麻痺の ADL，高齢者の ADL
授業のねらい・概要	疾患別，障害別の日常生活活動評価・指導法に基いて，学生同士での体験実習として， ADL評価，指導の方法を身につける。
学生の達成目標	1. ADL評価・指導に必要な基本的動作について具体的に述べられ,模倣できる 2. 片麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 3. 対麻痺・四肢麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 4. 慢性関節リウマチ,パーキンソン,小脳変性疾患の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 5. 脳性麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 6. 高齢障害者の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる
授業内容	第1回　片麻者の ADL① (片麻痺の基本動作を学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)

第2回	片麻痺の ADL② (片麻痺のトランスファーを学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)
第3回	片麻痺の ADL③ (片麻痺の更衣,トイレ動作等をて学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)
第4回	スペシャル講義と実習 RA,脳性まひ者等のための「足底板」(目標1,4)
第5回	スペシャル講義と実習「 ADLと作業療法」(目標1～5)
第6回	RA等の ADL (ADL支援方法を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,4)
第7回	ADLのまとめ
第8回	対麻痺・四肢麻痺の ADL① (起居移動動作を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,3)
第9回	対麻痺・四肢麻痺の ADL② (更衣,トイレ動作等を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,3)
第10回	小児の ADL (脳性麻痺の ADL支援方法について,学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,5)
第11回	パーキンソン等の ADL (ADL支援方法を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,4)
第12回	高齢者の ADL (高齢者の ADL支援方法について,学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,5)

予習・復習の内容	予習	日常生活活動学で学んだことをもとに対象疾患のＡＤＬを予習しておくこと。
	復習	対象疾患毎にＡＤＬ支援内容を確認する。
	展開	ＡＤＬ指導の実践ができる。

成績評価	評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の積極性の程度（ 30%），中間実技試験（ 10%），期末実技試験（ 30%）期末筆記試験（ 30%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 伊藤利之他「 ADLとその周辺」医学書院　６,000円　ISBN： 9784260005685 岩崎　洋編集「脊髄損傷理学療法マニュアル」　６,500円　ISBN： 9784830643323 初山泰弘他「脊髄損傷」医歯薬出版　４,500円　ISBN： 4263218329 近藤克則，大井通正編「脳卒中リハビリテーション」第２版医歯薬出版　ISBN： 4263215273
推薦図書等	

参考URL	
備考	ADL動作の練習を行なうために体を動かしやすい服装で出席すること（ジャージの上下など）。　前期の「日常生活活動学」を履修していること。前期履修した「日常生活活動学」を復習しておくこと。

スポーツ理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT315
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	村井　貞夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2063001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	予防，治療，リハビリテーション，競技力向上
授業のねらい・概要	・スポーツの競技特性を理解し，競技力向上に寄与していく過程を学ぶ。 ・スポーツの競技特性を知ることによって予防につなげていく。 ・スポーツ傷害に対する治療方法を学ぶ。 ・競技現場に復帰させるためのリハビリテーションテクニックを学ぶ。
学生の達成目標	1. スポーツ傷害の程度を知ることができる。 2. 傷害の程度に合わせた治療ができる。 3. スポーツの競技特性を理解することができる。 4. スポーツリハビリテーションの全体を知り,他の職種(監督・コーチ)とのコミュニケーションを図ることができる。 5. 選手にスポーツリハビリテーションを理解させ,再発予防ができる。
授業内容	第1回　アスレチックリハビリテーションの定義,沿革(目標1) 第2回　アスレチックリハビリテーションの分類(目標1) 第3回　傷害の部位別の理学療法 体幹・肩・肘・手・手指 (目標1,2)

	第4回	傷害の部位別の理学療法 (2) 大腿・膝・下腿～足関節・足・足趾 (目標1,2)
	第5回	スポーツマッサージ 頸部・肩部・背部・腰部・殿部 (目標2,3)
	第6回	スポーツマッサージ (2) 上肢・下肢 (目標2,3)
	第7回	スポーツストレッチング 上肢・体幹 (目標2,3)
	第8回	スポーツストレッチング (2) 下肢 (目標2,3)
	第9回	テーピング(目標2,3)
	第10回	アスレチックリハビリテーションの流れ,総括(目標4,5)
予習・復習の内容	予習	スポーツ理学療法の基本となる解剖学、運動学、運動器系理学療法を一読してくる。
	復習	授業の配布資料を熟読する。
	展開	スポーツ疾患の理学療法の知識を深める。
成績評価	評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	平常点（講義中の簡単な実技） 30%，期末筆記試験（ 70%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド
	著者名	臨床スポーツ医学編集委員会：編
	出版社	文光堂
	価格	7 ,350円
	ISBN・ISSN	978 -4-8306-5135-9
	書籍名	スポーツマッサージ
	著者名	福林徹　監修
	出版社	文光堂
	価格	7000円
	ISBN・ISSN	4-8306-5146-6
	書籍名	テーピングテクニック
	著者名	村井貞夫　監修
	出版社	ガイアブックス
	価格	1600円
	ISBN・ISSN	978-4-88282-787-0

参考URL

備考

高次脳機能障害学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT311
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高次脳機能障害学
科目責任者	渡辺　学
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2064001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高次脳機能障害・失行症・半側空間無視
授業のねらい・概要	理学療法士にとって臨床的に必要な，脳損傷例に認められる高次脳機能障害の概要を理解し，各症状の評価方法と治療アプローチについて概説する。
学生の達成目標	1. 高次脳機能障害とは何かを理解する。 2. 意識障害,注意障害,全般性認知障害,記憶障害について理解する。 3. 言語に関する高次脳機能障害について理解する。 4. 運動に関する高次脳機能障害について理解する。 5. 認知に関する高次脳機能障害について理解する。
授業内容	第1回　総論1:高次脳機能障害の概観(目標1) 第2回　各論1:意識障害,注意障害の概要と治療アプローチ(目標2) 第3回　各論1:全般性認知障害,記憶障害の概要と治療アプローチ(目標2) 第4回　各論2:失語症の概要と治療アプローチ(目標3) 第5回　各論3:失行症の概要と治療アプローチ(目標4)

	第6回	各論4:遂行機能障害,その他の行為障害に関する概要と治療アプローチ(目標4)
	第7回	各論5:半側空間無視の概要と治療アプローチ(目標5)
	第8回	各論6:視覚失認,その他の空間認知に関する概要と治療アプローチ(目標5)
予習・復習の内容	予習	脳卒中の発生メカニズムを理解しておくこと。 リハビリテーションと理学療法とは何かを自らの考えで整理しておくこと。
	復習	理解できなかった部分を抽出しておくこと。 質問を考えておくこと。
	展開	
成績評価	評価の基準	高次脳機能障害に関して，授業で取り上げた内容が理解できていること。授業内容をもとに高次脳機能障害についての参考書や文献の内容を理解し、脳機能およびその評価と治療アプローチについて的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	講義への参加度10%，筆記試験90%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	高次脳機能障害学
	著者名	石合　純夫
	出版社	医歯薬出版
	価格	4620
	ISBN・ISSN	978-4-263-21396-4
参考URL		
備考	高次脳機能障害が理学療法の臨床にどのように関連し，脳機能をどのように捉えていくかを中心に講義します。	

地域理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP301
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2066001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ICF，CBR，目標設定，生活指導，ニーズ把握，ケアマネジメント，生活環境評価，福祉用具，介護予防
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術について習得する。家庭訪問による訪問リハビリテーションサービスや，施設における入所，通所リハビリテーションサービスに携わる理学療法士に必要な知識・技術・実施方法を学ぶ。地域理学療法を実践する専門家としての基本的姿勢・態度についても習得する。
学生の達成目標	1. 地域理学療法の必要背景,および, ICF,CBRを理解する。 2. 地域理学療法に関連する法,制度の変遷を説明し,現状の課題を提案できる。 3. 介護保険制度におけるリハビリテーションサービスについて説明できる。 4. 地域支援の手法としてケアマネジメント機能を提示できる。 5. 地域理学療法における生活指導について述べることができる 6. 訪問サービスの模擬事例について,ニーズの把握,理学療法目標,計画を設定,実施案を提示できる。 7. 地域理学療法支援に携わる専門家としての基本姿勢を提示できる。

8. 住宅改修と福祉用具活用支援の関係について説明できる。

9. 住宅改修のポイント:玄関,浴室,トイレ,居間,寝室等の改修について提案できる。
1

10. 通所,入所サービスにおける支援目標とプログラムを説明できる。

11. 介護予防,障害予防のプログラムについて説明できる。

授業内容

第1回	地域理学療法の背景,障害の概念の変化 (目標1)
第2回	制度の変遷と地域理学療法の発展 (目標2)
第3回	介護保険と地域理学療法 (目標3,4)
第4回	ケアマネジメント (目標4)
第5回	訪問サービスにおける生活指導,評価,目標設定 (目標5,6)
第6回	訪問サービスの実際1(対人援助技術) (目標7)
第7回	訪問サービスの実際2(訪問プログラム作成) (目標5,6,7,8)
第8回	訪問サービスの実際3(訪問プログラム実施) (目標5,6,7,8)
第9回	訪問サービスの実際4(訪問プログラム評価) (目標5,6,7,8)
第10回	生活場所からみた住宅改修の方法(玄関,廊下,浴室,トイレ) (目標8,9)
第11回	生活場所からみた住宅改修の方法(居間,寝室,台所) (目標8,9)
第12回	通所・入所サービスにおける個別評価,事業評価 (目標 10)
第13回	通所・入所サービスの実際 (介護老人保健施設等) (目標 10)
第14回	通所・入所サービスの実際 (在宅介護支援センター) (目標 10)
第15回	介護予防と地域理学療法 (目標3,4, 11)

予習・復習の内容

予習	授業第１回目に、授業内容と教科書の該当ページを提示するので、各回とも、事前に一読してくること
復習	前回の授業内容の重要なキーワードについて、２－５００字程度の説明を問う。
展開	この授業で学習したことをもとに、学外実習（９月集中）として、介護老人保健施設、訪問ステーションの見学実習を行う

成績評価

評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の程度（ ２0%），課題提出（各 20%），期末筆記試験（ ６0%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	地域リハビリテーション学テキスト
著者名	細田多穂　監修

出版社	南江堂
価格	4200
ISBN・ISSN	978-4-524-26957-0

書籍名	現場から学ぶ自立支援のための住宅改修
著者名	鶴見隆正　ほか
出版社	医学書院
価格	2400
ISBN・ISSN	978-4-260-00454-1

推薦図書等

参考URL

備考

地域理学療法実習との関係で、第1回～第9回は3限1コマ、

第10回～第15回までは、3限、4限　（2コマ）ですすめる。
地域理学療法実習前期分3回（6コマ）は、6月25日以降に、
地域理学療法学と調整して2コマ続きで行う。詳細は授業開始時に提示する。

地域理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP302
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学実習
科目責任者	永原　久栄
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2067001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	住宅改修，福祉用具，訪問サービス，通所サービス，介護老人保健施設，介護予防，直接サービス，間接サービ住宅改修，福祉用具，訪問サービス，通所サービス，介護老人保健施設，介護予防，直接サービス，間接サービス
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術を習得する。地域における保健・医療・福祉のサービスの内容を知り，そこで理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを，地域の機関・施設（介護老人保健施設，訪問看護ステーション等）を見学し，サービス活動に参加することを通して学ぶ。
学生の達成目標	1. 地域におけるサービス実施機関のサービス内容を把握し,理解できる。 2. 職員,対象者に対して適切なコミュニケーションが取れ,見学に必要な態度を工夫できる。 3. 対象者の理学療法ニーズを評価できる。 4. 地域理学療法に関連する人的資源,制度的資源を調べる。 5. 地域理学療法の実施を補助する。
授業内容	第1回　模擬事例によるホームエヴァリュエーション,住宅改修案（図面の書き方）（目標1,3,4）

	第2回	模擬事例のＡＤＬ．ＩＡＤＬと、作成した住宅改修案のすりあわせ（目標1,3,4）
	第3回	模擬事例による住宅改修案の発表 (目標1,3,4) および学外施設見学のオリエンテーション
	第4回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第5回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第6回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第7回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第8回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第9回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第10回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加　９月集中 (目標1,2,3,4,5)
	第11回	セミナー ① 介護老人保健施設の見学成果の発表 (目標1,3,4)
	第12回	セミナー ② 訪問看護ステーション等での見学成果の発表 (目標1,3,4)
予習・復習の内容	予習	１）模擬事例宅を想定して、自宅等の段差やドア、敷居の高さなどを測定する。２）住宅改修の教科書をよく読んでくる。　３）学外実習に関する実習要項を熟読する。
	復習	模擬事例、見学事例の地域理学療法支援をまとめる
	展開	前期は、学内で模擬事例を使った住宅改修案づくり、９月集中として、介護老人保健施設３日間、訪問ステーションまたはデイケアＩ日間の実習、最後に、発表セミナを学内で行う展開である。
成績評価	評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の積極性の程度（ 40%），グループ発表（３回）（ 30%），レポート２回（ 30%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 植草学園大学地域理学療法学実習の手引き（授業で配布）	
	書籍名	現場から学ぶ自立支援のための住宅改修
	著者名	鶴見隆正ほか
	出版社	医学書院
	価格	2400
	ISBN・ISSN	978-4-260-00454-1

書籍名	地域リハビリテーション学テキスト
著者名	細田多穂　監修
出版社	南江堂
価格	4200
ISBN・ISSN	978-4-524-26957-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	前期後半2回（２コマ×2回）＋夏季集中４日（16コマ）〔２週間のうちの４日間：１日４コマ〕＋後期前半２回（4コマ）合計12回（24コマ）実施。前期にオリエンテーションを別に実施。 老健施設等での見学実習は，９月に集中して行う（９月２日～14日のうち4日間）。

理学療法評価学臨床実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE401
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学臨床実習
科目責任者	永原　久栄
担当教員	田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2070001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、問題点の検討、目標設定、治療計画、理学療法記録、症例発表
授業のねらい・概要	学内で学んだ理学療法の知識、技術を用い、臨床実践を体験する。臨床の場で、基本的な評価・治療を患者に対して適切に実施することを学ぶ。
学生の達成目標	1.　医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2.　症例に即した検査・側定・記録ができる。 3.　問題点の抽出,目標の設定ができる。 4.　基本的な治療計画の立案ができる。 5.　記録と報告が適切に実施できる。

授業内容	臨床現場での実践実習（4週間）	
予習・復習の内容	予習	理学療法評価学臨床実習に必要な、基礎知識、技術の整理、練習をしておくこと。
	復習	現場で学んだ知識、技術について、整理しまとめ、この後、体験することになる総合臨床実習Ⅰへの準備につなげること。
	展開	続いて体験する総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱへとつなげていく。
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 １年から3年まで使用したすべての教科書、資料。担当した症例に関する文献・資料。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	１．３年次前期までに配置されているすべての必修科目を履修し，単位を修得していること。 ２．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ３．「理学療法評価学臨床実習セミナー」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ４．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ５．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記２～４を厳守すること。 ６．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。	

総合臨床実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE402
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習 Ⅰ
科目責任者	永原　久栄
担当教員	田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2071001
教室	
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、情報収集、理学療法治療プログラム立案、理学療法治療プログラム実施、チーム医療、症例報告、理学療法記録
授業のねらい・概要	学内でこれまで学習した知識・技術をもとに、臨床場面で臨床実習指導者の指導によって、知識・技術・治療者としての基本的態度を学び、理学療法士としての臨床実践を体験する。疾患と障害の把握，評価の実施と問題点の分析，目標設定，治療の計画と実施，変化に対する適切な治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。
学生の達成目標	1. 医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2. 医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 3. 臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。

	4.　上記3に関して,記録ができる。 5.　症例報告書を作成し,発表できる。
授業内容	臨床現場での臨床体験（８週間）
予習・復習の内容	予習　１年から３年までに使用した教科書、資料の整理、理学療法評価学臨床実習での学習内容の整理を行い、臨床指導者の指導のもとで、基本的理学療法を実施できる準備をする。 復習　総合臨床実習Ⅱに向けて準備をする。 展開　４月から１０月の間に、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、合計１６週間の学外実習を行う
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。 評価の方法　実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 １年から３年までに使用した教科書、資料。理学療法評価学臨床実習で使用した文献・資料等。
推薦図書等	
参考URL	
備考	１．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ２．「プロフェッショナルスキル」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ３．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ４．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記１～３を厳守すること。 ５．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。

総合臨床実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE403
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習 Ⅱ
科目責任者	永原　久栄
担当教員	田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2072001
教室	
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、情報収集、理学療法治療プログラム立案、理学療法治療プログラム実施、理学療法記録、チーム医療、症例発表、
授業のねらい・概要	総合臨床実習Ⅰに引き続き、別の臨床施設で、臨床実習指導者の指導によって、知識・技術・治療者としての基本的態度を学び、理学療法士としての臨床実践体験をさらに深めていく。疾患と障害の把握，評価と問題点の分析，目標設定，治療の計画と実施，治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。
学生の達成目標	1. 医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2. 医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 3. 臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 4. 上記3に関して,記録ができる。

	5.　症例報告書を作成し,発表できる。
授業内容	臨床現場での臨床実践（８週間）
予習・復習の内容	予習　総合臨床実習Ⅰで学習した知識・技術を整理、復習し、引き続き、別の実習施設で臨床実習を実施する準備をする。 復習　総合臨床実習Ⅱで得た臨床体験をもとに、自分の理学療法士としての基本的な態度や資質を考え、さらに向上させる。 展開　総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱを体験したことで、理学療法士としての基礎を作る。
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。 評価の方法　実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 総合臨床実習Ⅰと同様に、必要に応じて文献・資料をそろえる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	１．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ２．「プロフェッショナルスキル」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ３．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ４．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記１～３を厳守すること。 ５．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。

プロフェッショナルスキル

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE304
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルスキル
科目責任者	永原　久栄
担当教員	桑名　俊一 佐藤　将朗 角　友起 齋籐　基一郎 内山　伸治 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2073001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎医学,臨床医学,運動学・生体力学,理学療法学
授業のねらい・概要	1年次から4年次までに学習した専門基礎科目・専門科目のレビューを行い,理学療法士として必要な知識の整理をする。
学生の達成目標	1. 基礎医学・臨床医学等専門基礎科目の知識を整理し,定着させる。 2. 理学療法およびリハビリテーションに関する概論的知識を整理する。 3. 基本的な運動療法・物理療法・理学療法評価に関する知識を整理する。

4. 各系統疾患別理学療法の知識を整理する。

5. 心身発達及びライフステージ別障害に対するリハビリテーションの知識を整理する。

6. 義肢装具,生活支援機器に関する知識を整理する。

授業内容

第1回	生理学,解剖学の基礎知識のレビュー（目標1）
第2回	運動学,生体力学の基礎知識のレビュー（目標1）
第3回	病理学,内科学,一般臨床医学の基礎知識のレビュー（目標1）
第4回	神経内科学,リハビリテーション医学の基礎知識のレビュー（目標1）
第5回	整形外科学,脳神経外科学の基礎知識のレビュー（目標1）
第6回	心理学,臨床心理学,精神医学の基礎知識のレビュー（目標1）
第7回	理学療法およびリハビリテーション概論,医療法規・制度に関する基礎知識のレビュー（目標2）
第8回	運動療法,物理療法の原理,適応,禁忌等の基礎知識のレビュー（目標3）
第9回	理学療法評価に関する基礎知識のレビュー（目標3）
第10回	神経系疾患理学療法に関する基礎知識のレビュー（目標4）
第11回	運動器系疾患理学療法に関する基礎知識のレビュー（目標4）
第12回	内部障害に対する理学療法に関する基礎知識のレビュー（目標4）
第13回	高齢期および小児期リハビリテーションとその周辺知識のレビュー（目標5）
第14回	各種義肢装具,生活支援機器の分類,適応に関する基礎知識のレビュー（目標5）
第15回	総括

予習・復習の内容

予習	事前に教科書の該当するところを一読してくること。
復習	授業により整理された基本的知識を覚えること。 とくに自分の不十分なところ,あいまいなところを明らかにして復習する。
展開	理学療法士（養成校卒業レベル）の基礎を築く。

成績評価

評価の基準	上記目標を概ね達成し,理学療法士としての基礎知識が定着していること。
評価の方法	授業への参加度およびミニテスト成績（30%）,12月実施の期末試験成績（70%）を総合して評価する。この比率は最終的に変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

年度途中に発刊される理学療法士国家試験対策書籍を指定する。
参考図書として,4年次までに授業で使用した全ての教科書及び資料

推薦図書等

参考URL

備考

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2013年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	小池　和子
担当教員	桑名　俊一 佐藤　将朗 荒金　房子 角　友起 永原　久栄 齋藤　基一郎 内山　伸治 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074001(小池),A2074002(田中),A2074004(桑名),A2074005(内山),A2074007(永原),A2074009(佐藤),A2074010(阿部),A2074012(小山内),A2074013(荒金),A2074014(郭),A2074015(松田),A2074016(角),
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（趣旨） 　これまでの勉学を通して特に関心を持った領域について，指導教員の指導のもとにテーマを設定し，研究計画を立て，研究を実施する。研究成果は発表会で発表のうえ，論文を作成し提出する。 　卒業研究に対しては自発的，積極的に研究を深め，学士相当の研究成果とすることが期待される。

（卒業要件）
　卒業研究の成果を論文として提出し，審査に合格することとする。

（研究の推進）
　自らの選択した研究テーマについて研究を進めるに当たり，指導教員の指導を受けて進めること。
　研究の実施に当たっては，指導教員の指導のもとに，進行状況に注意を払い，推進すること。
　指導を受ける時間は，指導教員との話し合いにより定期的に設定すること。

学生の達成目標

1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が,卒業相当のものとして達成感のあること。
2. 各分野において,研究方法にのっとり,計画,実施,遂行することを自ら経験し理解を深めること。
3. 卒業論文が書けること。
4. 研究成果を発表できること。

授業内容

１．研究課題の決定（目標１）
２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２）
３．研究計画の立案（目標２）
４．研究の実施、推進（目標２）
５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）
　（目標２）
６．研究結果の整理と分析（目標２）
７．研究成果の発表（目標１、２、４）
８．研究成果の論文化（目標３）
９．卒業論文の提出（目標１，３）
　（必ずしも回数とは一致しない）

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。
評価の方法	上記を総合的に判定する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

　指定しない

推薦図書等

書籍名	レポート論文の書き方入門
著者名	河野哲也
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	1050円
ISBN・ISSN	

書籍名	理科系の作文技術
著者名	木下是雄
出版社	中公新書
価格	735円
ISBN・ISSN	

参考URL	
備考	指定された日時までに提出すること。

理学療法評価学臨床実習セミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学臨床実習セミナー
科目責任者	永原　久栄
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 佐藤　将朗 角　友起 内山　伸治 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2047001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎医学、臨床医学、理学療法評価、目標設定、理学療法計画、理学療法治療プログラム立案、理学療法治療プログラム実施、理学療法記録、症例レポート、症例発表。
授業のねらい・概要	基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、理学療法評価学臨床実習にでる準備を行う。現場を想定した模擬事例について症例記録、症例レポートの書き方を学ぶ。実習前ＯＳＣＥ（運動器系疾患、脳血管障害、神経・筋疾患）に参加する。
学生の達成目標	1.　基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、不足部分を再学習する。

2. 現場を想定した模擬事例について症例記録、症例レポートを書くことができる。

3. 実習前ＯＳＣＥ（運動器系疾患、脳血管障害、神経・筋疾患）に合格する。

授業内容

第1回	学外実習のガイダンス（理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習）(目標1～3)
第2回	模擬事例１（運動器系疾患）について症例記録、症例レポートの書き方 (目標1、2)
第3回	模擬事例2（脳血管障害）について症例記録、症例レポートの書き方 (目標1、2)
第4回	模擬事例3（神経・筋疾患）について症例記録、症例レポートの書き方 (目標1、2)
第5回	模擬事例4（ＩＣＦ①）について症例記録、症例レポートの書き方 (目標1、2)
第6回	模擬事例5（ＩＣＦ②）について症例記録、症例レポートの書き方 (目標1、2)
第7回	実習前 OSCEの準備教育 (目標1～3)
第8回	実習前 OSCE（運動器系疾患）の実施 (目標1～3)
第9回	実習前 OSCE（運動器系疾患）のフィードバック、指導 (目標1～3)
第10回	実習前 OSCE（脳血管障害）の実施 (目標1～3)
第11回	実習前 OSCE（脳血管障害）のフィーバック、指導 (目標1～3)
第12回	実習前 OSCE（神経・筋疾患）の実施 (目標1～3)
第13回	実習前 OSCE（神経・筋疾患）のフィードバック、指導 (目標1～3)
第14回	ＯＳＣＥ実施後の再指導 (目標1～3)
第15回	まとめと総括 (目標1～3)

予習・復習の内容

予習	1～3年で学習した基礎的知識、技術をまとめ、想定した模擬事例、ＯＳＣＥの事例に対して準備学習する。
復習	理学療法評価学臨床実習に向けて、学んだことを整理する。
展開	理学療法評価学臨床実習、総合理学理学療法実習に参加につなげる。

成績評価

評価の基準	理学療法評価学臨床実習に参加出来る基本的な知識、技術を習得できている。上記目標をほぼ達成できている。
評価の方法	レポート 40%， OSCE試験結果 60% この割合は、変更することがあります。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

1～3年に使用した全ての教科書、資料。

書籍名	理学療法学生のための症例レポートの書き方
著者名	宮原英夫　監修
出版社	朝倉書店
価格	3200
ISBN・ISSN	4-254-33501-6

推薦図書等

参考URL

備考

すべて出席が原則である。

理学療法評価学臨床実習 OSCEの試験結果は，理学療法評価学臨床実習に臨めるか否かの重要な判定材料となるので，日常から準備を怠らないこと。

骨・関節系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT302
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	骨・関節系疾患理学療法学実習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2051001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	骨･関節系疾患の理学療法評価，問題点の抽出，目標設定，理学療法プログラム立案，プログラムの実施
授業のねらい・概要	骨･関節系疾患理学療法学で習得した知識を統合し，臨床の場で評価，目標設定，治療計画，治療，効果判定という系統的な理学療法を実践できるよう実習を行う。
学生の達成目標	1. 検査,測定を疾患に合わせて選択し実施できる。 2. 統合的に解釈し問題点の抽出ができる。 3. 目標設定・基本的な治療プログラムの立案ができ理由を説明できる。 4. プログラムを実施できる。
授業内容	第1回　組織再生・修復:評価と治療 (目標1,4) 骨折と脱臼:評価と治療 (目標1,4) 第2回　骨折と脱臼:評価と治療(高齢者の四大骨折) (目標1,4) 変形性股・膝関節症:評価と治療 (目標1,4) 第3回　人工股・膝関節置換術: ADLトレーニング (目標4) 関節リウマチ:評価と治療 (目標1,4)

第4回	末梢神経損傷:評価と治療 (目標1,4) 頚部疾患:評価と治療 (目標1,4)
第5回	腰部疾患:評価と治療 (目標1,4) 脊椎手術:評価と治療 (目標1,4)
第6回	肩関節周囲炎:評価と治療 (目標1,4) 肩の外傷:評価と治療 (目標1,4)
第7回	膝靱帯損傷と半月板損傷:評価 (目標1) 膝靱帯損傷と半月板損傷:治療 (目標4)
第8回	脊髄損傷:総論 (目標1) 脊髄損傷：評価と治療　（目標１～４）
第9回	症例検討：骨折（発表）（目標２，３） 症例検討：骨折（質疑応答）（目標２，３）
第10回	症例検討：変形性膝関節症（発表）（目標２，３） 症例検討：変形性膝関節症（質疑応答）（目標２，３）
第11回	症例検討：変形性股関節症（発表）（目標２，３） 症例検討：変形性股関節症（質疑応答）（目標２，３）
第12回	症例検討：脊椎疾患（発表）（目標２，３） 症例検討：脊椎疾患（質疑応答）（目標２，３）
第13回	脊髄損傷:評価と治療 (目標1～4)
第14回	症例検討:骨折(発表)(目標2,3)
第15回	症例検討:骨折(質疑応答)(目標2,3)

予習・復習の内容	予習	骨･関節系疾患理学療法学で習得した知識を疾患ごとにまとめ整理し臨むこと。また教科書の該当単元を熟読すること。評価学・運動療法学で既に習得したROMテスト・MMT・ROM運動などは繰り返し練習しておくこと。
	復習	各疾患の特徴を踏まえて検査・測定・理学療法を繰り返し練習すること。
	展開	前8回までは、疾患を踏まえた実技練習。後4回は、実技に加え、評価，目標設定，治療計画，治療，効果判定という系統的な理学療法を実践できるよう症例検討・実習を行う。

成績評価	評価の基準	骨・関節系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。また，その内容を実施でき説明することができることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 40%，レポート 40%，授業への参加度 20%

教科書

書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ
著者名	石川　朗
出版社	中山書店
価格	２,400円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73229-9

	書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73230-5
推薦図書等	書籍名	整形外科理学療法の理論と技術
	著者名	山嵜　勉
	出版社	メジカルビュー社
	価格	9 ,500円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-89553-636-3
参考URL		
備考	実技中心となるため動きやすい服装で参加すること。 半年後には，一人で実際の患者様を評価し治療します。十分に心得て臨み復習すること。	

理学療法工学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP303
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法工学
科目責任者	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2062001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リハビリテーション工学，福祉機器，医学と工学の連携
授業のねらい・概要	理学療法士として，身体障害に対し工学的対応が図れること，またエンジニアなどの他職種と協働し，身体障害者のQOLを高めることができる能力を養う.
学生の達成目標	1. 国際福祉機器展，福祉工学に関する研究所等を見学し，福祉機器の現状と課題を学ぶ. 2. 種々の福祉機器の構造を理解する. 3. 理学療法士として，他職種と協働し，身体障害に対し工学的対応を検討できる能力を養う.
授業内容	第1回　リハビリテーション工学の歴史と発展 (目標1,3) 第2回　国際福祉機器展H.C.R.2014参加 (目標1～3) 第3回　国際福祉機器展H.C.R.2014参加 (目標1～3) 第4回　国際福祉機器展H.C.R.2014報告会 (目標1～3) 第5回　福祉機器の開発と規格（目標2,3)

	第6回	医学と工学の連携 (目標3)
	第7回	医学と工学の連携ー歩行訓練器（目標2,3)
	第8回	医学と工学の連携ー歩行ロボット（目標2,3)
	第9回	最新の機器と今後の発展-姿勢保持装置（目標2,3)
	第10回	最新の機器と今後の発展ー車椅子（目標2,3)
	第11回	最新の機器と今後の発展ーリフト（目標2,3)
	第12回	最新の機器と今後の発展-環境制御装置（目標2,3)
	第13回	福祉工学研究所見学 (目標1～3)
	第14回	福祉工学研究所見学 (目標1～3)
	第15回	福祉工学研究所見学報告会 (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	教科書を読む，またはインターネット等で資料を収集する.
	復習	講義で配布した資料を整理する．作成したレポートおよび報告会での内容をまとめておく.
	展開	最新の福祉機器に関心がもてること.
成績評価	評価の基準	上記目標1～3を理解できることを合格基準とする
	評価の方法	試験，レポート，授業への積極的参加度（出席率，報告会での発表内容等）を統合的に評価する.
教科書	書籍名	リハビリテーションMOOK　リハビリテーション工学と福祉機器
	著者名	千野直一
	出版社	金原出版株式会社
	価格	6,600
	ISBN・ISSN	978-4-307-75015-8
推薦図書等		
参考URL		
備考	国際福祉機器展の見学，福祉工学研究所関連の見学は別途日時を定めて実施します. 尚，この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります.	

総合理学療法学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE302
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合理学療法学演習
科目責任者	永原　久栄
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 佐藤　将朗 角　友起 内山　伸治 田中　勇治 郭　丹 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘 田上　未来
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2065001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	解剖学，生理学，運動学，運動器障害，中枢神経障害，内部障害
授業のねらい・概要	学内授業，臨床実習などで習得した知識・技術を統合する。特に解剖学，生理学，運動学等の基礎知識を基に，疾患と障害の関係や総合的治療体系について再確認し，卒業後の臨床の現場で応用ができるように学習する。
学生の達成目標	1. 解剖学,生理学,運動学等の基礎知識の確認する(卒業時到達レベル)。 2. 運動器系障害の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

3. 脳血管障害の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

4. 神経・筋疾患の理学療法について,解剖,生理,正常発達,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

5. 内部障害、小児、高齢者の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

6. 義肢、装具、車いす等を、多様な疾患、障害に適応できるための、知識、技法を整理、理解する。

授業内容

第1回	運動器系障害の基礎的知識、支援技法の整理 (目標1、２)
第2回	脳血管障害の基礎的知識、支援技法の整理 (目標1、３)
第3回	神経・筋疾患系障害の基本的知識、支援技法の整理 (目標1、４)
第4回	ＯＳＣＥ（ブース１運動器系障害）に参加する (目標1２)
第5回	ＯＳＣＥ（ブース２脳血管障害）に参加する(目標1、３)
第6回	ＯＳＣＥ（ブース３神経・筋疾患系障害）に参加する (目標１,４)
第7回	ＯＳＣＥのフィードバック (目標１－４)
第8回	総括試験①と解説(目標１－６)
第9回	総括試験②と解説(目標１－６)
第10回	総括試験③と解説 (目標１－６)
第11回	総括試験④と解説(目標１－６)
第12回	総括試験⑤と解説(目標１－６)
第13回	総括試験⑥と解説(目標１－６)
第14回	総括試験⑦と解説(目標１－6)
第15回	まとめ(目標１－6)

予習・復習の内容

予習	事前に提示する疾患・障害についての、基礎的知識、評価、治療体系について、予習する
復習	提示された疾患・障害についての、基礎的知識、評価、治療体系について、学生同士で復習する。
展開	前半はＯＳＣＥ（臨床能力試験）で疾患に焦点を当て，後半は、心理面、社会面の理学療法まで領域を拡大する。

成績評価

評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	ＯＳＣＥに向けた準備プログラム参加の程度（ 20%），ＯＳＣＥ成績（30%）、総括試験（50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 各回ごとにプリント配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	

生活支援系理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	生活支援系理学療法学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2068001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	切断，義肢，装具，アライメント，支給システム
授業のねらい・概要	切断に関する医学的知識を身につけ，各種義足の構造と各部品について理解する。加えてアライメントの概念を理解し，姿勢・歩行動作に与える影響を学習する。　装具の構造・各部品と適応について学習する。　支給システムについて理解できる。
学生の達成目標	1. 切断に関する医学的知識を身につける。 2. 各種の義肢,装具の構造と各部品について理解できる。 3. 義足・装具のアライメントの概念を理解できる。 4. 支給システムについて理解できる。
授業内容	第1回　切断と義肢の基礎知識 (目標1・2) 第2回　早期義肢装着法と義足適合の流れ (目標1・2) 第3回　大腿切断・膝離断の基本と義足構造 (目標1・2) 第4回　大腿義足・膝義足のアライメント (目標2・3) 第5回　下腿切断・サイム切断の基本と義足構造 (目標1・2)

	第6回	下腿義足・サイム義足のアライメント (目標2・3)
	第7回	股離断・片側骨盤切除・足部離断の義足構造とアライメント (目標1・2・3)
	第8回	装具学総論 (目標2・3)
	第9回	下肢装具の部品とその機能 (目標2・3)
	第10回	短下肢装具 (目標2・3)
	第11回	長下肢装具・股装具・膝装具 (目標2・3)
	第12回	靴型装具 (目標2・3)
	第13回	体幹装具・側彎症症具 (目標2・3)
	第14回	上肢装具 (目標2・3)
	第15回	義肢装具の支給体系とチームアプローチ (目標4)
予習・復習の内容	予習	教科書の各該当単元を熟読すること。また関連する解剖学・運動学の復習も合わせて行うこと。
	復習	知識として備えなければならない事が多いです。各回ごとに絵を描き、まとめ整理してください。
	展開	切断に関する医学的知識，各種義足の構造と各部品、アライメントの概念，姿勢・歩行動作に与える影響、装具の構造・各部品と適応について学習する。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，小テスト・授業への参加度 20%
教科書	書籍名	理学療法テキスト義肢学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73225-1
	書籍名	理学療法テキスト装具学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73226-8
推薦図書等		

参考URL

備考

生活支援系理学療法学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT313
開講年度	2013年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	生活支援系理学療法学演習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2069001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	切断者の理学療法，装具療法，アライメント，チェックアウト，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	下肢切断者の理学療法を理解し実施でき，各種疾患別に装具を選択できる。 義肢，装具のアライメント調整，チェックアウトができる。 義肢，装具が，姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
学生の達成目標	1. 下肢切断者の理学療法を理解し実施できる。 2. 各種疾患別に装具を選択できる。 3. 義肢,装具のアライメントの概念を理解し調整できる。 4. 義肢,装具のチェックアウトができる。 5. 義肢,装具が,姿勢,歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
授業内容	第1回　下肢切断の評価-問題点の抽出とその統合- (目標1・3・4・5) 第2回　下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法 (目標1) 第3回　切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点 (目標1・5) 第4回　義足装着理学療法と応用動 (目標1・3・4・5)

	第5回	疾患別装具の処方(1)-脳卒中片麻痺の装具- (目標2)
	第6回	疾患別装具の処方(2)-整形外科疾患の装具- (目標2)
	第7回	疾患別装具の処方(3)-関節リウマチの装具- (目標2)
	第8回	疾患別装具の処方(4)-対麻痺・小児の装具- (目標2)
	第9回	下肢装具のチェックアウト (目標4)
	第10回	下肢装具のチェックアウト-実習- (目標4)
	第11回	膝継手・足継手の調整-実習- (目標3・4・5)
	第12回	装具の着脱-実習-,断端管理-実習- (目標1・3・4・5)
	第13回	下腿義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
	第14回	大腿義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
	第15回	股義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
予習・復習の内容	予習	生活支援系理学療法学・運動学を中心に十分に復習し授業に臨むこと。
	復習	義肢・装具のチェックアウトができ説明できるこよう整理すること。また姿勢，歩行動作に与える影響を理解し説明できること。
	展開	下肢切断者の理学療法の実施，各種疾患別に装具を選択。義肢，装具のアライメント調整，チェックアウト、調整を行う。
成績評価	評価の基準	義肢・装具のチェックアウトができ説明できること。また姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できること。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，授業への参加度 20%
教科書	書籍名	理学療法テキスト義肢学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73225-1
	書籍名	理学療法テキスト装具学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73226-8
推薦図書等		

参考URL

備考